

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第196集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第33集

# 南蛇井増光寺遺跡Ⅳ

C区・古墳・奈良・平安時代  
(本文編)

1 9 9 6

群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本道路公団



叻群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第196集  
閃越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第33集

# 南蛇井増光寺遺跡Ⅳ

C区・古墳・奈良・平安時代  
(本文編)

1 9 9 6

群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本道路公団



## 序

荒船山に源を発する鍋川が流れる甘楽谷は、古くから群馬県と長野県を結ぶ交通要路として開け栄えてきました。その甘楽谷に最新の土木技術を施した高速自動車道の上信越自動車道が開設され、平成5年3月より供用、沿線住民にとって生活上、経済活動上大きなメリットとなっています。

この上信越自動車道の建設工事の際、富岡市南蛇井においては昭和63年11月から、平成3年3月にかけて大規模な埋蔵文化財発掘調査が行われました。その調査成果は既に「南蛇井増光寺遺跡発掘調査報告書」として3冊刊行しており、本地域の歴史解明のために大いに活用されています。今回本遺跡の古墳時代以降の遺構・遺物を報告した4冊目の調査報告書をまとめることが出来たので上梓したく存じます。

発掘調査から報告書刊行に至るまで日本道路公団東京第2建設局、同富岡工事事務所、群馬県教育委員会、富岡市育委員会、地元関係者等の皆様には大変お世話になりました。これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が既に刊行の3冊の報告書と共に本地域の歴史解明のために十分活用されることを願い序とします。

平成8年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長

小寺弘之



## 例 言

- 1 本書は上信越自動車道建設工事に伴い事前調査された南蛇井増光寺遺跡（事業名称 井出遺跡）の発掘調査報告書である。本書は南蛇井増光寺遺跡C区（DS区の一部を含む）から検出された古墳・奈良・平安時代および中・近世の遺構、遺物の報告である。
- 2 遺跡は群馬県富岡市大字南蛇井字増光寺地内に所在する。
- 3 発掘調査は日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
- 4 調査期間および担当者は以下のとおりである。（C区、DS区）

### (1) 発掘調査 試掘調査 昭和63年9月5日～27日

昭和63年度 津金澤吉茂、大木紳一郎、小野和之、若林正人、飯塚 聡  
平成元年度 小野和之、飯塚 聡、板井美枝（井出Ⅱ班、おもにC区担当）  
飯塚卓二、新井 仁、高島英之（井出Ⅲ班、おもにDS区担当）  
平成2年度 小野和之、飯塚 聡、高島英之（井出Ⅱ班、おもにC区担当）  
飯塚卓二、飛田野正佳、亀山幸弘（井出Ⅲ班、おもにDS区担当）

### (2) 整 理 期間 平成5年4月1日～平成7年3月31日 担当 小野和之

### (3) 事 務

常務理事 白石保三郎（昭和61～63年度）、邊見長雄（平成元年度～平成5年度）、  
中村英一（平成6年度～）  
事務局長 松本浩一、（昭和63～平成3年度）、近藤 功（平成4年度～）  
管理部長 田口紀雄（昭和62年度～平成2年度）、佐藤 勉（平成3～5年度）、  
蜂巣 実（平成6年度～）

調査研究部長 上原啓巳（昭和63年度）、神保佑史（平成元年度～）

調査研究部第2課長 岸田治男（平成6年度～）

庶務課 課長 岩丸大作（平成3年度）、斎藤俊一（平成4年度～）

主任 国定 均、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光（平成3年度）

主事 船津 茂、柳岡良宏、高橋定義、

関越道上越線調査事務所（昭和61年度～平成5年度）

所 長 井上 信（昭和61年度～63年度）、高橋一夫（平成元年度・2年度）、  
阿部千明（平成3年度）、吉田 肇（平成4・5年度）

総括次長 片桐光一（昭和61年～平成元年度）、大沢友治（平成2年度・3年度）

次 長 徳江 紀（昭和63年～平成2年度）

課 長 鬼形芳夫（昭和62年～平成2年度）、依田治雄（平成3～5年度）

庶務課 係長代理 黒沢重樹（昭和61年～63年度）、宮川初太郎（平成元年度・2年度）

主任 国定 均（昭和63年・平成元年度）、笠原秀樹（平成2年度・3年度）  
吉田有光（平成4・5年度）

### 5 報告書作成関係者

編 集 小野和之

本文執筆 小野和之・新井 仁

遺構写真 発掘調査担当者

遺物写真 技師 佐藤元彦






保存処理 技師 関 邦一、嘱託員 土橋まり子、補助員 小材浩一、小沼恵子

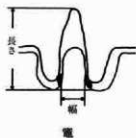
整理補助員 (平成5年度) 秋元経子、白井美江子、黒沢 汎、清水千代、斎藤文江、横堀裕美子、関口 満  
(平成6・7年度) 宇佐美征子、高橋順子、田中富子、吉沢やよい、高橋早苗、新井千恵子、  
田子弘子、小久保トシ子

- 6 獣骨の鑑定は宮崎重雄氏 (県立大間々高等学校教諭) にお願した。
- 7 石材鑑定は群馬地質研究会 飯島静男氏にお願した。
- 8 出土遺物・図面・写真類は群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。
- 9 報告書作成にあたり下記の諸機関、諸氏にご教示・ご指導をいただいた。記して感謝いたします。(敬称略)

富岡市教育委員会、富岡市農業協同組合、妙義町教育委員会、  
また、事業団職員諸氏より多くのご教示を得た、記して感謝いたします。

## 凡 例

- 1 各遺構実測図の縮尺は次の通りである。  
住居・掘立柱建物跡 1/60、竈 1/30、土坑 1/20、溝 1/40または1/120、これら以外については個々に縮尺を記した。
- 2 遺構実測図、等高線に記した標高値は海拔標高を表す。
- 3 遺構実測図の方位記号は、座標北を示す。(国土座標IX系)
- 4 遺物実測図の縮尺は次の通りである。  
土器……1/3、1/4、石器……1/3、鉄製品・紡錘車・土鍾……1/2、その他については図中に記した。
- 5 遺構および遺物図中のスクリーン・トーンは下記のことを示す。  
遺構 焼土  炭化物・灰  粘土   
遺物 黒色土器  使用面 
- 6 遺物垂直分布図に用いたシンボルマークは下記のことを示す。  
● 土器 ■ 石・石製品 ▲ 土製品 ○ 鉄製品
- 7 住居跡および竈の計測方法は下記による。





# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
表 目 次	
抄 録	

第1章 調査の概要	
第1節 調査に至る経緯と調査の経過	1
第2節 調査の方法	2
第2章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	5
第3節 基本土層	9
第3章 検出された遺構と遺物	
第1節 住居跡	10
第2節 土坑・井戸	486
第3節 掘立柱建物跡	506
第4節 溝	511
第5節 配石・古墓・道状遺構	516
第6節 遺構外出土遺物	523
第4章 ま と め	
第1節 住居の変遷	539
第2節 竈席絶パターンと遺物量	540
第3節 各種出土遺物について	543
おわりに	545
発掘調査報告書抄録	

## 挿 図 目 次

第 1 図	調査範囲図	2	第 60 図	C-45号住居跡・竈	53
第 2 図	グリッド設定図	3	第 61 図	C-48号住居跡	54
第 3 図	遺跡の位置	4	第 62 図	C-48号住居跡・竈	55
第 4 図	周辺の遺跡	6	第 63 図	C-48号住居跡出土遺物(1)	55
第 5 図	基本土層	9	第 64 図	C-48号住居跡出土遺物(2)	56
第 6 図	C-1号住居跡・竈	11	第 65 図	C-49号住居跡	58
第 7 図	C-1号住居跡出土遺物	11	第 66 図	C-49号住居跡・竈	59
第 8 図	C-4号住居跡	12	第 67 図	C-49号住居跡出土遺物	59
第 9 図	C-4号住居跡・竈	13	第 68 図	C-51号住居跡	60
第 10 図	C-4号住居跡出土遺物	13	第 69 図	C-51号住居跡・竈	61
第 11 図	C-5号住居跡	14	第 70 図	C-51号住居跡出土遺物	62
第 12 図	C-5号住居跡出土遺物	14	第 71 図	C-55号住居跡	63
第 13 図	C-7号住居跡	15	第 72 図	C-55号住居跡・竈	64
第 14 図	C-7号住居跡・竈	16	第 73 図	C-55号住居跡出土遺物(1)	64
第 15 図	C-7号住居跡出土遺物	16	第 74 図	C-55号住居跡出土遺物(2)	65
第 16 図	C-11号住居跡	17	第 75 図	C-58号住居跡・竈	66
第 17 図	C-11号住居跡・竈	18	第 76 図	C-58号住居跡出土遺物	67
第 18 図	C-11号住居跡出土遺物	18	第 77 図	C-61号住居跡・竈	68
第 19 図	C-12号住居跡・竈	19	第 78 図	C-61号住居跡出土遺物	68
第 20 図	C-12号住居跡出土遺物(1)	20	第 79 図	C-62号住居跡(1)	69
第 21 図	C-12号住居跡出土遺物(2)	21	第 80 図	C-62号住居跡(2)	70
第 22 図	C-16号住居跡	23	第 81 図	C-62号住居跡・竈	71
第 23 図	C-16号住居跡・竈	24	第 82 図	C-62号住居跡出土遺物	72
第 24 図	C-16号住居跡出土遺物	24	第 83 図	C-63号住居跡	74
第 25 図	C-17号住居跡	26	第 84 図	C-63号住居跡・竈	75
第 26 図	C-17号住居跡・竈	26	第 85 図	C-63号住居跡出土遺物	75
第 27 図	C-17号住居跡出土遺物	27	第 86 図	C-67号住居跡	76
第 28 図	C-19号住居跡・竈	28	第 87 図	C-67号住居跡・竈	77
第 29 図	C-19号住居跡出土遺物	29	第 88 図	C-67号住居跡出土遺物	77
第 30 図	C-24号住居跡	29	第 89 図	C-69号住居跡	78
第 31 図	C-24号住居跡出土遺物	30	第 90 図	C-69号住居跡・竈	79
第 32 図	C-26号住居跡	31	第 91 図	C-69号住居跡出土遺物	79
第 33 図	C-26号住居跡・竈	32	第 92 図	C-70号住居跡(1)	80
第 34 図	C-26号住居跡出土遺物	32	第 93 図	C-70号住居跡(2)	81
第 35 図	C-29号住居跡	33	第 94 図	C-70号住居跡・竈	82
第 36 図	C-29号住居跡・竈	34	第 95 図	C-70号住居跡出土遺物(1)	82
第 37 図	C-29号住居跡出土遺物	35	第 96 図	C-70号住居跡出土遺物(2)	83
第 38 図	C-32号住居跡	35	第 97 図	C-74号住居跡・竈	84
第 39 図	C-32号住居跡・竈	36	第 98 図	C-74号住居跡出土遺物	84
第 40 図	C-32号住居跡出土遺物	37	第 99 図	C-78号住居跡	85
第 41 図	C-35号住居跡	39	第 100 図	C-78号住居跡・竈	86
第 42 図	C-35号住居跡・竈	40	第 101 図	C-78号住居跡出土遺物(1)	86
第 43 図	C-35号住居跡出土遺物	40	第 102 図	C-78号住居跡出土遺物(2)	87
第 44 図	C-36号住居跡	42	第 103 図	C-84号住居跡	89
第 45 図	C-36号住居跡・竈	43	第 104 図	C-84号住居跡・竈	90
第 46 図	C-36号住居跡出土遺物	43	第 105 図	C-84号住居跡出土遺物	90
第 47 図	C-40号住居跡	44	第 106 図	C-85号住居跡	92
第 48 図	C-40号住居跡・竈	45	第 107 図	C-85号住居跡出土遺物	92
第 49 図	C-40号住居跡出土遺物	45	第 108 図	C-90号住居跡	93
第 50 図	C-41号住居跡	46	第 109 図	C-90号住居跡出土遺物	94
第 51 図	C-41号住居跡・竈	47	第 110 図	C-92号住居跡	95
第 52 図	C-41号住居跡出土遺物	47	第 111 図	C-92号住居跡・竈	96
第 53 図	C-42号住居跡	48	第 112 図	C-92号住居跡出土遺物	96
第 54 図	C-42号住居跡・竈	49	第 113 図	C-98号住居跡	97
第 55 図	C-42号住居跡出土遺物	49	第 114 図	C-98号住居跡・竈	98
第 56 図	C-43号住居跡	50	第 115 図	C-98号住居跡出土遺物	98
第 57 図	C-43号住居跡・竈	51	第 116 図	C-99号住居跡	99
第 58 図	C-43号住居跡出土遺物	51	第 117 図	C-99号住居跡出土遺物	99
第 59 図	C-45号住居跡・出土遺物	52	第 118 図	C-102号住居跡	100

第119區	C—102号住居跡·電	101
第120區	C—102号住居跡出土遺物	102
第121區	C—103号住居跡	103
第122區	C—103号住居跡出土遺物	103
第123區	C—105号住居跡	104
第124區	C—105号住居跡·電	105
第125區	C—105号住居跡出土遺物	105
第126區	C—106号住居跡	106
第127區	C—106号住居跡·電	107
第128區	C—106号住居跡出土遺物	108
第129區	C—107号住居跡·電	109
第130區	C—107号住居跡出土遺物	109
第131區	C—109号住居跡	110
第132區	C—110号住居跡·電	111
第133區	C—110号住居跡出土遺物	111
第134區	C—111号住居跡·電	112
第135區	C—111号住居跡出土遺物	113
第136區	C—112号住居跡	114
第137區	C—112号住居跡出土遺物	114
第138區	C—113号住居跡·出土遺物	115
第139區	C—119号住居跡	116
第140區	C—119号住居跡出土遺物	116
第141區	C—120号住居跡	117
第142區	C—120号住居跡·電	118
第143區	C—120号住居跡出土遺物	118
第144區	C—121号住居跡·電	119
第145區	C—121号住居跡出土遺物(1)	120
第146區	C—121号住居跡出土遺物(2)	121
第147區	C—121号住居跡出土遺物(3)	122
第148區	C—121号住居跡出土遺物(4)	123
第149區	C—122号住居跡	125
第150區	C—122号住居跡出土遺物(1)	126
第151區	C—122号住居跡出土遺物(2)	127
第152區	C—123号住居跡	128
第153區	C—123号住居跡出土遺物	129
第154區	C—124号住居跡·電	130
第155區	C—124号住居跡出土遺物	131
第156區	C—125号住居跡	132
第157區	C—125号住居跡出土遺物	133
第158區	C—126号住居跡	134
第159區	C—126号住居跡出土遺物	134
第160區	C—127号住居跡	135
第161區	C—127号住居跡·電	136
第162區	C—127号住居跡出土遺物	136
第163區	C—128号住居跡	137
第164區	C—128号住居跡·電	138
第165區	C—128号住居跡出土遺物	138
第166區	C—129号住居跡	139
第167區	C—129号住居跡·電	140
第168區	C—129号住居跡出土遺物	141
第169區	C—130号住居跡	142
第170區	C—130号住居跡·電	143
第171區	C—130号住居跡出土遺物	143
第172區	C—131号住居跡	144
第173區	C—131号住居跡出土遺物	145
第174區	C—132号住居跡·電	146
第175區	C—133号住居跡·電	147
第176區	C—133号住居跡出土遺物	148
第177區	C—134号住居跡·電	149
第178區	C—134号住居跡出土遺物	150
第179區	C—136号住居跡·電	151
第180區	C—136号住居跡出土遺物	152
第181區	C—137号住居跡	153

第182區	C—137号住居跡·電	154
第183區	C—137号住居跡出土遺物(1)	155
第184區	C—137号住居跡出土遺物(2)	156
第185區	C—138号住居跡·電	158
第186區	C—138号住居跡出土遺物	159
第187區	C—139号住居跡	159
第188區	C—139号住居跡·電	160
第189區	C—140号住居跡	160
第190區	C—140号住居跡·電	161
第191區	C—141号住居跡	162
第192區	C—141号住居跡出土遺物	163
第193區	C—142号住居跡·電	164
第194區	C—142号住居跡出土遺物	165
第195區	C—143号住居跡	165
第196區	C—143号住居跡·電	166
第197區	C—144号住居跡	166
第198區	C—145号住居跡	167
第199區	C—145号住居跡·電	168
第200區	C—145号住居跡出土遺物	168
第201區	C—146号住居跡	169
第202區	C—146号住居跡·電	170
第203區	C—146号住居跡出土遺物	170
第204區	C—147号住居跡	171
第205區	C—147号住居跡出土遺物	172
第206區	C—151号住居跡·出土遺物	174
第207區	C—153号住居跡	175
第208區	C—153号住居跡·電	176
第209區	C—153号住居跡出土遺物	176
第210區	C—154号住居跡	177
第211區	C—154号住居跡出土遺物	177
第212區	C—155号住居跡	178
第213區	C—155号住居跡·電	178
第214區	C—155号住居跡出土遺物	179
第215區	C—156号住居跡	180
第216區	C—156号住居跡·電	181
第217區	C—156号住居跡出土遺物(1)	181
第218區	C—156号住居跡出土遺物(2)	182
第219區	C—157号住居跡	183
第220區	C—157号住居跡·電	184
第221區	C—157号住居跡出土遺物	184
第222區	C—158号住居跡	185
第223區	C—158号住居跡·電	186
第224區	C—158号住居跡出土遺物(1)	187
第225區	C—158号住居跡出土遺物(2)	188
第226區	C—159号住居跡(1)	189
第227區	C—159号住居跡(2)	190
第228區	C—159号住居跡出土遺物	191
第229區	C—160号住居跡(1)	192
第230區	C—160号住居跡·電	192
第231區	C—160号住居跡(2)	193
第232區	C—160号住居跡出土遺物	193
第233區	C—161号住居跡·電	194
第234區	C—161号住居跡出土遺物	195
第235區	C—162号住居跡	196
第236區	C—162号住居跡·電	197
第237區	C—162号住居跡出土遺物	197
第238區	C—167号住居跡·電	198
第239區	C—167号住居跡出土遺物	199
第240區	C—168号住居跡	199
第241區	C—168号住居跡·電	200
第242區	C—168号住居跡出土遺物	200
第243區	C—171号住居跡·電	201
第244區	C—171号住居跡出土遺物	202

第245段	C-175号住居跡・電	203	第308段	C-228号住居跡出土遺物	250
第246段	C-175号住居跡出土遺物	204	第309段	C-229号住居跡	251
第247段	C-177号住居跡	205	第310段	C-229号住居跡出土遺物	251
第248段	C-177号住居跡・電	206	第311段	C-230号住居跡(1)	252
第249段	C-177号住居跡出土遺物(1)	206	第312段	C-230号住居跡(2)	253
第250段	C-177号住居跡出土遺物(2)	207	第313段	C-230号住居跡・電	253
第251段	C-179号住居跡	208	第314段	C-230号住居跡出土遺物	254
第252段	C-181号住居跡	209	第315段	C-233号住居跡	255
第253段	C-182号住居跡	209	第316段	C-233号住居跡・電	256
第254段	C-183号住居跡出土遺物	210	第317段	C-233号住居跡出土遺物	256
第255段	C-183号住居跡・電	211	第318段	C-235号住居跡・電	257
第256段	C-183号住居跡出土遺物	212	第319段	C-235号住居跡出土遺物	258
第257段	C-184号住居跡・電	213	第320段	C-236号住居跡	259
第258段	C-184号住居跡出土遺物	213	第321段	C-236号住居跡・電	260
第259段	C-188号住居跡	214	第322段	C-236号住居跡出土遺物(1)	260
第260段	C-188号住居跡・電	215	第323段	C-236号住居跡出土遺物(2)	261
第261段	C-188号住居跡出土遺物(1)	215	第324段	C-237号住居跡	262
第262段	C-188号住居跡出土遺物(2)	216	第325段	C-237号住居跡出土遺物	262
第263段	C-189号住居跡	217	第326段	C-238号住居跡	263
第264段	C-189号住居跡出土遺物	217	第327段	C-238号住居跡出土遺物	264
第265段	C-190号住居跡	218	第328段	C-239号住居跡・電	265
第266段	C-190号住居跡出土遺物	218	第329段	C-239号住居跡出土遺物	266
第267段	C-191号住居跡	219	第330段	C-241号住居跡	267
第268段	C-191号住居跡・電	220	第331段	C-241号住居跡・電	268
第269段	C-191号住居跡出土遺物	220	第332段	C-241号住居跡出土遺物	268
第270段	C-193号住居跡・電	221	第333段	C-242号住居跡	269
第271段	C-193号住居跡出土遺物	221	第334段	C-242号住居跡・電	270
第272段	C-194号住居跡	222	第335段	C-242号住居跡出土遺物	270
第273段	C-194号住居跡出土遺物	223	第336段	C-243号住居跡(1)	271
第274段	C-195号住居跡	224	第337段	C-243号住居跡(2)	272
第275段	C-195号住居跡・電	225	第338段	C-243号住居跡・電	273
第276段	C-195号住居跡出土遺物	226	第339段	C-243号住居跡出土遺物	273
第277段	C-196号住居跡・電	227	第340段	C-244号住居跡	274
第278段	C-196号住居跡出土遺物	228	第341段	C-245号住居跡	274
第279段	C-209号住居跡・電	228	第342段	C-247号住居跡	275
第280段	C-210号住居跡・電	229	第343段	C-247号住居跡・電	276
第281段	C-210号住居跡出土遺物	230	第344段	C-247号住居跡出土遺物	276
第282段	C-211号住居跡	231	第345段	C-248号住居跡・電	277
第283段	C-211号住居跡出土遺物	231	第346段	C-248号住居跡出土遺物	278
第284段	C-212号住居跡・電	232	第347段	C-249号住居跡	279
第285段	C-214号住居跡	233	第348段	C-249号住居跡出土遺物	279
第286段	C-214号住居跡・電	234	第349段	C-250号住居跡	280
第287段	C-214号住居跡出土遺物	234	第350段	C-250号住居跡・電	281
第288段	C-215号住居跡	235	第351段	C-250号住居跡出土遺物	282
第289段	C-215号住居跡・電	236	第352段	C-251号住居跡	282
第290段	C-216号住居跡	236	第353段	C-251号住居跡・電	283
第291段	C-216号住居跡・電	237	第354段	C-251号住居跡出土遺物	283
第292段	C-216号住居跡出土遺物	238	第355段	C-252号住居跡	284
第293段	C-217号住居跡	239	第356段	C-252号住居跡・電	285
第294段	C-217号住居跡出土遺物	239	第357段	C-252号住居跡出土遺物	285
第295段	C-219号住居跡・電	240	第358段	C-253号住居跡	286
第296段	C-219号住居跡出土遺物	241	第359段	C-253号住居跡・電	287
第297段	C-220号住居跡	242	第360段	C-253号住居跡出土遺物	288
第298段	C-220号住居跡出土遺物	242	第361段	C-254号住居跡	289
第299段	C-221号住居跡	243	第362段	C-254号住居跡・電	290
第300段	C-221号住居跡・電	244	第363段	C-254号住居跡出土遺物	290
第301段	C-221号住居跡出土遺物	244	第364段	C-256号住居跡・電	292
第302段	C-222号住居跡・電	245	第365段	C-256号住居跡出土遺物	293
第303段	C-222号住居跡出土遺物	246	第366段	C-256号住居跡(1)	294
第304段	C-223号住居跡・電	247	第367段	C-256号住居跡(2)	295
第305段	C-223号住居跡出土遺物	248	第368段	C-256号住居跡・電	295
第306段	C-226号住居跡	248	第369段	C-256号住居跡出土遺物	296
第307段	C-228号住居跡・電	249	第370段	C-257号住居跡(1)	296

第371层	C-257号住居跡(2)	297
第372层	C-257号住居跡・竈	298
第373层	C-257号住居跡出土遺物(1)	298
第374层	C-257号住居跡出土遺物(2)	299
第375层	C-258号住居跡	301
第376层	C-258号住居跡・竈	302
第377层	C-258号住居跡出土遺物	302
第378层	C-259号住居跡	303
第379层	C-259号住居跡・竈	304
第380层	C-260号住居跡出土遺物	304
第381层	C-260号住居跡	305
第382层	C-260号住居跡・竈	306
第383层	C-260号住居跡出土遺物(1)	306
第384层	C-260号住居跡出土遺物(2)	307
第385层	C-264号住居跡・竈	308
第386层	C-265号住居跡	309
第387层	C-265号住居跡・竈	310
第388层	C-265号住居跡出土遺物(1)	310
第389层	C-265号住居跡出土遺物(2)	311
第390层	C-266号住居跡・出土遺物	312
第391层	C-268号住居跡	312
第392层	C-268号住居跡・竈	313
第393层	C-268号住居跡出土遺物	313
第394层	C-269号住居跡	314
第395层	C-269号住居跡・竈	315
第396层	C-269号住居跡出土遺物	316
第397层	C-271号住居跡・竈	317
第398层	C-271号住居跡出土遺物	318
第399层	C-272号住居跡・竈	319
第400层	C-272号住居跡出土遺物	319
第401层	C-273号住居跡・竈	320
第402层	C-273号住居跡出土遺物	321
第403层	C-274号住居跡(1)	322
第404层	C-274号住居跡(2)	323
第405层	C-274号住居跡・竈	324
第406层	C-274号住居跡出土遺物	325
第407层	C-276号住居跡	326
第408层	C-276号住居跡・竈	327
第409层	C-276号住居跡出土遺物	327
第410层	C-278号住居跡	328
第411层	C-279号住居跡・竈	329
第412层	C-280号住居跡	330
第413层	C-280号住居跡・竈	331
第414层	C-280号住居跡出土遺物	331
第415层	C-281号住居跡・竈	332
第416层	C-281号住居跡出土遺物	333
第417层	C-282号住居跡	333
第418层	C-282号住居跡出土遺物	334
第419层	C-283号住居跡	335
第420层	C-283号住居跡出土遺物	335
第421层	C-284号住居跡	336
第422层	C-284号住居跡・竈	337
第423层	C-284号住居跡出土遺物	337
第424层	C-285号住居跡	338
第425层	C-285号住居跡出土遺物	339
第426层	C-286号住居跡	339
第427层	C-286号住居跡出土遺物	340
第428层	C-287号住居跡	341
第429层	C-287号住居跡・竈	342
第430层	C-287号住居跡出土遺物	342
第431层	C-288号住居跡	344
第432层	C-288号住居跡・竈	345
第433层	C-288号住居跡出土遺物	345

第434层	C-289号住居跡	346
第435层	C-289号住居跡・竈	347
第436层	C-289号住居跡出土遺物	347
第437层	C-290号住居跡・竈	348
第438层	C-290号住居跡出土遺物	349
第439层	C-291号住居跡	350
第440层	C-291号住居跡出土遺物	351
第441层	C-292号住居跡	351
第442层	C-292号住居跡・竈	352
第443层	C-293号住居跡・出土遺物	352
第444层	C-293号住居跡・竈	353
第445层	C-294号住居跡	354
第446层	C-294号住居跡・竈	355
第447层	C-294号住居跡出土遺物	356
第448层	C-295号住居跡	357
第449层	C-295号住居跡・竈	358
第450层	C-295号住居跡出土遺物	358
第451层	C-296号住居跡	359
第452层	C-296号住居跡出土遺物	360
第453层	C-298号住居跡・竈	361
第454层	C-298号住居跡出土遺物	362
第455层	C-299号住居跡	362
第456层	C-299号住居跡・竈	363
第457层	C-299号住居跡出土遺物	363
第458层	C-301号住居跡・竈	364
第459层	C-301号住居跡出土遺物	365
第460层	C-302号住居跡・竈	366
第461层	C-302号住居跡出土遺物	367
第462层	C-304号住居跡・竈	368
第463层	C-305号住居跡	369
第464层	C-305号住居跡・竈	370
第465层	C-305号住居跡出土遺物	371
第466层	C-306号住居跡	372
第467层	C-306号住居跡・竈	373
第468层	C-306号住居跡出土遺物	373
第469层	C-307号住居跡	374
第470层	C-307号住居跡出土遺物	375
第471层	C-308号住居跡	375
第472层	C-308号住居跡・竈	376
第473层	C-308号住居跡出土遺物	376
第474层	C-309号住居跡	377
第475层	C-309号住居跡・竈	378
第476层	C-309号住居跡出土遺物	378
第477层	C-310号住居跡	379
第478层	C-310号住居跡・竈	380
第479层	C-310号住居跡出土遺物	381
第480层	C-311号住居跡	383
第481层	C-311号住居跡出土遺物(1)	383
第482层	C-311号住居跡出土遺物(2)	384
第483层	C-312号住居跡	385
第484层	C-312号住居跡出土遺物	386
第485层	C-313号住居跡	387
第486层	C-313号住居跡出土遺物	387
第487层	C-314号住居跡・出土遺物	388
第488层	C-315号住居跡・竈	389
第489层	C-315号住居跡出土遺物	390
第490层	C-316号住居跡	391
第491层	C-316号住居跡・竈	392
第492层	C-316号住居跡出土遺物	393
第493层	C-317号住居跡・竈	394
第494层	C-317号住居跡出土遺物	394
第495层	C-318号住居跡	395
第496层	C-318号住居跡・竈	396

第497段	C—318号住居跡出土遺物	396	第560段	C—351号住居跡	449
第498段	C—319号住居跡	397	第561段	C—351号住居跡・電	450
第499段	C—319号住居跡・電	398	第562段	C—351号住居跡出土遺物	450
第500段	C—319号住居跡出土遺物	398	第563段	C—352号住居跡(1)	451
第501段	C—320号住居跡	400	第564段	C—352号住居跡(2)	452
第502段	C—320号住居跡・電	401	第565段	C—352号住居跡・電	453
第503段	C—320号住居跡出土遺物	401	第566段	C—352号住居跡出土遺物	454
第504段	C—321号住居跡	402	第567段	C—355号住居跡	455
第505段	C—321号住居跡・電	403	第568段	C—356号住居跡出土遺物	455
第506段	C—321号住居跡出土遺物	403	第569段	C—356号住居跡・電	456
第507段	C—322号住居跡	404	第570段	C—356号住居跡出土遺物	457
第508段	C—322号住居跡出土遺物	405	第571段	C—357号住居跡・電	458
第509段	C—323号住居跡・電	406	第572段	C—358号住居跡	459
第510段	C—323号住居跡出土遺物	407	第573段	C—358号住居跡・電	460
第511段	C—325号住居跡	408	第574段	C—358号住居跡出土遺物(1)	460
第512段	C—325号住居跡・電	409	第575段	C—358号住居跡出土遺物(2)	461
第513段	C—325号住居跡出土遺物	409	第576段	C—359号住居跡	462
第514段	C—326号住居跡	411	第577段	C—359号住居跡出土遺物	462
第515段	C—326号住居跡・電	412	第578段	C—360号住居跡・電	463
第516段	C—326号住居跡出土遺物(1)	412	第579段	C—360号住居跡出土遺物	464
第517段	C—326号住居跡出土遺物(2)	413	第580段	DS—94号住居跡	465
第518段	C—327号住居跡	414	第581段	DS—94号住居跡出土遺物	466
第519段	C—327号住居跡・電	415	第582段	DS—95号住居跡	466
第520段	C—327号住居跡出土遺物	415	第583段	DS—96号住居跡	467
第521段	C—328号住居跡・電	416	第584段	DS—96号住居跡出土遺物	467
第522段	C—329号住居跡	417	第585段	DS—97号住居跡	468
第523段	C—329号住居跡・電	418	第586段	DS—97号住居跡・電	469
第524段	C—329号住居跡出土遺物	418	第587段	DS—97号住居跡出土遺物	469
第525段	C—330号住居跡	419	第588段	DS—98号住居跡・電	470
第526段	C—330号住居跡・電	420	第589段	DS—98号住居跡出土遺物	471
第527段	C—330号住居跡出土遺物	420	第590段	DS—99号住居跡	471
第528段	C—331号住居跡	421	第591段	DS—100号住居跡(1)	472
第529段	C—331号住居跡・電	422	第592段	DS—100号住居跡(2)	473
第530段	C—331号住居跡出土遺物	422	第593段	DS—100号住居跡・電	473
第531段	C—333号住居跡	423	第594段	DS—100号住居跡出土遺物(1)	473
第532段	C—333号住居跡・電	424	第595段	DS—100号住居跡出土遺物(2)	474
第533段	C—333号住居跡出土遺物	425	第596段	DS—101号住居跡	475
第534段	C—334号住居跡・電	426	第597段	DS—101号住居跡・電	476
第535段	C—335号住居跡	427	第598段	DS—101号住居跡出土遺物	477
第536段	C—335号住居跡出土遺物	428	第599段	DS—102号住居跡	477
第537段	C—337号住居跡(1)	429	第600段	DS—102号住居跡出土遺物	478
第538段	C—337号住居跡(2)	430	第601段	DS—104号住居跡	479
第539段	C—337号住居跡・電	431	第602段	DS—104号住居跡出土遺物	479
第540段	C—337号住居跡出土遺物(1)	431	第603段	DS—105号住居跡	480
第541段	C—337号住居跡出土遺物(2)	432	第604段	DS—106号住居跡	481
第542段	C—340号住居跡・電	434	第605段	DS—106号住居跡・電	482
第543段	C—340号住居跡出土遺物	434	第606段	DS—106号住居跡出土遺物(1)	482
第544段	C—341号住居跡	435	第607段	DS—106号住居跡出土遺物(2)	483
第545段	C—341号住居跡・電	436	第608段	DS—107号住居跡・電	484
第546段	C—341号住居跡出土遺物	436	第609段	DS—107号住居跡出土遺物	485
第547段	C—342号住居跡・電	437	第610段	DS—108号住居跡	486
第548段	C—342号住居跡出土遺物	438	第611段	DS—108号住居跡出土遺物	486
第549段	C—343号住居跡	439	第612段	土坑(1)	487
第550段	C—343号住居跡・電	440	第613段	土坑(2)	488
第551段	C—343号住居跡出土遺物	441	第614段	土坑(3)	491
第552段	C—346号住居跡	442	第615段	土坑(4)	493
第553段	C—346号住居跡出土遺物	443	第616段	土坑(5)	495
第554段	C—348号住居跡・電	444	第617段	土坑(6)	497
第555段	C—348号住居跡出土遺物	445	第618段	土坑(7)	499
第556段	C—349号住居跡・電	446	第619段	土坑出土遺物(1)	500
第557段	C—349号住居跡出土遺物	447	第620段	土坑出土遺物(2)	501
第558段	C—350号住居跡	447	第621段	土坑出土遺物(3)	502
第559段	C—350号住居跡出土遺物	448	第622段	C—1号井戸	505

第623図	C-1号弁戸出土遺物	505	第634図	C-2号配石出土遺物(2)	519
第624図	C-1、2号竪立	507	第635図	C-1号古墓・出土遺物	521
第625図	C-3号竪立	508	第636図	遺状遺構	523
第626図	C-4号竪立	509	第637図	試掘トレンチ配置図	523
第627図	C-6号竪立	510	第638図	試掘トレンチ出土遺物(1)	524
第628図	溝全体図	512	第639図	試掘トレンチ出土遺物(2)	525
第629図	C-1、3、7号溝	514	第640図	グリッド出土遺物(1)	526
第630図	C-2号溝	514	第641図	グリッド出土遺物(2)	527
第631図	C-8、9号溝	515	第642図	C区全体図	537
第632図	C-2号配石	517	第643図	竈跡・バターン模式図	541
第633図	C-2号配石出土遺物(1)	518	第644図	各種遺物出土遺構分布図	544

## 表 目 次

表1	周辺主要遺跡一覧表	7	表3	溝一覧表	516
表2	竪立柱建物跡一覧表	511	表4	古墳・奈良・平安時代住居跡一覧表	530

# 抄 録

## 1 遺跡の概略

本遺跡は、群馬県富岡市大字南蛇井字増光寺に所在する。発掘調査は昭和63年11月1日から開始され、平成3年3月をもって終了した。

遺跡は富岡市の南西、鍋川左岸の段丘上に広がる平坦面に位置しており、発掘調査により縄文時代・弥生時代・古墳・奈良・平安時代さらには中・近世にわたる各時代の住居跡、土坑、掘立柱建物跡、溝等が多数検出され、鍋川上流域における有数の複合遺跡である。

## 2 遺構数量 (A～I区)

種 別	時 代	数 量	備 考
住 居 跡	縄文時代	約 72	縄文時代前期～後期、敷石住居を含む
	弥生時代	約 185	弥生時代中期4、後期181軒
	古墳～平安時代	約 535	古墳時代の住居は後期が主体。
掘 立 柱 建 物	古墳～中世	約 44	As-Bを含むものと含まないものがある。
方 形 周 溝 墓	弥生時代	2	いずれも最終末に位置付けられる。
土 坑	縄文～近世	約 1430	縄文時代のものが多い
埋 め 窰	縄文～弥生時代	6	正立・倒立のものが見られる。
中 世 古 墓	中世	1	瀬戸系の四耳壺を伴う。
溝	中世～近世	約 20	中世の方形に廻る大溝を含む。
そ の 他	配石遺構・集石遺構・道路状遺構・井戸・多数のビットを検出している。		

## 3 C区の概要

縄文時代 前期風浜式期から後期堀之内式期を中心とする。前期有尾系土器を出土する住居、後期堀之内式期の敷石住居4軒等。土坑は前期～後期。

弥生時代 後期樽式期の住居跡117軒を検出。該期の集落としては県内最大級のものであることが判明。

古墳時代 調査区ほぼ全域で、約126軒を調査。後期のものが主体である。

奈良・平安時代 約105軒。

中世・近世 瀬戸系の四耳壺を伴う中世古墓、道状遺構、掘立柱建物跡等が検出されている。

また近世の所産と思われる炭化物(材)を多量に混入した洋梨子型の土坑が検出されている。

◎本報告書は上記のうちC区(DS区の一部を含む)の古墳時代以降の遺構、遺物について記載、説明を行っている。

### 南蛇井増光寺遺跡、中沢平賀界戸遺跡報告書一覧

報 告 書 名	掲 載 遺 跡 名	事業名称	時 代	発行年(予定)
南蛇井増光寺遺跡I	南蛇井増光寺遺跡B区	井出遺跡	縄文・弥生	1992 既刊
南蛇井増光寺遺跡II	南蛇井増光寺遺跡DN・E区	井出遺跡	縄文～近世	1993 既刊
南蛇井増光寺遺跡III	南蛇井増光寺遺跡B区	井出遺跡	古墳・奈良・平安	1994 既刊
南蛇井増光寺遺跡IV	南蛇井増光寺遺跡C区	井出遺跡	古墳～近世	1996 本書
南蛇井増光寺遺跡V	南蛇井増光寺遺跡DS区	井出遺跡	縄文～近世	(1997)
南蛇井増光寺遺跡VI	南蛇井増光寺遺跡C区	井出遺跡	縄文・弥生	(1997)
中沢平賀界戸遺跡	中沢平賀界戸遺跡F～I区	井出遺跡	縄文～近世	1996



# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯と調査の経過

### 1 発掘調査に至る経過

関越自動車道(上越線)は首都圏と上信越地方とを結ぶ高速自動車国道として、日本道路公団東京第二建設局によって建設が進められている。起点を東京都練馬として、新潟県上越市までの総延長280.0km(内練馬～藤岡間は関越自動車道新潟線と併用)である。今回建設される藤岡ICから佐久IC間は約67kmで、各市町の通過距離は群馬県多野郡藤岡市(5.6km)、多野郡吉井町(6.3km)、甘楽郡甘楽町(4.3km)、富岡市(11.6km)、碓氷郡妙義町(2.5km)、碓氷郡松井田町(19.5km)、甘楽郡下仁田町(5.3km)、長野県佐久市(11.9km)である。

群馬県藤岡市～長野県佐久市間の基本計画は昭和47年に策定され、同54年建設大臣より日本道路公団が施工命令を受けている。同56年、群馬県藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市(東部)・松井田町(東部)、同57年、松井田町(西部)・下仁田町(西部)・長野県佐久市までの路線が発表された。

関越自動車道上越線全体にかかる埋蔵文化財の取り扱い、および調査経過は以下のとおりである。

昭和49年度 藤岡市～下仁田町間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し、文化財保護法の遵守、国、県、市町村の指定文化財を避けること、文化財に関係する事項は県教育委員会文化財保護課と協議すること等の考え方を示した。

昭和55年度 県教育委員会文化財保護課は、路線通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を行い、その結果は同年3月藤岡～松井田間、同年11月松井田～下仁田間について「関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書」として群馬県企画部交通対策課より報告された。

昭和59年度 建設工事の具体化に伴い、路線内の埋蔵文化財について、発掘調査の依頼が道路公団より群馬県教育委員会にあり、県文化財保護課は包蔵地の詳細な分布調査を行った。

昭和60年度 群馬県教育委員会は、分布調査の結果を受け、発掘調査の必要な面積を約100万㎡と算定して、55遺跡を認定(その後の試掘調査により52遺跡に変更)した。そして、埋蔵文化財発掘調査にかかる基本方針を次のように策定した。

- ① 発掘調査終了年度を昭和66年度末(平成2年度末)とする。
- ② 群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、対応できない部分については調査会方式を導入、関係市町村には進捗状況を考慮しながら協力を求める。
- ③ 事業団の調査事務所として、多野郡吉井町南陽台に関越自動車道上越線調査事務所を開設し、整理作業を併せて行う。
- ④ 機関別対応面積は次のとおりである。  
事業団 約76万㎡ 富岡市以東を受け持つ。面積は変動の可能性あり。  
調査会 約22万㎡ 妙義町・下仁田町・松井田町。面積は変動の可能性あり。

昭和61年度 4月、群馬県埋蔵文化財調査事業団上越線調査事務所を吉井町南陽台3-15-8に設置し、4班15人体制で発足する。以降、(昭和62年)6班22人、(昭和63年)9班36人、(平成元年)12班45人、(平成2年)12班45人体制。平成2年度までに一部を残し、発掘調査を終了した。

## 第1章 調査の概要

### 2 南蛇井増光寺遺跡の調査経過

本遺跡は鍋川の下位段丘上に在り、南は鍋川を望む段丘崖で、比高差は約30mを測る。北は中沢川が東流し、その北には中沢平賀界戸遺跡となる。

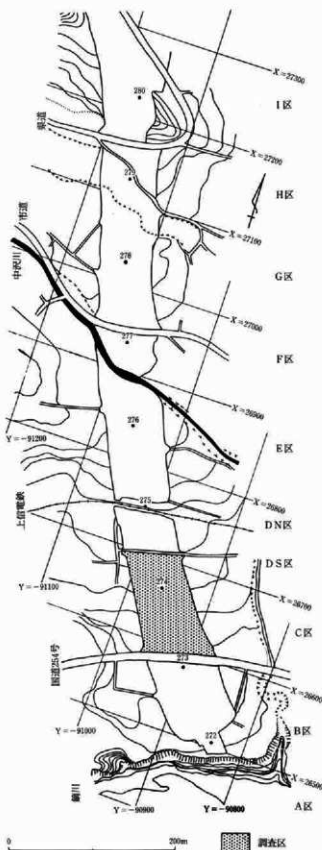
本遺跡の調査総面積は約29,000㎡にわたり、調査地域全面に濃密な遺跡の存在が認められた。

昭和62年に入ると、本遺跡の鍋川橋梁部分にかかる埋蔵文化財の先行調査問題が持ち上がり、文化財保護課・日本道路公団・事業団との協議の結果、10月より国道と鍋川との間（B区）約4,000㎡を調査、昭和63年2月19日をもって終了した。

昭和63年度には国道以北の本格的な調査が計画され、中沢平賀界戸遺跡を含めた南蛇井増光寺遺跡の試掘調査を9月より実施した。続いて国道北側のC区より本調査に入ることとなった。翌平成元年度にはI、II、III、IV班が編成され調査を行うこととなり、I班は国道南（B区）の残り部分、および中沢川の南（E区）を、II班は国道北側（C区）を、III班はC区側道部分、および上信電鉄南側（DS区）を、IV班は上信電鉄の北側（DN区）の調査をそれぞれ行った。平成2年度は、最終的に残った大淵の南側、D S区の一部とC区の調査を2班体制で行った。

### 第2節 調査の方法

南蛇井増光寺遺跡は鍋川左岸の下位段丘上に位置している。鍋川右岸を西進してきた上信越自動車道が鍋川を渡河し、北上する場所に本遺跡は位置している。



第1図 調査範囲図

路線幅約70mで、STA (No272) から STA (No280) までを井出遺跡 (事業名称) として調査を行った。調査区は南より100m毎にA～Hまで8区に区切り、それぞれA区、B区……H区とした、各区は国道、農道、川、などにより比較的、都合良く区分けされたが、D区については、ほぼ中央を上信電鉄が通っていたため、やむを得ず南側をDS区、北側をDN区と2区に分けて調査を行った。(第1図)また、遺跡の記号名をK Jー24(K J)は関越自動車道上越線の略、24は藤岡より24番目の遺跡であることを示す)とし、後ろにA～Iまでの区の名称を付し、図面、遺物等の注記に用いた。

その後、井出遺跡は、ほぼ中央を流れる中沢川を境に南側を「南蛇井増光寺遺跡」北側を「中沢平賀界戸遺跡」とそれぞれ主要な小字名をとって遺跡名とした。

#### C区調査の方法

調査区は南北におよそ500mと細長く、調査は国家座標に併せて南から100m毎に、AからE区に分け、調査区の全域を覆う形でグリッドを設定した。原点は南蛇井増光寺遺跡の南東部、国家座標のX=26500、Y=90800を交点とし、ここを起点に5m四方のグリッド方眼を設定した。(第2図)

南北ラインは5m毎にC区についてはCa、Cb、Cd……Ctとし、東西ラインは同じく5m毎に1、2、3……とした(C区については27～54ラインまで)。また各5mグリッドの呼称は、南東隅の交点をもって表すものとした。



第2図 グリッド設定図

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

南蛇井増光寺遺跡の所在する富岡市は、群馬県の南西部にあり、東西およそ16km、南北およそ14kmで、その面積は93.63km<sup>2</sup>である。市のほぼ中央部を鍋川が東流し、その北側には国道254号線が走り、市街地はその両側に広がる。また山間に入るとのどかな農村風景が見られ、養蚕、こんにゃく、蕨などの生産が盛んである。遺跡の所在する大字南蛇井地区は、南西は鍋川を挟んで下仁田町と接する。

この地域はかつては、甘楽郡吉田村の一部であったが、昭和30年に富岡市に編入されて現在に至っている。今回建設される上信越自動車道は、群馬県藤岡市で関越自動車道（新潟線）と分岐し、「かぶらの谷」と呼ばれる鍋川に沿った台地上を西に走る。この地域は、富岡市の西に接する下仁田町馬山から藤岡市上落合まで、上下二段の河岸段丘が良く発達しており、とくに南側で顕著である。これは、地殻の傾動運動による鍋



第3図 遺跡の位置

川南岸の相対的な隆起に起因し、徐々に鍋川が北に移動しつつ起こされた浸食作用の結果、形成されたものと考えられている。北岸の上位段丘上には市立西中学校、貫前神社などがある高台で、標高は210～240mで、下位段丘との比高差は30～40mである。中高瀬観音山遺跡の南から内匠、岡本にかけての平坦面も上位段丘である。標高は200～240mで、南から北に向かって緩やかに傾斜している。下位段丘との比高差は40～50mである。

上位段丘が形成されたのは、数万年前から十数万年前の洪積世末期とされ、その後火山による上部ローム層が堆積する頃には、下位段丘面には鍋川が流れていたと考えられる。従って、下位段丘面にはロームの堆積は見られない。下位段丘は、南蛇井、神農原、七日市、富岡市街地、高瀬、田篠、星田など鍋川に沿った地域となっており、国道254号線、上信電鉄などの主要交通路が通り、主要な生活の舞台となっている。

下位段丘面の標高は西部の千平地区で230m、東部の星田地区で130mを測り、緩やかに東に下る連続した比較的平坦な面を形成している。この段丘面の南北幅は南蛇井付近では約600mであるが、上高瀬、一の宮付近では急激に広くなりおよそ、3,000mとなる。さらに東方では、2,500m前後幅の段丘面が続いている。

この下位段丘面を削り込んで鍋川が流れているが、南蛇井から上高瀬までは下位面の南端を、七日市、富岡ではほぼ中央を流れるようになり、東部の星田から下流では、北端近くを流れる。

本遺跡は前述したように、南端で鍋川の急崖と接し、北端は中沢川で切られている。この中沢川に沿った東側は水田が作られており、遺跡の所在する部分は、やや高くなっている。また、現況では確認できないが、小さな谷地が入り込んでおり、遺構の存在する地山を構成する土には、かなりの変化が窺われる。

調査区は道路幅約60mで南北に長い形を呈し、北に徐々に上がって行く地形である。多くの住居跡が重複する状況はさらに東西に広がっているものと思われる。

## 第2節 歴史的環境

本遺跡周辺の遺跡については「南蛇井増光寺遺跡1」(1992年)の中で詳しく触れており、本節では遺跡の所在する南蛇井地区周辺における、古墳時代以降の関連遺跡について概観しておきたい。

古墳時代、本遺跡では当該期の竪穴住居跡が約200軒検出されているが、古墳時代を前・中・後期に分けた場合、时期的にかなりの偏りが見られる。前・中期のものはごくわずかで、ほとんどが後期に属するものである。前・中期の住居は、中沢川を隔てて北に位置する中沢平賀戸遺跡、その北にある前畑遺跡に僅かに見られる程度である。後期の集落についても、周辺にはまとまって確認されたものはなく、南蛇井増光寺遺跡が拠点的な位置を占めていたことが想定される。

また本遺跡の南西に接して、長軸約800m、短軸約400mの範囲に南蛇井古墳群があり、この集落に伴う基城として考えられている。

古墳群は鍋川の下位段丘面に作られている。この辺りは鍋川の蛇行に伴う何段かの小段丘が形成されており、それぞれの面に古墳が見られる。現在、確認される数は50基程であるが、その多くが、道路拡幅、耕作などにより平夷、削平されている。このうち一部については発掘調査が行われている。その一つ、吉田二号墳は昭和55年に国道254号線の拡幅に伴い、調査が行われた。調査の結果、径は20m以上の円墳で、主体部は両袖式の横穴式石室、全長は12mであった。石室内より直刀、鉄鏃、耳環、玉類の他、須志器横瓶、甕、蓋などが出土した。また埴輪類は甍、円筒埴輪など若干の出土が見られた。築造時期は7世紀初めと推定される。

本古墳群は6世紀後半から築造が開始され、7世紀代まで続いたものと考えられており、南蛇井増光寺遺

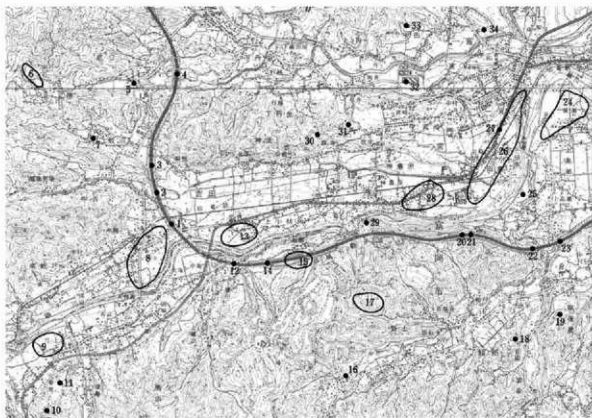
跡における調査でも、検出した古墳時代の住居は6世紀後半から出現しており、その数も相当数に上る。また今回の調査において、発掘区内では古墳、あるいはその痕跡も確認されず、埴輪の検出も無かった。このことから、富岡市史等で予想されていた、集落域としての南蛇井増光寺遺跡と、墓域としての南蛇井古墳群の在り方が明確に裏付けられたと言えるであろう。

奈良・平安時代においても前代の古墳時代から引き続き集落が営まれ、集落の規模は更に広がっていったものと考えられる。付近にはこれと言った集落は発見されておらず、本遺跡がこの時期、中心的な集落であったことが考えられる。また遺跡の東、吉田地区から神農原地区にかけて「吉田たんば」と呼ばれる水田地帯が広がる。面積的には広くはないが、その区画は条理区割りを思わせる。調査による確認はなされていないが、本遺跡に伴う生産域の可能性も考えられる。また、遺跡の所在する大字名の「なんじゃい」を「和妙抄」に見られる、甘栗郡の郷中の「那射」「なき」に比定する説もある。

中・近世においては、東の神成地区には、北側に連なる丘陵上に神成城、さらにその東に宮崎城が築かれ、鍋川を挟んで対岸には鎌田城、柳瀬城などの要害が築かれており、この地域が信州方面からの通路路として重要な場所であったことを示している。

遺跡の調査では字名の増光寺、あるいは平賀城に関連するのではないかと考えられる断面箱築研の大形の溝が、調査区のE区、DN区、およびDS区にまたがってL字形に検出されている。さらには浅間B軽石を覆土に流入する掘立柱建物跡や、南北に走る小溝などが検出されている。さらにはC区北端では、大溝南側に並行するような形で、道状の遺構、これに接するように灰軸四耳壺を伴う、中世墓が見られた。

近世の所産としては溝や多くの土坑が検出されているが、こうしたものの中に、炭化物が詰まり、壁面が焼土化した洋梨子形の土坑が点在して検出された。中沢・平賀戸遺跡を含む調査区全域でも検出されて



第4図 周辺の遺跡

いるが、その性格に関しては、明確に結論がでない。

表1 周辺の遺跡

No	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献等
1	南蛇井増光寺遺跡	富岡市南蛇井	縄文時代から平安時代の竪穴住居多数検出。住居総数785軒を数える。その他土坑多数、方形周溝墓、中世の方形に走る大溝などが検出されている。上信越自動車道建設に伴い調査	⑨⑩⑪
2	中沢・平賀界戸遺跡	富岡市中沢	中沢川を境に本遺跡の北に位置する。竪穴住居158軒(縄文1、弥生15、古墳～平安142軒)、その他中世墳墓、近世の墓坑、礎石建物跡等を調査。上信越自動車道建設に伴う調査	平成8年 刊行予定
3	前畑遺跡	富岡市紋野	銅川左岸下位段丘上。中沢平賀界戸遺跡の北に位置する。古墳時代中期(和泉期)から平安時代にかけての竪穴住居、土坑等検出。上信越自動車道建設に伴う調査	⑧
4	内出1遺跡	富岡市野原	縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の住居跡、方形周溝墓、古墳等を調査。上信越自動車道建設に伴う調査	⑧
5	原の内出跡	富岡市原	中世城館。	②③
6	山口古墳群	富岡市山口	大江山の東側、和田山古墳群の南約1500mの丘陵地に分布している。現在5基が確認できる。	⑤
7	蚊沼の砦	富岡市蚊沼	中世城館。	②③
8	南蛇井古墳群	富岡市南蛇井	国道254号線で下仁田に入る直前の銅川左岸下位段丘にある。現在は50基が確認でき、6世紀後半から7世紀にかけて作られたものと考えられる。	⑤
9	竹ノ上古墳群	富岡市馬山	銅川流域の最も西に位置する古墳群である。銅川右岸、国道254号線の北に所在する。現在7基が確認できる。	⑤
10	馬山西城跡	下仁田町馬山	中世城館。	②
11	馬山東城跡	下仁田町馬山	中世城館。	②
12	下藤田遺跡	下仁田町馬山	台地端部に営まれた縄文中期の集落跡。住居跡220軒、土坑多数、炭石、埋め壁、弥生時代の住居4軒、古墳11基、方形周溝墓、平安時代住居、その他中世城郭跡、教委調査	下仁田町
13	上小林古墳群	富岡市上小林	国道254号線の南、銅川左岸河段段丘の縁辺部に所在。古墳総数では5基とあるが、現在2基が存花。	⑤
14	松瀬遺跡	下仁田町馬山	縄文時代の住居・土坑、弥生時代の土坑・炭石および古墳、中世城郭を調査。昭和62・63年度下仁田町遺跡調査会調査。	下仁田町
15	松瀬古墳群	下仁田町馬山	銅川右岸の段丘面に数基の小円墳が存在する。	⑤
16	野上砦	富岡市野上	中世城館。	②③
17	中山古墳群	富岡市野上	野上長福寺北の丘陵地に数基の小円墳が存在する。	⑤
18	岩染城	富岡市野上	野上地域城の惣領。伝明善源正の城。	②③
19	浅香入城	富岡市南後部	中世城館。	②③
20	塩之入城遺跡	富岡市野上	中世城郭、後期古墳1基。土師器、須恵器鉄器、陶磁器類出土。	⑦
21	野上塩之入遺跡	富岡市野上	昭和63年調査。竪穴住居7軒(縄文前期1、中期2基、奈良・平安時代4軒)土坑、溝を調査。縄文土器、石器、土師器、須恵器等出土。	⑦
22	大島上城遺跡	富岡市野上	(西平城とも言う)昭和61・62年群像文調査。中世城郭。中世または近世の祭祀遺構1か所。墓坑2基。鉄砲玉、古銭、陶磁器類が出土している。	⑤
23	北山茶白山西古墳	富岡市南後部	丘陵頂部に作られた前期の前方後方墳、木棺直葬の主体部を持つ。方格規矩形、変形四脚規の他、鉄鏃、鉄矛、刀子、ガラス小玉出土。上信越自動車道建設に伴い調査	⑧
24	横瀬古墳群	富岡市高瀬	銅川左岸、高瀬段丘上に占拠している。総弁部約700mにわたり、27基が分布するが、扁平されたものが多い。いづれも円墳と思われる。7世紀代の築造と考えられる。	⑤
25	大島下城跡	富岡市上高瀬	銅川と野上川の合流点近く、川に挟まれた細長い場所所在。上城の寄居。安土・桃山時代、伝小幡氏城址。	②③
26	一ノ宮古墳群	富岡市一ノ宮	一ノ宮賀神社の南方、銅川が北流する左岸の段丘面に位置する。17基のうち2基が前方後円墳で、本宿・藤土遺跡との関連が考えられる。	⑤
27	本宿・郷土遺跡	富岡市一ノ宮	国道のバイパス建設に伴い調査。縄文から平安時代の住居跡200軒以上の他、土坑、掘立柱建物跡、堀、井戸、古墳時代の首長墓宅跡を検出。	④
28	神島原古墳群	富岡市神島原	銅川左岸の下位段丘面に位置する。割塚を中心として、段丘縁辺部に分布していたが、現在ではほとんどが失われている。	⑤
29	大山城	富岡市神島原	中世城館。	②

## 第2章 遺跡の環境

No	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献等
30	神成城	富岡市 神成	本丸を要として二の丸、三の丸、北曲輪等が残っており、保存状態は良い。16世紀小堀氏	②
31	宮崎城	富岡市 宮崎	東照寺東の低地を城谷と呼び、ここからを城内としているが、橋跡西端までは30mあり、そのうち築城跡が明らかなのは西部の170m程の場所である。16世紀	②③
32	一ノ宮押出 遺跡	富岡市 一ノ宮	一ノ宮から丹生へ抜ける県道と丹生川右岸の間に位置している。工業団地造成工事に伴い調査が行われ、古墳時代の住居(前期7、中期7、後期1)15軒、縄文・弥生時代の住居を検出。	③
33	恵下原遺跡	富岡市 宇田	神守寺の南に位置する。縄文時代から古墳時代にかけての遺物が多く散布する。石鏡、ガラス小玉、石製模造品等が採集されている。	④
34	阿曾岡・榎 現堂遺跡	富岡市 宇田	弥生から平安時代にかけての集落跡。	富岡市 教委調査

### 文献

① かよらの自然	かよら理科研究会	1972年
② 群馬県古城原址の研究下巻	山崎 一	1972年
③ 群馬県古城原址の研究補遺上巻	山崎 一	1979年
④ 本宿・郷土遺跡発掘調査報告書	富岡市教育委員会	1981年
⑤ 富岡市史自然編原始・古代・中世編	富岡市史編さん委員会	1987年
⑥ 大島上城遺跡・北山茶臼山西古墳	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1988年
⑦ 野上堀之内遺跡・堀之内城遺跡	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1991年
⑧ 前畑遺跡・内出I遺跡・丹生城西遺跡・五分一遺跡・千足遺跡	富岡市教育委員会	1992年
⑨ 一ノ宮押出遺跡	富岡市教育委員会	1994年
⑩ 南蛇井増光寺遺跡Ⅰ(B区縄文・弥生時代編)	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1992年
⑪ 南蛇井増光寺遺跡Ⅱ(DN区・E区)	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1993年
⑫ 南蛇井増光寺遺跡Ⅲ(B区古墳奈良・平安時代編)	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1994年



### 第3節 基本土層

本遺跡は鯛川左岸の段丘上に位置している。調査区内の地形は比較的平坦であるが、北から南に向かって緩やかに下っており、調査区（C区）の北と南端との高低差はおよそ3mである。C区の南端は国道254号線に接し、その南はB区となり、南端は鯛川の段丘崖で急激に落ち込んでいる。川面までの高さは約30mを測る。また遺跡の約200m北には、南東流する中沢川がある。

本遺跡の地山土を形成する砂礫層は、この中沢川により、谷あいから押し出されてきたものである。C区の基本的な層序は表土層（耕作土）、粘質褐色土層、黒褐色砂礫層、茶褐色土層、暗黄褐色土層、黄褐色粘質土層、礫層となる。表土の褐色土は現状での厚さはさほどなく、その下には褐色の粘質土層が見られる。この粘質土層の発達には調査区南東部分で著しく、礫の混入もほとんど見られない。

調査区の南東部分を除く北側部分は、小礫の混入が多くなり、この傾向は北に行くにつれて、顕著となり、粘土の混入は極めて少なくなる。また調査区の西側では小礫の混入は少なく、円礫を含む暗褐色の粘質土となる。

以上のように、調査区内においては層序にかなりの変化が見られる。これはこうした堆積土が河川の影響を多分に受けて形成されたことを示すものと言える。

第I層 茶褐色土。小砂利を多量に含む耕作土、締まりは弱い。

第II層 褐色土。粘質土、小礫含む、厚さは30cm程である。

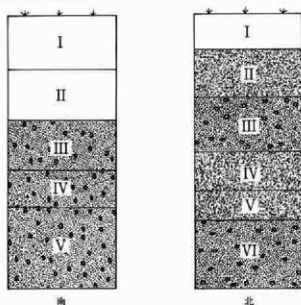
（調査区南部分においては深耕によりI、II層の区別は困難。）

第III層 黒褐色土。3～5cm大の礫を含む砂礫層、厚さは10～70cmである。

第IV層 暗黄褐色の粘質土。厚さは5～30cmである。

第V層 黄褐色の粘質土。厚さは10～20cmほどである。

第VI層 褐色土。かなり大きな礫を含む。



第5図 基本土層

## 第3章 検出された遺構と遺物

本遺跡は南蛇井増光寺遺跡の内100mグリッドで区画されたC区が中心であるが、都合上、図に示したB区及びDS区のごく一部も扱っている。

本報告書は上記C区の遺構の内、古墳時代以降のものについて記述を行っている。(遺構の一部に古墳時代初頭にかかると思われるものがあるが、内容上縄文・弥生時代編に含めて扱うこととした)

本書の内容

- ・古墳・奈良・平安時代の住居跡 245軒(時期不明10、欠番4含む)
- ・掘立柱建物跡 6棟
- ・溝 9条
- ・土坑 43基
- ・井戸 1基
- ・配石 1基
- ・道状遺構 1条
- ・中世古墳 1基
- ・試掘トレンチ出土遺物
- ・グリッド出土遺物

### 第1節 住居跡

検出した住居跡の時代別の軒数は、古墳時代(後期)126軒、奈良・平安時代105軒である。これらの住居は重複が著しく、遺存状態の悪いものも多い。以下、検出した住居跡について記述を行うが、住居番号は調査時のものをそのまま使用している。また番号に付したC一、又はDS一の記号はそれぞれの区に位置することを示す。

#### C-1号住居跡(第6・7図、PL3・90)

位置 Cg-35・36 形状 やや歪む隅丸方形 規模 長辺2.3m、短辺2.3m、壁高約0.1m

重複 C-2号住居跡(弥生時代)の南端に重複。

埋没土 地山の小角礫を含む砂礫土であるが、上部は削り取られている。

床面 やや凹凸を持ち、貼床等は認められず。

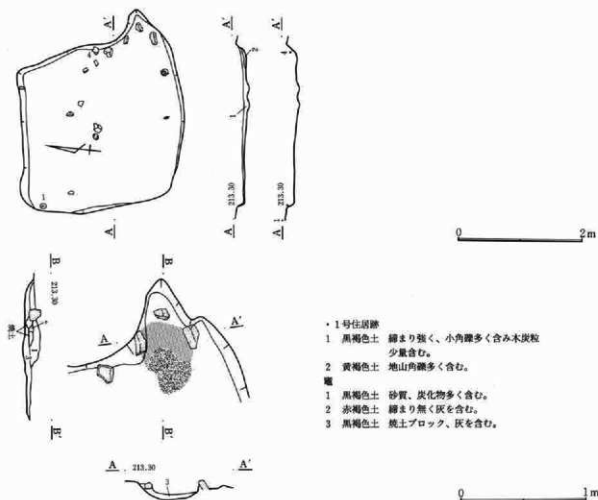
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 無し。

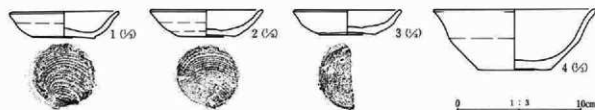
竈 南東隅に位置する、上部はほとんど削平されており、構築材である砂岩製の両袖石が露出した状態で見られた。火床面には焼土、灰がわずかに認められた。

出土遺物 点数は少なく、坏および小破片である。いずれもやや浮いた状態で出土している。また竈部分において坏、埴の破片がわずかに検出されている。

調査所見 比較的小型の住居で、竈を南東隅に持つ。全体にかなり削平を受けている。特に北辺部は2号住居跡の覆土中にあり、明瞭には確認できなかった。時期は平安時代後期である。



第6図 C-1号住居跡・竈

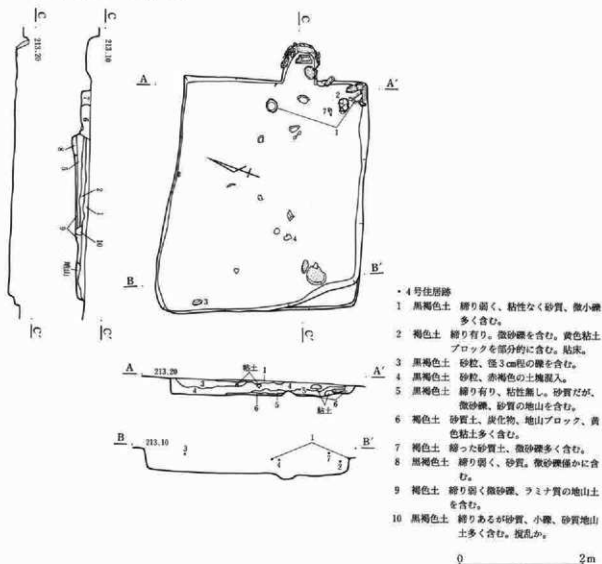


第7図 C-1号住居跡出土遺物

C-1号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器杯	+9	8.7 5.0	2.1	砂粒僅かに含む	茶褐色	良	ロクロ整形	完形
2	土師器杯	覆土	8.9 5.0	2.2	微砂粒含む	茶褐色	良	ロクロ整形	完形
3	土師器杯	覆土	(8.6) (4.5)	1.9	砂粒僅かに含む	灰褐色	良	ロクロ整形	
4	須恵器杯	+6cm	(12.9) 5.8	4.8	微砂粒僅かに含む	黄褐色	良	ロクロ整形	酸化焼成

第3章 検出された遺構と遺物



第8図 C-4号住居跡

C-4号住居跡 (第8~10図、PL 3・90)

位置 Cc-41 形状 隅丸長方形 規模 長辺3.65m、短辺3.03m、壁高0.35m

重複 C-27号住居跡、C-28号住居跡(弥生時代)を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土。所所に粘土ブロックを含みやや乱れた堆積状況を呈す。

床面 ほぼ平坦である。若干の凹凸が見られ、西側がやや下がっている。面としては認定できなかった。

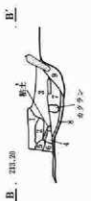
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央やや南寄りに作られている。燃焼部分は壁外に臼状に掘り出されている。竈内側には板状の砂岩がほぼ垂直に並び立てられている。袖部分は明確には検出し得なかった。

出土遺物 電手前に土師器甕の口縁部片。北西の壁際、やや高い位置で完形の須恵器甕が出土している。

調査所見 東壁の両側部分については比較的明確に確認できたが、西壁部分については他住居の覆土中ということもあり、はっきりとした壁は検出できなかった。時期は平安時代である。

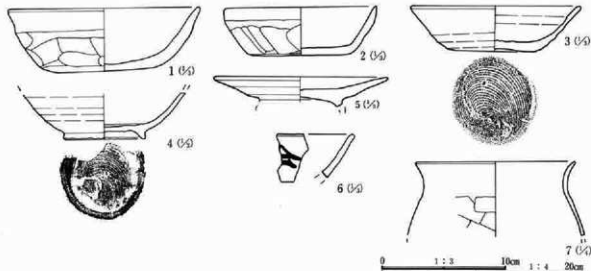


電

- 1 黄褐色土 良く締り硬質。黄色粘土、白色粒を含む。電上部の崩落土。
- 2 褐色土 締り弱く、砂礫質。白色粒を含む。
- 3 黒褐色土 締り弱く、礫を多く含む。下部は砂質で焼土を含む。
- 4 黒褐色土 砂質だが締り有り、白色粒含み下部に焼土有り。
- 5 黒褐色土 締るが、砂礫多くザラつく、白色粒含む。
- 6 黒褐色土 締り弱く、軟質。黄色粘土、白色粒を少し含む。砂質。
- 7 橙褐色土 焼土ブロックを多量に含む硬質土。
- 8 黒褐色土 締り弱く、砂礫含む、少量の灰を混入。
- 9 黒褐色土 締り強く硬質、黄色粘土、白色粒含む。

0 1 m

第9図 C-4号住居跡・電



第10図 C-4号住居跡出土遺物

C-4号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器杯	+20	15.3 9.4	5.0	砂粒僅かに含む	黄褐色	良	外 口縁部横側で 内 口縁部横側で	体部寛削り 体部狭で
2	土師器杯	+18	12.4 8.2	3.8	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横側で 内 口縁部横側で	体底部寛削り 体部狭で
3	須恵器杯	+28	13.4 6.2	3.6	砂粒僅かに含む	灰色	良	ロクロ整形	完形
4	須恵器高台付埴	+21		6.6	砂粒僅かに含む	灰色	良	ロクロ整形	付け高台
5	土師器杯	覆土	(14.0)		砂粒僅かに含む	灰黒色	良	ロクロ整形	付け高台 高台部厚減
6	須恵器杯	覆土			微砂粒僅かに含む	灰白色	良	ロクロ整形	小破片 外面に黒書
7	土師器埴	+35	(17.0)		微砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 口縁部横側で 内 口縁部横側で	胴部寛削り 胴部狭で

第3章 検出された遺構と遺物

C-5号住居跡 (第11・12図, PL 3・90)

位置 Cb・Cc-39・40 形状 隅丸方形 規模 一辺約5mと推定される。

重複 C-8号住居跡(弥生時代)の北側に重複。全体に著しく削平されている。

埋没土 小礫を含む砂礫土。

床面 礫まじりの地山土で貼床がなされているが、部分的にしか残っていない。やや凹凸をもつ。

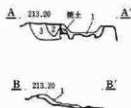
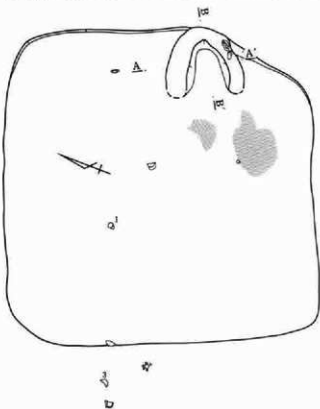
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁に作られているが、かなり壊れており下部のみ確認された。馬蹄形を呈し、全体に住居内に入り込んで作られている。部材として黄白色粘土が用いられ、前面に焼土が顕著に見られた。

出土遺物 本址に帰属すると思われる遺物は、小片が僅かに見られたのみである。

調査所見 削平が著しく、遺存状態は極めて悪い。時期は平安時代か。



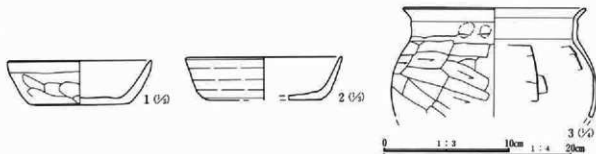
・5号住居跡

■

- 1 赤褐色土 褐色焼土をブロック状に混入。
- 2 黒褐色土 良く締り、粘性無し。硬質。焼土ブロック、微小礫を多く含む。
- 3 黒褐色土 良く締り、粘性無し。微小礫、地山ブロックを多く含む。

第11図 C-5号住居跡

0 2m



第12図 C-5号住居跡出土遺物

C-5号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器環	+7	(11.6) 3.5 (8.0)	精製	黄褐色	普通	外 口縁部横線で 体部縦筋 内 口縁部横線で 体部縦筋	
2	須恵器杯	覆土	(12.4) 3.4 (9.1)	微砂粒含む	灰色	良	口縁部横線 底部回転削り	黒色微粒子目立つ
3	土師器壺	覆土	18.8	微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部縦筋 内 口縁部横線で 胴部縦筋	口の字口縁部 底部に指痕

## C-7号住居跡 (第13~15図、PL 3・90)

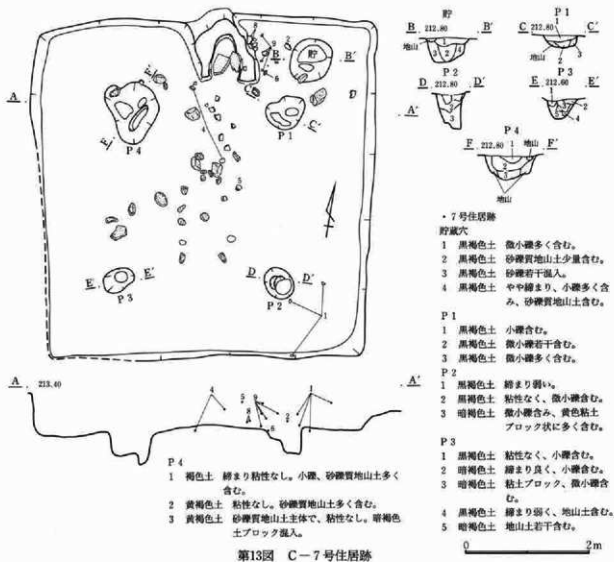
位置 Cc・Cd-40・41 形状 隅丸方形 規模 長辺5.50m、短辺5.23m、壁高0.5m

重複 弥生時代の住居覆土中に構築される。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 部分的に貼床が見られるが、地山の砂礫層が部分的に露出している。他の遺構中に掘込まれていたために、明確な面としては把握できなかったため、全体的にやや凹凸が見られる。

貯蔵穴 北東隅に検出された。



第13図 C-7号住居跡

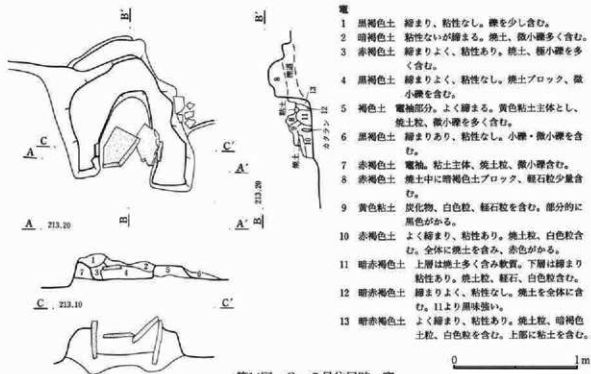
第3章 検出された遺構と遺物

**柱穴** ほぼ対角線上に4本が検出された。形状はまちまちで深さも一定していない。

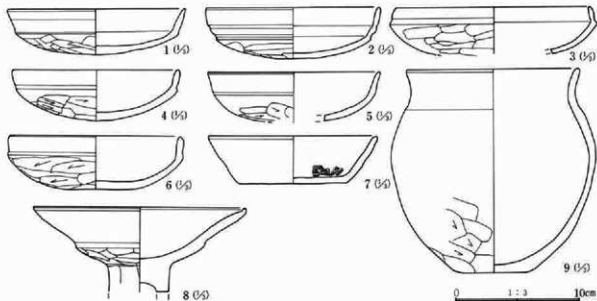
**竈** 北壁ほぼ中央に作られている。板状の砂岩を袖石に用いている、また鳥居状に覆われていた天井石が2つに割れて落ち込んでいた。袖は鏝を含む黄褐色の粘性土で作られているが、かなり崩れた状態である。比較的長期の使用がなされたらしく、全体にかなり火を受けた様子で、焼土の量も多かった。

**出土遺物** 土師器環、高環、甕が出土している。

**調査所見** 他の住居を切って構築されているために、壁の検出状況は良くなかった。時期は古墳時代後期である。



第14図 C-7号住居跡・竈

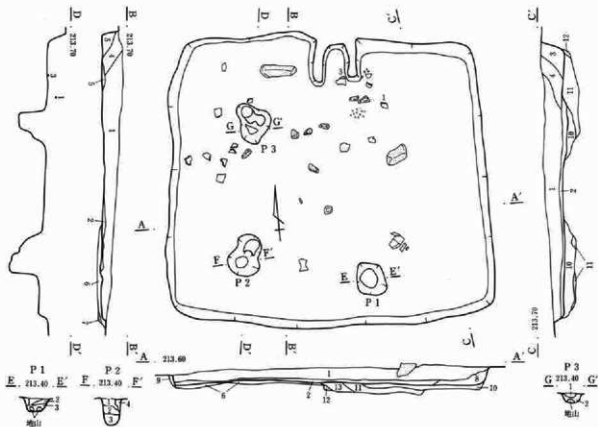


第15図 C-7号住居跡出土遺物



C-7号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考	
1	土師器坏	床面	14.2	3.6	微砂粒含む	暗茶褐色	良	外 □縁部横線で 体部裏割り 内 □縁部横線で 体部裏で		
2	土師器坏	+10	14.0	4.0	微砂粒含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 体部裏割り 内 □縁部横線で 体部裏で	□辺部外面に沈れぬぐる	
3	土師器坏	覆土	(15.5)		砂粒儀かに含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 体部裏割り 内 □縁部横線で 体部裏で		
4	土師器坏	床面	(13.3)		砂粒含む	灰褐色	良	外 □縁部横線で 体部裏割り 内 □縁部横線で 体部裏で	器面やや風化	
5	土師器坏	+40	(13.7)		微砂粒含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 体部裏割り 内 □縁部横線で 体部裏で		
6	土師器坏	床面	(13.6)	4.1	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 □縁部横線で 体部裏割り 内 □縁部横線で 体部裏で		
7	土師器坏	覆土	13.5	3.7	微砂粒含む	淡茶褐色	良	外 □縁部横線で 体部裏割り 内 □縁部横線で 体部裏で	内面に連続彫目痕	
8	土師器高坏	+8	17.2	8.4	微砂粒含む	黄褐色	良	外 □縁部横線で 体部裏割り 内 □縁部横線で 体部裏で後磨き	坏部のみ 外縁顯著	
9	土師器小型 甕	+4	13.8	16.0	5.8	砂粒含む	灰褐色	良	外 □縁部横線で 胴部裏割り 内 □縁部横線で 胴部裏で	器面風化 二次的な火熱を受けている



## ・11号住居跡

- 1 黒褐色土 礫を多く含む。
- 2 黄色粘土 住居跡床。黒褐色土。
- 3 黒褐色土 砂質で礫を含む。
- 4 黒褐色土 3と近似、礫を多く含む。
- 5 褐色土 砂質。地山土多く含む。
- 6 褐色土 粘性無く礫、粘土を含む。

- 7 黒褐色土 砂質で粘性無く礫を含む。
- 8 赤褐色土 強土を含む粘土。
- 9 褐色土 砂質で、小礫多く含む。
- 10 黒褐色土 砂質で礫、炭化物多く含む。
- 11 褐色土 礫の混入少なく炭化物少量含む。
- 12 黄褐色土 地山土多く含む。
- 13 褐色土 粘性無く礫を多く含む。

## P1~3

- 1 暗褐色土 微小礫多く含む締まる。
- 2 暗褐色土 粘性無く小礫含む。
- 3 黒褐色土 2に近似、礫多く含む。
- 4 褐色土 微小礫、地山土多く含む。

0 2m

第16図 C-11号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

C-11号住居跡(第16~18園, PL 4・91)

位置 Ce・Cf-39・40 形状 隅丸方形 規模 長辺5.02m、短辺4.62m、壁高0.26m

重複 C-10号住居跡(弥生時代)の北西部に重複している。

埋没土 小礫を多く含む砂礫土で埋まる。

床面 やや凹凸が見られる。竈前面に粘土が広がる。

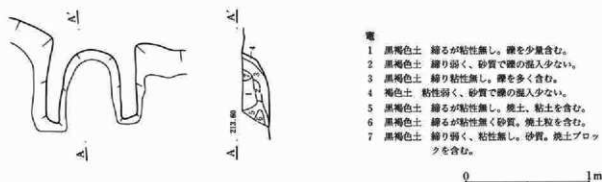
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 3カ所検出。精査したにもかかわらず、北東部には検出されなかった。

竈 北壁ほぼ中央に作られる。両袖は粘土混じりの砂礫土で作られ、住居内に馬蹄形に張り出し、壁外への張り出しはほとんど見られない。

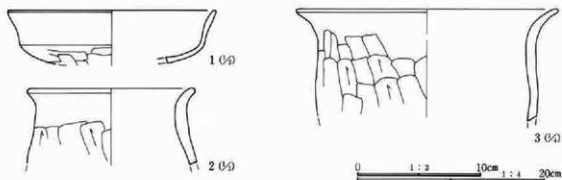
出土遺物 坏、甕の破片がわずかに出土している。

調査所見 東壁は弥生時代の住居と重複しており明確には確認できなかった。住居東側部分、ほぼ中央に径50cm程の焼土の広がりが見出されている。時期は古墳時代後期である。



- 竈
- 1 黒褐色土 締るが粘性無し。礫を少量含む。
  - 2 黒褐色土 締り弱く、砂質で礫の混入少ない。
  - 3 黒褐色土 締り粘性無し。礫を多く含む。
  - 4 褐色土 粘性弱く、砂質で礫の混入少ない。
  - 5 黒褐色土 締るが粘性無し。焼土、粘土を含む。
  - 6 黒褐色土 締るが粘性無く砂質。焼土粒を含む。
  - 7 黒褐色土 締り弱く、粘性無し。砂質。焼土ブロックを含む。

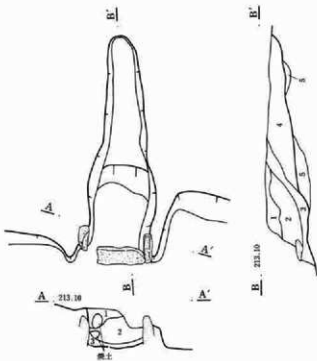
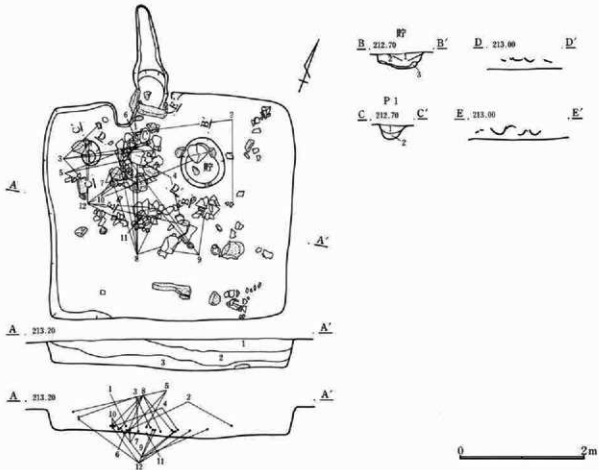
第17図 C-11号住居跡・竈



第18図 C-11号住居跡出土遺物

C-11号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器坏	+2	(16.6)	精製	褐色	良	外 口縁部横撫で 体部縦用り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
2	土師器甕	覆土	(13.4)	砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部縦用り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
3	土師器甕	竈	(28.0)	砂礫含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部縦用り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	破片



- ・12号住居跡
- 1 黒褐色土 良く締まり白色塵および黄色塵含む。
- 2 黒褐色土 1に近似するが、炭化物混入。
- 3 暗褐色土 白色、黄色塵含む締り弱い。
- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 黒味の強い砂礫土。
- 2 黒褐色土 砂礫土、若干の炭化物含む。
- 3 黒褐色土 2と似るが、粒子細かい。
- P1
- 1 黒色土 砂礫土、やや大きめの角礫含む。
- 2 黒色土 砂礫土、粘質土粒子含む。
- 竈
- 1 黒褐色土 固く締まる、白色粒多く含む。
- 2 黒褐色土 締まりやや弱く、白色、黄色粒少量含む、焼土ブロック、灰をまばらに混入。
- 3 黒褐色土 締まり弱く白色、黄色粒を含む、灰を僅かに含む。
- 4 黒褐色土 小礫塵かに含む、褐色土粒目立ち締まり弱い。
- 5 黒褐色土 砂礫、褐色土粒目立つ、締まりは弱い。

第19図 C-12号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物

C-12号住居跡 (第19~21回、PL 4・91)

位置 Cf-35・36 形状 隅丸方形 規模 長辺3.90m、短辺3.59m、壁高0.48m

重複 C-19号住居跡 (古墳時代)、C-31号住居跡 (弥生時代) を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 やや凹凸をもつが全体的に良く締まる。

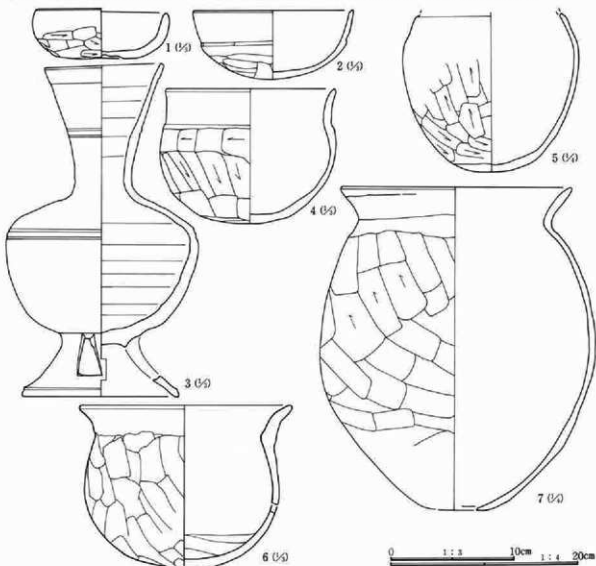
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 2本確認されたが、規模は異なり、位置的にややずれる。

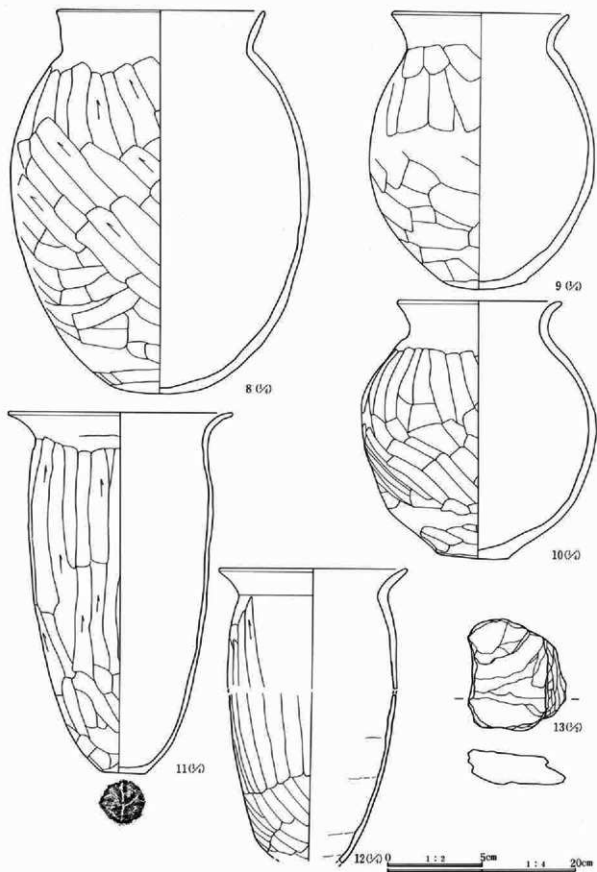
竈 北壁ほぼ中央に作られる。両袖石は板状の砂岩を立てている。天井石と思われる石が手前に落ちていた。

出土遺物 竈前面から中央部にかけて、礫と供に土師器環、小形の甕、長胴および丸胴の甕が多く出土、その他注目されるものとして、脚部に透かし孔を持つ須恵器台付長頸壺が出土している。いずれも完形に近い状態のものが多い。

調査所見 他の遺構に重複していたために東壁、南壁の一部は明確には確定できなかった。出土遺物は竈前面に集中して出土しているが、いずれもやや床面より浮いた状態であった。時期は古墳時代後期。



第20図 C-12号住居跡出土遺物(1)



第21图 C-12号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

C-12号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器環	+9	10.3 6.2	4.0	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で	完形 底に粘土の貼り付け
2	土師器環	+2	12.7	5.5	微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で	
3	須恵器長 頸 壺	床面	9.6 12.6	26.5	微砂粒含む	灰色	硬質	縄作り 肩部、頸部に2条の凹線が走る。脚部に一对の長方形の透かし孔	肩部、頸部内面に自然釉
4	土師器小 壺 壺	+7	13.4	10.7	砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	ほぼ完形
5	土師器壺	床面			砂粒多く含む	灰褐色	普通	外 胴部寛削り 内 胴部無で	器外面に砂礫目立つ
6	土師器壺	床面	17.0		砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部横線で 内 口縁部横線で 胴部無で	
7	土師器壺	床面	24.4	34.1	砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	底部に焼成後穿孔(径5cm)、僅に転用か
8	土師器壺	床面	22.3 6.2	40.6	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部、底部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	大型品、ほぼ完形 底部丸底
9	土師器壺	+2	17.6 8.0	27.4	砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	完形
10	土師器壺	+2	18.9 9.1	29.3	小砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	ほぼ完形 器面ざらついている
11	土師器壺	床面	23.8 4.5	38.1	砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	ほぼ完形 底部副代板
12	土師器壺	床面	20.1		砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部 寛削りで	
13	滑石片	覆土	長さ5.8cm 幅5.2cm 厚さ1.7cm 重さ81.3g 一部に刃物で削られた痕跡が見られる						

C-16号住居跡 (第22~24図、PL 4・92)

位置 Cf・Cg33・34 形状 隅丸方形 規模 長辺5.60m、短辺5.41m、壁高0.17m

重複 南東隅をC-24号住居跡(平安時代)に切られ、C-17号住居跡(古墳時代)の北側部分に重複する。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 礫を多く含む土を主体とする。全体に比較的良く締まるが、17号住居跡に重複する南側部分は僅かな段差を持って低くなっている。

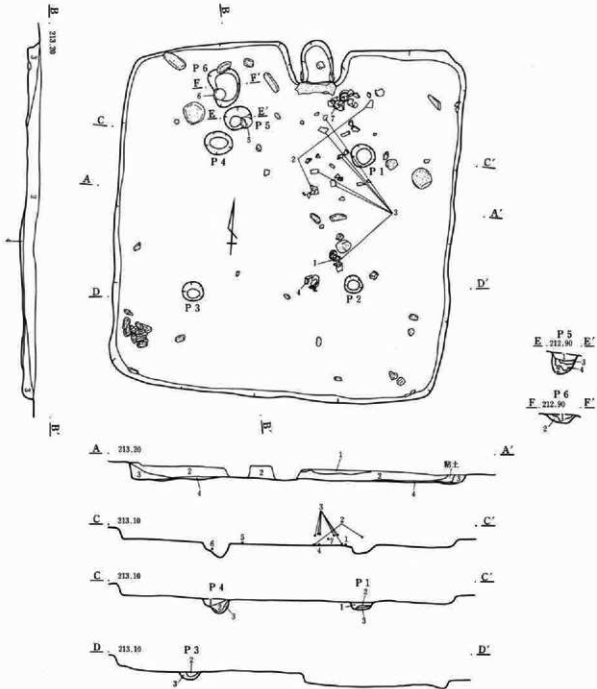
貯蔵穴 明確なものとしては検出されなかったが、北西部分に長径約60cm、深さ約15cmのやや浅い掘り込みが検出されている。

柱穴 ほぼ対角線上に4本検出された。いずれも径は比較的小さく30~40cm、深さも20~30cmとかなり浅いものである。

竈 北壁中央に作られる。両袖は住居内に馬蹄形に張り出し、板状の砂岩が軸石として焚口部の両側に据えられている。天井部分に渡されていた石が、手前にずれて落ちた状態で検出されている。竈内には焼土および炭化物が堆積していた。

出土遺物 あまり多くはなかった。竈周辺部分において土師器壺、および高環が出土している。なお図示できなかったが、葺編み石が12点ほど南西隅で出土した。

調査所見 現状で検出した掘り込みはあまり深くない。床面も平坦でなく、一面ではとえられなかった。時期は古墳時代後期である。



・16号住居跡

- 1 黒褐色土 固く締り、白色石粒及び黄色石粒を含む。
- 2 黒褐色土 固く締り、白色石粒及び黄色石粒を含む。焼土粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 固く締り、白色石粒及び黄色石粒を含む。
- 4 黒黄褐色 黄褐色土と黒褐色土の混合土、住居の粘床面、一部白色粘土ブロック混入。

P1~4

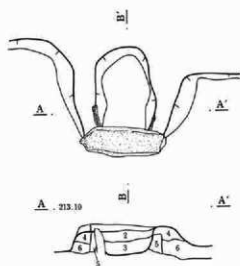
- 1 黒褐色土 白色、黄色石粒まばらに含み固く締る。
- 2 黒褐色土 黄色石粒を混入、固く締る。
- 3 黒茶褐色土 白色、黄色石粒をまばらに含む、締まり良い地山砂礫土の混合土。

P5・6

- 1 黒褐色土 小礫、粘質土塊を少量混入。
- 2 暗黄褐色土 砂質土、多量の粘質土塊混入。
- 3 暗黄褐色土 砂質土で、締りわずかに混入。
- 4 黒褐色土 1に似るが小礫の混入少なく、砂質混入。

第22図 C-16号住居跡

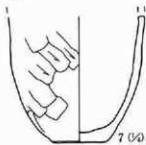
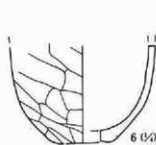
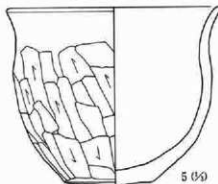
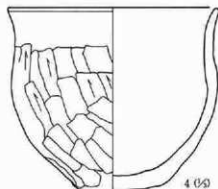
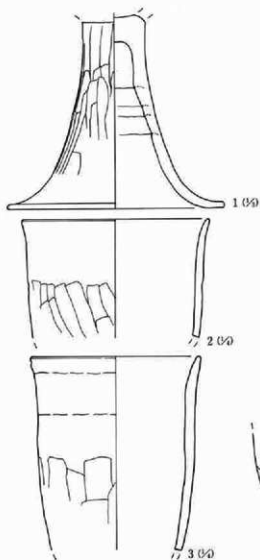
第3章 検出された遺構と遺物



- 竈
- 1 黒褐色土 白色石粒を含む、固く締まった土。
  - 2 黒褐色土 焼土ブロック及び灰、木炭粒を多く含む粘性土。
  - 3 黒褐色土 焼土ブロックを少量含む粘性あり。
  - 4 黒褐色土 褐色粘性土塊、褐色土からなる。黒褐色土塊混入し、まだらをなす。
  - 5 黒褐色土 砂利、小礫を少し含む、褐色土粒多く混入しまだらをなす。締まり有り。
  - 6 黒褐色土 砂利、小礫を含む、褐色土粒、土塊混入。

第23図 C-16号住居跡・竈

0 1m



0 1:3 10cm 1:4 20cm

第24図 C-16号住居跡出土遺物



C-16号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	胎土	色調	焼成	壺成形の特徴	備考
1	土師器高 坏	床面	17.2	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 縦削り 裾端部横削りで 内 横削りで	胴部のみ
2	土師器瓶	床面	(20.0)	精製	淡黄褐色	良	外 口縁部横削りで 胴部削り 内 口縁部横削りで 胴部削り	
3	土師器瓶	床面	(18.2)	砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横削りで 胴部削り 内 口縁部横削りで 胴部削り(縦方向)	口縁部の外反弱い
4	土師器 小型壺	床面	16.9 14.5 7.2	砂粒含む	淡橙褐色	普通	外 口縁部横削りで 胴部削り 内 口縁部横削りで 胴部削り	
5	土師器小 罍	床面	17.0 14.1 7.0	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横削りで 胴部削り 内 口縁部横削りで 胴部削り	ほぼ完形
6	土師器罍	ピット6 内	6.2	砂粒含む	赤色	普通	外 胴部削り 内 胴部削り	胴下部のみ
7	土師器壺	+10	5.9	砂粒多く含 む	暗茶褐色	普通	外 胴部削り 内 胴部削り	

## C-17号住居跡 (第25~27図、PL 5・93)

位置 Ce・Cf-34 形状 隅丸方形 規模 長辺5.17m、短辺4.86m、壁高0.24m

重複 北半分をC-16号住居跡(古墳時代)に、東壁のほとんどをC-24号住居跡(平安時代)により切られているが、レベル的に本址の床面が両住居の床面よりも下にあるため、切られた部分の壁の立ち上がりについてもわずかではあったが確認できた。

埋没土 地山に多く含まれる黄褐色の小礫含む砂礫土主体。

床面 比較的平坦でかなり締まっていた。

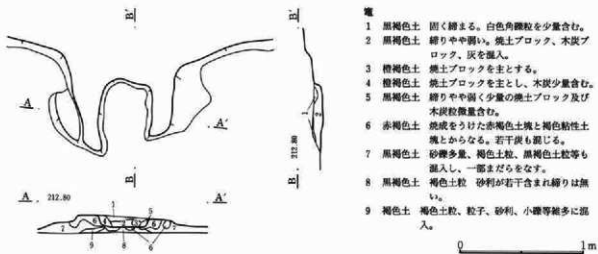
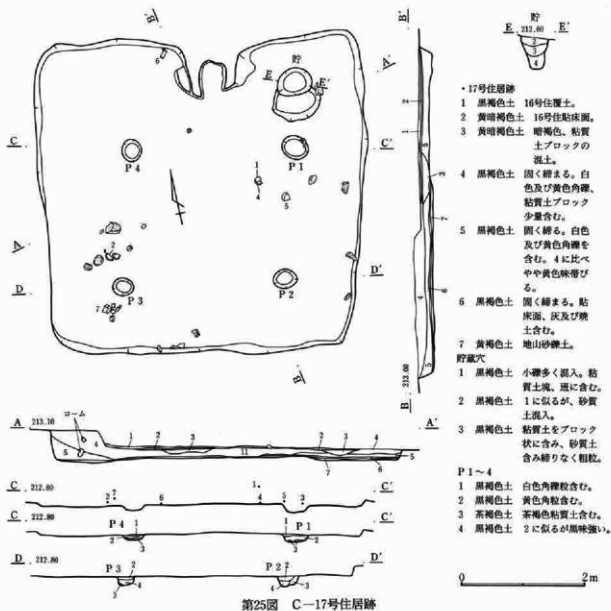
貯蔵穴 北東隅に2穴が重複した状態で検出されている。北側にある、やや径の小さい掘り込みが貯蔵穴と考えられる。深さは約50cmである。

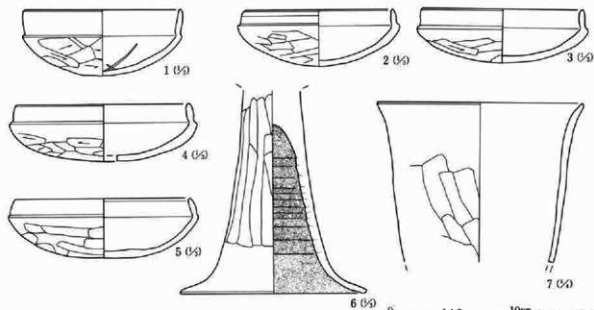
柱穴 ほぼ対角線上に4本検出した、いずれも径は40cm程であるが、深さは15~20cmと極めて浅く、かなり粘性の強い土で埋まる。

竈 竈の本体上部をC-16号住居跡により削平されているために、遺存状態は悪かった。両袖の下部のみ検出したにすぎない、燃焼部は馬蹄形を呈し、内部には焼土ブロック、木炭粒が見られる。壁面はかなり焼けた状態が観察された。

出土遺物 土師器の壺、坏、高坏の脚などが住居内に散在して見られたが点数は少なく、完形のものも見られなかった。

調査所見 本住居は上部の削平が著しく、竈の遺存状態も良くなかった。また出土遺物は少なかった。床面の状態は比較的良かったが、柱穴、貯蔵穴の掘り込み状況などを見ると、かなり不完全な作りの住居である。時期は古墳時代後期である。





第27図 C-17号住居跡出土遺物

C-17号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	施成	整形形の特徴	備考
1	土器器环	+21	12.6	5.2	小礫僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部篋削り 内 口縁部横線で 体部篋削り	ほぼ完形 内面に篋の当たり痕
2	土器器环	+5	(11.8)	4.5	微砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部篋削り 内 口縁部横線で 体部篋削り	
3	土器器环	+3	(12.8)	4.3	砂粒含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部篋削り 内 口縁部横線で 体部篋削り	器面荒れている
4	土器器环	床面	(13.8)		砂粒僅かに含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部篋削り 内 口縁部横線で 体部篋削り	
5	土器器环	+4	(14.0)	4.7	微砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部篋削り 内 口縁部横線で 体部篋削り	
6	土器器高坏	床面	15.0		砂粒僅かに含む	明黄褐色	良	外 柱部篋削り 端部横線で 柱部輪積み痕明瞭 内 端部横線で 柱部輪積み痕明瞭	脚部のみ 内面黒色
7	土器器瓶	+10	(22.0)		微砂粒僅かに含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部篋削り 内 口縁部横線で 胴部篋削り	口縁部から胴部にかけての破片

## C-19号住居跡 (第28・29図、PL 6・93)

位置 Ce・Cf-35・36 形状 隅丸方形 規模 長辺4.72m、短辺4.57m、壁高0.24m

重複 北東隅をC-12号住居跡(古墳時代)により切られる。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 礫を含む地山土で、比較的締まっている。

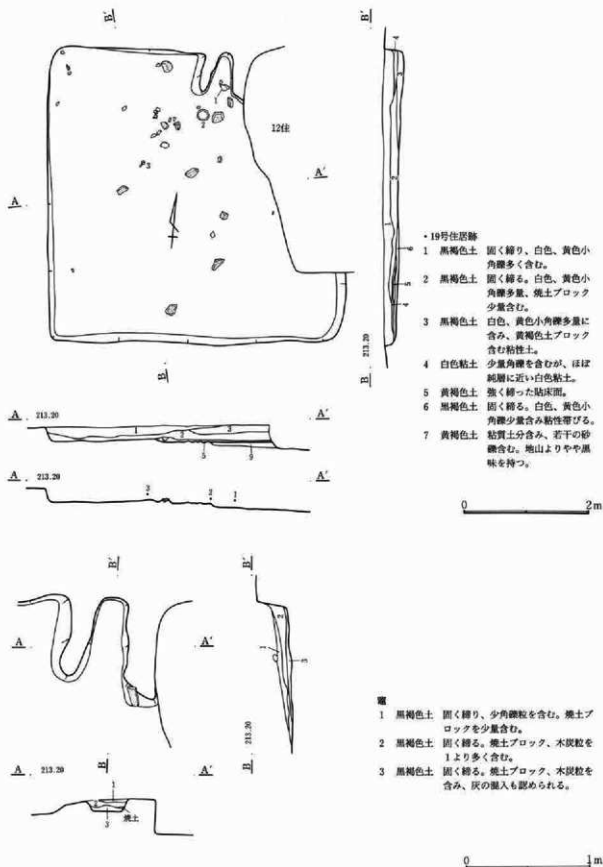
貯蔵穴 C-12号住居跡により切られてしまったものと思われる。

柱穴 明確には検出できなかった。

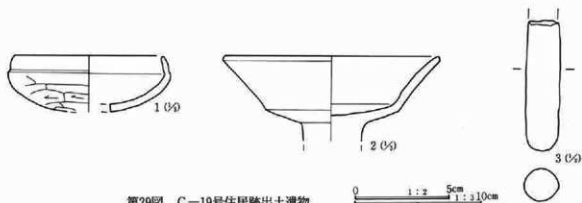
竈 北壁中央に作られており、袖部分がかなり壊れた状態で検出されている。壁外への掘り出しはない。

出土遺物 竈前面部分で若干の甕、坏の破片類が見られた外、長さ10cmほどの棒状土製品(一部欠)が出土している。

調査所見 西壁は重複するC-12号住居跡内にあったために、ラインについては明確には確認できなかった。時期は出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



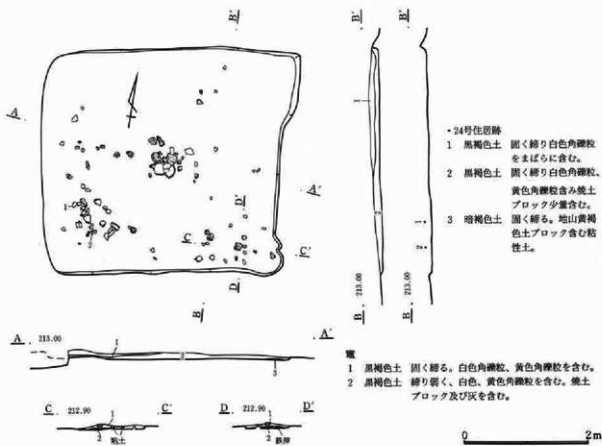
第28図 C-19号住居跡・竈



第29図 C-19号住居跡出土遺物

C-19号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 平	+11	(11.8) (4.5)	砂粒極かに 含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部無で	
2	土師器 高平	+5	17.4	砂粒含む	黄褐色	普通	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部無で	脚部分を欠く
3	棒状土製品	+10		砂粒含む	明黄褐色	良	丸棒状を呈し一端がやや細くなる 長さ6.9cm 径1.8cm 重さ24.2g	端部を欠く(脚か)



第30図 C-24号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### C-24号住居跡 (第30・31図、PL 5・93)

位置 Ce・Cf-33・34 形状 隅丸方形 規模 長辺3.80m、短辺3.52m、壁高0.15m

重複 C-16、17号住居跡(古墳時代)、C-164号住居跡(弥生時代)を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 ほぼ平坦ではあるが、堅く踏み締められた状況は認められなかった。

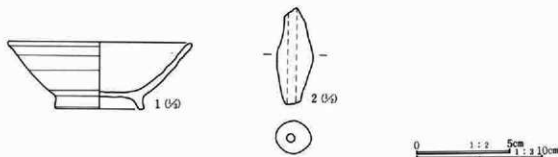
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 南東隅に作られている。かなり壊れており、構築時の状況は留めていない。燃焼部はアーチ状に壁外に張り出す。周辺には袖部の構築材と思われる、粘土、石などが散在していた。

出土遺物 僅かに南西隅において、須恵器境および土鍾が出土している。

調査所見 かなり削平を受けており、ことに西・北壁については確定しがたい。時期は平安時代である。



第31図 C-24号住居跡出土遺物

#### C-24号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器境	+9	(14.8)	5.3	精製	灰色	具	口クロ整形 付け高台	僅かに焼き重あり
2	土 鍾	+10	長さ5.1cm 径1.9cm 重さ12.0g 孔径0.45cm 中央部分が膨らみ両端は細くなる						

#### C-26号住居跡 (第32~34図、PL 5・93)

位置 Cb・Cc-36・37 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.44m、短辺4.67m、壁高0.56m

重複 東側部分がC-43号住居跡(古墳時代)を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土で、やや黒味を帯びる。

床面 若干砂粒を含む黒褐色土で作られており、比較的平坦である。南壁下に幅20cm程の壁溝が検出されている。南側柱穴間に径数10cmの範囲に焼土が見られたが、性格については不明である。

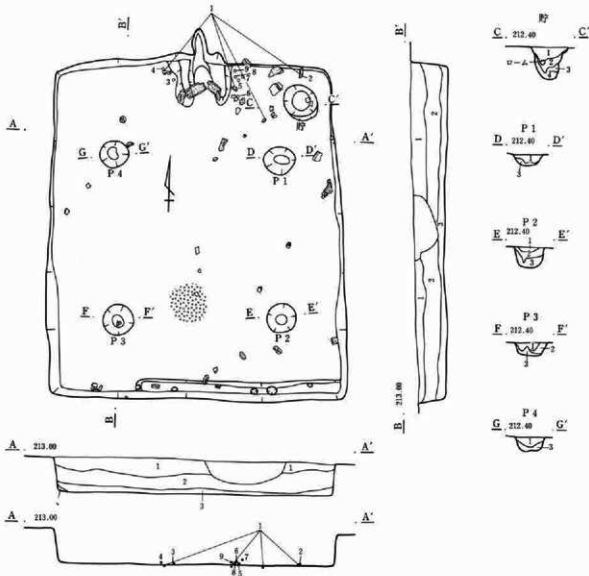
貯蔵穴 北東隅に作られている。ほぼ円形で深さは50cm程である。

柱穴 ほぼ対角線上に4本検出。

竈 北壁中央に作られる。両袖に砂岩が据えており、天井部に渡されていた砂岩が、折れて中に落ち込んだ状態で出土している。煙道部は壁外に緩やかな傾斜で延びている。

出土遺物 極めて少なく竈の周辺において出土している。土師器環の他には白玉が7点竈の両袖脇より出土している。

調査所見 壁、竈は比較的遺存状態は良かったが、出土遺物は少ない。時期は古墳時代である。



・26号住居跡

- 1 黒色土 砂礫多く含む締まる。
- 2 黒色土 砂礫多く含む締まる。礫は1より小振り。
- 3 黄褐色土 粘質土ブロックを混入し砂礫の混入は少ない。
- 4 黄褐色土 3と似るが、粘質土多く含む締まる。

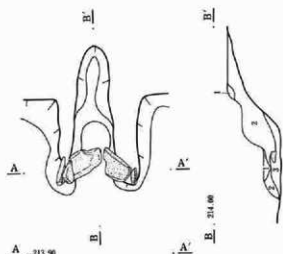
貯蔵穴P1~4

- 1 暗褐色土 小礫を含み若干の粘質土ブロック混入。
- 2 暗褐色土 若干の粘質土混入し、灰色の石粒目立つ。
- 3 暗黄褐色土 粘質土粘性土ブロック多く含む締まる混入少ない。
- 4 暗黒色土 砂礫を混入し、やや粘性を持つ。粗粒。

0 2m

第32図 C-26号住居跡

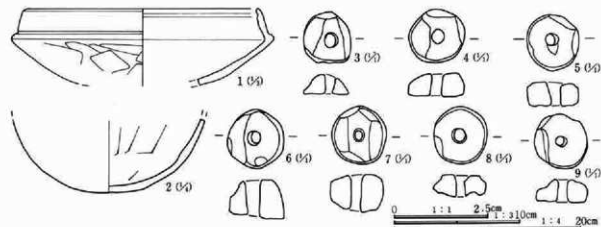
### 第3章 検出された遺構と遺物



- 圖
- 1 黒褐色土 固く締った地山粘性土若干混入。
  - 2 黒褐色土 1に似るが、粘性土少なくやや粗粒。
  - 3 赤褐色土 焼土、炭化物多く含み、地山粘質土混入。固く締る。



第33図 C-26号住居跡・竈

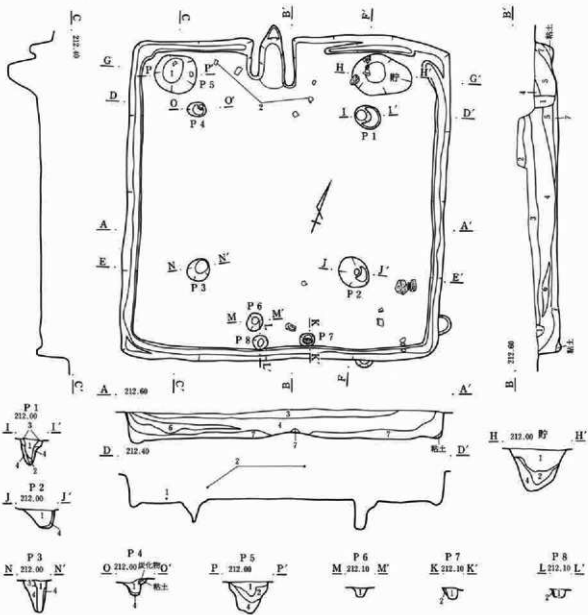


第34図 C-26号住居跡出土遺物

C-26号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 床皿	床面	18.7	微砂粒僅か に含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で	大器品 縁の作りが しっかりしている
2	土師器 甕	床面	6.6	微砂粒僅か に含む	暗褐色	良	外 胴(底)部深削り後磨き 内 胴部無で	
3	白 玉	床面	径1.3cm 厚さ0.53cm 重さ1.3g				不定形、作りはやや雑 滑石製	
4	白 玉	+2	径1.4cm 厚さ0.6cm 重さ2.0g				周辺部研磨による整形 やや青味があった滑石製、作りは良い	
5	白 玉	+2	径1.4cm 厚さ0.6cm 重さ2.2g				周辺部研磨による整形 片面未調整、滑石製	
6	白 玉	+2	径1.6cm 厚さ0.6cm 重さ3.9g				周辺部研磨による整形 滑石製 やや厚味がある大器品	
7	白 玉	+5	径1.5cm 厚さ1.0cm 重さ3.4g				周辺部研磨による整形 青味があった滑石製 やや厚味あり	
8	白 玉	+2	径1.5cm 厚さ0.6cm 重さ1.8g				周辺部研磨による整形 片面欠損 滑石製	
9	白 玉	+2	径1.9cm 厚さ0.6cm 重さ1.8g				周辺部研磨による整形 青みがかった滑石製 片面未調整	





・29号住居跡

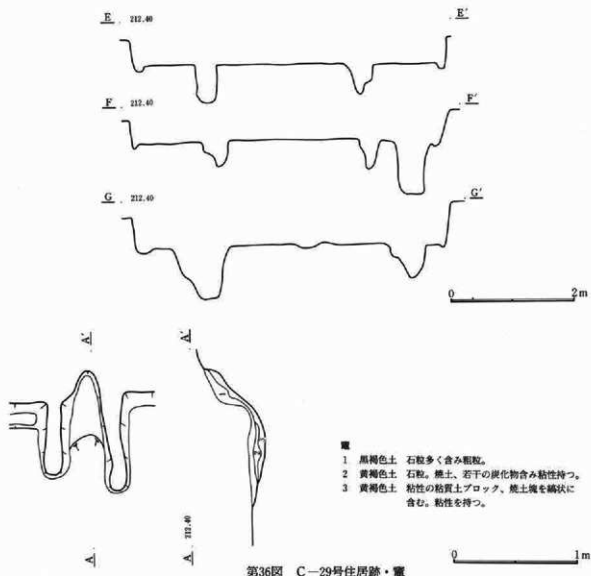
- 1 黒褐色土 米粒大の小礫、若干の褐色粘土ブロック含む。後世の掘り込み。
- 2 黒褐色土 灰白色粒子、米粒大の細礫を含む。やや締りあり。
- 3 黒褐色土 灰白色粒子米粒大の細礫や、褐色粘土ブロックを含む。固く締っている。
- 4 黒褐色土 2の黒色土に細礫、褐色粘土ブロック含む。
- 5 黒褐色土 4と近似するが褐色粘土ブロック少ない、北半部、上層との間に炭化物。
- 6 黒褐色土 褐色粘土ブロック、僅かに含む。
- 7 黒褐色土 褐色粘土ブロック、僅かに含む、白色粒子若干混入。

貯蔵穴・P1~5

- 1 黒褐色土 砂礫、細礫、褐色粒子多量に含む、褐色の粘土ブロック混入し締る。
  - 2 黒褐色土 1に比し、褐色粘土の混入多い。
  - 3 黄褐色土 粘質土、粘土、及び黒褐色土からなる。
  - 4 黒褐色土 1の黒褐色土と粘質土粘土塊まだらに混入。粘性あり。
- P678
- 1 黒褐色土 灰白色粒子、褐色粘土ブロックを含む。締りがある。
  - 2 黒褐色土 地山粘土ブロック主体。

0 2m

第35図 C-29号住居跡



第36図 C-29号住居跡・竈

C-29号住居跡 (第35~37図、PL 6・93)

**位置** Bt・Ca-35・36 **形状** 隅丸方形 **規模** 長辺5.07m、短辺5.06m、壁高0.45m

**重複** 本址を切る住居はなかった。

**埋没土** 小礫含む砂礫土。締まりは良い。

**床面** 平坦で良く締まる。壁周溝がほぼ全周している。

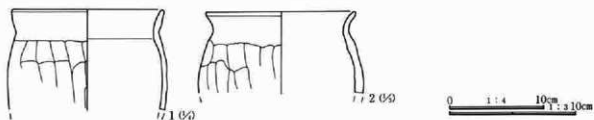
**貯蔵穴** 北東隅に作られている。長円形で深さは65cm、底部分は小さくなり、底形はやや方形を呈す。また南西隅にも径60cm、深さ50cm程の掘り込みがあり、貯蔵穴の可能性がある。

**柱穴** 対角線上に4本検出された。また南壁中央部分に2穴並んで径25cm程、深さ15~20cmの小ピットが検出されている。約80cmの間隔で、入り口施設と関連するものと考えられる。

**竈** 北壁中央に作られている。袖部分は砂礫を混入する粘質土で作られている。天井石が手前に落ちた状態で検出された。燃焼部から煙道部分はかなり急角度で立ち上がる。

**出土遺物** 極めて少ない。竈前面部において壺の破片がわずかに出土したのみである。

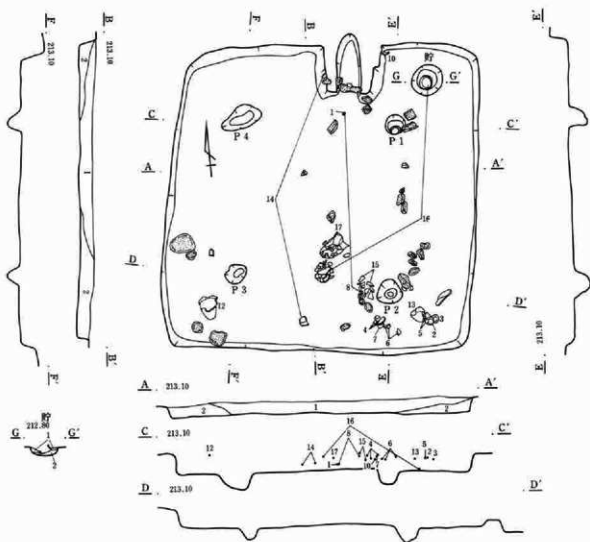
**調査所見** かなり遺存状態は良く、壁高は最大50cmをはかる。時期は古墳時代後期である。



第37図 C-29号住居跡出土遺物

C-29号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 壺	+6	16.1	砂礫含む	茶褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部縦筋 内 口縁部横線で 胴部縦筋	
2	土師器 小型壺	+17	(12.0)	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部縦筋 内 口縁部横線で 胴部縦筋	



## ・32号住居跡

- 1 黒色土 砂礫土、灰を混入する。
- 2 黒褐色土 砂礫土、黄褐色粘質土砂粒を含む。

## 貯蔵穴

- 1 黒褐色土 砂礫多く含む若干の粘質土粒子混入。
- 2 淡褐色土 砂礫、粘質土粒子含む、1よりやや細粒。

第38図 C-32号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

C-32号住居跡 (第38~40回、PL 6・94・95)

位置 Cc・Cd-37・38 形状 隅丸方形 規模 長辺4.94m、短辺4.88m、壁高0.27m

重複 東側部分でC-35・162号住居跡(古墳時代)と重複する。C-162号住居跡を切り35号住居跡に切られる。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 礫を含む黒褐色土で貼られ、やや凹凸をもち、比較的締まる。

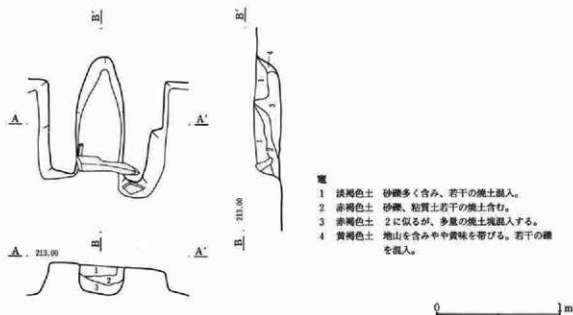
貯蔵穴 北東隅に検出された。円形で径50cm、深さは15cmと浅い、土師器甕の口縁部分が置かれた状態で出土している。

柱穴 対角線上に4本検出された。いずれも平面形状は不定形である。

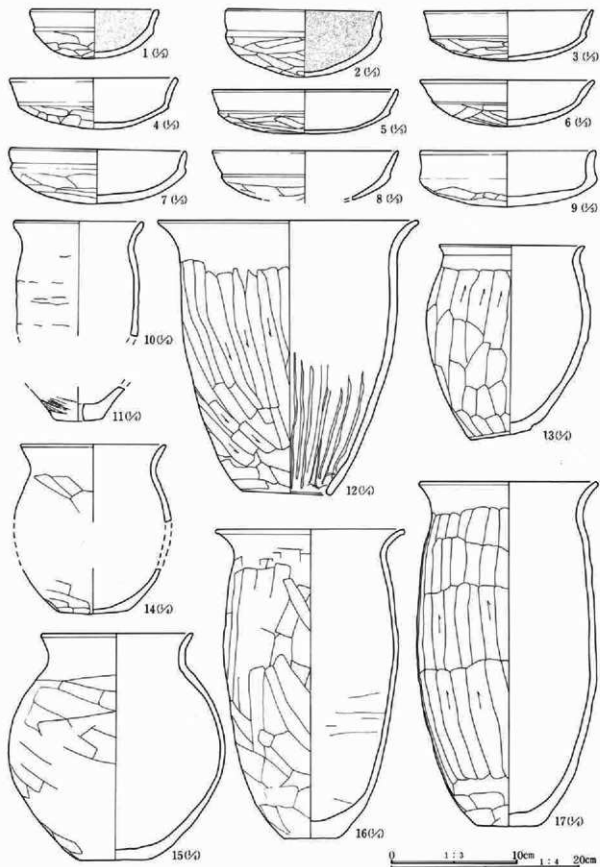
竈 北壁ほぼ中央に作られている。両袖が住居内に延び、板状の砂岩を立て両袖の芯材としている。焚口部天井石が落ち込んだ状態で出土している。燃焼部はやや幅が狭く、住居外への掘り出しはほとんど無い。内部下層にはかなりの焼土の堆積が認められた。

出土遺物 住居の南東部分にやや集中して検出された。土師器坏、甕、瓶等が見られたがいずれも、やや浮いた状態で出土したものが目立つ。

調査所見 重複する東壁の一部を除き、遺構のほぼ全形が検出された。東壁部分がわずかに重複する35号住居跡との前後関係は微妙であるが、調査時の所見では35号住居跡が新しいものと判断された。時期は古墳時代後期である。



第39図 C-32号住居跡・竈



第40图 C-32号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

C-32号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 高さ (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 環	+10	10.2	3.9	砂粒含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	小型品、ほぼ完形 内面黒色
2	土師器 環	+20	12.4	5.3	砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り後磨き	完形 内面黒色処理
3	土師器 環	+18	13.5	4.1	精製	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	ほぼ完形
4	土師器 環	+15	13.4	4.1	微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	ほぼ完形
5	土師器 環	+20	14.9	3.5	精製	茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	
6	土師器 環	+12	13.8	3.7	微砂粒僅かに含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	ほぼ完形 底部外面に黒底
7	土師器 環	+20	(14.0)	4.2	砂粒僅かに含む	白黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	
8	土師器 環	+10	14.9		微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	
9	土師器 環	覆土	13.9	4.5	砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	やや厚手
10	土師器 壺	+13	(13.6)		砂粒僅かに含む	灰黒色	良	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	外面胴部に輪痕み痕みられる
11	土師器 甕	覆土			微砂粒含む	橙褐色	良	外 胴部直削り後磨き 内 胴部直削り後磨き	底部片 孔径0.9cm
12	土師器 甕	+28	27.6	29.2	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り後磨き	
13	土師器 壺	+18	15.3	20.9	砂粒含む	灰褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	ほぼ完形
14	土師器 壺	+12	(15.2)	6.3	砂粒多く含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	口縁部および底部
15	土師器 壺	+14	16.1	6.8	砂粒含む	白黄褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	口縁部短く直立気味 器面風化
16	土師器 壺	床面	20.0	33.0	砂粒含む	淡黄褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	二次火熱受ける
17	土師器 壺	+18	19.0	36.5	砂粒含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	ほぼ完形

C-35号住居跡 (第41~43図、PL. 6・95)

位置 Cc・Cd-36・37 形状 隅丸方形 規模 長辺5.14m、短辺5.11m、壁高0.41m、

重複 C-32号住居跡、C-162号住居跡(古墳時代)を切る。

埋没土 小粒含む砂礫土。

床面 比較的踏み締められており、とくに電前面は良く締まる。

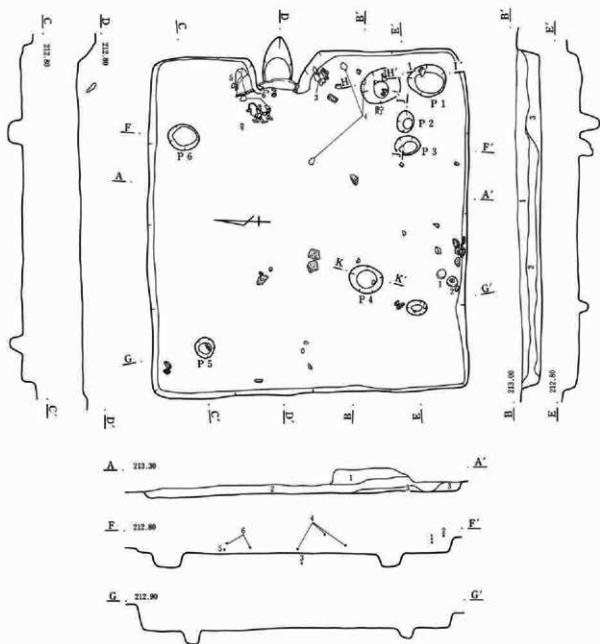
貯蔵穴 南東隅に検出された。径50cmで深さは約40cmを測る。また床面の精査時に北側に別の掘込みが検出された。径は50cm、深さは約70cmを測る。やはり貯蔵穴と判断される。作り替えがなされたものと思われる。

柱穴 四隅に検出された。位置がややずれている。

竈 東壁の中央やや北よりに作られている。両袖に板状の砂岩が立てられ、天井に使われていた石が焚口部をふさぐように斜めに落ち込んでいた。

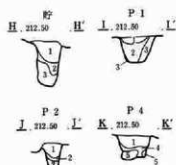
出土遺物 点数は多くはないが、電附近でほぼ完形の甕が2点潰れた状態で出土している。

調査所見 北壁、西壁については他の住居と重複しているために明確に確定できなかったものの、床面がかなりしっかりしているために形状についてはほぼ確認できた。時期は古墳時代後期である。



・35号住居跡

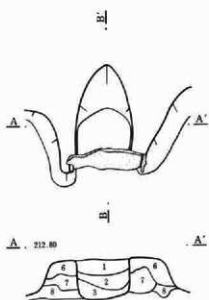
- 1 黒褐色土 砂礫を多量に含み、かなり粗粒。
- 2 黒褐色土 1に似るが、粒子やや細く、黄白色粒やや目立つ。
- 3 黒褐色土 砂礫、若干の粘質土分含み、やや締る。
- 貯蔵穴・P1~4
- 1 黒褐色土 礫をまれに含む。粘質土及び炭化物、若干混入。
- 2 黒褐色土 1に比べ、礫の混入少なく、粘質土をほとんど含まない。黒味より強い。
- 3 黒褐色土 粘性土、砂質土をモザイク状に含む。
- 4 暗黄褐色土 粘質土を多量に含み小礫少量含む。
- 5 暗黄褐色土 砂礫質で締まり悪い。粘質土をわずかに含む。



0 2m

第41図 C-35号住居跡

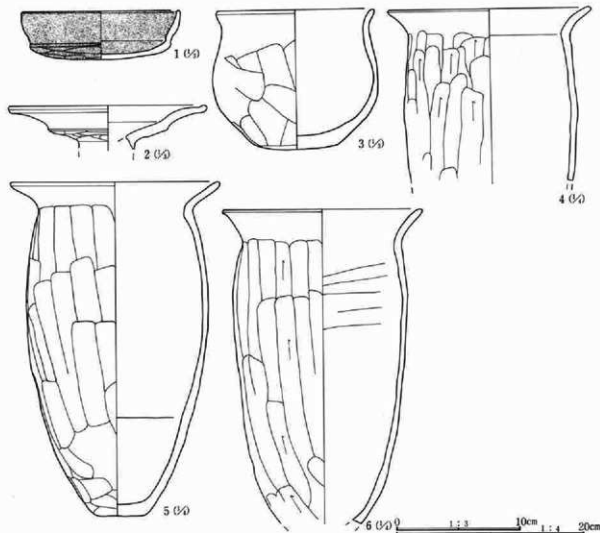
第3章 検出された遺構と遺物



電

- 1 黒色土 砂礫多く含む固く締る。
- 2 黒褐色土 1に似るが、砂礫小さく若干の粘質土ブロック含む。
- 3 黒褐色土 1に似るが、砂礫小さく若干の粘質土ブロック含む。少量の焼土混入。
- 4 黒褐色土 若干の焼土の混入見られる。
- 5 赤褐色土 焼土多く含みや軟質。
- 6 黒褐色土 粘質土ブロックをわずかに含む。小礫及び焼土を若干含む。
- 7 暗黄褐色土 粘質土を凝状に含む。焼土が断面に認められる。
- 8 黒褐色土 小礫及び粘質土少量含む。焼土少量含む。

第42図 C-35号住居跡・電



第43図 C-35号住居跡出土遺物



C-35号住居跡遺物観察表

番号	器 種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎 土	色 調	焼 成	製 成 形 の 特 徴	備 考
1	土 師 器 環	+15	12.8 3.8 11.3	砂粒僅かに 含む	黒色	良	外 □縁部横線で 体部蓋削り 内 □縁部横線で 体部蓋で	ほぼ完形 内外面 黒色
2	土 師 器 高 環	+25	16.0	微砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 □縁部横線で 体部蓋削り 内 □縁部横線で 体部蓋で	坏部のみ、外縁強く 極めて浅い作り
3	土 師 器 小 形 壺	床面	(12.8) 11.1 8.8	砂礫多く含 む	暗赤褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部蓋削り 内 □縁部横線で 胴部蓋で	器外面風化
4	土 師 器 壺	+8	(21.6)	砂礫含む	黄褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部蓋削り 内 □縁部横線で 胴部蓋で	
5	土 師 器 壺	+3	22.2 35.5 5.2	小礫含む	淡褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部蓋削り 内 □縁部横線で 胴部蓋で	完形 器面充れている
6	土 師 器 壺	+7	21.3	砂粒含む	黄褐色	良	外 □縁部横線で 胴部蓋削り 内 □縁部横線で 胴部蓋で	底部を欠く

## C-36号住居跡 (第44~46図、PL 7・95・96)

位置 Ce・Cf-41・42 形状 隅丸方形 規模 長辺4.42m、短辺4.10m、壁高0.83m

重複 北東隅がC-189号住居跡(平安時代)と接し、C-192号住居跡(弥生時代)を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土主体、やや混入度合いのことなる層がレンズ状の堆積を示す。また北側断面に竈構築材の崩落土が、住居中央部分にまで流れ込んだ様子が観察された。

床面 地山(砂礫土)、面に砂礫混じりの黒色土が部分的に薄く貼られた状態で見られた。比較的平坦でかなり締まった状況がうかがえ、特に竈前面部分はしっかりした状態であった。幅約20cmの壁周溝がほぼ全周する。

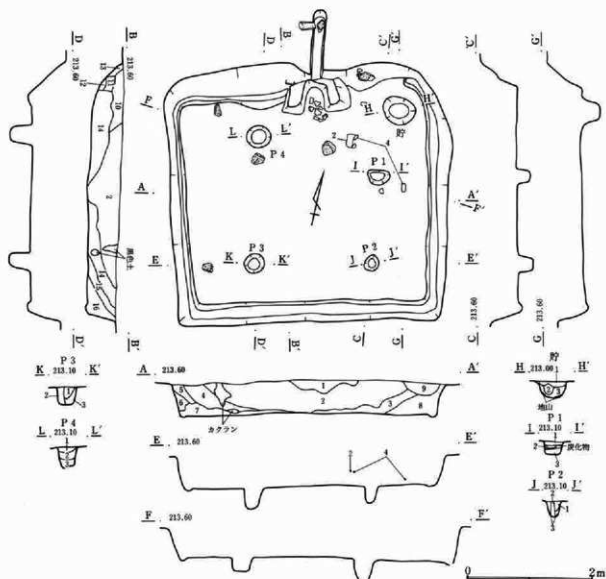
貯蔵穴 北東隅に検出された。ほぼ円形で深さは25cmである。

柱穴 4本検出されたが、北東の1本が南にかなりずれて掘り込まれている。それぞれ径30~20cmで深さは20~30cmである。

竈 北壁中央に作られている。袖部分は砂礫を含む粘性土で作られており、煙道は壁に沿って急角度に立ち上がり、壁外へ約1mの掘り出しを持つ。なお煙道部の上に後世(近世と思われる)の円形を呈す焼土坑が見られた。

出土遺物 極めて少ない。竈前面においてわずかに土師器、須恵器の環、土師器壺が出土した他、土壘2点が覆土中より検出されている。

調査所見 住居および、竈の遺存状態は良好で、壁高も最大で85cmを測る。本址は廃業時に火を受けたものと思われ、床面において部分的に焼土が見られ、また住居中央やや西部分において炭化材がかなりの量とまって検出されている。床面より出土の遺物は認められなかったが、時期は奈良時代と考えられる。



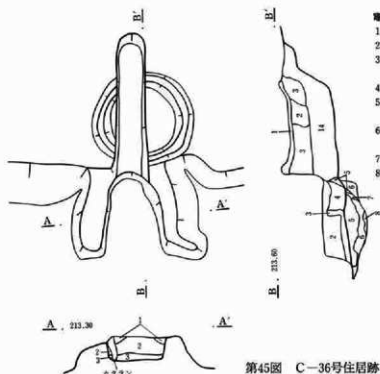
・36号住居跡

- 1 黒褐色土 粘性なく、小礫等を多く含む。
- 2 黒褐色土 締り、小礫多く含む部分に黄色を呈す。
- 3 黒褐色土 締りあり。礫、微小礫と地山土を含む。
- 4 黒褐色土 締りよく、粘性なし。小礫を含む。
- 5 暗褐色土 締りあり。粘性なし。微小礫を多く含む。
- 6 褐色土 粘性なく締まる。微小礫、地山土含む。
- 7 褐色土 締りあり。粘性なく、地山土多く含む。
- 8 黒褐色土 締りあり。粘性なし。微小礫、地山土含む。
- 9 黒褐色土 礫、地山土を多く含む。近世溝か。
- 10 黒褐色土 良く締り、小礫、地山土を含む。
- 11 黒褐色土 締り良く、粘性なし。微小礫を含む。
- 12 暗褐色土 締りあり。微小礫、地山土若干含む。
- 13 黒褐色土 締り良く、粘性なし。礫、地山土を含む。
- 14 暗褐色土 締り良く、微小礫、地山土やや多く含む。
- 15 暗褐色土 締りあり。粘性なし。微小礫、地山土を少量含む。
- 16 黒褐色土 締りあり。粘性なし。微小礫を含む。床と壁間に地山土を多く含む。

貯蔵穴

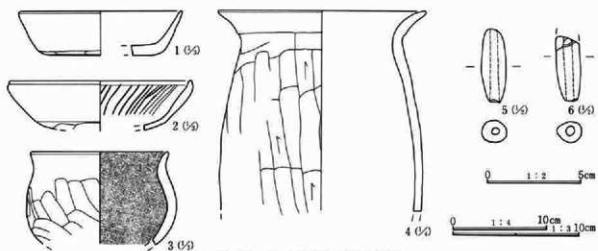
- 1 暗褐色土 締り弱く、粘性なし。微小礫少量含む。
  - 2 暗褐色土 締りあり。粘性弱い、微小礫含む。
  - 3 暗褐色土 締りあり。微小礫、地山土少量含む。
- P 1
- 1 赤褐色土 全体に焼土を含み微小礫、多く含む。
  - 2 暗黄褐色土 粘土ブロック、炭化物を主体とする。
  - 3 砂礫質地山土
- P 2
- 1 暗褐色土 締りあり。地山土少量含む。
  - 2 褐色土 粘性なし。地山土を主体とする。
  - 3 暗褐色土 微小礫、地山土少量含む。
- P 3
- 1 暗褐色土 締りなく、砂礫、地山土を含む。
  - 2 黄褐色土 締り、粘性なし。砂礫質地山土を主体。
  - 3 褐色土 砂礫質地山土多く含む。
- P 4
- 1 暗褐色土 締り良く、微小礫、地山土含む。
  - 2 褐色土 締りなく。微小礫含み、地山土多く含む。
  - 3 暗褐色土 締りなく、微小礫、地山土含む。

第44図 C-36号住居跡



第45図 C-36号住居跡・竈

- 
- 1 地山土 良く締り、粘性あり。
  - 2 暗褐色土 粘性なく、大小の礫、地山土含む。
  - 3 暗褐色土 締りあり、粘性なし。微小礫、地山土少し含む。
  - 4 暗褐色土 微小礫、地山土を含む。
  - 5 赤黄褐色土 良く締り、粘性なし。焼土と灰を主体とし、炭化物、微小礫少し含む。
  - 6 暗褐色土 良く締り、粘性なくやや硬質。焼土粒を含む。炭化物をわずかに含む。
  - 7 灰層 焼土粒、炭化物、小礫をわずかに含む。
  - 8 暗褐色土 地山の砂礫を非常に多く含む。焼土粒混入する。



第46図 C-36号住居跡出土遺物

C-36号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置	口径	器高	胎土	色調	焼成	形成の特徴	備考
1	須恵器 坏	覆土	(13.2)	3.5	砂粒僅かに含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転蹴切り	
2	土師器 坏	+20	(14.8)	3.7	無砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横無で 胴部縦無で 内 口縁部横無で 胴部縦で後磨き	内面に放射状磨文
3	土師器 小型壺	覆土	11.1		砂粒僅かに含む	黄褐色	普通	外 口縁部横無で 胴部縦無で 内 口縁部横無で 胴部縦で	内面黒色
4	土師器 壺	+7	22.4		砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横無で 胴部縦無で 内 口縁部横無で 胴部縦で	外面塚付着
5	土 鉢	覆土	長さ3.9cm 径1.3cm 重さ5.1g		灰茶褐色を呈す	やや小振りで、細身、孔も大め			
6	土 鉢	覆土	長さ(3.3)cm 径1.3cm 重さ4.0g		細身、調査時に一部欠損				

第3章 検出された遺構と遺物

C-40号住居跡 (第47~49図, PL 7・96)

位置 Cc・Cd-42・43 形状 隅丸方形 規模 長辺3.83m、短辺3.78m、壁高0.48m

重複 無し。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 やや起伏を持ち、若干の砂礫を含む黒褐色土である。比較的締まりは良い。

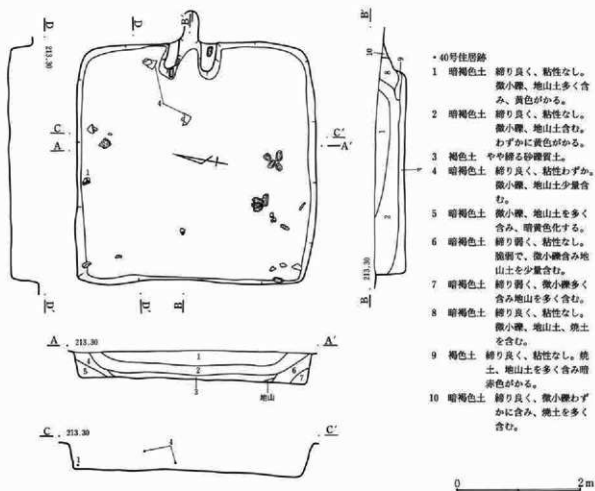
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

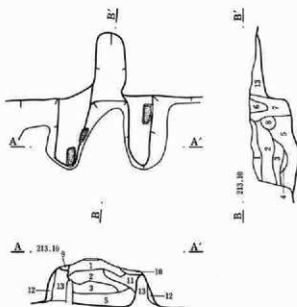
竈 東壁中央やや北に位置する。左側袖石には砂岩が使われているが、右側については袖口に石の検出はなかった。袖は礫、ロームブロックを多量に混入した土で作られている。煙道は一段高く、壁外に馬蹄形に張り出す。

出土遺物 土師器の坏、壺がわずかに見られる。

調査所見 工事用進入道路部分に西部分が掛かっていたために、調査は2回に分けて行われた。他の遺構との重複は無く、かなり遺存状態は良好であった。出土遺物から本址の帰属時期は古墳時代後期と思われる。



第47図 C-40号住居跡

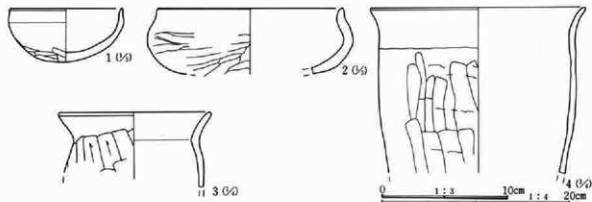


第48図 C-40号住居跡・竈

0 1 m

竈

- 1 黒褐色土 締り強い、粘性なく微小礫少し含む。
- 2 暗褐色土 微小礫、灰を少量、焼土を多く含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒、灰を全体に多く含む。
- 4 暗赤褐色土 締り強く、粘性なし。焼土多く含む。
- 5 暗褐色土 締り強く、粘性なし。ガラガラ。微小礫、灰、焼土粒を少し含む。
- 6 黄褐色土 締り強く、粘性なし。灰をかなり多く含む白色粒、焼土粒を含む。
- 7 褐色土 締りあり。粘性なし。灰、焼土粒を含む。
- 8 褐色土 締りあり。粘性わずか、灰、焼土粒を含む。
- 9 褐色土 締りあり。灰、焼土粒、白色粒多く含む。
- 10 褐色土 締り良く、粘性なし。灰をかなり多く含む、白色粒、焼土粒を多く含む。
- 11 褐色土 締りあり、粘性無し。微小礫等を多く含む。
- 12 暗褐色土 締りあり。粘性なし。礫、砂礫質地土を多く含む。
- 13 褐色土 締りあり。粘性なし。灰を全体に含む。焼土粒、微小礫含む焼土粒は東半が多い。



第49図 C-40号住居跡出土遺物

C-40号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器 杯	+6	9.0 (4.2)	砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横断で 体部寛がり 内 口縁部横断で 体部無で後寄り	小型品
2	土器 杯	覆土	(15.0)	砂粒含む	橙褐色	普通	外 口縁部横断で 体部寛がり 内 口縁部横断で 体部無で	
3	土器 壺	覆土	16.5	砂粒含む	茶褐色	普通	外 口縁部横断で 胴部寛がり 内 口縁部横断で 胴部無で	
4	土器 壺	+8	(23.0)	砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 口縁部横断で 胴部寛がり 内 口縁部横断で 胴部無で	外面部分的に輪積み 視られる

C-41号住居跡 (第50~52図、PL 7・96)

位置 Cb-31 形状 隅丸方形 規模 長辺2.92m、短辺2.88m、壁高0.23m

重複 C-57号住居跡(弥生時代)の南部分、C-48号住居跡(古墳時代)の北西隅を切る。

埋没土 小礫含むが、かなり粘性の強い黒褐色土を多く混入する。

床面 比較的しっかりした感じであるが、他住居との重複部分についてはやや軟質な部分も見られ、部分的にやや不明瞭な部分も見られる。

第3章 検出された遺構と遺物

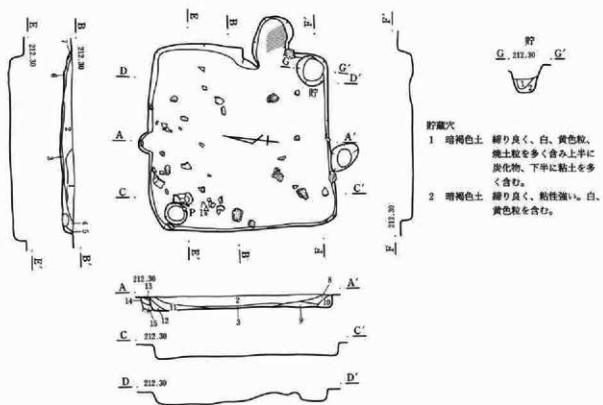
**貯蔵穴** 南東隅に検出された。円形で径は50cm、深さは約35cmである。

**柱穴** 北壁および南壁に接してピットが検出されたが、住居内には検出されなかった。

**竈** 東壁中央やや南よりに作られている。燃焼部が馬蹄形に壁外に掘り出され、火床面はかなり焼けており先端部に向かって緩やかに立ち上がる。袖部分は粘土主体の黄褐色土で作られているが、かなり崩れた状態である。右側壁際には砂岩が埋め込まれた状態で検出されている。

**出土遺物** 須恵器塊、灰釉陶器片などが出土している。

**調査所見** やや小型の住居である。比較的遺存状態は良かったものの、出土遺物は少なかった。時期は平安時代である。

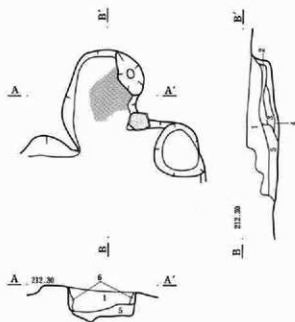


・41号住居跡

- |        |                                |         |                           |
|--------|--------------------------------|---------|---------------------------|
| 1 暗褐色土 | 締り良く、粘性強い。白色粒を多く含む。            | 9 暗褐色土  | 白色粒少なく、粘土ブロックを含む。         |
| 2 暗褐色土 | 良く締り、粘性あり。白色粒を多く含む。粘土ブロック少し含む。 | 10 暗褐色土 | 締り良く、粘性強い。やや軟質。大粒の白色粒を含む。 |
| 3 暗褐色土 | 締り良く、粘性強い。白色粒をわずかに含む。          | 11 暗褐色土 | 良く締り、粘性あり。硬質。白色粒をかなり多く含む。 |
| 4 暗褐色土 | 良く締り、粘性あり。白色粒を多く含む。            | 12 暗褐色土 | 良く締り、粘性強い。白色粒、角礫を含む。      |
| 5 暗褐色土 | 良く締り、粘性強い。白色粒、礫土を含む。           | 13 褐色土  | 良く締り、粘性強い。硬質。白色粒をかなり多く含む。 |
| 6 暗褐色土 | 良く締り、粘性あり。硬質。白色粒、粘土ブロック若干含む。   | 14 黄褐色土 | 締り良く、粘性やや強い。白色粒を含む。       |
| 7 暗褐色土 | 締り良く、粘土強い。白色粒を含む。              | 15 暗褐色土 | 締り良く、粘性やや強い。白色粒を少し含む。     |
| 8 暗褐色土 | 良く締り、粘性あり。白色粒をかなり多             |         |                           |

0 2m

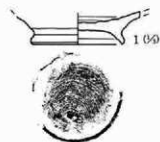
第50図 C-41号住居跡



第51図 C-41号住居跡・竈

- 竈
- 1 黄褐色土 良く練り、粘性強い。白、黄色粒を多く含む。焼土粒を少し含む。
  - 2 暗褐色土 良く練り、粘性強い。白、黄色粒を少し含む。焼土ブロックを多く含む。
  - 3 暗褐色土 2に近似。焼土ブロックが少なく、炭化物を含む部分。
  - 4 暗褐色土 練り良く、粘性強く軟質。炭化物を含み、白、黄色粒、焼土粒僅かに含む。
  - 5 暗褐色土 練り良く、粘性あり。やや軟質。白黄色粒、焼土粒をかなり多く含む。
  - 6 暗褐色土 練り良く、粘性あり。白、黄色粒、焼土粒を含む。

0 1m



第52図 C-41号住居跡出土遺物

0 1:3 10cm

C-41号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	覆土	7.5		精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	底部片
2	灰胎埴	覆土	(6.8)		精製	灰白色	良	ロクロ整形 付け高台	胎土は埴かけ

C-42号住居跡 (第53~55図、PL 7・96)

位置 Ce-31、Cf-31 形状 隅丸方形 規模 長辺5.00m、短辺4.97m、壁高0.40m

重複 本址を切る遺構はなかった。

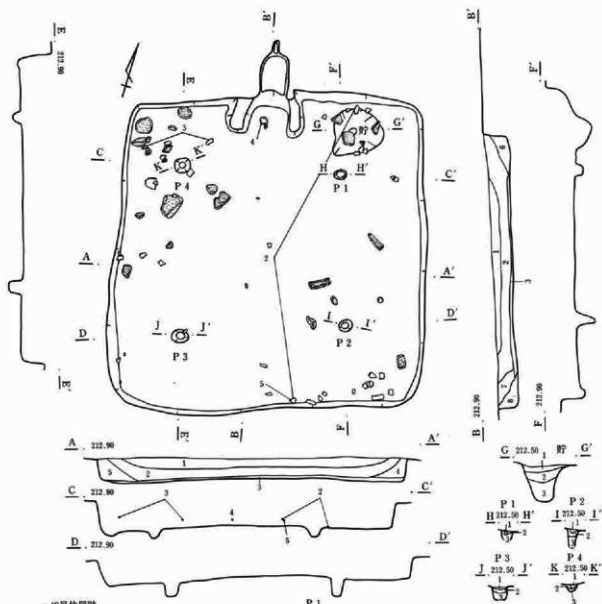
埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 かなりの凹凸があり、部分的に軟質などがある。

貯蔵穴 北東隅に検出された。やや歪む円形を呈し、深さは約60cmである。覆土上部に礫を混入。下層はかなり粘性のある土で埋まる。

柱穴 ほぼ対角線上に4本検出された。いずれもかなり小さく、それぞれの径は20~25cmで深さは15~30cmである。

竈 袖は馬蹄形に住居内に張り出し、煙道部は約20cmの段差を持って壁外におよそ70cm延びている。竈の前



・42号住居跡

- 1 暗褐色土 微小礫混み、白色、黄色粒多く含む。
  - 2 暗褐色土 礫はほとんど含まず、黄色粒多く含む。
  - 3 暗褐色土 締り、粘性あり。礫を含まず、黄色粒を少し含む。地山土含み、黄色がかる。
  - 4 暗褐色土 締りあり。粘性わずかり。黄色粒、地山土をかなり多く含む、黄色がかる。
  - 5 暗褐色土 締り良く、粘性わずかり。白色粒、黄色粒、地山土を多く含む、全体に黄色がかる。
  - 6 暗褐色土 締りあり。やや軟質、炭化物、粘土ブロック、白色、黄色粒を多く含む。
  - 7 暗褐色土 軟質で灰色粒、黄色粒、地山土多含む。
  - 8 暗褐色土 締りあり。粘性あり。黄色粒、ラミナ質地山土ブロックを少し含む。覆乱か？
- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 良く締り、硬質。白色粒かなり多く含む。
  - 2 暗褐色土 良く締り、粘性ややあり。白色粒多く含む。地山土を薄いブロック状に含む。
  - 3 暗褐色土 大粒の白色粒、地山土を全体に含む。

P 1

- 1 暗褐色土 良く締り、白色粒、地山土含む。
- 2 褐色土 良く締り、粘性なし。白色粒を上面に含み、小礫を全体に多く含む。
- 3 褐色土 白色粒少し含み、地山土を主体とする。

P 2

- 1 暗褐色土 良く締り、粘性あり。白色粒多く含む。
- 2 暗褐色土 良く締り、粘性あり。白色粒を含む。
- 3 暗褐色土 締り良く、白色粒わずかに含む。

P 3

- 1 褐色土 地山土を全体に含む。白色粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 締りあり。粘性強い。地山土多く含む。
- 3 暗褐色土 締りあり。粘性やや強し地山土少し含む。

P 4

- 1 褐色土 締り良く、粘性なし。地山土をかなり多く含む。白色粒を少し含む。
- 2 褐色土 締り良く、粘性あり地山土多く含む。
- 3 褐色土 締りあり。粘性強く地山土主体とする。

0 2m

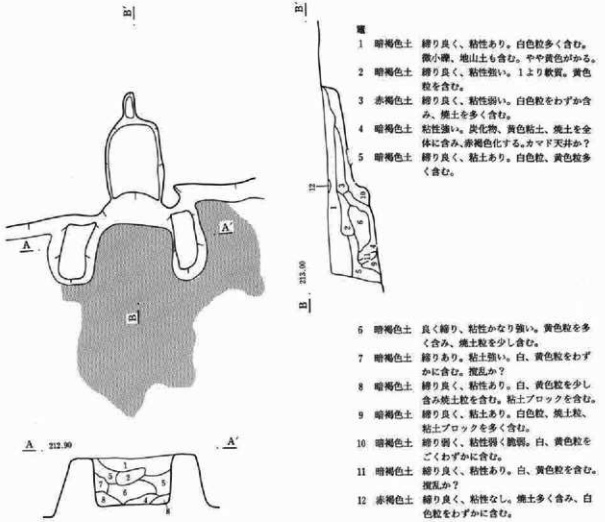
第53図 C-42号住居跡



面に大きく焼土の広がり認められた。また掘り方の調査を行った時点で、竈火床面に縦並びに2カ所の小ピットが検出されたが、竈支脚の抜き取り痕と考えられる。

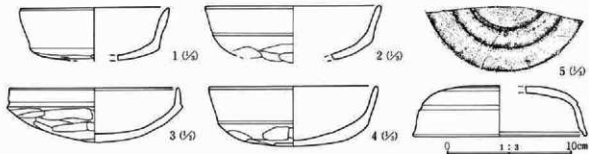
**出土遺物** 比較的少ない。口縁部を欠いた土師器環が竈然焼部より出土した他、土師器環、および須恵器の蓋が住居内に散在した状態で出土している。

**調査所見** 壁、竈を含め遺存状態は良好である。時期は古墳時代後期と思われる。



第54図 C-42号住居跡・竈

0 1m



第55図 C-42号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

C-42号住居跡遺物観察表

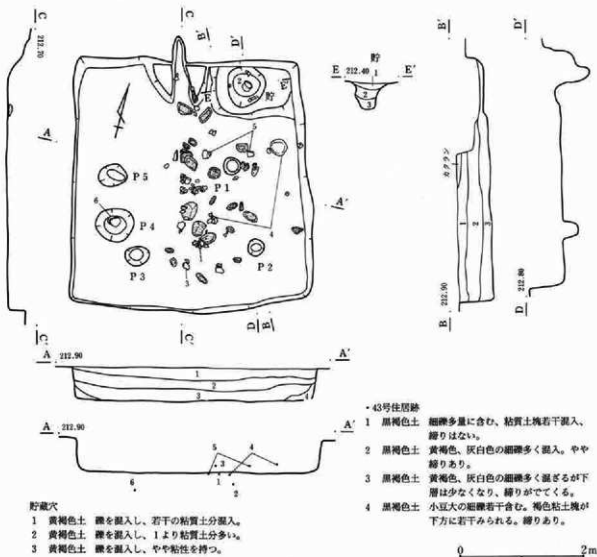
番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	覆土	(12.0)	砂粒含む	明褐色	良	外 口縁部横線で 体部瓦割り 内 口縁部横線で 体部横で	
2	土師器 坏	+2	14.0 (4.7)	砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部瓦割り 内 口縁部横線で 体部横で	
3	土師器 坏	+12	13.5 4.3	微砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部瓦割り 内 口縁部横線で 体部横で	
4	土師器 坏	竈内	13.6 4.8	砂粒含む	橙褐色	普通	外 口縁部横線で 体部瓦割り 内 口縁部横線で 体部横で	
5	須恵器 蓋	+10	14.0 4.0	砂粒含む	灰色	良	口縁部横線で、外面天井部回転痕有り	

C-43号住居跡 (第56~58図、PL 8・96)

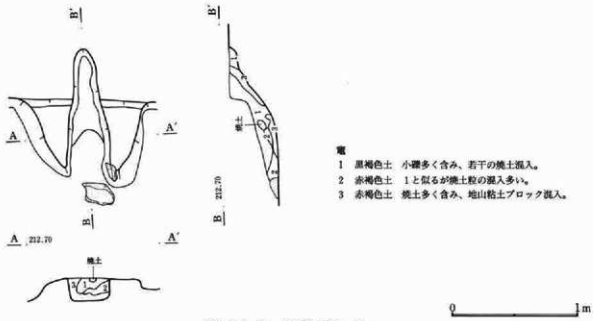
位置 Cb・Cc-35・36 形状 隅丸方形 規模 長辺3.95m、短辺3.71m、壁高0.53m

重複 西側部分にC-26号住居跡(古墳時代)が重複する。

埋没土 小粒含む砂礫土。



第56図 C-43号住居跡



- 竈
- 1 黒褐色土 小礫多く含み、若干の焼土混入。
  - 2 赤褐色土 1と似るが焼土粒の混入多い。
  - 3 赤褐色土 焼土多く含み、地山粘土ブロック混入。

第57図 C-43号住居跡・竈

**床面** 小礫を多く含むやや黒味の強い黒褐色土で貼られる。多少の凹凸は見られるもののほぼ平坦である。

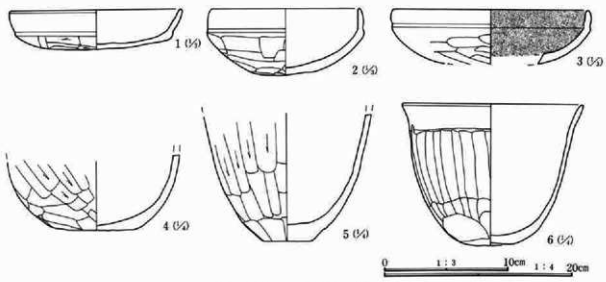
**貯蔵穴** 北東隅の一段高くなった場所に掘り込まれている。中より土師器甕が出土している。

**柱穴** 4本を検出しているが、位置が不規則である。

**竈** 袖部分はかなり崩れており、天井に覆されていたと思われる板状の砂岩が、落ちた状態で検出されている。煙道は壁外にV字状に掘り出されている。

**出土遺物** 貯蔵穴より土師器環、P4内よりほぼ完形の土師器甕が出土した他、中央部分で礫に混じり土器片が出土している。

**調査所見** 西側でほぼ同時期の住居と重複しているが、新旧関係ははっきりしない。時期は後期と思われる。



第58図 C-43号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

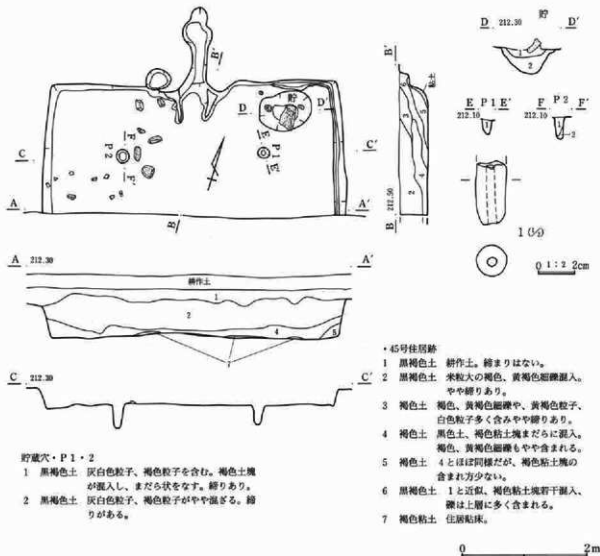
C-43号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器 杯	床面	13.7 3.1	微砂粒含む	茶褐色	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部裏削り 体部撫で
2	土器 貯蔵穴 杯	貯蔵穴	11.9 5.2	微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部裏削り 体部撫で
3	土器 器 杯	+9	15.4	微砂粒含む	灰黒色	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部裏削り 体部撫で
4	土器 器 壺	+13	6.8	砂粒含む	橙黄褐色	良	外 胴部裏削り 内 胴部撫で	胴下半部のみ
5	土器 器 壺	床面	5.4	砂粒含む	暗褐色	良	外 胴部裏削り 内 胴部撫で	
6	土器 器 壺	床面	19.0 14.2	微砂粒含む	橙黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部裏削り 胴部撫で

C-45号住居跡 (第59・60図, PL 8・96)

位置 Bs-35・36 形状 隅丸方形か 規模 長辺4.86m、短辺(2.10)m、壁高0.45m

重複 調査区の南端に検出された、北側約半分のみのものである。



第59図 C-45号住居跡・出土遺物

**埋没土** 砂礫を含む粘質黒褐色土。茶褐色粘土がブロック状に混入する。全体に良く締まる。

**床面** 粘質で少量の礫を混入する暗茶褐色土。ほぼ平坦で、かなり踏み締められていた。東側壁下に幅の狭い周溝が見られる。

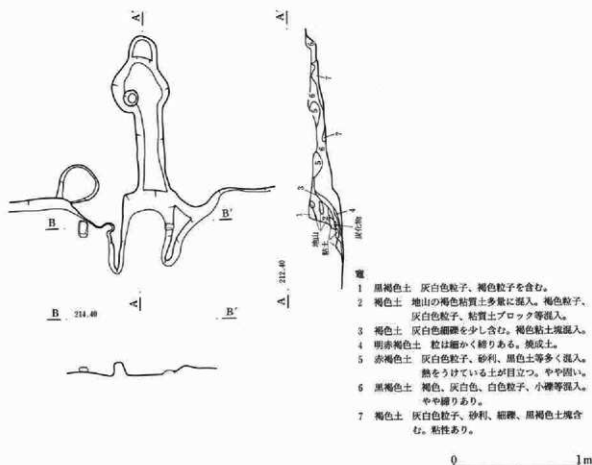
**貯蔵穴** 北東隅に検出した。やや長円形で深さは35cmである。上層に礫が出土している。

**柱穴** 北側の2本を検出した。径はやや小さく20cm、深さは約30cmでほぼ垂直に掘り込まれていた。

**竈** 北壁中央に作られている。袖部分は小礫を含む粘土で作られているが、かなり崩れた状態である。煙道は燃焼部より一段高くなって、壁外へ長さ1.2m程伸びている。燃焼部、煙道部ともかなり焼土が認められた。

**出土遺物** 小破片がわずかに見られたのみで、図示し得るものはなかった。

**調査所見** 調査できたのは全体の北側半分程である。南側半分は道路部分にあるため、国道工事により、すでに破壊されてしまっているものと思われる。時期を確定するような遺物は見られなかったが、わずかな破片、住居形態などから古墳時代後期と考えられる。



第60図 C-45号住居跡・竈

C-45号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土 罎	覆土	長さ(3.3)cm 径1.7cm 重さ8.9g 孔径0.5cm	茶褐色を呈す	一端部を欠く			

C-48号住居跡 (第61~64図、PL 8・9・96・97)

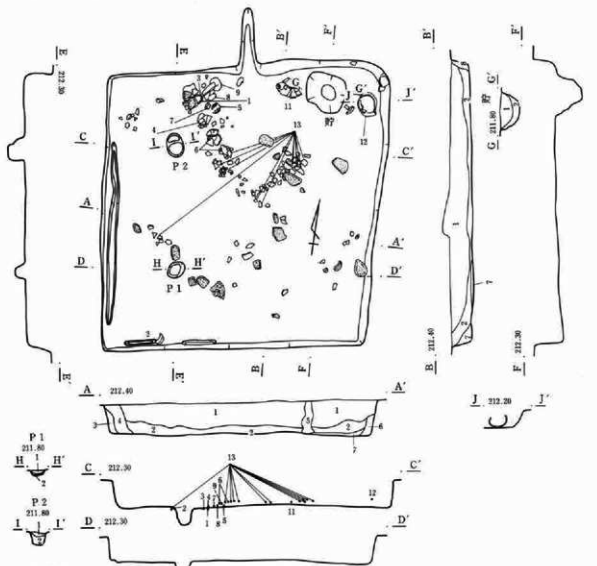
位置 Ca・Cb-30・31 形状 隅丸方形 規模 長辺4.58m、4.41m、0.57m

重複 北西隅のごく一部をC-41号住居跡(平安時代)に切られる。

埋没土 小礫含む砂礫土を主体とするが、粘質土を含む。

床面 やや凹凸をもち、地山の粘性土が部分的に盛り上がる。

貯蔵穴 北東隅に検出された。平面形状はやや隅丸方形で、深さ約40cmである。



・48号住居跡

- 1 暗褐色土 白色、黄色粒、地山土多含む。土器片、炭化物若干含む。
- 2 暗褐色土 粘性強く白色、黄色、粘土ブロック含む。
- 3 褐色土 締り、粘性強い。黄白色粒、粘土多く含む。
- 4 褐色土 良く締り、粘性あり。硬質で黄色がかる。白色粒、黄色粒、粘土を多く含む。
- 5 暗褐色土 粘性なく、白、黄色粒多く含む。
- 6 暗褐色土 粘性やや強く硬質。白、黄色粒含む。
- 7 暗褐色土 良く締り、白黄色粒、粘土ブロック、炭化物僅かに含む。

- 8 暗褐色土 締り良く、粘性強い。白、黄色粒含む。
- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土 締り良く、粘性強い。白色粒、粘土ブロック少し含む。
  - 2 暗褐色土 締りあり。粘性強い。粘土ブロック混入。P1・2
  - 1 暗褐色土 締り良く、灰色粒、粘土含む。
  - 2 暗褐色土 締り良く粘性強い。白色粘土粒少し含む。

0 2m

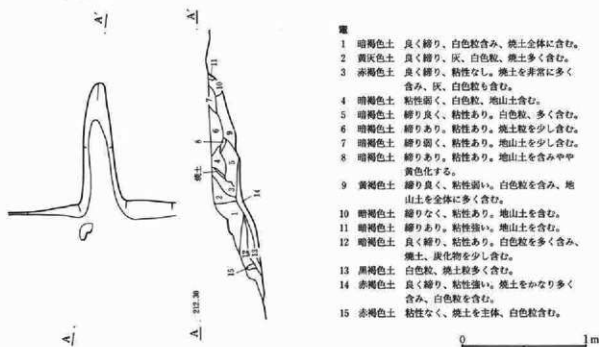
第61図 C-48号住居跡

柱穴 西側に2本を検出したが、東側については検出できなかった。

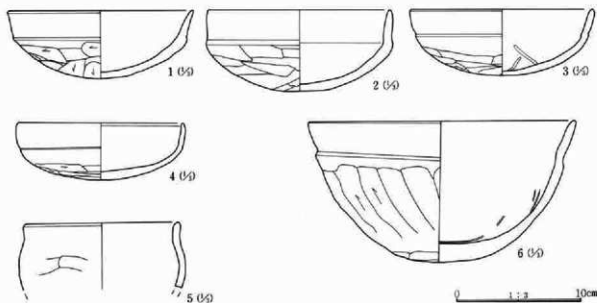
竈 北壁中央に作られている。袖部分はかなり崩れており、袖部は明確には検出し得なかった。煙道は外に向かって緩やかに立ち上がる。

出土遺物 竈前面を中心に土師器環、甕、甔などが比較的まとまって出土している。またこれら土器類に混じり、やや大型の礎が出土している。

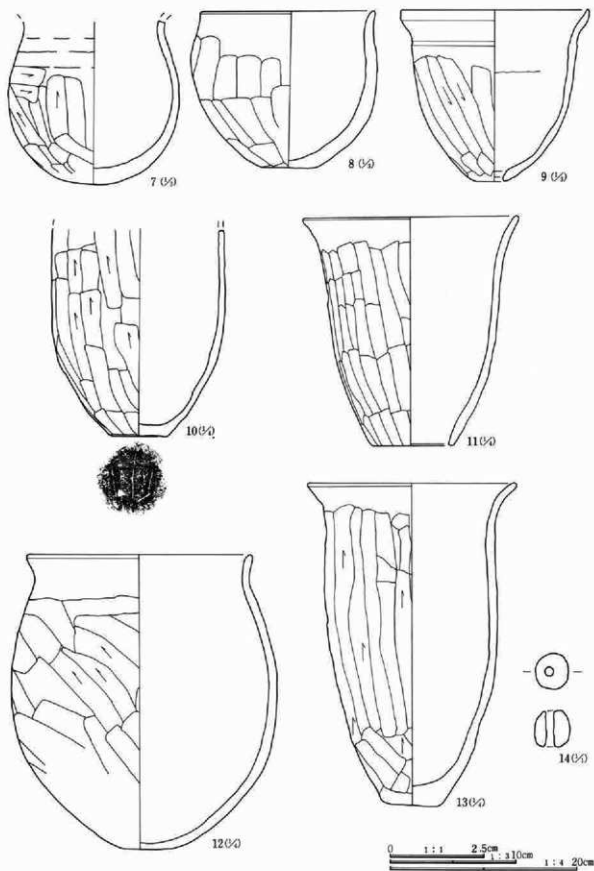
調査所見 全体的に遺存状態は良い。遺物も床面上で出土しているものが多く見られる。また竈の袖部分については、意識的に取り除いたような状況が窺える。時期は古墳時代である。



第62図 C-48号住居跡・竈



第63図 C-48号住居跡出土遺物(1)



第64図 C-48号住居跡出土遺物(2)



C-48号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考	
1	土師器 環	床面	14.8	5.3	砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部削で	完形 器面厚紙	
2	土師器 環	床面	(14.7)	6.4	砂粒僅かに 含む	橙黄色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部削で	器面風化	
3	土師器 環	床面	(14.5)	5.2	微砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部削で	内面に黄書き沈線	
4	土師器 環	+2	13.3	4.5	微砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部削で	ほぼ完形	
5	土師器 壺	+2	(12.2)		砂粒含む	橙褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	器面風化	
6	土師器 大口壺	+7	21.4	11.3	微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	ほぼ完形	
7	土師器 壺	+2			砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	輪轍み現られる	
8	土師器 小型壺	+2	13.9 4.3	12.4	砂粒含む	黄褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	外面荒れている	
9	土師器 小型壺	+4	(15.0)	13.6	砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	孔径2.3cm	
10	土師器 壺	覆土			砂粒含む	茶褐色	良	外 胴部寛削り 内 胴部削で	胴下半部のみ 底部 木炭痕	
11	土師器 壺	+2	22.9 8.5	24.5	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	ほぼ完形	
12	土師器 壺	+11	23.8 5.3	31.2	小砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	底部小さく、かなり 摩滅している	
13	土師器 壺	+3	22.2 6.0	34.5	砂粒(実岩) 含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で		
14	土 玉	覆土	径1.0cm 高さ1.0cm 孔径0.2cm 重さ1.0g 表面やや荒れている							

## C-49号住居跡 (第65~67図、PL 9・97・98)

位置 Ca・Cb-34・35 形状 隅丸方形 規模 長辺4.54m、4.10m、0.57m

重複 ほとんどC-50号住居跡(弥生時代)と重なる。

埋没土 砂礫を多く含み、地山の茶褐色粘土ブロックを混入。

床面 中央部は比較的締まりがあり平坦であるが、周辺部分は凹凸が目立つ。

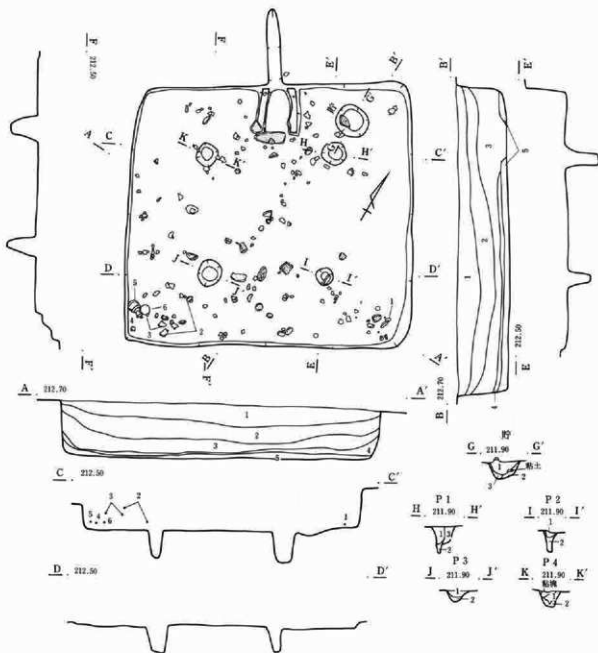
貯蔵穴 北東隅に検出された。円形で径50cm、深さ約25cmである。

柱穴 対角線上に4本検出された。いずれもほぼ円形で深さは30~50cmである。掘り方にはかなりのばらつきが認められる。

竈 北壁ほぼ中央に作られている。本体部分は崩落しており、両袖下部が残る。袖部分は礫を含む粘性土で作られており、かなり締まっている。板状の砂岩が焚口部両側に据えられている。また天井部分に覆されていたと思われる砂岩が手前に落ちた状態で検出されている。いずれの石もかなり熱を受けた状況が認められたものの、内部における焼土層はほとんど見られなかった。また煙道の一部がトンネル状に遺存した状態で確認されている。

出土遺物 あまり多くはなかった。土師器壺、環、高坏類、および須恵器の蓋が住居の南西隅でややまとまった状態で出土している。

調査所見 北壁部分を除いてほぼ弥生時代の住居の中に入ってしまう、床面については確認できたものの、明確な壁の立ち上がりについては確認できなかった部分もある。時期は出土遺物から古墳時代後期である。



・49号住居跡

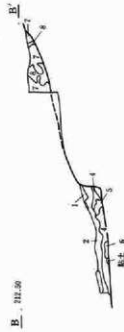
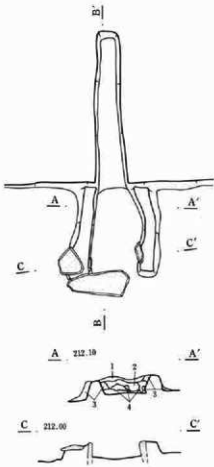
- 1 黒褐色土 砂礫を多量に混入する。
- 2 黒褐色土 砂礫を多量に混入する。地山の黄褐色ロームブロックの混入が目立つ。
- 3 黒褐色土 砂礫を多量に混入する。2と同様であるが、フミナ状を呈す。
- 4 暗褐色土 炭化物を層状に混入。やや粘性を持つ。
- 5 淡褐色土 粘床面下で地山黄褐色粘質土ブロック主体とする。若干の壤土の混入認められる。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 米粒大の褐色細礫、灰白色粒子、褐色土塊、褐色粘性土がまだらをなす。
  - 2 褐色土 褐色土塊、粘土塊、砂利等、細礫等混入。
  - 3 暗褐色土 褐色土が若干混入。礫等の混入はない。やや締りあり。
- P1~4
- 1 黒褐色土 砂利、褐色粒子、灰白色粒子、褐色土粒、褐色粘性土塊が混ざる。締りあり。
  - 2 黒褐色土 砂礫等の混入物は少ない。粒は細かく締りがある。褐色粘性土塊が若干混入。
  - 3 暗褐色粘性土 地山

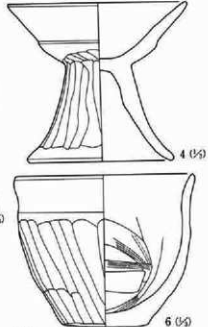
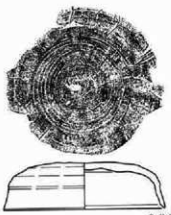
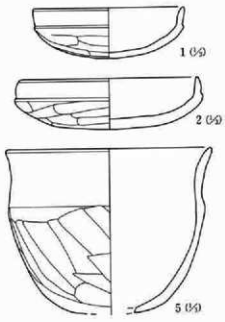
0 2m

第65図 C-49号住居跡



- 電
- 1 黒褐色土 米粒大細礫若干含む。やや締りあり。
  - 2 褐色土 黒褐色土、黄褐色、粘土塊混入し、まだらをなす。やや粘性あり。
  - 3 黒褐色土 炭化物混入。全体に締る。
  - 4 黒褐色土 粘土塊、黄褐色、赤褐色粘土塊若干混入。かなり締りあり。
  - 5 褐色土 粘性あり。明褐色、赤褐色を呈す部分あり。
  - 6 淡褐色土 4に比べて粒子は粗い。あまり締りなく、赤褐色土、褐色粒子等含まれる。
  - 7 褐色土 灰白色、白色、褐色粒子、米粒大細礫を含む固い。
  - 8 黒褐色土 褐色粒子、褐色土塊を若干含む。やや締りあり。

第66図 C-49号住居跡・竈

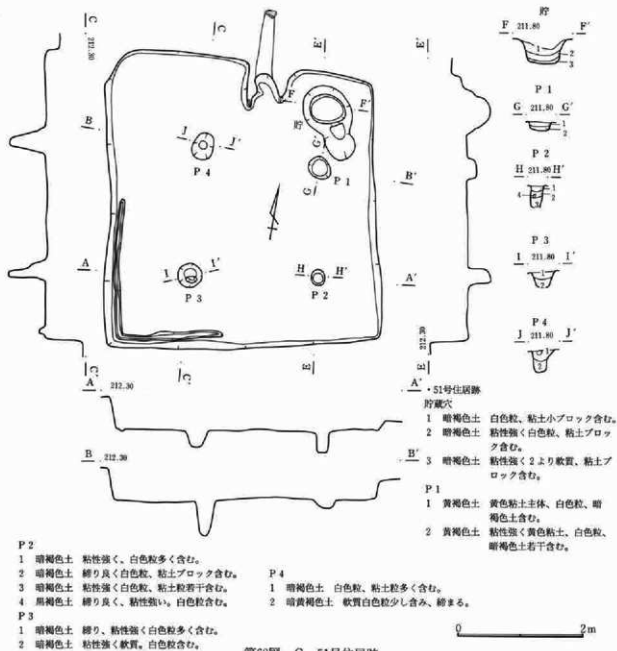


第67図 C-49号住居跡出土遺物

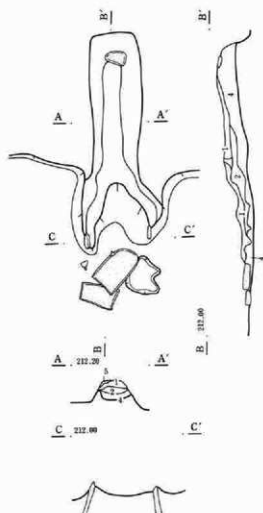
第3章 検出された遺構と遺物

C-49号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土部 甕 環	+6	(12.0)	4.0	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で	
2	土部 甕 環	+11	14.4	4.0	微砂粒含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で	
3	須恵 甕 蓋	+23	(13.0)	3.7	砂粒含む	灰色	良	外 口縁部横線で 天井部回転削り 内 口縁部横線で 体部横で	
4	土部 甕 高 環	+11	14.3 11.6	12.7	砂粒含む	淡黄褐色	普通	外 口縁部横線で 環部寛削り、脚部 寛削り 内 環部寛削り、脚部横で	
5	土部 甕 小型 壺	+11	16.4	13.0	砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	完形 底部焼成後穿 孔(陥)に転用か
6	土部 甕 小型 壺	+11	14.4	12.0 6.6	小砂粒含む	赤褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	完形 二次火熱受け る



第68図 C-51号住居跡



## 電

- 1 暗褐色土 白色粒若干、焼土を多く含む赤味あり。
- 2 赤褐色土 良く締り、粘性弱い。焼土を主体とし、白色粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 良く締り、粘性強い。白色粒をかなり多く含む、焼土も含む。
- 4 暗褐色土 締り良く粘性強い。白色粒、焼土若干含む。

0 1 m

第69図 C-51号住居跡・竈

C-51号住居跡 (第68~70図、PL 9・98)

位置 Cb・Cc-28・29 形状 隅丸方形 規模 長辺4.69m、短辺4.21m、壁高0.50m

重複 北側でC-46号住居跡(弥生時代)、C-80号住居跡(弥生時代)を切り、南でC-75号住居跡(弥生時代)、87号住居跡(弥生時代)の一部を切る。

埋没土 本址の大部分が弥生時代の住居に掛かっていたために、床面近くまで掘り下げた時点で、確認することが出来た住居である。かなり粘質の茶褐色土で少量の礫を含む。全体に締まりがある。

床面 小礫含む粘質土で形成されていた。良く締まり状態ではほぼ平坦である。南西隅部分に幅約15cmの壁間溝がL字形に検出されている。

貯蔵穴 北東隅に検出された、平面形はひょうたん形で手前部分が浅く、中段を持つ。深さは40cm程で、底は平坦である。

柱穴 4本検出したが、全体に東に寄っている。北東部に掘り込まれたものは貯蔵穴に影響されたものか、やや南に位置している。

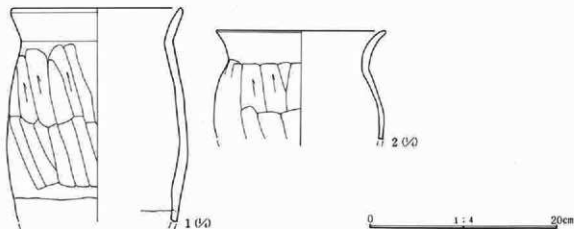
### 第3章 検出された遺構と遺物

**竈** 北壁ほぼ中央に作られている。主体部分はかなり崩れており、両袖の下半分が残る。また板状の袖石の下部がわずかに残る。さらに天井部に渡されていたと思われる板状の砂岩が、燃焼部前面において、人為的に割られた状態で検出されている。竈の下面は、火床面から煙道部分にかけて緩やかに立ち上がる。また煙道部分は焼土化した壁がトンネル状に残っていた。燃焼部、煙道部ともに最下面はかなり焼けた状況が観察されている。

**出土遺物** きわめて少ない。土師器甕が貯蔵穴より検出されている。

**調査所見** 東西に2本の耕作溝が並行して走るが、いずれも床面までは至っていなかった。平面プラン確認時に明確にはできなかったが、床面を露出させた状態においてはほぼ垂直な壁の立ち上がりを確認できた。

4面とも遺存状況は比較的良好である。本址の時期は出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第70図 C-51号住居跡出土遺物

C-51号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	+28	18.0		砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部磨り 胴部撫で 器面荒れている
2	土師器 甕	床面	(18.0)		砂粒含む	淡黄褐色	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部磨り 胴部撫で 器面荒れている

#### C-55号住居跡 (第71~74図、PL10・98・99)

**位置** Cb・Cc-34・35 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺4.41m、短辺3.07m、壁高0.55m

**重複** 西端がC-88号住居跡(縄文時代)を切る。また西壁部分については、ラインが不明瞭であったことや、後出の土器が見られたことから、後世の遺構(2号配石と類似)が存在していたものと考えられる。

**埋没土** 砂礫含む粘質土でやや黒味を呈す、下層に褐色粘土ブロックの混入が目立つ。全体に良く締まり、下層に行くほど顕著である。

**床面** 灰褐色粘土を部分的に含む粘性土で固められている。部分的な凹凸が見られるものの、比較的平坦である。中央から竈前面にかけて黄白色粘土多く見られより固く締まる。

**貯蔵穴** 南東隅に検出された。ほぼ円形を呈し、径60cm程で、深さ25cmである。底面はわずかに丸味を帯びる。底面より土師器の甕が横倒しに、潰れた状態で出土している。埋土は小礫を含む砂土で、比較的粘性があり若干のロームブロックを含む。

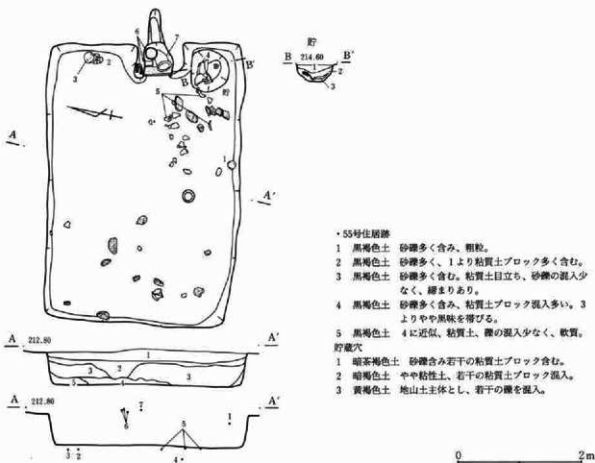
柱穴 明確なものは検出されなかったが、中央やや南寄りに径20cmの小ピットが見られたが、柱穴かどうかは確定できない。

竈 東壁中央に作られている。竈燃焼部より、完形の土師器甕が2個体、横に並んで立位状態で出土している。手前には焚口部の上に渡されていたと思われる砂岩が、下に落ちた状態で検出されている。

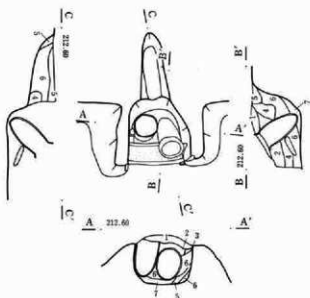
袖部分は砂礫、黄白色粘土の混土で作られている。煙道は壁外に延びるが、約60cmと比較的短く、幅も狭くなっている。燃焼部内面はかなり焼けており、埋土中にも焼土の混入が顕著であった。本竈は検出された状況から、使用状態のまま放棄されたものと考えられる。

出土遺物 竈内より土師器の甕2点の外、竈左脇、壁際よりやや小振りの土師器甕の完形品、土師器環などが床面上より検出されている。

調査所見 東壁に竈を持つ東西に長い長方形の住居である。他の遺構に切られた部分もほとんどなく、かなり遺存状態は良い。出土遺物は竈内と周辺部、および貯蔵穴に集中しており、完形品が目立つ。出土遺物から時期は奈良時代と思われる。



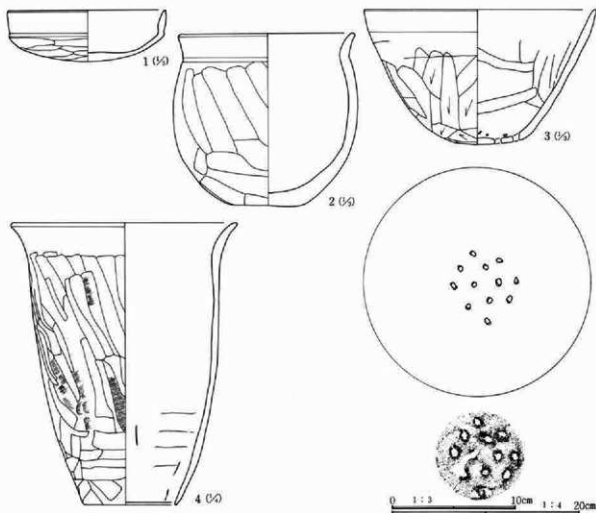
第71図 C—55号住居跡



- 窠
- 1 黒褐色土 砂粒多く含む粗粒土。
  - 2 黒褐色土 砂礫多く含む粗粒土。若干の粘質土混入。やや締る。
  - 3 黄褐色土 粘質土主体とした土。良く締る。
  - 4 赤褐色土 粘質土。焼土の混入良く締り、礫の混入ほとんどない。
  - 5 赤褐色土 焼土塊固く締る。
  - 6 赤褐色土 焼土主体とし、やや軟質で砂礫の混入少ない。
  - 7 赤褐色土 焼土ブロック混入する細粒土。やや締る。

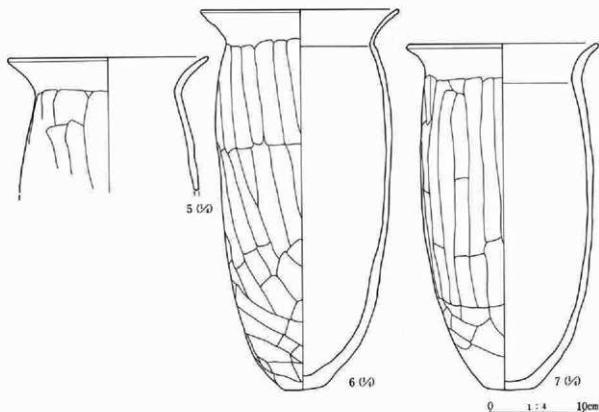
0 1m

第72図 C-55号住居跡・窠



第73図 C-55号住居跡出土遺物(1)





第74図 C-55号住居跡出土遺物(2)

C-55号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器 罎	+38	12.7	4.0	精製	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部磨削り 体部無で
2	土器 小壺 甕	床面	14.1 6.6	13.7 6.6	砂粒僅かに 含む	灰褐色	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部磨削り 胴部無で
3	土器 甕	床面	18.5 6.0	10.7 6.0	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部磨削り 胴部無で
4	土器 甕	貯蔵穴内	24.2 9.8	29.9 9.8	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部磨削り 胴部無で
5	土器 甕	床面	21.4		砂粒含む	黄褐色	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部磨削り 胴部無で
6	土器 甕	甕			砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部磨削り 胴部無で
7	土器 甕	甕			砂粒含む	赤茶褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部磨削り 胴部無で

C-58号住居跡 (第75・76図、PL10・99)

位置 Ca・Cb-32 形状 隅丸方形 規模 長辺3.26m、短辺2.75m、壁高0.23m

重複 南側でC-65号住居跡(弥生時代)を、北西隅がC-86号住居跡(弥生時代)を、北東部分は30号住居跡(縄文時代)を切る。また北西隅にC-4号土坑が重複する。

埋没土 小礫含む砂礫土。粘性土が多く含まれかなり締まりが良い。

床面 弥生時代の住居の上に作られていたこともあり、はっきりとした面としては確認できなかったものの、部分的に粘性のある茶褐色土で貼られた部分を確認した。

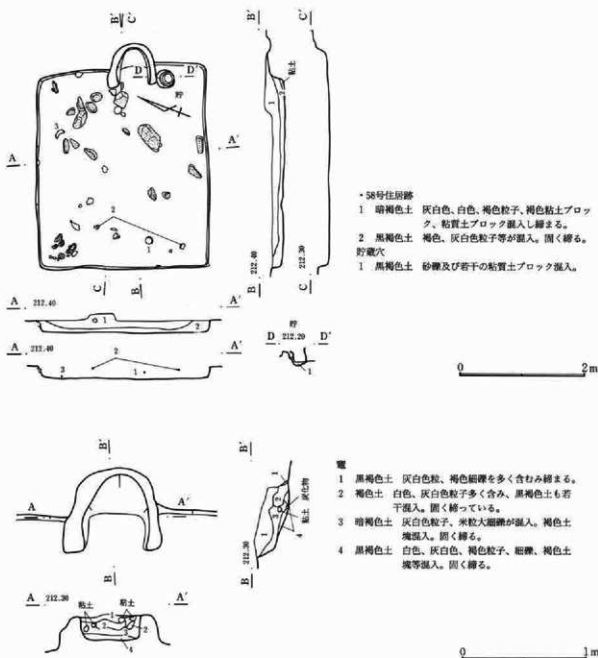
貯蔵穴 明確なものは検出できなかったが、甕右脇に甕の完形品が置かれた落ち込みが確認されている。

柱穴 確認されなかった。

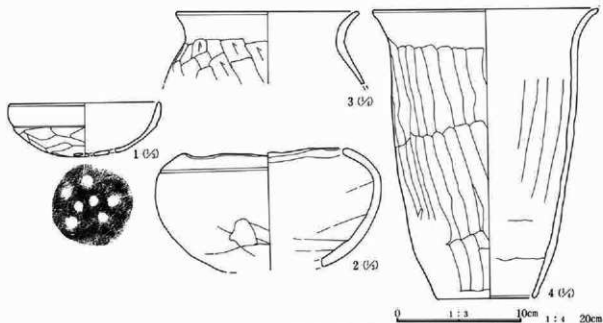
竈 東壁中央やや南に作られている。砂礫を含む粘質土で作られ、袖部分は馬蹄形に残る。天井石が焚口からやや離れて床面に置かれた状態で出土している。

出土遺物 量は少なかった。竈右脇に完形の甌が立て掛けられた状態で出土している。また住居西側では底部に複数の穴が穿けられ、甌に転用されたと思われる土師器の坏が出土している。土器類の外に礫の出土が目立つ。

調査所見 他の住居と重複しているために、各壁についてはやや不明瞭な部分も見られた。ことに東部分は壁、床面ともに明確にはつかめなかった。時期は奈良時代と思われる。



第75図 C—58号住居跡・竈



第76図 C—58号住居跡出土遺物

## C—58号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器 器 坏	+11	12.0 4.3 5.0	砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横溝で 体部寛削り 内 口縁部横溝で 体部狭で	底部に焼成後穿孔7 穴 飯として転用
2	須恵器 無面 甕	+13	(13.5)	精製	灰色	良	ロクロ整形 外 胴下部横溝、拍頭 痕あり 口唇部寛削り 内 面無で	やや歪みあり
3	土器 器 甕	+3	(19.6)	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部狭で	
4	土器 器 甕			砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部狭で	外周やや風化

## C—61号住居跡 (第77・78図、PL11・99)

位置 Cg・Ch—31・32 形状 隅丸方形 規模 長辺4.64m、短辺4.62m、壁高不明

重複 C—99号住居跡(古墳時代)を切り、南西隅をC—69号住居跡(平安時代)に切られる。

埋没土 小粒含む砂礫土。比較的細粒であり締まりはない。

床面 住居南側は床面部分も削られており、踏み締められた面としては確認できず、僅かに竈前面において若干の硬化面が検出されたにすぎない。

貯蔵穴 検出されなかった。

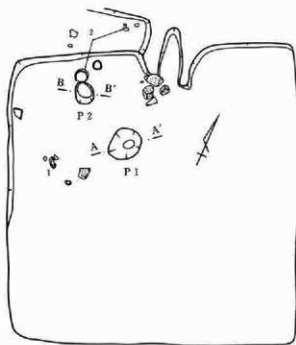
柱穴 竈の左側および手前にそれぞれ径30cm、50cm程の掘り込みが検出されたものの、他には検出されなかった。

竈 北壁中央に作られている。両袖が住居内に延び、煙道が壁外に僅かに掘り出されている。煙道部分は良く焼けており、やや軟質の焼土が見られた。

出土遺物 土器器坏および甕の破片が見られたのみで極めて少ない。

調査所見 住居の上面は著しく削られており、北壁については立ち上がりを確認したが、他の部分についてはほとんど確定できなかった。また東側の弥生住居との重複部分については、壁面、床面ともに検出できなかった。時期は奈良時代か。

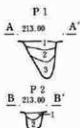
第3章 検出された遺構と遺物



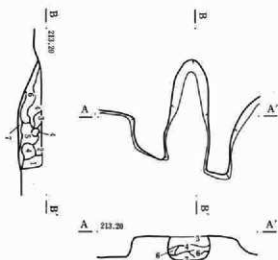
・61号住居跡

P1・2

- 1 黒色土 小礫及び粘土粒少量含む。
- 2 黒褐色土 小礫わずかに含む。暗黄褐色の砂質土、粘質土ブロック少量混入。
- 3 黒褐色土 2に似るが砂質土ブロック多く、全体に砂質。



0 2m

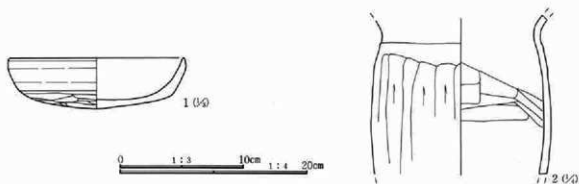


■

- 1 黒色土 砂礫土、少量の粘質土混入。
- 2 黄褐色土 粘質土混入し、やや締る。
- 3 赤褐色土 粘質土、焼土混入し、締っている。
- 4 黄褐色土 褐色粘土、若干の粘土ブロック含む。
- 5 黒褐色土 粘質土少量、焼土粒子混入する。砂礫混入土。
- 6 赤褐色土 3に似るが、焼土ブロック混入。
- 7 赤褐色土 焼土、及び黒褐色土の砂礫土含む。

0 1m

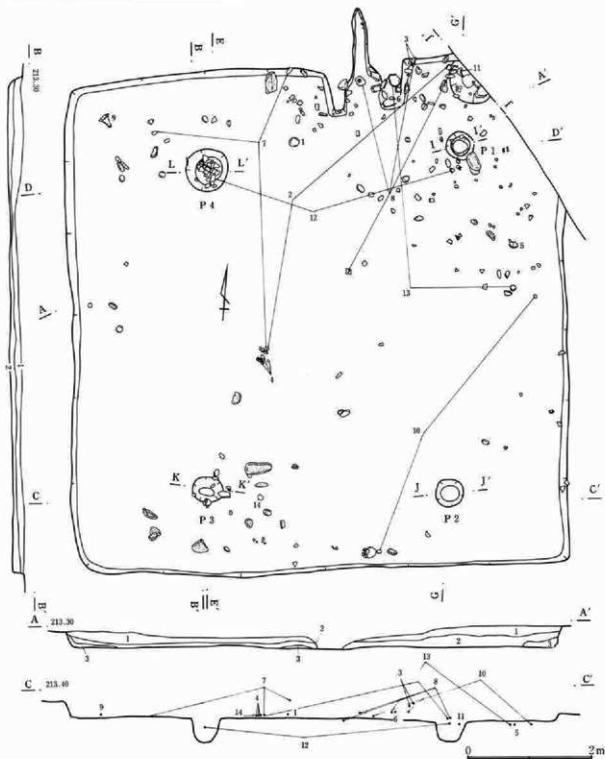
第77図 C-61号住居跡・■



第78図 C-61号住居跡出土遺物

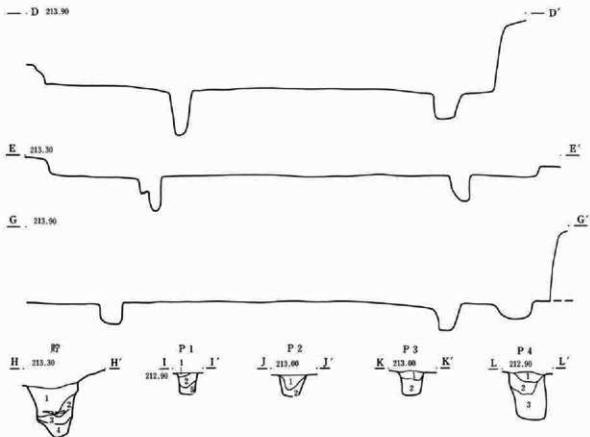
C-61号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	出土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坪	+4	14.0	4.0	微砂粒僅か に含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	比較的厚手
2	土師器 壺	床面			微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部裏削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	口唇部、胴下半部を 欠く



第79図 C-62号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



・62号住居跡

- 1 黒褐色土 砂礫含み少量の粘質土ブロック混入。
- 2 黒褐色土 砂礫含み少量の粘質土ブロック混入。  
粘質土の混入多く、やや締る。
- 3 黄褐色土 地山の砂礫土。黄色味強く粗粒。

貯蔵穴・P 1

- 1 黒色土 小礫少量含む。炭化物及び、粘質土若干混入、不均質でやや締り悪い。
- 2 黒褐色土 粘質土ブロック、小礫及び炭化物若干含む。一部砂質土をブロック状に含む。
- 3 灰黄褐色土 砂質で緻く、炭化物、粘質土若干混入。
- 4 灰黄褐色土 3に比べ黒味強い。弱い粘性あり。
- 5 暗褐色土 粘土塊若干混入。砂質土含み締り悪い。

P 2・3

- 1 黒褐色土 砂礫多く含む、やや粗粒。
- 2 黄黒褐色土 砂礫土であるが、粘土粒子若干混入。  
黄色味を帯びる。
- 3 黄黒褐色土 砂礫を若干混入する。黄灰白色粘性土。

P 4

- 1 黒褐色土 砂礫少量含む締り悪い。炭化物若干混入。
- 2 暗褐色土 粘質土少量及び、わずかに炭化物含む。  
一部砂質土のブロックを混入。
- 3 暗褐色土 2に比べ、粘質土及び砂質土の混入多し。  
不均質で強い。

第80図 C-62号住居跡(2)

C-62号住居跡 (第79~82図、PL11・99・100)

位置 Ch・Ci・Cj-31・32 形状 隅丸方形 規模 長辺8.0m、短辺7.78m、壁高0.26m

重複 C-197号住居跡(弥生時代)、C-204号住居跡(弥生時代)、C-205号住居跡(弥生時代)を切る。

埋没土 小砂礫を多く含む、砂利質の土である。

床面 特に堅く締まった部分はないが、ほぼ平坦である。

貯蔵穴 住居北東部分に検出されているが約半分は調査区外となる。径約90cm、深さ80cmである。断面漏斗状を呈し、上層より礫が出土している。

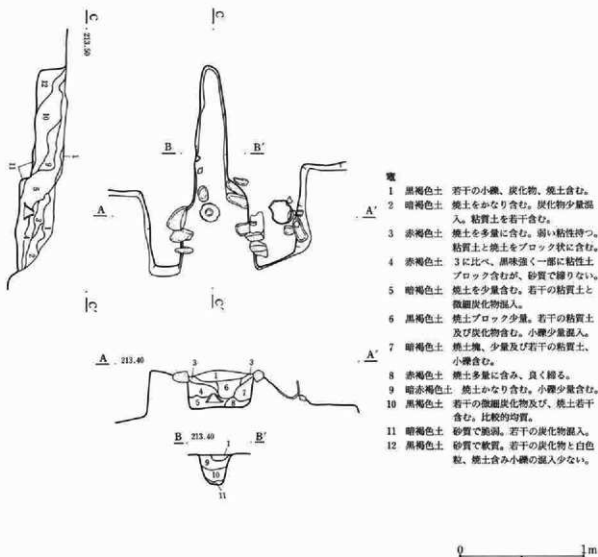
柱穴 対角線上に4本を検出した。住居規模に比して径も小さく、深さも浅い。北西の柱穴上層からは甕が潰れた状態で出土している。

竈 北壁ほぼ中央に作られている。両袖の内側には礫が嵌め込まれていた。煙道は火床面から一段高くなって外へ延びる。右側袖に竈の下半部分が埋まった状態で検出された。また火床面中央には高坏の脚を転用した支脚が据えられていた。

出土遺物 あまり多くはない。竈周辺に集中して見られ、土師器の坏、甕、高坏の脚などの他、鎌と思われる鉄製品が見られた。

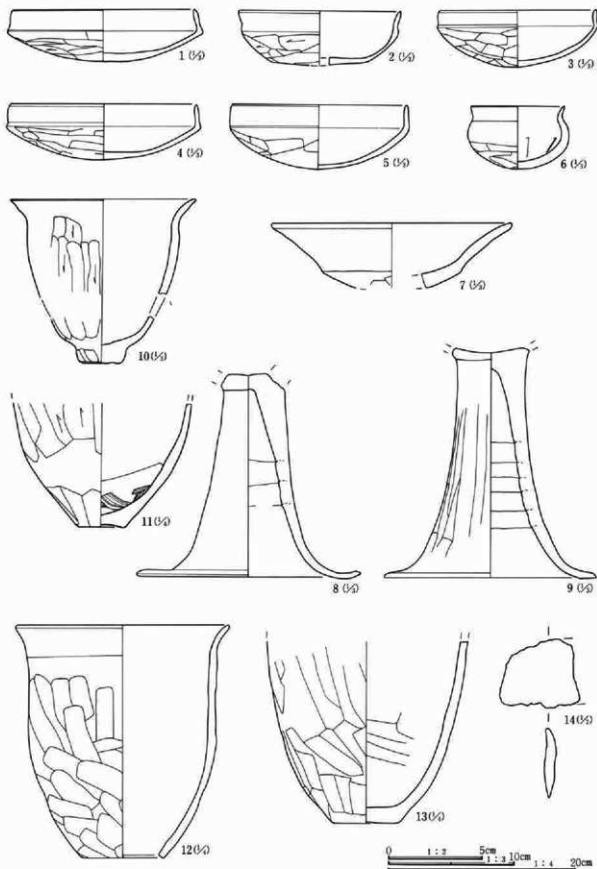
調査所見 本遺跡において検出された古墳時代後期のものとしては、最も大型の住居である。南側部分は削平が著しく、壁の立ち上がりはわずかしか確認できなかった。また北東隅は調査区外となる。

さらに東壁についても立ち上がりはわずかしか検出できなかった。時期は古墳時代である。



第81図 C-62号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第82図 C-62号住居跡出土遺物



C-62号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+7	14.5	4.0	砂粒含む	白黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部無で	完形
2	土師器 坏	+4	13.0	(4.3)	砂粒多く含む	暗黄褐色	普通	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部無で	砂粒の混入多く、器面ざらついている
3	土師器 坏	+22	12.7	4.5	砂粒僅かに含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部無で	完形
4	土師器 坏	+4	14.9	4.4	微砂粒僅かに含む	白黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部無で	
5	土師器 坏	床下土坑	14.1	5.1	砂粒僅かに含む	橙褐色	普通	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部無で	
6	土師器 小型壺	+10	7.5	5.0	精製	白黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部無で	完形 内面に裏のあたり直
7	土師器 高坏	床面	(19.2)		砂粒僅かに含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部無で	坏部
8	土師器 高坏	竈内	(18.0)		微砂粒含む	暗黄褐色	良	外 柱部裏削り、端部横線で 内 柱部横線で、端部無で	脚部 内面に輪積み痕残る
9	土師器 高坏	床面	17.0		砂粒含む	橙褐色	良	外 柱部裏削り、端部横線で 内 柱部横線で、端部横線で	脚部 内面に輪積み痕明瞭に残る
10	土師器 壺	+4	(15.0) (4.5)		砂粒僅かに含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部無で	内面厚付着 底部内厚
11	土師器 壺	床面	5.0		砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部無で	内面底部木端状工具による刷毛目痕
12	土師器 甌	柱穴内	22.5	24.8	砂粒含む	赤褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部無で	ほぼ完形 孔径7.5cm
13	土師器 壺	+11	7.0		砂粒僅かに含む	暗赤褐色	良	外 胴部裏削り 内 胴部無で	胴下半部のみ 厚手
14	鎌	床面	長さ3.6cm 幅3.7cm 厚さ0.5cm 重さ14.5g		先端部分か				

## C-63号住居跡 (第83~85図、PL11・100)

位置 Cg・Ch-30・31 形状 隅丸方形 規模 長辺4.79m、4.74m、壁高0.34m

重複 C-68号住居跡(弥生時代)、C-95号住居跡(弥生時代)、C-99号住居跡(古墳時代)を切り、C-183号住居跡(平安時代)に東側上部を切られる。

埋没土 小礫含む砂礫土。粒子が比較的揃い、やや砂質である。

床面 やや凹凸があり、硬化した面はほとんど見られなかった。黒色土を主体とした土で、若干の暗褐色粘土含む。

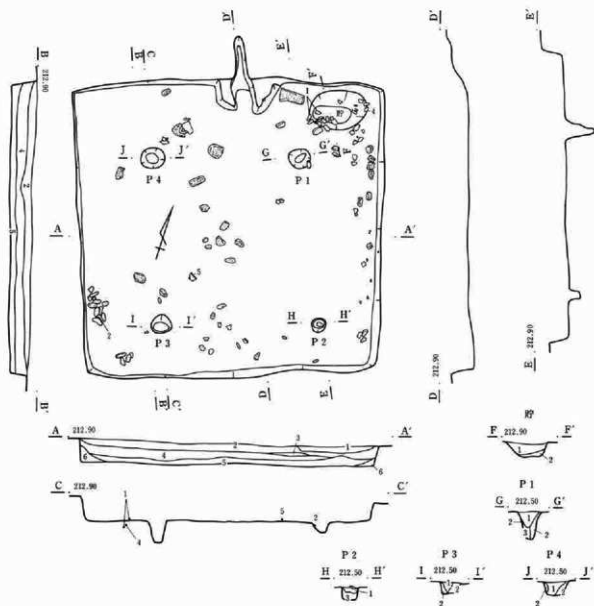
貯蔵穴 北東隅に検出した。平面形は長円形を呈す。長径約1m、短径約60cm、深さは約20cmである。覆土中に若干の炭化物が混入する。

柱穴 4本が対角線上に検出された。径は20~40cmで、深さは15~45cmとばらつきが見られる。

竈 北壁中央に作られている。両袖部分は小礫を若干含む、やや粘性をもつ黒褐色土で作られている。袖石は検出されなかった。竈の内部および火床面にも焼土はあまり見られなかった。煙道は斜め上方に延びているが比較的短い。焚口部天井に渡されていたと思われる板状の砂岩が右袖脇に置かれた状態で検出されている。

出土遺物 土器類は少ない、まばらに土師器の坏、壺の破片が床面よりやや浮いた状態で出土している。南西壁際で10点程の藁編石が出土している。

調査所見 壁の立ち上がりはほぼ垂直で遺存状態は比較的良い。出土遺物から時期は古墳時代後期と考えられる。



・63号住居跡

- 1 黒褐色土 粘質土若干の灰を含み、下層は粘床層。
- 2 黒褐色土 砂礫含み若干の粘質土混入。良く締る。
- 3 黄褐色土 粘質土混入し、良く締る。
- 4 黒褐色土 砂礫含み若干の粘質土混入。礫の混入は1よりやや少ない。
- 5 黒褐色土 砂礫含み若干の粘質土混入。礫の混入は少なく、やや粘性を持つ。
- 6 黄褐色土 粘土分を多く含む。砂礫土。

貯蔵穴

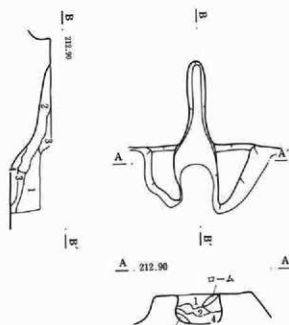
- 1 灰褐色土 砂礫含み、やや軟質。若干の炭化物混入。
- 2 淡黄褐色土 粘土分多く含む。砂礫、他の混入物少ない。

P1~4

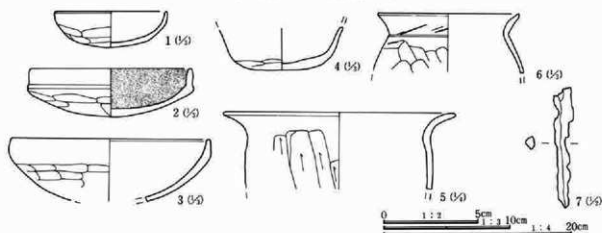
- 1 黒褐色土 砂礫含み、やや粘性を持つ。
- 2 黒褐色土 粘質土ブロック多く混入、1より粘性強い。
- 3 黒褐色土 砂礫含み、粘性持つが、粘質土の混入1より多い。

0 2m

第83図 C-63号住居跡



第84図 C-63号住居跡・竈



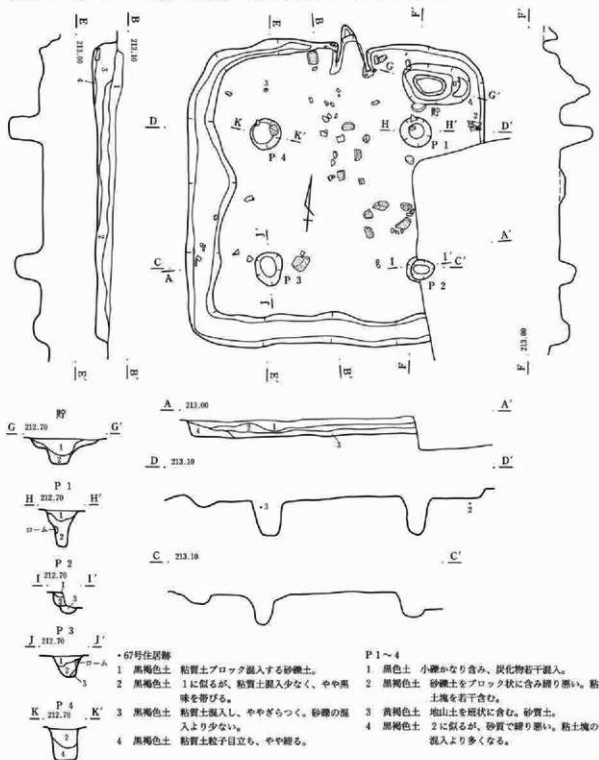
第85図 C-63号住居跡出土遺物

C-63号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考	
1	土器 杯	貯蔵穴内	(9.0) 2.9	微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横無で 体部異削り 内 口縁部横無で 体部無で	内面に×字の細い線刻	
2	土器 杯	床面	(13.0) 3.8	微砂粒僅かに含む	灰褐色	普通	外 口縁部横無で 体部異削り 内 口縁部横無で 体部無で	内面黒色 器面の風化著しい	
3	土器 杯	覆土	(16.0)	砂粒僅かに含む	茶褐色	良	外 口縁部横無で 体部異削り 内 口縁部横無で 体部無で		
4	土器 杯	覆土		微砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横無で 体部異削り 内 口縁部横無で 体部無で	口唇部を欠く	
5	土器 壺	+3	(25.0)	砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横無で 胴部異削り 内 口縁部横無で 胴部無で		
6	土器 壺	床面	(15.0)	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横無で 胴部異削り 内 口縁部横無で 胴部無で		
7	釘	覆土	長さ6.3cm 径0.4cm 重85.1g	両端部を欠く					

C-67号住居跡 (第86~88図、PL12・100)

位置 Cf・Cg-32・33 形状 隅丸方形 規模 長辺4.82m、4.73m、0.36m



第86図 C-67号住居跡

重複 C-64・164号住居跡（弥生時代）を切り、南東部をC-69号住居跡（平安時代）に切られる。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 若干の礫を含み、所所に粘土ブロックを含む土で作られている。やや凹凸が見られ、壁周溝が廻るが西、南部分は幅広である。

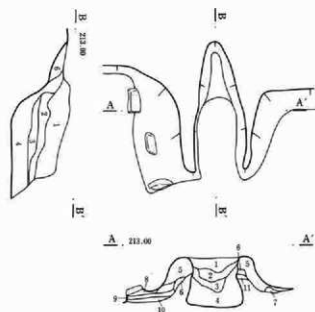
貯蔵穴 北東隅に検出した。長円形で2段の掘り込みとなっている。最も深い部分は約45cmを測る。

柱穴 対角線上に4本を検出した。径はいずれも50cm内外で、深さ約50cmである。

竈 北壁中央に作られている。上部に板状の石が載った状態で出土している。本体部分はかなり火を受け、焼土化した袖の内側部分を検出。その西側に接して同様の袖状の焼土と粘土を検出した。2基の竈が隣接した状態で存在したのであろうか。

出土遺物 わずかに須恵器環、土師器壺の破片と紡錘車が出土している。

調査所見 他の遺構と重複した部分が多く、壁の検出状況は一部明確でないところがある。竈については、作り替えがなされたものと思われるが、2基が並列して使用されていたような痕跡も窺われる。

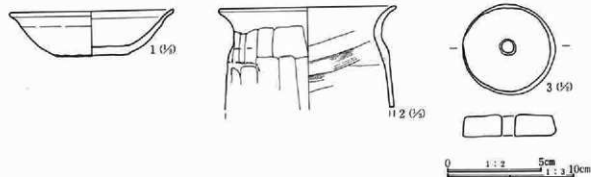


竈

- 1 黒褐色土 砂礫多く混入し、固く締る。
- 2 黒褐色土 砂礫多く混入し、粘土ブロックを混入し、締る。
- 3 黒褐色土 焼土ブロックを若干含み、粘性を持ち締る。
- 4 暗赤褐色土 焼土ブロック多く含み、砂礫の混入少ない。
- 5 黒色土 小礫かなり含む。白色土粒及び、粘土粒若干混入。
- 6 明黄褐色土 均質で良く締る。粘土層、竈袖部分か。
- 7 黒褐色土 若干の小礫と粘質土少量含む。一部焼土含む部分あり。
- 8 黒褐色土 1に似るが、黄色味が強く、粘質土の混入多い。炭化物を少量含む。
- 9 暗黄褐色土 若干の小礫含むが均質で良く締る。上部が赤化している部分あり。
- 10 黒褐色土 若干の小礫含み、粘質土を斑状に含む。炭化物わずかに含む。
- 11 橙色土 熱により焼土化。微細炭化物若干含む。

第87図 C-67号住居跡・竈

0 1m



第88図 C-67号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

C-67号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
1	須恵器 坏	覆土	(13.0) 3.6 6.0	精製	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転切り		
2	土師器 甕	床面	(14.2)	砂粒盛りに 含む	淡赤褐色	良	外 口径部横溝で 胴部直削り 内 口径部横溝で 胴部横で		
3	紡錘車	床面	径5.0cm 厚さ1.2cm 孔径0.55mm 重さ36.5g 土製						

C-69号住居跡 (第89～91図、PL12・101)

位置 Cf・Cg-32 形状 隅丸方形 規模 長辺3.67m、3.44m、壁高0.33m

重複 西側でC-67号住居跡 (古墳時代)、北東部分でC-61号住居跡 (古墳時代) を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 やや凹凸をもち、比較的締まる。

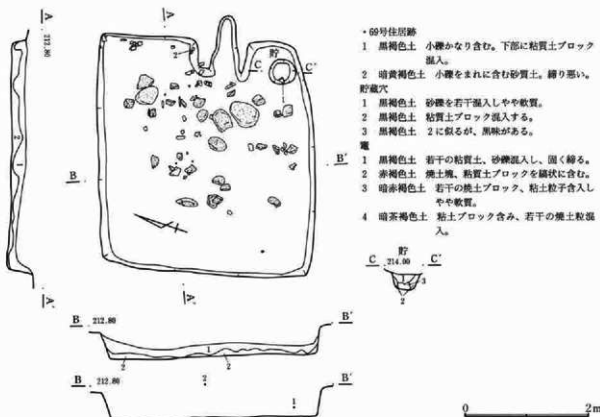
貯蔵穴 南東隅に検出された。径40cm程の円形を呈し、深さは25cmである。

柱穴 検出されなかった。

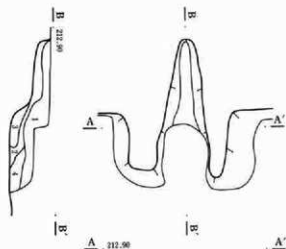
竈 東壁中央やや南寄りに作られている。袖部分は小礫を混じた粘質土で作られ、硬く締まっている。煙道は急角度に立ち上がる。

出土遺物 床面よりかなり浮いた状態での出土が多く、大型礫に混じり若干の土層が見られたにすぎない。土師器の坏2点のみ図示し得た。

調査所見 遺構自体の遺存状態は良好で壁の立ち上がりも明瞭である。時期は古墳時代後期である。



第89図 C-69号住居跡



第90図 C-69号住居跡・竈

0 1 m



0 1:3 10cm

第91図 C-69号住居跡出土遺物

C-69号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 口径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	+13	(13.0) 3.8	凝砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横無で 体部削り 内 口縁部横無で 体部削り	内面黒色
2	土師器 杯	+52	(16.0)	微砂粒僅かに含む	橙褐色	良	外 口縁部横無で 体部削り 内 口縁部横無で 体部削り	

## C-70号住居跡 (第92~96図、PL12・101)

位置 Cf・Cg-29・30 形状 隅丸方形 規模 長辺5.37m、短辺4.88m、壁高0.45m

重複 C-71号住居跡(弥生時代)、C-95号住居跡(弥生時代)、C-198号住居跡(弥生時代)を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土。粒子は比較的均質で細粒。

床面 平坦でかなり踏み締められている。貯蔵穴周辺が僅かに高まる。

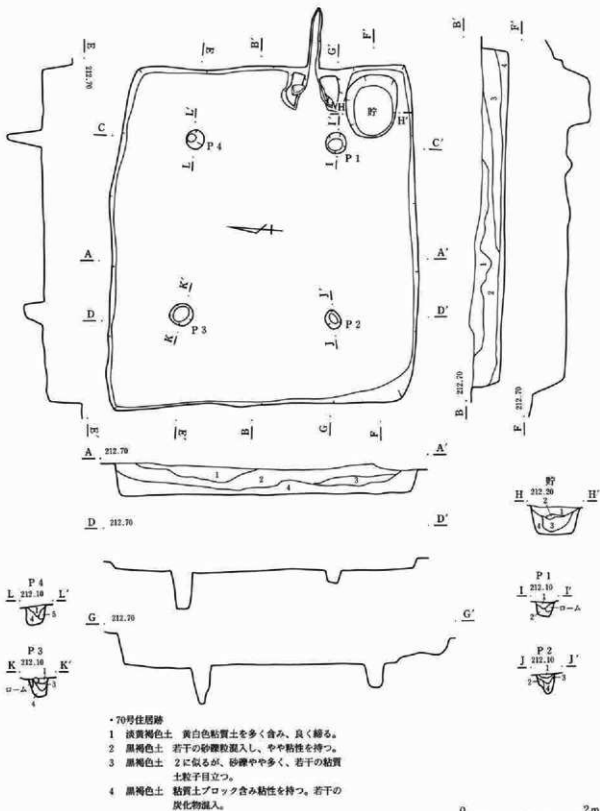
貯蔵穴 南東隅に検出した。比較的大きく深さは45cm程で、底の部分は平坦である。

柱穴 ほぼ対角線上に4本検出した。径は30~40cmで、深さは20~60cmとばらつきが見られる。

竈 東壁中央やや南寄りに作られている。右袖内側に板状の砂岩が立てられ、左側は河原石が外側に倒れ込んだ状態で検出された。また天井に使われていたと思われる、砂岩が手前に落ちた状態で出土している。煙道は比較的長く、壁外へ約1m程延びている。

出土遺物 覆土の上層において10~20cmの礫が多く検出されている。出土土器は土師器杯、壺、高杯などである。

調査所見 壁の遺存状態はかなり良いほうである。東壁電右側に竈の残骸らしきものが見られるが、本址に付くものではないと思われる。時期は古墳時代後期である。



第92図 C-70号住居跡(1)

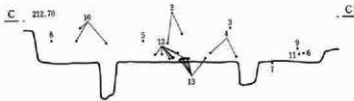
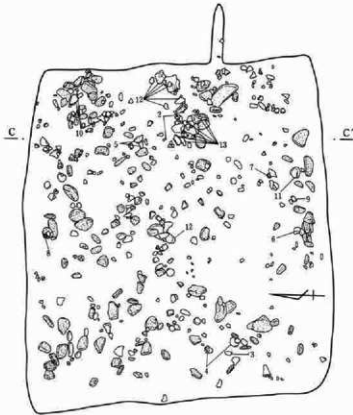


貯蔵穴

- 1 黒褐色土 粘性なく、締り悪い。角礫多く含む炭化物片若干含む。
- 2 黒褐色土 粘性弱いが締る。1に比べ黒味強い。小礫および、粘質土塊をわずかに含む。
- 3 黒褐色土 粘性なく、締り悪い。焼土、粘質土塊を多く含む。微細炭化物少量含む。
- 4 黒褐色土 粘性なく、締り悪い。基盤粘質土塊及び灰色の砂少量含む砂質。

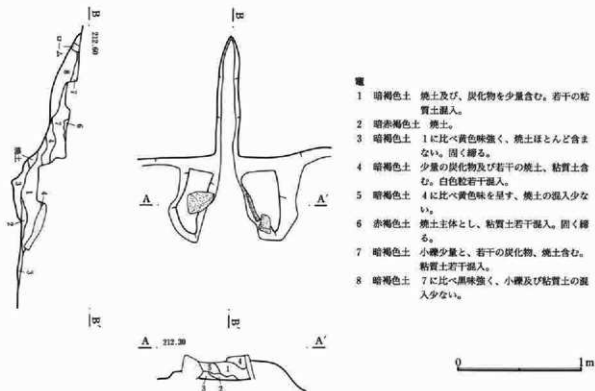
P 1~4

- 1 暗褐色土 粘質土少量団状に含む。小礫及び、微細炭化物若干混入。
- 2 黄褐色土 粘質土主体とし、斑状を呈す。若干の微細炭化物含む。
- 3 暗褐色土 1に比べ、黄色味強く均質。小礫の混入なく、ごく弱い粘性あり。
- 4 暗褐色土 2に比べ、粘質土の混入少ない。基盤砂質土をかなり含み、脆弱。
- 5 暗褐色土 黒味強く。粘質土の混入ほとんどない。若干の白色土粒及び、微細炭化物含む。



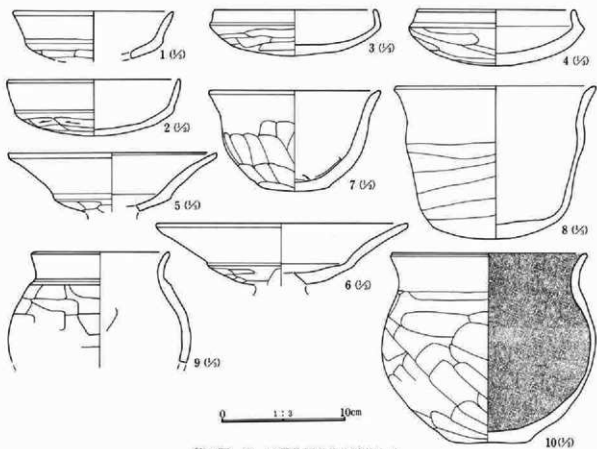
0 2m

第93図 C-70号住居跡(2)

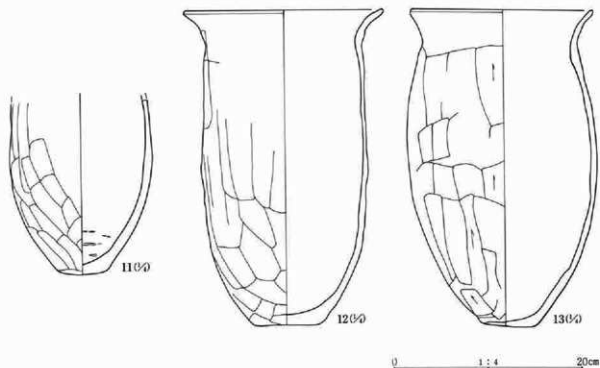


- 
- 1 暗褐色土 焼土及び、炭化物を少量含む。若干の粘質土混入。
  - 2 暗赤褐色土 焼土。
  - 3 暗褐色土 1に比べ黄色味強く、焼土ほとんど含まない。固く締る。
  - 4 暗褐色土 少量の炭化物及び若干の焼土、粘質土含む。白色粘若干混入。
  - 5 暗褐色土 4に比べ黄色味を呈す、焼土の混入少ない。
  - 6 赤褐色土 焼土主体とし、粘質土若干混入。固く締る。
  - 7 暗褐色土 小礫少量と、若干の炭化物、焼土含む。粘質土若干混入。
  - 8 暗褐色土 7に比べ黒味強く、小礫及び粘質土の混入少ない。

第94図 C-70号住居跡・竈



第95図 C-70号住居跡出土遺物(1)



第96図 C-70号住居跡出土遺物(2)

C-70号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 口径 器径 (cm)	胎土	色調	構成	整形の特徴	備考
1	土器器 環	覆土	(12.9)	砂粒僅かに 含む	暗褐色	良	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 体部削り 体部削り	やや厚手
2	土器器 環	+23	(14.0) 4.4	砂粒含む	淡褐色 色	普通	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 体部削り 体部削り	
3	土器器 環	+51	12.8 3.6	砂粒僅かに 含む	暗褐色 色	良	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 体部削り 体部削り	
4	土器器 環	+9	12.8 4.4	微砂粒僅かに 含む	淡黄褐色 色	良	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 体部削り 体部削り	ほぼ完形 厚手
5	土器器 高 環	+32	(16.8)	微砂粒僅かに 含む	暗褐色 色	良	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 体部削り 体部削り	環部外縁を持つ
6	土器器 高 環	+14	(20.2)	微砂粒僅かに 含む	暗褐色 色	普通	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 体部削り 体部削り	環部 器面やや風化
7	土器器 小型 甕	床面	(13.8) 8.0 (5.6)	微砂粒含む	淡白褐色 色	良	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 胴部削り 胴部削り	内面底に亀裂
8	土器器 小型 甕	+35	(16.2) 12.1	砂粒含む	淡黄褐色 色	良	外 口縁部、胴部削り後縁で 内 口縁部横溝で 胴部削り 胴部削り	胴部輪痕が見られる やや丸底
9	土器器 小型 甕	+19	(11.0)	砂粒含む	茶褐色 色	良	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 胴部削り 胴部削り	
10	土器器 小型 甕	+28	(15.8) (6.0)	微砂粒含む	灰黄褐色 色	良	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 胴部削り 胴部削り	内面黒色
11	土器器 甕	+13	5.2	砂粒含む	灰褐色 色	良	外 胴部削り 内 胴部削りで、底の当たり痕あり 胴部削り 胴部削り	かなり火熱を受けて いる
12	土器器 甕	+6	21.2 33.5 7.4	砂粒僅かに 含む	黒褐色 色	普通	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 胴部削り 胴部削り	火熱を受け器面やや 風化
13	土器器 甕	+4	19.3 33.8 6.0	砂粒僅かに 含む	淡褐色 色	良	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で 胴部削り 胴部削り	

C-74号住居跡 (第97・98図、PL12・13・102)

位置 Ca・Cb-28・29 形状 隅丸方形か 規模 長辺5.78m、短辺(1.50)m、壁高0.25m

重複 C-75号住居跡(弥生時代)、C-81号住居跡(弥生時代)、C-87号住居跡(弥生時代)を切る。

埋込土 小礫含む砂礫土。茶褐色の粘土ブロックを含み、全体に締まる。下層に行く程粘土の混入度合が多い。

床面 良く締まり、平坦である。

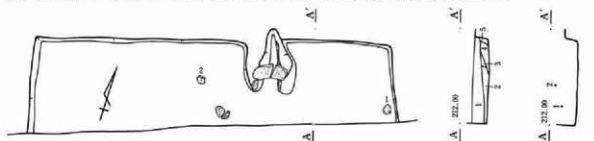
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや東寄りに作られている。粘土主体の褐色土で作られている。焚口部同側に砂岩が据えられている。天井部に渡されていたと思われる板状の砂岩が2つに割れて落ち込んでいた。

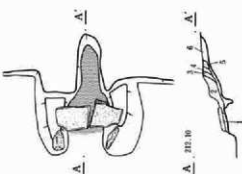
出土遺物 図示し得たものは、土師器環が2点と少ない。

調査所見 南側部分は既に破壊されており、調査したのは北側三分の一程度である。かなり粘性の強い地山を掘り込んで作られる。壁はほぼ垂直に立ち上がり直線的である。時期は古墳時代後期である。



・74号住居跡

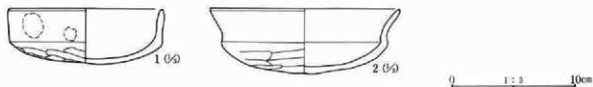
- |                                   |                                |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色土 締り良く、粘性かなり強い。白、黄色粒を含む。     | 4 暗褐色土 締り良く、粘性かなり強い。炭化物、粘土を含む。 |
| 2 褐色土 締り良く、粘性かなり強い。黄色粘土を多く含む。     | 5 暗褐色土 締り良く粘性強い。黄色粘土をわずかに含む。   |
| 3 暗褐色土 締り良く、粘性かなり強い。白、黄色粒をわずかに含む。 |                                |



竈

- |  |
|--|
| 1 黄色粘土 締り、粘性あり。焼土、暗褐色土を含む。カマド天井部分か。粘性はあまりない。 |
| 2 暗褐色土 締り良く、粘性強い。白色粒、地山土を少し含む。               |
| 3 暗褐色土 締り良く、粘性強い。白色粒を少し含み、地山土を多く含む黄色強い。      |
| 4 暗褐色土 締り良く、粘性強い。やや硬質。白色粒、地山土含む。             |
| 5 暗褐色土 地山土多く含みや黄色がかる。                        |
| 6 暗褐色土 締り良く、粘性かなり強い。やや軟質。白色粒をわずかに含む。         |

第97図 C-74号住居跡・竈



第98図 C-74号住居跡出土遺物

C-74号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+24	12.4 4.3		砂粒僅かに 含む	淡褐色 色	普通	外 口縁部横線で 体部重なり 内 口縁部横線で 体部横で	器面風化
2	土師器 坏	+35	(15.2) 5.1		微砂粒僅かに 含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部重なり 内 口縁部横線で 体部横で	

## C-78号住居跡 (第99~102図, PL13・102・103)

位置 Cb-29・30 形状 隅丸方形 規模 長辺3.72m、短辺3.13m、壁高0.53m

重複 C-79号住居跡(縄文時代)、C-80号住居跡(弥生時代)を切る。

埋没土 小礫含、茶褐色粘土のブロックを含み全体にかなり良く締まる砂礫土。

床面 焼失住居であり、ほぼ全面に炭化材、炭化物、焼土が見られる。やや凹凸があるが、良く踏み締められている。また壁も部分的に焼土化している。

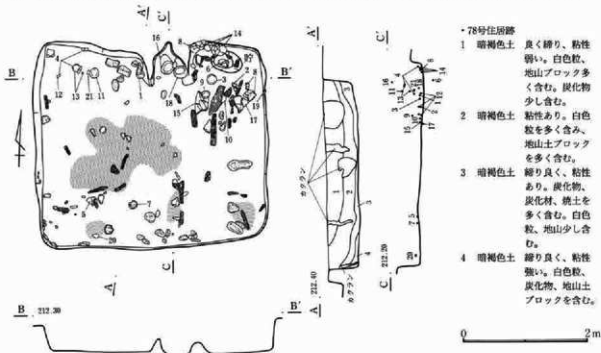
貯蔵穴 北東隅の北壁に接して検出された、平面形は不定形で覆土層に大型の偏平礫が落ち込んだ状態で出土している。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁ほぼ中央に作られている。土師器の長壺2個体が、横に並んで掛けられた状態で出土している。竈の構造は両袖焚口部に砂岩を据えており、袖材は小礫を含み、粘性の強い茶褐色粘土を主体とする土で作られている。内面は良く焼けており、焼土化が顕著である。

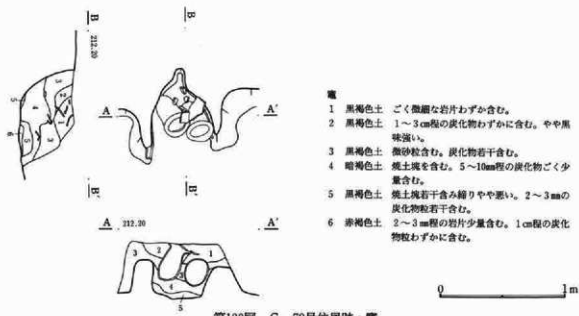
出土遺物 土師器の壺、坏、甕等比較的多く検出された。竈周辺部において多く見られ、多くが床面上、ないしはやや浮いた状態で出土している。土器の外には砥石、滑石の原石などが見られる。

調査所見 小型の住居である。焼失住居で炭化材、焼土が多く見られ、各壁面も火を受けている状況が窺えた。炭化材、焼土は覆土の下層に見られ、土器などの遺物も同様であった。時期は古墳時代後期である。



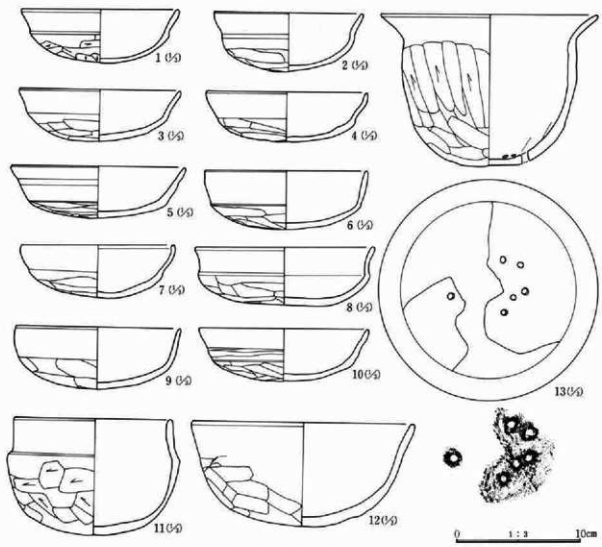
第99図 C-78号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

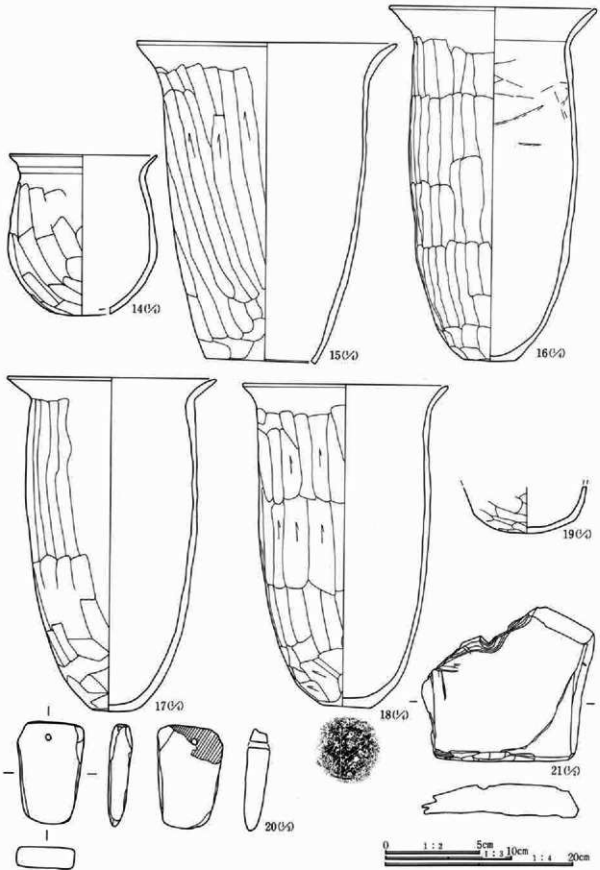


- 圖
- 1 黒褐色土 ごく微細な岩片わずかに含む。
  - 2 黒褐色土 1～3cm程の炭化物わずかに含む。やや黒味強い。
  - 3 黒褐色土 微砂粒含む。炭化物若干含む。
  - 4 暗褐色土 焼土塊を含む。5～10mm程の炭化物ごく少量含む。
  - 5 黒褐色土 焼土塊若干含む細りやや悪い。2～3mmの炭化物粒若干含む。
  - 6 赤褐色土 2～3mm程の岩片少量含む。1cm程の炭化物粒わずかに含む。

第100図 C-78号住居跡・竈



第101図 C-78号住居跡出土遺物(1)



第102圖 C-78号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

C-78号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 環	+7	12.5 4.2	微砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部直割り 内 口縁部横線で 体部直割り	ほぼ完形
2	土師器 環	+3	12.0 4.7	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直割り 内 口縁部横線で 体部直割り	
3	土師器 環	+5	12.8 4.2	砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直割り 内 口縁部横線で 体部直割り	完形 内面中心より9本の放射状贈文
4	土師器 環	+6	(13.0) 3.9	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直割り 内 口縁部横線で 体部直割り	
5	土師器 環	+2	(14.0) 4.1	精製	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部直割り 内 口縁部横線で 体部直割り	
6	土師器 環	貯蔵穴内	(13.0) 4.7	砂粒僅かに含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直割り 内 口縁部横線で 体部直割り	表面やや風化
7	土師器 環	+3	(12.4) 4.3	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直割り 内 口縁部横線で 体部直割り	ほぼ完形
8	土師器 環	覆土	14.3 4.5	砂粒僅かに含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直割り 内 口縁部横線で 体部直割り	ほぼ完形 住居の時期は発生
9	土師器 環	+16	13.2 5.0	砂粒僅かに含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直割り 内 口縁部横線で 体部直割り	完形
10	土師器 環	+2	13.6 4.1	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直割り 内 口縁部横線で 体部直割り	外面やや荒れている
11	土師器 広口壺	+34	12.7 9.3	砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直割り 内 口縁部横線で 胴部直割り	完形
12	土師器 鉢	+5	18.0 8.1	砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直割り 内 口縁部横線で 胴部直割り	ほぼ完形
13	土師器 甕	+22	(17.4) (12.0) (5.0)	砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直割り 内 口縁部横線で 胴部直割り	底部に複数孔(7)あり
14	土師器 壺	覆土	15.8 17.0	砂粒含む	灰褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部直割り 内 口縁部横線で 胴部直割り	表面やや風化 住居の時期は発生
15	土師器 甕	床面	27.8 33.9 11.7	砂粒含む	淡褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部直割り 内 口縁部横線で 胴部直割り	ほぼ完形 表面やや風化
16	土師器 壺	床面	22.0 37.4 5.6	砂粒含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直割り 内 口縁部横線で 胴部直割り	ほぼ完形
17	土師器 壺	床面	(22.0) 35.5 4.5	小砂粒含む	灰褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部直割り 内 口縁部横線で 胴部直割り	
18	土師器 壺	竈内	21.9 34.2 5.2	小砂粒多く含む	黄褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部直割り 内 口縁部横線で 胴部直割り	底部木炭
19	土師器 壺	+6		砂粒多く含む	暗赤褐色	普通	外 胴部直割り 内 胴部直割り	底部片 二次的な火熱を受けやや脆弱
20	砥石	+7		長さ8.3cm 幅5.4cm 厚さ1.8cm 重さ116g			粗造し孔径0.45cm 砥石石 斜平な分銅型を呈す	
21	帯石片	+16		長さ8.1cm 幅8.7cm 厚さ1.6cm 重さ186.0g			縁辺部には刃物による削り痕	

C-84号住居跡 (第103~105図、PL13・14・103・104)

位置 Cb-33、Cc-33・34 形状 隅丸方形 規模 長辺4.44m、短辺4.41m、壁高0.49m

重複 C-85号住居跡(古墳時代)、C-86号住居跡(弥生時代)を切る。東端部にC-2号溝(近世)が南北に走る。

埋没土 礫の混入多く、下層には黒褐色の粘土ブロックを多く含む。

床面 茶褐色粘土、黒色土混土の粘床でやや凹凸をもつ。竈前面は比較的に平坦で、堅く踏み締められた状況が看取された。

貯蔵穴 北東隅に作られている、かなり小形である。径約50cm、深さは約25cmを測る。覆土上部で土師器壺の口縁部、環が出土している。

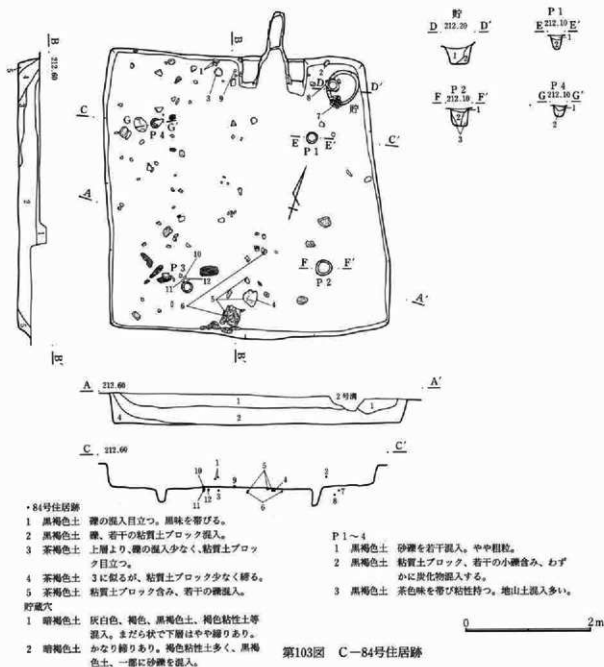
柱穴 4本検出された。径は15~20cmと小さく、深さは20~30cmである。



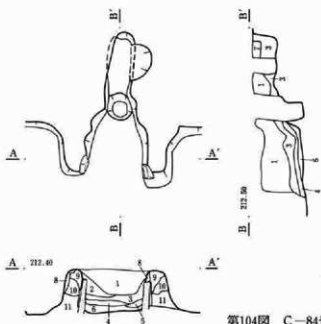
**竈** 北壁中央やや東よりに作られている。両袖焚口部には板状の砂岩が垂直に立てられ、袖は小礫を含む茶褐色粘土で作られている。煙道は一段高まり壁外に約1.2m程の長さで延びている、この煙道部に後世の小ピットが2箇所検出されている。竈内部には若干の焼土、炭化物が見られたのみで、長期間の使用は行われていなかったものと考えられる。

**出土遺物** あまり多くはなかった。土師器甕、鉢、坏の他に滑石製の白玉4点が出土している。1点は竈の左袖脇、他の3点はP3の脇で出土している。また薦編み石と思われる石が10点ほど南側の壁際において検出されている。

**調査所見** 南壁はC-85号住居跡と重複しているために、やや不明確な部分もあるが、他の壁に関しては、遺存状態は比較的良好。床面より若干の炭化材が出土しているが、焼失住居ではないであろう。出土遺物から見て、時期は古墳時代後期である。



第103図 C-84号住居跡

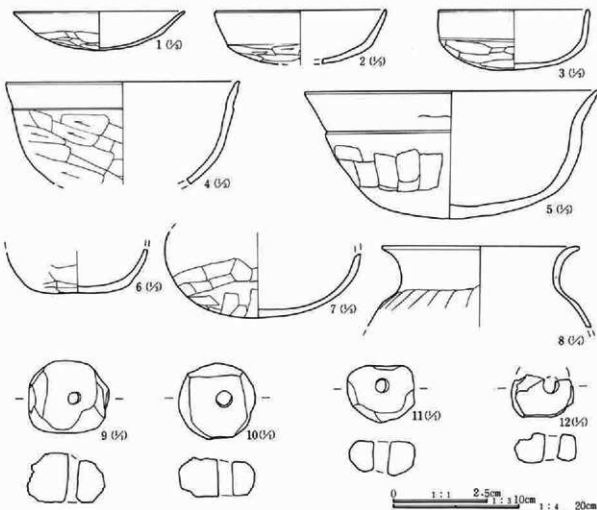


第104図 C-84号住居跡・竈

0 1 m

竈

- 1 黒褐色土 5~10mm程の礫多く含む。炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土 下部に赤褐色の焼土をブロック状に含む。5mm程の岩片若干含む。
- 3 暗褐色土 2に良く似るが、焼土含まない。
- 4 黒褐色土 3cm程の赤褐色焼土ブロック多く含む。
- 5 黒褐色土 赤褐色焼土及び、暗褐色粘質土ごくわずか含む。
- 6 黒褐色土 赤褐色焼土若干含む。赤化した5~10mm程度の小礫、炭化物若干含む。
- 7 暗褐色土 5~10mm程度の岩片多量に含む。
- 8 黒褐色土 黒褐色土、褐色粘土まだらに混入。
- 9 褐色土 粘性あり。火熱をうけ、暗褐色の部分多い。砂利、黒褐色土が若干混入。締りあり。
- 10 暗褐色土 9と近似。熱をうけてない分、色は濃い。
- 11 褐色土 灰白色砂礫粒含む粗粒。



第105図 C-84号住居跡出土遺物

C-84号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 環	+12	(14.0)	3.1	微砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 □縁部横線で 体部寛削り 内 □縁部横線で 体部削で	□縁部大きく外傾し 血状を呈す
2	土師器 環	+15	(14.0)		砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 □縁部横線で 体部寛削り 内 □縁部横線で 体部削で	
3	土師器 環	床面	12.2	4.7	砂粒含む	灰褐色	良	外 □縁部横線で 体部寛削り 内 □縁部横線で 体部削で	ほぼ球形 器面やや 風化
4	土師器 鉢	床面	(19.0)		砂粒含む	橙褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部寛削り 内 □縁部横線で 胴部削で	
5	土師器 鉢	床面	24.0	10.3	砂粒含む	暗褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部寛削り 内 □縁部横線で 胴部削で	ほぼ球形
6	土師器 壺	床面			砂粒含む	橙褐色	普通	外 胴部寛削り 内 胴部削で	底部片
7	土師器 埴	貯蔵穴内			微砂粒僅かに含む	灰黄褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部寛削り 内 □縁部横線で 胴部削で	かなり脆弱
8	土師器 壺	貯蔵穴内	21.1		砂粒含む	橙褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部寛削り 内 □縁部横線で 胴部削で	
9	白玉	床面	矩形を呈す未製品 径2.1cm 厚さ1.3cm 孔径0.25cm 重さ8.4g 大型品 刃物による成形痕 滑石製						
10	白玉	床面	ほぼ円形で穿孔は中心からずれている 径2.1cm 厚さ1.0cm 重さ6.8g 周辺部に整形時の削痕 滑石製						
11	白玉	床面	おおよそ円形を呈すが一部割られている 径1.8cm 厚さ0.9cm 重さ3.8g 孔径0.35cm 滑石製						
12	白玉	床面	やや矩形を呈すが半分を欠く 径1.7cm 厚さ0.8cm 重さ2.0g 中心からややずれて穿孔 滑石製						

## C-85号住居跡 (第106・107図、PL14・104)

位置 Ch・Cc-33 形状 隅丸方形 規模 長辺4.70m、短辺4.42m、壁高2.90m

重複 C-86号住居跡(弥生時代)を切り、C-84号住居跡(古墳時代)にほぼ北半分の壁を壊されている。

東端部にC-2号溝が南北に走る。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 凹凸が見られ堅さも均質ではない。黒色土多く、若干の小礫を混入する土で貼られている。中央部分が比較的固く締まる。

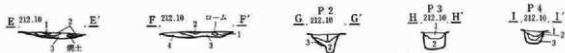
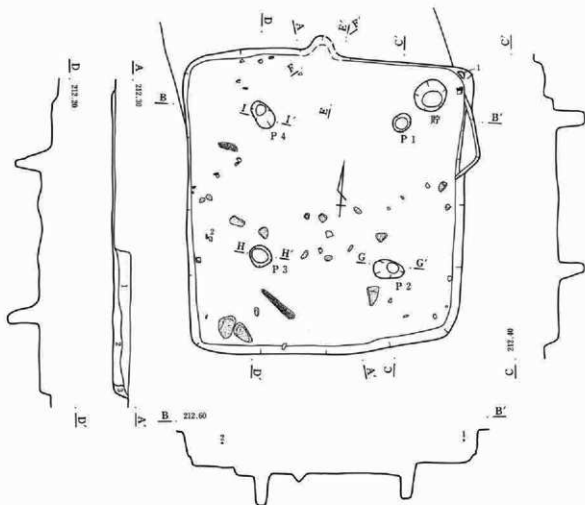
貯蔵穴 北東隅に検出されている。ほぼ円形を呈す、径は約50cmである。あまり整った掘り方ではなく、凹凸が目立つ。

柱穴 ほぼ対角線上に4本が検出されている。形、深さともにばらつきが見られる、径30~40cm、深さは20~30cmである。

竈 本体部分はほとんどC-84号住居跡によって壊されている。僅かに火床面下部が確認されたのみである。若干の焼土の広がりを認めた。

出土遺物 重複により大きく西側を切られていることもあり、出土点数は極めて少ない。北東隅において土師器の環が出土しているが、かなり床面より浮いている。

調査所見 約半分を他の住居跡により切られており、遺構北側部の遺存状態は極めて悪い。竈も検出されなかった。このため出土遺物に関しても少なく、図示し得たものは僅かに2点のみである。また南側部分の壁については、弥生時代の住居を切り込んで作られているために、確定しがたい部分もある。床面に若干の炭化材が検出されている。時期は古墳時代後期である。



・85号住居跡

- 1 黒褐色土 砂礫多く含み、若干の粘質土ブロック混入。
- 2 黒褐色土 1より粘質土粒少なく黒味がある。砂礫の混入やや少ない。
- 3 黒褐色土 粘質土ブロック混入。やや粘性があり砂礫の混入少ない。

P1~4

- 1 黒褐色土 石粒、粘質土粒子を含む。
- 2 黒褐色土 上層より石粒少なく黒味強い。
- 3 茶褐色土 粘質土ブロックを含み、粘性あり。

■

- 1 赤褐色土 焼土、ブロック、石粒含む。
- 2 暗赤褐色土 若干の焼土ブロック及び石粒含む。
- 3 黒褐色土 若干の粘質土ブロックを含みやや粘性を示す。
- 4 黄褐色土 粘質土分多く含み、粒子目立つ。石粒わずかに含む。

第106図 C-85号住居跡

0 2m



第107図 C-85号住居跡出土遺物

0 1:3 10cm

C-85号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	窯成 形の特徴	備考
1	土器 環	+34	12.0 3.6		微砂粒含む	黒色	良	外 口縁部横割で 体部寛削り 内 口縁部横割で 体部狭で	
2	土器 環	+38	(12.6) 3.7		微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横割で 体部寛削り 内 口縁部横割で 体部狭で	

## C-90号住居跡 (第108・109図, PL14・104)

位置 Cg・Ch-40・41 形状 隅丸方形 規模 長辺4.82m、短辺4.42m、壁高0m

重複 他の住居との重複はないが、そのほとんどが削平されており、極めて遺存状態が悪い。竈の遺存状況からおおよその範囲が推定されるのみである。

埋没土 堆積はほとんど確認できなかった。

床面 部分的に削られており、凹凸が在り極めて不明瞭。

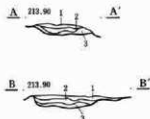
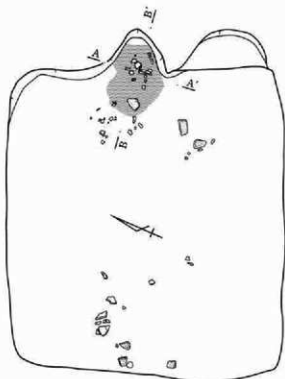
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁に在るが形状は不明瞭。上部はほとんど削平を受けている。粘土、焼土がかなり乱雑な状態で確認されている。

出土遺物 環、壺の破片の他土器が1点見られたが、いずれも竈、住居の掘り方内よりの出土である。

調査所見 竈部分を含めて破壊が著しい。規模、平面形状はおよその推定である。



## ・90号住居跡

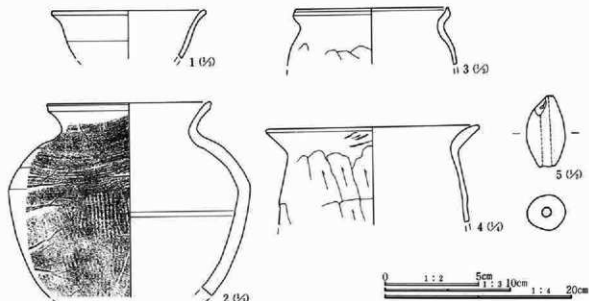
竈

- 1 淡黄褐色土 砂礫、焼土粒混入。
- 2 淡黄褐色土 砂礫、焼土粒混入。地山砂粒含む。
- 3 赤褐色土 焼土ブロック含む地山砂粒多く含む。

0 2m

第108図 C-90号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第109図 C-90号住居跡出土遺物

C-90号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	+2	(12.6)	精製	灰色	良	ロクロ整形	
2	須恵器 埴	+2	(13.4)	緻密	灰色	堅致	外 口縁部横撫で 胴部叩き後撫で 内 口縁部横撫で 胴部横撫で	
3	土師器 小型埴	覆土	(12.5)	精製	褐色色	良	外 口縁部横撫で 胴部荒削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	口縁部やや内屈し、 丸みをもつ
4	土師器 埴	+2	(22.8)	微砂粒僅かに 含む	淡赤褐 色	普通	外 口縁部横撫で 体部荒削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
5	土 甕	覆土	長さ3.8cm 径2.1cm 重さ10.6g		灰白色を呈す		長さに対して大きめの径を持つ	

C-92号住居跡 (第110~112図、PL14・15・104)

位置 Cc-32、Cd-32・33 形状 隅丸方形 規模 長辺5.08m、短辺5.0m、壁高0.57m

重複 C-165号住居跡(縄文時代)、C-166号住居跡、C-108号住居跡(弥生時代)、C-2号方形周溝墓を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 やや凹凸があるものの、かなり踏み締められておりしっかりしている。幅30~40cmの壁周溝がほぼ全周している。

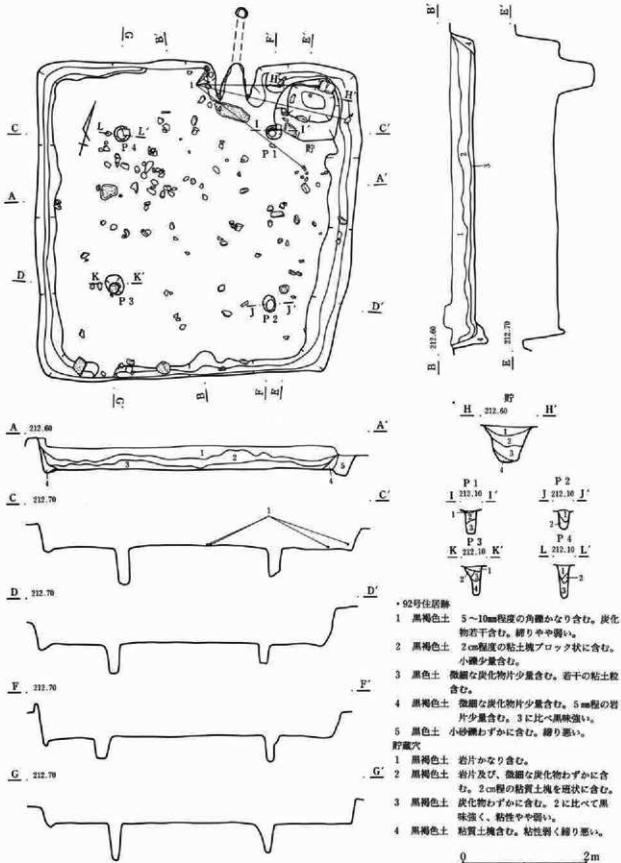
貯蔵穴 北東隅に検出されている。

柱穴 対角線上に4本検出されている。

竈 北壁中央やや東寄りに作られている。両袖焚口部に砂岩が立てられている。袖は礫混じりの粘性土を主体とする。天井部分に渡されていた、板状の砂岩が焚口部手前に置かれた状態で出土している。煙道は段をもって壁外に延びる。内面の焼土化が著しい。

出土遺物 土器、礫が出土しているが、床面との間に間層をもつものが多かった。図示したものは土師器埴が1点である。

調査所見 遺存状態は良好である。平面形状は僅かに南壁が短く、やや不正方形である。時期は奈良時代か。



第110図 C-92号住居跡

・92号住居跡

- 1 黒褐色土 5~10mm程度の角礫かなり含む。炭化物若干含む。締りやや弱い。
  - 2 黒褐色土 2cm程度の粘土塊ブロック状に含む。小礫少量含む。
  - 3 黒色土 微細な炭化物片少量含む。若干の粘土粒含む。
  - 4 黒褐色土 微細な炭化物片少量含む。5mm程の礫片少量含む。3に比べ黒味強い。
  - 5 黒色土 小砂礫わずかに含む。締り悪い。
- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 礫片かなり含む。
  - 2 黒褐色土 礫片及び、微細な炭化物わずかに含む。2cm程の粘質土塊を斑状に含む。
  - 3 黒褐色土 炭化物わずかに含む。2に比べて黒味強く、粘性やや弱い。
  - 4 黒褐色土 粘質土塊含む。粘性弱く締り悪い。

### 第3章 検出された遺構と遺物

P 1

- 1 黒褐色土 5mm程の岩片かなり含む。
- 2 黒褐色土 5mm程の岩片及び粘質土塊わずかに含む。
- 3 黒褐色土 3~5cm程の粘質土塊状に含む。締り良い。

P 2

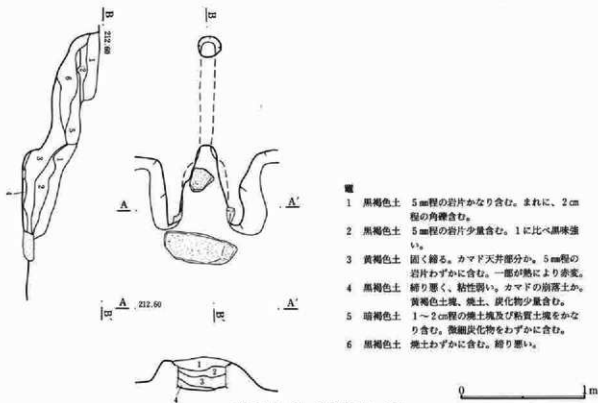
- 1 黒褐色土 5mm程の岩片少量含む。
- 2 黒褐色土 粘質土小塊状に含む。焼土を少量含む。

P 3

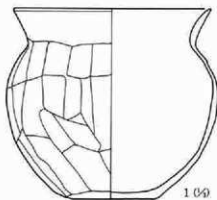
- 1 黒褐色土 5mm程の岩片かなり含む。
- 2 暗黄褐色土 基礎粘質土を多量に含む。締り良い。
- 3 黒褐色土 焼土わずかに含む。締り良い。
- 4 黒褐色土 粘質土塊状に含む。締りやや悪い。

P 4

- 1 黒褐色土 5mm程の岩片少量含む。
- 2 黒褐色土 小礫含む。1に比べ黒味強く締り悪い。
- 3 黒褐色土 粘質土塊、更に含む。締り良く、粘性弱い。



第111図 C-92号住居跡・竈



第112図 C-92号住居跡出土遺物

C-92号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	構成	成形の特徴	備考
1	土師器 小皿	床面	16.0 6.7	15.0	砂礫含む	淡褐色	良	外口縁部横撫で 胴部置り 内口縁部横撫で 胴部撫で	ほぼ完形

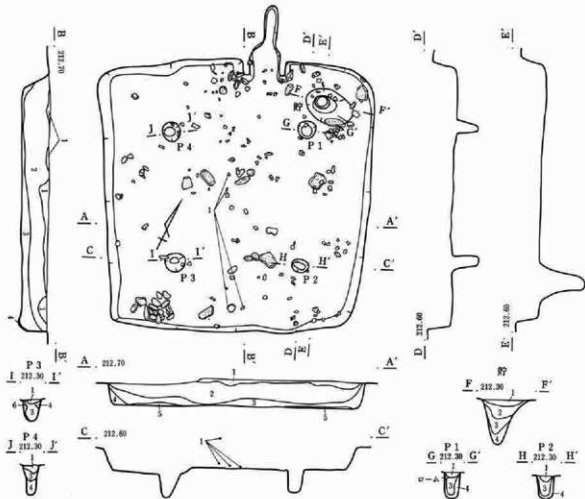


C-98号住居跡 (第114・115図、PL15・104)

位置 Ce・Cf-28・29 形状 隅丸方形 規模 長辺4.34m、短辺4.24m、壁高0.42m

重複 C-184号住居跡 (古墳時代)、C-198号住居跡 (弥生時代)、C-203号住居跡 (縄文時代)、C-207号住居跡 (弥生時代)、およびC-208号住居跡 (弥生時代) を切る。またC-2号掘立柱建物跡が重複している。

埋没土 小礫含む砂礫土。



・98号住居跡

- 1 黒褐色土 砂利、小礫が点々と混入。褐色土粒、灰白色粒子混入。締りなし。
- 2 暗褐色土 砂利、小礫多量に含む。淡褐色土塊、褐色土塊多量混入し、縞状を呈す。
- 3 黒褐色土 小礫、灰白色粒子が点在。褐色土粒も若干見られる。粒子はやや細かい。
- 4 褐色土 粒子の極めて細かい褐色土粒が大部分を占める。
- 5 褐色土 隙を部分的に含む。粘性ある。黒褐色土塊混入し、縞状を呈す。粘床粘土か。

貯蔵穴・P1~4

- 1 暗褐色土 小礫少量及び、微細炭化物、白色土粒若干含む。固く良く締る。
- 2 暗褐色土 やや黄色味強く、砂礫及び炭化物の混入多い。
- 3 暗褐色土 粘質土ブロック若干混入。1に比べ小礫の混入少ない。
- 4 暗褐色土 砂質土を主体とし、粘質土ブロック一部含む。締り悪く3に比べ、黄色味強い。
- 5 黄褐色土 粘質土主体とし、若干の炭化物含む。
- 6 黄褐色土 粘質土塊かなり含む。砂礫少量混入。

第113図 C-98号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

**床面** 比較的平坦で凹凸は少ない、竈前面が良く踏み締められている。

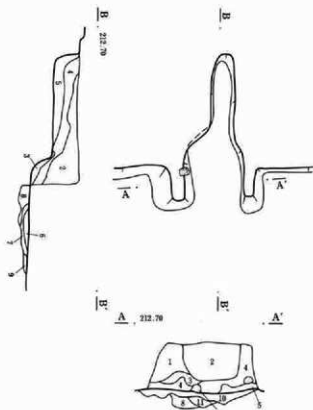
**貯蔵穴** 北東隅に検出されている。

**柱穴** 対角線上に4本検出されている。

**竈** 北壁中央やや東寄りに作られている。袖部分は砂粒含む粘性土で構築されているが、比較的粘性土の混入量が少ない。煙道は段差をもって壁外に短く延びる。

**出土遺物** あまり多くはなく、床面より浮いたものが多い。蓋編石と思われる礫10数点が南西隅より出土している。

**調査所見** 西側部分を先行調査した住居である。各壁はいずれも遺存状態が良く、立ち上がりも比較的明確に検出された。時期は古墳時代後期である。



第114図 C-98号住居跡・竈



第115図 C-98号住居跡出土遺物

- 竈**
- 1 黒褐色土 小礫かなり含む。微細炭化物及び、焼土わずかに混入。
  - 2 黒褐色土 1に比べ、黒味強い。炭化物及び、焼土若干含む。
  - 3 暗褐色土 焼土及び、炭化物をかなり含む。礫の混入量少なく、やわらかく締り悪い。
  - 4 暗褐色土 焼土及び、炭化物若干含む。3に比べて、黄色味が強く、ローム若干混入。
  - 5 暗褐色土 粘質土かなり含む。炭化物、焼土の混入少ない。
  - 6 黄褐色土 黒味強い。焼土かなり含む。粘質土ブロック、炭化物若干混入。
  - 7 暗褐色土 上面に焼土が層状に含まれる。若干の微細炭化物及び、白色土粒混入。
  - 8 暗褐色土 若干の微細炭化物及び、ごくわずかの焼土含む。小礫及び粘質土若干混入。
  - 9 黄褐色土 粘質土主体。均質で良く締る。
  - 10 黄褐色土 粘質土若干含む。4に似るが、より黄色味強い。
  - 11 黄褐色土 砂礫少量混入。焼土若干含む。

C-98号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坪	+2	13.0	5.1	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	器面風化

## C-99号住居跡 (第116・117図, PL15・104)

位置 Cg-31・32 形状 隅丸長方形 規模 長辺(3.50)m、短辺2.60m、壁高0.20m

重複 C-68号住居跡(弥生時代)を切り、C-61号住居跡(古墳時代)、C-63号住居跡(古墳時代)に切られる。

埋没土 小砂礫含む砂礫土。

床面 平坦だが余り締まりはない。

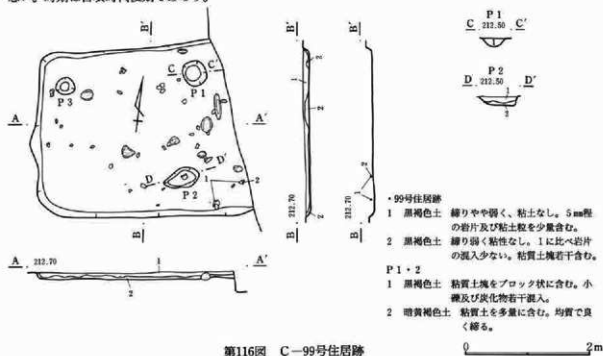
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 やや偏った位置に3カ所検出されているが、確定できない。

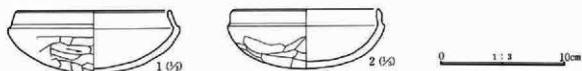
竈 検出されていない。東側にあつたと推察されるが、他の住居により壊されてしまったものと思われる。

出土遺物 極めて少ない。土師器環が南壁際において床面より若干浮いた状態で出土している。

調査所見 竈が存在していたと思われる東側部分、および全体的に上面を削平されていて遺存状態は極めて悪い。時期は古墳時代後期であろう。



第116図 C-99号住居跡



第117図 C-99号住居跡出土遺物

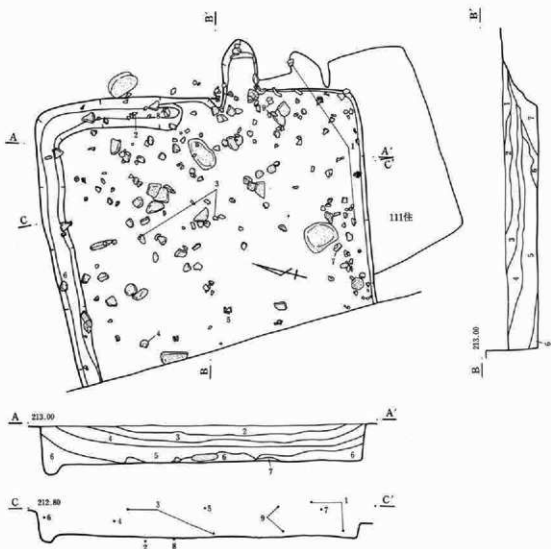
C-99号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	構成	整形の特徴	備考
1	土師器 環	+3	(12.4)	5.0	微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横溝で 体部無溝り 内 口縁部横溝で 体部無で	
2	土師器 環	+2	(11.8)	4.7	微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横溝で 体部無溝り 内 口縁部横溝で 体部無で	

C-102号住居跡 (第118~120図、PL16・104・105)

位置 Bt・Ca-41・42 形状 隅丸方形か 規模 長辺5.13m、短辺(4.40)m、壁高0.61m

重複 C-111号住居跡(古墳時代)、C-113号住居跡(平安時代)を切る。



・102号住居跡

- 1 黒色土 小礫多く含む、粗粒土。
- 2 黒色土 小礫多く含む。粗粒土。若干の粘質土小ブロック混入。
- 3 黒色土 小礫多く含む。粗粒土。粘質土ブロック混入。2よりやや茶色を帯びる。
- 4 黒褐色土 小礫多く含む。粗粒土。粘質土ブロック混入多い。
- 5 黒褐色土 砂礫多く含む。若干の黄色粒子混入する。
- 6 茶褐色土 微砂粒多く含む。粗粒。若干の炭化物含む。
- 7 淡褐色土 黄白色粘土を主体とする。若干の炭化物混入を含む。

0 2m

第118図 C-102号住居跡

**埋没土** 礫を多く含む砂礫土で黒味がかっている。5層に分層でき、レンズ状堆積を示す。下層に地山の黄褐色土ブロックを含む。

**床面** 平坦で比較的締まっている。地山の茶褐色粘質土を床面としている。北壁および東壁下の北半分に幅約30cmの壁周溝がし字に巡る。

**貯蔵穴** 検出されなかった。

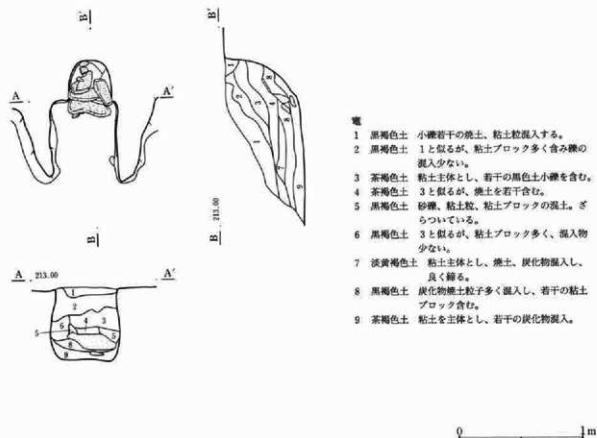
**柱穴** 検出されなかった。

**竈** 東壁中央やや南寄りに作られている。遺存状態は比較的良い、本体部分は礫を含む粘性土で作られている。両袖部には砂岩が用いられ、燃焼部内にも構築材として用いられていたと思われる砂岩が、折り重なるように落ち込んだ状態で検出されている。燃焼部内には焼土が多く見られたことから、比較的長期間使用されていたものと思われる。

**出土遺物** 竈前面部分を中心に、破片類が若干出土しているが器形を復元し得るものはあまり多くはなかった。器種としては須恵器杯・埴および土師器の杯・甕が見られた。またやや大型の砂岩片や河原石が土器類と共に出土している。

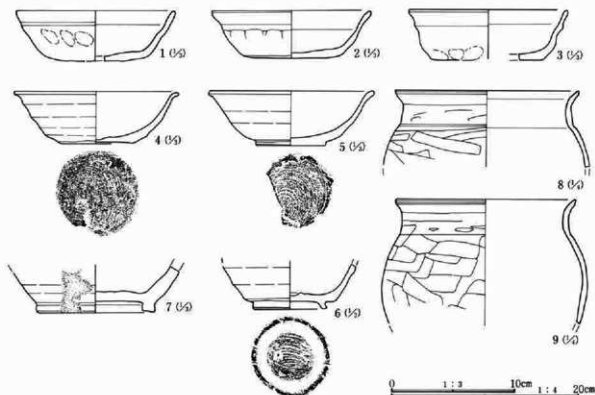
**調査所見** 西側の一部は調査区外となる。南側部分は他の遺構があるために壁の立ち上がりやや不明瞭であった。東壁、北壁の遺存状態は比較的良かった。平面形は調査区外となる西側がやや狭まる形状を呈す。

出土遺物はあまり多くはなく、いずれもやや浮いた状態のものが多かった。時期は平安時代である。



第119図 C-102号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第120図 C-102号住居跡出土遺物

C-102号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 杯	+9	(13.0) (8.0)	4.0	微砂粒僅かに含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部撫で、底部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	体部外面に指頭圧痕
2	土師器 杯	床面	(13.0) 7.8	3.7	微砂粒僅かに含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部撫で、底部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
3	土師器 杯	+5	(13.0) (9.0)	4.0	微砂粒僅かに含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部撫で、底部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	体部外面に指頭圧痕
4	須恵器 杯	+24	13.4 6.0	4.1	砂粒僅かに含む	灰白色	良	ロクロ整形	表面風化
5	須恵器 杯	+45	(13.6) 5.6	4.3	砂粒僅かに含む	灰色	良	ロクロ整形	
6	須恵器 塊	+37	6.0		精製	灰黑色	良	ロクロ整形 付け高台	
7	灰釉(壺)	+41	9.6		砂粒僅かに含む	灰緑色	良	ロクロ整形 付け高台	底部片
8	土師器 壺	床面	(19.8)		微砂粒僅かに含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部裏削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	口縁部、胴部外面に輪痕み視られる
9	土師器 壺	+7	(19.2)		精製	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部裏削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	口縁部外面に輪痕み視られる

C-103号住居跡 (第121・122図、PL16・105)

位置 Ca・Cb-42 形状 隅丸方形か 規模 長辺 (4.15) m、短辺 (3.50) m、壁高0.2m

重複 北側にC-107号住居跡、南側にC-113号住居跡 (平安時代) が重複し、西側部分は調査区外となる。

埋没土 砂礫を含み、粗粒。

床面 平坦ではあるが、軟質で、明確な面としてはとらえられなかった。

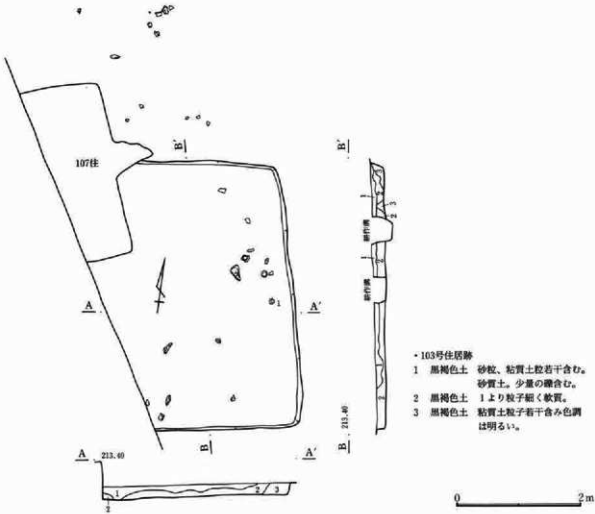
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。

出土遺物 極めて少ない。

調査所見 当初遺物の散布が認められたため、住居として範囲を認定して調査を行ったものの、床面、壁ともに明確ではなく、竈も痕跡を含めて検出できなかった。住居と認定するには積極的な根拠に欠ける。



第121図 C-103号住居跡



第122図 C-103号住居跡出土遺物

C-103号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 壺	覆土	(8.0)		微砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 胴部稜削り 内 胴部削で	底部片

### 第3章 検出された遺構と遺物

C-105号住居跡 (第123~125図, PL16・105)

位置 Cd-34・35 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.56m、短辺3.25m、壁高0.36m

重複 C-56号住居跡(弥生時代)、C-106号住居跡(古墳時代)を切る。

埋没土 砂礫多く含み、比較的締まった黒褐色土。

床面 他の住居内に作られているために、壁、床面は部分的にやや不明瞭なところがある。竈前面に関しては礫の混入が目立つ粘性土で貼られ、かなり締まっている。

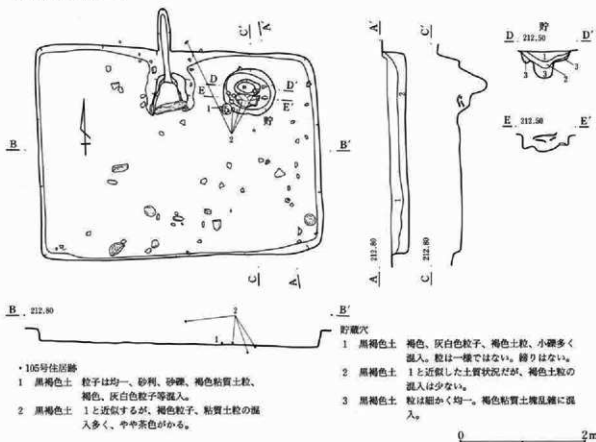
貯蔵穴 北東隅に検出された。周辺部はやや高まりを持つ、ほぼ円形を呈し、2段に掘り込まれている。上層より長壁が横倒しに押し潰された状態で出土している。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁ほぼ中央に作られている。礫を含む粘土主体の黄褐色土で作られている。焚口部両袖には砂岩が据えられ、天井部分に渡されていた。やや厚手の砂岩がほぼ中央で2つに割れた状態で、落ち込んでいる。煙道は、やや上向きの角度で壁外に細くトンネル状に延びる。

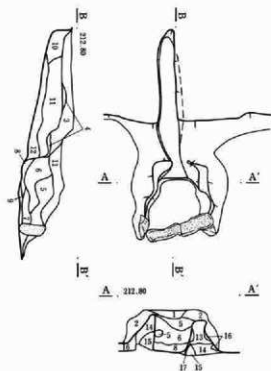
出土遺物 貯蔵穴で土師器長甕、その際でほぼ完形の土師器杯が置かれたような状態で出土しているが、他はほとんどが小破片である。

調査所見 調査開始時点で重複関係が明確につかめていなかったことから、掘削を行って行く中で住居西側の床面を一部掘り過ぎてしまった。また東側部分の床面は検出したものの、やや明確さに欠ける点がある。やや小型の住居で、横に長い形態である。壁高は最大で約40cmを測り、竈の遺存状況も良好である。時期は古墳時代後期である。



第123図 C-105号住居跡

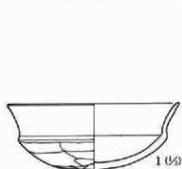




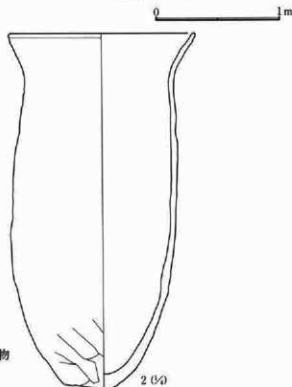
第124図 C-105号住居跡・竈

電

- 1 黒褐色土 褐色土粒、砂礫多量に含み粗粒。
- 2 褐色土 暗褐色土塊、砂利、小礫等雑多に混入。上層は褐色の皮合強く、下層ほど黒くなる。
- 3 褐色土 褐色土粒、砂利、小礫等が雑多に混入。
- 4 暗褐色土 2と同様の混入物。褐色土粒の皮合が強い。
- 5 黒褐色土 粒の大きさは一様ではなく、締りはない。褐色土粒、土塊、砂利等が混ざりあり。
- 6 褐色土 褐色粘質土、明褐色粘性土塊、黒褐色土塊部分的に混入。まだらをなす。
- 7 黒褐色土 2と近似するが、褐色土粒子の混入多い。
- 8 暗褐色土 3とほぼ同様だが、褐色の皮合が弱い。
- 9 明褐色土 赤褐色焼土の堆積が目立つ。
- 10 黒褐色土 1に対して褐色土の混入がより著しい。
- 11 黒褐色土 褐色、灰白色粒子、砂利等が雑多に混入。褐色土塊若干混入。締りはない。
- 12 黒褐色土 褐色、灰白色粒子、褐色土塊等が雑多に混入。粒子は不均一、締りはない。
- 13 赤褐色土 固く締る。特に内層は赤く焼けている。粘性質。黒褐色土、砂利等が混入し固い。
- 14 褐色土 やや粘性を帯びた褐色土塊と黒褐色土、砂利等が混入。塊をなし締る。
- 15 褐色土 黒褐色土、褐色土、砂利等が雑多に混入。
- 16 褐色土 黒褐色土、砂利、褐色、灰白色粒子多く混入。住居覆土。
- 17 黒褐色土 竈内埋設土。褐色土粒が目立つ。粒は細かく、締りはない。



第125図 C-105号住居跡出土遺物



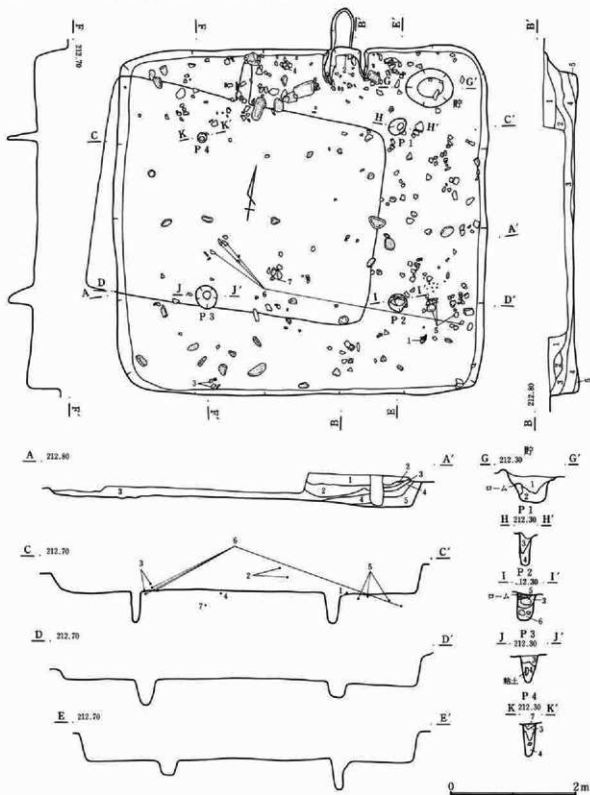
C-105号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高 底高(cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面	14.0	5.2	微砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部真削り 内 口縁部横線で 体部横で	ほぼ完形 外縁強い
2	土師器 壺	貯蔵穴内	19.9	37.5	砂礫含む	暗褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部真削り 内 口縁部横線で 胴部横で	やや粗雑な作り

C-106号住居跡 (第126~128図、PL16・17・105)

位置 Cd・Ce-34・35 形状 隅丸方形 規模 長辺5.98m、短辺5.46m、壁高0.45m

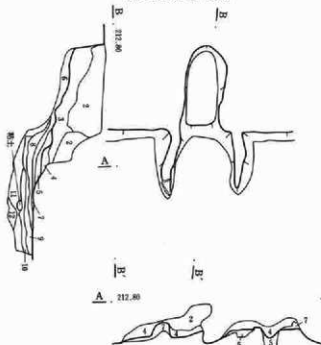
重複 C-105号住居跡 (古墳時代) に西側部分を切られる。



第126図 C-106号住居跡

## ・106号住居跡

- 1 黒褐色土 砂利、小礫、褐色、灰白色粒子等混入。褐色で固い粘性土塊が多量に混入し、黒褐色土とまじらなす。
- 2 黒褐色土 砂礫、粒子等は、1と同様の混入状況。褐色土塊の混入少ない。黒っぽく締りはない。
- 3 黒褐色土 砂礫、粒子等は、1と同様の混入状況。固い、或は粘性質の褐色土塊の混入多いが、1より若干劣る。
- 4 黒褐色土 砂利、小礫、褐色、灰白色粒子やや混入。褐色土塊が若干混入。粒も細かく、雑多な堆積状況であり締りはない。
- 5 暗褐色土 砂利、小礫、褐色、灰白色粒子、褐色土粒等が混入。締りはない。床面近くでは、褐色粘性土塊が若干混入。



第127図 C-106号住居跡・竈

## 貯蔵穴・P1~4

- 1 暗褐色土 砂礫若干混入し、粘質土粒子目立つ。
  - 2 暗褐色土 1と近似、粘質土の混入少なく、粘性あり。
  - 3 暗褐色土 小礫、粘質土若干混入。微細炭化物ごくわずかに含む。
  - 4 暗褐色土 砂質土をブロック状に含み、ごく弱い粘性あり。
  - 5 黒褐色土 比較的均質。ごくわずかに粘質土塊含む。
  - 6 暗褐色土 締り良く、粘性ごく弱い。基盤ローンを多量に含む。
  - 7 暗褐色土 小礫少量及び、粘質土塊かなり混入。
- 1 黒褐色土 砂利、小礫、褐色粒、粒子等雑多に混入。褐色粒子少ない。
  - 2 黒褐色土 砂礫を多く含み、粗粒。
  - 3 黒褐色土 砂礫少々、褐色粘性土塊、土粒、粒子、ところどころ、灰白色粒子少々。
  - 4 褐色土 砂礫を多く含む。炭化物混入し赤褐色土塊と互層をなす部分あり。細粒でやや締りあり。
  - 5 黒褐色土 褐色土、赤褐色土、炭等混入。締りあり。褐色土、褐色粘性土塊、黒褐色土が混在。砂礫若干混入。褐色粒子、灰白色粒子若干含まれる。
  - 6 褐色土 灰白色粒子、黒褐色土塊が若干混入。粒子細かく、電油燐葉粘土と思われる。
  - 7 赤褐色土 燧土の堆積、砂利、黒褐色土が若干混入。粒子は細かく固く締っている。
  - 8 黒褐色土 褐色粘性土塊及び褐色土粒が多量。黒褐色土塊が混入。砂礫多く混入。
  - 9 黒褐色土 砂利、小礫、褐色土粒、土塊が混入。炭粒も若干見える。粒は細かく締る。
  - 10 黒褐色土 砂利、小礫、褐色土塊、褐色土粒、褐色粒子、灰白色粒子を雑多に含む。堆積状況は乱雑。やや固い。
  - 11 暗黒褐色土 砂利、小礫、褐色土粒、粒子、灰白色粒子が点在。粒子細かく締りあり。

0 1m

埋没土 礫を含む砂礫質の土である。

床面 全体に凹凸が見られ、締まりはあまり良くない。

貯蔵穴 北東隅に検出した。

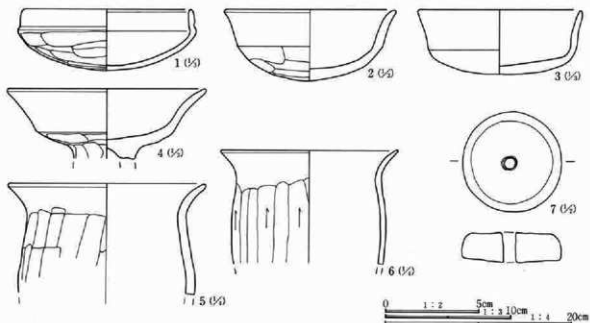
柱穴 対角線上に4本を検出した。住居規模に較べてやや小ぶり、径は15~25cmである。

竈 北壁中央やや東寄りに作られている。袖部分はかなり壊れており、焚口の袖および天井部に使われていたと思われる砂岩が竈の左側に散乱した状態で出土している。煙道は一段高くなって壁外に延びている。

出土遺物 竈周辺に集中して見られた。土師器等の破片が多かったが、全体に浮いた状態で出土している。

調査所見 西部にC-105号住居跡が重複しているが、全体的に遺存状態は良い。掘り方面の露呈を行ったところ、住居壁際が幅80cm、深さ20cmに掘り下げられており、中央部分が方形に高まり、中央部には径1m、深さ20cm程の掘り込みが見られた。時期は古墳時代後期である。

第3章 検出された遺構と遺物



第128図 C-106号住居跡出土遺物

C-106号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 環	+2	(13.6)	4.8	砂粒僅かに 含む	白黄褐色	普通	外 口縁部横線で 体部蔑削り 内 口縁部横線で 体部無で	
2	土師器 環	竈内	(14.0)	5.6	砂粒僅かに 含む	黄褐色	普通	外 口縁部横線で 体部蔑削り 内 口縁部横線で 体部無で	器面やや風化
3	土師器 環	床面	13.3	5.1	砂粒含む	黄褐色	普通	外 口縁部横線で 体部蔑削り 内 口縁部横線で 体部無で	器面やや風化
4	土師器 高環	床面	16.2		砂粒含む	橙褐色	普通	外 口縁部横線で 体部蔑削り 内 口縁部横線で 体部無で	環部 器面やや風化
5	土師器 壺	床面	(21.1)		砂粒僅かに 含む	黄褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部蔑削り 内 口縁部横線で 胴部無で	
6	土師器 壺	床面	(19.0)		砂粒含む	灰赤褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部蔑削り 内 口縁部横線で 胴部横線で	器表面に砂粒目立つ
7	土製紡錘 車	床面	径5.3cm 厚さ1.7cm 孔径0.65cm 重さ56.8g 完形、土製赤形。弥生か						

C-107号住居跡 (第129・130区、PL17・105)

位置 Ca-42、Cb-42・43 形状 隅丸方形か 規模 長辺 2.83m、短辺 (1.15) m、壁高0.30m

重複 C-103号住居跡 (平安時代)、C-110号住居跡 (平安時代)を切り、西側半分以上は調査区外となる。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 平坦であるが縮まりはなく、全体的に黒っぽい。

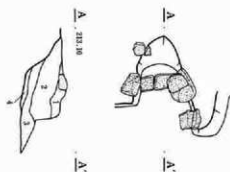
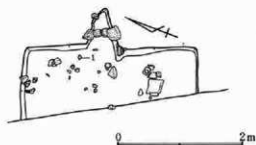
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁ほぼ中央に作られている。壁外にV字形にほりだされ、右側は隙を並べ構築している。天井に渡された石が中央で折れて検出されている。焼土の検出はあまりなかった。

出土遺物 須恵器境が床面より出土している。

調査所見 西側半分が調査区外になる。出土遺物から時期は平安時代である。

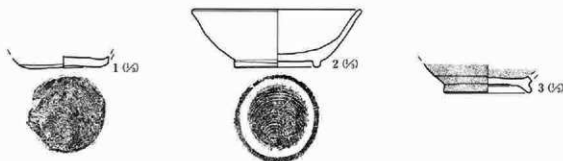


## ・107号住居跡

■

- 1 黒色土 多量の砂礫含みざらつく。
- 2 黒褐色土 砂礫を含み、若干の焼土を含み、やや赤みを帯びる。
- 3 黒褐色土 2に似るが、焼土の混入少なく、黒味強い。
- 4 黒褐色土 砂礫含み、若干の黄色粒子を含む。

第129図 C-107号住居跡・竈



第130図 C-107号住居跡出土遺物



## C-107号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+20	6.6	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
2	須恵器 埴	床面	13.8 7.0	微砂粒僅かに含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	器面やや風化
3	須恵器 埴	+7	7.1	微砂粒僅かに含む	黒色	良	ロクロ整形 付け高台	内外面黒色

## C-109号住居跡 (第131図、PL17)

位置 Cc-43 形状 隅丸方形か 規模 長辺 2.68m、短辺 (1.80) m、壁高0.30m

重複 C-119号住居跡 (平安時代) を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 礫の混入目立つ土で、締まりは弱い。

貯蔵穴 検出されなかった。

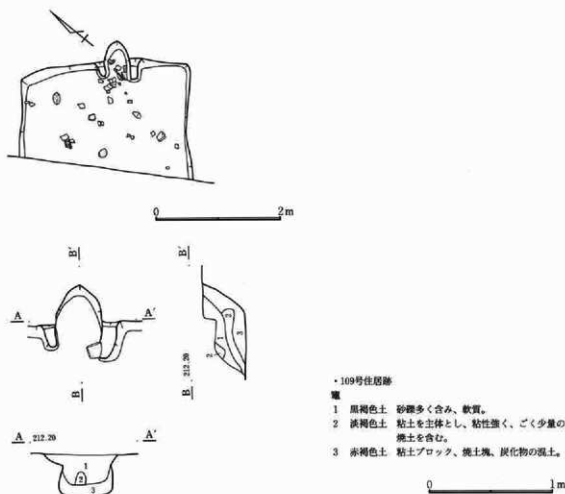
### 第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁ほぼ中央に作られている、V字形に壁外に掘り出され、袖部分は礫を多く含む粘質土で作られている、袖の芯材として砂岩が使われている。

出土遺物 竈焚口部分で壺、坏の小破片が検出されているのみである。

調査所見 調査区西壁に掛かって検出されたため、西側部分は調査区外となる。貯蔵穴、柱穴などの住居内施設は検出されなかった。時期は平安時代と思われる。



第131図 C-109号住居跡・竈

#### C-110号住居跡 (第132・133図、PL17・105)

位置 Cb-42・43 形状 隅丸方形か 規模 長辺3.11m、短辺2.10m、壁高0.3m

重複 南部分をC-107号住居跡(平安時代)に切られる。また西側半分は調査区外となる。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 やや凹凸を持つが、比較的平坦である。締まりは弱い。

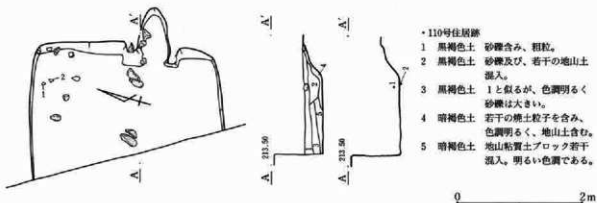
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

**竈** 東壁ほぼ中央に作られている。住居内への袖の張り出しは少なく、燃焼部は紡錘状に壁外に作り出されている。焼土はほとんど見られなかった。

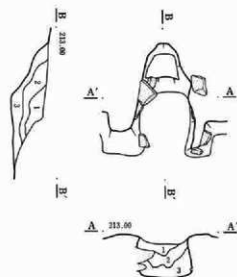
**出土遺物** 貯蔵穴の最上部において、須恵器の坏が見られた。

**調査所見** 調査を行うことができたのが、全体の約半分であったために、平面形は不明である。検出された部分の壁については比較的遺存状態は良く、ほぼ垂直に立ち上がる。時期は平安時代である。



・110号住居跡

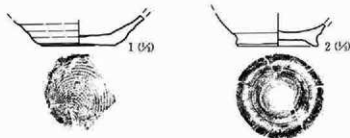
- 1 黒褐色土 砂礫含み、粗粒。
- 2 黒褐色土 砂礫及び、若干の地山土混入。
- 3 黒褐色土 1と似るが、色調明るく砂礫は大きい。
- 4 暗褐色土 若干の焼土粒子を含み、色調明るく、地山土含む。
- 5 暗褐色土 地山粘質土ブロック若干混入。明るい色調である。



**竈**

- 1 暗褐色土 小礫を若干混入し、やや風味を持つ。
- 2 暗褐色土 1に似るが、礫の混入少なく、少量の焼土粒を含む。
- 3 赤褐色土 焼土塊含む。地山の粘性土ブロック若干混入。良く締る。

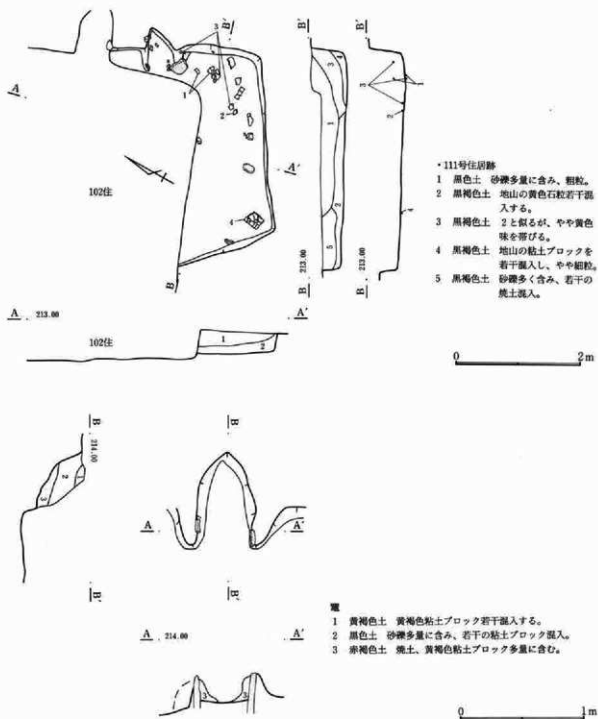
第132図 C-110号住居跡・竈



第133図 C-110号住居跡出土遺物

C-110号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+9	(6.2)	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
2	須恵器 埴	床面	6.7	微砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	



第134図 C-111号住居跡・竈



## C-111号住居跡 (第134・135図、PL18・105・106)

位置 Bt-41 形状 隅丸方形か 規模 長辺3.46m、短辺(2.40)m、壁高0.58m

重複 C-102号住居跡(平安時代)に切られる。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 北側半分以上をC-102号住居跡に切られているため、全体の状況は不明である。検出できた部分については比較的平坦で、全体的にはあまり締まりはないが、やや締まった黒色土が斑に見られる。

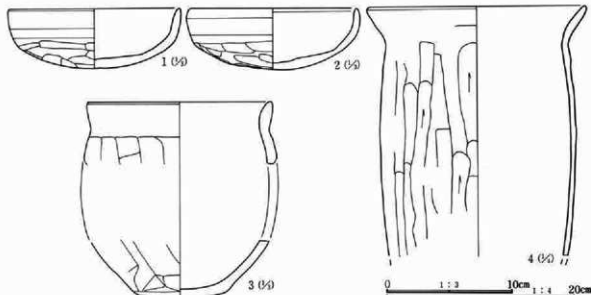
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁ほぼ中央に作られているが、遺存状態は悪い。両袖の焚口部には板状の砂岩が芯材として据えられている。

出土遺物 C-102号住居跡によって大きく切られているため量的に少なかったが、南壁際に沿って甕、坏類の破片が若干見られた。

調査所見 遺存状態は良くなく、竈のある東壁と南壁部分側の一部を検出。時期は古墳時代後期である。



第135図 C-111号住居跡出土遺物

## C-111号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器 器 坏	床面	(14.0)	4.8	砂粒含む	暗茶褐色	普通	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	体部裏削り 体部裏で
2	土器 器 坏	床面	14.0	4.9	砂粒僅かに 含む	明褐色	良	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	体部裏削り 体部裏で
3	土器 器 甕	床面	(15.1)	7.8	砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部裏削り 胴部裏で
4	土器 器 甕	床面	(23.4)		砂粒含む	茶褐色	普通	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部裏削り 胴部裏で

## C-112号住居跡 (第136・137図、PL18・106)

位置 Cc・Cd-39・40 形状 隅丸方形 規模 長辺2.78m、短辺2.56m、壁高0.1m

重複 C-47号住居跡(弥生時代)の北西隅をわずかに切る。

第3章 検出された遺構と遺物

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 面としてはとらえにくく、かなり凹凸が見られ、荒れた状態である。

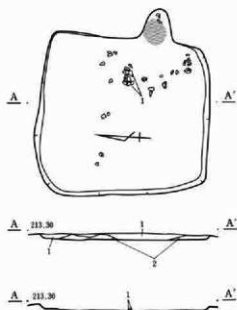
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央やや南寄りに作られている。ほとんど削られており、遺存状態は極めて悪い。燃焼部本体の下面のみ確認したに過ぎない。

出土遺物 少ない。図示し得たのは須恵器の塊1点のみである。

調査所見 かなり小型の住居である。全体に削平を著しく受けており、確認した壁高はわずかである。特に北壁、東壁部分についてはほとんど壁高は認められなかった。出土遺物から時期は平安時代と考えられる。



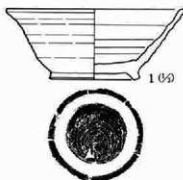
・112号住居跡

1 黒褐色土 砂礫多量に含む。僅かに地山黄色粘質土粒子混入。

2 黄褐色土 地山の黄色砂礫を主体とした砂利層。

第136図 C-112号住居跡

0 2m



第137図 C-112号住居跡出土遺物

0 1:3 5cm

C-112号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 塊	+2	14.6 7.4	5.6	微砂粒僅かに含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	ロクロ水挽き振切取
1	土師器 坏	+4	(12.0)		砂粒含む	黄褐色	普通	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部削で	器面やや風化

## C-113号住居跡 (第138図、PL18・106)

位置 Ca-42 形状 不明 規模 長辺2.35m、短辺1.5m、壁高0.17m

重複 南部分をC-102号住居跡(平安時代)に切られ、西側半分以上は調査区外となる。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 地山の砂礫土が部分的に露出している。

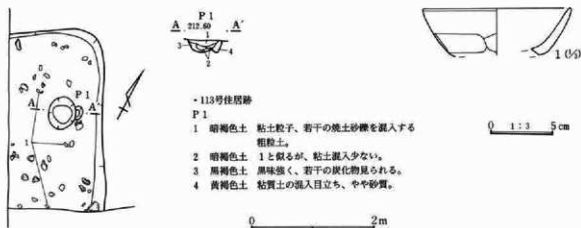
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 北東隅よりに1カ所検出されている。

竈 検出されなかった。

出土遺物 若干の破片類が見られた。

調査所見 住居の4分の1ほどが調査できたに過ぎず、全体の状況は不明である。竈は確認されなかったが、北壁の未調査区部分にあるものと推定される。時期は平安時代か。



第138図 C-113号住居跡・出土遺物

## C-119号住居跡 (第139・140図、PL18・106)

位置 Ch・Cc-42・43 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.12m、短辺3.56m、壁高0.35m

重複 C-109号住居跡(平安時代)、C-110号住居跡(平安時代)のごく一部が西端部分に重複する。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 かなりの凹凸をもつ。

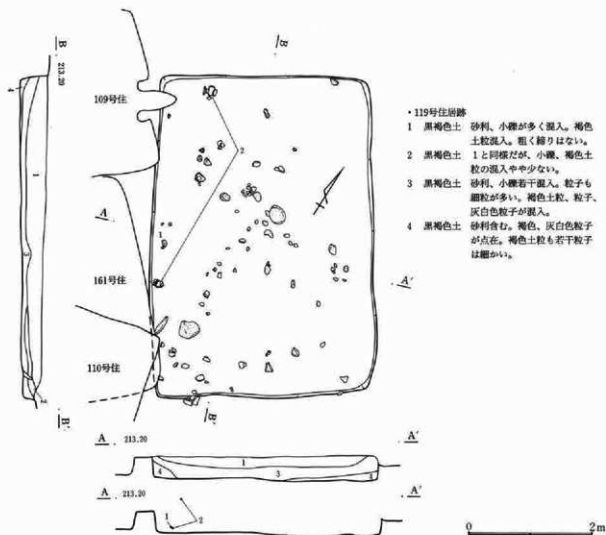
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

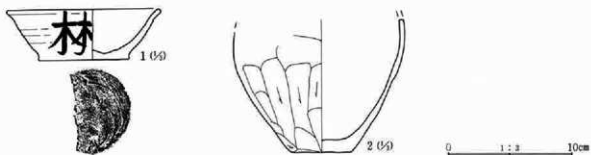
竈 検出されなかった。

出土遺物 点数は少なかったが、西壁際より出土した須恵器の坏に「林」と読める墨書が書かれている。

調査所見 竈、貯蔵穴、柱穴などの施設は検出されなかったが、形状、掘り込みの状況などから住居として処理を行った。時期は平安時代である。



第139図 C-119号住居跡



第140図 C-119号住居跡出土遺物

C-119号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 杯	+10	(12.6) (7.4)	4.0	微砂粒僅かに含む	橙褐色	良	ロクロ整形 底部回転未切り (左)	外面体部に屋書(林)
2	土師器 壺	+7		5.0	微砂粒少量含む	茶褐色	良	外 胴部莖削り 内 胴部無で	胴部のみ

## C-120号住居跡 (第141~143図、PL18・106)

位置 Cr-50・51 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.20m 短辺3.56m 壁高0.35m

重複 C-145号住居跡 (古墳時代) を切る。

埋没土 礫、地山土小ブロックを混入。

床面 縄文時代の住居上に作られており、全体にやや凹凸が見られ、比較的軟質。

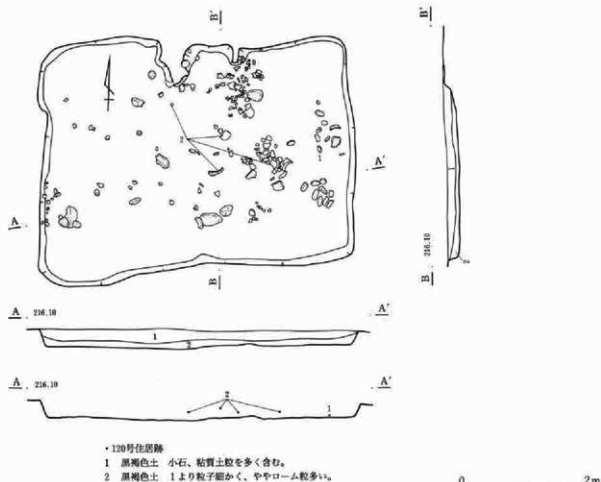
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや東寄りに検出された。本体上部はほとんど削られており、かなり壊れた状態であった。袖、本体部分を形作っていたと思われる粘土および焼土がかなり広い範囲に崩れた状況で検出された。内部にはかなりの焼土が検出されている。

出土遺物 竈前面に土器の小破片、礫が、粘土に混じり検出されている。図示し得たものは須恵器の蓋、土器器臺の2点である。いずれも床面より若干浮いた状態で出土している。

調査所見 上部をかなり削平されており、各壁の掘り込みは明確さに欠ける部分もあった。検出した各壁は直線的でなかったが、住居全体の形状はほぼ確認された。時期は出土遺物から奈良時代と考えられる。



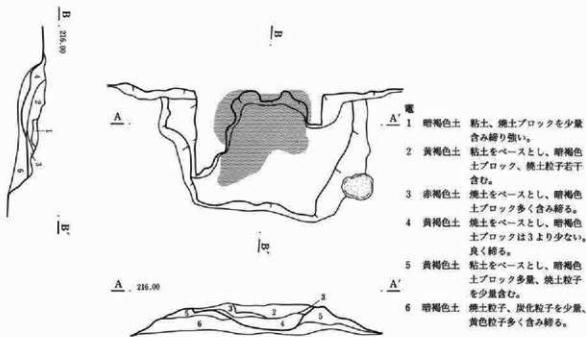
・120号住居跡

1 黒褐色土 小石、粘質土粒を多く含む。

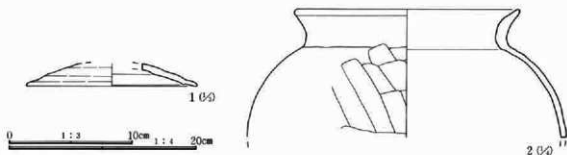
2 黒褐色土 1より粒子細かく、ややローム粒多い。

第141図 C-120号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第142図 C-120号住居跡・竈



第143図 C-120号住居跡出土遺物

C-120号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 蓋	+3	(14.0)		精製	灰色	良	ロクロ整形	外面に自然釉付着
2	土師器 壺	+7	24.0		砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部削り 胴部撫で 大型品

C-121号住居跡 (第144~148図、PL18・19・106・107)

位置 Co・Cp-49・50 形状 隅丸方形 規模 長辺4.84m、短辺4.55m、壁高0.32m

重複 C-122号住居跡 (平安時代)、C-147号住居跡 (古墳時代)、C-154号住居跡 (平安時代) を切る。

埋没土 小礫含む砂壤土。

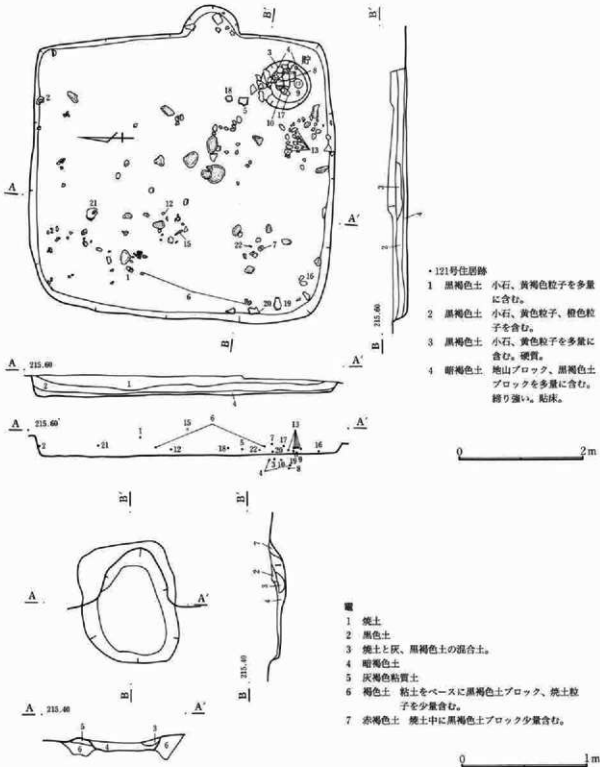
床面 凹凸が顕著で面としてはとらえにくい。

貯蔵穴 南東隅に検出。平面形状は円形を呈し、覆土中からは完形品を含む、比較的遺存状態の良い遺物が多く出土している。

柱穴 検出されなかった。

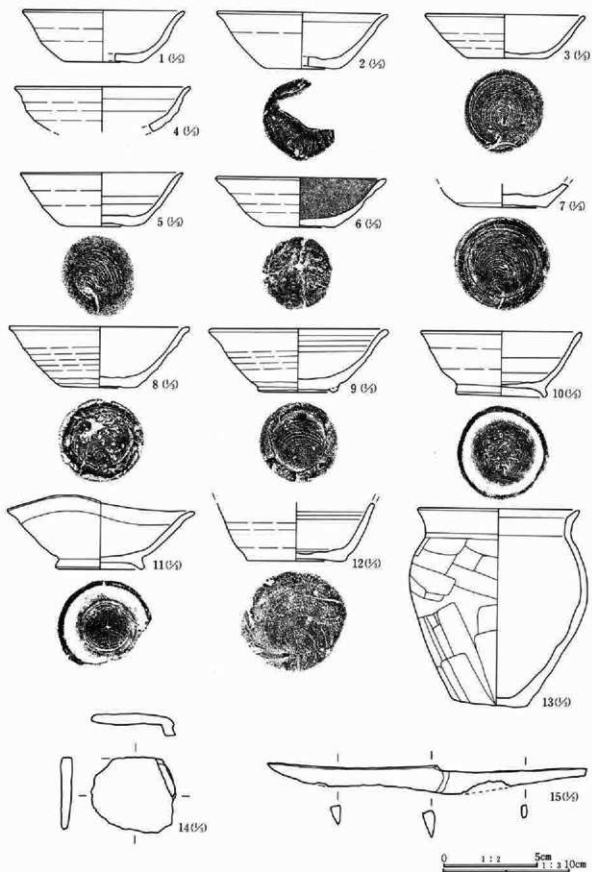
竈 東壁中央やや南寄りに作られている。褐色粘土で袖を構築しており、燃焼部内側が強く焼けている。

出土遺物 須恵器片、埴類が中心で、甕の破片には内面がほぼ円形に摩滅しているものも多く、転用甕と考えられる。その他土錘4点、刀子、鎌が各1点づつ出土している。



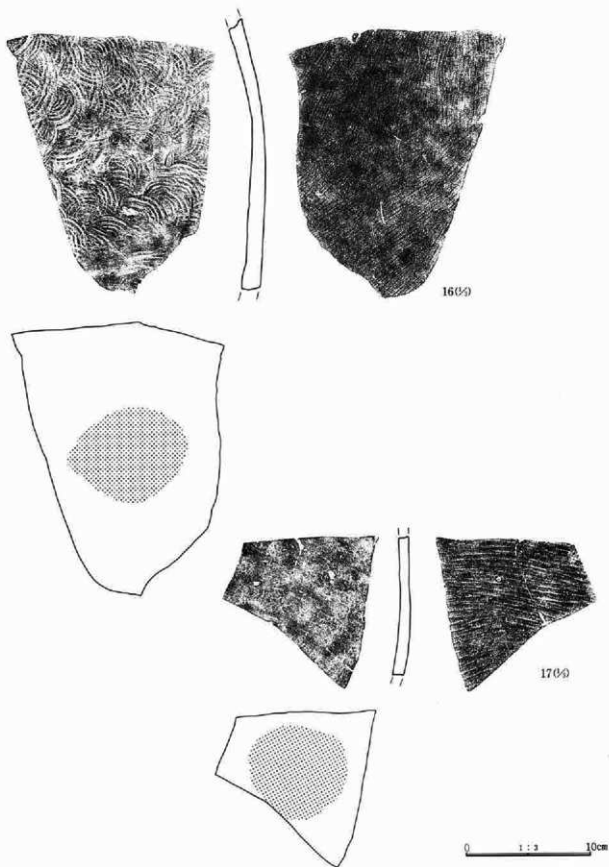
第144図 C-121号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物

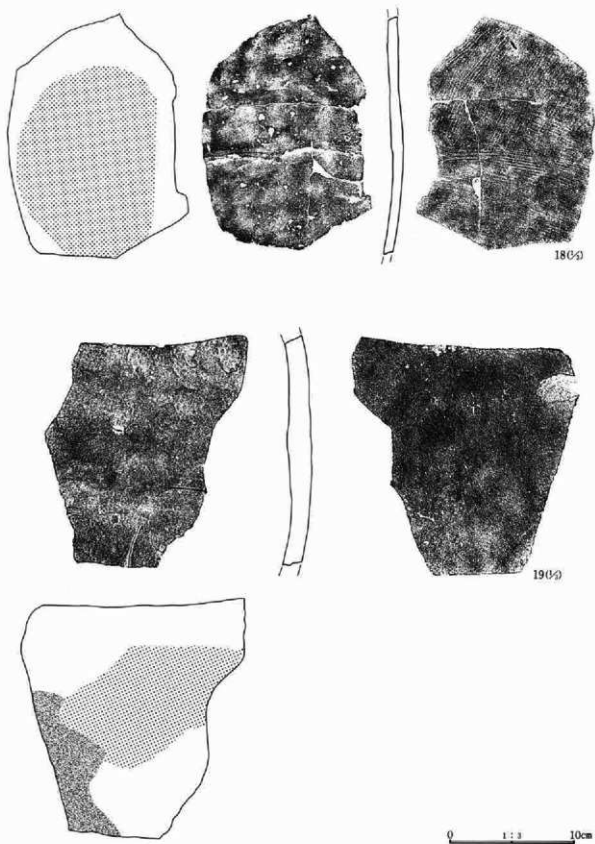


第145図 C-121号住居跡出土遺物(1)

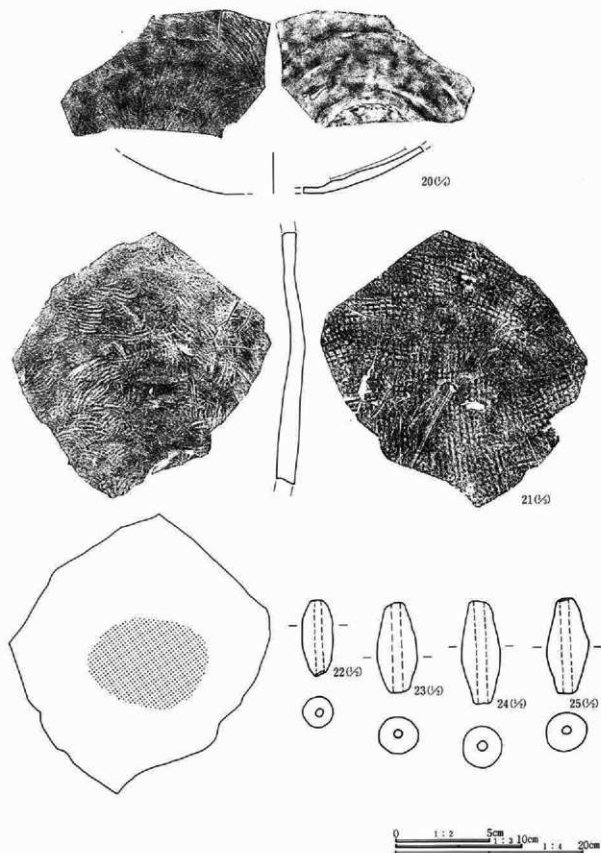




第146图 C-121号住居跡出土遺物(2)



第147図 C-121号住居跡出土遺物(3)



第148図 C—121号住居跡出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物

C-121号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+29	(13.0)	4.1 (6.4)	砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形	
2	須恵器 坏	+15	(13.6)	4.4 (6.0)	砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形	
3	須恵器 坏	貯蔵穴内	12.8	3.5 6.4	精製	灰褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り (左)	
4	須恵器 坏	貯蔵穴内	(14.0)		精製	灰色	良	ロクロ整形	外面ロクロ目痕明瞭
5	須恵器 坏	+9	(13.0)	4.2 6.0	微砂粒含む	明灰色	良	ロクロ整形	
6	須恵器 坏	+12	(13.6)	3.9 5.4	精製	灰黒色	普通	ロクロ整形	内外面黒色 軟質
7	須恵器 埴	+15	(6.7)		砂粒僅かに 含む	灰白色	普通	ロクロ整形 付け高台	高台部分を欠く
8	須恵器 埴	貯蔵穴内	14.4	4.8 (6.0)	砂粒僅かに 含む	明灰色	良	ロクロ整形 付け高台	ほぼ完形、高台欠く
9	須恵器 埴	床面	14.4	5.0 6.4	砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	ほぼ完形 高台部分 ほとんど摩滅
10	須恵器 埴	貯蔵穴内	(12.9)	5.2 7.3	砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	
11	須恵器 埴	覆土	(15.0)	5.8 7.1	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	焼き込み顕著
12	羽 釜	+9		7.8	微砂粒含む	明褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り (右)	底部片
13	土師器 小型甕	+4	(13.0)	15.7 6.0	精製	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部彫削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
14	鏝	覆土	長さ4.5cm 幅4.0cm 厚さ0.6cm 重さ24.0g 厚手の基部片						
15	刀 子	覆土	長さ17.0cm 幅1.4cm 厚さ0.6cm 重さ18.0g 細身で先端部尖る、背側明瞭						
16	須恵器 甕	+2			精製	灰色	良	外面 叩き目 内面 青海波文当て痕	胴部片 転用甕
17	須恵器 甕	+12			砂粒含む	灰色	良	外面 平行叩き目痕 内面 撫で	胴部片 転用甕
18	須恵器 甕	+11			砂粒含む	灰色	良	外面 平行叩き目 内面 撫で	胴部片 転用甕
19	須恵器 甕	+5			微砂粒含む	灰色	良	外面 撫で 内面 指撫で痕	厚手の胴部片 転用 甕 (磨痕あり)
20	須恵器 甕	+4			砂粒僅かに 含む	灰色	良	外面 平行叩き後撫で 内面 撫で	胴 (底) 部片 転用 甕
21	須恵器 甕	+17			微砂粒含む	灰色	良	外面 格子目叩き 内面 青海波文当て痕	胴部片 転用甕
22	土 鉢	+7	長さ4.0cm 径1.6cm 高さ9.2g 淡黄褐色を呈す 完形						
23	土 鉢	覆土	長さ4.7cm 径1.6cm 高さ9.2g 淡黄褐色を呈す 完形						
24	土 鉢	覆土	長さ5.3cm 径2.7cm 高さ19.4g 灰黄白色を呈す 完形						
25	土 鉢	覆土	長さ5.0cm 径2.2cm 高さ19.4g 灰黄白色を呈す 完形						

調査所見 南東部は重複等による削平が著しく、残りが悪いが、他の部分については比較的良好で、遺物の出土量も多かった。時期は平安時代である。

## C-122号住居跡 (第149~151図、PL19・107・108)

位置 Co・Cp-49 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.62m、短辺3.75m、壁高0.42m

重複 C-121に切られ、C-143号住居跡、C-154号住居跡を切る。

埋没土 小礫を含む黒褐色土。

床面 やや凹凸があり、南東部が低くなっている。

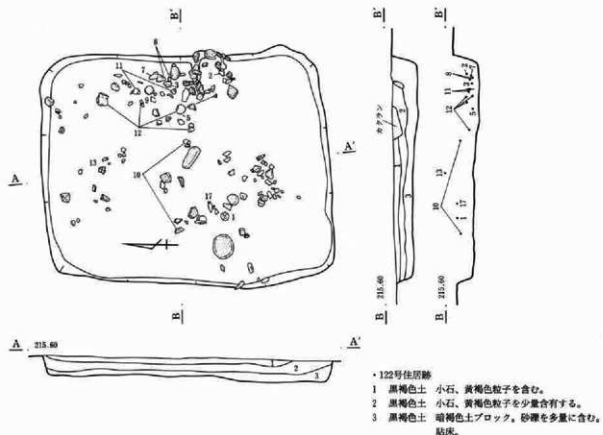
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央やや南寄りに作られている。袖および壁に砂岩の切石を使用しており、周辺から多量に砂岩が出土した。また土器類も、特に北側から多く出土している。焼土はほとんど検出されず、覆土に若干含まれる程度である。

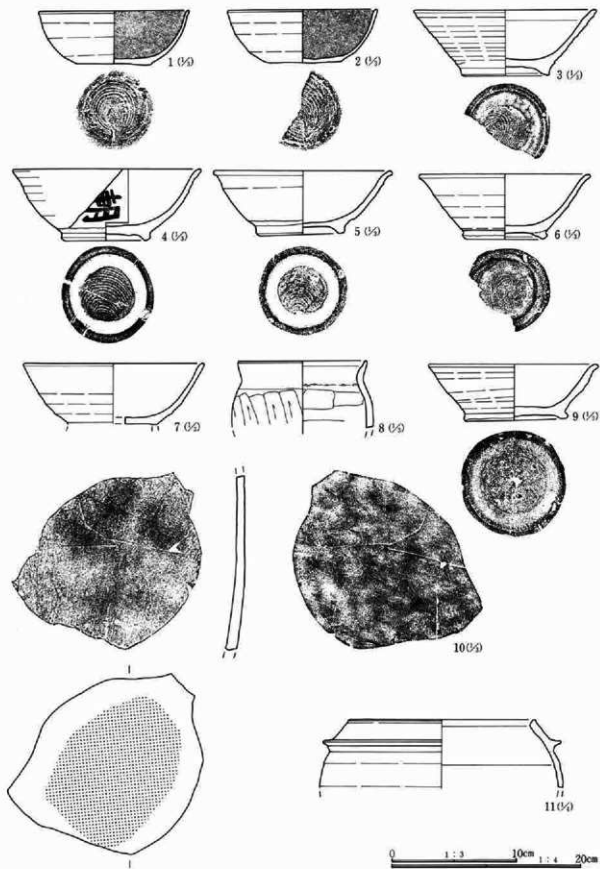
出土遺物 出土量はやや多く、特に竈の北側から多く出土している。南東部には少ない。竈周辺のもの床面付近出土のものが多いが、他は浮いた状態で出土している。須恵器環、甕類が中心で土師器甕も多く出土している。甕の破片には内面が人為的に摩滅しているものもあり、転用甕と考えられる。他に土鏝5点が出土している。時期は平安時代である。

調査所見 比較的残りの良い住居で、壁高もかなりあるが、西壁がやや長く台形を呈する。

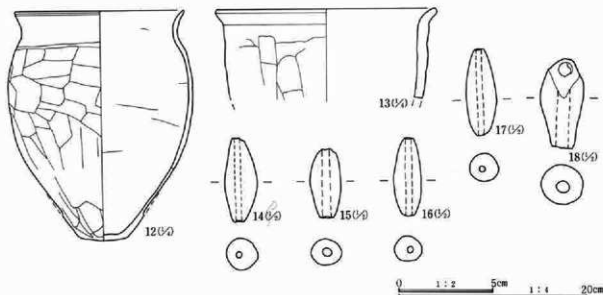


第149図 C-122号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第150図 C-122号住居跡出土遺物(1)



第151図 C-122号住居跡出土遺物(2)

C-122号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	高さ 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+24	12.1 5.8	4.3	微砂粒含む	灰褐色	良	ロクロ整形 内面磨き	内面黒色処理
2	須恵器 坏	壺内	(12.0) (6.3)	4.2	微砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	ロクロ整形 内面磨き	内面黒色処理
3	須恵器 塊	+10	(14.7) 7.1	5.2		灰白色	良	ロクロ整形 付け高台	
4	須恵器 塊	覆土	15.2 7.2	5.7	精製	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	外面黒書「網」か
5	須恵器 塊	+9	14.4 7.1	5.2	砂粒僅かに 含む	黒褐色	良	ロクロ整形 付け高台	ほぼ完形 軟質
6	須恵器 塊	覆土	(13.3) 7.1	5.2	精製	灰白色	良	ロクロ整形 付け高台	
7	須恵器 塊	+11	(14.6) (7.2)	(4.8)	微砂粒含む	灰黒色	普通	ロクロ整形 付け高台	高台欠
8	土師器 壺	+10	(10.3)		微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部刷毛痕で	
9	須恵器 塊	+15	13.7 8.4	4.6	砂粒含む	灰黒色	普通	ロクロ整形 付け高台	完形
10	須恵器 罍	+20			砂粒僅かに 含む	青灰色	良	叩き整形後無で	破片 転用現
11	須恵器 羽 蓋	+17	(20.0)		砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形	
12	土師器 壺	+11	18.1 5.2		砂粒含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部無で	
13	土師器 土 蓋	+47	(23.6)		砂粒含む	茶褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部無で	口縁部小片 厚手
14	土 鉢	覆土	長さ4.5cm 径1.8cm 重さ9.9g 灰黄褐色を呈す ほぼ完形						
15	土 鉢	覆土	長さ3.7cm 径1.7cm 重さ7.2g 淡茶褐色を呈す 一端部を僅かに欠損						
16	土 鉢	覆土	長さ4.2cm 径1.5cm 重さ7.3g 灰黒色を呈す 完形						
17	土 鉢	+27	長さ4.6cm 径1.6cm 重さ9.6g 灰褐色を呈す 完形						
18	土 鉢	覆土	長さ(4.8)cm 径2.3cm 重さ15.8g 灰黄褐色を呈す 一端部を欠く						

C-123号住居跡 (第152・153図、PL19・20・108)

位置 Cl・Cm-48・49 形状 隅丸方形 規模 長辺4.45m 短辺4.20m 壁高0.45m

重複 C-137号住居跡、C-138号住居跡 (古墳時代) を切り、C-142号住居跡に切られる。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 やや凹凸のある床面である。黒褐色土で貼床を施しており、よく締まっている。

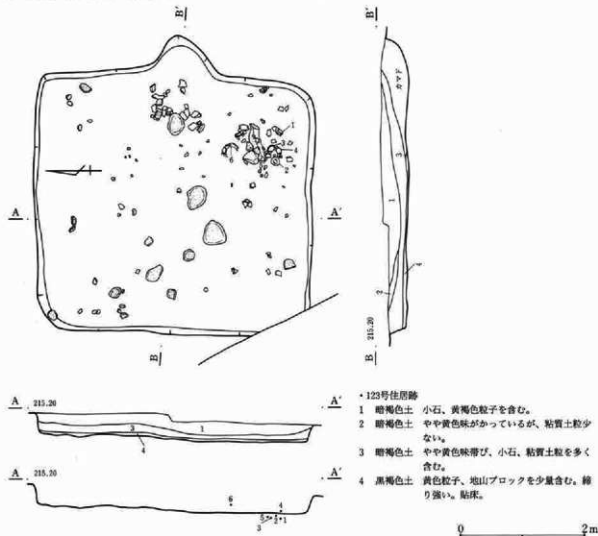
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央部に作られている。遺存状態は悪く、袖は残っていない。袖石も不明であるが、前面に砂岩の破片が多く出土しており、燃焼部からも少量出土しているため、砂岩を補強材として使用したと考えられる。火床面は比較的好く焼けている。

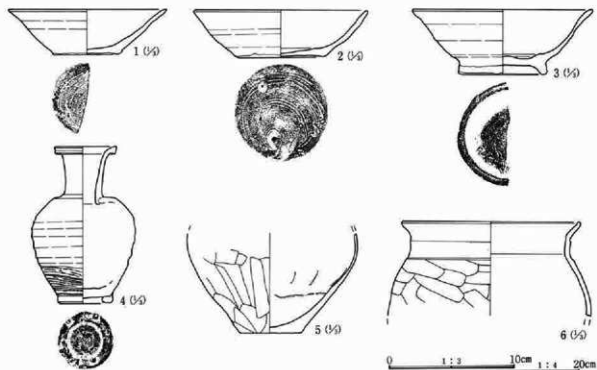
出土遺物 出土量は余り多くないが、南東部に比較的遺存状態の良い遺物が集中しており、図示した遺物はすべてここから出土している。出土層位も6の層位以外は、床面付近からの出土である。また、竈前面からも出土しているが、形を復元できるものは無かった。

調査所見 南西隅部が調査区外にかかり不明であるが、他は比較的残りが良い。時期は平安時代である。



第152図 C-123号住居跡





第153図 C-123号住居跡出土遺物

C-123号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	須恵器環	床面	(12.6)	3.6	精製	灰色	良	ロクロ整形	
2	須恵器環	床面	14.0	3.9	精製	灰白色	良	ロクロ整形	
3	須恵器環	床面	(14.3)	5.2	小礫含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	器面やや風化
4	灰輪小罎	床面	5.0	12.3	砂粒含む	緑褐色	良	ロクロ整形 胴下半部施所り	実形 付け高台
5	土師器鉢	床面		4.8	微砂粒含む	茶褐色	良	外 胴部、高部寛削り 内 胴部施で	胴下半部
6	土師器鉢	+12		18.9	微砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横施で 胴部施削り 内 口縁部横施で 胴部施で	

C-124号住居跡 (第154・155図、PL20・108・109)

位置 Ci-45~47、Cj-45 形状 隅丸方形 規模 長辺4.77m、短辺4.64m、壁高0.24m

重複 C-136号住居跡(古墳時代)に切られる。さらにC-212・271号住居跡が重複。

埋没土 小礫を多く含む暗褐色土である。

床面 若干凹凸があるが、ほぼ平坦な床面である。比較的良好に締まる。

貯蔵穴 北東隅に検出された。径65×51cmの楕円形で、深さ35cmであり、西側に段がある。

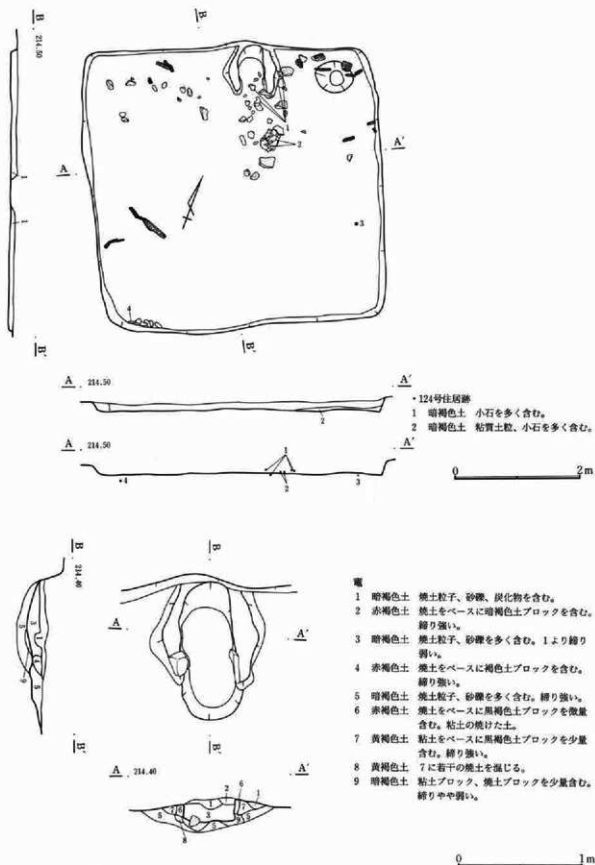
柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや東寄りに作られている。砂岩を袖石として粘土で構築されている。燃焼部の掘り込みは深く、あまり焼けていない。

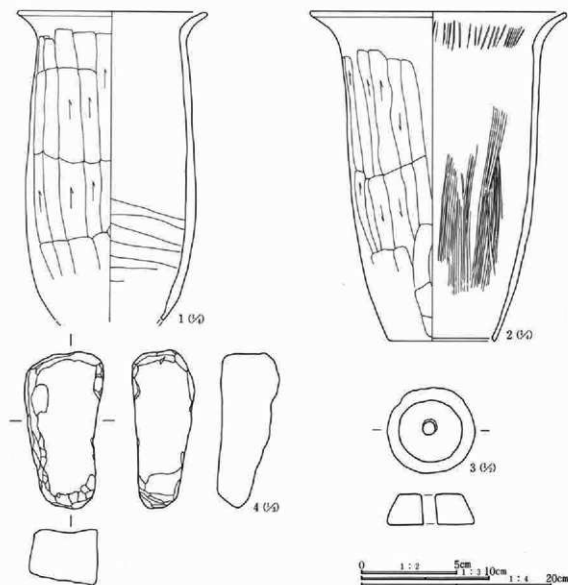
出土遺物 出土量は少なく、竈およびその前面に集中している。また、炭化材が少量出土している。

調査所見 全体の形状はほぼ判明したが、遺存状態は悪く、壁高は低い。時期は古墳時代後期である。

第3章 検出された遺構と遺物



第154図 C-124号住居跡・室



第155図 C-124号住居跡出土遺物

C-124号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考	
1	土師器壺	竈内	(20.2)	砂礫多く含む	茶褐色	普通	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で	胴部置削り 胴部削で	変形の混入目立つ
2	土師器壺	竈内	(27.2) 34.9 11.2	砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横溝で 内 口縁部横溝で	胴部置削り 胴部削で後戻り	輪縁接合部に露れみ
3	紡錘車	床面	径4.6cm 厚き1.6cm 重き46.1g 孔径0.7cm				磁沢石		
4	磁石	床面	長さ12.6cm 幅5.4cm 高さ4.4cm 重き490g				磁沢石	2面を使用、両面ともに中央部くぼむ	

C-125号住居跡 (第156・157図、PL20・109)

位置 Cn・Co-49・50 形状 隅丸方形 規模 長辺5.35m、短辺4.77m、壁高0.30m

重複 C-122号住居跡 (平安時代) に切られる。

埋没土 黒色粒子を含む暗褐色土。

第3章 検出された遺構と遺物

床面 砂礫を含む土で、よく締まっている。

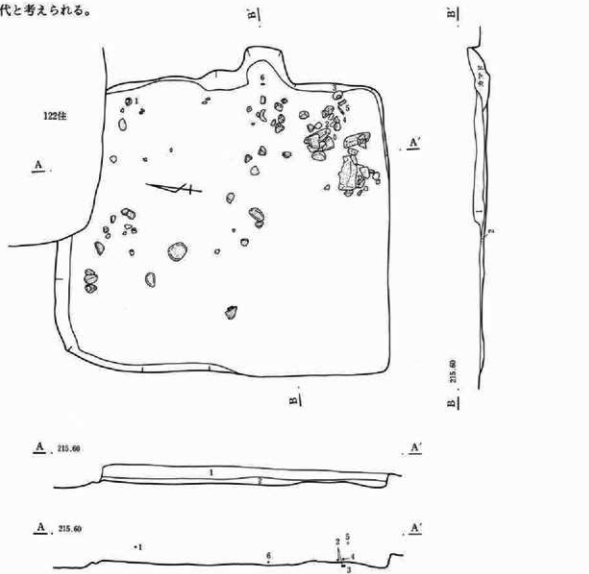
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央やや南寄りに作られている。遺存状態は悪く、袖ははっきりしない。砂岩の破片が前面から出土しており、砂岩を補強材としていたと考えられる。燃焼部の掘り込みは浅く、比較的よく焼けている。

出土遺物 出土量はやや少ないが、南東部から残りの良い遺物が多く出土しており、また竈補強材と考えられる砂岩の破片も多く出土している。南西部は削平されて遺物はほとんど残っていない。須恵器坏が多いが、灰釉陶器境も出土しており、他に土錘、鉄製刀子も出土している。

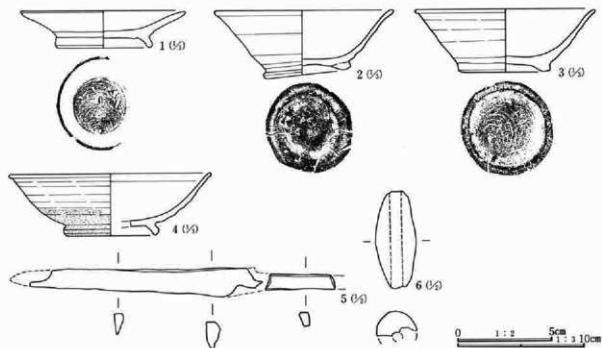
調査所見 南西部は埋没土がほとんど削平されており、遺存状態は良くない。出土遺物から、時期は平安時代と考えられる。



125号住居跡

- 1 暗褐色土 黒色の粒子をやや多量に含む。
- 2 暗褐色土 地山ブロック、砂礫を多量に含む。締り強い、粘床。

第156図 C-125号住居跡



第157図 C-125号住居跡出土遺物

C-125号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 高台付皿	+24	13.3 7.8	2.9	精製	灰白色	良	ロクロ整形 付け高台	
2	須恵器 埴	床面	14.4 7.0	5.4	砂較僅かに 含む	灰白色	良	ロクロ整形 付け高台	高台部ややつぶれて いる
3	須恵器 埴	床面	14.4 7.2	5.0	精製	灰白色	良	ロクロ整形 付け高台	ほぼ完形
4	灰輪軸	+4	(16.0) (7.6)	4.9	微砂較僅か に含む	灰白色	良	ロクロ整形 付け高台	軸葉は投げ掛け
5	刀子	床面	長さ16.3cm 幅1.5cm 厚さ0.7cm 重さ22.7g		やや細身で背幅がある				
6	土 鍋	竈内	長さ55.1cm 径2.2cm 重さ9.4g		灰白色を呈す 縦方向平分に割れている				

C-126号住居跡 (第158・159図, PL20・109)

位置 Ch・Ci-46・47 形状 隅丸方形か 規模 長辺3.50m、短辺 (2.71) m、壁高0.50m

重複 なし

埋没土 小礫を含む暗褐色土。

床面 若干の凹凸があるが、比較的平坦な床面である。

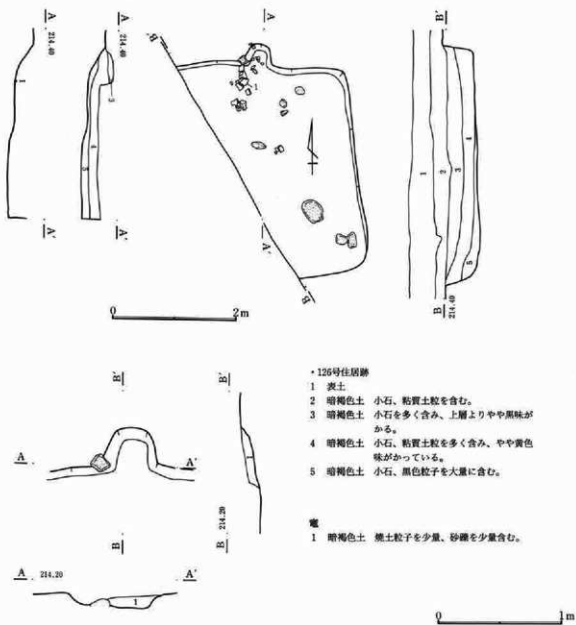
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

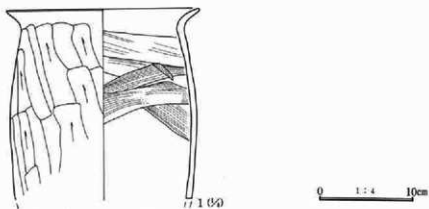
竈 北壁中央もしくは東寄りで作られている。遺存状態は悪く、袖部は残っておらず、左袖の補強材と考えられる砂岩が出土しただけである。

出土遺物 出土量は少なく、竈の前面から1の甕の破片がまとめて出土している程度である。

調査所見 西側が調査区外になるため、全容は不明である。出土遺物も少ないため時期もはっきりしないが、古墳時代後期から奈良時代の住居と考えられる。



第158図 C-126号住居跡・竈



第159図 C-126号住居跡出土遺物

C-126号住居跡遺物観察表

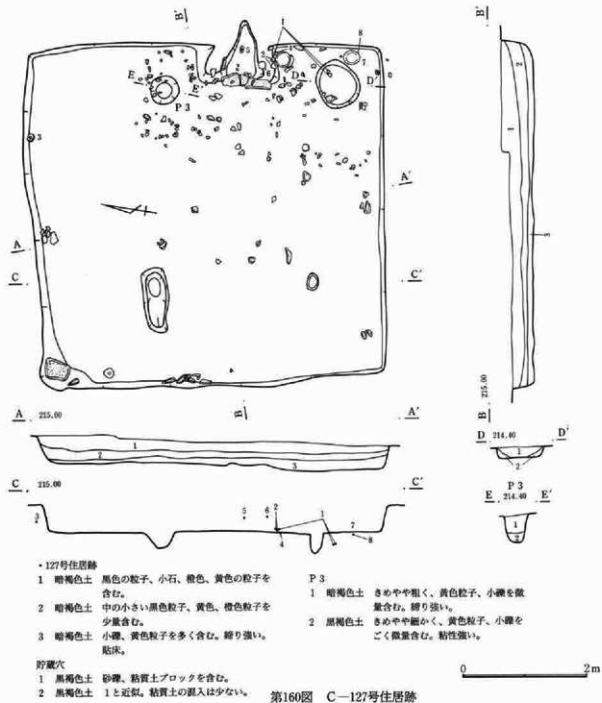
番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 壺	+2	(20.8)	砂粒層かに 含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部荒削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	

C-127号住居跡 (第160~162図、PL21・109)

位置 Cl・Cm-46・47 形状 隅丸方形 規模 長辺5.77m、短辺5.45m、壁高0.45m

重複 C-137号住居跡 (古墳)、C-302号住居跡、C-307号住居跡、C-324号住居跡を切る。

埋没土 黒色、黄色粒子を含む暗褐色土。



### 第3章 検出された遺構と遺物

**床面** 小礫を含む暗褐色土で貼られ、よく締まっている。ほぼ平坦であるが、部分的に凹凸がある。

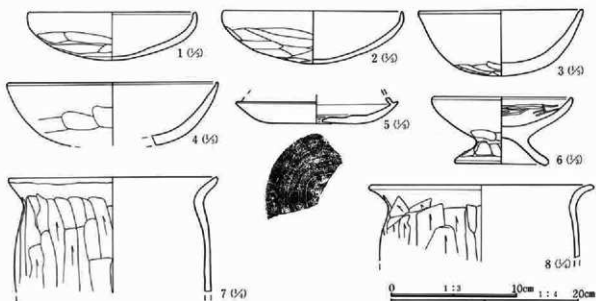
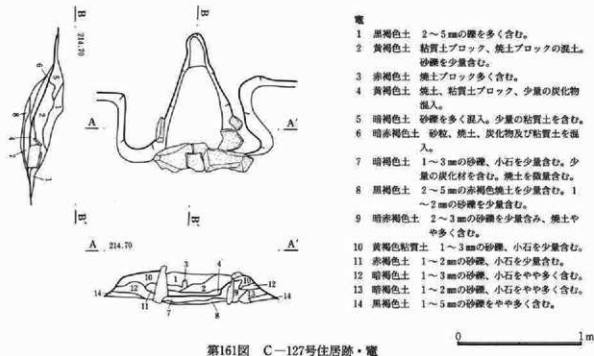
**貯蔵穴** 南東隅に検出された。平面形はほぼ円形であり、底部は広く平坦で、断面は平たい台形である。

**柱穴** 西側に2基のピットが検出されている。径100×40cm深さ25cmと径30×20cm深さ30cmである。位置的には柱穴として良いが、規模にも差があり、東側には検出されていないため、柱穴かどうか疑問が残る。

**竈** 東壁やや南寄りに作られている。砂岩の切石を補強材として黄褐色粘質土で袖を構築している。また天井石と考えられる砂岩が割れた状態で前面から出土している。

**出土遺物** 出土量はやや多く、住居の南東部に集中しており、特に竈周辺から多く出土している。

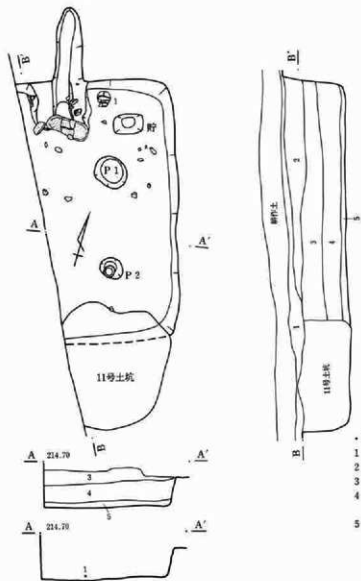
**調査所見** 遺存状態は良く住居の全面が調査できた。時期は古墳時代後期と考えられる。





C—127号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	貯蔵穴内	(13.6)	3.8	砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	
2	土師器 坏	+3	14.4	4.2	砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	
3	土師器 坏	+16	(13.2)	5.2	砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体(底)部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	かなり厚手
4	土師器 坏	床面	(17.0)		微砂粒僅か に含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	
5	須恵器 坏	窠内	(7.0)		微砂粒含む	灰紫色	良	外 口縁部横線で 底部回転削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	口唇部を欠く
6	土師器 高坏	+23	11.4 7.6	5.3	砂粒僅かに 含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部、脚部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で後磨き	脚は短い
7	土師器 壺	床面	22.6		砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 胴部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部蓋で	
8	土師器 壺	床面	24.1		砂粒僅かに 含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部蓋で	



第163図 C—128号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

C-128号住居跡(第163~165図, PL21・110)

位置 Ck-47・48, Cl-48 形状 隅丸方形か 規模 長辺4.15m、短辺(2.50)m、壁高0.95m

重複 C-151号住居跡を切り、C-11号土坑に切られる。

埋没土 礫を多く含む暗褐色土。

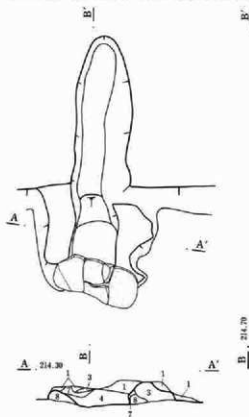
床面 地山ブロックを含む褐色土で貼られ、よく締まる。ほぼ平坦な床面である。

貯蔵穴 北東隅に検出された。平面形は円みを帯びた長方形で、径45×30cmと小規模である。

柱穴 東側に2基検出されたが、西側は調査区外のため不明である。径40~50cmの円形を呈する。

竈 北壁やや東寄りか。袖は褐色粘土で作られ、前面から天井石と考えられる砂岩が出土している。

出土遺物 出土量は少なく1の瓶以外は小破片である。



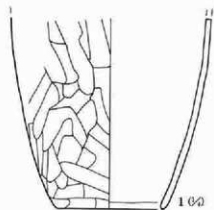
第164図 C-128号住居跡・竈

調査所見 西側が調査区外のため全容は不明である。時期は古墳時代後期と考えられる。

竈

- 1 黒褐色土 焼土、粘土粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 焼土、粘土粒子を微量、炭化物含む。1よりきめ細かく粘性弱い。
- 3 褐色土 粘土をベースに黒褐色土のブロックを多く含む。締り強い。
- 4 暗褐色土 焼土多く含む土を基調とし、粘土粒子、焼土ブロック、黒褐色土のブロックを含む。締り弱い。
- 5 黒褐色土 砂粒、黄色粒子を多く含む。粘性弱い。
- 6 暗褐色土 砂粒、黄色粒子を少量含む。きめ粗い。
- 7 赤褐色土 焼土をベースとし、褐色土ブロックを微量含む。粘土が塊けた土か。
- 8 褐色土 粘土をベースとし、黒褐色土ブロックを微量含む。締り強い。
- 9 黒褐色土 黄色粒子を微量含む。締り強い。
- 10 暗褐色土 焼土粒子を微量、黒褐色土ブロックを多く含む。
- 11 暗褐色土 地山土を基調とする。焼土粒子、黄色粒子、白色の細粒を少量含む。

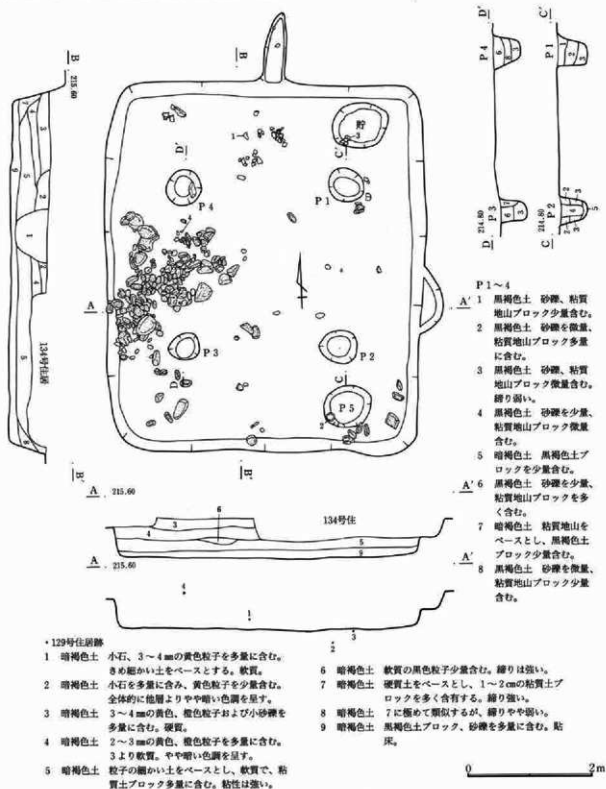
0 1m



第165図 C-128号住居跡出土遺物

C-128号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 甕	+7	11.6	隈砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 胴部旋削り縦、および横方向 内 横撫で 内胴底部旋削り	胴下半部のみ



第166図 C-129号住居跡

C-129号住居跡 (第166~168図、PL21・22・110)

位置 Cn-48、Co-47・48・49、Cp-48 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.87m、短辺5.16m、壁高0.73m

重複 C-134号住居跡 (奈良時代)、C-139号住居跡に切られる。

埋没土 小礫を含む暗褐色土。

床面 砂礫を含む暗褐色土で貼られ、ほぼ平坦な床面である。

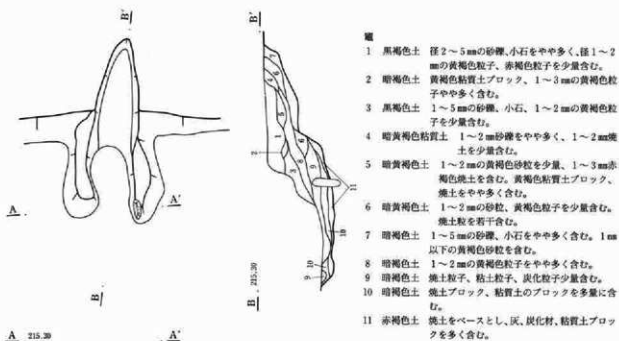
貯蔵穴 北東隅に検出された。平面形は楕円形で、径90×70cm深さ50cmである。上層から3の裏が潰れた状態で出土している。また南東部に径75×65cm深さ30cmのピットが検出されており、位置的には一般の貯蔵穴と異なるが、規模は同程度であり、完形の須恵器坏も出土している。

柱穴 対角線上に4本検出されているが、壁からの距離は東西方向に比べ南北方向が長くなっており、結果的に正方形に配置されている。径50~60cm深さ40~45cmと規模が大きく、掘り方もしっかりしている。いずれも砂礫を少量含む黒褐色土で埋まっており、P2では柱底が確認されている。

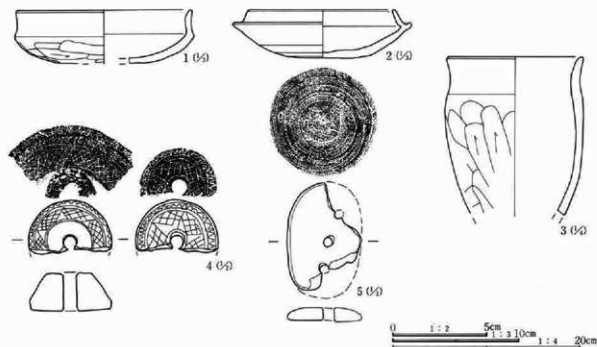
竈 北壁中央に作られている。袖部分の残りは比較的良く、暗黄褐色土で袖を構築しているが、芯材の砂岩は右袖しか出土していない。また燃焼部から支脚と考えられる棒状の礫が、立った状態で出土している。

出土遺物 土器の出土量は少ないが、西壁際中央付近に礫が集中して出土している。

調査所見 2軒の住居に切られているが、壁高がかなりあるため、全体的に遺存状態はよい。時期は古墳時代後期である。



第167図 C-129号住居跡・竈



第168図 C-129号住居跡出土遺物

C-129号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置	口径 底径(cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土器 鉢	+18	14.0		砂粒僅かに 含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り	
2	須恵器 鉢	貯蔵穴内	11.6	3.8	砂粒含む	灰色	良	外 口縁部横線で 体(底)部回転削り 内 口縁部横線で 体部削り	完形
3	土器 鉢	貯蔵穴内	14.8		小砂粒含む	灰黄褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	
4	紡錘車	+60	径4.4cm	厚さ2.6cm	重さ(36.8)g		孔径0.7cm	半分を欠く、蛇紋岩製 側面、下面に斜格子文、波状文あり	
5	土製品	覆土	長さ5.6cm	径4.0cm	厚さ0.7cm		ほぼ中央一列に3孔(径約0.4cm)あり	片面はやや膨らみを持つ 両端部を欠	

## C-130号住居跡 (第169～171図、PL.22・110)

位置 Cp・Cq-50・51 形状 隅丸方形か 規模 長辺5.38m、短辺(4.20)m、壁高0.45m

重複 C-131住居跡(奈良時代)に切られ、C-145住居跡(古墳時代)を切る。

埋没土 小礫を含む暗褐色土。

床面 黒褐色土ブロックを含む黄褐色土で貼られており、やや凹凸のある床面である。

貯蔵穴 北東隅に検出された。平面形は楕円形で、径100×70cm深さ40cmである。

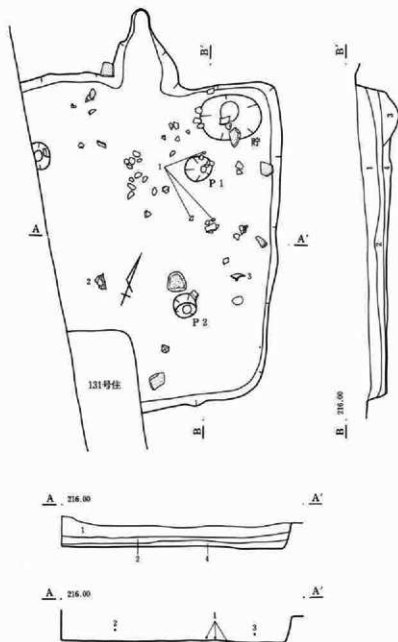
柱穴 対角線上に検出されているが、南西部は調査区外のため不明であり、3本検出されただけであり、いずれも径40cm程度で深さは30～40cmである。

竈 北壁中央やや東寄りに作られている。袖芯材と考えられる砂岩が出土しており、袖部分は黄褐色粘土で作られているが、遺存状態はあまりよくない。燃焼部の掘り込みは深く、両壁は良く焼けており、厚い焼土層が検出された。

出土遺物 出土量は少ないが、北東部に比較的集中している。竈周辺には少ない。遺物の残りは悪く、完形に近い遺物は無い。

第3章 検出された遺構と遺物

**調査所見** 西側は調査区外であり、C-131号住居跡に切られているため、全容は不明である。出土遺物が少ないため時期ははっきりしないが、古墳時代後期～奈良時代と考えられる。

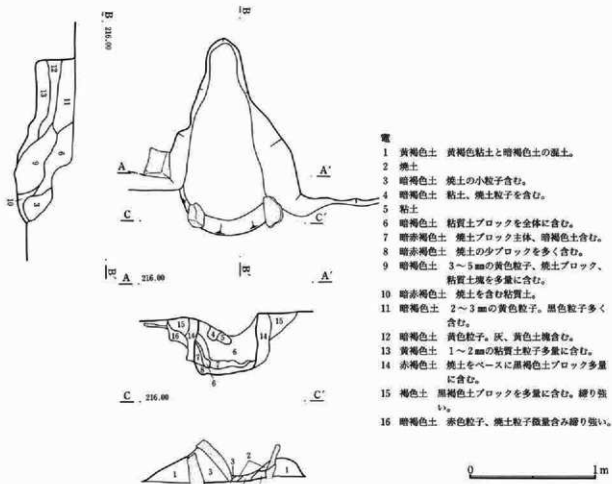


・130号住居跡

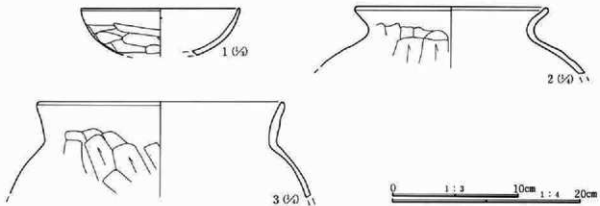
- 1 暗褐色土 小石を多く含む。
- 2 暗褐色土 1より粘質土、小石を多く含む。やや黄色味がかかる。
- 3 暗褐色土 やや砂質。2よりも黒味がかかる。
- 4 黄褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含む。粘床。

0 2m

第169図 C-130号住居跡



第170図 C-130号住居跡・竈



第171図 C-130号住居跡出土遺物

C-130号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	構成	整形成形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面	(12.6)		砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横溝で 体部置削り 内 口縁部横溝で 体部削で	
2	土師器 甕	+14	(20.8)		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部置削り 内 口縁部横溝で 胴部削で	
3	土師器 甕	+16	(26.2)		砂粒僅かに 含む	茶褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部置削り 内 口縁部横溝で 胴部削で	

第3章 検出された遺構と遺物

C-131号住居跡 (第172・173図、PL22・110)

位置 Cp-51 形状 隅丸方形もしくは隅丸長方形 規模 長辺4.90m、短辺(1.36)m、壁高0.60m

重複 C-130号住居跡を切る。

埋没土 小礫を含む暗褐色土。

床面 西側の大部分は調査区外になっており、全体の状況は不明であるが、地山を床面としており、凹凸が非常に多い。あまり締まりはない。

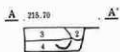
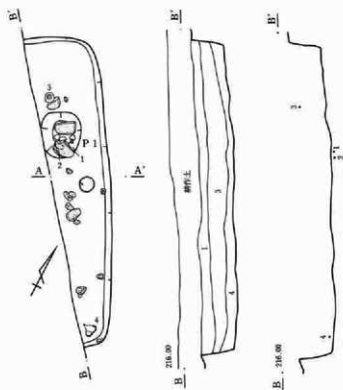
貯蔵穴 北側から検出されているが、北壁からはかなり離れており、位置的に疑問が残る。平面形は楕円形で、径75×65cm深さ25cmである。埋没土上面から砂岩と1・2の土器が出土している。

柱穴 不明である。

竈 不明。貯蔵穴の位置から、北壁に作られている可能性が高い。

出土遺物 出土量は少ない。3の須恵器皿は時期が新しく、埋没土中に後世の遺構があった可能性が高い。

調査所見 北壁はC-130号住居跡の埋没土であるため、貯蔵穴の位置を考えると、掘り過ぎの可能性もある。



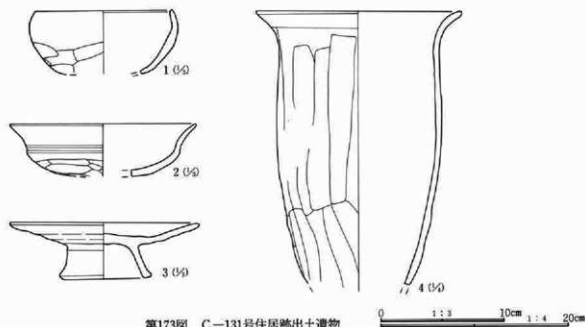
・131号住居跡

- 1 黒褐色土 黄色粒子、礫を含むが、量は少ない。
- 2 黒褐色土 黄色粒子、小礫を少量含む。締り弱い。
- 3 黒褐色土 黄色粒子、小礫を多量に含む。
- 4 黒褐色土 黄色粒子、小礫を少量含む。

0 2m

第172図 C-131号住居跡





第173図 C-131号住居跡出土遺物

C-131号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 平	貯蔵穴内	(11.0)		砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部横で	
2	土師器 平	貯蔵穴内	(15.0)		砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部横で	
3	須恵器 高台付皿	+41	15.3 7.4	4.6	微砂粒僅かに 含む	茶褐色	良	口縁部横線 付け高台	完形 高足高台
4	土師器 壺	+5	22.0		砂粒含む	淡茶褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部横で	胴部を欠く 胴下半部に煤付着

## C-132号住居跡 (第174図、PL23)

位置 Ci・Cj-46・47 形状 隅丸方形か 規模 長辺4.10m、短辺3.42m、壁高0.15m

重複 C-141号住居跡(古墳時代)を切り、C-56号土坑(時期不明)に切られる。

埋没土 小礫を含む暗褐色土。

床面 褐色粘質地山土で貼られており、ほぼ平坦な床面である。締まりはあまり強くない。

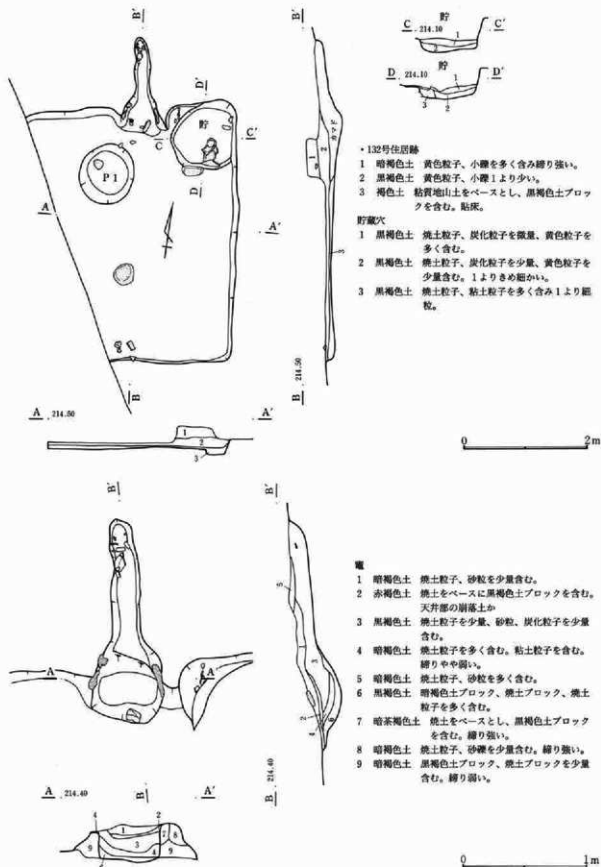
貯蔵穴 北東隅に検出。壁に接しており、平面形は不正円形で径110×105cmと規模が大きいが、深さは20cmと浅い。焼土を含む暗褐色土で埋まっており、竈材と考えられる砂岩が上層から出土している。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁東寄りに作られている。焼土を含む暗褐色土で袖を構築しており、内側が強く焼けている。燃焼部の掘り込みは深く、煙道部は水平に長く延びている。砂岩を構築材としていたと考えられるが、竈内および周辺からはあまり出土していない。

出土遺物 出土量は非常に少なく小破片であり、図示できるものはなかった。

調査所見 西側は調査区外になるため、全容は不明である。出土遺物が少ないため時期ははっきりしないが、C-141号住居跡を切っているため、古墳時代後期遺構の住居である。



第174図 C—132号住居跡・竈

C-133号住居跡 (第175・176図、PL23・110)

位置 Cj・Ck-45・46 形状 規模 長辺4.24m、短辺3.48m、壁高0.45m

重複 C-140・141・288・292・293号住居跡を切る。

埋没土 小礫を含む暗褐色土。

床面 小礫を含む暗褐色土で貼られており、比較的良好に締まっている。

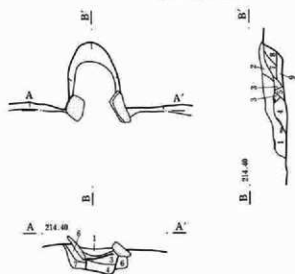
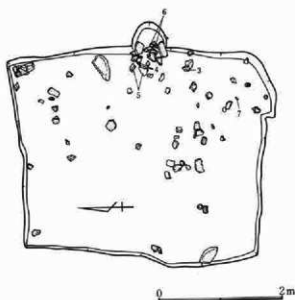
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央やや南よりに作られている。遺存状態は悪く、袖はほとんど残っていないが、砂岩の切石および河原石を袖の芯材としている。燃焼部から羽釜の破片が多く出土している。

出土遺物 出土量は比較的多く、竈およびその周辺から須恵器杯、羽釜が出土している。

調査所見 全面検出されているが、ほとんど他の住居の埋没土中に掘り込まれているため、壁ははっきりしない部分が多い。時期は平安時代である。



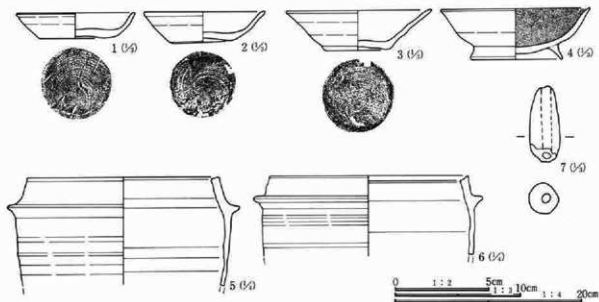
## ・133号住居跡

竈

- 1 黒褐色土 焼土粒子、黄色粒子を微量含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒子、炭化粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 焼土粒子を微量、炭化粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 焼土ブロックを含む。
- 6 黒褐色土 焼土粒子を微量含む。
- 7 暗褐色土 焼土ブロック、焼土粒子を多く含む。下部に炭化物を含む。
- 8 暗褐色土 焼土粒子を微量含む。
- 9 黒褐色土 焼土粒子ごく微量、炭化物を含む。

第175図 C-133号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第176図 C-133号住居跡出土遺物

C-133号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 皿	覆土	9.5 5.9	2.0	微砂粒僅か に含む	淡茶褐色	良	ロクロ整形	
2	須恵器 皿	覆土	9.7 4.9	2.5	微砂粒僅か に含む	淡茶褐色	良	ロクロ整形	
3	須恵器 杯	+4	(11.6) 5.0	3.2	砂粒僅かに 含む	灰黄褐色	良	ロクロ整形	
4	須恵器 埴	+7	(11.9) 7.4	4.1	微砂粒僅か に含む	淡黄褐色	普通	ロクロ整形 付け高台	内面黒色
5	羽 蓋	+7	(21.0)		微砂粒含む	暗黄褐色	良	ロクロ整形	
6	羽 蓋	+9	(21.8)		微砂粒含む	白灰色	良	ロクロ整形	
7	土 鋪	床面	長さ(3.8)cm 径1.7cm 重さ8.1g 両端部破損						

C-134号住居跡(第177・178図、PL23・111)

位置 Co-47・48 形状 隅丸長方形 規模 長辺3.40m、短辺2.70m、壁高0.35m

重複 C-129号住居跡(古墳時代)を切る。

埋没土 小礫を少量含む暗褐色土。

床面 C-129号住居跡の埋没土を床面としており、締まりはあまり強くない。

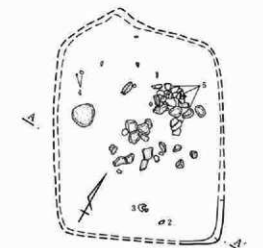
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁やや西寄りに作られている。遺存状態は悪く、またC-129号住居跡埋没土中に作られているため、不明な部分が多い。袖部分は残っておらず、燃焼部側壁から焼土および粘土が検出された程度である。

出土遺物 出土量は少なく、図示した遺物以外は小破片である。中央部に礫が集中して検出されている。

調査所見 C-129号住居跡調査中に検出されたため、壁や床面は不明な部分が多い。



A, 215.60

A'



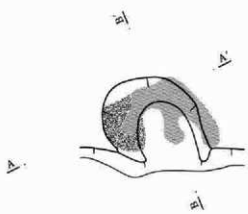
A, 215.60

A'



・134号住居跡

- 1 暗褐色土 黄色、橙色粒子、小石を多量に含む。硬質。
- 2 暗褐色土 黄色、橙色粒子多量に含む。軟質でやや暗い色調を呈する。
- 3 明褐色土 さめの細かい土をベースとし、粘質土粒子多く含む。締まりは弱い。



A, 215.18

A'



B, 215.16

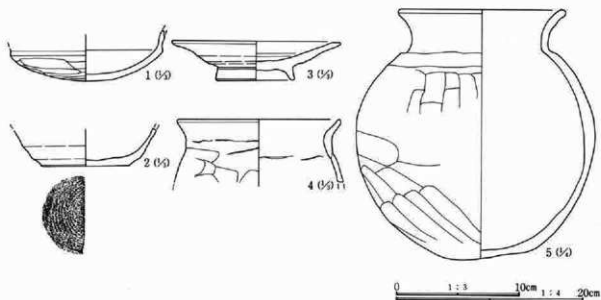
電

- 1 暗褐色土 砂礫、焼土粒を少量含む。締り強い。
- 2 赤褐色土 焼土をベースに暗褐色土ブロックを少量含む。



第177図 C-134号住居跡・電

第3章 検出された遺構と遺物



第178図 C-134号住居跡出土遺物

C-134号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	製成形の特徴	備考
1	土師器 杯	覆土			微砂粒僅かに含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 胴部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部無で	口縁部を欠く
2	須恵器 杯	+25		7.0	砂粒僅かに含む	灰黒色	良	ロクロ整形	表面風化
3	須恵器 高台付皿	+16		(13.6) 3.1 6.3	小砂礫僅かに含む	灰白色	良	ロクロ整形 付け高台	
4	土師器 小豆壺	床面	(13.0)		微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部無で	
5	土師器 壺	床面	(18.0)	26.6	砂礫多く含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部無で	

C-136号住居跡 (第179・180図、PL23・24・111)

位置 Ch・Ci-45・46 形状 両丸長方形 規模 長辺3.67m、短辺2.86m、壁高0.35m

重複 C-124号住居跡(古墳時代)を切る。

埋没土 砂礫を含む黒褐色土。

床面 砂礫を含む暗褐色土で貼られており、強く締まっている。やや凹凸のある床面である。

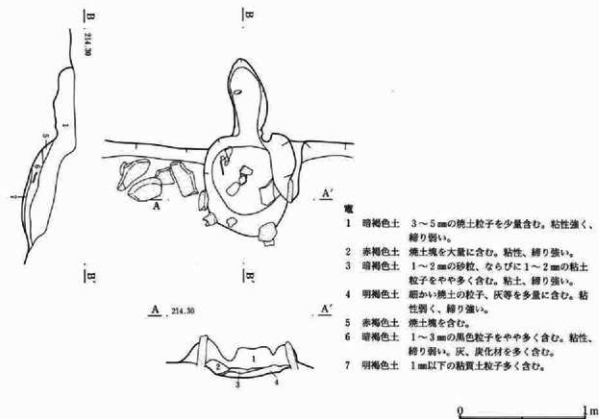
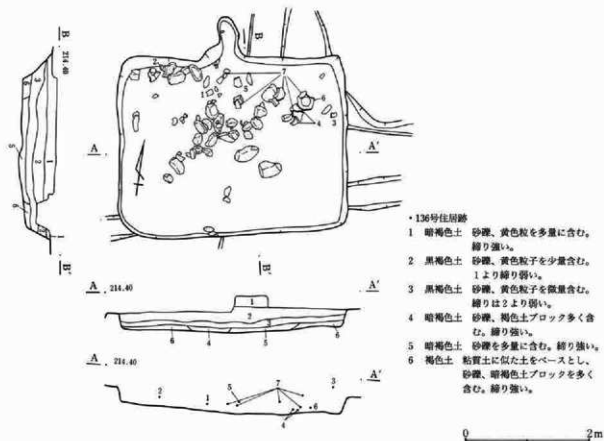
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや西寄りに作られている。遺存状態はあまり良くないが、砂岩の切石を袖の芯材としている。また左脇から構築材と考えられる砂岩が出土している。燃焼部の掘り込みはやや深く、煙道部は比較的短く水平に延びている。

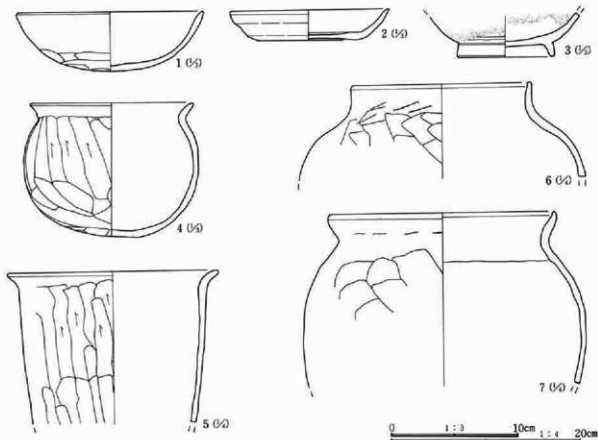
出土遺物 出土量は比較的多いが、浮いた状態で出土しているものが多い。また中央やや北寄りから礫が集中して出土している。

調査所見 重複も少ないため遺構の遺存状態は良く、全面を検出できた。時期は奈良時代である。



第179図 C-136号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第180図 C-136号住居跡出土遺物

C-136号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	製成形の特徵	備考
1	土器 器 坏	竈内	(15.0) 4.7	砂粒含む	淡褐色	普通	外 □縁部横線で 体部直張り 内 □縁部横線で 体部直	表面風化
2	須臾器 坏	+14	12.7 2.4 8.0	砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転裏切り (左)	
3	灰粘塊	+40	7.8	精製	白灰色	良	ロクロ整形 付け高台	軸は潰けかけ
4	土器 小型 壺	+5	(13.0) 10.6	砂粒僅かに 含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 胴部直張り 内 □縁部横線で 胴部直	
5	土器 壺	竈内	(23.0)	砂粒含む	黄褐色	良	外 □縁部横線で 胴部直張り 内 □縁部横線で 胴部直	
6	土器 壺	+4	19.7	砂粒含む	淡茶褐色	良	外 □縁部横線で 胴部直張り 内 □縁部横線で 胴部直	□縁部直立
7	土器 壺	竈内	24.4	砂粒含む	灰褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部 直張り 内 □縁部横線で 胴部 直	

C-137号住居跡 (第181~184号、PL24・111~113)

位置 Cl・Cm-47・48 形状 隅丸方形 規模 長辺5.37m、短辺4.86m、壁高0.55m

重複 C-123号住居跡 (平安)、C-127号住居跡 (古墳) に切られる。

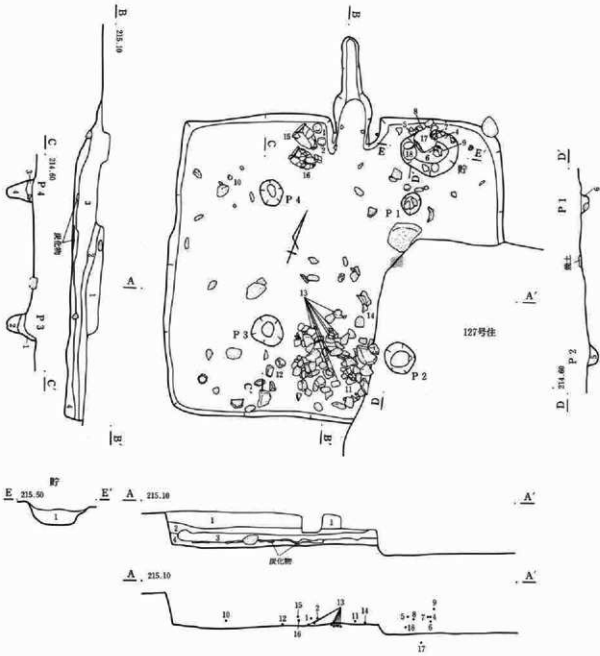
埋没土 小礫を含む暗褐色土。

床面 やや凹凸があり、あまり締まりは強くない。

貯蔵穴 北東隅に検出された。平面形は楕円形で径92×74cm深さ40cmであり、遺物が多量に出土している。

柱穴 対角線上に4本検出されているが、P2だけやや南にずれる。径35~50cmで深さ15~50cmである。





・137号住居跡

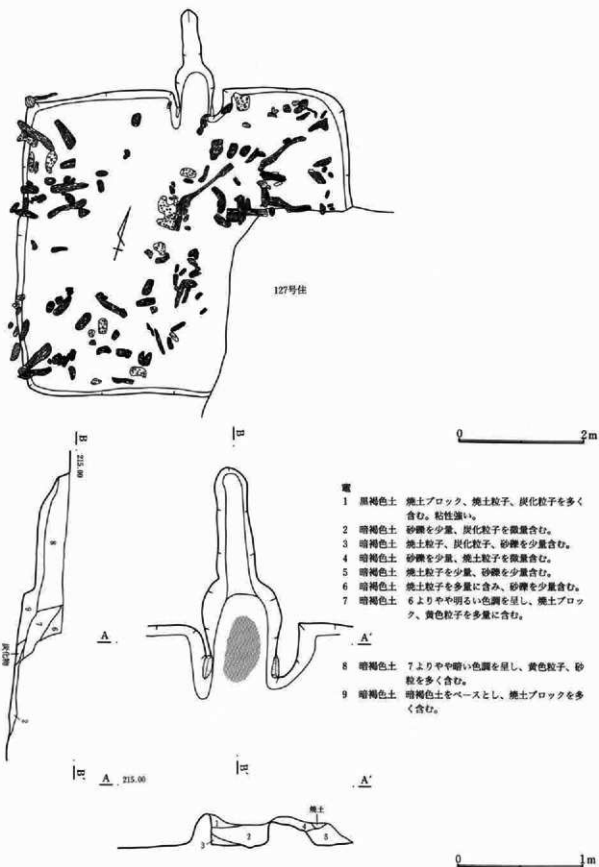
- 1 暗褐色土 粘質土粒、小石を多く含む。
- 2 暗褐色土 上層よりやや黒味がかっており、小石、粘質土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 粘質土粒をやや多く含む、上層より黄色味がかっている。
- 4 暗褐色土 粘質土粒を多く含む、黄色味がかっている。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 3~5mmの黄色粒子、小石、炭化材の塊を多量に含む。粘性強く締りも強い。
- P 1~4
- 1 暗褐色土 炭化物、焼土をわずかに含む。
  - 2 暗褐色土 炭化物、焼土をわずかに含む。小石を含む。
  - 3 暗褐色土 炭化物を少量含む。
  - 4 暗褐色土 粘質土粒子を含む。
  - 5 暗褐色土 炭化物を多く含む。粘質土粒を含む。
  - 6 暗黄褐色土 粘質土粒を含む。

0 2m

第181図 C-137号住居跡

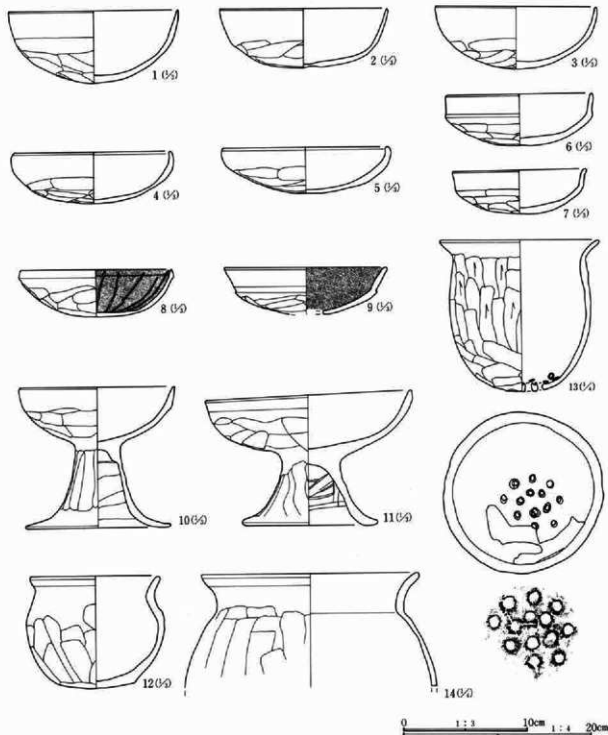


第182図 C-137号住居跡・電

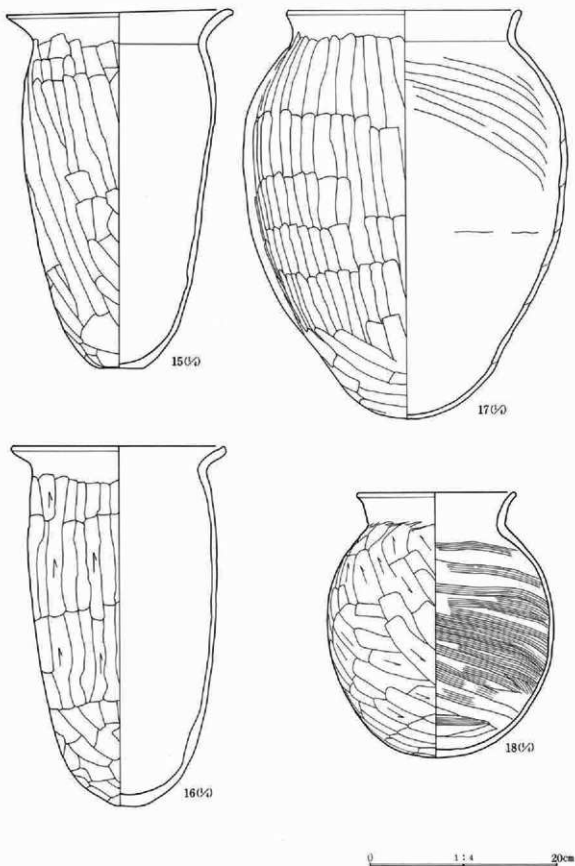
竈 北壁中央に作られている。遺存状態は比較的良く、砂岩の切石を芯材として袖を構築している。煙道部は、70cm程水平に延びて立ち上がっている。燃焼部の掘り込みは少なくほぼ平坦でよく焼けている。

出土遺物 出土量は多く、特に竈左脇、貯蔵穴に残りの良い土器が集中している。南壁際中央には竈も多数出土している。また炭化材が全面から出土している。

調査所見 炭化材が出土し、遺物の残りが良いため、焼失住居と考えられる。時期は古墳時代後期である。



第183図 C-137号住居跡出土遺物(1)



第184図 C-137号住居跡出土遺物(2)

C-137号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 杯	+11	13.6 5.7	砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	完形 比較的身が深い
2	土師器 杯	+10	13.5 4.7	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	完形 器面やや風化
3	土師器 杯	覆土	13.0 4.9	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	ほぼ完形
4	土師器 杯	+24	12.6 4.1	微砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	
5	土師器 杯	+27	13.5 3.7	微砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	
6	土師器 杯	+18	11.8 4.1	微砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	
7	土師器 杯	+24	10.6 3.5	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	ほぼ完形
8	土師器 杯	+22	12.4 3.7	微砂粒僅かに 含む	黒褐色	良	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で後磨き	ほぼ完形 内面黒色 処理、放射状磨文
9	土師器 杯	+37	(13.0) (3.7)	微砂粒僅かに 含む	灰褐色	普通	外 口縁部横線で 体部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で	二次火熱受ける 内 面黒色
10	土師器 高杯	+10	(12.4) (11.1) (11.6)	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体、脚部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で脚部蓋削り	器面やや風化
11	土師器 高杯	+4	16.5 10.7 11.0	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体、脚部蓋削り 内 口縁部横線で 体部蓋で脚部蓋で	ほぼ完形 脚部内面 磨文で底
12	土師器 小型壺	+2	10.5 8.8 6.2	砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴、底部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部蓋で	完形
13	土師器 壺	床面	17.0 16.2 7.4	微砂粒僅かに 含む	暗灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部蓋で	底部に13(14)孔、径 6~7mm
14	土師器 壺	床面	23.8	小砂粒僅かに 含む	暗茶褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部蓋で	器外部やや荒れ、傷 付着
15	土師器 壺	+12	24.2 38.0 5.0					
16	土師器 壺	+8	23.0 38.3 3.6	石粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 胴部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部蓋で	ほぼ完形
17	土師器 壺	貯蔵穴内	25.2 43.2	小砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部蓋で	完形 大型品
18	土師器 壺	貯蔵穴内	17.0 28.2	微砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部蓋削り 内 口縁部横線で 胴部蓋で	完形品

## C-138号住居跡 (第185・186図、PI.24・113)

位置 Cm・Cn-48・49 形状 隅丸方形 規模 長辺4.03m、短辺3.84m、壁高0.20m

重複 C-123号住居跡、C-142号住居跡(平安時代)に切られる。

埋没土 礫をあまり含まない暗褐色土。

床面 砂礫を少量含む暗褐色土で貼られており、ほぼ平坦な床面である。

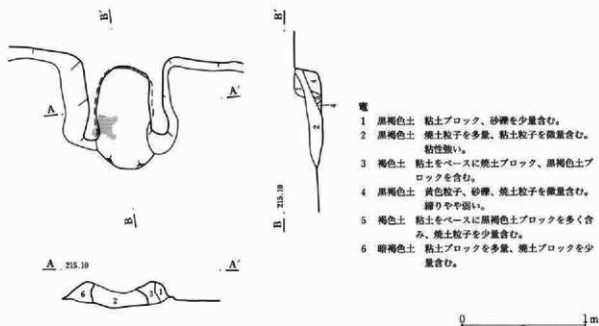
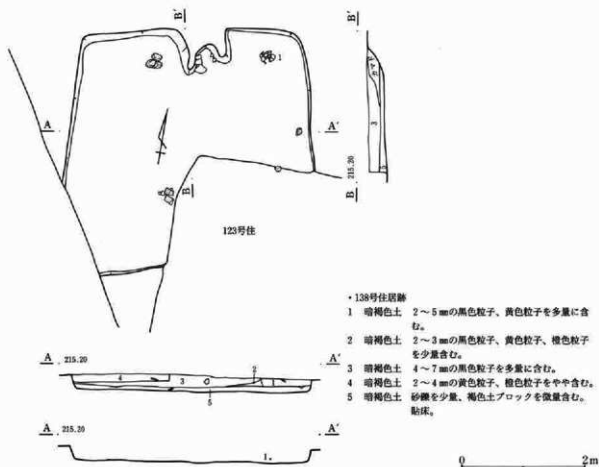
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

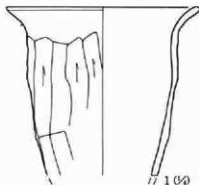
竈 北壁中央に作られている。遺存状態は比較的良く、褐色粘土で袖を構築しているが、砂岩等の芯材は出土していない。燃焼部の掘り込みはやや浅く、左袖内側に一部焼土が検出されているが、全体としてあまり焼けていない。

出土遺物 出土量は少なく、1の壺以外は小破片である。

調査所見 南東部をC-123号住居跡に切れ、南西隅は調査区外であるため全容は不明であるが、南西隅がやや突出して、歪んだ平面形になっている。



第185図 C-138号住居跡・竈



第186図 C-138号住居跡出土遺物

C-138号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形成の特徴	備考
1	土師器 壺	+7	(21.1)	小礫強かに 含む	茶褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部蕉形り 内 口縁部横線で 胴部線で	検出である

## C-139号住居跡 (第187・188図、PL25)

位置 Co-48・49 形状 不明 規模 長辺3.20m、短辺不明、壁高0.30m

重複 C-129号住居跡 (古墳時代) を切り、C-122・125号住居跡と重複。

埋没土 小礫を含む暗褐色土。

床面 やや凹凸のある床面で、あまり締まりは強くない。

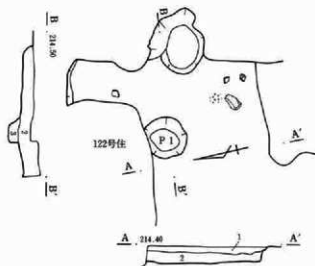
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央に作られている。黒褐色土で袖を構築していると考えられるが、遺存状態は悪く芯材も検出されていない。

出土遺物 小破片が少量出土しただけである。

調査所見 複数の住居跡と重複しているため、床面のほとんどは不明で、壁もはっきりしない。また出土物も少ないため時期もはっきりしない。

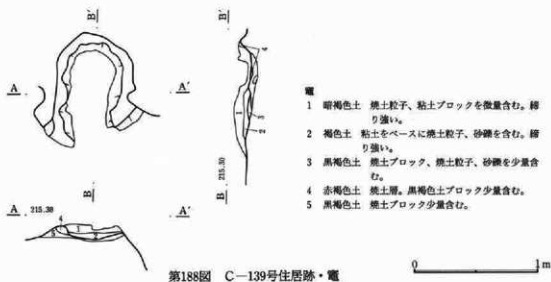


## ・139号住居跡

- 1 暗褐色土 3~5mmの小石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 3~5mmの小石、黒色粒子を多量に含む。  
1に比べ、粘性弱りやや強い。
- 3 黄褐色土 1~2mmの黄色粒子、粘質土ブロックを多量に含む。

第187図 C-139号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



C-140号住居跡 (第189・190図、PL25)

位置 Cj-45 形状 不明 規模 不明

重複 C-141号住居跡・C-271号住居跡・C-288号住居跡・C-292号住居跡と重複。

埋没土 ほとんど削平されているため不明。

床面 竈以外ほとんど削平されているため不明。

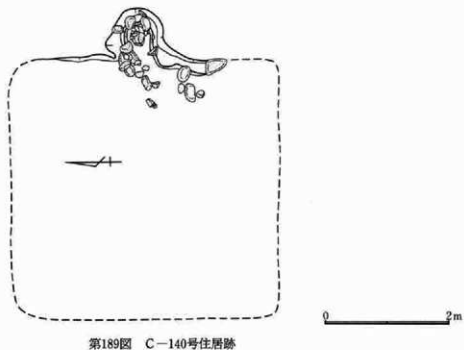
貯蔵穴 不明。

柱穴 不明。

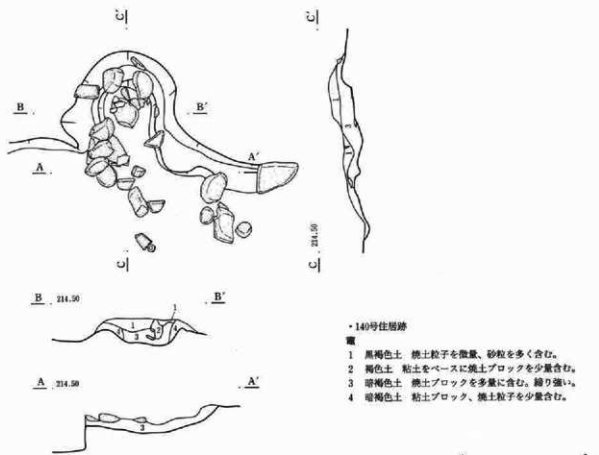
竈 東壁に作られている。遺存状態は悪く、袖部は残っていないが、構築材と考えられる石が出土している。

出土遺物 埋没土が残っていないため、竈から数点出土しているだけである。

調査所見 すべて他の住居の埋没土中にあるため、竈以外ははっきりしない。







第190図 C-140号住居跡・竈

## C-141号住居跡 (第191・192図、PL25・113)

位置 Cl・Cj-45・46・47、Ck-46 形状 隅丸方形か 規模 長辺6.85m、短辺6.35m、壁高0.45m

重複 C-124・132・133・140・271・272・276・288・292・293号住居跡と重複。

埋没土 砂礫を含む暗褐色土。

床面 若干凹凸があるが、ほぼ平坦な床面である。

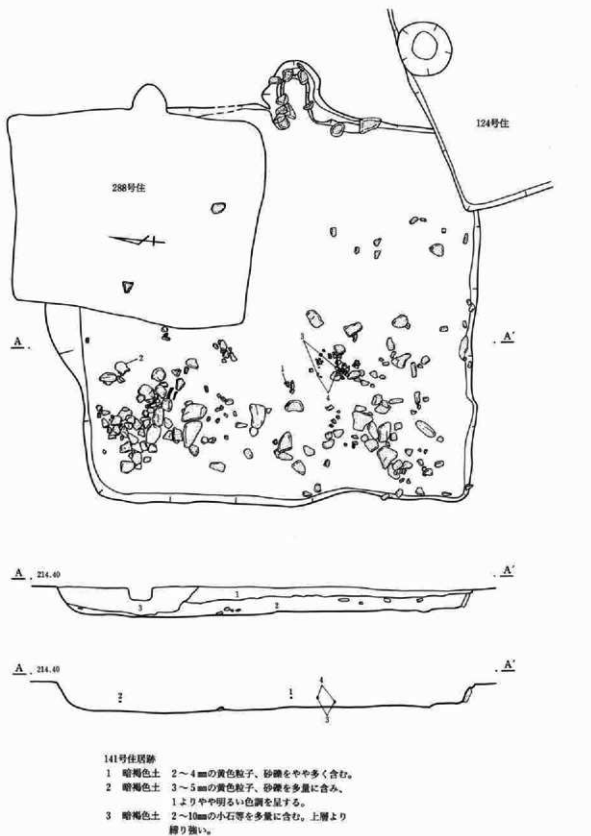
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

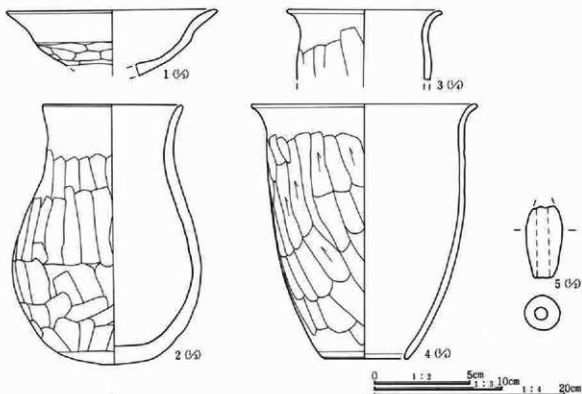
竈 C-141号住居跡の竈は検出されなかったが、位置的には140号住居跡の竈が141号住居跡の竈の可能性もある。しかしC-140号住居跡竈が141号住居跡の床面よりもレベルがやや高く、形態も時期の新しいものに近いため、別の可能性が高いと考えられる。

出土遺物 出土量は少なく、図示した土器以外は小破片である。南側から礫が多量に出土している。

調査所見 多くの住居と重複しているため、特に東側は不明な点が多い。新旧関係も不明である。東側は遺物も非常に少ないため、他の遺構に削平されている可能性もある。



第191図 C-141号住居跡



第192図 C-141号住居跡出土遺物

C-141号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考
1	土師器 高坏	+12	16.8		砂粒含む	淡黄褐色	普通	外 □縁部横線で 体部置削り 内 □縁部横線で 体部削で	坏部のみ 器面風化
2	土師器 丸蓋甕	+13	11.2 20.7		小砂粒多く 含む	橙褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部置削り 内 □縁部横線で 胴部削で	先形 石英粒目立つ
3	土師器 壺	+14	(17.0)		微砂粒多く 含む	灰褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部置削り 内 □縁部横線で 胴部削で	
4	土師器 甕	+6	24.2 27.1 8.5		微砂、小礫 含む	淡黄褐色	良	外 □縁部横線で 胴部置削り 内 □縁部横線で 胴部削で	
5	土 鋪 覆土		長さ(3.8)cm	径1.9cm	重さ11.1g	淡黄褐色を呈す	一端部を欠く		

C-142号住居跡 (第193・194図、PL25・113)

位置 Cm・Cn-48・49 形状 隅丸方形か 規模 長辺(4.34)m、短辺(4.00)m、壁高0.20m

重複 C-123号住居跡に切られ、C-138号住居跡と重複。

埋没土 砂礫を含む黒褐色土。

床面 粘土を含む黒褐色土で貼られており、凹凸の多い床面である。

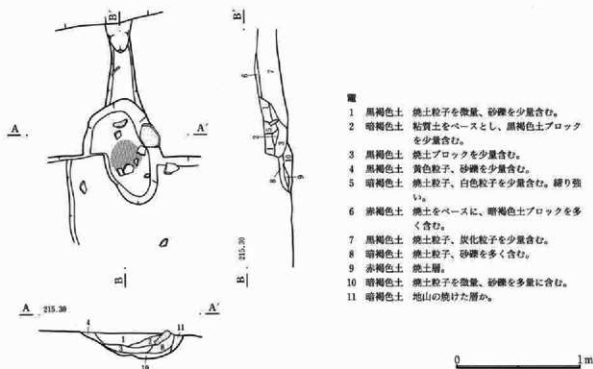
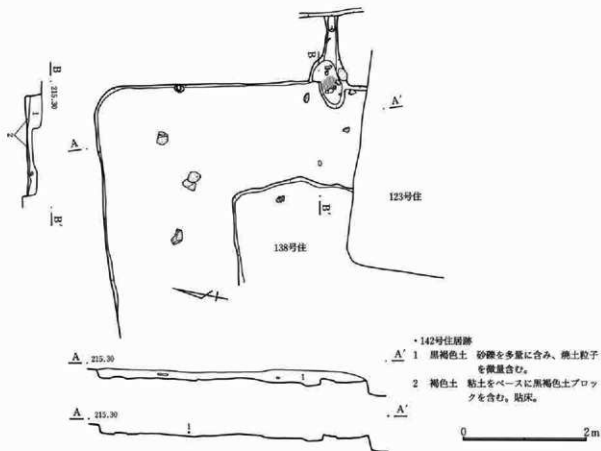
貯蔵穴 C-123号住居跡に切られているため不明。

柱穴 検出されなかった。

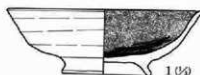
竈 東壁に作られている。遺存状態は悪く、袖部は残っていない。燃焼部の掘り込みは浅く、よく焼けている。煙道部は若干上がり気味に延びているが、その先は削平されている。

出土遺物 出土量は非常に少なく1の土器以外は小破片である。

調査所見 重複及び削平のため全容は不明である。時期は平安時代と考えられる。



第193図 C-142号住居跡・竈



第194図 C-142号住居跡出土遺物

0 1:2 5cm

## C-142号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 椀	+7	(15.8) 7.2	5.3	砂粒僅かに 含む	暗褐色	良	ロクロ整形 付け高台 内面磨き	内面黒色地埋

## C-143号住居跡 (第195・196図, PL26)

位置 Cp-49 形状 隅丸方形か 規模 長辺3.30m、短辺3.04m、壁高0.20m

重複 C-121・122号住居跡に切られ、C-154・327号住居跡を切る。

埋没土 砂礫を含む黒褐色土。

床面 地山およびC-154号住居埋没土を床面としており、凹凸のある床面である。

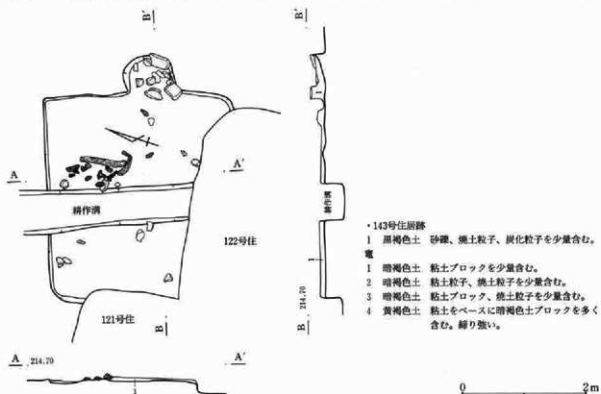
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

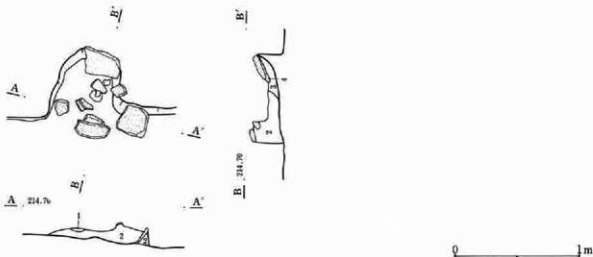
竈 東壁中央部に作られている。遺存状態は悪く、袖部は残っていないが、構築材と考えられる砂岩の切石が出土している。燃焼部の掘り込みは浅く床面とほぼ同レベルであり、あまり焼けていない。

出土遺物 出土量は非常に少なくすべて小破片である。中央北側から炭化材が出土している。

調査所見 重複により全容は不明である。炭化材が出土しているため焼失住居の可能性もある。



第195図 C-143号住居跡



第196図 C-143号住居跡・竈

C-144号住居跡 (第197図、PL26)

位置 Cg・Ch-46 形状 不明 規模 不明

重複 なし

埋没土 竈しか検出されていないため不明。

床面 竈しか検出されていないため不明。

貯蔵穴 不明。

柱穴 不明。



第197図 C-144号住居跡

竈 北壁に作られる。遺存状態は悪く袖部は残っていないが、焼土、粘土が検出されている。

出土遺物 土器の小破片が数点出土している。

調査所見 竈以外はすべて調査区外のため全容は不明。

C-145号住居跡 (第198～200図、PL26・113・114)

位置 Cq・Cr-51・52 形状 隅丸方形 規模 長辺4.77m、短辺4.25m、壁高0.1m

重複 C-120・130号住居跡に切られる。

埋没土 小礫を含む暗褐色土。

床面 砂礫を含む黒褐色土で貼られているが、あまり締まりは強くない。西から東に向かってやや下がっており、凹凸の多い床面である。

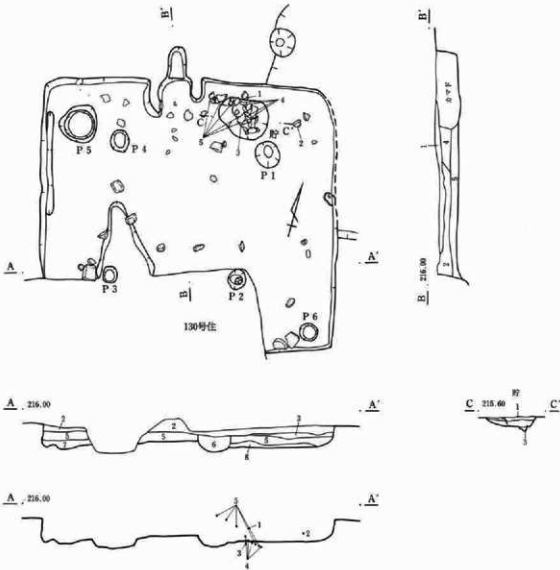
貯蔵穴 北東隅からやや西寄りに検出された。平面形は楕円形で径80×62cm深さ15cmである。埋没土中からの出土遺物が多く、3・4・5の壺、甕が出土している。

柱穴 対角線上に4本検出されているが、南東部のP2はやや西に寄っている。また南の2本は130号住居跡に上部を削平されている。径25～40cmで深さ40～50cm(南の2本は除く)と深い。他に北西隅から径60cmの、南東隅から径30cmのピットが検出されているが、位置からみて柱穴とは考えられない。

竈 北壁やや西寄りに作られている。遺存状態は比較的良く、褐色粘土で袖を構築しており、砂岩の切石を芯材としているが、左袖だけで右袖からは芯材は出土していない。燃焼部の掘り込みは比較的浅く、余り焼けていない。煙道部はほぼ水平に延びているが、1mと短い。

**出土遺物** 出土量はやや少ないが、貯蔵穴およびその周辺に集中している。また燻も出土しているが、量は少なく住居内に散在している。

**調査所見** 遺構の遺存状態は比較的良好だが、西南部を130号住居跡に切られているため、全容は不明である。時期は古墳時代後期である。



・145号住居跡

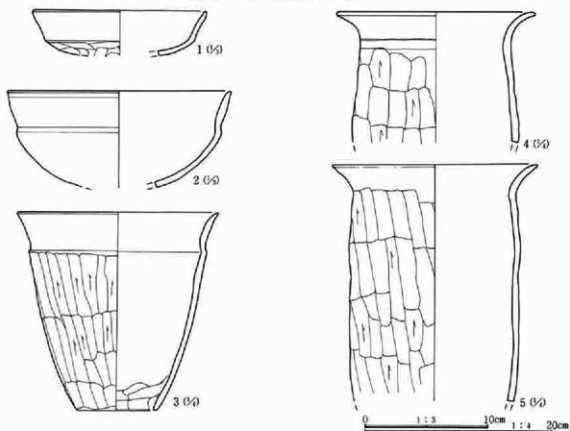
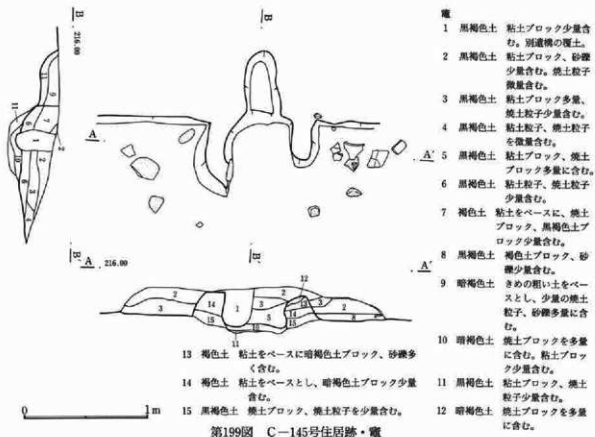
- 1 暗褐色土 2~4mmの黄色、黒色の粒子を多量に含む。粘性強く締り強い。
- 2 暗褐色土 2~4mmの小石を多く含む、黄色粒子少量含む。粘性弱く、締り強い。
- 3 黄褐色土 2~3mmの小石を多量に含む。粘性締り強い。
- 4 明褐色土 粘質土粒子を少量に含む。粘性強く締る。
- 5 黒褐色土 砂礫、褐色土ブロックを多く含む。粘床。

- 6 黒褐色土 砂礫を少量、褐色土ブロックを微量含む。
  - 7 黒褐色土 砂礫を少量含む。
  - 8 褐色土 砂質地山をベースとし、黒褐色土ブロックを含む。
- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 砂礫を少量、暗褐色土ブロックを少量含む。
  - 2 黒褐色土 砂礫を微量含む。
  - 3 黒褐色土 砂礫を微量含む。2より色調明るい。

0 2m

第198図 C-145号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物





C-145号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
1	土師器 罎	+21	(14.0)	砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部蓋削り 体部撫で	
2	土師器 罎	+13	(18.0)	砂粒僅かに 含む	黄褐色	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部蓋削り 体部撫で	器面やや風化
3	土師器 罎	貯蔵穴内	(22.0) 21.0 (8.6)	砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部蓋削り 胴部撫で下部蓋削り	
4	土師器 罎	貯蔵穴内	21.5	砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部蓋削り 胴部撫で	
5	土師器 罎	貯蔵穴内	22.0	砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部蓋削り 胴部横撫で	

C-146号住居跡 (第201~203図、PL26・27・114)

位置 C-52・53 形状 隅丸方形または隅丸長方形 規模 長辺4.71m、短辺(3.10)m、壁高0.15m

重複 DS区畑状遺構に切られる。

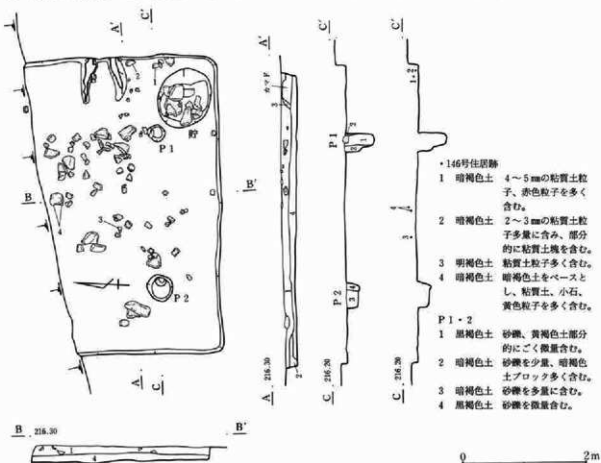
埋没土 ロームを含む暗褐色土。

床面 ローム・小礫を含む暗褐色土で貼られており、比較的平坦である。

貯蔵穴 南東隅に検出された。径95×85cm深さ35cmで、礫が多数出土している。

柱穴 対角線上に2本検出されているが、北側は重複のため不明である。径30~40cm深さ15~45cmである。

竈 北壁やや東寄りか。遺存状態は比較的良く、暗褐色土で袖を構築している。煙道部は削平される。

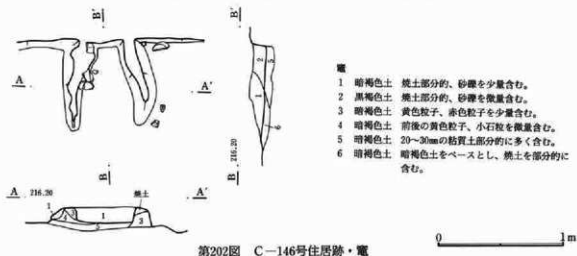


第201図 C-146号住居跡

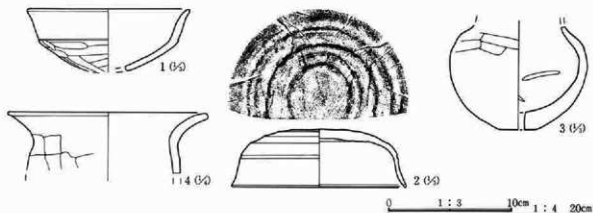
### 第3章 検出された遺構と遺物

**出土遺物** 土器の出土量はやや少ないが、礫が中央部、貯蔵穴に集中して出土した。

**調査所見** 北側を大きく切られているため、全容は不明である。時期は古墳時代後期である。



- 竈
- 1 暗褐色土 焼土部分的、砂礫を少量含む。
  - 2 黒褐色土 焼土部分的、砂礫を微量含む。
  - 3 暗褐色土 黄色粒子、赤色粒子を少量含む。
  - 4 暗褐色土 前後の黄色粒子、小石粒を微量含む。
  - 5 暗褐色土 20~30mmの粘質土部分的に多く含む。
  - 6 暗褐色土 暗褐色土をベースとし、焼土を部分的に含む。



C-146号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	製成形の特徴	備考
1	土器 杯	+8	(13.0)		精製	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部削で	器面やや風化
2	須恵器 蓋	床面	(14.0)	4.6	砂粒礫に 含む	灰色	良	外 口縁部横線で 天井部寛削り 内 口縁部横線で 体部削で	
3	土器 小型壺	+7	(3.0)		砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部厚削り 内 口縁部横線で 胴部削で	底部の器肉厚い
4	土器 壺	+7	21.5		小礫含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	口縁部のみ

C-147号住居跡 (第204・205図、PL27・114・115)

**位置** Cp・Cq-49・50 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺6.02m、短辺4.62m、壁高0.20m

**重積** C-121・143号住居跡に切られ、C-154号住居跡を切る。

**埋没土** 小礫を少量含む暗褐色土。

**床面** 砂粒を含む暗褐色土で貼られており、比較的良く締まる。やや凹凸のある床面である。また、西から東に向かってやや下がっている。

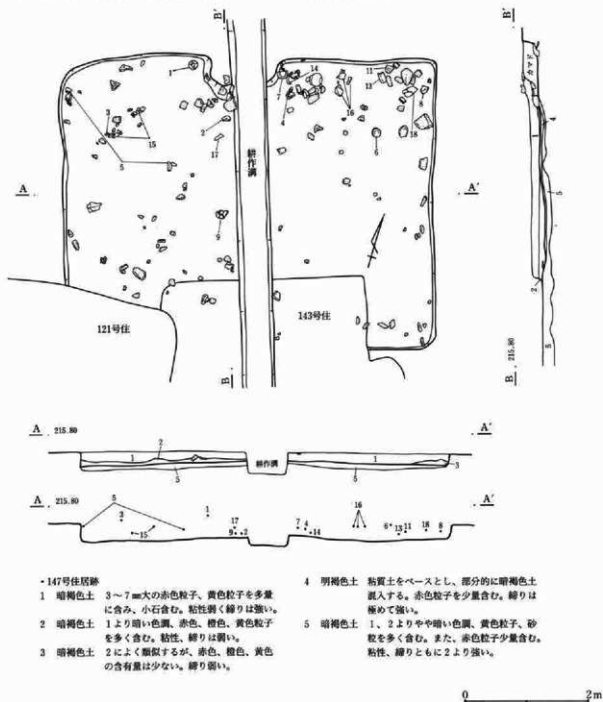
**貯蔵穴** 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁や西寄りに作られている。中央部に南北に耕作溝に切られているため、全容は不明である。袖部は比較的残りが良く、褐色粘土で作られているが、芯材は出土していない。

出土遺物 出土量は多く、特に北側から多く出土している。全体に浮いた状態のものも多く、床面直上のものは少ない。土師器坏が多く、放射状の磨きを施すものも多い。

調査所見 南側をC-121・143号住居跡に切れ、中央を耕作溝が走っているため全容は不明であるが、他の部分の遺存状態は比較的良く、遺物も多い。時期は奈良時代である。



・147号住居跡

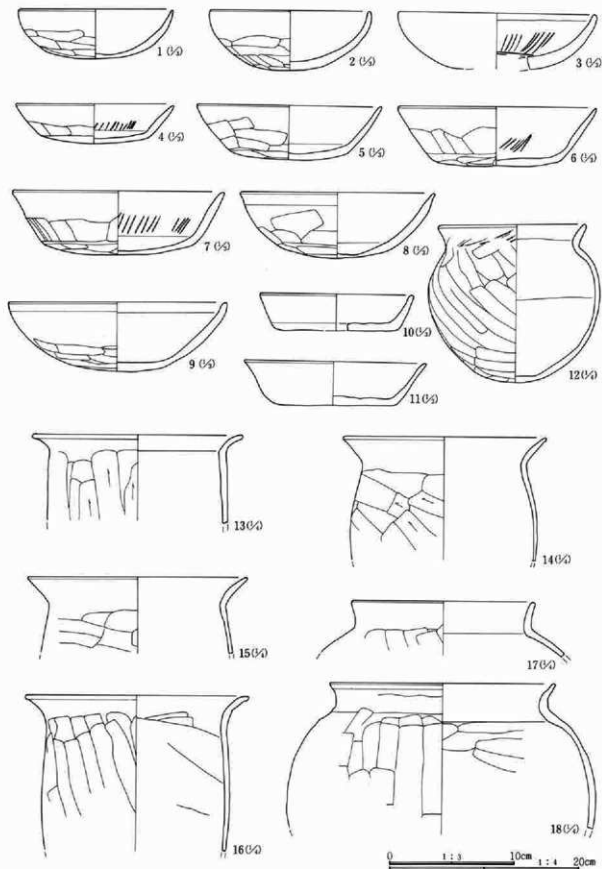
- 1 暗褐色土 3~7mm大の赤色粒子、黄色粒子を多量に含む。小石含む。粘性弱く締りは強い。
- 2 暗褐色土 1より暗い色調、赤色、褐色、黄色粒子を多く含む。粘性、締りは弱い。
- 3 暗褐色土 2によく類似するが、赤色、褐色、黄色の含有量は少ない。締り弱い。

- 4 明褐色土 粘質土をベースとし、部分的に暗褐色土混入する。赤色粒子を少量含む。締りは極めて強い。

- 5 暗褐色土 1、2よりやや暗い色調、黄色粒子、砂粒を多く含む。また、赤色粒子少量含む。粘性、締りともに2より強い。

第204図 C-147号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第205図 C-147号住居跡出土遺物

C-147号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器 罎	+34	12.4	3.9	砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で	ほぼ完形 器面やや 風化
2	土器 罎	+8	13.0	4.8	微砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で	
3	土器 罎	+32	(15.8)		微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で後磨き	器面やや風化 内面 放射状窯文
4	土器 罎	+10	12.8	3.2	微砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で後磨き	内面放射状窯文
5	土器 罎	+15	14.8	4.3	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で	
6	土器 罎	+24	15.8	4.7	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で後磨き	完形 内面放射状窯 文 器面やや風化
7	土器 罎	+12	17.0	5.1	砂粒僅かに 含む	橙黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で後磨き	内面放射状窯文
8	土器 罎	+11	15.6	5.2	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で	器面やや風化
9	土器 罎	+5	17.4	5.5	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で	
10	須恵器 罎	覆土	(12.3)	2.9	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転裏切り	
11	須恵器 罎	+12	14.5	3.4	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部左回転裏削り	
12	土器 罎	床面	16.0	16.7	微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	ほぼ完形 頸部、寛 の当たり痕顯著
13	土器 罎	+8	(23.0)		砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	
14	土器 罎	+5	21.8		微砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	胴上半部のみ
15	土器 罎	+11	(24.0)		微砂粒含む	赤褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	
16	土器 罎	+18	(24.4)		砂粒含む	赤褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	
17	土器 罎	+14	(20.0)		砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	
18	土器 罎	+13	(24.6)		砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	

## C-151号住居跡 (第206図、PL-115)

位置 Ck・Cl-48・49 形状 不明(隅丸方形か?) 規模 不明(一辺6m程度か?)

重複 C-127・128・137号住居跡と重複しているが新旧は不明。出土遺物からはいずれの住居よりも新しくなると考えられる。

埋没土 削平のため不明。

床面 はっきりと検出できなかった。

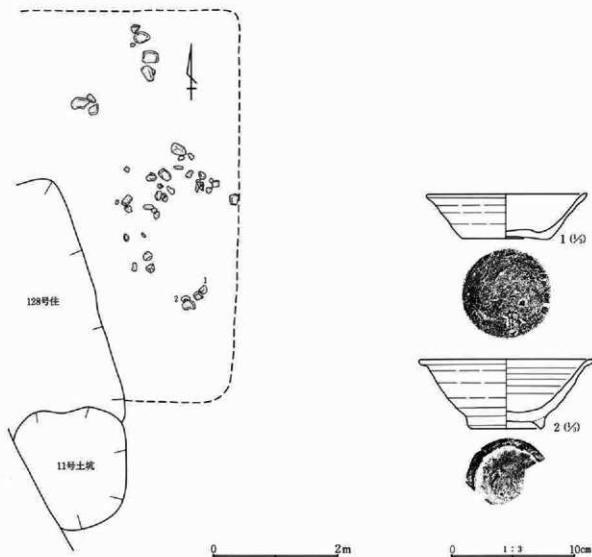
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 はっきりと検出できなかった。遺物出土状況から東壁にあった可能性もある。

出土遺物 出土量は少なく、土器が少量と、砂岩、礫が出土している。

調査所見 床面、竈等もはっきりとせず、遺物が出土しているだけであるため、竪穴住居でない可能性もある。時期は平安時代である。



第206図 C-151号住居跡・出土遺物

C-151号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	構成	整形形の特徴	備考
1	酒器 壺	覆土	12.8 3.6 7.0	砂粒含む	灰白色	普通	口クロ整形 底部回転糸切り	やや軟質
2	酒器 壺	覆土	(14.0) 5.5 (6.2)	精製	灰白色	普通	口クロ整形 付け高台	器面やや風化

C-153号住居跡 (第207~209図、PL-27・115)

位置 Cp-49、Cq-49・50 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.40m、短辺3.45m、壁高0.30m

重複 C-147号住居跡に切られ、C-327・362号住居跡を切る。

埋没土 砂礫を含む黒褐色土。

床面 砂礫を含む暗褐色土で貼られており、あまり締まっている。

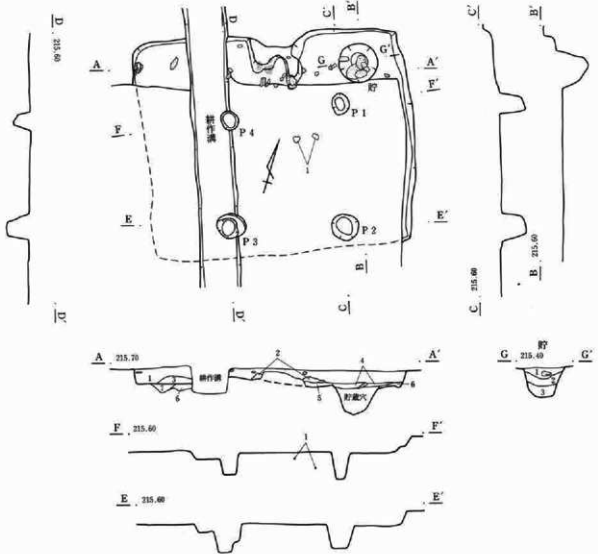
貯蔵穴 北東隅に検出された。径60cmの円形で、深さ50cmである。大型の礫が多数出土している。

柱穴 4本検出されているが、南側の2本は南壁に近接しており、またP4も南にずれている。径35~50cmで

深さ35~45cmである。

**竈** 北壁中央部に作られている。砂岩の切石を芯材としており、袖の残りは比較的良好だが、左袖は残っておらず、袖石のみ出土している。燃焼部の掘込みは浅く、側壁はよく焼けている。

**出土遺物** 147号住居跡に大きく切られていることもあり、出土量は少ない。1の環は床下の出土である。



・153号住居跡

- 1 黒褐色土 砂礫を多量に含む。
- 2 暗褐色土 焼土ブロック、粘土ブロック、木炭片を多く含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子を少量、砂礫を多く含む。
- 4 黒褐色土 砂礫を少量含む。貯蔵穴覆土。
- 5 暗褐色土 砂礫を多量に含む。貼床か。
- 6 暗褐色土 砂礫若干、黄褐色粘土わずかに含む。
- 7 暗褐色土 やや締りの悪い砂質土層で、若干の小礫、粘土含む。

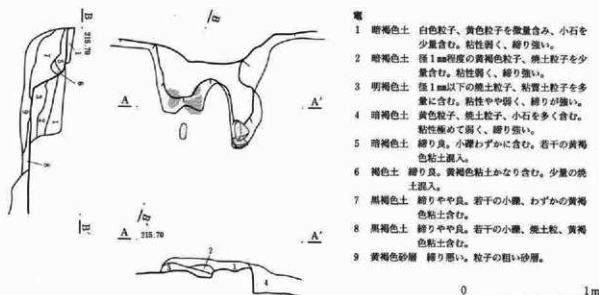
貯蔵穴

- 1 黒色土 締り悪く、若干の小礫、黄褐色粘土含む。
- 2 黒色土 締りやや悪い。黄色土粒を少量及びわずかの焼土、小礫含む。
- 3 黒色土 締りやや悪い。小礫の混入少なく比較的均質な砂質土。

0 2m

第207図 C-153号住居跡

**調査所見** 147号住居跡および耕作溝に大部分切られているため、全容は不明である。柱穴位置からするとやや南に広がる可能性もある。時期は奈良時代か。



- 電**
- 1 暗褐色土 白色粒子、黄色粒子を微量含み、小石を少量含む。粘性弱く、締り強い。
  - 2 暗褐色土 径1mm程度の黄褐色粒子、焼土粒子を少量含む。粘性弱く、締り強い。
  - 3 明褐色土 径1mm以下の焼土粒子、粘質土粒子を多量に含む。粘性やや弱く、締りが強い。
  - 4 暗褐色土 黄色粒子、焼土粒子、小石を多く含む。粘性極めて弱く、締り強い。
  - 5 暗褐色土 締り良。小礫わずかに含む。若干の黄褐色粘土混入。
  - 6 褐色土 締り良。黄褐色粘土かなり含む。少量の焼土混入。
  - 7 黒褐色土 締りやや良。若干の小礫、わずかの黄褐色粘土含む。
  - 8 黒褐色土 締りやや良。若干の小礫、焼土粒、黄褐色粘土含む。
  - 9 黄褐色砂層 締り悪い。粒子の粗い砂層。

第208図 C-153号住居跡・電



第209図 C-153号住居跡出土遺物

C-153号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面 (15.2) (11.4)	4.6		砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横溝で 体部寛削り 内 口縁部横溝で 体部横溝で	

C-154号住居跡 (第210・211図、PL27・28・115)

**位置** Co・Cp・Cq-49・50 **形状** 隅丸方形か **規模** 長辺5.32m、短辺(5.20)m、壁高0.20m

**重複** 121・122・143・147・153号住居跡に切られる。

**埋没土** 小礫を含む暗褐色土。なお3・4層は147号住居跡の貼床の可能性がある。

**床面** 小礫を含む暗褐色土で貼られており、あまり締まっている。ほぼ平坦な床面である。

**貯蔵穴** 検出されなかった。

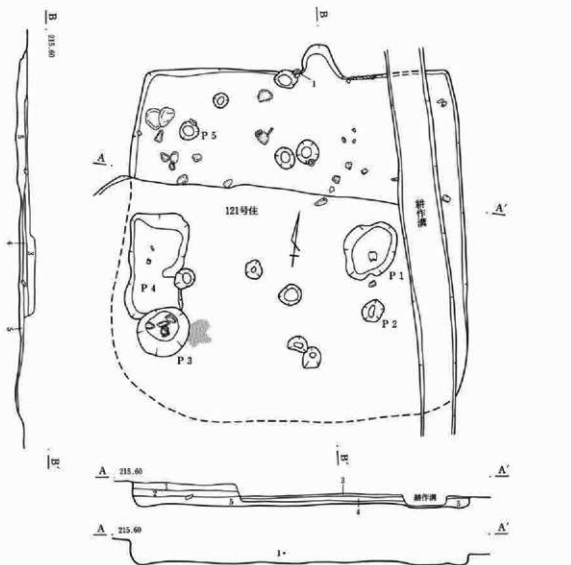
**柱穴** 床面および床下からビットが数基検出されているが、柱穴と考えられるものはない。

**竈** 北壁中央やや東寄りに作られているが、遺存状態は悪く、袖部は残っていない。

**出土遺物** 多数の住居に切られていることもあり、出土量は少ない。竈脇から1の杯が出土している以外は小破片である。

**調査所見** 南側は121号住居跡に切られており不明であるが、掘り方はごく僅か残っていた。また、P1・P3・P4の3基のビットは大型で、床下土坑の可能性もある。





## ・154号住居跡

- 1 暗褐色土 小石を多量混入、径3～4mmの橙色粒子を多く含む。粘性弱いが、締り強い。  
 2 暗褐色土 径2～3mmの橙色粒子を多く含む。粘土弱く、締り強い。1より暗い色調。  
 3 暗褐色土 径3～4mmの小石、径3～4mmの黄色土塊、径2～3mmの粘質土粒子を多く含む。  
 4 暗褐色土 径2～3mmの小石を多く含む。全体的に黄色味を帯びた色調を呈する。  
 5 黒褐色土 小石、黄色粒子、径1mm以下の粘質土粒子を多く含む。粘性やや強く、締り弱い。

0 2m

第210図 C-154号住居跡



0 1:3 5cm

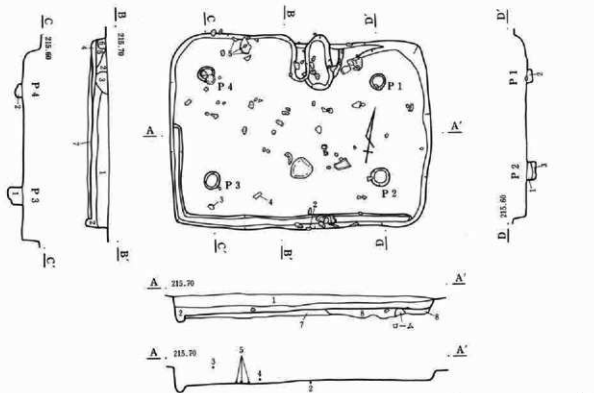
第211図 C-154号住居跡出土遺物

C-154号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 底径(cm)	胎土	色調	構成	製成形の特徴	備考
1	土器 坏	+17	(12.8)	4.0	微砂粒混 に含む	暗赤褐 色	良	外 口縁部横断で 内 口縁部横断で	体部重削り 体部粗で

C-155号住居跡 (第212~214図, PL28・115)

位置 Ci-41・42 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.18m、短辺3.06m、壁高0.25m



・155号住居跡

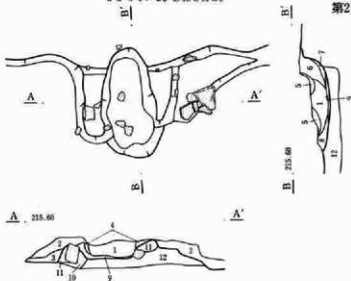
- 1 暗褐色土 径2~8mmの砂礫、粘質土粒を全体に含む。
- 2 暗褐色土 径2~8mmの砂礫、粘質土粒を全体に含む。
- 3 暗褐色土 小砂粒を含む。全体に黒っぽい。
- 4 暗褐色土 小砂粒、粘質土粒、粘質土小ブロック、焼土粒を含む。
- 5 暗褐色土 粘質土粒、焼土粒を全体に含み、黄色味がかっている。砂粒を含む。

- 6 暗褐色土 小砂粒、粘質土粒を少量含む。
- 7 暗褐色土 砂礫、粘質土ブロックを含む。貼床土。
- 8 暗褐色土 砂礫、地山砂礫ブロックを含む、砂質土、貼床。

P1~4

- 1 黒褐色土 砂礫を比較的多く含む。
- 2 暗褐色土 砂礫を多く含む。
- 3 褐色土 1に砂礫のブロックが混入。

第212図 C-155号住居跡



■

- 1 黒褐色土 焼土粒、砂礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、砂礫を含む。
- 3 黒褐色土 砂礫少量含む。
- 4 褐色土 粘質土と1の混土。袖を構成する粘土の2次堆積土。
- 5 暗褐色土 少量の焼土粒を含む。
- 6 暗褐色土 少量の焼土粒、砂礫を含む。
- 7 暗褐色土 6に近似、少量の焼土粒を含む。
- 8 暗褐色土 砂礫を多く含む。
- 9 赤褐色土 焼土粒を多く含む粘質土。
- 10 赤褐色土 焼土粒を多く含む砂質土。
- 11 暗褐色土 焼土粒を含む粘質土。
- 12 黒褐色土 砂礫を含む。

第213図 C-155号住居跡・竈

重複 159号住居跡を切る。

埋没土 砂礫、ローム粒を含む

床面 甕手前及び住居東側が比較的締まる。西側重複部分はわずかに下がる。南・西壁下に周溝。

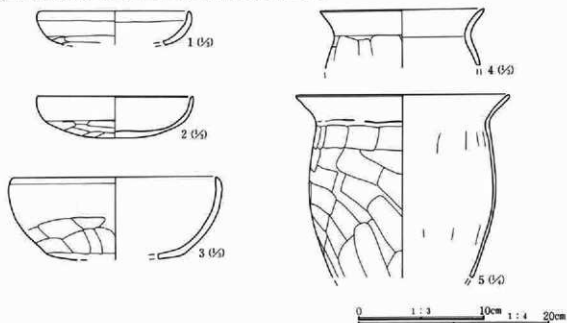
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 やや壁寄りではあるが、ほぼ対角線上に4本が検出された。いずれも深さは10~20cmと浅い。

竈 北壁中央やや東寄りに作られている。袖部分は粘土を含む黒褐色土で作られているが、かなり崩れた状態、芯材の石が露出した状態である。埋没土、火床面にはかなりの焼土が認められた。

出土遺物 土師器環、甕類が見られたが少ない。

調査所見 北側長辺に竈が作られる。時期は奈良時代である。



第214図 C-155号住居跡出土遺物

C-155号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考	
1	土師器 環	覆土	(12.0)		微砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	体部削削り 体部削で後置磨き	
2	土師器 床面 環		(12.5)	3.3	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	体部削削り 体部削で後置磨き	
3	土師器 環	+38	(16.0)		微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	体部削削り 体部削で	
4	土師器 甕	+5	13.0		微砂粒含む	淡褐色	普通	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部削削り 胴部削で	甕手の作り
5	土師器 甕	+3	23.2		微砂粒含む	黒褐色	良	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部削削り 胴部削で	内面に煤付着

C-156号住居跡 (第215~218図、P.L.28・115・116)

位置 Ct-39・40 形状 隅丸方形 規模 長辺4.77m、4.45m、0.41m

重複 南部分で323号住居跡(古墳時代)に接する。また南東隅に耕作による長円形の土坑が重複する。

埋没土 砂礫、ローム小粒を含み、砂質である。

第3章 検出された遺構と遺物

床面 多少の起伏が見られるが、ほぼ平坦である。

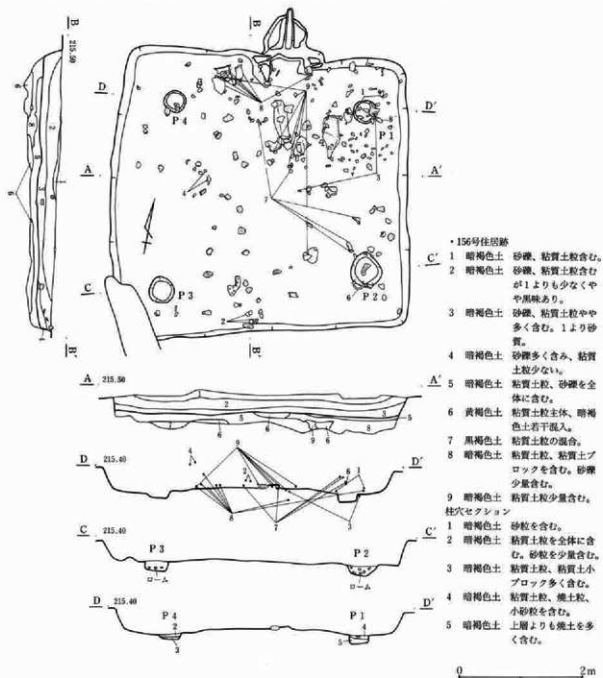
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 対角線上に4本検出した。径30~50cm、深さは15cm程である。

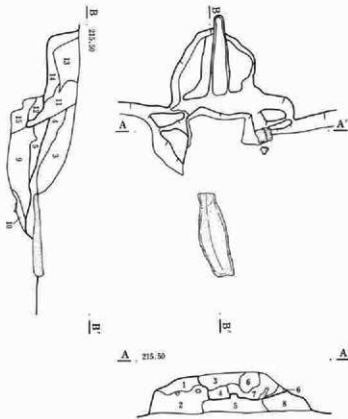
竈 北壁中央に作られている。砂礫を含む粘質土で作られている。かなり崩落した状態で、天井に渡されていたと思われる長さ65cm程の板状の砂岩が2個、竈口前の床面に置かれた状態で出土している。煙道は一段高くなり壁外に約1.5m程延びている。

出土遺物 竈周辺部分で土師器甕、坏類が出土している。掘り方より紡錘車が出土している。

調査所見 遺存状態は比較的良く、壁は垂直に立ち上がり、良く残る。時期は古墳時代後期である。



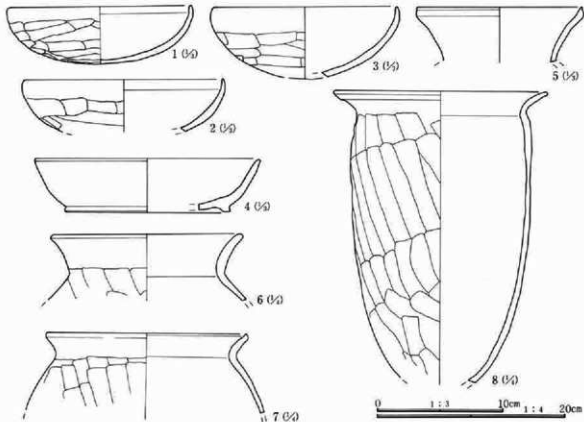
第215図 C-156号住居跡



電

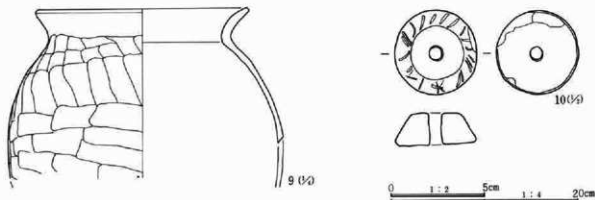
- 1 暗褐色土 粘質土粒、砂礫含む。
- 2 暗褐色土 粘質土粒、焼土粒、砂礫含む。
- 3 黄褐色粘質土 粘質土、砂礫少量含む。
- 4 暗褐色土と黄褐色土の混合土 砂礫少量含む。
- 5 赤褐色土 焼土多く含み灰、粘質土、砂礫含む。
- 6 黄褐色土 暗褐色土を少ブロック状に含む。粘質土粒、砂礫を含む。
- 7 暗褐色土 粘質土粒、粘土粒を含む。砂礫を少量含む。
- 8 暗褐色土 粘質土粒、砂礫を少量含む。
- 9 暗褐色土 焼土、粘質土粒の混合土。
- 10 暗褐色土 粘質土粒、焼土を少量含む。
- 11 暗褐色土 焼土を全体に含む。
- 12 暗褐色土 11と色、状態ともに近似。
- 13 暗褐色土 粘質土粒含み、やや黄褐色を呈す。焼土粒少量含む。
- 14 暗褐色土 粘質土粒を含む。
- 15 黄褐色土 暗褐色土と粘質土の混合、粘質土の量多い。

第216図 C-156号住居跡・電



第217図 C-156号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第218図 C-156号住居跡出土遺物(2)

C-156号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器器 坏	+3	(14.8)	4.5	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り	
2	土器器 坏	+4	(16.0)		微砂粒含む	暗黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り後磨き	
3	土器器 坏	床面	15.0		微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り	
4	須恵器 埴	+40	(18.0) (13.2)	4.3	糟製	灰白色	良	ロクロ整形 付け高台	
5	須恵器 壺	掘り方	(13.2)		糟製	灰白色	良	ロクロ整形	口縁部片
6	土器器 壺	+26	21.0		微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	
7	土器器 壺	+5	24.0		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	
8	土器器 壺	+3	22.5		小砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	
9	土器器 壺	床面	23.2		砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	大瓦品
10	紡錘車	掘り方	径8.0cm 高さ1.7cm 孔径0.7cm 重さ50.4g 蛇紋岩製 かなり磨耗、外周部に線刻						

C-157号住居跡 (第219~221図, PL29・116)

位置 Cr・Cs-40・41 形状 隅丸方形 規模 長辺4.48m、4.20m、0.46m

重複 347号住居跡(弥生時代)の南西隅を切る。

埋没土 砂礫・ローム粒を含む、下層は砂質でやや軟質である。

床面 若干の凹凸をもち、締まりは余りない。壁周溝が南壁下の東部分を除き、ほぼ全周している。

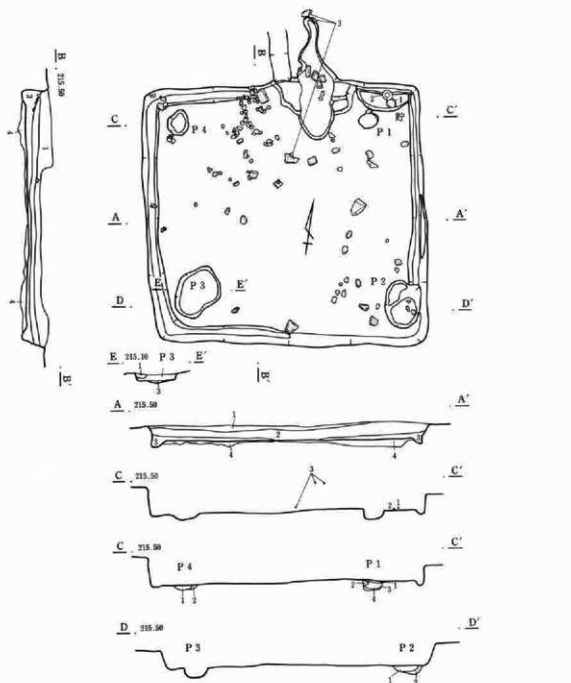
貯蔵穴 北東隅に半月状の掘り込みが検出されているが、極めて浅い。

柱穴 四隅に寄って4本検出されている。径にばらつきが見られ、いずれも深さは10cm内外である。

竈 北壁に作られている。両袖部分はやや崩れているものの、燃焼部内の石や煙道は比較的遺存状態が良かった。煙道はやや曲がった状況を示し、煙り出し部分はわずかな高まりを持ち、煙り出し開口部で土器器臺の口縁部片が出土している。

出土遺物 点数は余り多くはない。竈左側に比較的集中して見られたが、破片が多かった。土器器坏の完形品2点が北東隅で出土している。

調査所見 出土遺物は多くはなかったが、遺存状態の良い住居である。時期は奈良時代である。



## ・157号住居跡

- 1 暗褐色土 径1～10mmの砂礫を全体に含む。粘質土粒を含む。  
 2 暗褐色土 径1～10mm砂礫、粘質土粒を含むが、1より少ない。やや黒味がかる。  
 3 暗褐色土 径1～10mmの砂礫を含む。やや粘質土粒を含む。全体に砂質で軟質。  
 4 暗褐色土 粘質土粒、粘質土粒を多く含む暗褐色土。砂礫を多く含む。

## P 1

- 1 黄褐色粘質土 粘質土粒を多く含む。  
 2 粘質土ブロック  
 3 黒褐色土 粘質土小ブロック、暗褐色土を含む。

- 4 黄褐色土 粒子細かい。

## P 2

- 1 暗褐色土 粘質土粒、粘質土ブロック含む。  
 2 暗褐色土 粘質土粒を多く含む、黄色味がかる。

## P 3

- 1 暗褐色土 粘質土粒を多く含む。やや黄色味がかる。  
 2 暗褐色土 砂粒を含む。  
 3 暗褐色土 粘質土粒を全体に含む。

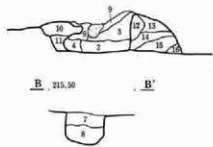
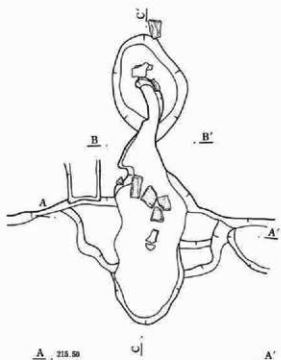
## P 4

- 1 黒褐色土 粘質土粒、粘質土ブロック含む。  
 2 粘質土ブロック

第219図 C-157号住居跡

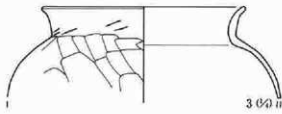
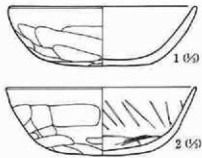
0 2m

第3章 検出された遺構と遺物



- 電
- 1 暗褐色土 焼土粒、粘質土粒を少量含む。
  - 2 暗褐色土 粘質土粒、焼土粒やや多く含む。黄色味がかったり。
  - 3 暗褐色土 2より粘質土粒、粘質土ブロック少ない。
  - 4 暗褐色土 2よりも粘質土粒多く砂質、焼土少ない。
  - 5 暗褐色土 焼土、粘質土粒ほとんど含まず。
  - 6 赤褐色土 暗褐色土、焼土粘質土粒の混合。
  - 7 暗褐色土 焼土粒、粘土粒を含む。
  - 8 暗褐色土 5より焼土粒多く含む、香味あり。
  - 9 暗褐色土 焼土、粘質土粒ほとんど含まず。
  - 10 黄白色粘土 暗褐色土若干混合。
  - 11 粘土と暗褐色土の混合。
  - 12 粘土 暗褐色土を混合。
  - 13 暗褐色土を多く混合する粘土。
  - 14 粘土 暗褐色土をやや多く含む。
  - 15 13と近似。やや粗粒。
  - 16 14と近似。粘性あり。

第220図 C-157号住居跡・電

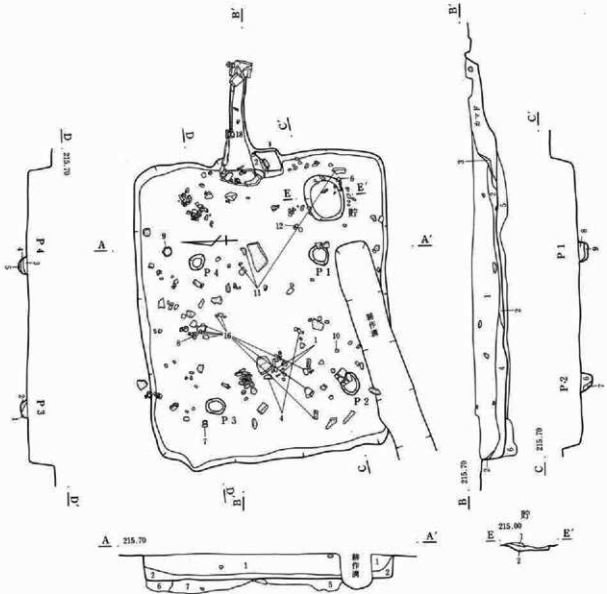


第221図 C-157号住居跡出土遺物

C-157号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 杯	+5	15.0 9.0	4.7	小糠まばら に含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部削で	
2	土師器 杯	+4	15.0	5.4	小糠まばら に含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部削で後置磨き	内面に縦線、放射状 暗文 ほぼ光形
3	土師器 壺	+5	(22.1)		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部削で	胴部外面に黄の当たり 痕





・158号住居跡

- 1 暗褐色土 径1~20mmの砂礫、石、粘質土粒を含む。
- 2 暗褐色土 黒味強く、砂礫少量含む。粘質土粒含む。
- 3 赤褐色土 焼土粒、粘質土粒、暗褐色土の混合。
- 4 暗褐色土 粘質土全体に、砂粒を少量含む。
- 5 褐色土 地山砂の二次堆積土。
- 6 暗褐色土 砂礫を含む。砂質土。
- 7 褐色土 砂礫、粘土ブロックを含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 良く締る。粘性わずからず。暗褐色土ブロックやや多く、砂礫、焼土粒子少量含む。
- 2 褐色土 粘性のある暗褐色土ブロック、砂礫、焼土粒子わずかに含む。

P1~4

- 1 粘質土ブロックと暗褐色土の混合。
- 2 暗褐色土 粘質土粒、砂粒を含む。
- 3 黄褐色土 粘質土粒と暗褐色土の混合。
- 4 黄褐色土 灰、粘質土粒、焼土粒を含む。
- 5 暗褐色土 粘質土粒、砂粒を含む。
- 6 暗褐色土 全体に黒っぽく、砂粒を含む。
- 7 暗褐色土 粘質土粒、砂粒を含む。
- 8 暗褐色土 粘質土粒、小砂粒を含む。
- 9 暗褐色土 粘質土粒、砂粒を含む。

第222図 C-158号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

C-158号住居跡 (第222~225図, PL29・116・117)

位置 Cr・Cs-43 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.75m、短辺3.74m、壁高0.41m

重複 南西壁を近世の耕作溝により壊されている。

埋没土 ほぼ1層でまとめられる。小礫を多く含む土で、若干のローム粒子を含む。

床面 やや起伏を持ち、締まりはあまり良くない。

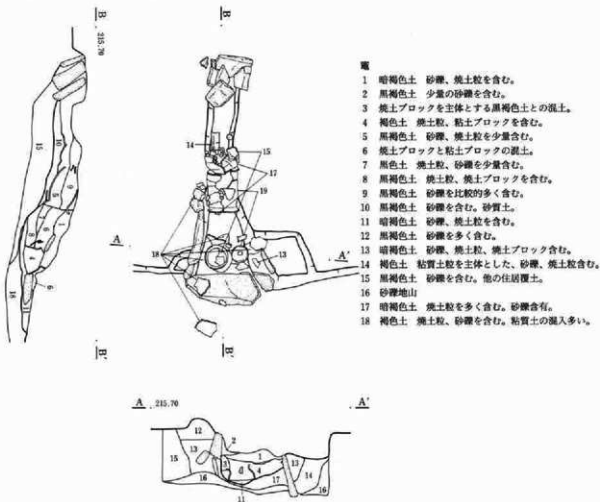
貯蔵穴 北東隅に検出されたが、生活面精査時には確認できなかった。掘り方の調査時に下部分のみを確認したものである。やや長円形で確認時の深さは約10cmである。

柱穴 対角線上に4本を検出した。径は25~30cmで深さは10~20cmである。

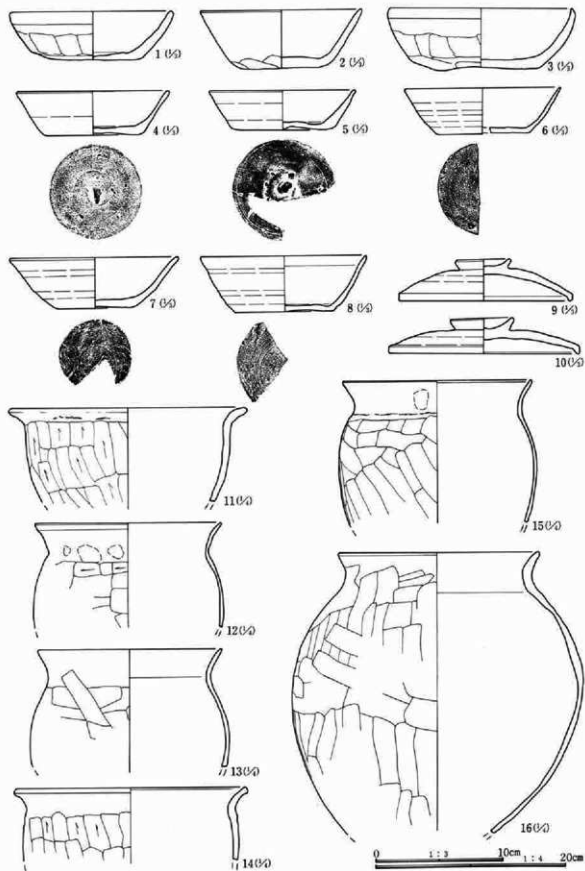
竈 東壁中央に作られる。遺存状態は良好である。住居外に幅30cm、長さ約1.7m程掘り出し、燃焼部壁に偏平な砂岩を立て並べ、さらに煙道端部にもコの字状に石を組み、土の崩落を防いでいる。内部より土師器の甕、須恵器蓋が出土。煙道部には底部を欠いた土師器甕を2個連結して再利用している。

出土遺物 竈より土師器甕3点、須恵器蓋、土師器坏などが覆土、あるいは床面近くで出土している。

調査所見 各壁の遺存状態は良好で、竈はより使用時の状態を留めていた。時期は平安時代である。

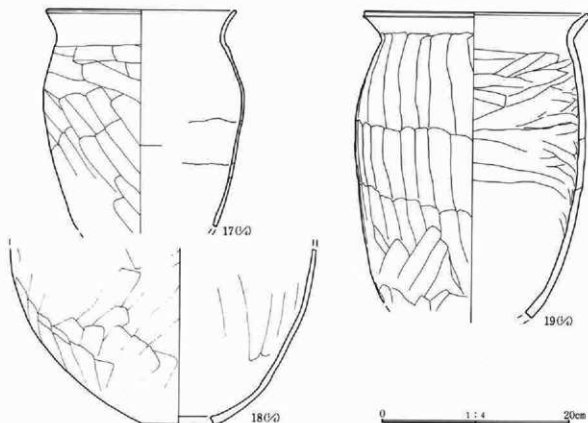


第223図 C-158号住居跡・竈



第224图 C—158号住居跡出土物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第225図 C-158号住居跡出土遺物(2)

C-158号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置	口径	器高	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	掘り方	(15.0) (5.0)		精製	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
2	土師器 坏	床面	(13.0) 4.5 (6.0)		精製	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 体部下部分削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
3	土師器 坏	床面	(13.6) 4.0 6.0		砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面底部および口縁部に油煙
4	須恵器 坏	+30	(12.2) 3.5 7.4		微砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転裏切り	
5	須恵器 坏	掘り方	11.8 3.0 8.0		精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転裏切り、周辺部撫で調整	
6	須恵器 坏	+15	(12.4) 3.6 7.2		微砂粒含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転裏切り後撫で調整	
7	須恵器 坏	+43	(13.6) 4.0 6.0		白色微砂粒 含む	暗灰色	良	ロクロ整形 底部回転裏切り	
8	須恵器 坏	+3	(13.4) 4.4 4.0		精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転裏切り	
9	須恵器 蓋	床面	13.8 3.3 柄径4.6		精製	灰色	良	ロクロ整形 外面天井部裏削り	内面転用碗として使用
10	須恵器 蓋	+32	15.0 2.7 柄径4.9		黒色微砂粒 含む	青灰色	良	ロクロ整形 外面天井部裏削り	内面転用碗として使用、完形
11	土師器 壺	+7	26.0		砂粒僅かに 含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部裏削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	広口壺
12	土師器 壺	竈内	20.0		微砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部裏削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	頸部に指頭痕
13	土師器 壺	竈内	20.0		微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部裏削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	製成形の特徵	備考
14	土師器 壺	竈内	(25.0)		砂粒傷かに 含む	茶褐色	良	外 □縁部横無で 胴部莖削り 内 □縁部横無で 胴部莖で	
15	土師器 壺	竈内	20.3		微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 □縁部横無で 胴部莖削り 内 □縁部横無で 胴部莖で	
16	土師器 壺	床面	21.2		砂粒含む	淡褐色	良	外 □縁部横無で 胴部莖削り 内 □縁部横無で 胴部莖で	大型品
17	土師器 壺	竈内	20.0		微砂粒含む	茶褐色	良	外 □縁部横無で 胴部莖削り 内 □縁部横無で 胴部莖で	
18	土師器 壺	竈内	(7.6)		砂粒含む	淡褐色	良	外 胴部莖削り 内 胴部莖で	大型壺の胴部 底部 に焼成後の穿孔
19	土師器 壺	竈内	23.7		砂粒含む	淡褐色	良	外 □縁部横無で 胴部莖削り 内 □縁部横無で 胴部莖で	□縁部近く穿孔、端 部面取りされる

## C-159号住居跡 (第226~228図、PL.29・30・117)

位置 Cs・Ct-42 形状 隅丸方形 規模 長辺5.43m、短辺4.73m、壁高0.52m

重複 C-155号住居跡 (平安時代) に北東の約4分の1程を切られる。なお本址は拡張住居である。

埋没土 砂礫含み、若干のロームブロックを含む。

床面 平坦であるが、貼られた面は部分的に残る。色調差、および粘土の堆積 (分布) により確認される。

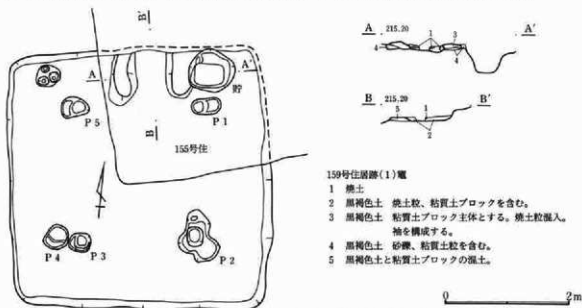
貯蔵穴 拡張前の貯蔵穴は北東隅に作られている。2段に掘り込まれ、平面形はほぼ円形で下段の掘り込みは長方形である。深さは約40cmである。拡張後の住居には北東と北西に2箇所検出されている。北西のものは一辺60cm程の方形プランで掘り込みは2段、深さは約50cmである。北東のものはやはり方形プランであるが、規模は小さく一辺約40cm、深さ約30cmである。

柱穴 拡張前、および後の住居ともに対角線上に4本が検出されている。

竈 拡張前の住居のものは両袖の下部のみが確認されたに過ぎない。それぞれ幅40cm、長さ80cm程である。また、拡張後の竈についても他の住居によりほぼ削平されている。

出土遺物 破片類がほとんどである。土師器環、壺が図示できたのみである。

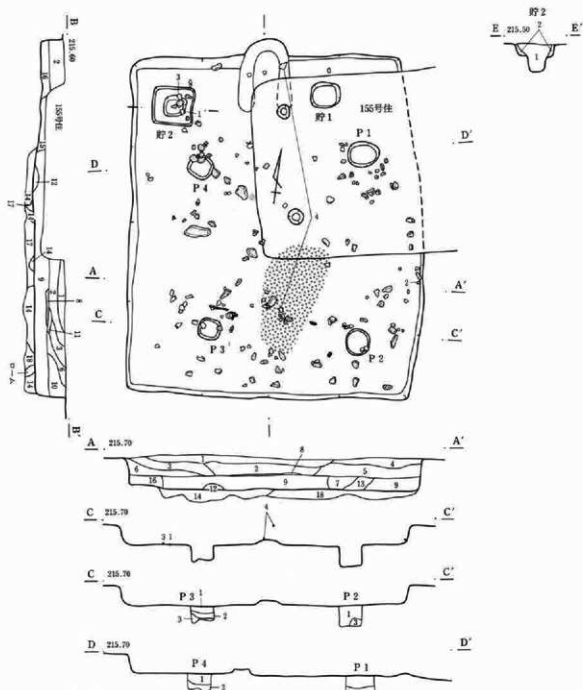
調査所見 一辺約4mの住居を北側約1.4m、西側に約50cm拡張し、やや南北に細長い住居に作り替えている。古い住居は人為的に埋められている。竈はいずれも削平されている。時期は古墳時代後期である。



第226図 C-159号住居跡(1)

## 159号住居跡(1)竈

- 1 焼土
- 2 黒褐色土 焼土粒、粘質土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 粘質土ブロック主体とする。焼土粒混入。袖を構成する。
- 4 黒褐色土 砂礫、粘質土粒を含む。
- 5 黒褐色土と粘質土ブロックの混土。

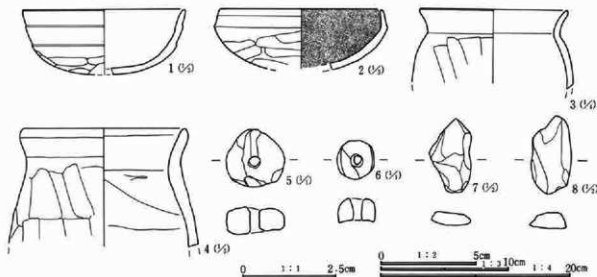


・159号住居跡(2)

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 黒褐色土 砂礫を比較的多く含む。<br/>                 2 黒褐色土 1より砂礫少なく、やや褐色味強い。<br/>                 3 黒褐色土 砂礫、粘質土ブロックを斑点状に含む。<br/>                 4 黒褐色土 1に近似、砂礫の混入多く、褐色味強い。<br/>                 5 暗褐色土 2に近似、粘質土ブロックの混入少量あり。<br/>                 6 黒褐色土 少量の砂礫、粘質土ブロック含有。<br/>                 7 灰褐色粘土<br/>                 8 暗黄褐色土 粘質土ブロック含む。<br/>                 9 黒褐色土 砂礫、粘質土ブロックを含む。粘性あり。<br/>                 10 黒褐色土 砂礫含む。少量の粘質土ブロック含む。<br/>                 11 黒褐色土 10に近似、砂礫の混入やや少ない。<br/>                 12 黒褐色土 粘質土ブロックを含む。<br/>                 13 黒褐色土 粘質土粒、粘質土ブロックを含む。</p> | <p>14 黒褐色土 砂礫、粘質土ブロックを含む粘質土。<br/>                 15 褐色土 砂質褐色土と暗褐色土との混合。<br/>                 16 黒褐色土 9に近似、粘土ブロック混入しない。<br/>                 17 黄褐色土 粘質土、二次堆積土。<br/>                 18 砂礫の二次堆積土。</p> <p>貯蔵穴2<br/>                 1 黒褐色土 砂礫を含む。<br/>                 2 褐色土 砂礫を主体とする砂質土。</p> <p>柱穴セクション<br/>                 1 黒褐色土 砂礫を含む。<br/>                 2 暗褐色土 砂礫、砂質褐色土ブロックを含む。<br/>                 3 砂質土 黄褐色土、二次堆積土。</p> |
|---|--|

第227図 C-159号住居跡(2)

0 2m



第228図 C-159号住居跡出土遺物

C-159号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	土調	焼成	整形成形の特徴	備考
1	土器 器 坏	床面	(12.0)	精製	灰黄色	良	外 口縁部横線で 体部寬削り 内 口縁部横線で 体部無で	口縁部に使2段を持つ
2	土器 器 坏	+6	(13.0)	砂粒含む	暗灰色	良	外 口縁部横線で 体部寬削り 内 口縁部横線で 体部無で後裏磨き	内面黒色
3	土器 器 壺	床面	(16.0)	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寬削り 内 口縁部横線で 胴部無で	
4	土器 器 壺	+23	(13.4)	砂粒僅かに 含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寬削り 内 口縁部横線で 胴部無で	
5	白 玉	貯蔵穴内	径1.5cm 高さ0.8cm 重さ2.4g	奥真円の凹凸顯著		滑石製		
6	白 玉	貯蔵穴内	径1.1cm 高さ0.7cm 重さ1.0g	片圓は未調整		滑石製		
7	石 片	掘り方	長さ3.9cm 幅2.1cm 重さ7.1g			滑石製		
8	石 片	掘り方	長さ4.1cm 幅2.1cm 重さ8.7g			滑石製		

## C-160号住居跡 (第229~232図、PL30・117・118)

位置 Ce-44・45 形状 隅丸方形 規模 長辺5.32m、短辺一、壁高0.62m

重複 北側でC-173号住居跡(弥生)、C-170号住居跡(縄文)を切り、南側でC-116号住居跡(弥生)の一部を切る。

埋没土 礫を多く含み、粗粒。また河原石が住居北側部分に多く混入していた。

床面 多少の凹凸が見られたが、ほぼ平坦でよく締まる。

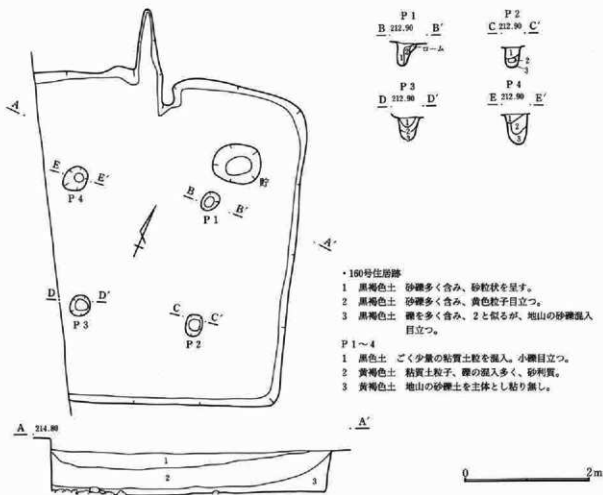
貯蔵穴 北東隅に検出した。

柱穴 対角線上に4本が検出された。径25~30cmで深さは30~40cm、埋土はかなり粘性の強い土である。

竈 北壁ほぼ中央に作られている。袖部分の残りは悪く、煙道の立ち上がりは急角度でかなり短い。

出土遺物 多量の礫が投げ込まれた状態で検出され、これらに混じり、土器器の壺、坏類が見られた。

調査所見 西側部分は調査区外となり、遺構全体を調査することはできなかった。壁は比較的残りが良く、特に北壁は高さ60cmを測る。出土遺物は礫の混入が顕著で、これらの礫は投げ込まれたような状況を示しており、かなり大きなものも見られた。時期は古墳時代後期である。



・160号住居跡

- 1 黒褐色土 砂礫多く含み、砂粒状を呈す。
- 2 黒褐色土 砂礫多く含み、黄色粒子目立つ。
- 3 黒褐色土 礫を多く含み、2と似るが、地山の砂礫混入目立つ。

P 1~4

- 1 黒色土 ごく少量の粘質土粒を混入。小礫目立つ。
- 2 黄褐色土 粘質土粒子、礫の混入多く、砂利質。
- 3 黄褐色土 地山の砂礫土を主体とし粘り無し。

第229図 C-160号住居跡(1)

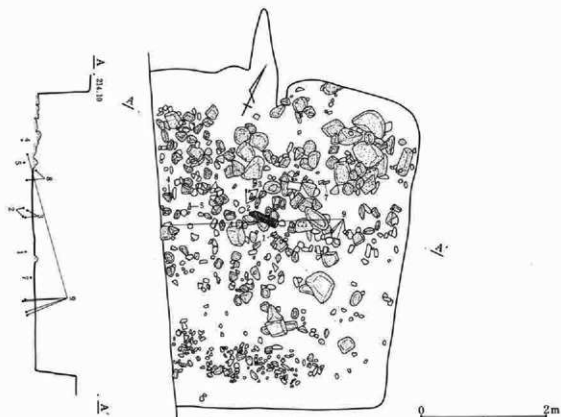


■

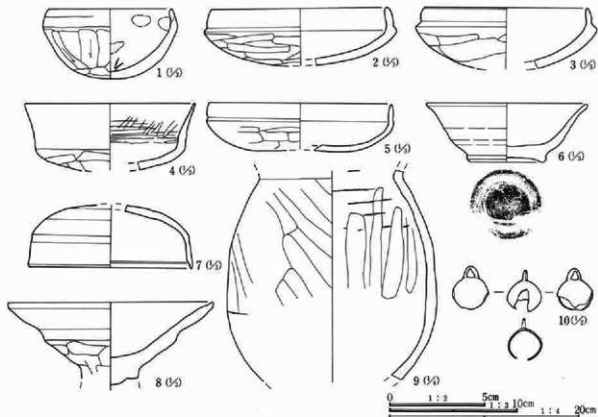
- 1 暗赤褐色土 焼土小ブロックをまばらに混入し、砂礫を混入。
- 2 黒褐色土 礫及び若干の焼土粒を含む。砂礫土。
- 3 赤褐色土 焼土塊を主体とし、礫の混入少ない。
- 4 黄褐色土 地山の黄色砂質土を主体とし、混入物少ない。

第230図 C-160号住居跡・竈





第231图 C-160号住居跡(2)



第232图 C-160号住居跡出土遺物

C-160号住居跡遺物観察表

番号	器 種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底高 (cm)	胎 土	色 調	焼 成	整 成 形 の 特 徴	備 考
1	土 師 器 環	床面	(10.0)	5.5	砂粒僅かに 含む	暗灰褐 色	良	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部無で後置磨き	深い作り
2	土 師 器 環	床面	14.0	4.6	微砂粒含む	暗灰褐 色	良	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部無で	
3	土 師 器 環	床面	(13.0)		微砂粒含む	灰黄色 色	良	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部無で	
4	土 師 器 環	床面	(13.6)		微砂粒含む	灰褐色	普通	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部無で後置磨き	内面丁寧な置磨き、 外面底部剥落顯著
5	土 師 器 環	床面	(14.6)		微砂粒僅か に含む	暗灰褐 色	良	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部無で	
6	須 志 器 環	覆土	(12.9) (6.3)	4.7	微砂粒含む	黄褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	付け高 土師貫
7	須 志 器 蓋	床面	(13.0)		微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 口縁部横撫で 外面天井 部縦削り	
8	土 師 器 高 環	床面	16.4		砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部無で後置磨き	高環部のみ
9	土 師 器 壺	床面			砂粒僅かに 含む	淡灰褐 色	良	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部無で	口縁部、底部を欠く
10	鈴	覆土			高さ2.3cm 径1.9cm 重さ5.4g 銅製		内部に径0.8cm程の小鏨		

C-161号住居跡 (第231・232図、PL30・118)

位置 Cb-43 形状 隅丸方形か 規模 長辺 (3.45) m、短辺 (2.10) m、壁高 0 m

重積 西側半分以上は調査区外にあり、北側をC-109号住居跡(平安時代)に、南側をC-110号住居跡(平安時代)に切られているために全体の形状は不明である。

埋没土 小粒含む砂礫土。

床面 平坦であるが、締まりは弱い。

貯蔵穴 北東隅に径50cm、深さ35cmの掘り込みが検出されており、貯蔵穴の可能性もあるが確定できない。

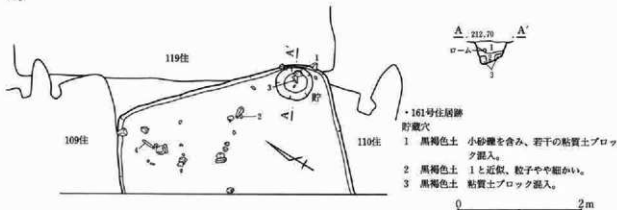
ほぼ完形の須志器環が上位より出土している。

柱穴 検出されなかった。

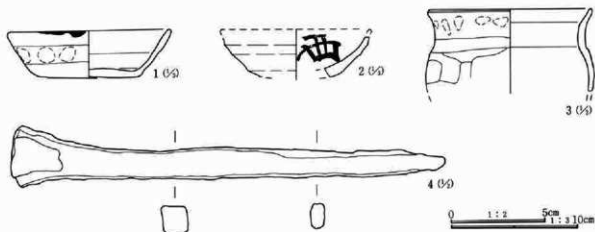
竈 検出されなかった。

出土遺物 須志器環1点、破片類の外、鉄器1点が見られる。

調査所見 住居の北西部分は調査区外にあるため、全容は不明。竈、柱穴、明確な貯蔵穴も確認されなかった。



第233図 C-161号住居跡・竈



第234図 C-161号住居跡出土遺物

C-161号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	貯蔵穴内	12.8 8.2	3.8	砂粒ごく僅 か含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部無で 内 口縁部横線で 体部無で後覆磨き	外面体部に指頭痕 口唇部に油煙
2	須恵器 杯	床面			微砂粒僅か に含む	灰色	良	口縁部 口縁部横線で 体部無で後覆磨き	体部片 内面に黒書 (西)
3	土師器 壺	貯蔵穴内	(13.0)		微砂粒僅か に含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部底削り 内 口縁部横線で 胴部無で	外面頸部に指頭痕が めぐる
4	鉄釘	床面	長さ23.3cm 幅3.3cm 厚さ1.3cm 重さ212g 大型品						

## C-162号住居跡 (第235~237図、PL31・118)

位置 Cd・Ce-36・37 形状 隅丸方形 規模 長辺5.96m、短辺 (3.30) m、壁高0.24m

重複 C-56号住居跡 (弥生時代) の北西隅とC-163号住居跡 (弥生時代) の南部分を切り、南側はC-32号住居跡 (古墳時代)、C-35号住居跡 (古墳時代) に切られる。

埋没土 小礫含む砂礫土。

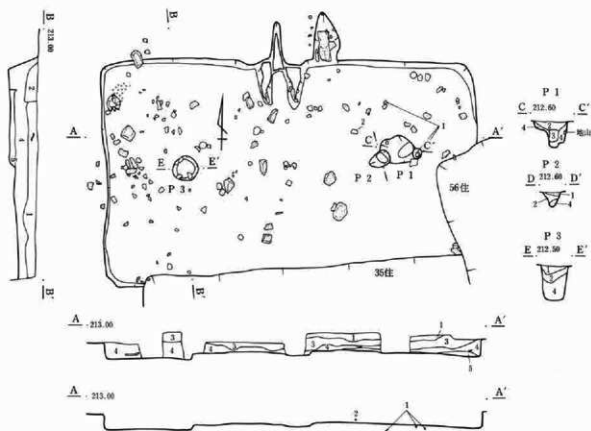
床面 平坦で比較的締まる。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 対角線上に4本検出した。

竈 北壁中央に2カ所検出された。右側の竈が古く、作り替えが行われたものと思われる。古い竈については袖部分は全て取り除かれており、煙道のみが確認され、天井部縦方向に板状の砂岩が、かぶせられた状態で検出されている。新しい竈については、両袖部分が良く残っており、両袖の部分には板状の砂岩が据えられていた。さらに焚口部の天井部分に渡されていた板状の砂岩が、割れて落ち込んだ状態で検出されている。出土遺物 礫の出土が目立ったものの、土器類は極めて少ない。図示し得たのは、土師器の杯2点である。P1の周辺において出土している。

調査所見 南側約半分は他の住居により切られているために失われていたが、竈の作られた北側部分については比較的遺存状態は良く、最大壁高は約30cmを測る。竈の作り替えが行われている。時期は古墳時代である。



・162号住居跡

- 1 黒褐色土 砂利、小礫、礫、褐色土粒、褐色粘性土ブロック等雜多に混入、締りはない。
- 2 黒褐色土 褐色土粒、小礫が少し含まれる。締りなく均一な堆積。
- 3 黒褐色土 砂利、小礫、褐色土粒、土塊、粘性土塊を含む。あまり締りはない。
- 4 黒褐色土 砂利、小礫等含む、褐色土粒多く、部分的に黒褐色土含む締りあり。
- 5 褐色土 褐色砂利、褐色粘性土、若干の黒褐色土からなる。住居床下土層。

P 1・2

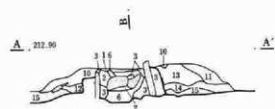
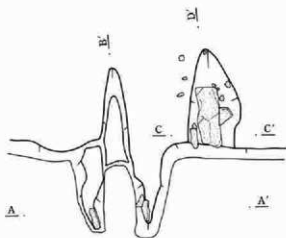
- 1 黒褐色土 砂礫多量、褐色粘性土塊と黒褐色土がまだらなす。褐色土粒の混入も顯著。
- 2 黒褐色土 砂利、小礫、褐色土粒等が雜多に混入。
- 3 黒褐色土 砂利等は2に比べ少なく、褐色土の混入割合が大さい。
- 4 黒褐色土 褐色土塊及び、粘性土塊と黒褐色土塊とがまだら状に堆積。砂利も多く混入。

P 3

- 1 黒褐色土 小礫、少量及び炭化物若干含む。粘質土塊ごくわずかに混入。
- 2 黒褐色土 1に似るが、粘質土の混入多い。
- 3 暗褐色土 砂質土のりを含む。粘質土ブロックわずかに混入。

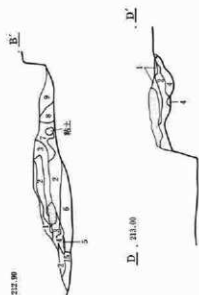
0 2m

第235図 C—162号住居跡



電 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土 小礫混入。褐色土塊、黒褐色土塊、土粒との混入。
- 2 黒褐色土 砂利、小礫等多く含まれる。褐色土粒もやや混入。
- 3 褐色土 褐色土粘性土、褐色土からなる。黒褐色土粒がわずかに混入。粒は細かく締りがある。電天井部崩落土か。
- 4 黒褐色土 砂礫、褐色土粒がわずかに含まれる他、炭片が見られる。粒は細かく締りがある。
- 5 褐色土 小礫を含む。炭土も若干混入。固い。
- 6 褐色土 地山粘質土、若干の焼土含む。礫の混入ほとんど見られない。
- 7 黒褐色土 褐色土粒混入、砂利、褐色粘性土塊が含まれる。褐色、灰白色粒子も見える。さほど締りはない。
- 8 黒褐色土 小礫の混入顯著。褐色土粒多く含む。
- 9 黒褐色土 砂利、褐色土粒が多く含まれる。締りはない。163住居土。



- 10 黒褐色土 砂利、小礫、褐色粘性土塊、褐色土粒、褐色粒子、灰白色粒子等を多く含む。
- 11 黒褐色土 10と近似するが、褐色土塊多量に置められ黒褐色土とまじらな状をなしやや固い。
- 12 褐色土 褐色土粒の混入が顯著。やや固い。
- 13 褐色土 礫が混入する他、5mm程度の小角礫混入。褐色粘性土塊や熱を受けた淡褐色土塊の混入顯著。黒褐色土、褐色土含む。
- 14 褐色土 褐色粘性質土塊及び、淡褐色焼土塊が互層に堆積。礫、小礫、黒褐色土粒混入。
- 15 黒褐色土 砂利、褐色土粒、褐色、灰白色粒子、褐色粘性土塊を含む。やや締りあり。

電 C-C'・D-D'

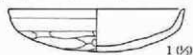
- 1 暗褐色土 上面に焼土、小礫、炭土若干含む。
- 2 黒褐色土 基礎の暗黄褐色砂質土のブロック若干混入。焼土主体。
- 3 黒褐色土 2に似るが、焼土及び炭化物含まない。
- 4 黒褐色土 小礫まばらに、炭土わずかに含む。

第236図 C-162号住居跡・電

0 1m

C-162号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 径長(cm)	器高	胎土	色調	焼成	製成形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面	14.0	3.3	微砂粒含む	茶褐色	普通	外 口縁部横撫で 体部磨削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後施磨き	
2	土師器 杯	+5	(14.0)		精製	灰黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部磨削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後施磨き	



0 1:3 10cm

第237図 C-162号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

C-167号住居跡 (第238・239図、PL31・118)

位置 Cg-45、Ch-45 形状 隅丸方形 規模 長辺3.08m、短辺2.89m、壁高0.20m

重複 西側でC-168号住居跡を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 平坦で比較的締まる。

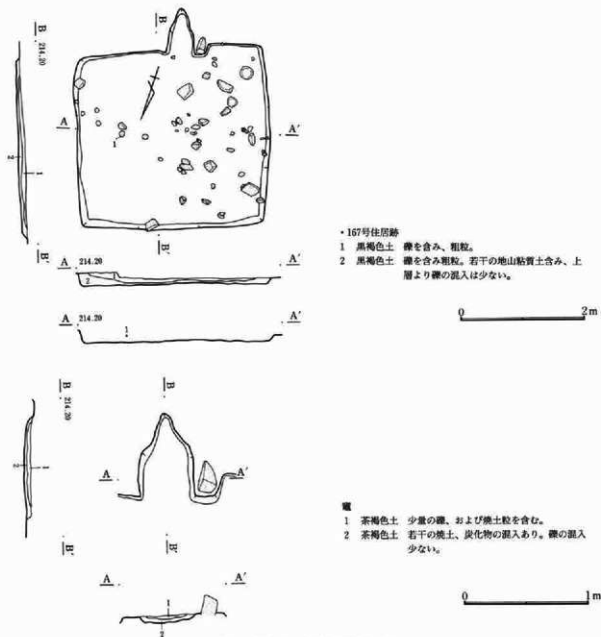
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 南壁中央に作られている。残りは悪く、およその形と、燃焼部下面が確認されたに留まった。

出土遺物 土器としては須恵器域の高台部片が1点出土している。

調査所見 本住居跡は、唯一南壁に竈を持つが遺存状態は悪い。時期は平安時代と思われる。



第238図 C-167号住居跡・竈



0 1:3 5cm

第239図 C-167号住居跡出土遺物

C-167号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	+11	7.7		微砂粒含む	黒褐色	良	口クロ整形 付け高台	底部片 土師質

C-168号住居跡 (第240~242図、PL31・32・118)

位置 Cg-45、Ch-45 形状 隅丸方形 規模 長辺3.73m、短辺2.99m、壁高0.46m

重複 東側にC-167号住居跡が重複する。

埋没土 小礫含む砂礫土で、かなり粗粒である。

床面 やや凹凸を持ち、中心部が僅かに低くなっている。部分的に地山の礫が露出している。

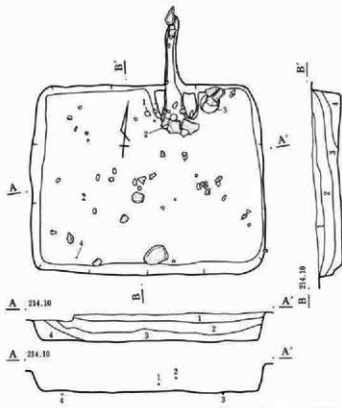
貯蔵穴 北東隅に検出されたが極めて浅く、底部には地山の礫が見られた。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや東よりに作られている。焚口部の天井部に覆されていた板状の砂岩が手前床面に置かれた状態で検出されている。煙道は比較的長く北に緩やかな勾配で延び、内面はよく焼けていた。

出土遺物 竈右脇より須恵器埴の胴下半部分が、石とともに出土している他、土師器の甕、坏の破片類が竈部分より出土している。

調査所見 比較的遺存状態が良く、壁高も平均で40cmを測る。時期は平安時代である。



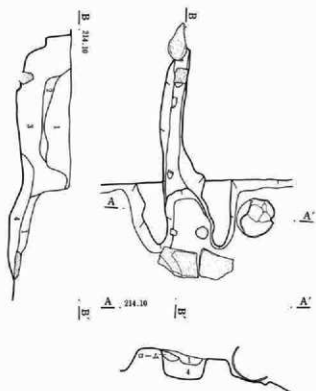
・168号住居跡

- 1 黒褐色土 砂礫多く含み、粗粒。
- 2 黒褐色土 1より礫の混入少なく若干の粘質土含む。
- 3 黒褐色土 地山の粘質土分混入やや多く、上層に比べて細粒である。
- 4 黒褐色土 地山、粘質土分多く含み軟質。

0 2m

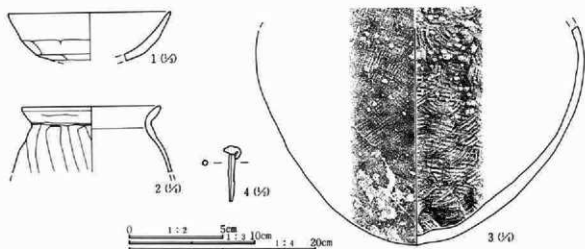
第240図 C-168号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



- 圖
- 1 黒褐色土 若干の砂粒、粘質土小粒を混入。
  - 2 暗茶褐色土 焼土化した、粘性土。
  - 3 赤茶褐色土 焼土ブロック、若干の炭化物を含む。
  - 4 黄褐色土 粘質土及び、若干の焼土混入する粗粒土。

第241図 C-168号住居跡・竈



第242図 C-168号住居跡出土遺物

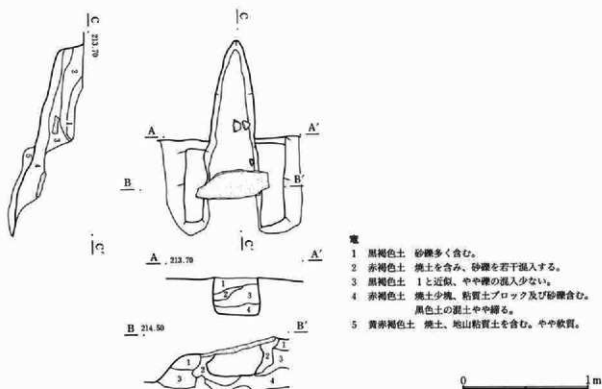
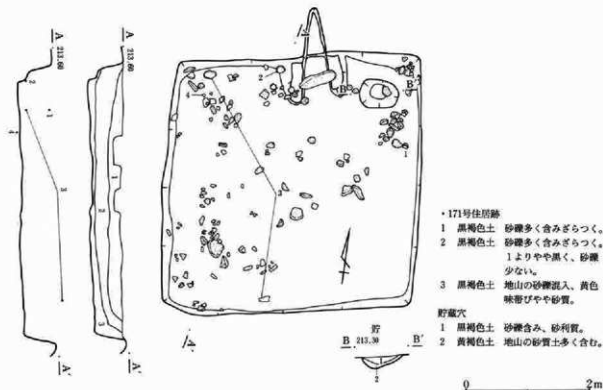
C-168号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 或径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 杯	+11	(13.0)	精製	淡黄褐色	良	外 口縁部横溝で 体部置用り 内 口縁部横溝で 体部無で	
2	土師器 壺	+19	15.6	砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横溝で 体部置用り 内 口縁部横溝で 胴部無で	
3	須恵器 壺	床面		砂粒含む	灰白色	良	外面 格子目叩き 内面 格子目 当て板	胴上半部を欠く 内 外面の剥落著しい
16804	鉄釘	床面						



C-171号住居跡 (第243・244図、PL32・118)

位置 Cf-43・44 形状 隅丸方形 規模 長辺4.15m、短辺4.03m、壁高0.51m



第243図 C-171号住居跡・竈

**重複** C-38号住居跡（弥生時代）、C-176号住居跡（縄文時代）、C-195号住居跡（古墳時代）を切る。

**埋没土** 小礫含む砂礫土。

**床面** やや凹凸を持ち、礫の混入が目立つ。竈前面はやや締まりがある。

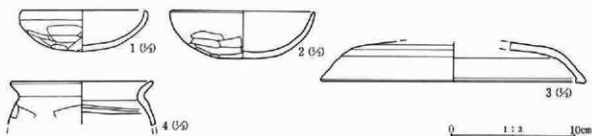
**貯蔵穴** 北東隅に検出された。長軸約60cm、短軸約45cmの長円形を呈し、深さは約20cmである。

**柱穴** 検出されなかった。

**竈** 北壁のほぼ中央に作られている。袖部分は礫を多く含んだ粘質土で作られる。焚口部天井には板状の砂岩が渡されていた。煙道は壁外に一段高まりを持って延びる。

**出土遺物** 土師器甕、坏、須恵器の蓋などが出土している。

**調査所見** ほぼ全容を検出した住居である。遺存状態も比較的良く、壁高は最も残る部分ではおよそ40cmを測る。時期は奈良時代か。



第244図 C-171号住居跡出土遺物

C-171号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏		10.0	3.2	精製	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 体部箇所 内 口縁部横撫で 体部撫で	
2	土師器 坏	+2	11.4	3.7	精製	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 体部箇所 内 口縁部横撫で 体部撫で	
3	須恵器 蓋	+12	(28.7)		砂礫含む	灰色	良	ロクロ整形	大型品
4	土師器 小型甕	床面	(15.2)		微砂粒僅かに 含む	赤褐色	普通	外 口縁部横撫で 胴部箇所 内 口縁部横撫で 胴部撫で	外面剥落

C-175号住居跡（第245・246図、PL32・118・119）

**位置** Cg-41・42 **形状** 隅丸方形 **規模** 長辺3.61m、短辺3.12m、壁高0.21m

**重複** C-188号住居跡、C-189号住居跡（奈良）、C-193号住居跡（平安）、C-283号住居跡（平安）を切る。

**埋没土** 小礫含む砂礫土。若干の焼土粒を含む。

**床面** 部分的に地山の砂礫層が露出しており、かなりの凹凸が見られた。特に壁際が著しい。

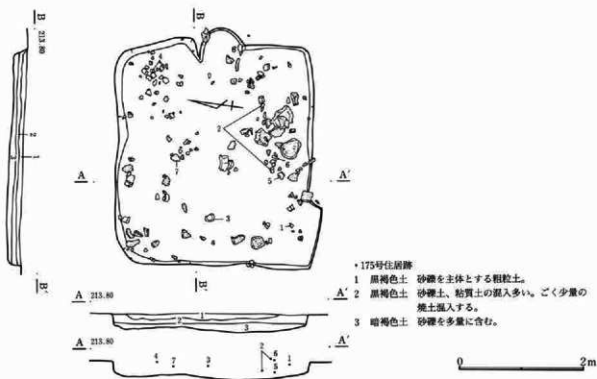
**貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 検出されなかった。

**竈** 東壁中央に作られている。馬蹄形に壁外に掘り出され、袖部には板状の砂岩が立てられている。埋土は焼土の混入が多く、壁面は良く焼けている。また竈の左側部分にU字状の高まりが見られ、粘土が検出されている。

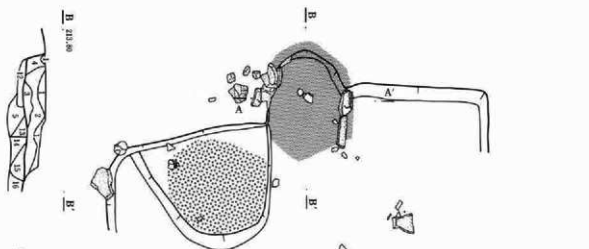
**出土遺物** 須恵器の坏、埴、蓋類の他土師器の甕が出土している。

**調査所見** 壁の掘り込みラインがやや不明瞭で、壁高も東側を除き僅かに確認されたのみである。時期は平安時代である。



・175号住居跡

- 1 黒褐色土 砂礫を主体とする粗粒土。  
 2 黒褐色土 砂礫土、粘質土の混入多い。ごく少量の  
 焼土混入する。  
 3 暗褐色土 砂礫を多量に含む。

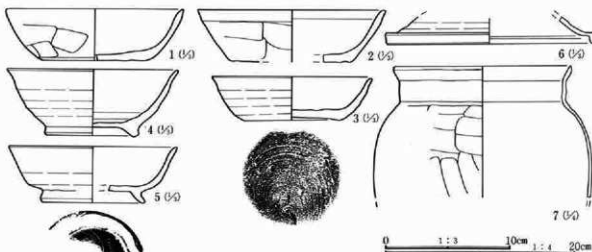


■

- 1 茶褐色土 礫及び若干の焼土含み、粒子粗い。  
 2 茶褐色土 焼土、炭化物、堆山粘質土ブロック混入  
 する。  
 3 赤褐色土 2と似るが、焼土多く礫を含む。  
 4 黒褐色土 砂礫多く混入する。礫は小さく厚味強い。  
 5 黒褐色土 径2~3mmの小石をごく少量含む。  
 6 暗赤褐色土 径1mm程度の砂粒を少量、同大の焼土  
 粒子をかなり多く含む。  
 7 赤褐色土 径1mm以下の砂粒をごく少量、同大の焼  
 土粒子を少量含む。  
 8 赤褐色土 やや明るい色調を呈し、粘質できめの細  
 かい土をベースとし、径0~2mmの砂粒  
 を少量含む。  
 9 暗褐色土 径1~2mmの砂粒を含む。  
 10 黄褐色粘質土 砂質堆山の崩落土。  
 11 赤褐色土 径2~3mmの焼土塊やや多く含む。  
 12 赤褐色土 大量の焼土混入。

- 13 黄褐色土 やや粘性の強い土をベースに径1~2mm  
 の砂粒、黄褐色粒子を含む。  
 14 暗褐色土 径1~2cmの小石を少量含む。  
 15 暗褐色土 やや明るい色調を呈し、径2~3mmの小  
 石、砂粒を少量、同大の焼土粒を微量含  
 む。  
 16 暗褐色土 径2~3mmの砂粒、黄色粒子を少量含む。

第245図 C-175号住居跡・■



第246図 C—175号住居跡出土遺物

C—175号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	要成形の特徴	備考
1	土師器 平	+18	(14.2) (4.0) (9.2)	4.0	精製	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部磨削り 内 口縁部横線で 体部磨で後磨き	
2	土師器 平	+13	(15.0) (4.1)	4.1	微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部磨削り 内 口縁部横線で 体部磨で	
3	須恵器 平	+18	12.6 3.5 7.6	3.5	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	内面荒れている
4	須恵器 壺	+20	(13.4) 5.2 (7.0)	5.2	砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後磨で 付け高台	
5	須恵器 壺	+10	(13.5) 4.4	4.4	精製	灰色	良	ロクロ整形 付け高台 底部回転糸切り	
6	須恵器 蓋	+30	(16.4)		精製	灰色	良	ロクロ整形	
7	土師器 壺	+13	(19.5)		微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 胴部磨削り 内 口縁部横線で 胴部磨で	

C—177号住居跡 (第247~250図、PL33・119)

位置 Cg・Ch-44 形状 隅丸方形 規模 長辺4.86m、短辺4.36m、壁高0.46m

重複 南東部でC—195号住居跡(古墳時代)を切る。

埋没土 小礫含む砂礫土。ほぼ円形で掘り込みは浅い、底には地山の礫が露出していた。土師器の小形壺が潰れた状態で出土している。

床面 明確な生活面は確認できなかった。地山の礫が露出している部分が見られ、凹凸が著しい。また西壁下に壁周溝が僅かに見られる。

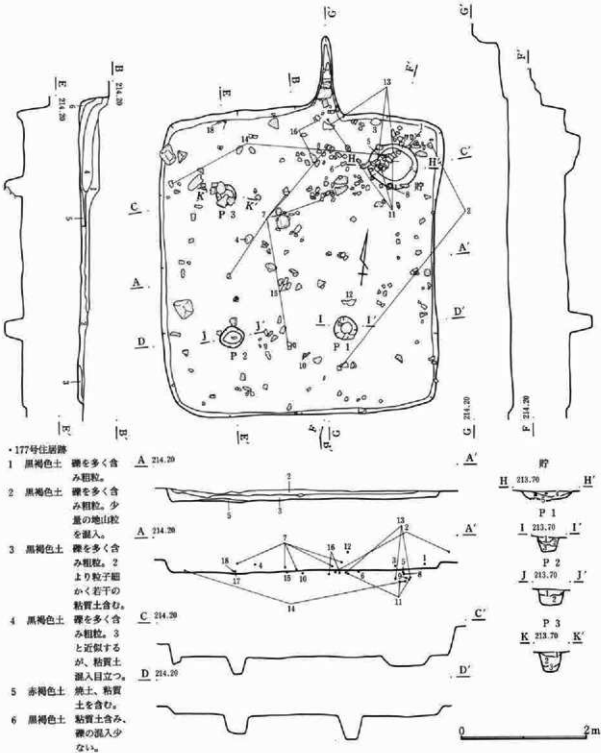
貯蔵穴 北東隅に検出された。円形を呈し、径約70cm、深さは約15cmと比較的浅く底面は地山の礫が露出している。土師器の破片が出土している。

柱穴 北東部分を除いて対角線上に3本が検出されている。径は30cm程で、深さは20~30cmである。

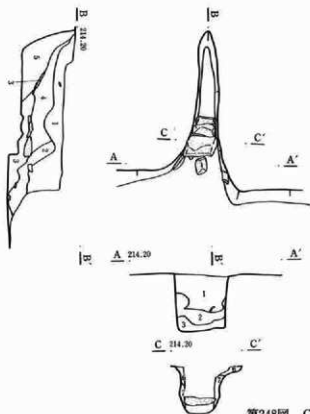
竈 北壁中央やや東よりに作られている。袖部分はほとんど残らず、石などの構築材も見られなかった。煙道部分には天井部分に置かれていたと思われる石が下に落ちた状態で検出された。燃焼部下層には比較的多くの焼土が見られた。

出土遺物 覆土中より礫の混入が目立ち、土器類も完形品は見られなかったが、土師器平、壺など量的には多かった。

調査所見 竈の見られる北壁を除き、他の部分はかなり削平されており、特に南側の壁高は10cm以下であった。時期は平安時代である。

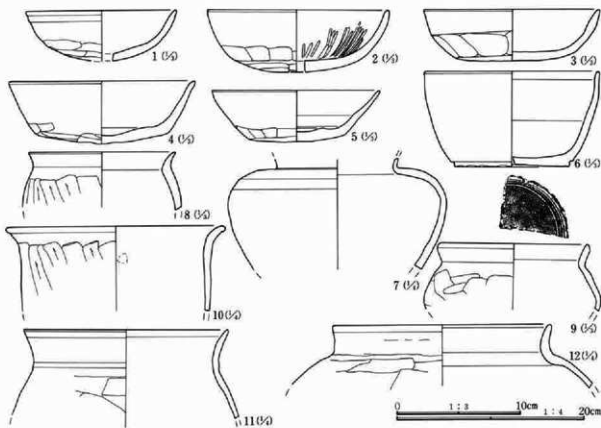


第247図 C-177号住居跡

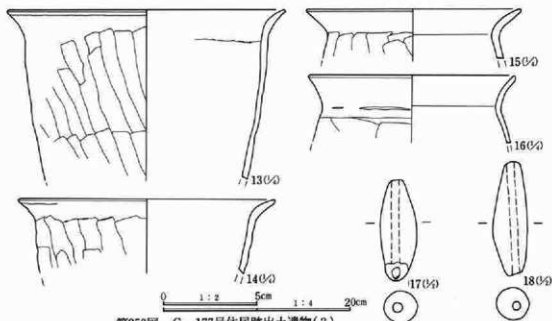


- 
- 1 黒色土 小礫少量及び若干の炭化物含む。まれに径2cm程の小礫混入。
  - 2 暗褐色土 焼土かなり含む。炭化物若干含む。
  - 3 暗褐色土 2に似るが、粘質土ブロックを少量混入。
  - 4 黒色土 小礫及び微細炭化物、焼土若干含む。
  - 5 黒色土 砂質土少量含む。微細炭化物、焼土わずかに混入。
  - 6 黒色土 小礫若干及び、焼土わずかに含む。
  - 7 暗褐色土 焼土かなり含む。微細炭化物及び、小礫若干含む。

第248図 C-177号住居跡・竈



第249図 C-177号住居跡出土遺物(1)



第250図 C-177号住居跡出土遺物(2)

C-177号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	+5	(12.0)		砂粒含む	灰褐色	普通	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部狭で	
2	土師器 杯	床面	14.2 (4.8)		砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部狭で後置跡き	内面 燻炭、放射状 炭着き
3	土師器 杯	+6	13.7 4.1	4.1	微砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	普通	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部狭で	
4	土師器 杯	+7	(15.0) 5.3	5.3	砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体、底部寛削り 内 口縁部横線で 体部狭で	
5	土師器 杯	床面	13.4 4.0 4.1	4.0	微砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体、底部寛削り 内 口縁部横線で 体部狭で	
6	須恵器 鉢	床面	14.0 7.0 9.0	7.0	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転置切り後痕で	
7	須恵器 壺	床面			精製	青灰色	良	ロクロ整形	
8	土師器 小型壺	床面	(11.5)		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	
9	土師器 小型壺	床面	(12.0)		微砂粒含む	暗赤褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	
10	土師器 壺	床面	(23.4)		砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	
11	土師器 壺	床面	(21.8)		微砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	
12	土師器 壺	+25	(13.0)		微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	やや焼き返みあり
13	土師器 壺	床面	(30.0)		砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	
14	土師器 壺	床面	(27.2)		微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	覆か
15	土師器 壺	床面	23.0		微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	
16	土師器 壺	床面	(22.0)		微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	
17	土 罎	+4	長さ(5.4)cm 径1.9cm 孔径0.5cm 重き16.5g 一端を欠く						
18	土 罎	+4	長さ6.6cm 径1.6cm 孔径0.5cm 重き18.6g 完形						

第3章 検出された遺構と遺物

C-179号住居跡 (第251図、PL.33)

位置 Cf-28 形状 不明 規模 長辺(2.0)m、短辺(2.0)m、壁高0.81m

重複 C-180号住居跡(弥生時代)、C-207号住居跡(弥生時代)を切る。南西隅部分のみの調査。

埋没土 小礫を若干含む砂質土。

床面 平坦で比較的締まる。

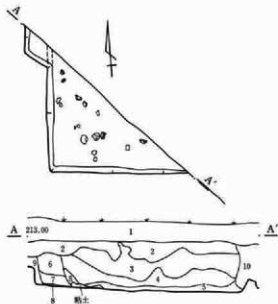
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。

出土遺物 土師器壺、坏の破片が僅かに見られたが、小破片のために図示するには至らなかった。

調査所見 調査区東壁際において検出された。全体のほとんどが調査区外に在り、南西隅三角形部分のみの調査である。竈、柱穴等の住居内施設は検出されなかった。壁はほぼ垂直に立ち上がるが南壁際は近世の耕作溝が重複している。また北側壁際は断面の観察から、本址より古い遺構の存在が認められた。本住居跡の時期は古墳時代後期と思われる。



・179号住居跡

- 1 淡黒褐色土 耕作土。
- 2 黒褐色土 小礫混入。
- 3 淡黒褐色土 小礫多く含み、締まる。
- 4 黒褐色土 3に似るが、粒子やや細かい。
- 5 暗褐色土 粒子細かく、粘質土塊僅かに混入。
- 6 黒褐色土 砂利、小礫、褐色土粒、土塊及び黒褐色土塊とが、雑然と混入。
- 7 暗褐色土 砂利、小礫を多量に含む。褐色土粒も多く、黒褐色土、暗褐色土と斑状を呈す。
- 8 褐色粘性質 粘床か。
- 9 黄褐色土 塚山か。
- 10 黒褐色土 7号溝埋土。砂利、小礫、褐色土粒、灰白色粒子等、雑然と混入。

第251図 C-179号住居跡

C-181号住居跡 (第252図、PL.33・34)

位置 Cc-27 形状 不明 規模 長辺3.20m、短辺2.10m、壁高0.60m

重複 C区の南東隅に位置する。C-185号住居跡(弥生時代)の南端に接している。北西隅にあたる三角形の部分だけが調査できたのみで、他は調査区外となる。

埋没土 僅かに小礫を含む粘質土。

床面 平坦で若干の小礫含み、よく締まる。床面に若干の炭化材が見られた。

貯蔵穴 検出されなかった。

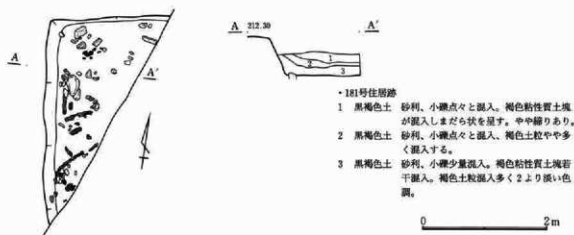
柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。

出土遺物 覆土中より、河原石、角礫に混じり土師器の破片等が若干出土しているが、小破片のため図示し得なかった。



調査所見 住居跡北西隅の三角部分を調査したのみである。確認した壁高は約50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。焼失住居と思われ、時期は古墳時代後期であろう。



第252図 C—181号住居跡

C—182号住居跡 (第253・254図、PL34・120)

位置 Cf・Cg—28・29 形状 隅丸長方形 規模 長辺(4.10)m、短辺3.46m、壁高0.25m

重複 C—187号住居跡(弥生時代)、C—201号住居跡(弥生時代)、C—203号住居跡(縄文時代)を切る。

住居北東側は調査区外であったために未調査である。

埋没土 小礫を含む粘性土で、かなり細粒である。



第253図 C—182号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

**床面** 平坦であるが締まりは弱い。

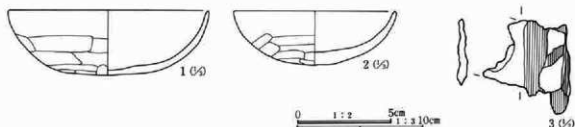
**貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 検出されなかった。

**竈** 検出されなかった。

**出土遺物** 点数は極めて少なかった。土師器の坏2点が床面近くより出土している他、木質部分が残る鎌の基部が出土している。

**調査所見** 壁の遺存状態は比較的良好であるが、北東部分は未調査である。出土遺物から時期は奈良時代と考えられる。



第254図 C-182号住居跡出土遺物

C-182号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 床面 坏		(13.0)	4.2	精製	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部圓形 内 口縁部横撫で 体部無	
2	土師器 坏	+4	(16.0)	5.2	砂粒僅かに 含む	橙黄褐色	普通	外 口縁部横撫で 体部圓形 内 口縁部横撫で 体部無	
3	鎌	覆土	長さ3.5cm	幅4.2cm 厚さ0.4cm	重さ14.7g	取り付け部分、木質部残る			

#### C-183号住居跡 (第255・256図、PL34・120)

**位置** Cg・Ch-31 **形状** 隅丸方形 **規模** 長辺4.17m、短辺3.77m、壁高0.23m

**重複** C-63号住居跡(古墳時代)を切るが、かなりレベル的に高い部分で重複している。

**埋没土** 検出した部分では砂礫を多く含む粗粒な土で埋められていた。

**床面** かなり削平されており、凹凸が目立つ。

**貯蔵穴** 南東隅に検出した。壁に混じり須恵器坏、土師器壺が出土している。

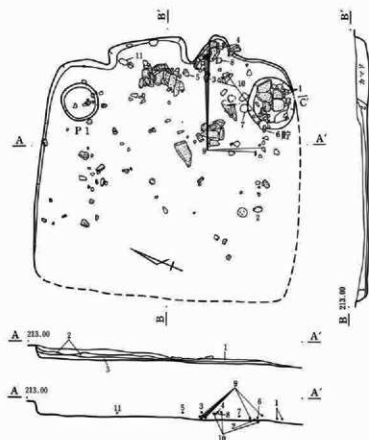
**柱穴** 検出されなかった。

**竈** 東壁に2基検出された。ほぼ中央に1基、その右側にもう1基作られていた。前者は両袖部分に複数の石が据えられており比較的良好な状態は良い。後者はやや壁外に出る位置に在り、やはり袖の部分に使われていたと思われる石が数個焚口部に崩れた状態で検出されている。作り替えが行われたものと考えられ、後者のほうが古いと思われる。

**出土遺物** 竈、貯蔵穴部分に集中して、須恵器塊、土師器壺などが見られた。

**調査所見** 当初C-63号住居跡(古墳時代)の覆土上層に須恵器塊を検出し、さらに床面様の比較的堅く締まった面を検出、本住居跡の存在が確認された。また本住居は西側と東側を2回に分けて調査したが、東側部分については、壁高も10~20cmを確認することができた。東壁に2基検出された竈は作り替えがなされたものと考えられ、袖石等も一部再利用されたものか。時期は平安時代である。

第1節 住居跡



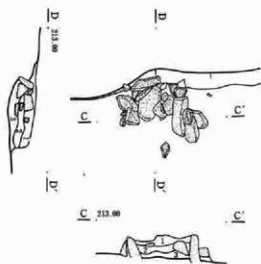
・183号住居跡

- 1 黒褐色土 砂礫を多く混入。
- 2 黒褐色土 1を基調とし若干の地山粘質土含む。
- 3 黒褐色土 砂礫の混入は少なく、粘質土及び炭化物を含む。

貯蔵穴

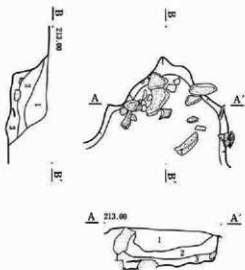
- 1 暗褐色土 砂粒を含む。少量の炭化物、焼土粒混入。
- 2 暗褐色土 粒子密で少量の粘質土混入。
- 3 暗褐色土 2に似るが、粘質土多く混入し、締り良い。

0 2m



竈1 C-C'・D-D'

- 1 黒褐色土 少量の砂礫混入し粒子は比較的均質。
- 2 黒褐色土 若干の焼土粒子混入するが、1と近似。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック、炭化物混入し、地山ローム粒子目立つ。



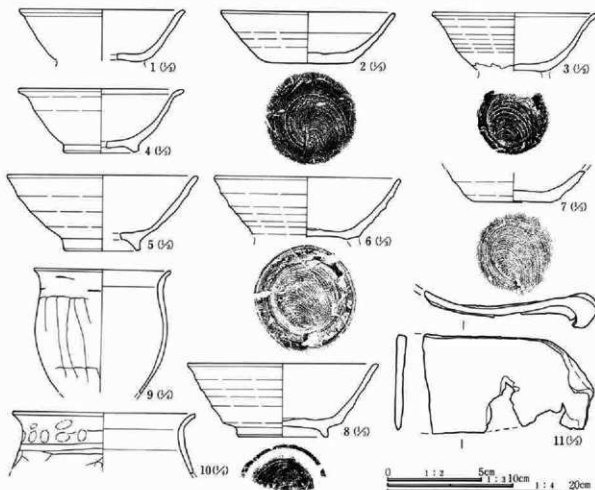
竈2 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 砂礫、若干の粘質土粒子含む。
- 2 暗褐色土 1と似るが、粘質土分やや多く含む。
- 3 暗褐色土 粘質土、若干の焼土含む細粒。

0 1m

第255図 C-183号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第256図 C-183号住居跡出土遺物

C-183号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+3	(13.2)		微砂粒含む	暗灰褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	
2	須恵器 坏		14.0 7.0	4.1	微砂粒僅かに含む	灰色	良	ロクロ整形	ほぼ完形
3	須恵器 埴	+12	(13.2)		小網まばらに含む	明灰色	リょう	ロクロ成形	裏台部分摩滅
4	須恵器 埴	+12	(13.2)	5.0 6.0	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	
5	須恵器 埴	+9	(15.4)	5.9 (6.2)	微砂粒僅かに含む	灰色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	器面荒れている
6	須恵器 埴	+3	(15.0)		砂粒含む	灰緑色	良	ロクロ整形 付け高台 底部回転糸切り	
7	須恵器 坏	+6			微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
8	須恵器 埴	+10	(15.2)	5.8 7.4	微砂粒僅かに含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	
9	土師器 小型壺	竈内	(14.7)		微砂粒僅かに含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 胴部撫で
10	土師器 壺	床面	(19.4)		微砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 胴部撫で
11	鉢	+6	長さ(18.9)cm 幅5.3cm 厚さ0.5cm 重さ35.4g			大型品の基部			

## C-184号住居跡 (第257・258図、PL34・35・120)

位置 Ce・Cf-29・30 形状 不明 規模 不明

重複 C-70・98号住居跡 (古墳時代) に切られており、竈および北東隅が僅かに残るのみである。

埋没土 やや粘性を持つ砂質土で比較的粒子が均質。

床面 ほとんどが重複により削られているために、検出した面は凹凸が著しい。

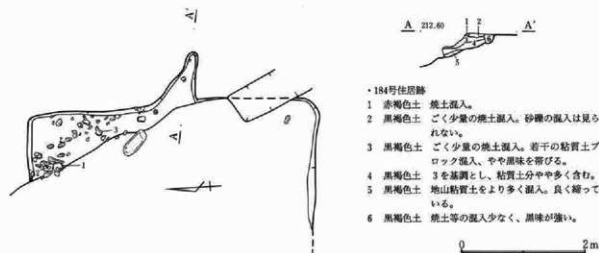
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

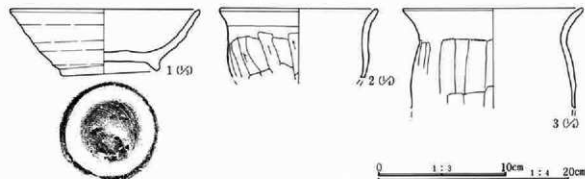
竈 東壁ほぼ中央に作られる。明確な袖および袖石は見られず、煙道は壁外に緩く立ち上がる。

出土遺物 きわめて少ない。須恵器の埴、土師器の埴が見られた。

調査所見 重複によりほとんどが削られているために、遺存部分は少ない。竈を含む北側の隅部分を僅かに検出したのみである。時期は平安時代か。



第257図 C-184号住居跡・竈



第258図 C-184号住居跡出土遺物

C-184号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	須恵器 埴	+27	15.2 7.9	5.2	微砂粒僅か に含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転未切り後強で 付け高台	
2	土師器 埴	+10	(17.0)		砂粒僅かに 含む	暗黒褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	
3	土師器 埴	床面	(19.4)		微砂粒含む	灰褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	

第3章 検出された遺構と遺物

C-188号住居跡 (第259~262図, PL35・120)

位置 Cg・Ch-41・42 形状 隅丸方形 規模 長辺5.19m、短辺4.60m、壁高0.25m

重複 C-175号住居跡 (平安時代) に切られる。

埋没土 砂粒含みや粗粒。

床面 部分的に平坦な面が見られるが、踏み締められた状況は認められなかった。

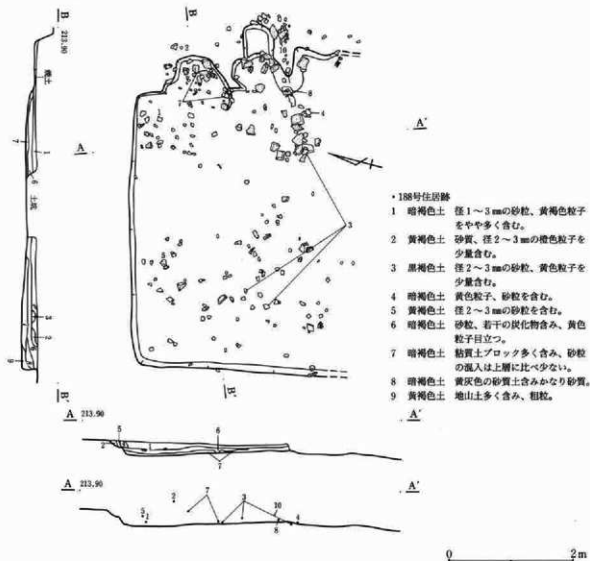
貯蔵穴 竈左側に円形の掘り込みが検出されているが、かなり浅く底は凹凸がある。

柱穴 検出されなかった。

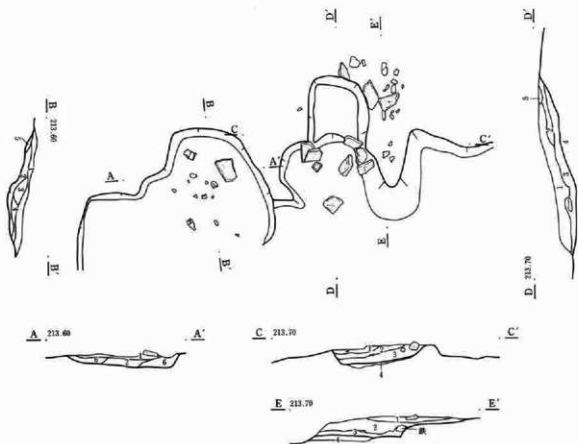
竈 2基並んで東壁に作られている。左側 (旧竈と思われる) は掘り方のみでほとんど破れた状態である。右側は同軸の石が残り遺存状態は良い。掘り方がほぼ円形の燃焼部と馬蹄形に掘り出された煙道部分が検出されている。

出土遺物 須恵器坏の破片、および甕がほぼ全面より検出されている他、鎌の破損品が見られた。

調査所見 かなり重複 (拡張か) が著しく遺存状態は悪い。各壁も明確に検出できたのは部分的で、全体に不明瞭である。時期は平安時代である。



第259図 C-188号住居跡



竈 A-A', B-B'

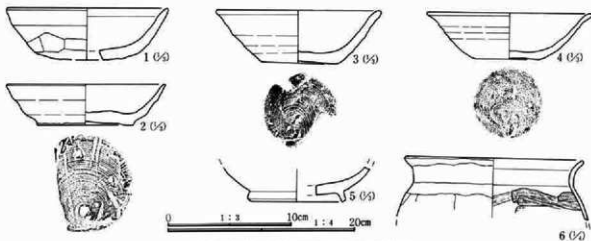
- 1 茶褐色土 砂礫、小石を少量含む。所々に焼土及び、黒褐色土ブロック含む。
- 2 黄褐色土 砂礫、小石を多く含みやや粘質。
- 3 暗褐色土 砂礫、小石を含み細粒。
- 4 黒褐色土 砂礫、小石多く含む。焼土粒子少量含む。
- 5 黒褐色土 やや明るい色調を呈し、2~3mmの砂礫を少量含む。
- 6 黄褐色土 砂礫少量含む。やや粘質。焼土若干含む。

竈 C-C', D-D', E-E'

- 1 黄褐色土 小礫、粘質土ブロック、焼土を混入。
- 2 赤褐色土 焼土多く含み、ブロック状を呈す。少量の砂礫を混入し、締る。
- 3 暗褐色土 焼土多く含みブロック状を呈す。少量の砂礫を混入し、粘質土ブロック目立つ。
- 4 暗褐色土 地山、砂礫層を多く含むが、かなり焼土化している。砂礫多く混入。
- 5 赤褐色土 焼土塊、少量の黒色土、砂礫を含む。

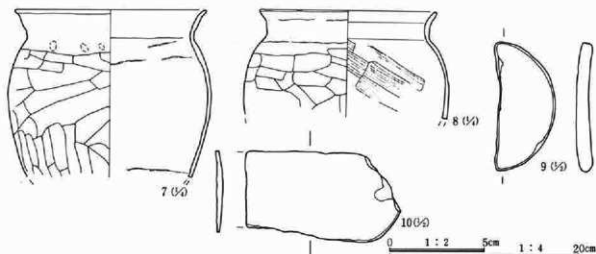
第260図 C-188号住居跡・竈

0 1m



第261図 C-188号住居跡出土遺物(1)

### 第3章 検出された遺構と遺物



第262図 C-188号住居跡出土遺物(2)

C-188号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	+8	(13.0)	微砂粒含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部縦で	
2	須惠器 坏	+4	(12.7) 3.2 7.7	精製	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
3	須惠器 坏	床面	13.3 4.1 6.0	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
4	須惠器 坏	床面	(13.2) 3.6 5.3	微砂粒含む	灰黄色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	底面摩滅
5	灰胎 碗	+16	(7.8)	精製	灰色	良	ロクロ整形	
6	土師器 甕	竈内	(19.0)	精製	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦で	
7	土師器 甕	+3	(20.4)	微砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦で	
8	土師器 甕	+4	(19.0)	微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦で	
9	土製内輪 覆土		径(6.8)cm 厚さ(0.3)cm 重さ20.3g	土師器甕を再利用 約半分を欠く				
10	鎌	+10	長さ(8.2)cm 幅4.8cm 厚さ0.3cm 重さ38.8g	厚手である。基部				

#### C-189号住居跡 (第263・264図、PL121)

位置 Cf・Cg-41 形状 両丸方形か 規模 不明

重複 C-175号住居跡、C-192号住居跡と重複。

埋没土 掘り込みはほとんど確認できなかった。

床面 凹凸があり、地山が部分的に露出する。

貯蔵穴 検出されなかった。

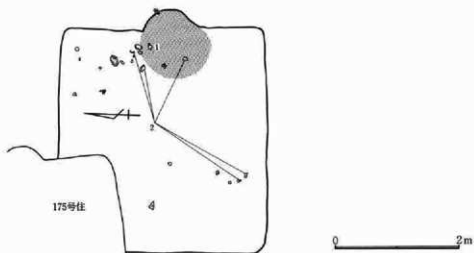
柱穴 検出されなかった。

竈 燃焼部掘り方のみ確認した。

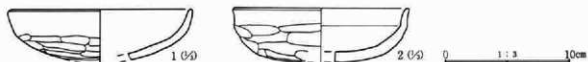
出土遺物 坏の破片が見られる。

調査所見 削平が著しく、竈から北東隅を僅かに確認したのみである。時期は古墳時代後期であろう。





第263図 C-189号住居跡



第264図 C-189号住居跡出土遺物

C-189号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面	(14.2)	精製	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部裏で後置磨き	
2	土師器 杯	床面	(14.2) (4.2)	精製	灰黄褐色 色	良	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部裏で	

C-190号住居跡 (第265・266図、PL35・121)

位置 Cf・Cg-42 形状 隅丸長方形か 規模 長辺4.80m、短辺4.21m、壁高0.32m

重複 南西部分はC-38号住居跡(弥生時代)と重複し、北西部分はC-195号住居跡(古墳時代)と、わずかなではあるが重複している。また北東部分はC-189号住居跡がこれを切る。しかしながらこの切り合い部分を含めて東側は、削平が著しく全容は不明である。

埋没土 砂礫の混入多い。

床面 比較的堅く締まるが凹凸が見られる。

貯蔵穴 検出されなかった。

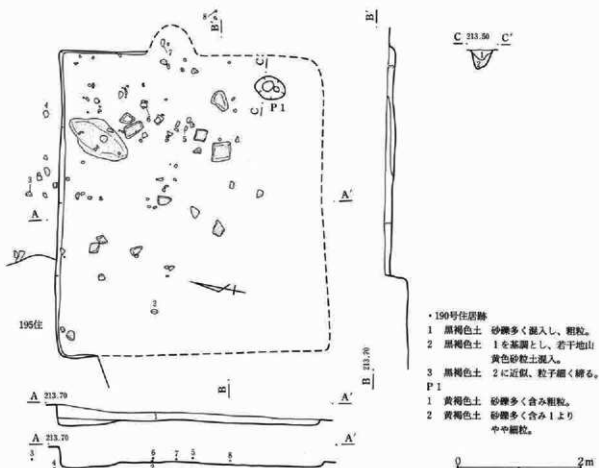
柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央に火床面の焼土痕は見られたが、本体部分はことごとく失われているために、形状、規模等は確認できなかった。

出土遺物 遺構自体の遺存状態の悪さに比べ、比較的多かった。住居の北東部分に集中して、若干の須恵器、土師器の埴、坏、須恵器の蓋が見られた他、竈のやや範囲外ではあるが鉄製の紡錘車が出土している。

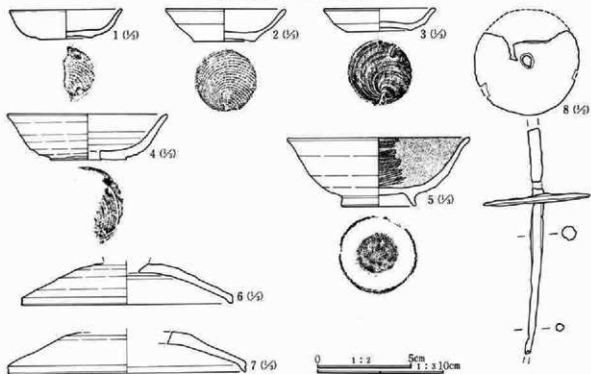
調査所見 削平が著しく遺存状態は極めて悪い。床面に電材に使用されていたと思われる、砂岩が砕かれた他、長さ1mの大きな石が北東部分において出土している。時期は平安時代である。

第3章 検出された遺構と遺物



- ・190号住居跡
- 1 黒褐色土 砂礫多く混入し、粗粒。
- 2 黒褐色土 1を基調とし、若干地山黄色砂粒土混入。
- 3 黒褐色土 2に近似、粒子細く締る。
- P1
- 1 黄褐色土 砂礫多く含む粗粒。
- 2 黄褐色土 砂礫多く含む1よりやや粗粒。

第265図 C—190号住居跡



第266図 C—190号住居跡出土遺物

C-190号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	覆土	(9.0) (4.2)	2.3	微砂粒含む	淡黄褐色	普通	ロクロ整形	
2	土師器 杯	床面	9.4 4.8	2.5	精製	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
3	土師器 杯	床面	(9.0) (2.5)	1.9	精製	淡褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
4	須恵器 杯	床面	(12.0) (3.0)	3.6	微砂粒含む	暗灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
5	須恵器 埴	+5	(14.5) (6.0)	5.4	微砂粒含む	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後撫で 付け高台	内面黒色 裏磨き 土師質
6	須恵器 蓋	+6	(17.0)		微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 外面天井部磨削り	
7	須恵器 蓋	+3	(19.0)		微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 外面天井部磨削り	
8	紡錘車	+5	径5.7cm 重さ25.1cm 鉄製で軸端の両端を欠く 軸の両端、車部分の一部を欠く						

## C-191号住居跡(第267~269図、PL35・121)

位置 Ch-40 形状 隅丸方形 規模 長辺3.72m、短辺3.14m、壁高0.18m

重複 C-215号住居跡(古墳時代)を切る。南壁部分は近世の耕作坑により一部切られる。

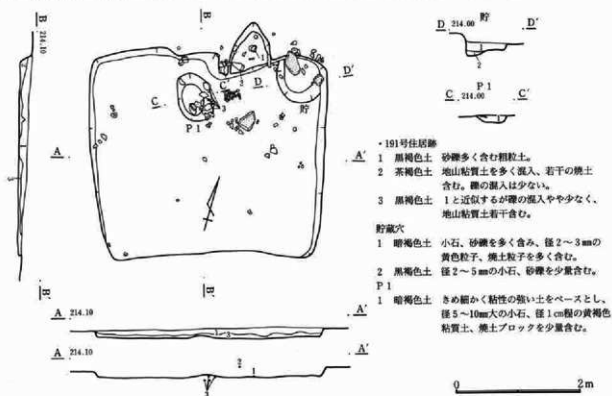
埋没土 砂礫含む粗粒土。

床面 硬化した面は認められなかった。やや凹凸を持ち、地山小礫の露出が著しい。

貯蔵穴 北東隅に検出された。不定形で掘り込みは浅く、礫および若干の土器片が出土している。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや東寄りに作られている。馬蹄形に壁外に作り出され、両袖部分には砂岩が袖石として据え



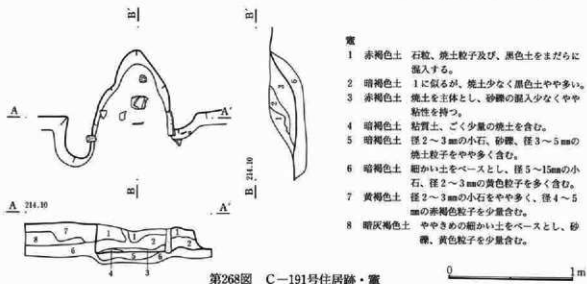
第267図 C-191号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

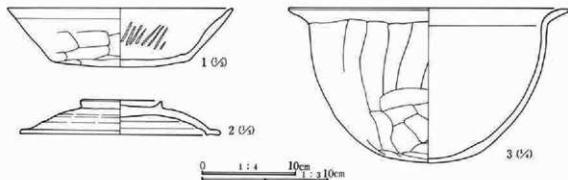
られていた。左側は柱状で、右側は板状のものが壁に接して、立て掛けられた状態で検出されている。

**出土遺物** わずかに土師器環、須恵器の蓋、甕の破片が見られたのみである。

**調査所見** 甕の作られた北壁部分以外は、あまり遺存状態は良くなかった。時期は奈良時代である。



第268図 C-191号住居跡・竈



第269図 C-191号住居跡出土遺物

C-191号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 環	床面	(18.0)	4.7	砂粒僅かに 含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 体部磨削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後蓋跡	暗文あり
2	須恵器 蓋	+17	(16.0)	2.7	砂粒含む	灰褐色	良	口縁部横撫で 外面天井部磨削り	裏い返りあり
3	土師器 広口甕	床面	30.0	16.2	砂粒僅かに 含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部磨削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	

C-193号住居跡 (第270・271図、PL35・121)

位置 Cg・Ch-42 形状 隅丸方形 規模 長辺4.50m、短辺4.30m、壁高0.26m

重複 C-175号住居跡 (平安時代)、C-188号住居跡 (平安時代) に切られる。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 比較的平坦である。ほぼ中央に後世の土坑が掘り込まれている。

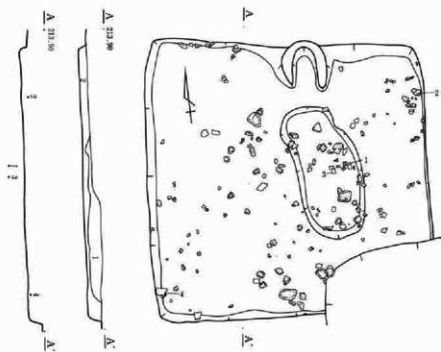
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

**竈** 北壁ほぼ中央に位置する、袖部分は明確な作りとしては残っていないかった。また袖石の出土も見られなかった。

**出土遺物** 少なかった。土師器の壺、須恵器焼が見られる。

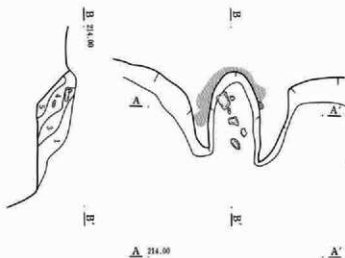
**調査所見** ほぼ全容は確認し得たが、重複が多く、明確さにかける住居である。時期は平安時代である。



・193号住居跡

- 1 黒褐色土 礫の混入多く粗粒。
- 2 黒褐色土 礫の混入多く、地山粘質土混入見られる。

0 2m

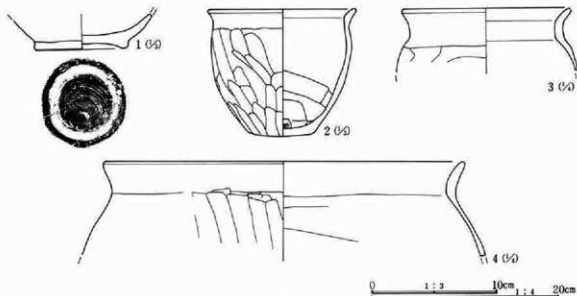


**竈**

- 1 黒褐色土 砂礫含み粗粒。
- 2 暗赤褐色土 粘質土ブロック、焼土の混入。
- 3 暗褐色土 粘質土、粒子、焼土の混入、砂礫含む。
- 4 赤褐色土 焼土。粘質土ブロックの混入、かなり締る。
- 5 赤褐色土 焼土化した地山砂礫土。

0 1m

第270図 C-193号住居跡・竈



第271図 C-193号住居跡出土遺物

C-193号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	構成	整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	床面	(2.7) 7.0	微砂粒含む	灰黒色	良	ロクロ整形 底部回転未切り 付け高台	外面保存着
2	土師器 小壺	+12	(11.8) 10.0	微砂粒僅かに含む	茶褐色	良	外 口縁部横無で 胴部肩削り 内 口縁部横無で 胴部無で	広口、内面底部に蕉の当たり痕
3	土師器 壺	床面	13.4	精製	淡黄褐色	良	外 口縁部横無で 胴部肩削り 内 口縁部横無で 胴部無で	
4	土師器 壺	+5	(38.6)	砂粒僅かに含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横無で 胴部肩削り 内 口縁部横無で 胴部無で	

C-194号住居跡 (第272・273図、PL121)

位置 Cd-26・27 形状 不明 規模 不明

重複 C-185号住居跡(弥生時代)の東端に重複するが、壁、床面は確認できなかった。出土遺物、床面と判断される土の範囲から住居と認定した。大部分は調査区外になる。

埋没土 確認できなかった。

床面 確認できなかった。

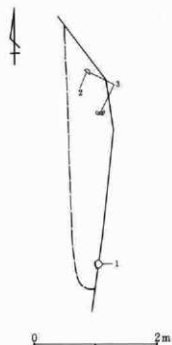
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

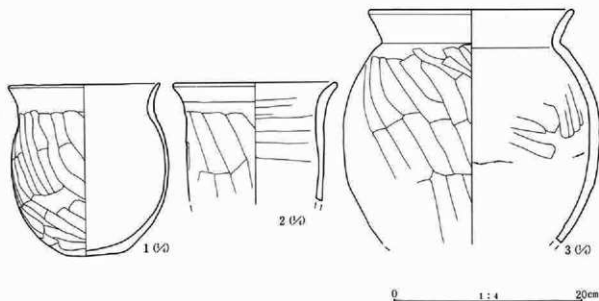
竈 確認できなかった。

出土遺物 土師器の壺が3点出土している。

調査所見 規模、形状ともに不明である。弥生の住居の上面に、住居西側のごく一部が重複していたものと思われるが、床面、内部施設については、まったく確認できなかった。時期は古墳時代後期と判断される。



第272図 C-194号住居跡



第273図 C-194号住居跡出土遺物

C-194号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 壺	覆土	16.0	18.0	砂礫多く含む	茶褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部縦筋有り 内 口縁部横線で 胴部横線で	ほぼ完形
2	土師器 壺	覆土	(17.6)		砂礫(片岩)含む	茶褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部縦筋有り 内 口縁部横線で 胴部横線で	
3	土師器 壺	覆土	22.0		砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部縦筋有り 内 口縁部横線で 胴部横線で	

## C-195号住居跡 (第274~276図、PL36・122)

位置 Cg-43・44 形状 隅丸方形 規模 長辺5.53m、短辺5.25m、壁高0.48m

重複 北西隅をC-177号住居跡、東壁をC-223号住居跡、南東隅をC-190号住居跡、南西隅をC-171号住居跡が切る。

埋没土 小礫含む砂礫土。

床面 かなり凹凸があり、部分的に礫を含む地山面が露出している。

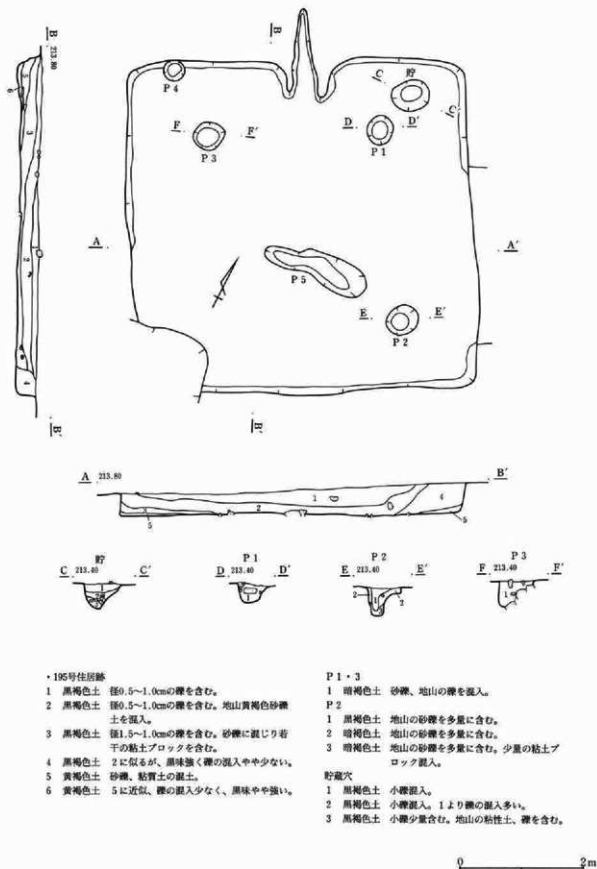
貯蔵穴 北東隅に検出された。長円形で長軸60cm、短軸50cm、深さ約40cmを測る。中より、焼けた若いニホンジカの右胛骨白片(PL155)が出土している。

柱穴 南西を除き対角線上に3本を検出した。径は40~50cmで深さは30~40cmである。覆土中に地山に含まれる小礫の混入が目立つ。

竈 北壁中央に作られる。両袖が住居内に50cm程度延び、煙道は壁外に80cm程掘り出され、先端部分が細くなっている。

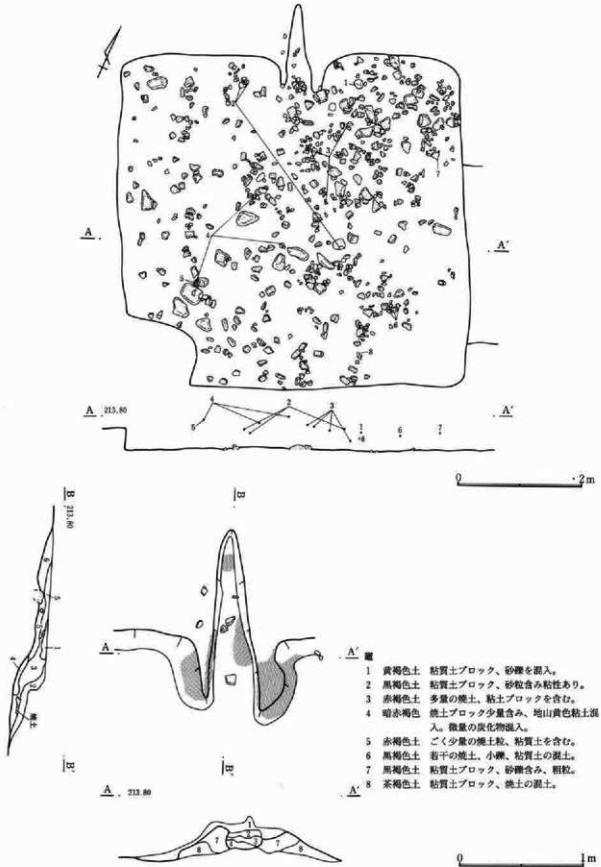
出土遺物 覆土中より破片類が多く検出されているが、多量の礫を多く伴って出土している。土師器環、高環、壺などが見られる他、鋸あるいは鋸と思われる鉄製品が1点出土している。遺物はいずれも床面よりやや上で出土している。

調査所見 部分的に他の遺構に切られてはいるが、比較的遺存状態の良い住居である。地山中に多くの礫が含まれているために、貯蔵穴、柱穴は比較的浅い掘り方である。時期は古墳時代である。



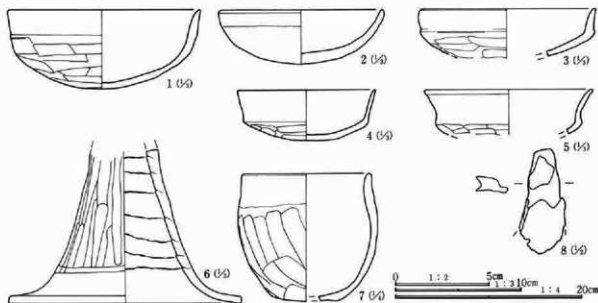
第274図 C-195号住居跡





第275図 C-195号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第276図 C-195号住居跡出土遺物

C-195号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+29	(15.4)	6.3	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
2	土師器 坏	+20	(13.2)	4.3	砂粒含む	茶褐色	普通	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	器面荒れている
3	土師器 坏	+29	(14.2)		砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後裏磨き	
4	土師器 坏	+38	(11.0)		砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後裏磨き	
5	土師器 坏	+45	(13.5)		砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 体部裏削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後裏磨き	
6	土師器 高 坏	+24		18.6	砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外面 胴部裏削り 内面 胴部撫で	胴部片 内面輪痕み 痕明瞭
7	土師器 小型 埴 土	+26	14.0 7.3	13.5	砂粒含む	橙茶褐 色	普通	外 口縁部横撫で 胴部裏削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	外面砂粒でざらつく
8	土師器 片	+10			長さ5.5cm 幅2.6cm 厚さ0.8cm 重さ18.1g			取り付け溝見られる。胴部片	

C-196号住居跡 (第277・278図、PL36・122)

位置 Ci・Cj-39・40 形状 隅丸方形 規模 長辺4.77m、短辺4.75m、壁高0.18m

重複 C-224号住居跡(弥生時代)の北側部分に重複する。

埋没土 砂礫、黄色粒子の混土层。

床面 比較的平坦であるが、地山の砂礫が部分的に露出している。

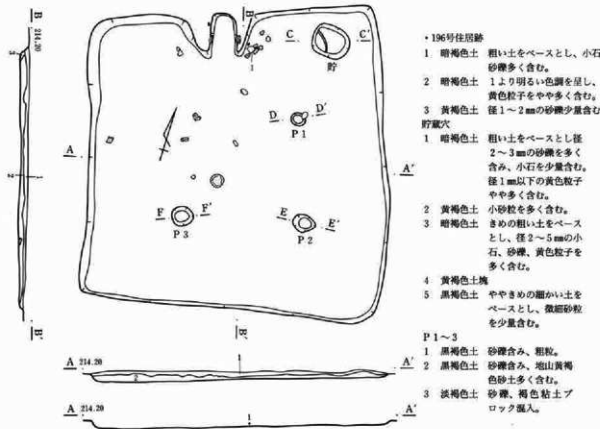
貯蔵穴 北東隅に検出された。円形で径約60cm、深さは20cmである。

柱穴 北西を除き3本を検出した。いずれもやや中央方向に寄り、径約30cm、深さは10~20cmとかなり浅目である。

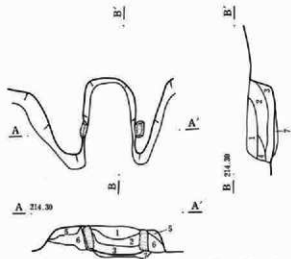
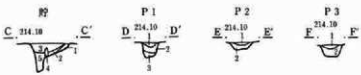
竈 北壁ほぼ中央に作られている。上部はやや削平されているが、両袖石が残る。焼土はあまり見られなかった。

出土遺物 きわめて少ない。図示し得たのは土師器の坏1点のみである。

調査所見 竈の残る北側は比較的遺存状況が良かったが、南側の壁はほとんど削られていた。時期は奈良時代である。



- ・196号住居跡
- 1 暗褐色土 粗い土をベースとし、小石、砂礫多く含む。
  - 2 暗褐色土 1より明るい色調を呈し、黄色粒子をやや多く含む。
  - 3 黄褐色土 径1~2mmの砂礫少量含む。
- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土 粗い土をベースとし径2~3mmの砂礫を多く含む、小石を少量含む。径1mm以下の黄色粒子やや多く含む。
  - 2 黄褐色土 小砂粒を多く含む。
  - 3 暗褐色土 きめの粗い土をベースとし、径2~5mmの小石、砂礫、黄色粒子を多く含む。
- 4 黄褐色土塊
- 5 黒褐色土 ややきめの細かい土をベースとし、微細砂粒を少量含む。
- P1~3
- 1 黒褐色土 砂礫含み、粗粒。
  - 2 黒褐色土 砂礫含み、地山黄褐色砂土多く含む。
  - 3 淡褐色土 砂礫、褐色粘土ブロック混入。



- 竈
- 1 暗褐色土 径1~3mmの黄色粒子を少量、径2~5mmの小石、砂礫を少量含む。
  - 2 暗褐色土 1よりやや明るい色調を呈し、きめの細かい土をベースとし、径2~3mmの黄色粒子、砂粒を少量含む。
  - 3 暗褐色土 2より明るい色調を呈し、径2~3mmの砂粒、小石を少量含む。径2~5mmの焼土粒子を含む。
  - 4 黒褐色土 きめの粗い土をベースとし、径3~5mmの小石を少量含む。
  - 5 黒褐色土 砂礫少量の灰化物含む。
  - 6 暗褐色土 粘質土ブロック、少量の礫を混入。
  - 7 淡褐色土 少量の焼土塊、砂礫を含む。

第277図 C—196号住居跡・竈



第278図 C-196号住居跡出土遺物

C-196号住居跡遺物観察表

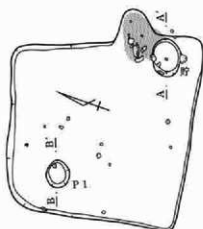
番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	+2	(14.8)		微砂粒僅か に含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 体部運削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	

C-209号住居跡 (第279図、PL36)

位置 CI-34・35 形状 不正隅丸方形 規模 長辺2.90m、短辺2.80m、壁高0.05m

重複 竈を含む東側部分は、C-216号住居跡 (平安時代) によって削平されている。また西壁は耕作溝により削られている。

埋没土 砂礫を多く含む。

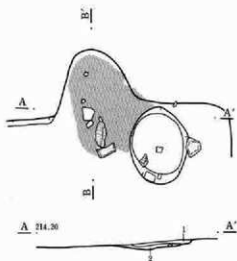


・209号住居跡

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 径2~3mmの小石、砂礫をやや多く、径1~2mmの黄色粒子を少量含む。
  - 2 黒褐色土 径1~3mmの黄色粒子、小石を少量含む。
- P
- 1 黒褐色土 径2~3mmの黄色粒子、小石をやや多く含む。
  - 2 黒褐色土 径1~2mmの黄色粒子、小石を少量含む。
  - 3 暗褐色土 径1~2mmの黄色粒子、小石を少量含む。

0 2m



竈

- 1 暗褐色土 径1~2mmの黄色粒子、焼土粒子を少量に含む。
- 2 赤褐色土 焼土ブロック、若干の炭化物混入。
- 3 黒褐色土 少量の砂礫含む、粘土ブロックわずかに混入。

0 1m

第279図 C-209号住居跡・竈

床面 比較的平坦である。小礫の目立つ粘質土で、部分的に軟質なところがある。

貯蔵穴 南東隅に検出された。やや長円形で長軸60cm、短軸45cm、深さ約30cmを測る。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁の南よりに作られている。本体部分はほとんど削られており、掘り方部下面のみを確認したに過ぎない。竈材と思われる礫1点と若干の焼土の広がりを確認した。

出土遺物 若干の破片類が確認されたものの、図示し得たものはなかった。

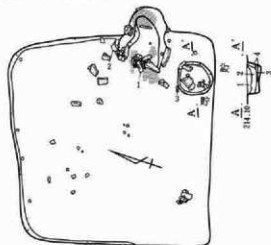
調査所見 削平が著しく、遺存状態はきわめて悪い。時期は平安時代と思われる。

#### C-210号住居跡 (第280・281図、PL36・122)

位置 Ck-35・36 形状 隅丸方形 規模 長辺3.33m、短辺3.15m、壁高0.05m

重複 西壁部分がC-244号住居跡と重複する。

埋没土 砂礫を含む。

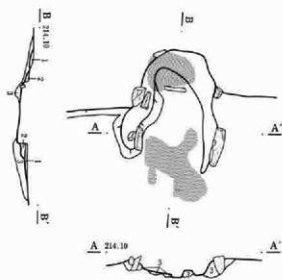


#### ・210号住居跡

##### 貯蔵穴

- 1 黄褐色粘質土 径1~2mmの黄色粒子、砂粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 小礫やや多く含む。
- 3 黄褐色粘質土 1よりやや暗い色調を呈し、径1~2mmの砂粒、小石を微量含む。
- 4 暗褐色土 径1~3mmの小石、砂礫を多く含む。

0 2m



#### 竈

- 1 黒褐色土 砂礫、焼土、炭化物混入。
- 2 赤褐色土 焼土。
- 3 黒褐色土 砂礫、ごく少量の焼土含む。

0 1m

第280図 C-210号住居跡・竈

### 第3章 検出された遺構と遺物

床面 わずかに凹凸が見られる。

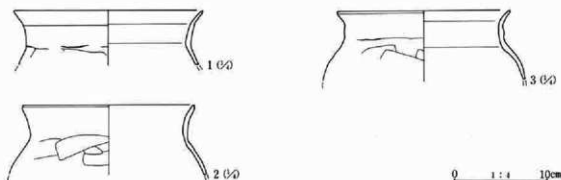
貯蔵穴 南東隅に検出された。径50cm程の円形で、深さは約20cm、底は凹凸が見られる。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁の中央やや南よりに作られている。かなり削平されてはいるが、竈材の礫や粘土が部分的に残る。また前面には、多くの礫が散乱して検出されており、袖を構築していたと思われる粘土塊もわずかに認められた。また焼土が燃焼部、先端部分に確認されている。

出土遺物 竈および周辺より土師器甕の破片類が出土している。

調査所見 削平が著しい。形状、規模ともにC-209号住居跡と良く似ている。時期は平安時代である。



第281図 C-210号住居跡出土遺物

C-210号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 口径 (cm)	胎土	色調	構成	成形の特徴	備考
1	土師器 甕	床面	(20.0)	精製	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直り 内 口縁部横線で 胴部直り	口縁部片
2	土師器 甕	床面	(18.4)	精製	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直り 内 口縁部横線で 胴部直り	
3	土師器 甕	床面	(18.0)	微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直り 内 口縁部横線で 胴部直り	

C-211号住居跡 (第282・283図、PL37・122)

位置 Ck-37 形状 隅丸方形 規模 長辺4.28m、短辺4.16m、壁高0.35m

重複 東側をC-244号住居跡に、北西隅をC-248号住居跡に切れ、北側にはほぼ同時期と考えられるC-282号、298号住居跡が接する。

埋没土 小礫、黄色粒子を混入。

床面 やや凹凸をもち、部分的に地山砂礫面が露出する。

貯蔵穴 北東隅に検出された。やや長円形を呈し、深さは約70cmとかなり深い。

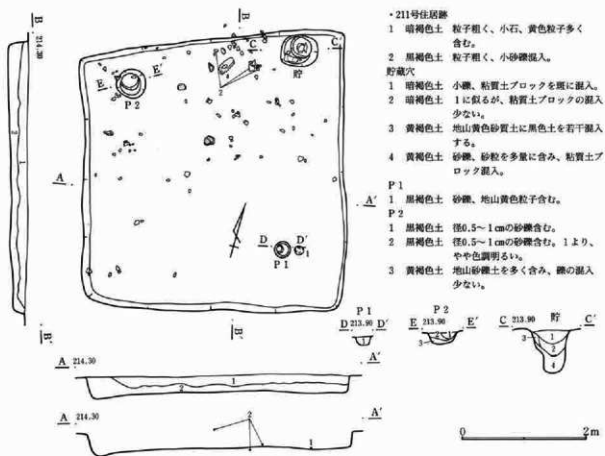
柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央部に若干の粘土、焼土および礫が認められたものの、その明確な存在は確認できなかった。

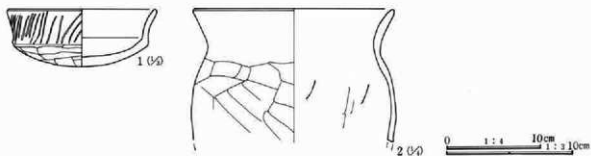
他の遺構により削平されたことも考えられるが、袖部分の痕跡も確認し得なかったことから、頭切からなかったことも考えられる。

出土遺物 土師器甕、坏が出土している。

調査所見 竈の存在は確認できなかったが比較的掘り方はしっかりとしている。時期は古墳時代か。



第282図 C—211号住居跡



第283図 C—211号住居跡出土遺物

C—211号住居跡遺物観察表

番号	部 種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎 土	色 調	焼 成	整 成 形 の 特 徴	備 考
1	土 部 器 坏	+2	12.0 4.5		砂礫僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口径部横線で 体部重削り 内 口径部横線で 体部重削り	ほぼ完成
2	土 部 器 壁	床面	21.4		砂粒含む	灰黄色	良	外 口径部横線で 胴部重削り 内 口径部横線で 胴部重削り	

C—212号住居跡 (第284図、PL37)

位置 Ci-44・45 形状 隅丸方形 規模 長辺3.42m、短辺3.38m、壁高0.18m

重複 竈部分を東西に斜溝が走る。

埋没土 小礫含み粗粒。

第3章 検出された遺構と遺物

床面 地山が露出し、凹凸が目立つ。

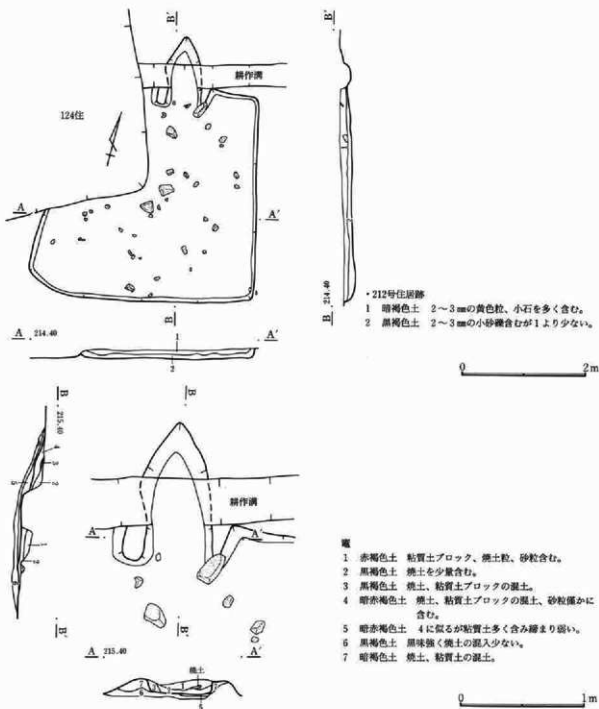
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央に作られる。上部は耕作により削平されている。火床面には若干の焼土ブロックが見られた。

出土遺物 少ない。若干の土器片と鏝が見られたのみである。

調査所見 削平が著しく、遺存状態はきわめて悪い。時期は平安時代と考えられる。



第284図 C-212号住居跡・竈



## C-214号住居跡 (第285~287図、PL37・122)

位置 Ci・Cj-41 形状 隅丸長方形 規模 長辺3.60m、短辺3.10m、壁高0.34m

重複 C-228号住居跡の南側半分以上を切り、C-229号住居跡の竈、北壁の一部を切る。

埋没土 礫を含み、粗粒。

床面 ほぼ平坦で、若干の凹凸が見られる。

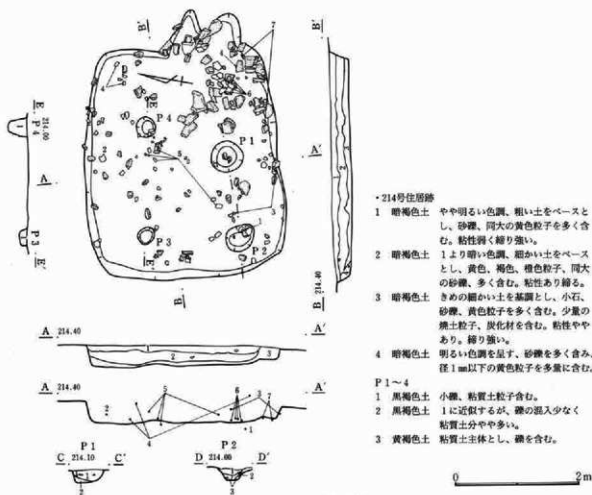
貯蔵穴 明確なものは確認されなかったが、竈の右脇にわずかに落ち込んだ部分が認められた。

柱穴 4本を検出したが、全体的に西に寄っており、位置もややずれて検出されている。南列のP1、P2の規模に比してP3、P4はやや小さい。

竈 東壁のやや南寄りに、2基並んで作られている。作り替えがなされたものと考えられる。北側の方はかなり壊れた状態で、竈材の石が中に落ち込んだ状態で検出された。いずれの竈も砂岩を立て並べて構築しており、遺存状態の良い右側の竈は燃焼部内側に角礫がほぼ構築時の状態で残る。また、火床面にはかなりの灰土が残る。

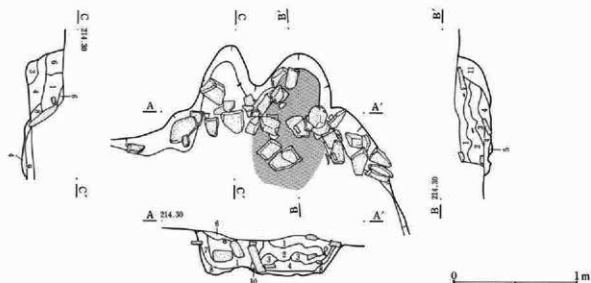
出土遺物 覆土中より須恵器の坏、土師器の壺、坏の破片の他に、羽釜の破片等が見られた。また南西隅のP2内よりほぼ完形の須恵器の壺が検出されている。

調査所見 遺存状態は比較的良く、新旧2基の竈はやや規模的に小さく、構造は近似している。出土遺物から時期は平安時代である。



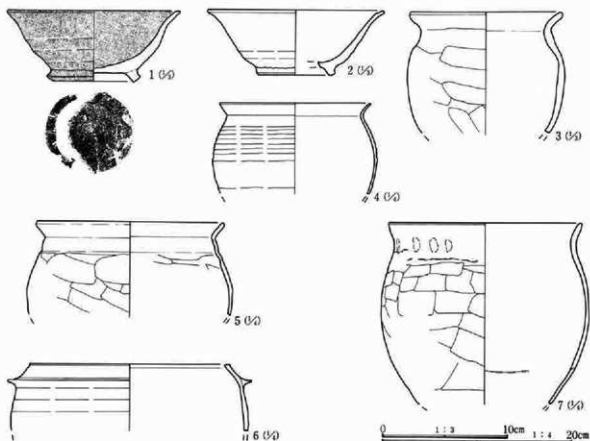
第285図 C-214号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 黄褐色土 多量の粘質土を含み、少量の小礫混入。  
 2 暗褐色土 小礫、粘質土ブロック若干含み、粗粒。  
 3 黄褐色土 黄色粘質土を主体とする。  
 4 暗褐色土 粘質土ブロック、礫土ブロック、灰を含む。  
 5 赤褐色土 焼土層。  
 6 黒褐色土 少量の砂礫含み、やや軟質。  
 7 黄褐色土 粘質土主体とし、良く締る。  
 8 暗赤褐色土 焼土ブロック、粘質土ブロック、砂礫を含む。  
 9 黄褐色粘質土塊  
 10 黄褐色土 粘質土主体とし、固く締る。  
 11 暗褐色土 粘質土と黒褐色土の混土、小礫含む。

第286図 C-214号住居跡・竈



第287図 C-214号住居跡出土遺物

C-214号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須志器 埴	床面	(14.0)	5.6 (6.4)	細砂粒含む	灰褐色	良	ロクロ整形 付け高台	内外面黒色
2	須志器 埴	+14	(14.4)	5.1 (6.4)	砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	
3	土師器 甕	床面	(12.2)		微砂粒僅か に含む	茶褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部重なり 内 口縁部横溝で 胴部横溝で	内面頸部に保付着
4	土師器 小壺	+5	(16.2)		砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	ロクロ整形	
5	土師器 壺	床面	(20.2)		砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部重なり 内 口縁部横溝で 胴部横溝で	
6	羽蓋	床面	(21.6)		砂粒含む	黄褐色	良	ロクロ整形	
7	土師器 壺	+3	20.6		砂粒若干含 む	茶褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部重なり 内 口縁部横溝で 胴部横溝で	頸部に指頭痕

## C-215号住居跡 (第288・289図、PI.38)

位置 Ch・Ci-40 形状 隅丸方形 規模 長辺4.92m、短辺4.27m、壁高0.18m

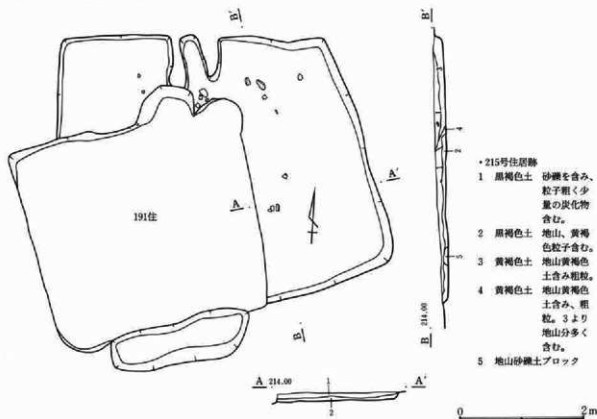
重複 C-191号住居跡(平安時代)に南西部を大きく切られる。

埋没土 地山の黄色粒を多く含み、かなり粗粒である。

床面 明確な面としては確認できなかった。地山の砂礫層がかなりの部分露出している。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。



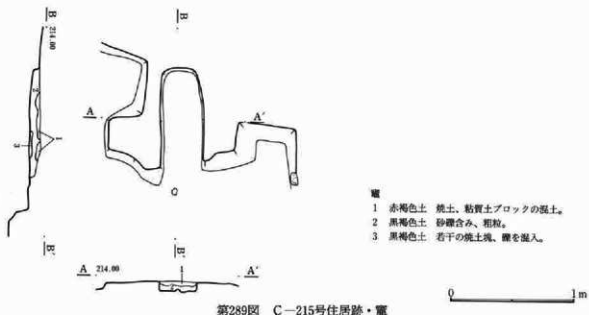
第288図 C-215号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

**竪** 北壁ほぼ中央に作られているが、上部を削平されており、袖、および燃焼部の下部分を確認し得たに過ぎない。

**出土遺物** 出土遺物は少なく、わずかに土器片が認められたが、図示するには至らなかった。

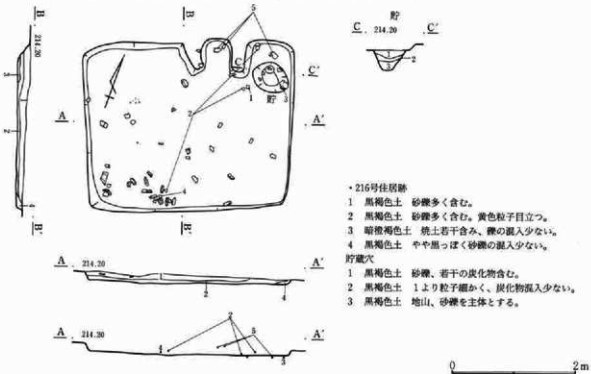
**調査所見** 上部をかなり削られている上に、他の住居に大きく切られていることもあり、遺存状態はきわめて悪い、明確な時期決定に足る出土遺物はなかったが、時期はおそらく古墳時代後期であろう。



第289図 C-215号住居跡・竪

C-216号住居跡 (第290~292図、PL38・123)

**位置** CI-34 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺3.30m、短辺2.67m、壁高0.20m



第290図 C-216号住居跡

重複 C-209号住居跡(平安時代)、C-232号住居跡(弥生時代)を切る。

埋没土 砂粒含みざらつく。

床面 凹凸が見られ、部分的に粘土ブロックが見られる。

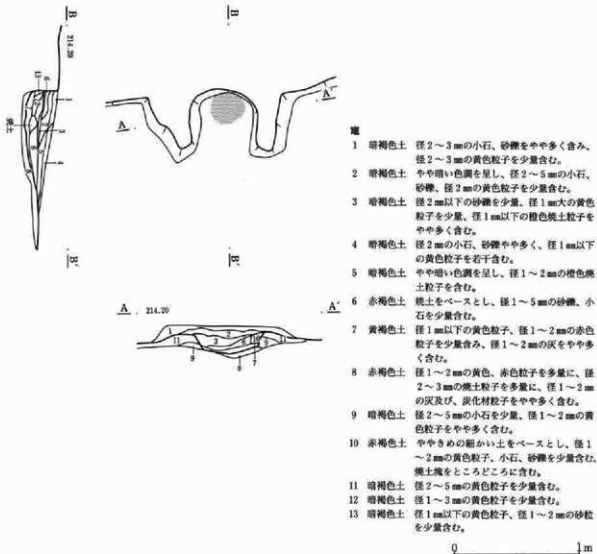
貯蔵穴 北東隅に検出されている。径約50cm、深さは30cmを測る、断面溜鉢状を呈す。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや東寄りに作られる。上部はかなり削平されている。袖部分はやや幅広い馬蹄形に住居内に作られ石などは見られなかった。壁外への張り出しはほとんどなく、燃焼部は床面よりわずかに下がり、灰、焼土塊などが検出されている。

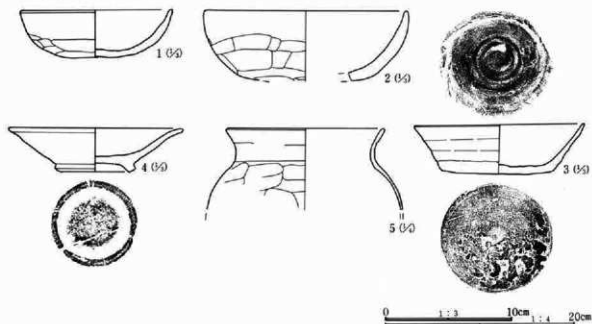
出土遺物 貯蔵穴内より須恵器環、土師器環が出土している。南壁際より藁編み石がまとめて出土している。

調査所見 各壁高の計測はわずかで、遺存状態はあまり良くなかったが、平面形状は明確に確認できた。時期は平安時代である。



第291図 C-216号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第292図 C-216号住居跡出土遺物

C-216号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
1	土師器 坏	床面	(12.8) 3.7	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部削り 体部撫で	
2	土師器 坏	床面	(16.6)	微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部削り 体部撫で	口縁部に若干の煤付着
3	須恵器 坏	床面	13.9 3.8 9.0	精製	灰色	良	ロクロ整形 高部回転削り後撫で調整		
4	須恵器 皿	+5	(14.1) 3.5 6.5	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	外面やや風化	
5	土師器 壺	床面	17.0	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部削り 胴部撫で	内外面に若干の煤付着

C-217号住居跡 (第293・294図、PL38・123)

位置 CK・C1-35 形状 隅丸長方形 規模 長辺3.42m、短辺2.46m、壁高0.1m

重複 北壁を耕作溝により切られる。

埋没土 小礫を多く含む粗粒。

床面 凹凸が著しく、やや軟弱な部分が見られる。

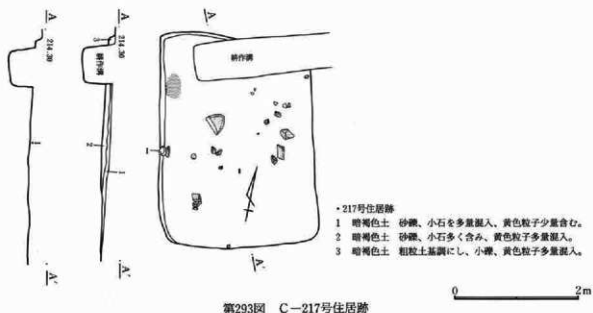
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

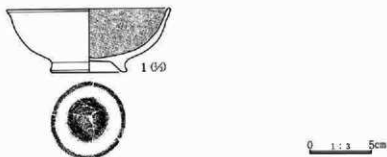
竈 北壁の東よりに焼土の広がり確認されている。竈の痕跡かどうかは不明である。

出土遺物 数点の礫に混じり若干の土器が見られた。図示し得たのは須恵器の壺1点である。西壁脇において出土した。

調査所見 削平が著しい上に、耕作による攪乱を受け遺存状態はきわめて悪い、とくに南側は部分的に床面まで削平が及んでいる。壁高は北壁、および北西壁のみ計測できたにすぎなかった。時期は出土遺物から平安時代である。



第293図 C-217号住居跡



第294図 C-217号住居跡出土遺物

## C-217号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	+4	12.4 6.2	5.0	精製	黄褐色	良	口クロ整形 付け高台 底部回転糸切り	内面黒色 寛磨き

## C-219号住居跡 (第295・296図、PL38・123)

位置 Cm・Cn-35 形状 隅丸長方形 規模 長辺3.20m、短辺3.01m、壁高0.34m

重複 東壁がC-233号住居跡(古墳時代)と接するが切り合いはない。

埋没土 小礫の混入多く、黒味強い。

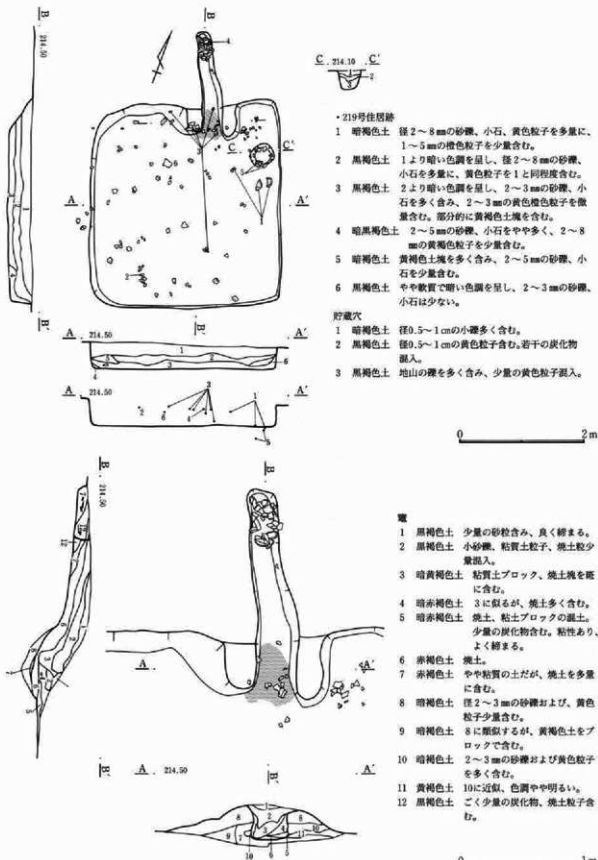
床面 平坦で、比較的締まる。

貯蔵穴 北東隅に検出された。径40cm、深さは30cm程である。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央に作られる。袖部は礫、粘質土の混土で作られる。煙道は壁外へ幅約20cm、長さ約1mで延びている。先端部分で土師器の甕が潰れた状態で出土しており、煙り出し部分に転用されていたものであろう。

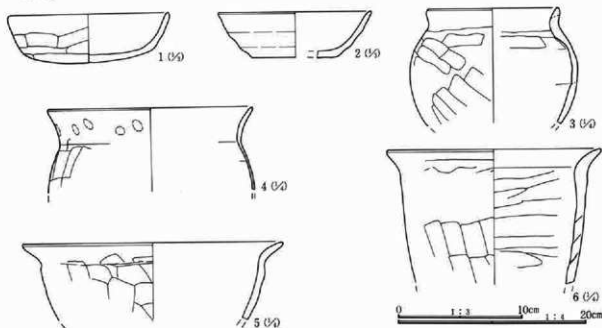
出土遺物 あまり多くはなく、土師器甕、坏などが見られた。



第295図 C-219号住居跡・竈



**調査所見** 遺存状態は良く、いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がり、壁高も30~40cmを測る。時期は平安時代である。



第296図 C-219号住居跡出土遺物

C-219号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 高さ (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	壺成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床面	13.0	3.8	微砂粒僅かに含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛肩り 内 口縁部横線で 体部無で	ほぼ光形
2	須恵器 坏	+30	(12.4)	3.6 (7.0)	微砂粒僅かに含む	灰色	良	口縁部横線 底部回転寛切り	
3	土師器 壺	+4	14.0		砂粒若干含む	暗褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部寛肩り 内 口縁部横線で 胴部無で	内面に保付着
4	土師器 壺	+21	22.0		微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛肩り 内 口縁部横線で 胴部無で	
5	土師器 壺	床面	(24.0)		砂粒僅かに含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛肩り 内 口縁部横線で 胴部無で	広口
6	土師器 壺	+22	(23.0)		砂粒僅かに含む	暗黄色	良	外 口縁部横線で 胴部寛肩り 内 口縁部横線で 胴部無で	

C-220号住居跡 (第297・298図、PL.39・123)

**位置** Cm-37 **形状** 隅丸方形 **規模** 長辺4.83m、短辺4.23m、壁高0.32m

**重複** C-282号住居跡、C-312号住居跡を切る。

**埋没土** 砂礫を含み、他の遺構との重複も多く、土質は一定しない。

**床面** 部分的に掘り過ぎた部分もあり、明確な面ではとらえられなかった。

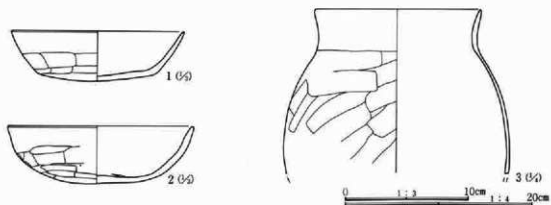
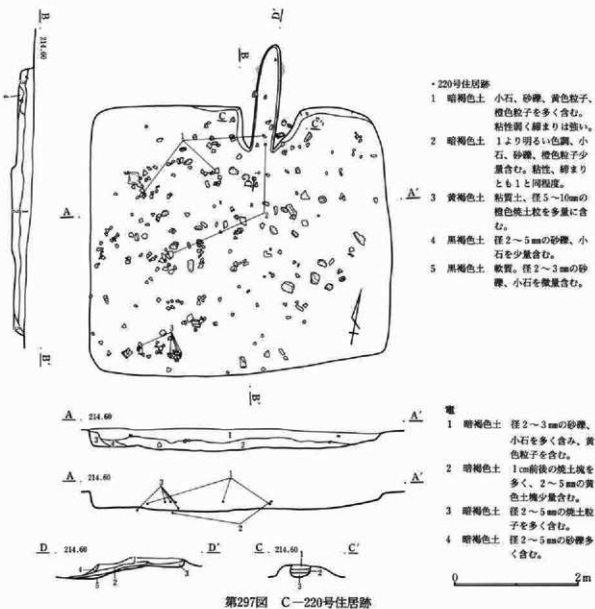
**貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 検出されなかった。

**竈** 北壁中央部に作られている。袖部分は粘土、若干の焼土の混土で固く締まる。竈の長さは1.5m程でほぼ同じ幅で壁外に緩やかに立ち上がりながら延びる。燃焼部分は多少広がっていたものと思われるが、袖などが落ち込んだ状態であり、確認できなかった。

**出土遺物** あまり多くはない。土師器坏、壺が見られた。

調査所見 重複が著しく、調査時にやや混乱したところがあった。時期は平安時代か。



C-220号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
1	土師器 甕	+4	(14.0) (9.5)	4.0	精製	灰黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部裏削り 体部裏で後磨り	器面やや風化
2	土師器 甕	床面	(15.0)		砂粒係かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部裏削り 体部裏で	
3	土師器 甕	床面	(18.0)		微砂粒含む	赤茶褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部裏削り 胴部裏で	口縁部直立気味

## C-221号住居跡 (第299~301図、PL39・123)

位置 Cm・Cn-37 形状 隅丸方形 規模 長辺3.30m、短辺3.25m、壁高0.23m

重複 C-301号住居跡 (平安時代) と重複する。

埋没土 礫の混入多く、かなり粗粒である。

床面 やや凹凸が見られるが、比較的平坦である。

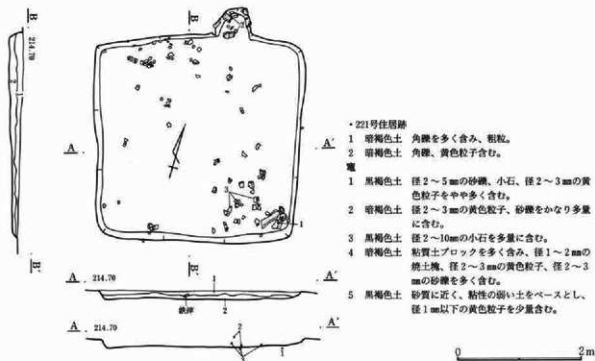
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁の中央やや東よりに作られている。燃焼部は壁外にアーチ状に50cm程掘り出されている。袖および袖石などは遺存せず、竈内部は構築材と思われる礫や、焼土ブロックを含むかなり締まった土で埋まっていた。

出土遺物 土師器の甕、および台付甕の破片などが見られたが、量的には少ない。住居の南東隅、および竈内において出土している。

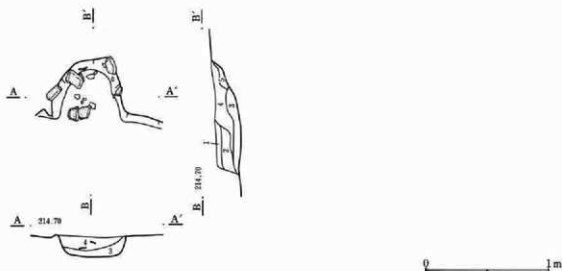
調査所見 全体的に遺存状態はそれほど悪くはなかったが、他の住居との重複部分の壁についてはやや明確



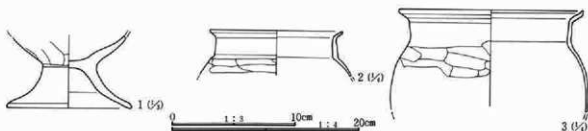
第299図 C-221号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

でない所もある。貯蔵穴、柱穴などの住居内施設も確認されなかった。出土遺物から時期は平安時代である。



第300図 C-221号住居跡・竈



第301図 C-221号住居跡出土遺物

C-221号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 台付壺	床面	10.0	微砂粒含む	淡褐色	良	外 胴部裏割り脚台部裏割り後部で 内 胴部裏で脚台部裏で	胴下部および脚台部
2	土師器 小型壺	+4	(14.2)	精製	灰黒色	良	外 口縁部横線で 胴部裏割り 内 口縁部横線で 胴部裏で	
3	土師器 壺	床面	19.3	微砂粒僅か に含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏割り 内 口縁部横線で 胴部裏で	

位置 Cg・Ch-43 形状 隅丸方形 規模 長辺5.18m、短辺4.53m、壁高0.50m

重複 C-195号住居跡と重複し、南東部分をC-223号住居跡に切られる。

埋没土 多量の礫を混入する。

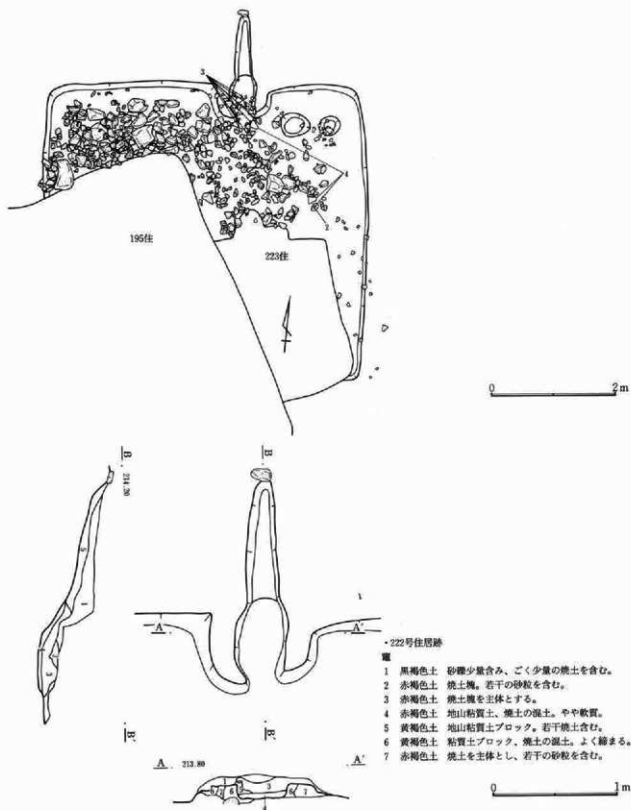
床面 やや凹凸をもち、北側部分は地山の礫が所露出している。

貯蔵穴 北東隅に径40cm、深さが10cm足らずの、円形の掘り込みが検出されているが、貯蔵穴とは認定しがたい。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや東よりに作られている。両袖部分が50cmほど残り、煙道部は緩やかな立ち上がりを持ちながら、壁外に約1mの長さで延びる。燃焼部、および煙道部の内面は良く焼けている。

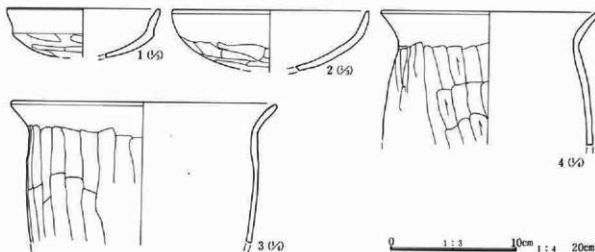
**出土遺物** 多量の礫に混在して土器片が検出されているが量は少ない。土師器環、甕がわずかに見られた。  
**調査所見** 極めて多量の礫の混入が見られ、これらの礫の中には大きさ50cmにも及ぶものもあった。廃棄時



第302図 C-222号住居跡・電

### 第3章 検出された遺構と遺物

に投げ込まれたものと考えられるが、かなり意識的に行われている状況が窺われる。時期は古墳時代後期である。



第303図 C-222号住居跡出土遺物

C-222号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 杯	覆土	(12.4)	砂粒僅かに 含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 体部直筒形 内 □縁部横線で 体部直筒形後復原	
2	土師器 杯	+20	(16.0)	小礫含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 体部直筒形 内 □縁部横線で 体部直筒形	
3	土師器 甕	+5	28.0	小砂礫多く 含む	黄褐色	普通	外 □縁部横線で 胴部直筒形 内 □縁部横線で 胴部直筒形	小礫の混入顕著
4	土師器 甕	+5	23.2	砂粒多く含 む	黄褐色	良	外 □縁部横線で 胴部直筒形 内 □縁部横線で 胴部直筒形	口唇端面取りきられている

#### C-223号住居跡 (第304・305図、PL39・40・124)

位置 Cg-42・43 形状 隅丸方形 規模 長辺2.54m、短辺(1.2)m、壁高0.19m

重複 C-222号住居跡(古墳時代)の南東部分に重複する。

埋没土 小礫多く含む、粗粒土。

床面 平坦でやや黒味を持つ土で作られている。

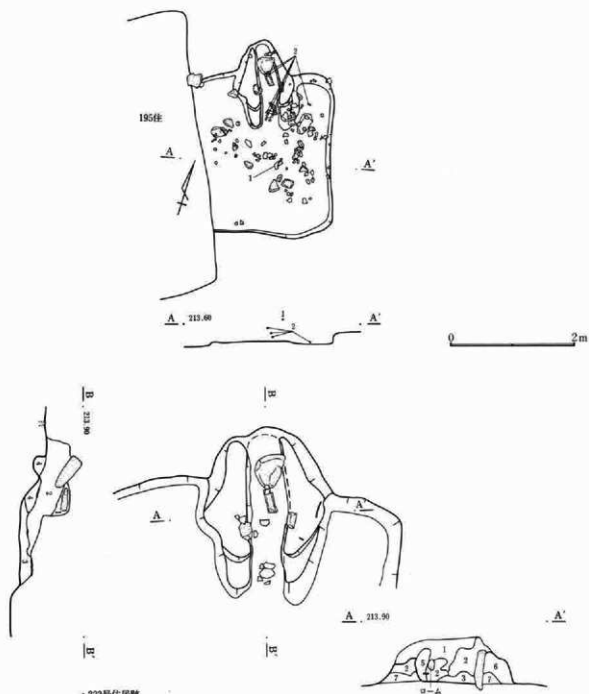
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁のほぼ中央に作られている。規模は住居に比してかなり大きめで、袖は礫、粘質土で作られ、煙道部は中段を持ってやや急角度で立ち上がり、覆土上部において30cm程の礫が検出されている。右袖には芯材として板状の砂岩が埋め込まれていた。

出土遺物 多くの礫に混じて土器片が認められた。いずれもかなり上層にあるものが多かった。図示し得たのは土師器の杯2点である。

調査所見 非常に小型の住居であり、また住居の大部分が他の住居の覆土中に入っていたために、当初その存在を見落としていた、このため西側のほぼ半分を掘ってしまい、正確な形状をつかめなかった。時期は出土遺物から平安時代か。



・223号住居跡

竈

- 1 黒褐色土 小礫を多く含み、少量の黄色粒を混入。
- 2 茶褐色土 粘質土ブロックを多く含み、礫、焼土を混入。
- 3 黒褐色土 小礫、若干の焼土、炭化物を混入。
- 4 黄褐色土 焼土、粘質土ブロックの混土。砂礫を多く含む。
- 5 黄褐色土 粘質土、焼土ブロックの混土。小砂礫混入。
- 6 黒褐色土 少量の粘質土ブロック混入。礫を多く含む。
- 7 黒褐色土 地山、黄色砂礫の混入多く、粗粒。

0 1m

第304図 C-223号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第305図 C-223号住居跡出土遺物

C-223号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 環	+34	(14.0)		微砂粒僅かに 含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部磨削り 体部撫で後磨き
2	土師器 環	+2	14.4 5.0		微砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部磨削り 体部撫で後磨き

C-226号住居跡 (第306図、PL40)

位置 Cm・Cn-38 形状 隅丸方形 規模 長辺4.26m、短辺4.16m、壁高0.11m

重複 C-280号住居跡、C-291号住居跡を切る。

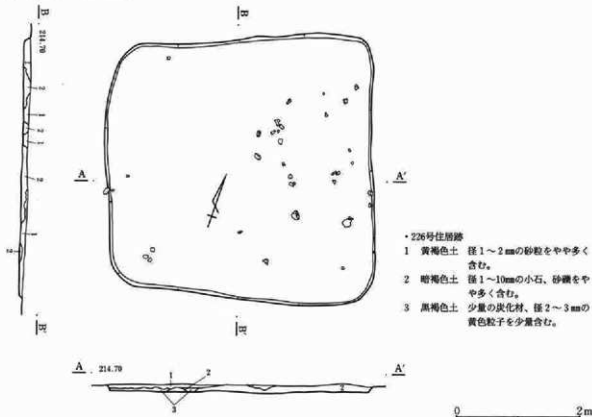
埋没土 礫を含み、砂利質。部分的に炭化物が含まれる。

床面 ほぼ平坦であるが、軟質である。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。



第306図 C-226号住居跡



出土遺物 小片のため図示できなかった。

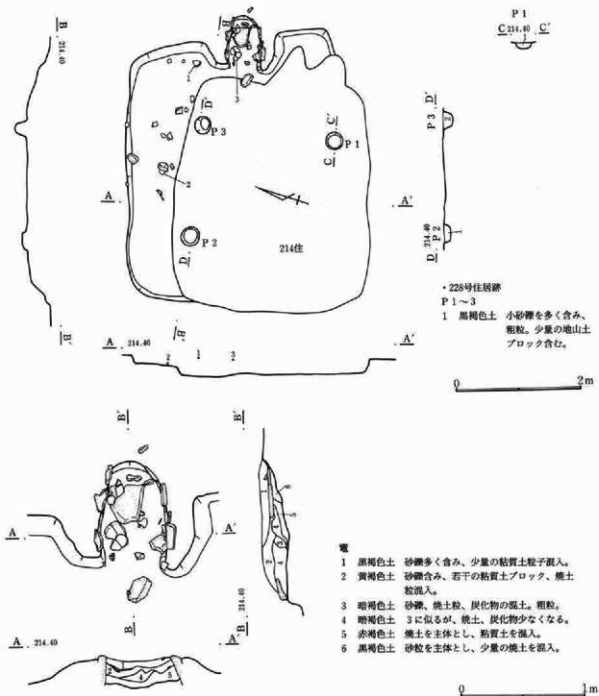
調査所見 遺存状態は極めて悪く出土遺物も少ない。住居としたが竈等の痕跡もなくやや疑問も残る。

C-228号住居跡(第307・308図、PL40・124)

位置 Ci・Cj-41 形状 隅丸長方形か 規模 長辺4.10m、短辺3.20m、壁高0.17m

重複 C-214号住居跡に南側半分以上を大きく切られる。

埋没土 粗粒で礫を多く含む。下層に炭化材、焼土粒を含む。



第307図 C-228号住居跡・竈

### 第3章 検出された遺構と遺物

床面 北側の3分の1程度を確認した。やや凹凸を持ち、砂粒が部分的に露出している。

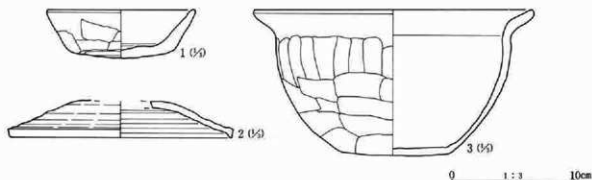
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 明確には検出されなかったが、重複住居の掘り方で3本のピットを確認しているが、位置的にややずれる。

竈 東壁のほぼ中央に作られている。燃焼部掘り方は馬蹄形を呈し、部分的に崩れてはいるが、内側には砂岩が立て並べられていた。袖部分は小礫、粘土の混土で築かれている。火床面にはかなりの厚さで、焼土の堆積が見られた。

出土遺物 遺存した部分が少なく数は少ない。土師器甕、坏、および須恵器の蓋が見られる。

調査所見 重複により、南側を大きく切られている。遺存状態は良くなかったが、辛うじて残った竈は作りがしっかりしている。時期は平安時代である。



第308図 C-228号住居跡出土遺物

C-228号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	面土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+29	(12.0)	3.8	砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 体、底部荒削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	器内厚い
2	須恵器 蓋	+4	(17.9)		微砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 外面天井部荒削り	
3	土師器 甕	+23	22.6 9.0	11.5	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部荒削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	広口

C-229号住居跡 (第309・310図、PL40・124)

位置 Ch・Ci-41・Ci-42 形状 隅丸方形 規模 長辺4.88m、短辺4.48m、壁高0.14m

重複 北壁にC-214号住居跡(平安時代)が接する。

埋没土 極めて浅く砂粒含む粗粒土である。

床面 部分的に地山の砂粒が露出し、やや起伏が見られる。

貯蔵穴 検出されなかった。

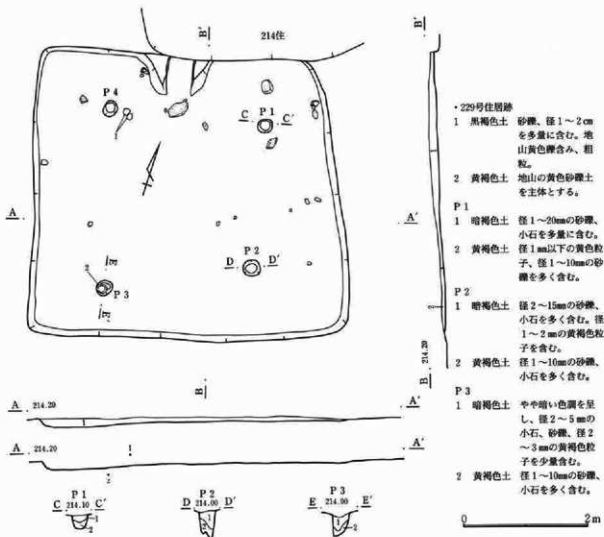
柱穴 ほぼ対角線上に4本を検出した。いずれも径25cm、深さは20~40cmである。

竈 本体上部、煙道部のほとんど削平されており、袖、火床面の一部を認めたに過ぎなかった。

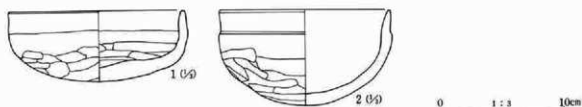
出土遺物 遺存状態が悪かったためか、きわめて少ない。礫、土器片を含めてもわずか10点ほどであった。

ほとんどが床面からやや浮いた状態であった。図示し得たのは土師器2点である。2は南西の柱穴内より検出された。

調査所見 各壁、竈についてはほとんど削平されていた。出土遺物から時期は古墳時代である。



第309図 C-229号住居跡



第310図 C-229号住居跡出土遺物

C-229号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底高 (cm)	胎土	色調	構成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面	14.4	5.5	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横割で 体部直割り 内 口縁部横割で 体部直で	ほぼ完形
2	土師器 杯	+17	(14.0)	7.5	砂粒含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横割で 体部直割り 内 口縁部横割で 体部直で	

第3章 検出された遺構と遺物

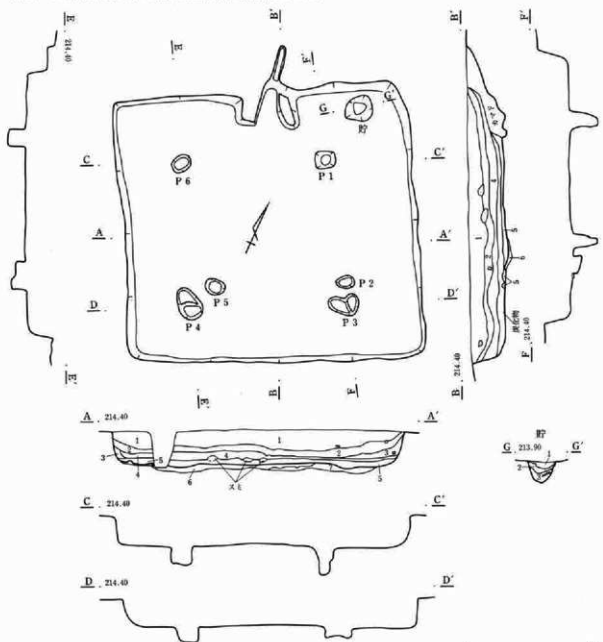
C-230号住居跡 (第311~314図、PL41・124)

位置 Ci-43・44 形状 隅丸方形 規模 長辺4.69m、短辺4.31m、壁高0.50m

重複 C-273号住居跡に切られる。

埋没土 砂礫含み粗粒、下層に炭化物を含む。

床面 やや凹凸を持ち、地山の礫が所所に露出している。



・230号住居跡

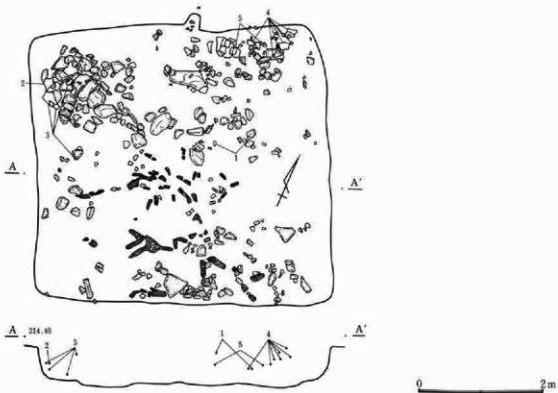
- 1 黒褐色土 小礫多く含み、黄色粒子目立つ。
- 2 黒褐色土 小礫、黄色粒子、粘質土ブロック混入。
- 3 黒褐色土 2に似るが、黄色粒子多く目立つ。
- 4 黒褐色土 小礫、粘質土、炭化物の混入多い。
- 5 黒褐色土 砂礫、粘質土粒子多く含む。
- 6 黒褐色土 砂礫、粘質土ブロック含み、やや明るい色調。

- 7 黄褐色土 粘質土、砂礫の混土。

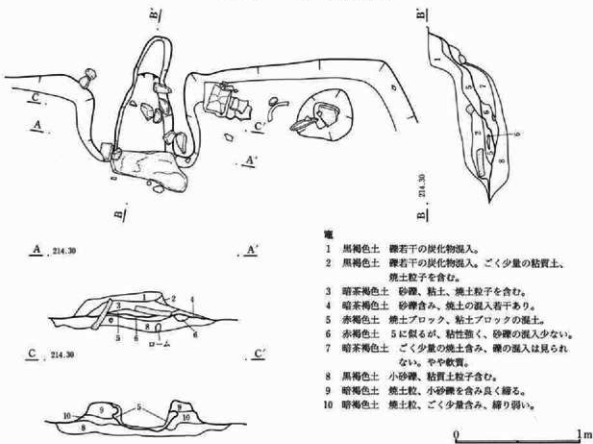
貯蔵穴

- 1 黒褐色土 小礫、粘土ブロックを若干含む。
- 2 暗褐色土 褐色粘土ブロック主体とし、黒色土わずかに含む。
- 3 暗褐色土 暗褐色土と黄褐色粘土の混土、小礫若干含む。

第311図 C-230号住居跡(1)



第312図 C-230号住居跡(2)



第313図 C-230号住居跡・竈

竈

- 1 黒褐色土 糠若干の炭化物混入。
- 2 黒褐色土 糠若干の炭化物混入。ごく少量の粘質土、焼土粒子を含む。
- 3 暗茶褐色土 砂礫、粘土、焼土粒子を含む。
- 4 暗茶褐色土 砂礫含み、焼土の混入若干あり。
- 5 赤褐色土 焼土ブロック、粘土ブロックの混入。
- 6 赤褐色土 5に似るが、粘性強く、砂礫の混入少ない。
- 7 暗茶褐色土 ごく少量の焼土含み、糠の混入は見られない。やや軟質。
- 8 黒褐色土 小砂礫、粘質土粒子含む。
- 9 暗褐色土 焼土粒、小砂礫を含み良く締る。
- 10 暗褐色土 焼土粒、ごく少量含み、締り弱い。

第3章 検出された遺構と遺物

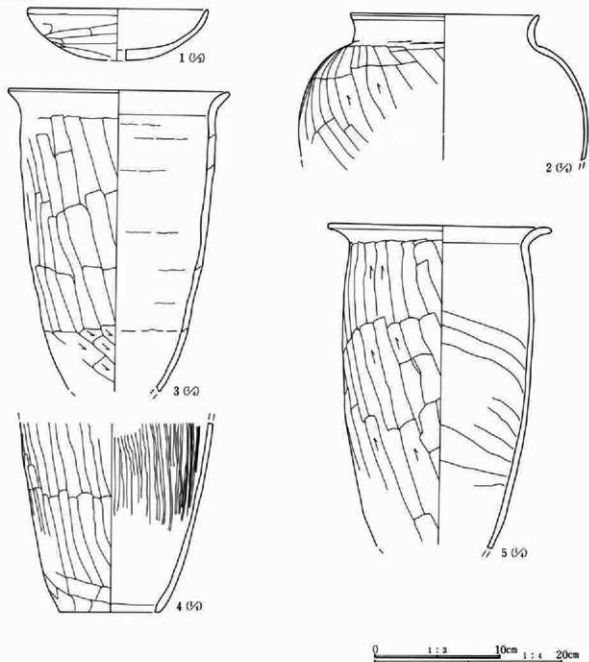
貯蔵穴 北東隅に検出された。径50cm程で、深さは約40cmである。断面楕円状を呈す。

柱穴 対角線上に4本検出した。径20~30cm、深さは20~40cmで平面形も一定しない。またこのほかにも4本の小ピットが見られたが、性格は不明である。

竈 北壁中央に作られる。袖は砂礫土、粘土の混土で、住居内に60cm程の長さを持つ。焚口部分が天井に渡していたと思われる板状の砂岩が、手前に滑り落ちたような状態で出土している。

出土遺物 多量の礫が住居の北西隅を中心に投げ込まれたような状態で検出された。これらの礫に混じり土師器甕、坏などが見られた。竈の脇で4・5が、また北西隅よりで2・3が出土している。

調査所見 比較的住居の遺存状態は良く、各壁、竈も良く残っていた。出土遺物から時期は古墳時代後半である。



第314図 C-230号住居跡出土遺物

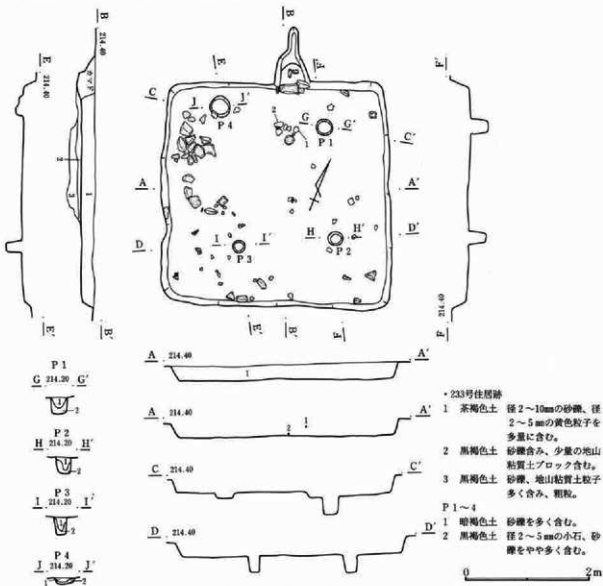
C-230号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 環	+25		砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部直削り 体部側で後装飾き
2	土師器 壺	+24		微砂粒含む	黒褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部直削り 胴部側で
3	土師器 壺	+7	(23.6)	砂粒多く含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部直削り 胴部側で
4	土師器 瓶	+25	10.7	砂粒僅かに 含む	淡褐色	良	外 胴部直削り 内 胴部側で後装飾き	胴上半部を欠く
5	土師器 壺	+32	23.7	砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部直削り 胴部側で

C-233号住居跡 (第315~317図、PL41・124)

位置 Cm・Cn-34・35 形状 隅丸方形 規模 長辺3.67m、短辺3.54m、壁高0.32m

重複 西側にC-219号住居跡が近接する。



第315図 C-233号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

**埋没土** 小礫を含み、やや細粒の土である。

**床面** ほぼ平坦。砂粒、黄褐色粘土含む土で貼床がなされていた。ただし、北東部分に関しては弥生時代の住居と重複している部分であるためか、軟弱であった。

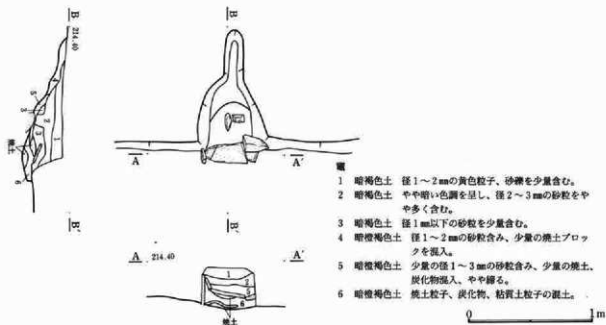
**貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 4本を検出した。北西に検出したものはやや壁に寄っている。

**竈** 北壁ほぼ中央に作られる。幅約50cm、長さは約1mで、煙道は緩やかに立ち上がる。焚口左側には石が据えられ、天井に渡されていた板状の砂岩が、下に落ちた状態で検出されている。

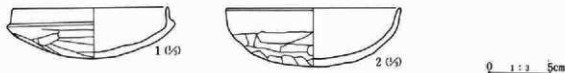
**出土遺物** 標が10数点、住居西側部分において出土。土器類は破片が主で、土師器環2点を図示した。

**調査所見** 竈、壁ともに遺存状態は良好である。時期は古墳時代後期である。



- 1 暗褐色土 径1~2mmの黄色粒子、砂礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや暗い色調を呈し、径2~3mmの砂粒をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 径1mm以下の砂粒を少量含む。
- 4 暗褐色土 径1~2mmの砂粒含み、少量の焼土ブロックを混入。
- 5 暗褐色土 少量の径1~3mmの砂粒含み、少量の焼土、炭化物混入、やや締る。
- 6 暗褐色土 焼土粒子、炭化物、粘質土粒子の混入。

第316図 C-233号住居跡・竈



第317図 C-233号住居跡出土遺物

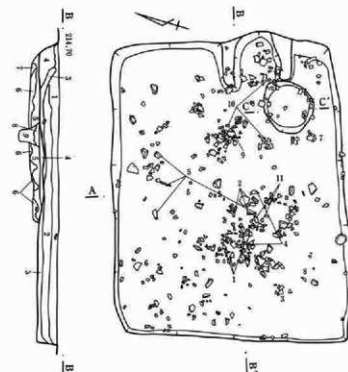
C-233号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器環	+15	12.4	4.0	砂粒僅かに含む	暗茶褐色	良	外 □縁部横撫で 体部蓋削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	完形
2	土師器環	床面	14.0	4.6	砂礫(片粗)含む	灰茶褐色	普通	外 □縁部横撫で 体部蓋削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	砂礫の混入目立つ

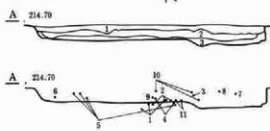
C-235号住居跡 (第318・319図、PL41・42・124・125)

位置 Cn-37・38 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.61m、短辺3.70m、壁高0.32m

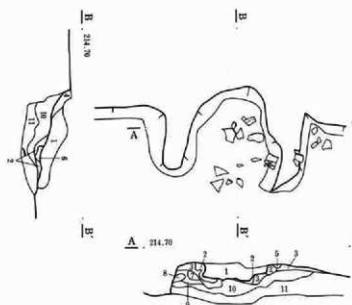




- ・235号住居跡
- 1 暗褐色土 径1~2mm小石、径2~3mmの黄色粒子を多く含む。
  - 2 暗褐色土 径2~5mmの小石、径2~3mmの黄色粒子を多く含む。
  - 3 暗褐色土 径1~3mmの小石、同大の黄色粒子をやや多く含む。
  - 4 暗褐色土 径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。
  - 5 暗褐色土 径1~10mmの砂礫、小石を多く含む。
  - 6 暗褐色土 径1~2mmの黄褐色粒子を多く、径2~10mmの砂礫、小石を多く含む。
  - 7 黄褐色土 やや粘質、径2~3mmの砂礫を多量に含む。砂質地山の崩土多く含む。
  - 8 暗褐色土 径2~5mmの小石、径1~2mmの黄褐色粒子を多く含む。
  - 9 黒褐色土 径2~10mmの小石を多く含む。



- 野竈穴
- 1 暗褐色土 径2~5mmの礫をやや多く、焼土を多く含む。
  - 2 茶褐色土 径2~3mmの砂礫、小石をやや多く含む。焼土含む。
  - 3 黒褐色土 径1~2mmの砂礫、小石を含む。



- 竈
- 1 暗褐色土 径2~4mmの砂礫、小石をやや多く含む。炭化材、焼土粒を少量含む。
  - 2 赤褐色土 焼土。
  - 3 暗褐色土 やや粘質、径2~3mmの砂礫、小石を1と同程度、焼土、炭化材をやや多く含む。1に似るがやや黄色味がある。
  - 4 黒褐色土 砂礫、径1~3mmの黄褐色粒子を少量含む。
  - 5 暗褐色土 径2~3mmの砂礫、小石を少量含む。
  - 6 黄褐色土 やや粘質、径1~3mmの砂礫を少量、炭化材、焼土を微量含む。
  - 7 黄褐色粘質土
  - 8 黄褐色土 赤褐色焼土を多く含む、径2~10mmの砂礫を多く含む。
  - 9 暗褐色土 径2~5mmの砂礫、小石を多く含む。
  - 10 暗褐色土 黄褐色粘質土、赤褐色焼土塊をところどころに含む。
  - 11 茶褐色土 径2~3mmの砂礫、小石を多く、黄褐色粒子多量を含む。



第318図 C-235号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物

重複 C-277号住居跡、C-280号住居跡、C-301号住居跡を切る。

埋没土 砂礫含み、粗粒。

床面 北側は良く締まり、比較的平坦であるが、南側は不明瞭で面としては、はっきりしなかった。

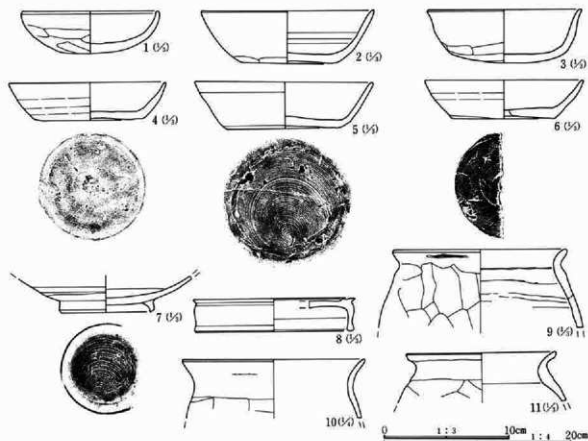
貯蔵穴 竈の右側手前に径80cm程の掘り込みを確認しているが、位置的に適当とは思われず、床下土坑の可能性もある。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央やや南よりに作られている。両袖は70cm程の長さを持ち、焚口幅は約60cmを測る。壁外への掘り出しはほとんど見られなかった。

出土遺物 破片が多く、土師器甕、坏、須恵器坏類が見られたが、いずれもやや浮いた状態のものが多かった。竈内より土師器甕が潰れた状態で出土している。

調査所見 遺存状態は比較的良く、出土遺物も量的にはやや多かった。しかしながら他の遺構との重複部分が多く壁、床については確定できなかった部分もある。時期は平安時代。



第319図 C-235号住居跡出土遺物

C-235号住居跡遺物観察表

番号	器 種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎 土	色 調	焼 成	整 成 形 の 特 徴	備 考
1	土 師 器 坏	床面	(11.0)	3.3	微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横溝で 体部直削り 内 口縁部横溝で 体部側で	
2	土 師 器 坏	床面	13.8 7.0	4.0	微砂粒僅か に含む	黄褐色	良	外 口縁部横溝で 体部直削り 内 口縁部横溝で 体部側で	
3	土 師 器 坏	+12	(12.4)	(4.2)	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	普通	外 口縁部横溝で 体部直削り 内 口縁部横溝で 体部側で	器面荒れている

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	構成	成形の特徴	備考
4	須恵器 坏	床面	12.5 8.2	2.9	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転盤切り後推で調整	
5	須恵器 坏	床面	14.2 9.0	3.7	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転盤切り	ほぼ完形
6	須恵器 坏	+6	12.2 8.2	3.1	微砂粒含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転盤切り	
7	灰釉魂	+22			精製	明灰色	駆致	ロクロ整形	没け掛け
8	須恵器 蓋	+25	12.8	3.6	微砂粒含む	灰黒色	良	ロクロ整形	
9	土師器 小型壺	+7	(14.0)		精製	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部重削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
10	土師器 壺	+16	(19.4)		微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部重削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
11	土師器 小型壺	床面	(12.0)		微砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部重削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	口縁部片

## C-236号住居跡 (第320~323図、PL42・125)

位置 Ck・Cl-38 形状 隅丸方形 規模 長辺4.12m、短辺3.89m、壁高0.15m

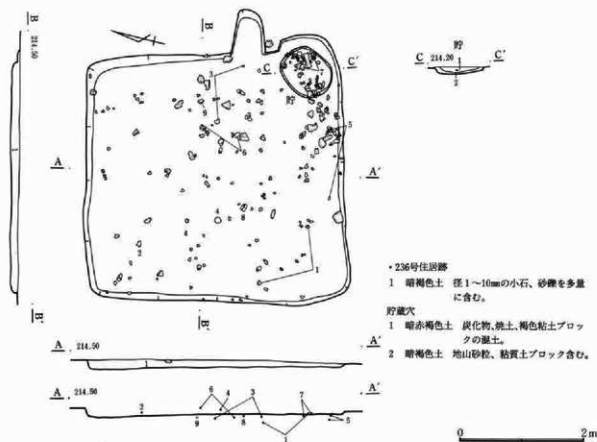
重複 C-248号住居跡、C-250号住居跡、C-285号住居跡を切る。

埋没土 やや黒味のある砂礫土で埋まる。

床面 明確な面としてはとらえられなかった。

貯蔵穴 北東隅に検出した。長円形を呈し深さは10cm程である。礫、土器片が出土している。

柱穴 検出されなかった。

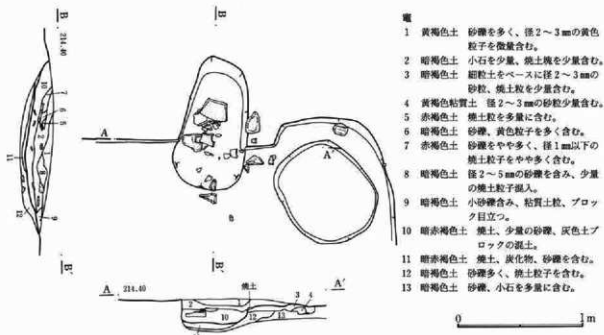


第320図 C-236号住居跡

**竈** 北壁中央やや東寄りに作られている。U字状に壁外に掘り出している、上部はかなり削られた状態で、袖部、燃焼部などの構造ははっきりしない。砂岩、土器片が出土している。

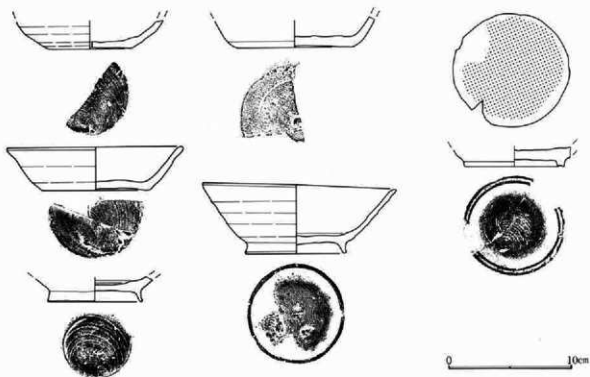
**出土遺物** 破片類が多く見られた。須恵器の坏、埴類が目立った。

**調査所見** 重複が著しかったが、およその形状は確認された。時期は平安時代である。

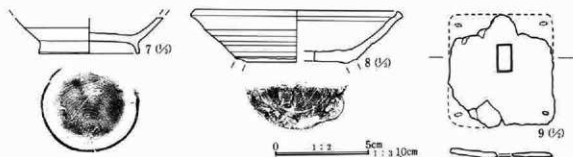


- 竈**
- 1 黄褐色土 砂礫を多く、径2~3mmの黄色粒子を微量含む。
  - 2 暗褐色土 小石を少量、焼土塊を少量含む。
  - 3 暗褐色土 細粒土をベースに径2~3mmの砂粒、焼土粒を少量含む。
  - 4 黄褐色粘質土 径2~3mmの砂粒少量含む。
  - 5 赤褐色土 焼土粒を多量に含む。
  - 6 暗褐色土 砂礫、黄色粒子を多く含む。
  - 7 赤褐色土 砂礫をやや多く、径1mm以下の焼土粒子をやや多く含む。
  - 8 暗褐色土 径2~5mmの砂礫を含み、少量の焼土粒子混入。
  - 9 暗褐色土 小砂礫含み、粘質土粒、ブロック目立つ。
  - 10 暗赤褐色土 焼土、少量の砂礫、灰色土ブロックの混入。
  - 11 暗赤褐色土 焼土、炭化物、砂礫を含む。
  - 12 暗褐色土 砂礫多く、焼土粒子を含む。
  - 13 暗褐色土 砂礫、小石を多量に含む。

第321図 C-236号住居跡・竈



第322図 C-236号住居跡出土遺物(1)



第323図 C-236号住居跡出土遺物(2)

C-236号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考	
1	須恵器 坏	床面	(6.4)	微砂粒含む	灰黒色	良	ロクロ整形 底部回転未切り		
2	須恵器 坏	+5	(4.6)	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転未切り 無調整 端部磨削り		
3	須恵器 坏	床面	(14.0) 3.4 (8.0)	黒色粒子含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転未切り		
4	須恵器 埴	+5	(3.8)	精製	灰色	良	ロクロ整形 付け高台 底部回転未切り	底部片	
5	須恵器 埴	床面	(15.5) 5.5 8.0	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台 底部回転未切り	黒色粒子目立つ 部分的に自然物	
6	須恵器 埴	床面	4.0	砂粒含む	灰緑色	良	ロクロ整形 底部回転未切り 付け高台	底部片を円形にし、 転用磁として使用	
7	須恵器 埴	床面	8.0	黒色微粒子含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台 底部回転未切り	底部のみ	
8	須恵器 蓋	床面	(17.0)	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転未切り 付け高台		
9	金具	床面	長さ6.0cm 幅5.6cm 厚さ0.3cm 重さ18.5g 中央長方形の穴、四隅に釘穴有り						

## C-237号住居跡 (第324・325図、PL42・125)

位置 Ck-39・40 形状 隅丸方形 規模 長辺3.72m、短辺3.46m、壁高0.10m

重複 C-257号住居跡(古墳時代)を切る。

埋没土 かなり砂礫含み粗粒。

床面 やや凹凸を持ち、地山の砂礫層が部分的に露出している。

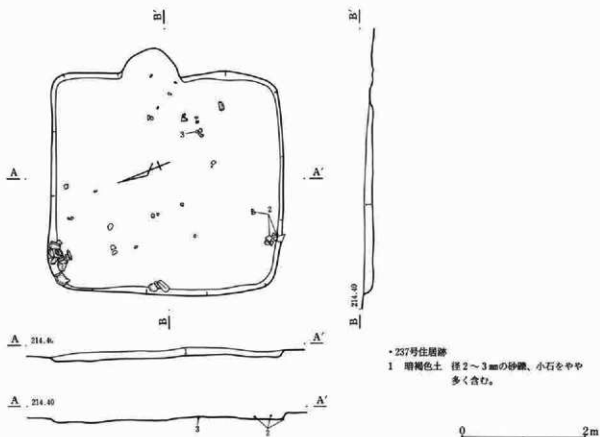
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

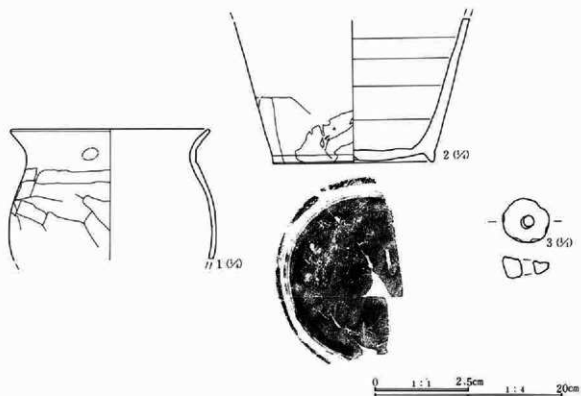
竈 東壁ほぼ中央に作られている。本体部分のほとんどが削られているために、遺存状態はきわめて悪かった。ほぼ円形の掘り方が確認されたにとどまった。

出土遺物 きわめて少なかった。土師器の甕、須恵器甕の底部片のほか、床面直上にて白玉1点が出土している。また北西隅に礫が10点ほど集中して検出されている。

調査所見 削りが著しく、住居の下部のみの検出である。貯蔵穴、柱穴も検出されなかった。時期は平安時代である。



第324図 C—237号住居跡



第325図 C—237号住居跡出土遺物

C-237号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	覆土	21.0	微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部縦割り 内 口縁部横溝で 胴部縦溝	
2	灰釉壺	床面	(8.5)	微砂粒僅か に含む	灰色	良	口縁部整形 付け高台	底部分 大型品
3	白 玉	床面	径1.2cm 高さ0.6cm 孔径0.4cm 重さ1.1g				片面は未調整で厚さが不均衡 滑石製	

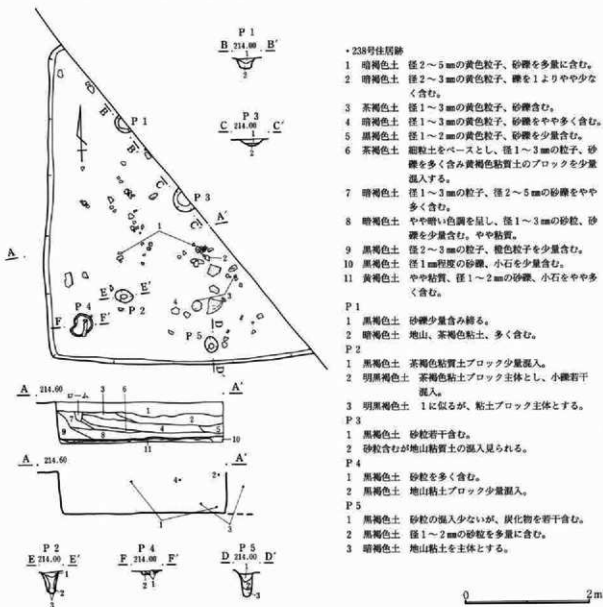
## C-238号住居跡 (第326・327図、PL42・125)

位置 Cn・Co-35 形状 不明 規模 長辺5.0m、短辺(4.50)m、壁高0.65m

重複 C-234号住居跡(弥生時代)を切り、北東部約半分は調査区外である。

埋没土 砂礫を含みかなり粘質の土で埋まる。

床面 平坦で、地山の粘質土を踏み締めて床面としている。



第326図 C-238号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

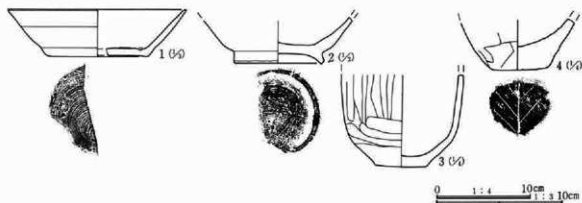
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 2本検出したが、その他に住居中央部分にも小ピットが見られた。

竈 検出されなかった、未調査部分にあるものと思われる。

出土遺物 須恵器の坏、埴、土師器の壺などが見られたが点数は少なかった。いずれも床面からやや浮いた状態のものが多い。

調査所見 住居南西部の三角形部分を調査、東側半分は調査区外にある。壁の遺存状態は良く、高さ60cm以上を計測した。床面もしっかりしていた。時期は平安時代であろう。



第327図 C-238号住居跡出土遺物

C-238号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+9	(14.4) 8.0	3.7	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
2	須恵器 埴	+59		3.5	微砂粒含む	灰緑色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	
3	土師器 壺	+48		5.6	砂礫含む	灰褐色	普通	外 胴部荒削り 内 胴部無で	底面片、表面風化
4	土師器 壺	+48		5.9	砂粒含む	灰褐色	良	外 胴部荒削り 内 胴部無で	底部木筆痕

C-239号住居跡 (第328・329図、PL42・43・125)

位置 Ck-41 形状 隅丸方形 規模 長辺3.03m、短辺2.88m、壁高0.35m

重複 C-264号住居跡 (古墳時代) を切る。

埋没土 砂礫含みかなり粗粒の土で埋まる。

床面 やや凹凸が見られ、軟質。部分的に砂礫質のところが見られる。

貯蔵穴 検出されなかった。

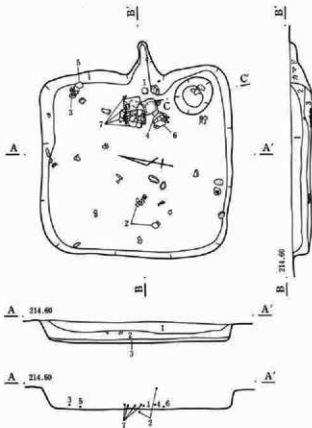
柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央に築かれている。焚口天井部にわたされていた砂岩が、手前に落ちた状態で出土している。土師器坏が燃焼部で土師器壺が竈前面で出土している。両袖部分はわずかに残り、焚口幅は30cm程で、竈の長さは約70cmである。煙道は緩やかに立ち上がり先端部は細くなる。

出土遺物 竈前面部分で完形の土師器坏、壺などが見られたほかにはあまり多くはなかった。

調査所見 遺存状態は良く、竈の残りも比較的良かった。時期は古墳時代後期である。





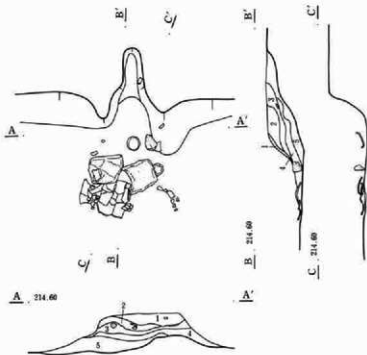
・239号住居跡

- 1 暗褐色土 径2~5mmの小石、砂礫を多量に含む。
- 2 黒褐色土 径2~5mmの小石、砂礫を多く、径2~3mmの砂礫を多く、径2~3mmの粒子をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 径1~2mmの砂礫をやや多く、径1~3mmの砂礫をやや多く、径1~3mmの黄褐色粒子を少量含む。

貯藏穴

- 1 暗褐色土 径1~2mmの砂礫、小石を少量、同大の黄褐色粒子をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 ややきめの細かい土をベースとし、径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。
- 3 茶褐色土 径1~2mmの黄褐色砂礫を多く含む。
- 4 黄褐色土 砂質、径1~2mmの砂礫を多く含む。

0 2m



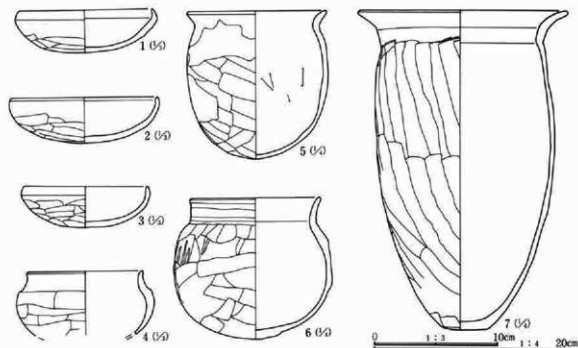
竈

- 1 暗褐色土 きめのやや粗い土をベースとし、径2~3mmの砂礫、小石や多く、同大の黄色粒子を多く含む。
- 2 黒褐色土 径1~3mmの小石、砂礫を多く、径1~2mmの黄色粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 径1mm以下の黄色粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 3よりやや暗い色調、砂礫、小石含み、黄色粒子やや多く、塵土粒を少量含む。
- 5 赤褐色土 焼土塊、炭化物、黄褐色粘質土塊を多量に含み、部分的に黒褐色土ブロック含む。

0 1m

第328図 C—239号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第329図 C-239号住居跡出土遺物

C-239号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 杯	+5	10.7 3.3	微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部無で	ほぼ丸形
2	土師器 杯	床面	12.0 3.6	微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部無で	口縁部に若干の煤付着
3	土師器 杯	+5	10.0 3.2	微砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部無で	
4	土師器 小型壺	+5	(9.3)	砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部無で	小型品
5	土師器 小型壺	+2	14.4 15.6	砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部無で	
6	土師器 小型壺	+2	14.0 15.0	砂粒僅かに含む	暗赤褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部無で	内面上部に煤付着
7	土師器 壺	床面	22.0 33.8 5.0	砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部無で	ほぼ丸形

C-241号住居跡 (第330~332図, PL43・126)

位置 Cm-40・41 形状 隅丸方形 規模 長辺3.60m、短辺3.40m、壁高0.30m

重複 西側に1軒重複する形で検出されたが、調査所見から重複とは考えにくく、拡張されたものと判断した。

埋没土 砂礫含み粗粒。

床面 凹凸が顕著で、面として明確にはとらえられなかった。

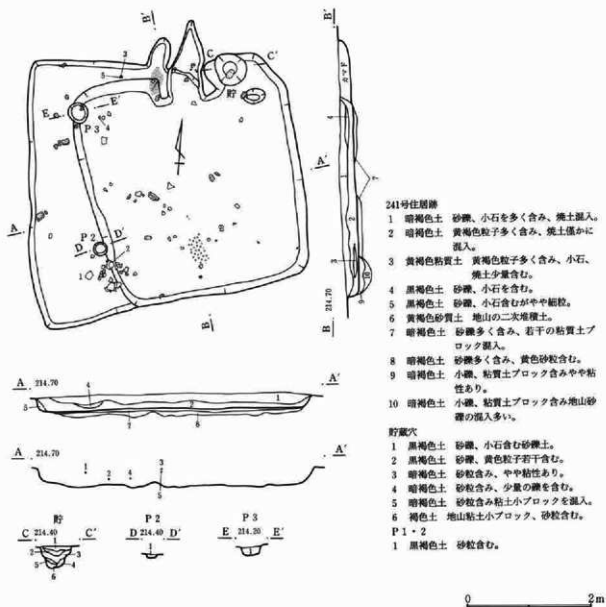
貯蔵穴 北東隅に検出された。径約50cmで深さは40cmを測る。

柱穴 西側に2本、北東隅に1カ所の計3本が検出されている。

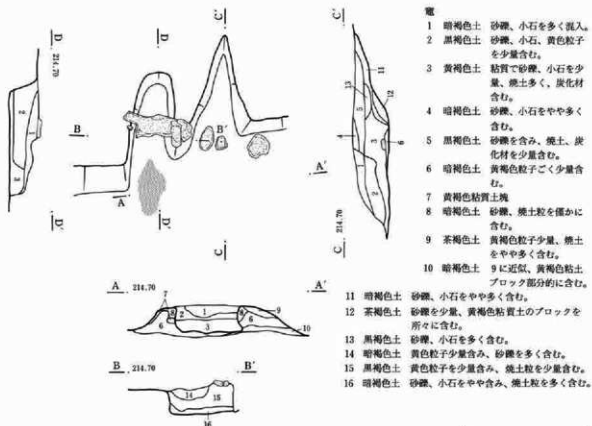
竈 北壁に2基並んで作られている。左側の竈が古く、右側が新しいものと思われる。左側の竈は天井部に砂岩が横に渡された状態で検出された。袖部分は砂礫を含む粘土で築かれる。右側の竈は石、袖の検出は無く、煙道部は細長く壁外に延びる。

出土遺物 少なかった。土師器環2点と土鍾3点を図示した。

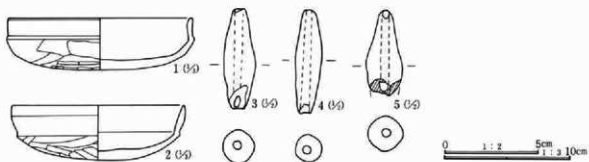
調査所見 土層断面の観察からは、切り合い関係は見られなかった。西側に拡張あるいは建て替えが行われたと思われる住居である。床面の高低差もほとんど無かった。出土遺物から時期は古墳時代後期と思われる。



第330図 C-241号住居跡



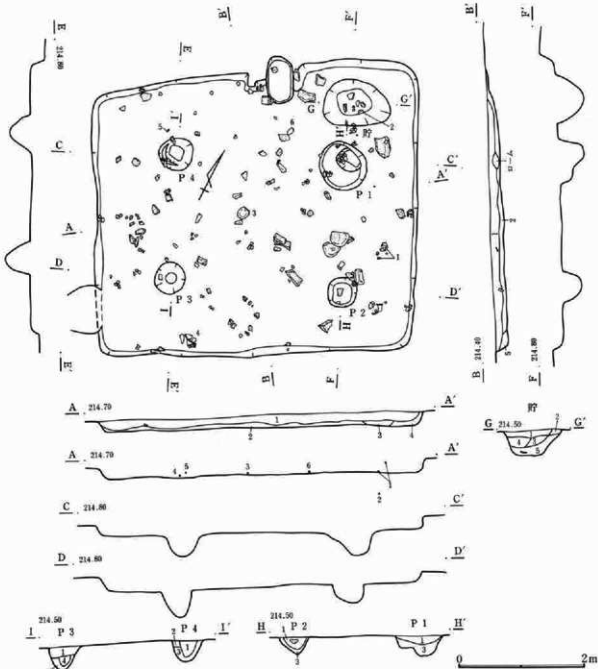
第331図 C-241号住居跡・竈



第332図 C-241号住居跡出土遺物

C-241号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+23	(15.0)		砂粒僅かに 含む	褐色色	良	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 体部無で後縁磨き	
2	土師器 坏	+9	14.0	4.3	微砂粒含む	黒色	良	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 体部無で後縁磨き	内面黒色
3	土 罎	+25	長さ(5.3)cm 径1.7cm 孔径0.5cm 重さ11.0g					黄褐色を呈す 一端部を欠く	
4	土 罎	+14	長さ5.5cm 径1.4cm 孔径0.5cm 重さ9.3g					灰褐色を呈す 完形でやや細身	
5	土 罎	+21	長さ(4.6)cm 径1.9cm 孔径0.6cm 重さ11.5g					茶褐色を呈す 一端部を欠く	



・242号住居跡

- 1 暗褐色土 径2～10mmの砂礫、小石を多く、径2～5mmの黄色粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 径2～5mmの砂礫、小石をやや多く、径2～3mmの黄色粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 2層よりさらに暗い色調を呈し、径2～5mmの小石を少量含む。
- 4 黒褐色土 やや軟質、径2～5mmの小石を少量含む。
- 5 暗褐色土 径2～3mmの黄色粒子をやや多く、径2～4mmの小石を微量含む。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 径1～3mmの砂礫、小石を少量、径1mm程度の黄色粒子をごく少量含む。

- 2 黒褐色土 ややきめの細かい土をベースとし、径1mm程度の黄色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 径1mm以下の黄色粒子をやや多く含む。塵土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 径1mm以下の黄色粒子を多く含む。
- 5 黒褐色土 径1mm程度の黄色粒子をやや多く含む。P1～4共通
- 1 黒褐色土 粗粒土をベースとし、小石多く、径2～3mmの黄褐色粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 細粒土をベースとし、砂礫を少量含む。
- 3 黄褐色土 砂質、径1～5mmの砂礫を多く含む。
- 4 暗褐色土 暗褐色土をベースとするが、径1～5mmの黄褐色粒子を大量に含む。

第333図 C-242号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

C-242号住居跡 (第333~335図, PL43・126)

位置 Cl・Cm-42 形状 隅丸方形 規模 長辺5.11m、短辺4.52m、壁高0.21m

重複 他住居との重複はない。

埋没土 砂礫の混入多く、粗粒。

床面 平坦であるが、あまり締まった状況は見られなかった。

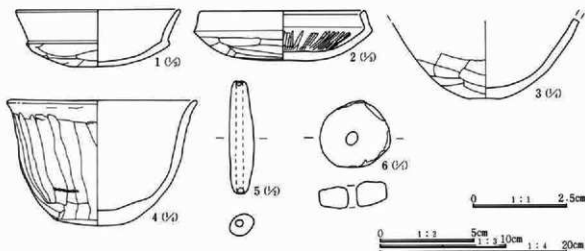
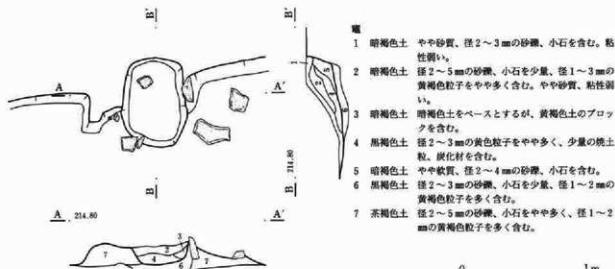
貯蔵穴 北東隅に検出した。長円形で長軸径1.1m、短軸径0.70m、深さは約40cmを測る。底部はやや狭くなる。

柱穴 4本検出されている。いずれも掘り方径が大きく50~80cmを測る。深さは30~45cmである。

竈 北壁中央やや東よりに作られる。U字状の掘り方で、火床面はやや掘りくぼめられている。左側の袖は幾分残っており、周囲には構築材である石がみられた。

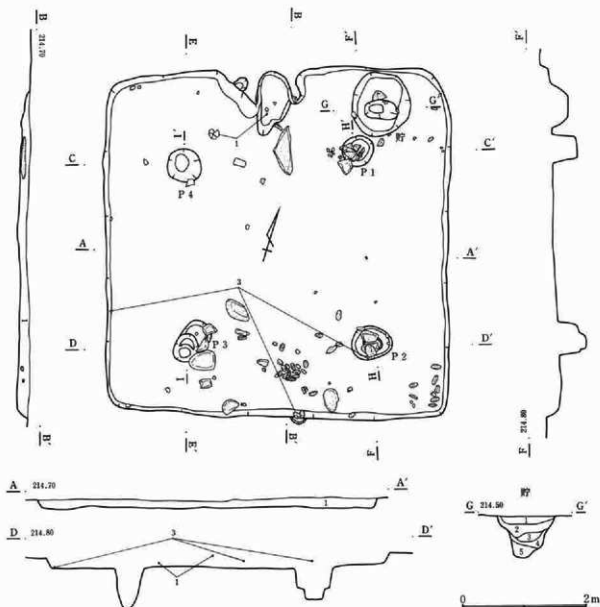
出土遺物 住居内全体より検出されているが、比較的少なく土器類の他に白玉、土鏝が見られる。

調査所見 上面は削られているために、住居の規模に比して、検出された壁高は最大で20cmと浅い。時期は古墳時代後期である。



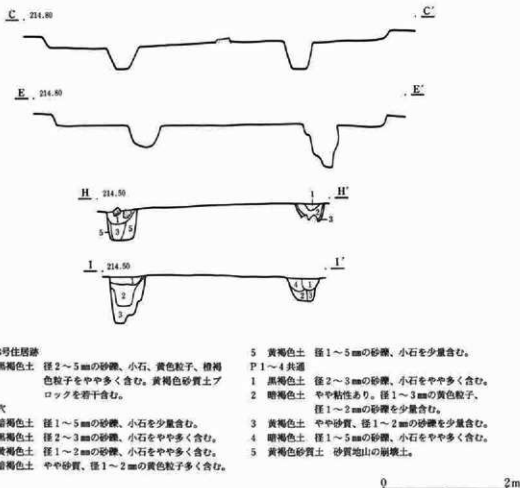
C-242号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器 杯	床面	(13.4)	4.5	微砂粒僅かに 含む	灰黒色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で後重磨き	
2	土器 杯	床面	13.4	3.8	微砂粒含む	灰茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で後重磨き	内面に放射状暗門 文、指痕痕
3	土器 甕	床面		4.0	微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 胴部寛削り 内 胴部無で	胴下半のみ 内面割 落差しい
4	土器 甕	+4	20.2	13.0	砂粒含む	橙褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	広口、外面に縄の庄 痕
5	土 鏝	+8	長さ6.0cm 径1.3cm 孔径0.4cm 重さ7.2g		ほぼ完形でかなり細身である				
6	白 玉	+2	径1.9cm 高さ0.6cm 孔径0.3cm 重さ3.8g		周辺部に製作痕 高さに比べ径がある		磨石製		



第336図 C-243号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



・243号住居跡

- 1 黒褐色土 径2～5mmの砂礫、小石、黄色粒子、橙褐色粒子をやや多く含む。黄褐色砂質土ブロックを若干含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 径1～5mmの砂礫、小石を少量含む。  
 2 黒褐色土 径2～3mmの砂礫、小石をやや多く含む。  
 3 黄褐色土 径1～2mmの砂礫、小石をやや多く含む。  
 4 暗褐色土 やや砂質、径1～2mmの黄色粒子多く含む。

- 5 黄褐色土 径1～5mmの砂礫、小石を少量含む。

P 1～4 共通

- 1 黒褐色土 径2～3mmの砂礫、小石をやや多く含む。やや粘性あり。径1～3mmの黄色粒子、径1～2mmの砂礫を少量含む。  
 2 暗褐色土 やや砂質、径1～2mmの砂礫を少量含む。  
 3 黄褐色土 やや砂質、径1～2mmの砂礫を少量含む。  
 4 暗褐色土 径1～5mmの砂礫、小石をやや多く含む。  
 5 黄褐色砂質土 砂質地山の崩壊土。

第337図 C-243号住居跡(2)

C-243号住居跡 (第336～339図、PL43・126)

位置 Cl・Cm-43・44 形状 隅丸方形 規模 長辺5.52m、短辺5.48m、壁高0.16m

重複 C-225号住居跡(弥生時代)の北側部分を切って作られる。

埋没土 小礫の多く含まれる砂礫土で地山黄褐色砂質土ブロックを含む。

床面 細かな凹凸が見られるもののほぼ平坦である。C-225号住居跡と重複する部分ではやや軟質なところがあるが、北側部分は比較的締まる。

貯蔵穴 北東隅に検出された。径約1m、深さ約70cmである。摺鉢状で底の部分は狭くなる。

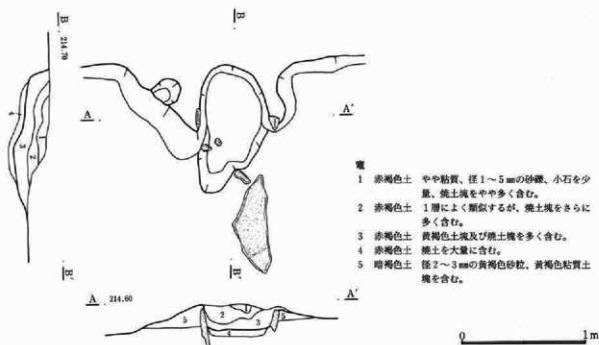
柱穴 ほぼ対角線上に4本を検出した。径は50cm程で、深さは30～50cmである。北東、南東の柱穴内には礫が検出されている。

竈 北壁中央に作られている。遺存状態はあまり良くなく、袖部分は両袖石が残っているものかなり壊れた状況である。焚口天井部に渡されていたと思われる板状の石が竈手前に検出されている。火床面には焼土が多く残る。

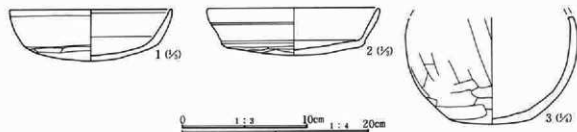
出土遺物 きわめて少ない。土器器埴、坏がわずかに見られたのみである。

調査所見 上部は削られているものの、遺存状態は比較的良かった。やや大型の住居で、時期は古墳時代後期である。





第338図 C-243号住居跡・竈



第339図 C-243号住居跡出土遺物

C-243号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
1	土器 杯	+5	13.2 7.2	4.0	砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部裏面 体部裏で後置筋き	ほぼ完成
2	土器 杯	覆土	(14.0)	3.7	砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部裏面 体部裏で後置筋き	内面底部に保付着
3	土器 壺	+12			砂粒含む	灰褐色	良	外 胴部縦筋 内 胴部無で	胴部裏面 胴部裏面	胴下半のみ

C-244号住居跡 (第340図, PL44)

位置 Ck-36 形状 隅丸方形か 規模 長辺 (4.0) m、短辺 (2.70) m、壁高0.10m

重複 C-210号住居跡 (平安時代) が東側部分に重複する。

埋没土 礫を含む砂礫土。

床面 平坦であるが、本来の床面はほとんど削平されている。

貯蔵穴 検出されなかった。

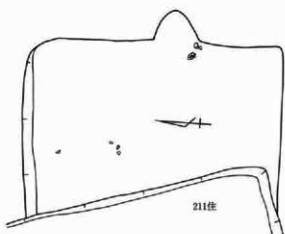
柱穴 検出されなかった。

竈 東壁に痕跡 (焼土痕) が残る程度であった。

出土遺物 僅かに土器小片が見られたが、図示するには至らなかった。

第3章 検出された遺構と遺物

**調査所見** 全体に削平が著しく、北壁の一部のみ立ち上がりを確認したに過ぎない。遺物がほとんど得られなかったが、時期は平安時代であろう。



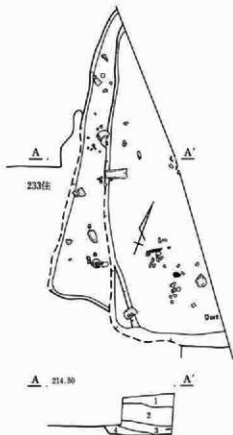
0 2m

第340図 C-244号住居跡

C-245号住居跡 (第341図、PL44)

**位置** Cn-34 **形状** 不明 **規模** 長辺 (5.0) m、短辺 (1.70) m、壁高0.60m

**重複** 東側ほとんどが調査区外となる。



・245号住居跡

- 1 黒褐色土 砂粒含み、やや砂質。
- 2 黒褐色土 径0.5~1.0cmの小礫を少量混入。
- 3 黒褐色土 若干の少砂礫、粘質土ブロック含む。
- 4 黒褐色土 3層に近似、地山礫、粘質土の混入多くなる。

0 2m

第341図 C-245号住居跡

埋没土 砂礫含み砂質、下層は地山の礫、粘質土をブロック状に混入。

床面 平坦で比較的締まる。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。

出土遺物 きわめて少なくわずかの炭化材とともに土器片がわずかに見られたのみである。

調査所見 西壁が不明瞭で2本のラインが見られた。重複があるかもしれない。時期は古墳時代である。

#### C-247号住居跡 (第342~344図、PL44・126)

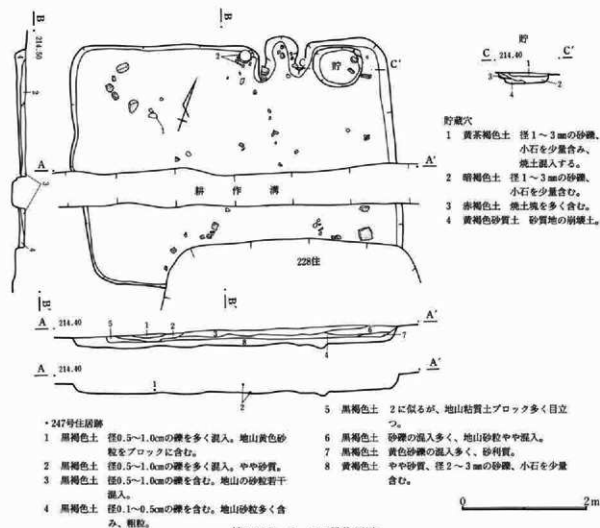
位置 Cj-41・42 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.12m、短辺3.76m、壁高0.24m

重複 南端をC-228号住居跡(平安時代)により切られ、中央を耕作溝がはしる。

埋没土 砂礫含み粗粒。

床面 礫を含む暗褐色土で、部分的に地山の礫層が露出している。

貯蔵穴 北東隅に検出されている。径70cm程で、深さは20cmを測る。



第342図 C-247号住居跡

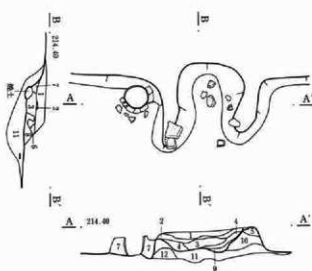
### 第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央や東よりに作られている。馬蹄形を呈し、袖は礫を含む粘性土で作られる。左袖石が残り、燃焼部は、ほぼ円形に掘りくぼめられている。堆積土中には焼土、炭化物がかなり多く見られた。

出土遺物 点数的には少なかった。竈左袖部に、底部を欠いた土師器甕が据えられた状態で出土している。

調査所見 遺存状態はあまり良くない。壁高も南部分に関しては明確さにかけているところもある。時期は平安時代である。

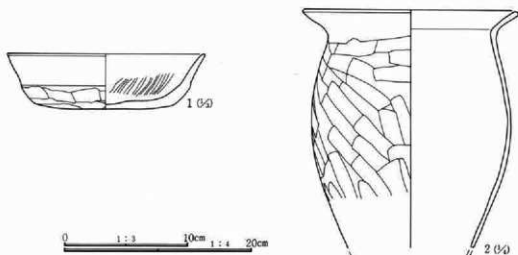


竈

- 1 黄褐色土 砂質、径1~2mmの砂礫及び黄褐色粒子を少量含む。
- 2 赤褐色土 多量の焼土、径2~3mmの黄褐色粒子を少量含む。炭化材を少量含む。
- 3 黒褐色土 径2~3mmの砂礫、黄褐色粒子少量含む。
- 4 黒褐色土 3より暗い色調を呈し、径2~5mmの黄褐色粒子は3よりやや少ない。
- 5 暗褐色土 ややきめの細かい土をベースとし、径1mm程度の砂粒を含む。
- 6 黄褐色土 やや粘質、径1~2mmの砂粒を少量含む。少量の焼土を含む。
- 7 黒褐色土 径1~2mmのさらに、小石を含む。
- 8 暗褐色土 径1~5mmのさらに、小石を少量、炭化材、粘土粒、焼土粒を少量含む。
- 9 赤褐色土 焼土混入多い。
- 10 茶褐色土 ややきめの細かい土をベースとし、黄褐色粘質土を少量含む。
- 11 茶褐色土 10に類似するが、焼土をより多く混入。
- 12 暗褐色土 径1~2mmの黄褐色粒子を少量含む。

第343図 C-247号住居跡・竈

0 1m



第344図 C-247号住居跡出土遺物

C-247号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 钵	+2	(16.0) (6.7)	4.3	精製	橙褐色	良	外 口径部横線で 体部重削り 内 口径部横線で 体部断で後角磨き	内面に放射状磨き痕
2	土師器 甕	床面	23.0		微砂粒含む	灰褐色	良	外 口径部横線で 胴部重削り 内 口径部横線で 胴部断で	

C-248号住居跡 (第345・346図、PL44・126)

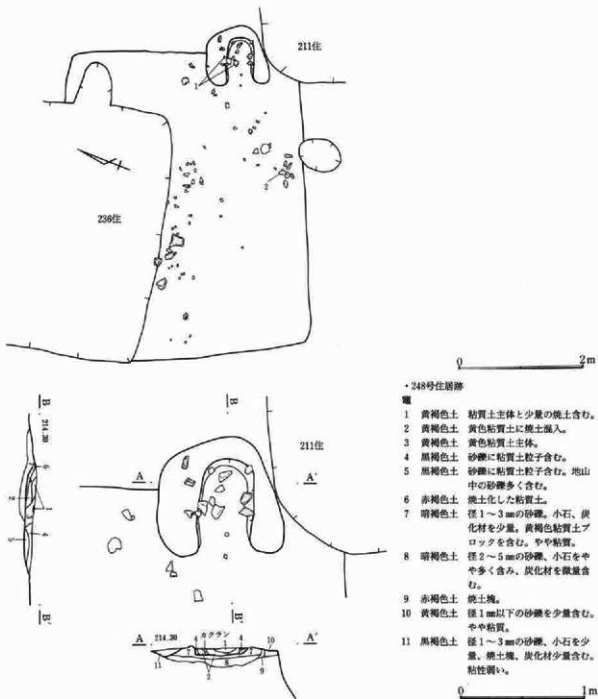
位置 Ck・Cl-37・38 形状 隅丸長方形か 規模 長辺 (4.8) m、短辺 (3.2) m、壁高 0 m

重複 C-236号住居跡 (平安時代)、C-211号住居跡と重複する。

埋没土 ほとんど削られてしまった状況で、覆土としては認められなかった。

床面 検出面は平坦であるが、場所により色調、硬さなどがかなり異なる事などから、実際の使用面か疑問が残る。

貯蔵穴 検出されなかった。



第345図 C-248号住居跡・竈

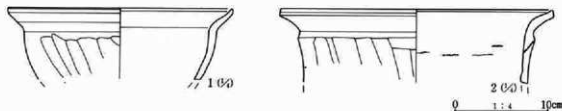
### 第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁の南寄りに作られる。ほとんど削られている状態で、U字状に、硬く締まった粘土混じりの焼土が残るのみである。燃焼部内に小礫、土器片が焼土を含む粘質土に混じって見られた。袖材に使用されたと思われるような跡は検出されなかった。

出土遺物 わずかに小破片が見られたのみである。土師器変2点を図示した。

調査所見 削平、重複が著しく、遺存状態はきわめて悪い。壁の立ち上がりも確認されなかった。時期は平安時代であろう。



第346図 C-248号住居跡出土遺物

C-248号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 変	竈内	(24.0)		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部撫で	広口
2	土師器 変	床面	(25.2)		砂粒僅かに 含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部撫で	

#### C-249号住居跡 (第347・348図、PL44・126)

位置 Ck-41・42 形状 隅丸方形 規模 長辺5.69m、短辺5.50m、壁高0.22m

重複 東壁をC-239号住居跡(平安時代)に、北壁をC-278号住居跡に北西部分をC-258号住居跡(古墳時代)に切られる。

埋没土 砂礫含み粗粒。

床面 やや細かな凹凸が見られるが、比較的平坦である。

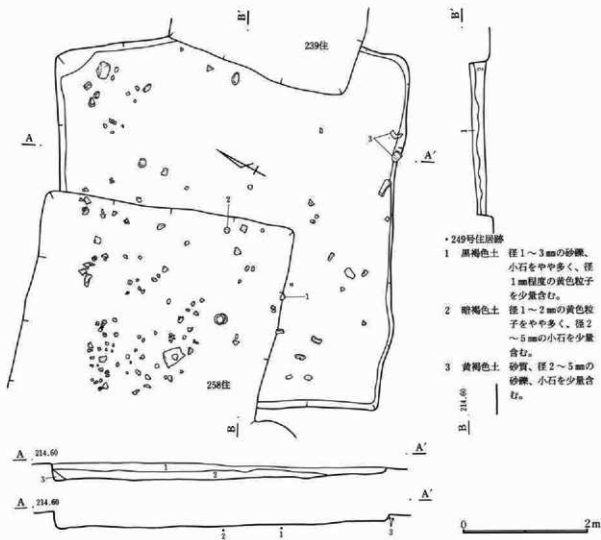
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

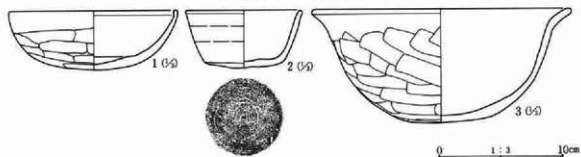
竈 北壁あるいは東壁に作られていたものと推定されるが、いずれの場所も重複する住居により削られてしまったものと思われ、検出されなかった。

出土遺物 わずかの土器片、礫が出土しているが、住居北半分に集中する傾向が窺える。土師器の坏、須恵器の小形坏、土師器の鉢が見られた。

調査所見 他の遺構に切られている部分以外は、比較的壁などの遺存状態は良好である。かなり大型の遺構であるにもかかわらず、貯蔵穴、柱穴などの施設は見られなかった。通常の住居とはやや性格を異にする。時期は出土遺物から奈良時代と考えられる。



第347図 C—249号住居跡



第348図 C—249号住居跡出土遺物

C—249号住居跡遺物観察表

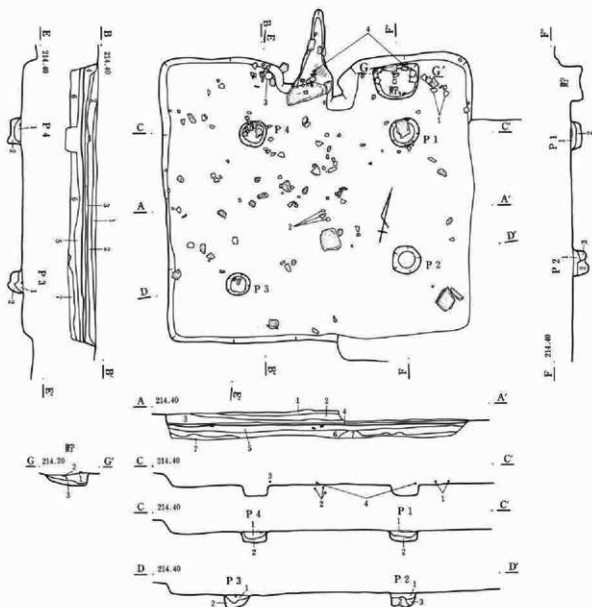
番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面	(13.6)	3.6	砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部縦用り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
2	須恵器 杯	床面	9.4	4.5	微砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 底部左方向回転用り	やや身が深い作り ほぼ光彫
3	土師器 鉢	床面	21.0	9.3	砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部縦用り 内 口縁部横撫で 体部撫で	

第3章 検出された遺構と遺物

C-250号住居跡 (第349~351図、PL44・45・126)

位置 Ck・Cl-38・39 形状 隅丸方形 規模 長辺4.47m、短辺4.45m、壁高0.41m

重複 C-236号住居跡が東側に重複する。



・250号住居跡

- 1 黒褐色土 径2~5mmの砂礫を含む。
- 2 黒褐色土 径2~5mmの砂礫を含む。黄色粒子目立つ。
- 3 黒褐色土 砂粒大きく、地山土をブロック状に含む。
- 4 黒褐色土 黄色粒子を多く含む層。
- 5 黒褐色土 やや粘質、径2~3mmの砂礫、小石を少量含む。
- 6 黄褐色土 径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。部分的に黒褐色土塊を含む。
- 7 黄褐色土 やや粘質、径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 径2~5mmの砂礫、小石をやや多く含み、径3~5mmの焼土粒を微量含む。
  - 2 黄褐色土 径2~3mmの砂礫、小石をやや多く含み、径2~3mmの焼土粒を少量含む。やや粘質。
  - 3 黄褐色土 やや粘質、粘性強い。径1mm以下の黄褐色粒子を少量含む。
- P1~4
- 1 暗褐色土 径1~10mmの砂礫、小石をやや多く、径1~2mmの黄色粒子を少量含む。
  - 2 黄褐色土 やや砂質、径2~3mmの黄色粒子を多量に含む。
  - 3 黒褐色土 径1~2mmの砂礫を少量、同大の黄色粒子を微量含む。

0 2m

第349図 C-250号住居跡



**埋没土** 全体に砂礫含み粗粒、下層には地山の黄褐色土ブロックを含む。

**床面** 礫を含む黒褐色土で、比較的締まっている。

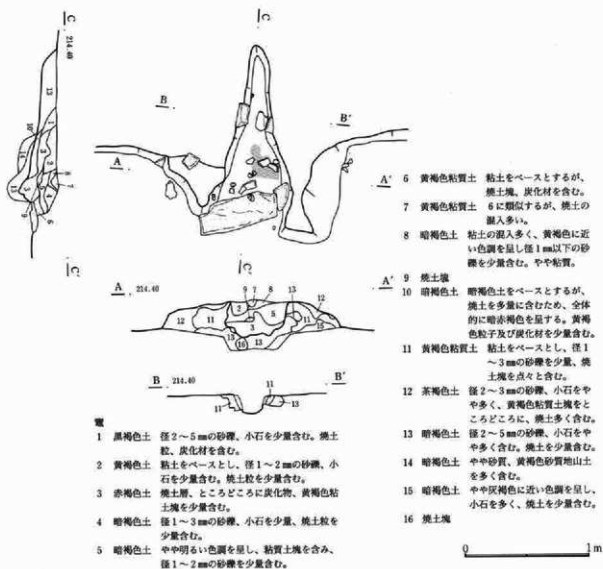
**貯蔵穴** 北東隅に検出した。北壁側が直線的な蒲鉾状を呈す、長軸径70cm、短軸径55cmで、深さは約40cmである。

**柱穴** 対角線上に4本検出した。いずれも径約40cm、深さは15~20cmで比較的浅い。

**竈** 北壁ほぼ中央に作られる。本体部分は礫混じりの粘質土で作られている。焚口部の天井に渡されていた長さ70cmを測る石が、床面に落ちた状態で検出された。煙道は緩やかな立ち上がりをもち、長さ約1mで壁外に延びる。埋土中には、多量の焼土が認められた。

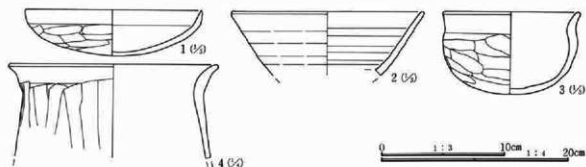
**出土遺物** あまり多くはない、竈周辺において土師器坏、甕、須恵器坏などが出土している。また住居中央に扁平な石が置かれた状態で検出されている。

**調査所見** 住居東部分を切られてはいるものの、比較的遺存状態は良い。壁の立ち上がり、床面もかなりしっかりした状況であった。出土遺物から時期は平安時代と思われるのである。



第350図 C-250号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



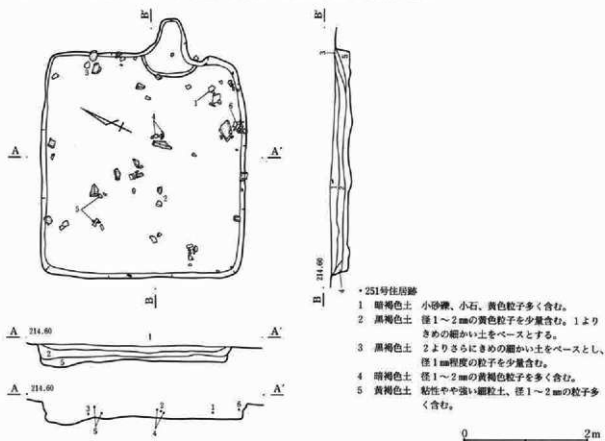
第351図 C-250号住居跡出土遺物

C-250号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	製成形の特徴	備考
1	土器 器 環	+4	14.3	3.6	微砂粒僅か に含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部磨り 内 口縁部横線で 体部磨で後高磨き	
2	筒形 器 埴 壇	床面	(15.6)		精製	灰白色	良	ロクロ整形	
3	土器 器 環	+4	11.2	6.5	砂粒僅かに 含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部磨り 内 口縁部横線で 体部磨で後高磨き	欠形
4	土器 器 壺	床面	(22.4)		砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部磨り 内 口縁部横線で 胴部磨で	

C-251号住居跡 (第352~354図、PL45・127)

位置 CI-40 形状 隅丸方形 規模 長辺3.57m、短辺3.26m、壁高0.29m



第352図 C-251号住居跡

重複 重複する住居はない。

埋没土 砂粒含む。

床面 比較的きめの細かな土を基調にし、黄色粒子を多く含む土で貼られる。

貯蔵穴 検出されなかった。

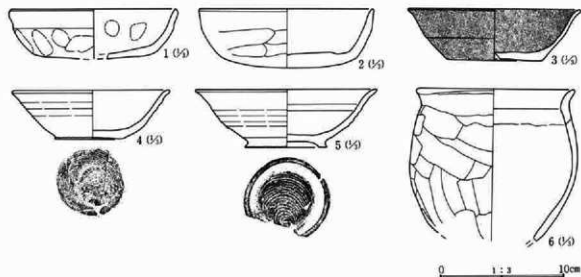
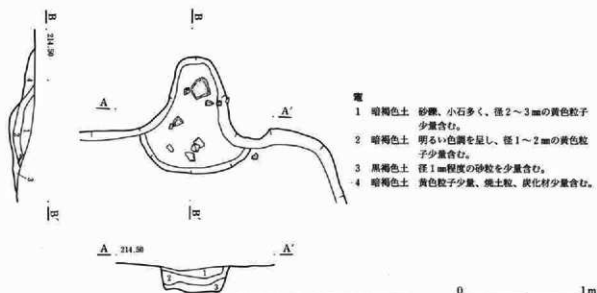
柱穴 検出されなかった。

竈 東壁の中央やや南寄りに作られている。幅60cm、長さ50cmに掘り出されている。袖部分は残っていない。

火床面はわずかにくぼむ。

出土遺物 きわめて少ない。土師器および須恵器の坏、土師器の甕などが散在して出土している。

調査所見 住居は重複によって切られた部分もなく、各壁の遺存状態は比較的良好である。東西に長い長方形を呈す。土器類の出土は多くなく、長さ20~30cm程の砂岩がやや目立って出土している。時期は平安時代である。



第3章 検出された遺構と遺物

C-251号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	+11	(13.2)		微砂粒僅か に含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 底部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	体部内外面に指痕痕
2	土師器 杯	+11	(14.0)	4.6	砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 体、底部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
3	須恵器 杯	+7	(13.7) (7.6)	4.0	微砂粒僅か に含む	灰黒色	良	口縁部整形 底部回転糸切り	内外面黒色
4	須恵器 杯	+9	12.6 5.5	3.8	砂粒僅かに 含む	暗灰色	良	口縁部整形 底部回転糸切り	
5	須恵器 杯	+9	(14.6) (6.6)	4.6	砂粒僅かに 含む	灰色	良	口縁部整形 底部回転糸切り 付け高	
6	土師器 小型壺	+15	12.0		微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	台付きか

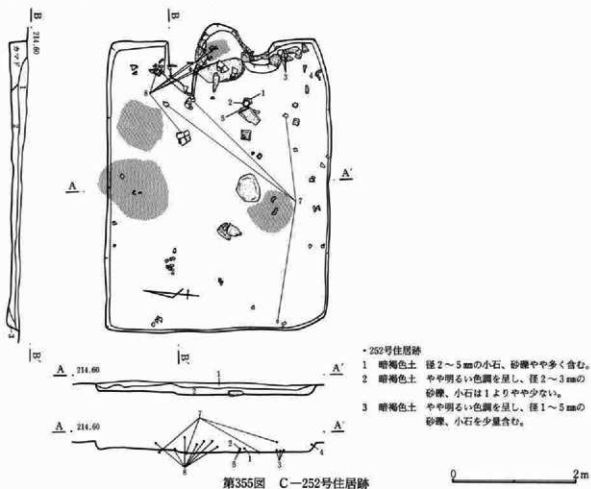
C-252号住居跡 (第355~357回、PL45・127)

位置 Cl・Cm-37・38 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.61m、短辺3.54m、壁高0.23m

重複 C-280号住居跡、C-291号住居跡、C-312号住居跡と重複する。

埋没土 砂礫含み粗粒。

床面 やや凹凸が見られ、確定的な面は確認されなかった。また住居の南に1カ所、北側に2カ所、焼土の広がりを見た。

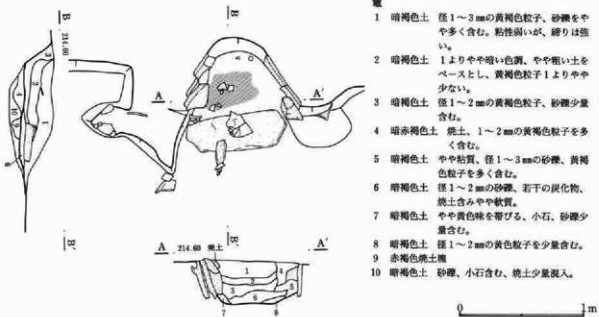


貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央に作られる。両袖部分に関しては覆土との区別が明瞭でなかったこともあり、はっきりした形がつかめなかった。燃焼部はやや扁平な砂岩を内側に立て並べ構築している。内面は良く焼けており焼土、焼土塊が顕著に認められる。また焚口部分に長さ80cm程の石が下に落ちた状態で検出されている。

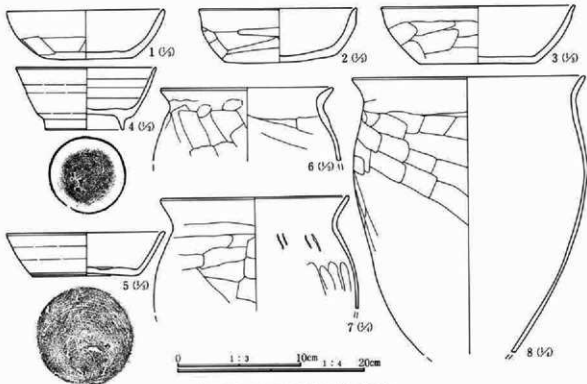
出土遺物 竈部分および周辺で土師器環、甕類が見られた。



竈

- 1 暗褐色土 径1~3mmの黄褐色粒子、砂礫をやや多く含む。粘性弱いが、締りは強い。
- 2 暗褐色土 1よりやや暗い色調、やや粗い土をベースとし、黄褐色粒子1よりやや少ない。
- 3 暗褐色土 径1~2mmの黄褐色粒子、砂礫少量含む。
- 4 暗赤褐色土 焼土、1~2mmの黄褐色粒子を多く含む。
- 5 暗褐色土 やや粘質、径1~3mmの砂礫、黄褐色粒子を多く含む。
- 6 暗褐色土 径1~2mmの砂礫、石下の炭化物、焼土含みやや軟質。
- 7 暗褐色土 やや黄色味を帯びる、小石、砂礫少量含む。
- 8 暗褐色土 径1~2mmの黄色粒子を少量含む。
- 9 赤褐色焼土塊
- 10 暗褐色土 砂礫、小石含む、焼土少量混入。

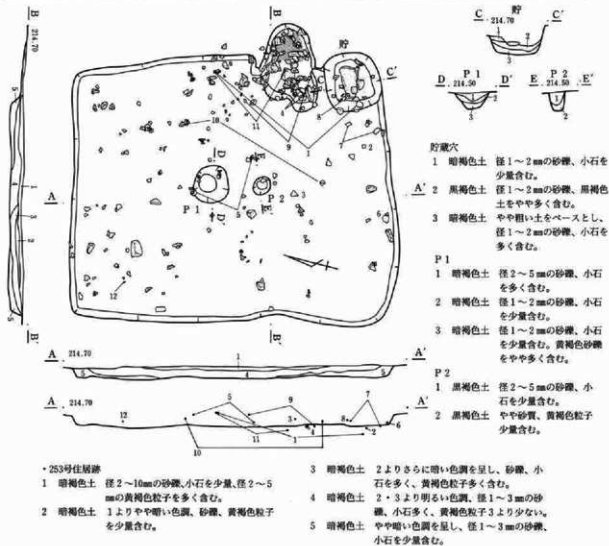
第356図 C-252号住居跡・竈



第357図 C-252号住居跡出土遺物

C-252号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 高径(cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 環	+4	12.6 3.7	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部狭で	ほぼ完形
2	土師器 環	+5	12.5 4.2 8.8	砂粒遙かに 含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部狭で	完形
3	土師器 床面	(15.2)	4.5	砂粒遙かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部狭で	器面やや風化
4	須恵器 埴	+10	11.2 4.9 5.0	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高 台	やや小振り
5	須恵器 環	床面	12.6 3.4 7.8	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	器面やや荒れている ほぼ完形
6	土師器 小型壺	掘り方 (14.0)		砂粒遙かに 含む	灰褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	
7	土師器 壺	床面	20.0	微砂粒含む	明黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	
8	土師器 壺	竈内 (24.9)		微砂粒含む	明黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部狭で	内面に漆



第358図 C-253号住居跡

**調査所見** 重複が多いために、各壁の立ち上がりは明確でない部分がある。このため部分的に掘削が他の遺構に達してしまつたところが見られる。竈は遺存状態が良く、構築時の状況を残している。また床面に残っていた3カ所の焼土の広がりについては不明であるが、北側壁際のもは、厚さ10cm程もある。時期は平安時代である。

C—253号住居跡 (第358～360図、PL45・46・127・128)

**位置** Cn・Co—38・39 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺5.13m、短辺4.23m、壁高0.21m

**重複** C—300号住居跡(弥生時代)の南東隅に重複する。

**埋没土** 砂礫の混入目立つ。

**床面** 礫を含む黒褐色土で、凹凸が部分的に見られる。

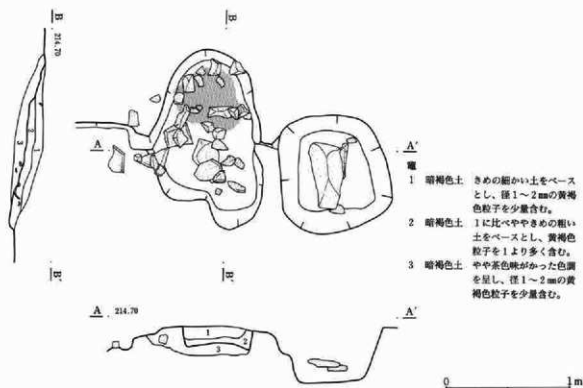
**貯蔵穴** 南東隅に検出されている。壁に接して掘り込まれており、形状は隅丸方形で、径90cm程で深さ30cmである。中央より長さ50cmのやや扁平な砂岩がほぼ水平の状態出土している、竈に用いられていたものと思われる。

**柱穴** 大小1対のピットがほぼ中央に検出された。大きい方が径50cm、小さい方は30cm程である。深さはいづれも約30cmを測る。

**竈** 東壁のやや南寄りに作られている。焚口幅60cmで長さ1.2mである。内部より構築材である礫が乱雑な状態で出土した。貯蔵穴より竈材である石が検出されていることから、住居廃棄時に意識的に解体が行われたことが窺われる。

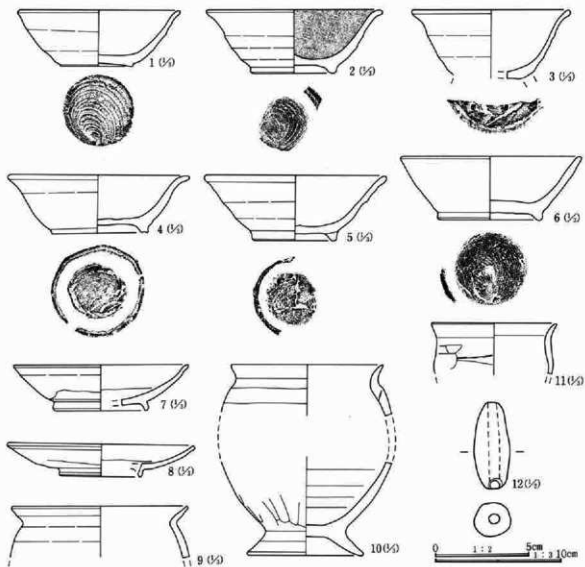
**出土遺物** 土師器坏、壺、須恵器壺、灰軸塊等の土器類の他に、土鍾が見られる。

**調査所見** 特に重複等はなかったが、壁が一部に明確でないところがある。時期は平安時代である。



第359図 C—253号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第360図 C-253号住居跡出土遺物

C-253号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 杯	床面	(13.0)	4.4	砂粒僅かに 含む	暗灰褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	内面に傷付着 ほぼ 完形
2	須恵器 埴	床面	(14.2)	5.0	微砂粒含む	黒色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高 台	内外面黒色
3	須恵器 埴	+9	(12.6)		砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高 台	高台部かなり摩滅
4	須恵器 埴	竈内	(14.4)	4.7	微砂粒点在	灰黄色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高 台	内面一部に油煙
5	須恵器 埴	+7	(14.6)	5.2	砂粒僅かに 含む	灰黒色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高 台	
6	須恵器 埴	+3	(14.4)	5.0	砂粒含む	明灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高 台	
7	灰釉皿	床面	(14.0)	3.6	精製	灰緑色	良	ロクロ整形 付け高台	輪葉は授け掛け
8	灰釉皿	+8	(15.0)	2.5	精製	灰緑色	良	ロクロ整形 付け高台	輪葉は授け掛け



番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	構成	整形の特徴	備考
9	須恵器 壺	竈内	(14.0)		微砂粒含む	灰色	良	ロクロ成形	
10	須恵器 付付壺	+5	(12.0) 9.2		微砂粒含む	灰色	良	外 口縁部横線で 胴部黒附り 内 口縁部横線で 胴部強	
11	土師器 壺	竈内	(10.0)	4.0	砂粒僅かに 含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部黒附り 内 口縁部横線で 胴部強	
12	土 鏡	+8						長さ4.1cm 径1.9cm 孔径0.6cm 重さ13.2g 灰褐色を呈す ほぼ完形	

## C-254号住居跡 (第361~363図、PL46・128)

位置 Cn-39 形状 隅丸方形 規模 長辺3.42m、短辺3.34m、壁高0.25m

重複 C-263号住居跡(弥生時代)を切る。

埋没土 小礫を含み、下層は粘質土ブロックをわずかに含む。

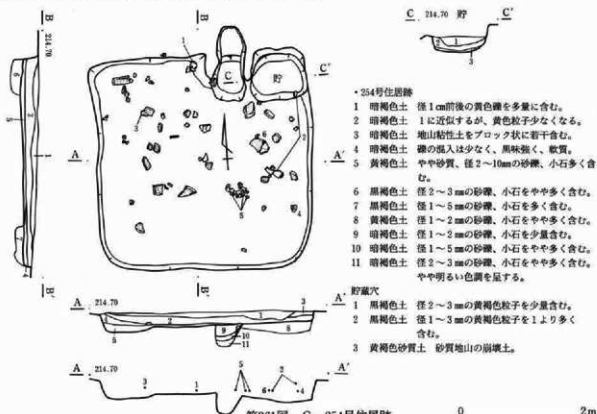
床面 平坦であるが、締まりは弱い。

貯蔵穴 北東隅に検出された。壁に接して掘り込まれる。ほぼ長円形で長軸90cm、短軸70cm、深さは20cmを測る。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや東寄りに作られる。住居内への袖の作り出しは小さく、本体部分は馬蹄形を呈し、壁外に40cm程掘り出される。両袖は黄褐色の粘質土と礫の混土で作られているが、ほとんど崩落している。構築材に石は使われていなかった。

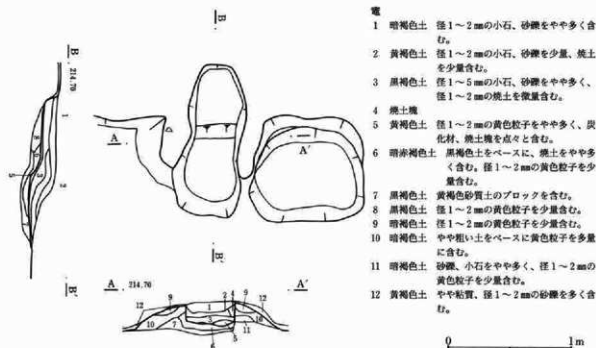
出土遺物 点数はあまり多くはなく、土師器環、甕などが見られた。土器の他に鉄鏃かと思われる中央に小孔を持つ板状の製品と、断面四角形の棒状製品が見られた。



第361図 C-254号住居跡

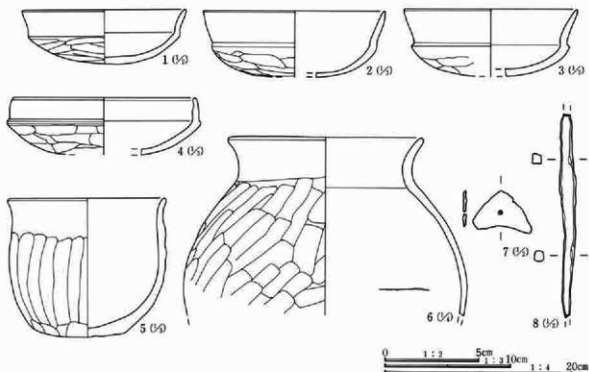
第3章 検出された遺構と遺物

**調査所見** 他の遺構に切られた部分もなく、比較的遺存状態は良かった。各壁はほぼ垂直に立ち上がり、平均30cmを測る。また掘り方面を露出させたところ、住居壁際が幅50cm、深さ10~20cm程に掘り下げられており、中央部には径90cm深さ50cmの床下土坑が検出された。出土遺物から時期は古墳時代後期である。



- 電
- 1 暗褐色土 径1~2mmの小石、砂礫をやや多く含む。
  - 2 黄褐色土 径1~2mmの小石、砂礫を少量、焼土を少量含む。
  - 3 黒褐色土 径1~5mmの小石、砂礫をやや多く、径1~2mmの焼土を微量含む。
  - 4 焼土塊
  - 5 黄褐色土 径1~2mmの黄色粒子をやや多く、炭化材、焼土塊を点々と含む。
  - 6 暗赤褐色土 黒褐色土をベースに、焼土をやや多く含む。径1~2mmの黄色粒子を少量含む。
  - 7 黒褐色土 黄褐色砂質土のブロックを含む。
  - 8 黒褐色土 径1~2mmの黄色粒子を少量含む。
  - 9 暗褐色土 径1~2mmの黄色粒子を少量含む。
  - 10 暗褐色土 やや粗い土をベースに黄色粒子を多量に含む。
  - 11 暗褐色土 砂礫、小石をやや多く、径1~2mmの黄色粒子を少量含む。
  - 12 黄褐色土 やや粘質、径1~2mmの砂礫を多く含む。

第362図 C-254号住居跡・竈



第363図 C-254号住居跡出土遺物

C-254号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 環	+5	(13.0) 4.3	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で	
2	土師器 環	+9	(14.6)	砂粒僅かに 含む	灰黒色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で後置磨き	
3	土師器 環	+15	(14.0)	砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で	器面荒れている
4	土師器 環	+15	(14.3)	砂粒僅かに 含む	灰黒色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で	
5	土師器 小型壺	+9	12.6	砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で後置磨き	
6	土師器 壺	+9	21.0	砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	大型品
7	鉄器 覆土	長さ1.9cm 幅2.9cm 厚さ0.2cm 重さ1.7g		三角形を呈し、中央に小孔				
8	鉄器 覆土	長さ10.8cm 幅0.9cm 厚さ0.6cm 12.0g		断面四角形、鉄線の基部か				

## C-255号住居跡 (第364・365図、PL46・128)

位置 Cn-40 形状 隅丸方形 規模 長辺2.81m、短辺2.63m、壁高0.18m

重複 C-227号住居跡(弥生時代)の東側を切る。調査時点では西側壁に関して、住居覆土中にあったために明確に検出し得なかった。

埋没土 礫の混入多い。

床面 ほぼ平坦で比較的締まっていたが、227号住居跡と重なる部分については、明らかな床面としては確認できなかった。

貯蔵穴 北東隅、ほぼ壁に接して検出された。径約60cmの円形を呈し、深さは約50cmである。掘り込みが2段になっている。

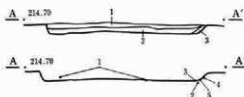
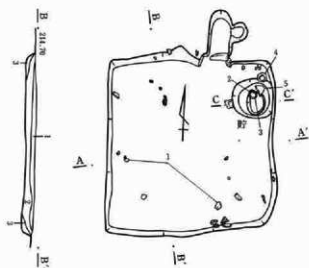
柱穴 検出されなかった。

竈 北壁の東寄りに作られる。U字状に長さ80cm、幅40cmで壁外に延びる。偏平な両袖石が残り、横に渡されていた角礫も検出された。

出土遺物 点数はあまり多くはなかった。ほぼ完形の土師器環、壺が北東隅、貯蔵穴の最上部分において出土している。

調査所見 比較的小型の住居である。西側が弥生時代の住居に拵かっていたために、西壁、および床面の検出が明確にできなかったところもあった。全体に遺存状態は良好である。時期は出土遺物から古墳時代後期である。

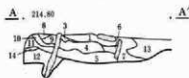
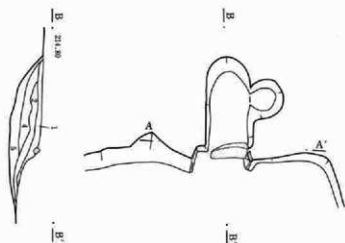
第3章 検出された遺構と遺物



・255号住居跡

- 1 暗褐色土 砂礫、小石を多く、黄褐色粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、小石を多量に、径1~2mmの黄褐色粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 やや暗い色調を呈し、径2~8mmの砂礫、小石を含む。

0 2m

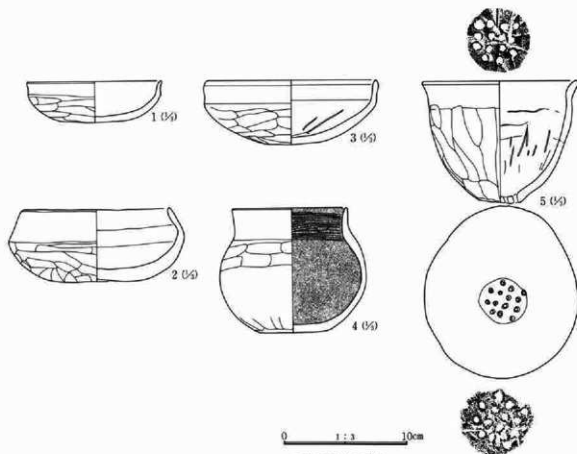


■

- 1 暗褐色土 径1~2mmの砂礫、小石をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、炭化材、焼土粒子少量含む。
- 3 黄褐色土 焼土を少量含む。
- 4 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、小石を多量に含む。
- 5 暗褐色土 径2~3mmの砂礫、小石を多量に含む。
- 6 明褐色土 5よりやや明るい色調、砂礫はより少なく、黄褐色粘質土を多く含む。
- 7 黄褐色土 黄褐色粘質土をベースとし、径2~5mmの砂礫、小石を少量含む。
- 8 暗褐色土 やや粗い土をベースとし、砂礫、小石少量含む。焼土をやや多く含む。
- 9 黄褐色粘質土塊
- 10 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、小石を多く含む。
- 11 黄褐色粘質土塊
- 12 暗褐色土 ややきめの細かい土をベースとし、径2~3mmの砂礫、小石を少量含む。
- 13 黄褐色土 径1~5mmの砂礫、小石を多量に含む。
- 14 黄褐色粘質土塊

0 1m

第364図 C-255号住居跡・竈



第365図 C-255号住居跡出土遺物

C-255号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考	
1	土師器 杯	床面	(10.6)	3.2	砂粒含む	灰茶褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部覆削り 体部撫で後置磨き	
2	土師器 杯	床面	12.0	5.7	砂礫遙かに 含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部覆削り 体部撫で	厚手の作り ほぼ完 形
3	土師器 杯	床面	(14.0)	5.1	微砂粒僅か に含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部覆削り 体部撫で	内面、放射状に亀の 当たり痕
4	土師器 小型 壺	床面	9.1 5.5	10.7	微砂粒含む	橙茶褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部覆削り 胴部撫で後置磨き	内面黒色 ほぼ完形
5	土師器 瓶	床面	16.6 5.1	12.9	砂粒含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部覆削り 胴部撫で	14孔あり ほぼ完形

C-256号住居跡 (第366~369図, PL47・128)

位置 Cn-41・42 形状 隅丸方形 規模 長辺5.18m、短辺4.95m、壁高0.40m

重複 C-277号住居跡(弥生時代)を切る。

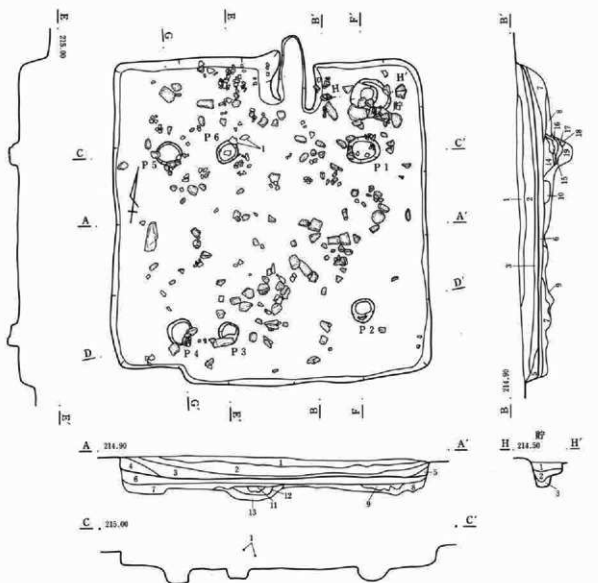
埋没土 地山の小腰を含む。

床面 平坦で砂礫を含んだ黒褐色土で作られる。比較的締りも良い。

貯蔵穴 北東隅に作られる。ほぼ円形で径約60cm、深さ30cmを測る。

柱穴 6本検出された。西側の2本については、かなり壁際に寄っていることから、拡張ないしは建て替え時に掘り込まれたものであろうか。ただし調査では明確な建て替え、拡張の痕跡は確認できなかった。

竈 北壁のほぼ中央に作られる。袖部分は礫を多く含む土で作られ、60cm程の長さを残す。壁外への掘り出



・256号住居跡

- 1 黒褐色土 径1cm前後の礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 1に似るが、地山黄色砂礫を多く混入。
- 3 黒褐色土 色調やや明るく、地山黄色粒の混入目立つ。
- 4 黄褐色土 地山砂粒の混入多く、粒子は均一である。
- 5 黄褐色土 4と似るが、やや細粒。
- 6 暗褐色土 径2～3mmの砂礫を少量含む。
- 7 黒褐色土 径2～3mmの砂礫をやや多く含む。
- 8 黄褐色土 地山砂礫土をベースとし、部分的に黒褐色土のブロックを少量含む。
- 9 黒褐色土 径2～3mmの砂礫、小石を多く含む。
- 10 黒褐色土 径1～10mmの砂礫、小石を少量含む。
- 11 暗褐色土 径2～10mmの砂礫、小石を多く含む。
- 12 暗褐色土 11よりやや明るい色調、径2～3mmの砂礫、やや多く含む。
- 13 暗褐色土 径2～3mmの砂礫、小石を少量含む。

- 14 黒褐色土 径2～3mmの砂礫、小石を多く含む。
- 15 黄褐色土 粘質土ブロック。
- 16 暗褐色土 径2～5mmの砂礫、小石を多く含む。
- 17 暗褐色土 径1～3mmの砂礫、小石をやや多く含む。
- 18 黄褐色土 やや砂質、径2～5mmの砂礫、小石を多く含む。

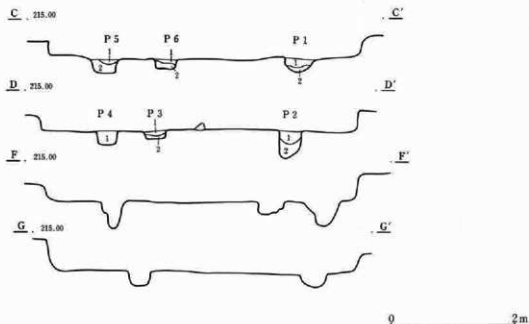
19 黄褐色砂質土 砂質地山の崩壊土。

貯蔵穴

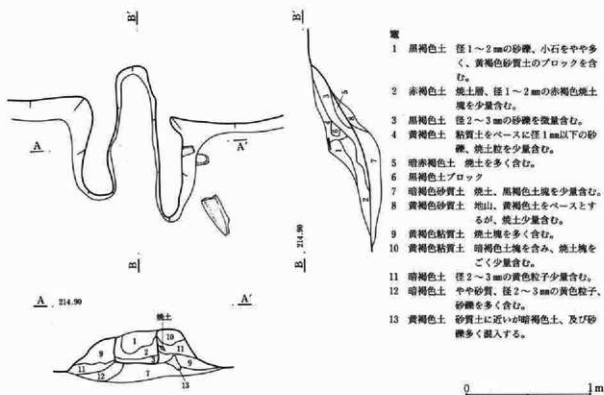
- 1 黒褐色土 径1～3mmの黄色粒子、径2～10mmの砂礫、小石を多く含む。
  - 2 黒褐色土 径1～2mmの黄色粒子は1よりやや少ない。
  - 3 黒褐色土 径1～2mmの砂礫をやや多く含む。
- P 1～6 共通
- 1 暗褐色土 径1～2mmの黄色粒子、径2～3mmの砂礫、小石を少量含む。
  - 2 黄褐色土 黄褐色砂質地山土を多く含む。

0 2m

第366図 C-256号住居跡(1)



第367図 C-256号住居跡(2)



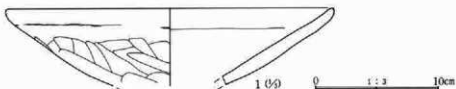
- 圖
- 1 黒褐色土 径1~2mmの砂礫、小石をやや多く、黄褐色砂質土のブロックを含む。
  - 2 赤褐色土 焼土層、径1~2mmの赤褐色焼土塊を少量含む。
  - 3 黒褐色土 径2~3mmの砂礫を微量含む。
  - 4 黄褐色土 粘質土をベースに径1mm以下の砂礫、焼土粒を少量含む。
  - 5 暗赤褐色土 焼土を多く含む。
  - 6 黒褐色土ブロック
  - 7 暗褐色砂質土 焼土、黒褐色土塊を少量含む。
  - 8 黄褐色砂質土 地山、黄褐色土をベースとするが、焼土少量含む。
  - 9 黄褐色粘質土 焼土塊を多く含む。
  - 10 黄褐色粘質土 暗褐色土塊を含み、焼土塊をごく少量含む。
  - 11 暗褐色土 径2~3mmの黄色粒子少量含む。
  - 12 暗褐色土 やや砂質、径2~3mmの黄色粒子、砂礫を多く含む。
  - 13 黄褐色土 砂質土に近いが暗褐色土、及び砂礫多く混入する。

第368図 C-256号住居跡・窠

しは30cm程でやや急角度である。

**出土遺物** 礫が多く見られたが、土器に関しては極めて少ない。図示得たのは土師器の鉢が1点である。

**調査所見** 遺存状態は良かった。南西隅の壁が部分的に折れて内側に入り込んでいた。多量の礫が検出されたものの土器等の遺物の出土はほとんどなかった。出土遺物から時期は古墳時代後期である。



第369図 C-256号住居跡出土遺物

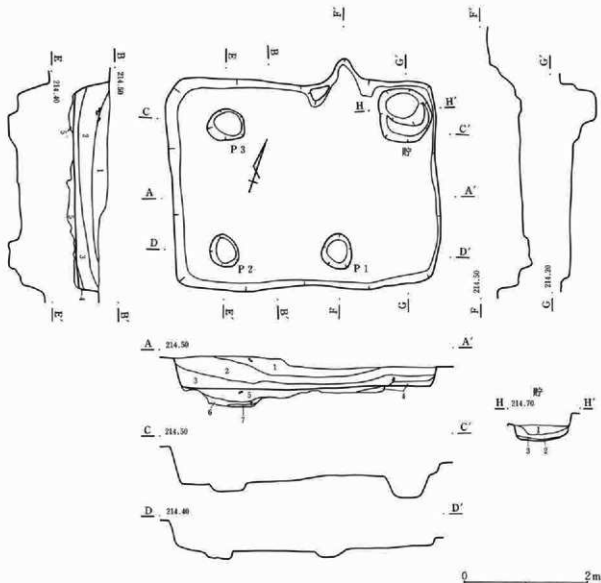
C-256号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 鉢	+20	(26.0)		砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横断で 体部直断り 内 口縁部横断で 体部直断り	浅く大きく開く

C-257号住居跡 (第370~374図、PL47・48・128~130)

位置 Ck-40 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.23m、短辺3.17m、壁高0.56m

重複 南東部分にC-237号住居跡 (平安時代) が重複する。



第370図 C-257号住居跡(1)

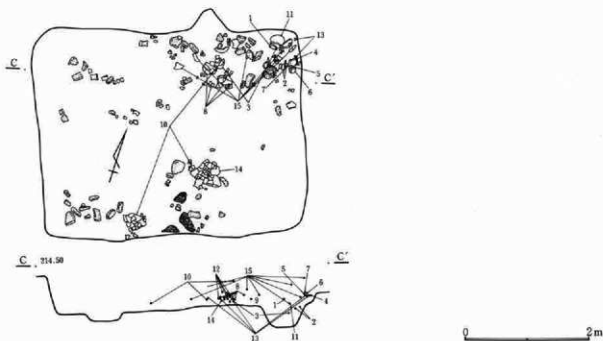


## ・257号住居跡

- 1 黒褐色土 礫を多く含む、粗粒。
- 2 黒褐色土 径0.5~1.0cmの礫を含む。黄色少粒子目立つ。
- 3 黒褐色土 地山黄色砂粒の混入目立つ。
- 4 暗黄褐色土 地山黄色砂粒を主体とする。
- 5 黒褐色土 砂礫を多く含む。地山砂粒の混入多い。
- 6 暗黄褐色土 5に似るが、地山暗褐色粘土ブロック若干

## 混入。

- 7 暗黄褐色土 暗褐色粘土を主体とし、混入物少ない。
- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 2~3mmの砂礫、小石を多く含む。
  - 2 暗褐色土 やや固く締った土、径1~2mmの黄褐色粒子を少量含む。径2~3mmの砂礫を少量含む。
  - 3 暗褐色土 2よりも暗い色調、砂礫少量含む。



第371図 C-257号住居跡(2)

**埋没土** 砂礫含み、粗粒である。下層は地山の黄褐色砂土が含まれる。

**床面** やや凹凸が見られるものの、ほぼ平坦である。

**貯蔵穴** 北東隅に検出された。径は約90cmで、ほぼ円形を呈す。南側に中段をもち、深さは約40cmである。礫を多く含む粗粒土で埋まる。

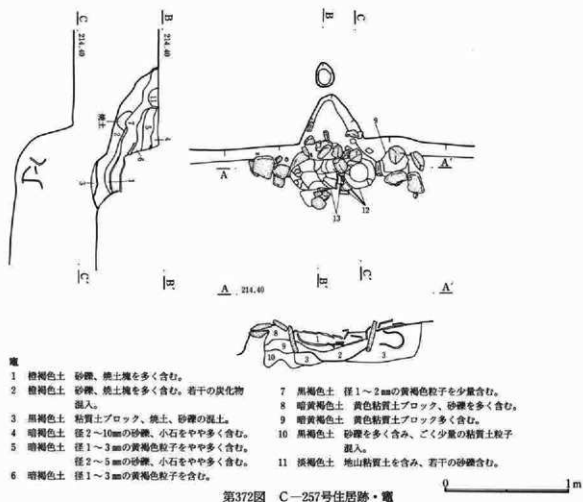
**柱穴** 北東部分を除き隅に3本を検出した。径50cmほどで、深さは10cmとかなり浅目である。

**竈** 北壁の中央やや東よりに作られる。焚口幅70cmで、ほぼ三角形に壁外に掘り出され、煙道は長さ30cmで、かなり急角度で立ち上がる。径15cm程の煙だしの穴が開く。偏平な礫が焚口の両側に残り、火床面ほぼ中央に支柱石が検出されている。

**出土遺物** 竈部分に集中して、ほぼ完形の土器が出土している。土師器の壺3個体が焚口部で出土している。他、右脇においても小形壺が出土している。その他土師器杯、須恵器環などが見られ、比較的多かった。

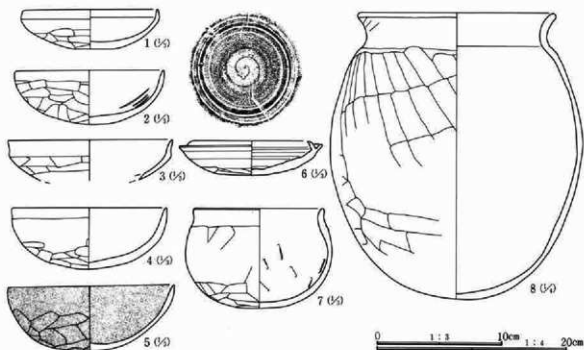
**調査所見** 住居の規模は小型ながら、比較的遺存状態の良い住居である。竈内より完形の土師器壺が潰れた状態で複数出土しているが、竈に掛けられた状態のものが残されたものであろう。時期は古墳時代後期である。

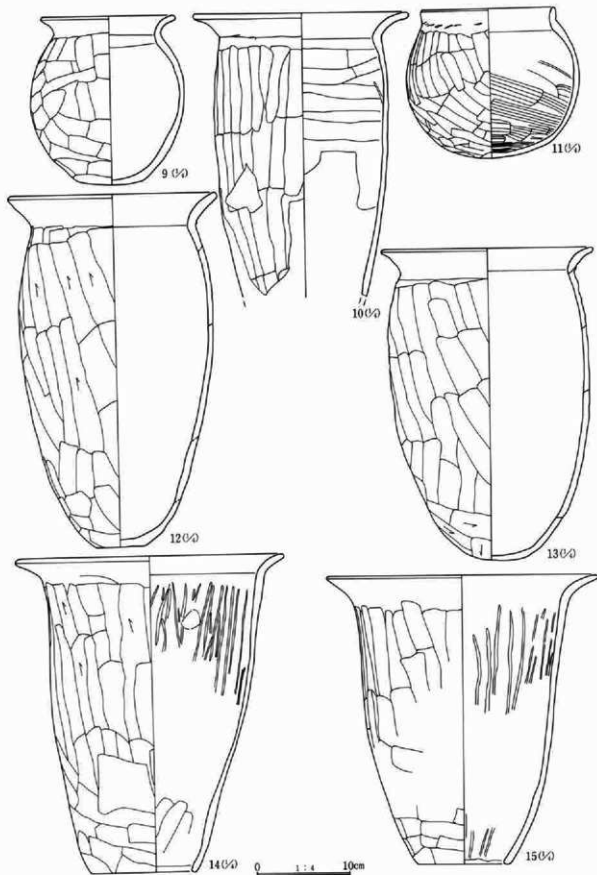
第3章 検出された遺構と遺物



竈

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1 暗褐色土 砂礫、焼土塊を多く含む。                             | 7 黒褐色土 径1～2mmの黄褐色粒子を少量含む。     |
| 2 暗褐色土 砂礫、焼土塊を多く含む。若干の炭化物混入。                    | 8 暗黄褐色土 黄色粘質土ブロック、砂礫を多く含む。    |
| 3 黒褐色土 粘質土ブロック、焼土、砂礫の混入。                        | 9 暗黄褐色土 黄色粘質土ブロック多く含む。        |
| 4 暗褐色土 径2～10mmの砂礫、小石をやや多く含む。                    | 10 黒褐色土 砂礫を多く含み、ごく少量の粘質土粒子混入。 |
| 5 暗褐色土 径1～3mmの黄褐色粒子をやや多く含む。径2～5mmの砂礫、小石をやや多く含む。 | 11 灰褐色土 地山粘質土を含み、若干の砂礫含む。     |
| 6 暗褐色土 径1～3mmの黄褐色粒子を含む。                         |                               |





第374図 C-257号住居跡出土遺物(2)

C-257号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形 成形の特徴	備考
1	土師器 罎	+7	10.8	3.1	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で後置磨き	完形
2	土師器 罎	床面	12.0	4.3	微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で後置磨き	内面に縦列線
3	土師器 罎	床面	(13.2)		微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で	
4	土師器 罎	+14	14.4	4.8	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で後置磨き	
5	土師器 罎	+16	13.4	5.1	砂粒ごく僅か含む	灰黒色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部無で後置磨き	内外面黒色
6	灰志器 罎	+17	11.4	2.7	糠を含む	灰黒色	良	ロクロ整形 外面底部寛削り	
7	土師器 小型罎	+19	(10.3)	7.7	砂粒僅かに含む	黒褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	広口 内面に寛の当たり痕
8	土師器 壺	+9	21.0	30.5	微砂粒含む	褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	丸底
9	土師器 壺	竈内	14.4	17.9 6.5	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	ほぼ完形
10	土師器 壺	+8	23.0		砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	底部を欠く
11	土師器 壺	+3	14.4	15.8	微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	内面に無で痕(刷毛目状) 明瞭、完形
12	土師器 壺	竈内	22.4	37.5 5.2	砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	ほぼ完形
13	土師器 壺	竈内	22.0	33.0	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	ほぼ完形
14	土師器 甗	+7	29.0	33.5 11.0	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で後置磨き	ほぼ完形
15	土師器 甗	+3	29.0	30.5 9.6	砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で後置磨き	大型品

## C-258号住居跡(第375~377図、PL48・130)

位置 Ck-42 形状 隅丸方形 規模 長辺4.28m、短辺4.03m、壁高0.30m

重複 C-249号住居跡、C-278号住居跡と重複する。

埋没土 黄褐色の砂粒含む。

床面 かなり細かな凹凸が見られ、特に住居東側が顕著である。

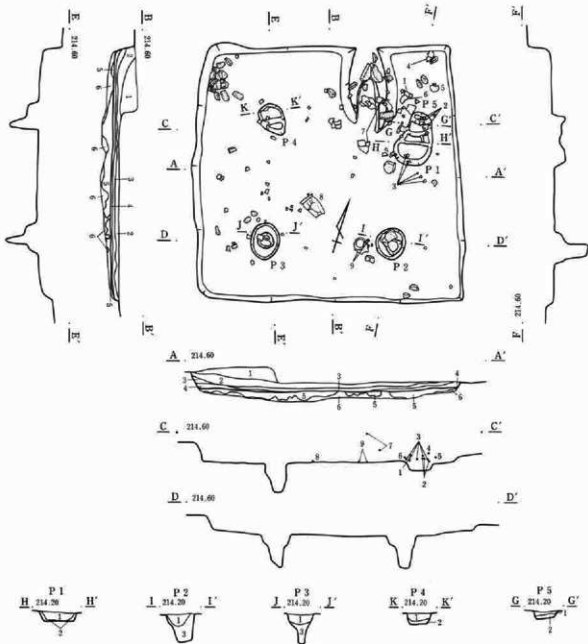
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 4本検出した、北東部のものは2穴が重複したものか。いずれも掘り方が2段である、径は約50cm、深さも平均50cmを測る。

竈 北壁中央やや東よりに作られている。罎、粘土、黒色土の混土で作られた袖部分は、住居内に1mほど延びている。焚口幅は30cmとかなり狭く、壁外に続くと思われる煙道部分の掘り出しはほとんど見られなかった。竈上部に半円形の石が、弧を合わせたような状態で検出されている。またかなりの焼土が燃焼部に見られた。

出土遺物 竈周辺部および貯蔵穴付近を中心に土師器罎、壺が見られた。また住居のほぼ中央部分において、底部を欠いた土師器の長壺が、横倒しの状態で出土している。

調査所見 他の住居が重複しているために、上部がやや削られているが、遺存状態は悪くはなかった。時期は古墳時代後期である。



・258号住居跡

- 1 暗褐色土 径2～5mmの砂礫、摺入を多く含む。径1～3mmの黄褐色粒子をやや多く含む。
- 2 黒褐色土 径2～5mmの砂礫、小石をやや多く含む。径2～3mmの黄褐色粒子をやや多く含む。やや茶色味がかった色調を呈し、径1～2mmの黄褐色粒子をやや多く含む。
- 4 暗褐色土 3より暗い色調を呈し、径1～3mmの黄褐色粒子を多く含む。
- 5 黒褐色土 固く締り、粘性強い。黄褐色粒子、砂礫、やや多く含む部分的に黄褐色粘質土のブロック含む。

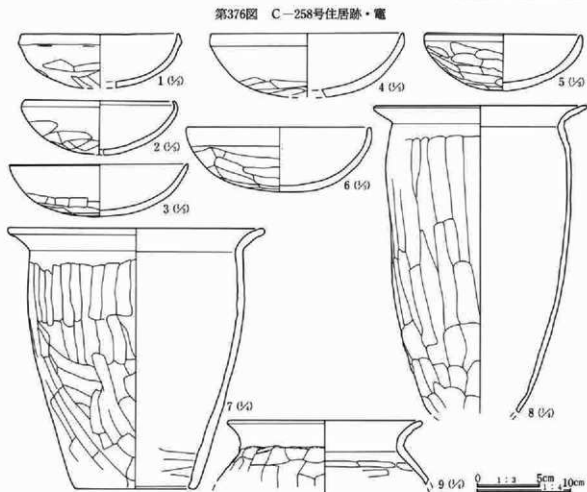
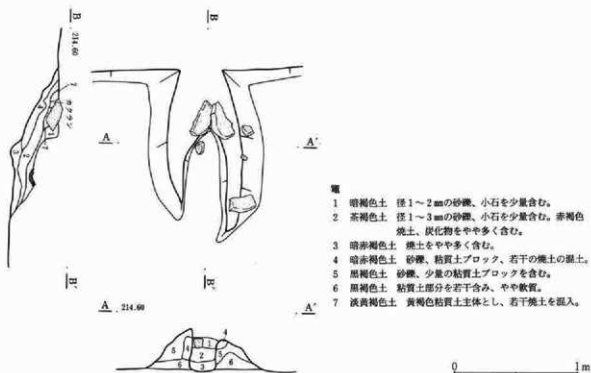
- 6 黄褐色土 砂質、径2～3mmの砂礫、小石を多く含む。

- P 1～5 共通
- 1 暗褐色土 砂礫、小石やや多く、黄褐色粒子少量含む。粘性、締りは弱い。
- 2 黄褐色土 やや砂質、径2～5mmの砂礫、小石を多く含む。粘性なし、締り弱い。
- 3 黄褐色粘質土 径2～5mmの砂礫、小石を少量、径1～2mmの焼土粒子、粘質地山ブロックをところどころ含む。

0 2m

第375図 C-258号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



C-258号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考	
1	土器器 坏	+10	(12.4)	精製	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部直削り 体部撫で後磨き	
2	土器器 坏	+9	12.0 4.2	砂粒盛かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部直削り 体部撫で	
3	土器器 坏	+4	14.3 4.0	砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部直削り 体部撫で	
4	土器器 坏	+14	(15.2)	砂粒盛かに 含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部直削り 体部撫で後磨き	
5	土器器 坏	+10	12.5 4.4	微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部直削り 体部撫で	ほぼ完形
6	土器器 坏	+8	14.7 5.1	微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部直削り 体部撫で	
7	土器器 瓶	+18	27.4 27.6 12.8	砂粒ごく僅 か含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で り	胴部直削り 胴部撫で下部直削り	
8	土器器 甕	+2	23.0	砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部直削り 胴部撫で	底部を欠く
9	土器器 甕	床面	20.8	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部直削り 胴部撫で	

C-259号住居跡 (第378~380回、PL48・131)

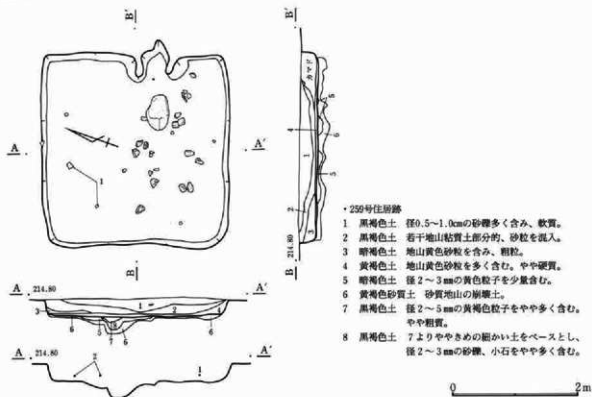
位置 Cm-44・45 形状 隅丸方形 規模 長辺2.98m、短辺2.96m、壁高0.30m

重複 C-317号住居跡を切り、C-286号住居跡に切られる。

埋没土 砂礫含む。

床面 平坦で比較的締まっている。

貯蔵穴 検出されなかった。



第378図 C-259号住居跡

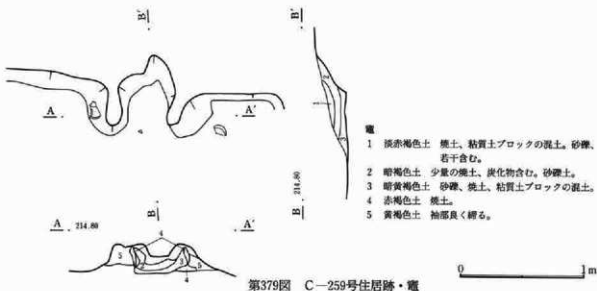
### 第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 検出されなかった。

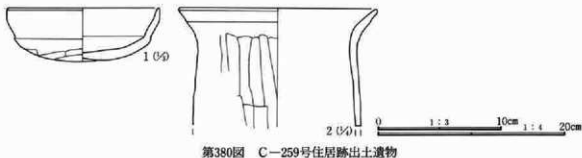
竈 北壁に作られている。袖部分は小さく、焚口幅30cmで長さ約50cmである。やや小振りで竈などの出土もなかった。燃焼部、および埋土中には若干の焼土が見られた。竈手前に長さ50cmを超える大型の礫が出土している。

出土遺物 大きさ約50cm程の礫が、竈の前面において検出されている。土器の点数はきわめて少ない。図示し得たのは土師器杯、甕の2点のみである。

調査所見 該期の住居としては、比較的小型で、貯蔵穴、柱穴などの施設もみとめられなかった。竈もかなり貧弱で小さい。時期は古墳時代後期である。



第379図 C-259号住居跡・竈



第380図 C-259号住居跡出土遺物

C-259号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	+10	(12.2)	4.1	砂粒盛りに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部置削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後磨き	
2	土師器 甕	+9	(21.2)		砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部置削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	

C-260号住居跡 (第381~384図、PL48・49・131)

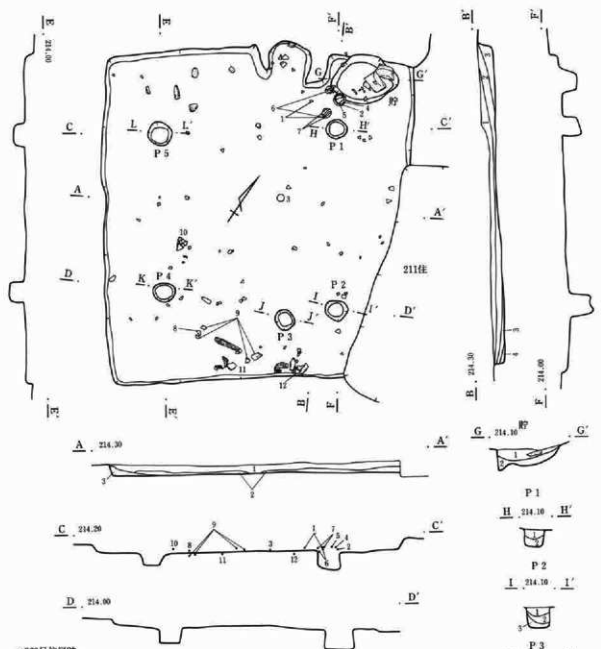
位置 Cj・Ck-37・38 形状 隅丸方形 規模 長辺5.26m、短辺4.95m、壁高0.23m

重複 C-211号住居跡、C-248号住居跡に切られる。

埋没土 砂礫多く含む、粗粒。

床面 平坦である、砂粒含む黒色土が部分的に見られる。





・260号住居跡

- 1 黒褐色土 径1cm前後の礫を多量に含み、粗粒。
- 2 黒褐色土 径1cm前後の礫を多量に含み、粗粒。地山黄褐色砂粒をブロック状に混入。
- 3 黒褐色土 2に似るが、地山砂粒を多く含む。
- 4 暗黄褐色土 地山黄褐色砂粒を多量に含む。

P 1～5 共通

- 1 暗褐色土 きめの粗い土をベースとして、径2～5mmの砂礫、小石をかなり多く含む。
- 2 暗褐色土 細粒土をベースとし、砂質地山土多く含む。径1～5mmの砂礫、小石を多量に含む。
- 3 暗褐色土 細粒土をベースとし、径1～3mmの黄褐色砂質土を多く含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 径2～5mmの砂礫、小石を大量に含む。
- 2 暗褐色土 ややきめの細かい土をベースとし、径1～2mmの黄褐色粒子を少量含む。

第381図 C-260号住居跡

0 5mm 2m

第3章 検出された遺構と遺物

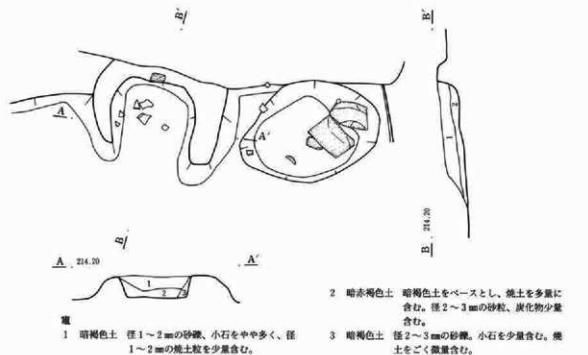
**貯蔵穴** 北東隅に検出された。長さ約1mの長円形で深さは約30cmである。上層より電材と思われる砂岩が出土している。

**柱穴** ほぼ対角線上に4本を検出した。径はいずれも約30cm、深さは20~30cmである。

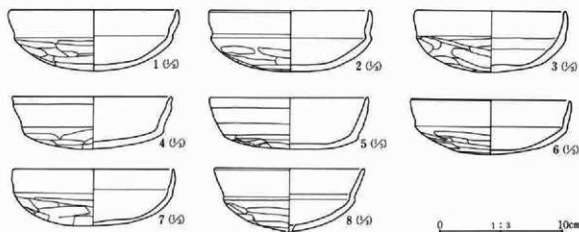
**竈** 北壁に作られる。馬蹄形に、鏝を混入した粘土の高まりが見られ、火床面には多量の焼土、焼土塊が見られた。

**出土遺物** 土師器環6点が竈右脇、床面より重なった状態で出土している。その他南壁際より土師器壺が出土している。また南壁際で若干の炭化材が検出されている。

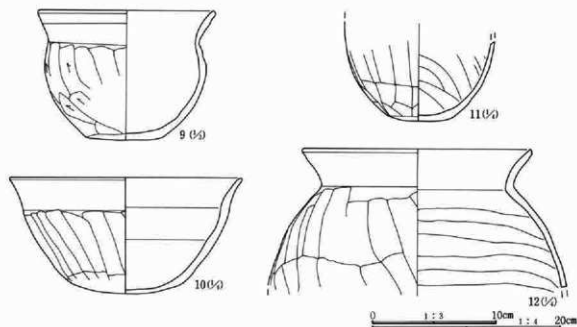
**調査所見** 一部他の遺構に削られている部分もあり、遺存状態は良いとは言えないが、比較的大型の住居跡で、出土遺物もかなり見られた。時期は古墳時代後期である。



第382図 C-260号住居跡・竈



第383図 C-260号住居跡出土遺物(1)



第384図 C-260号住居跡出土遺物(2)

C-260号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	脚高 (cm)	胎土	色調	構成	整形形成の特徴	備考
1	土師器 坏	+5	13.6	4.8	砂粒僅かに 含む	淡黄橙 色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り後 磨き	完形
2	土師器 坏	+10	13.0	4.8	砂粒僅かに 含む	淡黄橙 色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り後 磨き	ほぼ完形
3	土師器 坏	床面	12.0	4.8	砂粒僅かに 含む	淡黄橙 色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り後 磨き	完形
4	土師器 坏	+11	12.8	4.1	微砂粒僅かに 含む	淡黄橙 色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り後 磨き	ほぼ完形
5	土師器 坏	+9	12.6	4.0	精製	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り後 磨き	完形
6	土師器 坏	+4	12.8	4.2	微砂粒僅かに 含む	淡黄橙 色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り後 磨き	ほぼ完形
7	土師器 坏	+4	12.8	4.4	微砂粒僅かに 含む	淡黄橙 色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り後 磨き	
8	土師器 坏	床面	12.0	5.0	微砂粒僅かに 含む	淡黄橙 色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り後 磨き	
9	土師器 小型甕	床面	14.2	10.1	砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り後 磨き	やや広口
10	土師器 甕	+5	25.0	12.3	砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り後 磨き	広口
11	土師器 甕	床面			砂粒含む	黄褐色	良	外 胴部削り 内 胴部削り後 磨き	底部のみ
12	土師器 甕	床面	(22.3)		砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り後 磨き	大型品

## C-264号住居跡 (第385図, PL49)

位置 Ck・Cl-41 形状 不明 規模 長辺 (2.61) m、短辺 (2.1) m、壁高 0 m

重複 C-239号住居跡 (奈良時代) に西側を切られる。

埋没土 黒味の強い砂質土中に礫が多く含まれる。

床面 礫を含む地山層を部分的に黒色土で埋めている。

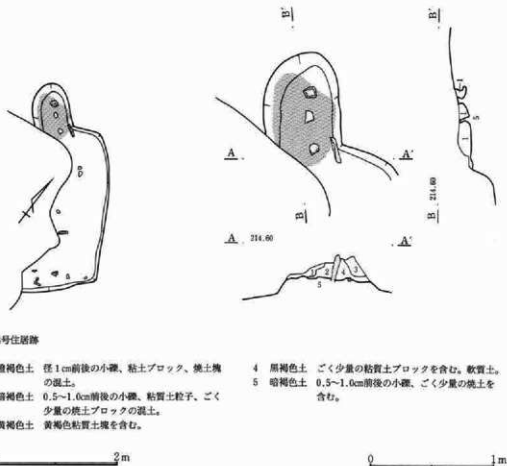
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁に作られているが、かなり壊れた状態である。右側に偏平な袖石が検出されているが、左側は239号住居跡により壊されている。

出土遺物 わずかに小破片が見られたのみである。

調査所見 小型の住居で、尚且つ西側半分以上を削られているために、遺存状態は悪い。出土遺物もほとんどないことから、時期認定は難しいが、古墳時代後期と思われる。



第385図 C-264号住居跡・竈

C-265号住居跡 (第386~389図、PL49・50・131)

位置 Cp・Cq-39 形状 隅丸方形 規模 長辺5.30m、短辺3.81m、壁高0.20m

重複 C-287号住居跡、C-289号住居跡と重複する。

埋没土 小礫多く含み、褐色、黄色粒子混入する砂礫土。

床面 平坦である、竈前面については崩落土と床との識別がやや不明瞭であった。

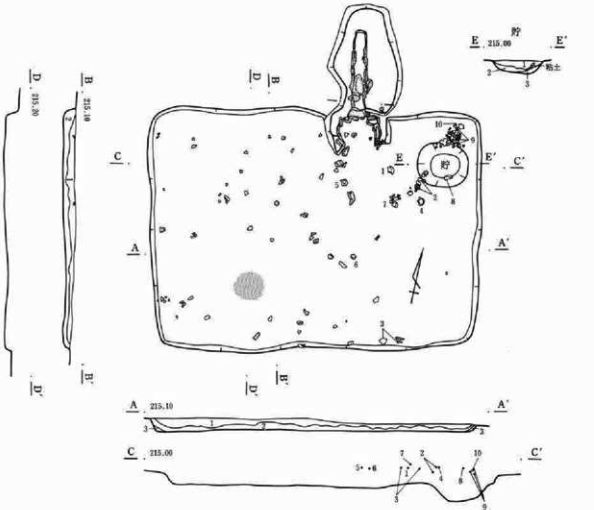
貯蔵穴 北東隅に検出された。東西に長い長方形を呈す、長軸80cm、短軸70cm、深さ25cmである。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや東寄りに作られる。かなり遺存状態は良好で、大型で作りの良いものである。灰白色粘土を多く含む土で本体部は作られ、焚口部、袖部、煙道部の内側は砂岩を用いて構築している。焚口部の左右には門柱状に据えられた石の上に、横に石が渡されている。用いられている石の多くは厚さ2～5cmの板状で、大きさは20～30cm内外のやや角張った石が多い。煙道部には、やはり扁平な石が蓋のような状態で出土している。

出土遺物 あまり多くはなかった。貯蔵穴部、竈前面で土師器、および須恵器の坏類を中心に検出した。

調査所見 壁の遺存状態は良いとは言えなかったが、竈については多量の粘土、および石が用いられていたことから、かなり上層において確認することができた。このため遺存状態は良好であった。各部を石で構築したいわゆる石組竈で、最も状態は良い。出土遺物から、時期は平安時代である。



・265号住居跡

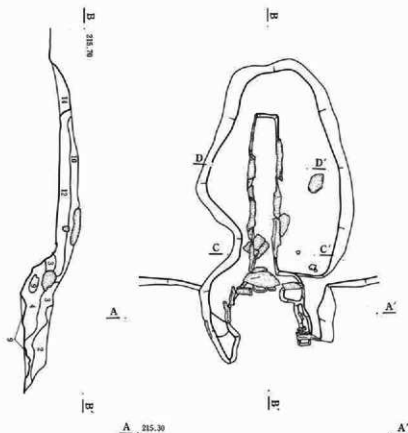
- 1 黒褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色、灰白色粒子褐色土粒やや多く、褐色土塊若干含む。
- 2 黒褐色土 砂利、小礫多く、褐色、灰白色粒子多量、褐色土粒、土塊、散見。締まりはない。
- 3 暗褐色土 砂利、小礫若干、褐色粘質土粒多量混入、砂質で粒子は細かい。

貯蔵穴

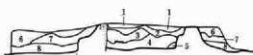
- 1 黒褐色土 砂利、小礫多量、褐色土粒、土塊やや多く混入。
- 2 暗褐色土 礫やや多く、灰白色、褐色粒子、褐色粘性土塊、点在する。粒子細かく締りあり。
- 3 暗褐色土 砂利、小礫大量に混入。褐色土粒もやや多い。

0 2m

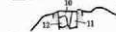
第386図 C-265号住居跡



A, 215.30

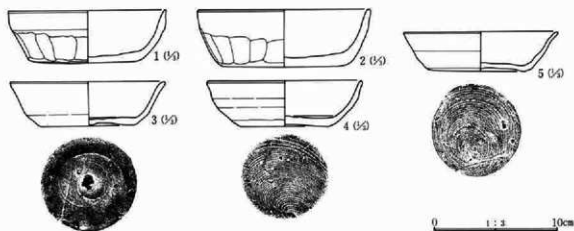


C, 215.30



D, 215.30

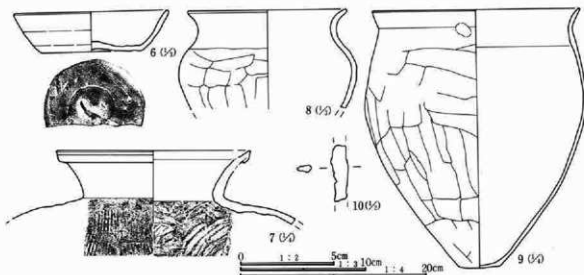
第387図 C-265号住居跡・竈



第388図 C-265号住居跡出土遺物(1)

電

- 1 淡褐色土 黄土混じりの褐色、淡褐色粘性土塊多量に混入。灰白色、褐色粒子、やや多い。
- 2 暗褐色土 砂利、小礫若干、灰白色、褐色粒子混在。粒子細かくやや締りあり。
- 3 明褐色土 小礫、褐色粘性土多量、明褐色土塊、淡褐色土塊混入し、まだら状をなす。
- 4 暗褐色土 明褐色土塊、淡褐色土塊混入するが、3よりもやや少なめ。粘性あり。
- 5 黒褐色土 褐色粒子混入、粒子微細、やや締りあり。
- 6 黒褐色土 砂利、小礫若干、灰白色、褐色粒子混入。褐色土粒若干。
- 7 褐色土 砂利、小礫点在。褐色粘性土、褐色土粒多量に含む。
- 8 黒褐色土 砂利、小礫多く、褐色、灰白色粒子多量、褐色土粒若干。
- 9 明褐色粘性土塊 焼土化著しい。
- 10 暗褐色土 砂利、小礫多量、褐色、灰白色粒子多量、褐色土粒多く含む。褐色粘性土塊若干混入。
- 11 暗褐色土 黄土混じりの褐色土塊。褐色粘性土塊雜然と混入、小礫点在。褐色灰白色粒子多く、暗褐色土と褐色土塊部分とが、まだら状を呈す。
- 12 黒褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色灰白色粒子、褐色土粒多く含む。堆積状況は雜然としている。
- 13 黒褐色土 細粒で締まり褐色、灰白色粒子多量混入。
- 14 黒褐色土 砂利、小礫多量、褐色、灰白色粒子多量、褐色土粒、土塊やや多く混在。褐色粘性土塊点在。



第389図 C-265号住居跡出土遺物(2)

C-265号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考	
1	土師器 坏	+26	(12.8) 8.7	4.1	小礫傷か に含む	黄褐色	普通	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部腹で		
2	土師器 坏	+21	(14.0) (10.6)	4.6	微砂粒傷か に含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部腹で		
3	須恵器 坏	+25	15.6 7.6	3.5	精製	明灰色	良	ロクロ整形 底部回転削り		
4	須恵器 坏	+40	(12.6) 7.0	3.6	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転削り		
5	須恵器 坏	+35	12.5 3.0	3.0	精製	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転削り	ほぼ完形	
6	須恵器 坏	+32	12.6 8.0	3.1	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転削り		
7	須恵器 甕	+30	(21.0)		砂礫含む	灰色	良	口縁部横線で 外面平行叩き目 内面 青海波文		
8	土師器 甕	+53	(13.0)		微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部腹で		
9	土師器 甕	+37	22.0 4.4	27.9	微砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部腹で		
10	刀子	+45	長さ3.0cm 幅0.8cm 厚さ0.4cm 重さ1.9g 欠損品 基部部分か							

## C-266号住居跡 (第390図、PL132)

位置 Cq-36・37 形状 不明 規模 長辺 (3.5) m、短辺 (2.5) m、壁高 不明

重複 C-267号住居跡 (弥生時代) の覆土上に重複。北東半分は調査区外。

埋没土 なし。

床面 確認できなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

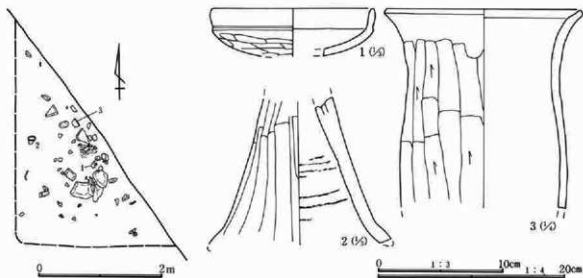
柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。

出土遺物 土師器坏、甕、高坏が見られる。

調査所見 壁部分は削平されており、住居としての形状は留めていない。疑問の残る遺構である。

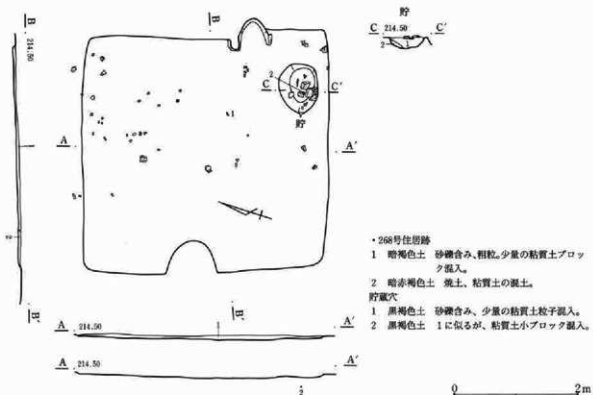
第3章 検出された遺構と遺物



第390図 C-266号住居跡・出土遺物

C-266号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 平	覆土	(13.0)	砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
2	土師器 高平	覆土		微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 脚部削り 内 脚部撫で	脚部のみ 内面に輪 積み痕見られる
3	土師器 壺	覆土	(21.0)	砂粒(片岩) 含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	



第391図 C-268号住居跡



C-268号住居跡 (第391~393図、PL50・132)

位置 Cj・Ck-44 形状 隅丸方形 規模 長辺3.93m、短辺3.71m、壁高0.06m

重複 西側に、C-272号住居跡の竈部分が重複。

埋没土 砂礫および若干のロームブロックを含む。

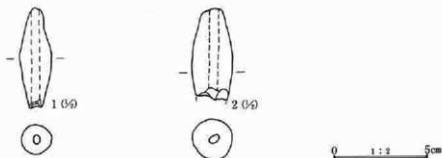
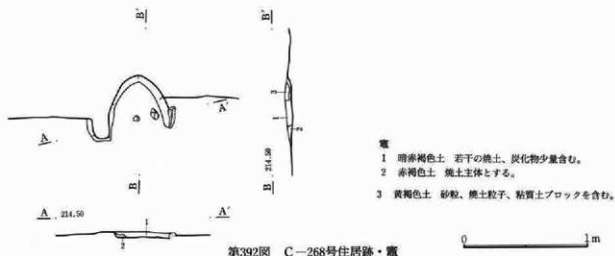
床面 やや凹凸をもち、部分的に軟質な場所が認められる。

貯蔵穴 南東隅に検出された。径70cm、深さは30cm程で、上層より礫が出土している。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁の南寄りに作られる。削平が著しく、火床面下部のみを検出した、本体構造は不明である。出土遺物 土器小片のため、図示できなかった。土錘が2点見られた。

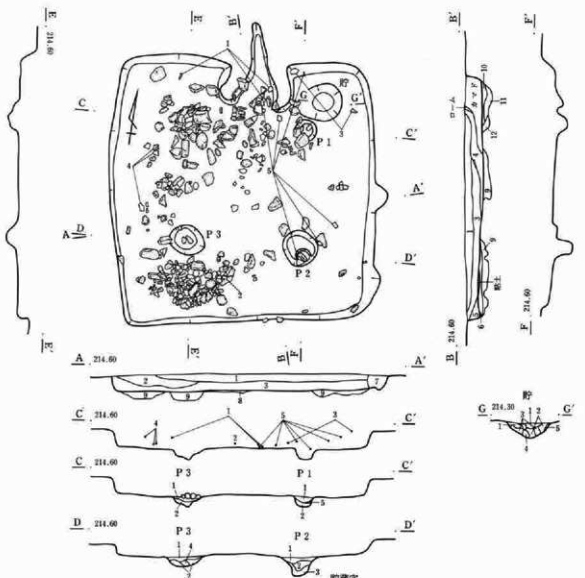
調査所見 全体に大きく削平されており、竈および、床面の一部分のみの検出である。時期は平安時代と思われる。



C-268号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考
1	土錘	隅丸方	長さ5.3cm 径1.7cm 重さ10.0g		茶褐色を呈し、やや粗目		ほぼ完成	
2	土錘	床面	長さ(4.8)cm 径2.3cm 重さ18.4g		白色を呈し、太めである		一端部を欠く	

第3章 検出された遺構と遺物



・269号住居跡

- 1 暗褐色土 径1.5～5mmの砂礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 径1.5～5mmの砂礫を多く含む。黄褐色ローム砂礫多く含む。
- 3 暗褐色土 径1.5～5mmの砂礫を多く含む。粘質土の混入多い。
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土 黄色砂粒の混入が多く、色調明るい。
- 6 明褐色土 明黄褐色粘質土を多く含む。粘性褐色土ブロック混入。
- 7 明褐色土 ビット覆土。
- 8 黒褐色土 砂礫、若干の粘質土ブロック含む。
- 9 黒褐色土 砂礫土に粘質土ブロックを混入。
- 10 暗茶褐色土 粘質土ブロック、砂礫、若干の焼土の混入。
- 11 暗茶褐色土 砂質土、粘質土ブロックを含む。細粒土。
- 12 黒褐色土 黒色土ブロック。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 径1～2mmの砂礫、小石、黄褐色粒子を少量含む。締り強い。
  - 2 暗褐色土 やや明るい色調を呈し、径1～2mmの砂礫をやや多く含む。締り強い。
  - 3 黄褐色土 黄褐色粘質土ベースとし、径1～3mmの砂礫を少量含む。
  - 4 暗黄褐色土 黄褐色粘質土をベースとするが、暗褐色土を多く混入する。径2～3mmの砂礫、黄褐色粒子をやや多く含む。
  - 5 黄褐色砂質土 砂質地山の崩壊土。
- P1～4共通
- 1 暗褐色土 径2～5mmの砂礫、小石をやや多く含む。
  - 2 明褐色土 黄色に近い色調を呈し、径2～5mmの砂礫をやや多く、黄褐色粒子を少量含む。
  - 3 黄褐色砂質土 砂質地山の崩壊土。
  - 4 暗褐色土 ややきめの細かい土をベースとし、径2～3mmの砂礫、小石を少量含む。
  - 5 黄褐色土 径2～3mmの砂礫、小石を少量含む。やや砂質。

0 2m

第394図 C-269号住居跡

## C-269号住居跡 (第394~396図、PL50・132)

位置 Ck-44・45 形状 隅丸方形 規模 長辺4.26m、短辺4.18m、壁高0.28m

重複 南側でC-268号住居跡(平安時代)と接するが、切り合いはない。

埋没土 砂礫多く含み、下層は地山黄褐色粘質土をブロック状に含む。

床面 平坦で比較的良く締まる。

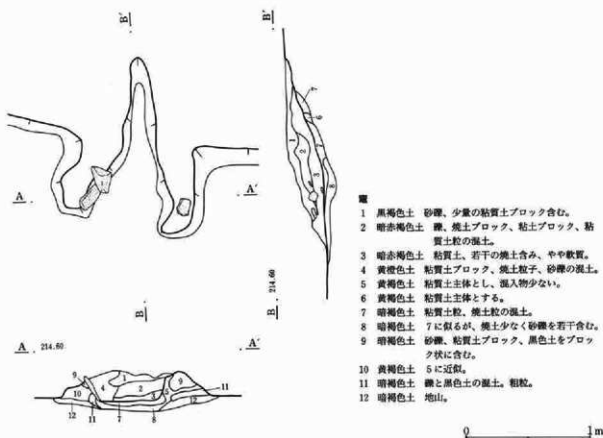
貯蔵穴 北東隅に検出した、径約60cmで深さは25cm程である。断面鍋底状である。

柱穴 ほぼ対角線上に4本を検出した。径は40~50cmで、深さは20~40cmである。北西の柱穴からは上層より礫が約10点出土したほか、南側の2本の底部にも礫を認めた。

竈 北壁のほぼ中央に作られる。本体の上部部分はかなり削られている。両袖が長さ約60cmで住居内に延び、煙道は幅20cm、長さ70cm程で壁外に延びる。左袖部分に礫2個、および右側に1個を認めた。袖はローム土主体で混入物は少ない。

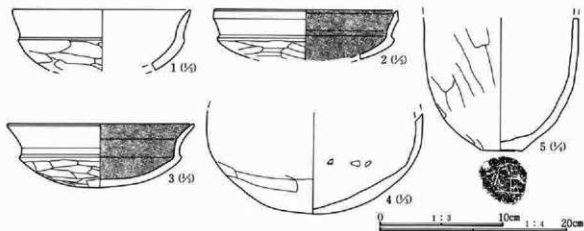
出土遺物 床面よりやや浮いた状態であるが、竈前面、および南西部分で多量の礫が土器類とともに出土している。南西部分の礫はやや小振りのものが多く、かなり集中した状況である。土器は土師器の坏、甕類である。

調査所見 遺存状態は比較的良く、壁高もほぼ平均して30cmを測る。遺物はかなり偏在しており、比較的離れた位置の破片が接合している。住居南西、および竈前面に礫の出土が目立つ。土器の出土は少なかった。時期は古墳時代後期である。



第395図 C-269号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第396図 C-269号住居跡出土遺物

C-269号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 径径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
1	土師器 杯	+3	(14.4)		砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	
2	土師器 杯	+7	(14.8)		微砂粒僅かに含む	黒色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で後黄磨き	内外面黒色
3	土師器 杯	+8	(15.1)	5.0	砂粒僅かに含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で後黄磨き	内面黒色
4	土師器 壺	+8			微砂粒僅かに含む	灰黄褐色	良	外 胴部寛削り 内 胴部撫で		広口壺か、口縁部を欠く
5	土師器 壺	+2		4.9	砂粒多く含む	暗褐色	良	外 胴部寛削り 内 胴部撫で		底部木炭灰か

C-271号住居跡 (第397・398図, PL50・132)

位置 Cj-45 形状 隅丸方形 規模 長辺4.6m、短辺4.5m、壁高0.13m

重複 C-272号住居跡、C-276号住居跡に切られる。

埋没土 小礫、地山粘土ブロック含み粗粒。

床面 重複が多く、また工程上、調査を二度に分けて行わざるを得なかった、このため竈の作られた東壁以外は明確にはつかめなかった。検出した部分についてもわずかし平坦な床面としては、とらえられなかった。

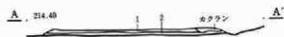
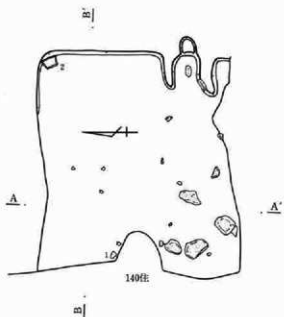
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁に作られる。U字状に掘り出され、両袖は約50cmの長さを持つ。右側には砂岩の角礫が袖石として据えられ、焚口部分および燃焼部には、礫が散在して検出されている。火床面には数cmの厚さに焼土が堆積していた。

出土遺物 点数的には少ない。土器類としては須恵器壺の破片、土師器の壺が見られる。また覆土中より小孔を持つ板状の銅製品が出土している。

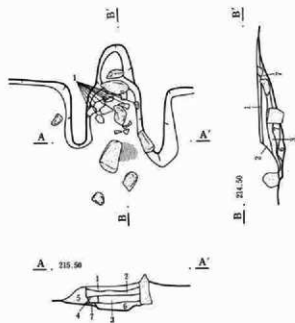
調査所見 重複が著しく、遺存状態は悪い。時期は平安時代であろう。



・271号住居跡

- 1 黒褐色土 砂粒含み、粗粒。
- 2 黒褐色土 1に似るが、礫大きく、地山黄色礫混入。
- 3 暗褐色土 炭化物、焼土の混入。軟質。

0 2m

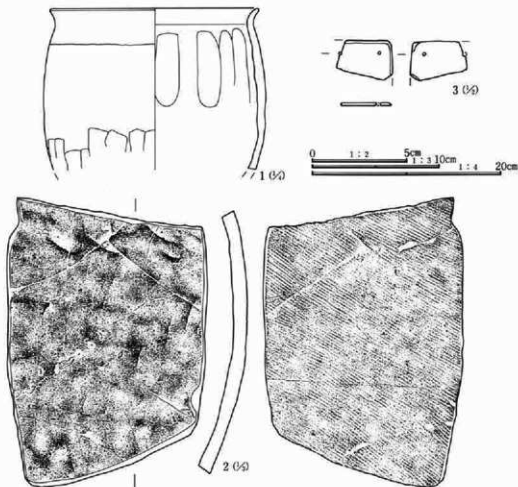


電

- 1 暗褐色土 径2~5mmの砂礫、小石を少量含む。
- 2 暗褐色土 1よりややきめの細かい土をベースとし、径1~2mmの砂礫、小石をごく少量含む。
- 3 暗褐色土 2によく類似するが、径1~2mmの砂礫、小石を少量含む他、焼土粒、黄褐色粒子を少量含む。
- 4 赤褐色土 焼土塊。
- 5 暗赤褐色土 径1~2mmの砂礫、小石をやや多く含む、よく揃っている。
- 6 赤褐色土 焼土を大量に含む。径2~5mmの小石を多く含む。
- 7 暗褐色土 径2~3mmの砂礫、小石をやや多く含む。

0 1m

第397図 C-271号住居跡・電



第398図 C-271号住居跡出土遺物

C-271号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 甕	+8	22.7	砂礫含む	橙褐色	普通	外 口縁部横撫で 胴下部裏削り 内 口縁部横撫で 胴部縦方向撫で	
2	須恵器 壺	+20		小礫僅かに 含む	暗灰色	良	外面 平行叩き目 内面 無文当て 張	胴部片 内面転用甕 として利用
3	削製品	覆土	長さ(3.0)cm 幅(2.1)cm 厚さ0.15cm			板状を呈し目釘穴2カ所 欠損品		

C-272号住居跡 (第399・400図、PL51・132)

位置 Cj・Ck-45 形状 不明 規模 不明

重複 C-271号住居跡、C-276号住居跡に切られる。

埋没土 層としては認められなかった。

床面 凹凸があり不明瞭。

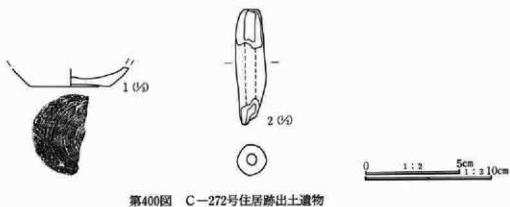
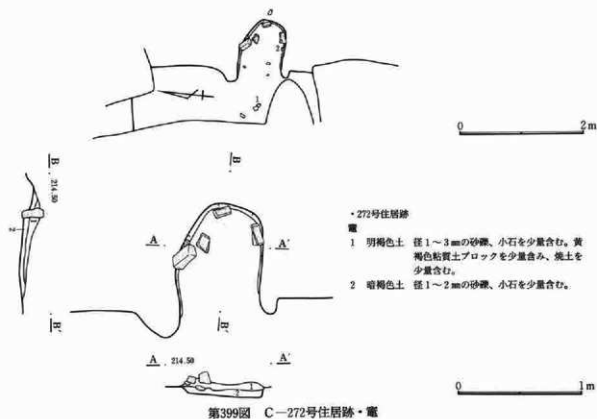
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁に作られる。本体部はほとんど削られている。幅60cm、長さ90cmのU字形で、燃焼部両側および先端に竈が検出されている。焼土はわずかに検出されている。

出土遺物 少なかったが、竈内より須恵器環の底部片と土鍬が出土している。

調査所見 竈の残る東部分のみで、遺存状態はきわめて悪く、形状、規模は不明である。時期は平安時代。



C-272号住居跡遺物観察表

番号	種類	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	製成形の特徴	備考
1	須恵器 坏	竈内	6.4		微砂粒含む	灰色	貝	ロクロ整形 底部回転糸切り	
2	土 鏡	竈内	長さ6.1cm 径1.5cm 重さ12.3g 両端部片面部分欠損						

C-273号住居跡 (第401・402図、PL51・132)

位置 Ci・Cj-43 形状 隅丸方形 規模 長辺2.45m、短辺(2.10)m、壁高0.17m

重複 C-230号住居跡と西側部分で重複する。

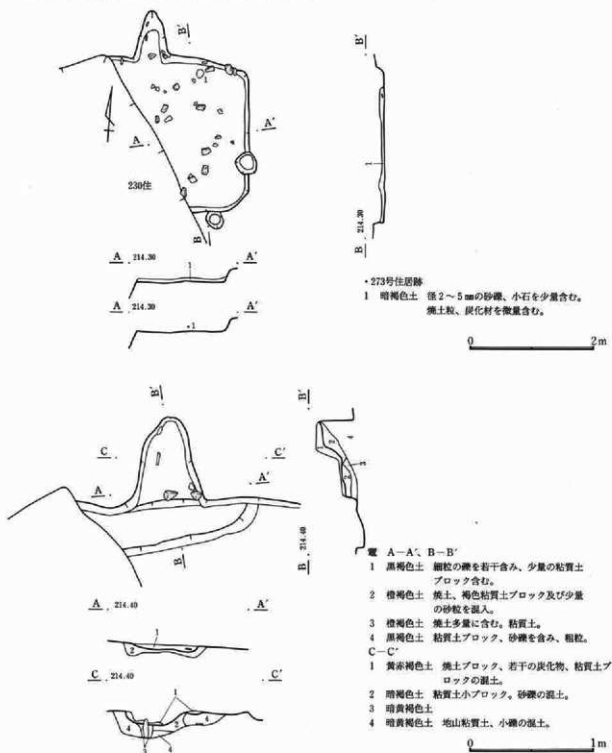
埋没土 小礫含む、下層部分には焼土粒、炭化材がわずかに見られる。

床面 やや凹凸があり、部分的に地山の礫が露出している。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁に作られる、袖部分ははつきりせず、掘り方は幅50cm、長さ80cmで壁外に緩やかに立ち上がりながら延びる。下層部分には多量の焼土が検出されている。

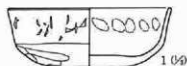


第401図 C-273号住居跡・竈



**出土遺物** 土師器の坏が甕右脇より出土している。

**調査所見** 小型の住居である。西側を重複により斜めに切られている。また竈のある北壁は、弥生の住居の覆土中に入っているために、明確な壁の立ち上がりは確認できなかった。時期は古墳時代後期である。



第402図 C-273号住居跡出土遺物

C-273号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	器成形の特徴	備考
1	土師器 坏	+7	13.0 5.6	微砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部磨削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後磨削き	

C-274号住居跡 (第403~406図、PL51・52・132)

**位置** Cr-39 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺4.53m、短辺3.60m、壁高0.27m

**重複** 本址を切る遺構はない。

**埋没土** 小礫、砂粒含む、他に地山の粘土塊を若干混入。

**床面** ほぼ平坦で中央部がわずかに高まりをもつ。東電前面部分で2面の貼床が見られた。壁溝が西側から北壁部分にかけてL字形に掘られている。また東壁および南壁の一部にも見られる。

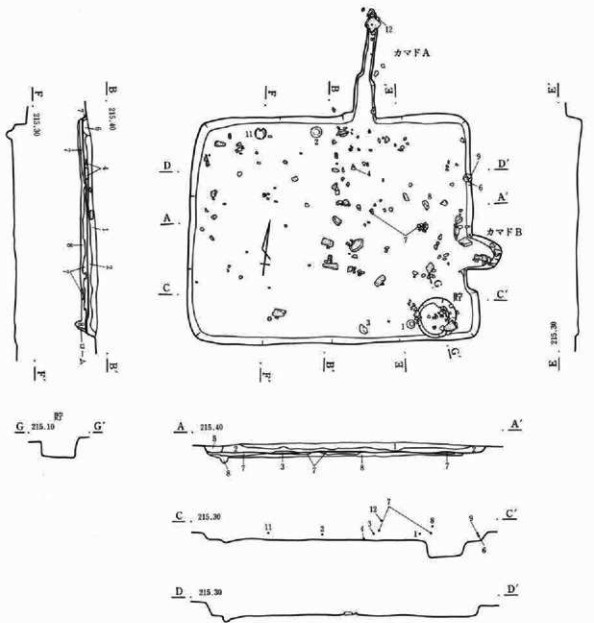
**貯蔵穴** 南東隅に検出された。円形を呈し、径約60cm、深さ約20cmである。

**柱穴** 検出されなかった。

**竈** 2カ所に検出した。1基は東壁中央やや南寄りに作られる。U字状に幅50cm、奥行き約60cmで掘られている。袖部分の残りは明瞭ではなかった。火床面は床面よりやや下がり、かなり火を受けた状況を呈していた。もう1基は北壁中央やや東寄りに作られている。焚口幅は30cmと狭く、奥行きは煙道部分を含めて1.7m程ある。煙道の先端部には礫が多く見られ、1辺20cm程の板状の石が、載った状態で検出されている。検出状況、遺物の様子などから北壁に作られたものが新しいと考えられる。

**出土遺物** 点数的にはそれほど多くはなかったが、須恵器および土師器の坏を中心に土師器の甕、須恵器の蓋などが見られる。

**調査所見** 他の遺構に切られた部分も無く、比較的遺存状態の良い住居である。竈が北壁と東壁に2基確認されており、作り替えが行われたものと考えられる。床下の住居掘り方面検出を行ったところ、中央部に径1m、深さ20cm程の床下土坑が確認されたほか、4基の90~30cm程の床下土坑が確認されている。時期は平安時代である。

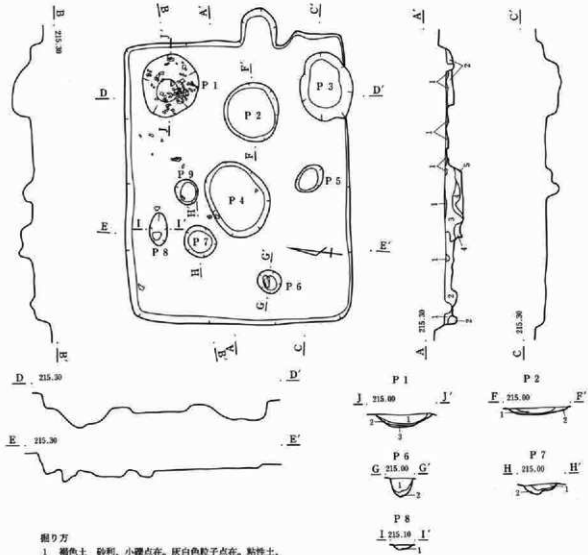


・274号住居跡

- 1 黒褐色土 砂利、小礫多量、褐色、灰白色粒子多量  
褐色土塊、粘性土塊多く混入。
- 2 黒褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色、灰白色粒子  
点在。
- 3 褐色土 焼土塊やや多く含む。砂利、小礫点在。暗  
褐色土とまだら状。
- 4 黒褐色土 小礫点在。褐色土粒若干。耕作による掘  
り込みみ。
- 5 暗褐色土 砂利、小礫点在。褐色土やや多く、耕作  
による掘り込みみ。
- 6 褐色土 赤褐色土、砂礫混じりの粘性土。床面用材。
- 7 黒褐色土 砂利、小礫やや多く点在。褐色、灰白色  
粒子点在。褐色土粒、焼土塊散在。

0 2m

第403図 C-274号住居跡(1)



掘り方

- 1 褐色土 砂利、小礫点在。灰白色粒子点在。粘性土、床面構成。暗褐色土塊が若干混在。
- 2 褐色土 砂利、小礫、灰白色粒子、黄褐色粒子混入。暗褐色土混在。埋積状況は雑然としている。
- 3 黒褐色土 砂利多量、大小礫多く混入。褐色、灰白色粒子やや多く含む。
- 4 暗黒褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色、灰白色粒子多量。淡褐色粘性土、褐色粘性、褐色土若干混入。
- 5 暗褐色土 砂利、小礫やや多く、灰白色粒子点在。褐色土多量に混入。

P 1

- 1 褐色土 砂利、小礫点在。赤褐色焼土塊、灰褐色焼土塊やや多く、暗褐色粘性土塊若干含み、埋積状況は、雑然とし粘性質。
- 2 暗褐色土 小礫わずか、褐色、灰白色粒子点在。粒子細かくかなり練りあり。
- 3 褐色土 やや色調は濃い。暗褐色土若干混入。やや粘性あり。

P 2

- 1 黒褐色土 砂利やや多量、大小礫雑多に混入。褐色、灰白色粒子多量、褐色土粒やや多量。
- 2 暗褐色土 砂利多量、小礫点在。褐色粘質土やや多い。

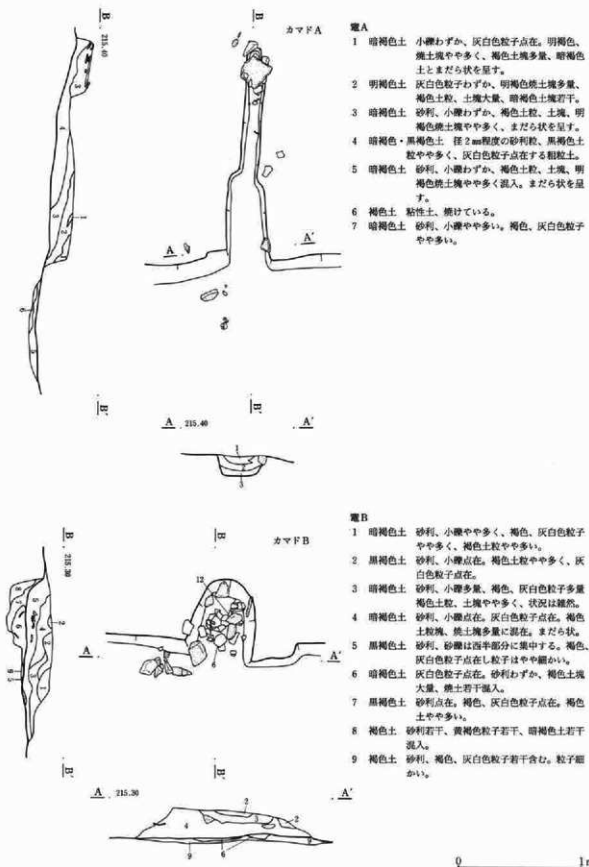
P 6

- 1 黒褐色土 砂利、小礫若干。褐色粒子点在。
  - 2 暗褐色土 褐色粒子、土粒やや多く混入。
- P 7
- 1 黒褐色土 砂利、小礫点在。褐色土粒、粘性土塊やや多い。
  - 2 暗褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色土粒、粘性土塊やや多い。

P 8

- 1 暗褐色土 砂利点在。褐色土粒、粘性土塊多量、明褐色土塊点在。

第404図 C-274号住居跡(2)

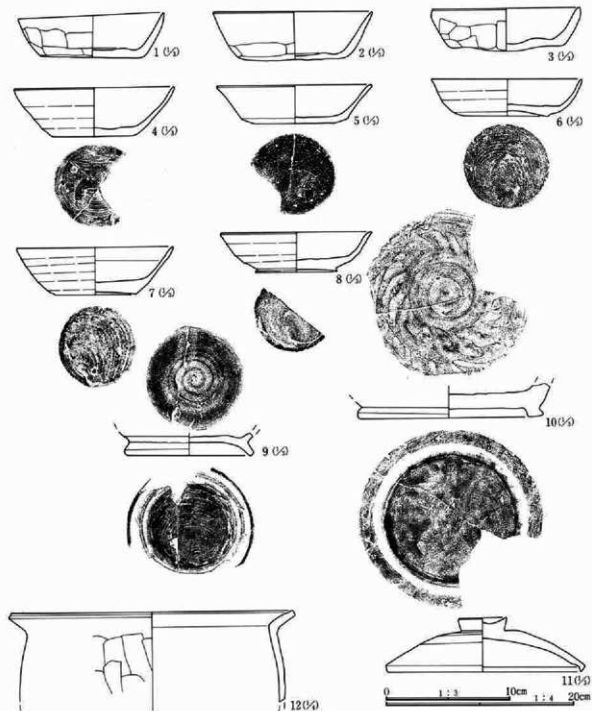


- 層A
- 1 暗褐色土 小礫わずか、灰白色粒子点在。明褐色、焼土塊やや多く、褐色土塊多量、暗褐色土とまだら状を呈す。
  - 2 明褐色土 灰白色粒子わずか、明褐色焼土塊多量、褐色土粒、土塊大量、暗褐色土塊若干。
  - 3 暗褐色土 砂利、小礫わずか、褐色土粒、土塊、明褐色焼土塊やや多く、まだら状を呈す。
  - 4 暗褐色・黒褐色土 径2mm程度の砂利粒、黒褐色土粒やや多く、灰白色粒子点在する粗粒土。
  - 5 暗褐色土 砂利、小礫わずか、褐色土粒、土塊、明褐色焼土塊やや多く混入、まだら状を呈す。
  - 6 褐色土 粘性土、焼けている。
  - 7 暗褐色土 砂利、小礫やや多い、褐色、灰白色粒子やや多い。

- 層B
- 1 暗褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色、灰白色粒子やや多く、褐色土粒やや多い。
  - 2 黒褐色土 砂利、小礫点在。褐色土粒やや多く、灰白色粒子点在。
  - 3 暗褐色土 砂利、小礫多量、褐色、灰白色粒子多量褐色土粒、土塊やや多く、状況は雑色。
  - 4 暗褐色土 砂利、小礫点在。灰白色粒子点在。褐色土粒塊、焼土塊多量に混在。まだら状。
  - 5 黒褐色土 砂利、砂礫は西半部分に集中する。褐色、灰白色粒子点在し粒子はやや細かい。
  - 6 暗褐色土 灰白色粒子点在。砂利わずか、褐色土塊大量、焼土若干混入。
  - 7 黒褐色土 砂利点在。褐色、灰白色粒子点在。褐色土やや多い。
  - 8 褐色土 砂利若干、黄褐色粒子若干、暗褐色土若干混入。
  - 9 褐色土 砂利、褐色、灰白色粒子若干含む。粒子細かい。

第405図 C-274号住居跡・竈

第1節 住居跡



第406図 C-274号住居跡出土遺物

C-274号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土器 碗 坏	+11	11.7 8.3	3.3	精製	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部腹で	ほぼ完形
2	土器 器 坏	+9	13.0 8.5	3.8	微砂粒僅かに含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部腹で	完形
3	土器 器 坏	+10	(12.0) (9.0)	3.4	砂礫僅かに含む	暗黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部腹で	底部ほぼ平底

第3章 検出された遺構と遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考
4	須恵器 坏	床面	(13.0) (6.8)	3.8	砂粒僅かに 含む	灰黒色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
5	須恵器 坏	竈内	(12.6) 3.4	3.0	砂粒含む	灰黄色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	全体に磨耗している
6	須恵器 坏	+9	(12.4) 5.8	2.9	微砂粒含む	灰黒色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
7	須恵器 坏	+16	(12.6) 6.1	4.2	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
8	須恵器 坏	+18	(21.2) (6.2)	3.1	砂粒(黒色) 含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
9	須恵器 甕	+13	10.2		微砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高 台	底部片 外面を転用 履として利用
10	須恵器 甕	竈内	16.2		砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 付け高台	底部転用履
11	須恵器 蓋	+10	15.9	4.2	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 外面天井部削り	黒色微砂粒多く含む ほぼ完形
12	土師器 甕	+31	(31.0)		砂粒(褐色) 含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	

C-276号住居跡 (第407~409回、PL52・133)

位置 Cj・Ck-45 形状 不明 規模 長辺 不明、短辺 不明、壁高0.30m

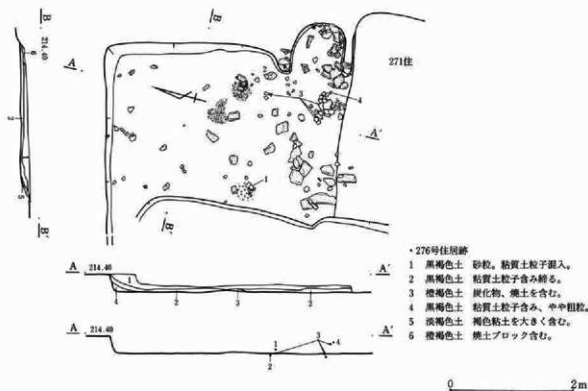
重複 C-271号住居跡を切り、288号住居跡に切られる。

埋没土 砂粒含、ローム粒子含み、下層には炭化物、若干の焼土が見られる。

床面 細かい凹凸があり、あまり締まりは無い。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

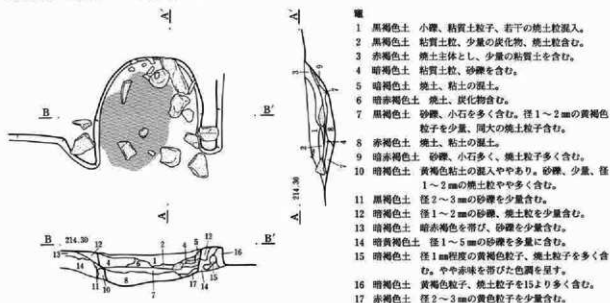


第407図 C-276号住居跡

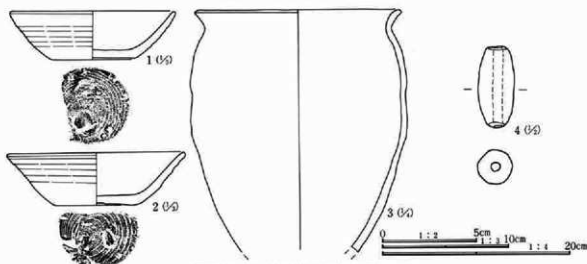
**竈** 東壁に作られている。燃焼部は壁外にU字状に掘り出されている。構築材である礫が内部に崩れ落ちた状態で検出されている。火床面は良く焼けている。

**出土遺物** ほほ全面より、やや大型の砂岩が多く出土している。土器類は須恵器環、土師器甕などの他に土鏝1点が見られる。

**調査所見** 重複等により西側部分を大きく切られている。時期は平安時代である。



第408図 C-276号住居跡・竈



第409図 C-276号住居跡出土遺物

C-276号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考
1	須恵器 杯	+4	(13.2) (6.0)	3.8	砂粒種かに 含む	暗灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
2	須恵器 杯	床面	(14.6) (6.2)	4.1	微砂(礫) 含む	暗灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
3	土師器 甕	床面	(22.0)		砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部筋削り後磨き 内 口縁部横溝で 胴部横溝で	
4	土 鏝	床面	長さ4.3cm 径1.6cm 重さ10.8g		灰白色を呈す		完形		

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### C-278号住居跡 (第410図、PL52)

位置 C1-42 形状 隅丸長方形か 規模 長辺 (3.30) m、短辺 (2.0) m、壁高 0 m

重複 C-258号住居跡、C-66号土坑と重複。

埋没土 確認できず。

床面 かなり削られており、部分的に凹凸が見られる。

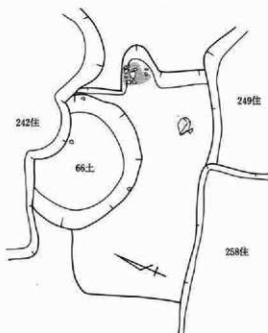
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁に小さく馬蹄形に作られる。ほとんど削られており、若干の焼土が検出されている、火床面の最下部のみ残存。

出土遺物 竈部分においてわずかに破片が見られたが、図示するには至らなかった。

調査所見 全体に削平が著しく形状、規模は不明である。北側に66号土坑 (平安時代) が重複。時期は平安時代であろうか。



第410図 C-278号住居跡

0 2m

#### C-279号住居跡 (第411図、PL52)

位置 Cn-37 形状 不明 規模 不明

重複 C-235号住居跡に南側ほとんどの部分を切られる。

埋没土 小砂礫混入する粗粒土。

床面 検出できなかった。

貯蔵穴 北東隅に検出した。上面をC-235号住居跡に削られているために、下部のみを確認した。径55cmで出土遺物はなかった。

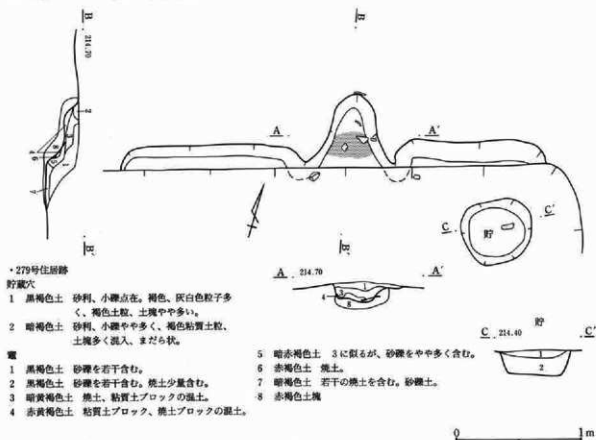
柱穴 検出されなかった。

竈 北壁に作られている。ややV字形で、小礫、粘土の混土で作られた両袖部分が残る。内面は良く焼けており、焼土ブロック、粘土ブロックが多く堆積していた。



**出土遺物** 竈内より小破片がわずかに出土しているのみである。

**調査所見** 住居のほとんどの部分を重複により切られているために、竈の付く北壁部分のみ検出した。このため遺物もほとんど見られず、時期は不明である。



・279号住居跡

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 砂利、小礫点在、褐色、灰白色粒子多く、褐色土粒、土塊やや多い。
- 2 暗褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色粘質土粒、土塊多く混入、まだら状。

竈

- 1 黒褐色土 砂礫を若干含む。
- 2 黒褐色土 砂礫を若干含む、焼土少量含む。
- 3 暗黄褐色土 焼土、粘質土ブロックの混土。
- 4 赤黄褐色土 粘質土ブロック、焼土ブロックの混土。

- 5 暗赤褐色土 3に似るが、砂礫をやや多く含む。
- 6 赤褐色土 焼土。
- 7 暗褐色土 若干の焼土を含む、砂礫土。
- 8 赤褐色土塊

第411図 C-279号住居跡・竈

C-280号住居跡 (第412~414図、PL52・53・133)

**位置** Cm・Cn-37・38 **形状** 隅丸方形か **規模** 長辺5.68m、短辺5.03m、壁高0.45m

**重複** C-221号住居跡、C-226号住居跡、C-235号住居跡、C-291号住居跡、C-296号住居跡と重複する。

**埋没土** 砂礫、黄色粒子含み粗粒。

**床面** 竈前面部分のみ比較的良好な状態で検出できた。平坦であるが、あまり堅くはない。

**貯蔵穴** 生活面調査時には確認することができなかった。掘り方調査時に北東隅に検出した。径70cm、深さ約40cmである。

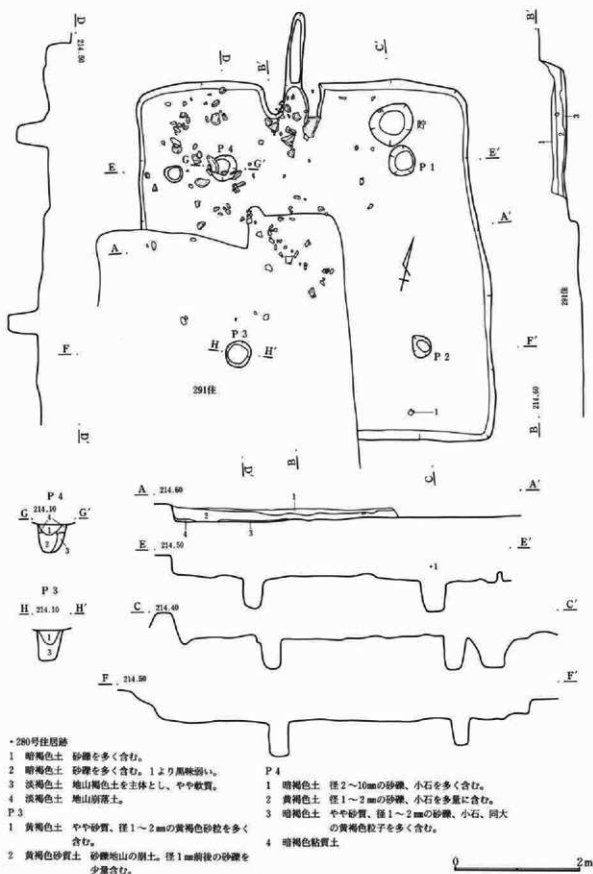
**柱穴** ほぼ対角線上に4本検出した。径約40cm、深さはいずれも50cm程である。

**竈** 北壁中央やや西寄りに作られる。袖部分はかなり崩れた状態ではあるが、50cm程住居内に延びる。焚口幅は40cm、奥行き1.7mである。構築材である石が焚口部分に散在していた。

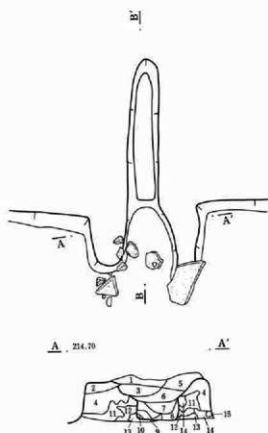
**出土遺物** 礫が多く見られたが、土器類の出土は少ない。土師器環1点のみ図示し得た。

**調査所見** 当初の調査では、重複が多く明確な壁の確認ができなかったが、最終的に掘り方を露出させた時点で、貯蔵穴、柱穴を確認した。

第3章 検出された遺構と遺物



第412図 C-280号住居跡



第413図 C-280号住居跡・竈



第414図 C-280号住居跡出土遺物

- 竈
- 1 黒褐色土 径2~3mmの砂礫、小石を少量含む。
  - 2 暗褐色土 径2~3mmの砂礫、小石、同大の黄褐色粒子をやや多く含む。
  - 3 黒褐色土 径1~3mmの砂礫、小石をやや多く含む。同大の黄褐色粒子少量含む。
  - 4 黒褐色土 やや暗い色調を呈し、径2~3mmの黄褐色粒子を少量含む。
  - 5 黒褐色土 径1~2mmの黄褐色粒子をやや多く含む。
  - 6 黒褐色土 径1~5mmの砂礫、小石をやや多く含む。
  - 7 赤褐色土 焼土、粘質土ブロックの混土。
  - 8 黒褐色土 砂礫を多く含み、若干の粘質土、焼土粒を混入。
  - 9 赤褐色土 焼土塊。
  - 10 暗褐色土 砂礫、若干の粘質土粒を含む。
  - 11 暗黄褐色土 粘質土、径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。暗褐色土ブロックを含む。
  - 12 暗赤褐色土 焼土をベースとし、径1~2mmの小石及び、暗褐色土ブロックを含む。
  - 13 暗褐色土 径1~2mmの黄褐色粒子多く含む。
  - 14 暗褐色土 径2~3mmの黄褐色粒子をやや多く含む。
  - 15 黄褐色粘質土塊

0 1m

0 1:3 10cm

## C-280号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	壘成形の特徴	備考
01	土師器 坏	+21	(13.0) (3.6)		微砂粒含む	暗褐色	具	外 口縁部横溝で 体部肩附り 内 口縁部横溝で 体部側で使風磨き	

## C-281号住居跡 (第415・416図、PL53・133)

位置 Cm・Cn-44 形状 兩丸方形 規模 長辺3.90m、短辺3.53m、壁高0.14m

重複 東部分に近世の耕作坑が重複する。

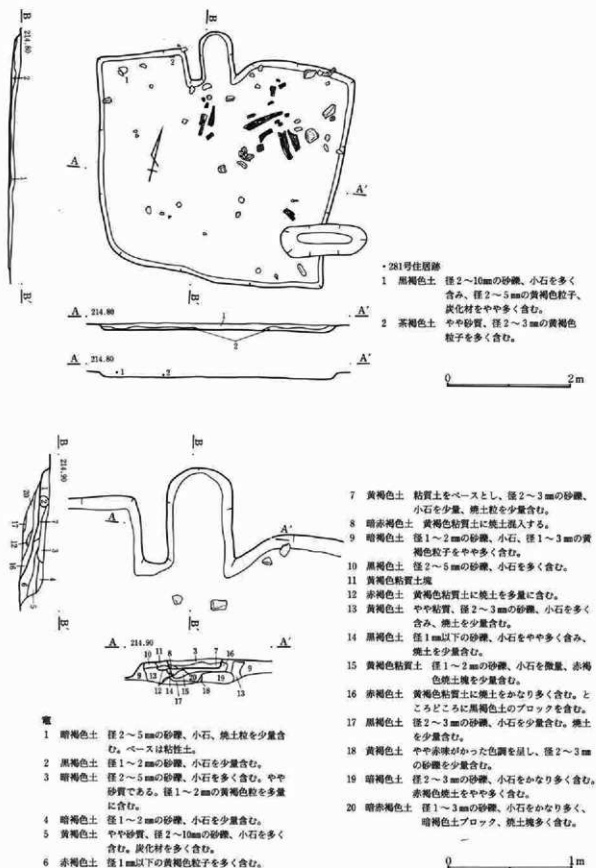
埋没土 小礫含み粗粒。

床面 比較的平坦でやや北側が高くなる。特に締まることもなく、部分的に地山の砂礫が露出する部分が見られた。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや西寄りに作られる。上部がかなり削られている。燃焼部はU字形を呈し、袖部分はあまり明瞭ではなく、礫と粘土の混土がわずかに残る程度である。



第415図 C-281号住居跡・竈

出土遺物 少ない。図示したのは土師器の坏2点のみである。

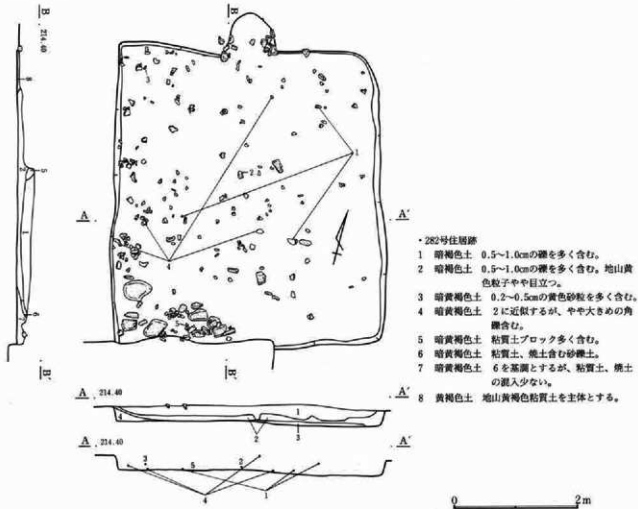
調査所見 上部を削平され、遺存状態は良くない。平面形についてもコーナー部分がはっきりしないところがある。床面に炭化材が多く見られることから、焼失住居と思われる。時期は古墳時代後期である。



第416図 C-281号住居跡出土遺物

C-281号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考	
1	土師器 坏	+6	13.0 5.0	5.0	砂粒含む	茶褐色	良	外 □縁部横撫で 内 □縁部横撫で	体部磨削り 体部磨で後磨き	ほぼ完形
2	土師器 坏	+2	(14.0)		砂粒強かに 含む	黒褐色	良	外 □縁部横撫で 内 □縁部横撫で	体部磨削り 体部磨で後磨き	



第417図 C-282号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### C-282号住居跡 (第417・418図、PL53・133)

位置 CI-36・37 形状 隅丸方形 規模 長辺4.70m、短辺4.27m、壁高0.33m

重複 C-220号住居跡(平安時代)、C-312号住居跡が重複する。

埋没土 礫を多く含む粗粒。

床面 竈前面および中央部分は比較的平坦であるが、周辺部はかなりの凹凸が見られる。

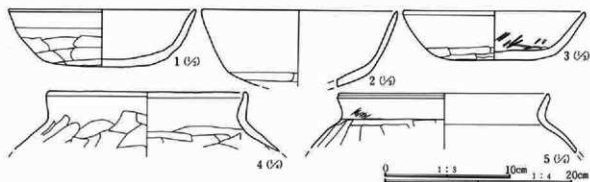
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁の中央部に作られる。本体部分上部のほとんどを、他の住居により壊されている。焼土の広がりや袖石と思われる礫が複数検出されている。

出土遺物 点数は多くはないが、ほぼ全面より土器の坏、甕などが出土している。また南西部分に大型の礫が集中して検出されている。

調査所見 他の住居により上面を削られているために、北側部分は特に遺存状態は悪い。時期は奈良時代である。



第418図 C-282号住居跡出土遺物

#### C-282号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	製成形の特徴	備考
1	土器 碗 坏	床面	(15.0)	4.5	砂粒僅かに 含む	赤茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部底で後置磨き	内面荒れている
2	土器 碗 坏	+12	(15.6)		微砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部底で後置磨き	
3	土器 碗 坏	床面	(14.2)	3.8	精製	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部底で後置磨き	内面に暗文
4	土器 碗 甕	床面		21.5	砂粒僅かに 含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部底で後置磨き	大型品
5	土器 碗 甕	床面		22.3	砂粒(赤色) 含む	橙茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部底で後置磨き	

#### C-283号住居跡 (第419・420図、PL53・133)

位置 Cg・Ch-42 形状 隅丸方形か 規模 長辺5.66m、短辺5.28m、壁高0

重複 C-188号住居跡、C-193号住居跡(平安時代)と重複する。

埋没土 砂粒含む。

床面 明確には確認できなかった。

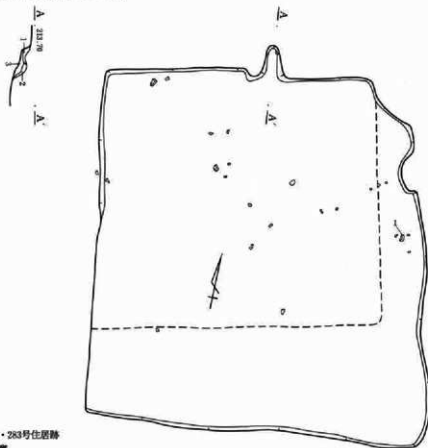
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央に作られる。袖部分は失われており、長さ約60cm程壁外に延びる。焼土塊多く見られ、地山砂礫層が焼土化していた。

出土遺物 きわめて少ない。土師器壺1点のみ図示し得た。

調査所見 重複により、壁、床面はかなり荒れた状態である。特に東、南壁に関しては確定できなかった。時期は平安時代であろう。



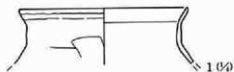
・283号住居跡

竈

- 1 黒褐色土 径1~3mmの砂礫を多く含み、若干の焼土混入。
- 2 赤褐色土 焼土塊を主体とする。
- 3 淡赤褐色土 焼土化した地山砂礫層。

0 2m

第419図 C-283号住居跡



0 10cm

第420図 C-283号住居跡出土遺物

C-283号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	構成	成形の特徴	備考
1	土師器 壺	床面	(18.0)		精製	暗茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部割り 内 口縁部横線で 胴部割り	口縁部片

C-284号住居跡 (第421~423図、PL54・133)

位置 Cr-38 形状 隅丸方形 規模 長辺3.90m、短辺3.18m、壁高0.37m

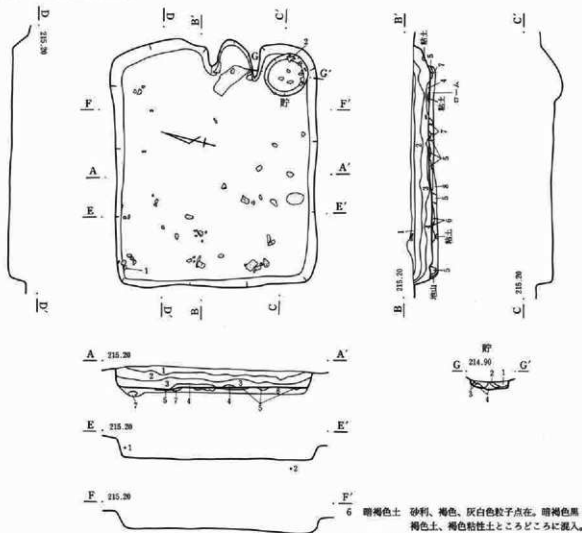
重複 C-294号住居跡(古墳時代)、C-295号住居跡を切る。

埋没土 小礫、黄色粒子多く含む。

床面 比較的平坦で、中央部分はかなり締まる。黄褐色粒、暗褐色土粒を含む粘性土で貼られている。

貯蔵穴 南東隅に検出された。円形を呈し径65cm、深さは約15cmである。

柱穴 検出されなかった。



C-284号住居跡

- 1 淡黒褐色土 砂利、小礫多量、褐色土粒多量、堆積状況は雑然たり。灰白色粒子多量。
- 2 暗褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色、灰白色粒子多量、褐色土粒、やや多く混入。
- 3 黒褐色土 砂利、小礫やや多くところどころ集中する傾向あり。褐色、灰白色粒子やや多く、褐色土粒若干。
- 4 暗褐色土 砂利、小礫点在。褐色土粒若干混入。
- 5 褐色土 黄褐色粒子、灰白色粒子点在。暗褐色土塊若干混在。粘性あり。おそらく粘床粘土。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 砂利、小礫点在。黄褐色粒子やや多く褐色土粒多量に混入。
- 2 黒褐色土 砂利、小礫点在。褐色土粒、土塊若干。
- 3 黒褐色土 砂利、小礫点在。褐色土塊若干、褐色土粒やや多い。
- 4 暗褐色土 砂利、小礫若干。褐色土多量。

0 2m

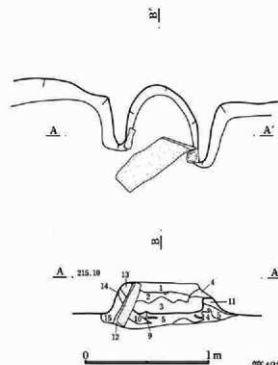
第421図 C-284号住居跡



**竈** 東壁中央やや南寄りに作られる。馬蹄形を呈し、両袖部分は砂礫多く含む粘質土で作られている。砂岩の角礫が袖石として据えられ、上に渡されていたと思われる長さ約70cmの石が、焚口部に落ちた状態で検出されている。

**出土遺物** 遺構の残りは良好であったものの、数は少ない。土師器、および須恵器の小破片がわずかに散見されたに過ぎない。

**調査所見** 壁はほぼ垂直に立ち上がりを見せ、高さは最大で40cm程を測り、比較的遺存状態の良い住居である。壁、床面ともかなりしっかりしていた。時期は奈良時代か。



第422図 C-284号住居跡・竈

- 竈**
- 1 黒褐色土 砂利点在。小礫若干、褐色土粒、粘性土塊若干混入。
  - 2 黒褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色、灰白色粒子若干、褐色土粒若干。
  - 3 褐色土 砂利、小礫若干、明褐色土塊、褐色土塊多量、黒褐色土まだらを呈す。
  - 4 暗褐色土 砂利、小礫多く、褐色、灰白色粒子多く、褐色土粒、土塊多量。
  - 5 黒褐色土 径1~2mmの砂礫、多く含む。
  - 6 黄褐色土 やや粘質、径1~2mmの砂礫多く含む、暗褐色土のブロック含む。
  - 7 暗赤褐色土 暗褐色土をベースとし、少量の砂礫、粘土多く含む。
  - 8 黒褐色土 径1~2mmの砂礫、小石を少量含む、灰、炭化材を少量含む。
  - 9 暗黄褐色土 径1~2mmの黄褐色粒子を多く含む。
  - 10 黄褐色土 やや砂質、黄褐色粒子多量に含む。
  - 11 黄褐色粘質土 径1~2mmの砂礫、小石多く含む。
  - 12 黒褐色土 径1~3mmの砂礫、小石をやや多く含む。
  - 13 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、小石をやや多く含む。黄褐色粘質土少量混入。
  - 14 暗黄褐色土 やや粘質、砂礫、小石を少量含む。
  - 15 黄褐色粘質土 径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。



第423図 C-284号住居跡出土遺物

C-284号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	構成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	+15	(11.6)		微砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部直り 内 口縁部横線で 体部直り	
2	土師器 甕	床面	(22.0)		微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直り 内 口縁部横線で 胴部直り	

C-285号住居跡 (第424・425図、PL54・133)

位置 C1-38・39 形状 不明 規模 不明

重複 C-236号住居跡、C-250号住居跡、C-252号住居跡 (古墳時代) に切られる。

第3章 検出された遺構と遺物

**埋没土** 砂礫多く含みかなり砂質。

**床面** はっきりとした面ではとらえられなかった。

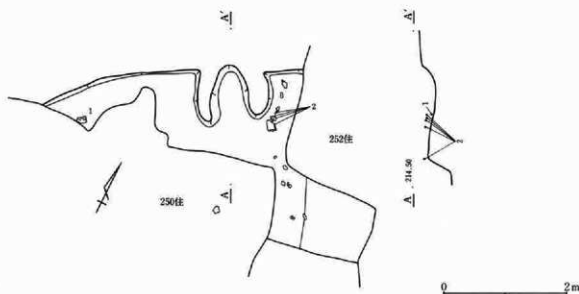
**貯蔵穴** 検出されなかった。東側に重複する住居に壊されてしまったものと思われる。

**柱穴** 検出されなかった。

**竈** 北壁に作られているが、かなり上部が削られた状況である。火床面の窪みと袖部の残骸を認めたに過ぎない。焼土の検出はごくわずかであった。

**出土遺物** 土師器の甕小片が見られたのみである。

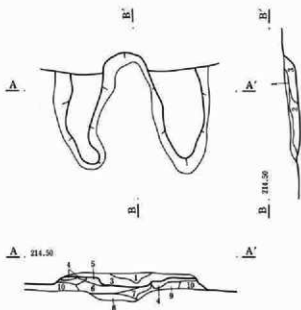
**調査所見** 重複によりほとんど削られている。竈の付く北壁の一部分を検出したに過ぎない。時期は古墳時代後期である。



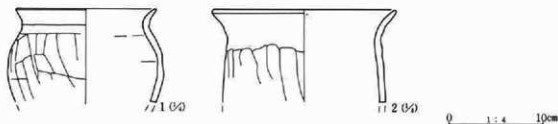
・285号住居跡

竈

- 1 黒褐色土 径1～2mmの砂礫、小石を少量、同大の黄褐色粒子をやや多く含む。
- 2 暗赤褐色土 暗褐色土をベースとし、焼土をやや多く含む。黄褐色粘土を少量、砂礫をやや多く含む。
- 3 暗黄褐色土 黄褐色粘土を多く、焼土、砂礫を少量含む。
- 4 暗褐色土 径2～4mmの砂礫、小石を少量含む。黄褐色粒子をやや多く含む。
- 5 暗黄褐色土 砂質、径1～2mmの砂礫、小石、黄褐色粒子をやや多く含む。
- 6 黒褐色土 径1～2mmの砂礫、黄褐色粒子を少量含む。
- 7 黒褐色土 粗い土をベースとし、径2～5mmの砂礫を多く、径1～2mmの黄褐色粒子少量含む。
- 8 黒褐色土 ややきめの粗い土をベースとし、径2～5mmの砂礫、小石をやや多く含む。
- 9 黄褐色土 砂質地山土の崩壊土。
- 10 黒褐色土 径2～3mmの砂礫、小石をやや多く含む。



第424図 C-285号住居跡・竈



第425図 C-285号住居跡出土遺物

C-285号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	+2	(14.9)		砂粒含む	赤褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 胴部磨削り	
2	土師器 甕	+6	(18.4)		砂粒(片岩) 含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 胴部磨削り	

## C-286号住居跡 (第426・427図、PL54・133)

位置 Cm・Cn-44 形状 隅丸方形か 規模 不明

重複 東および西側で古墳時代の住居を切るが、調査の時点で掘り下げ順序を逆にしてしまったために西および東壁は確認することができなかった。

埋没土 砂礫多く含む粗粒土であるが、大部分が削られていた状態であった。

床面 検出し得たのはわずかな面積で、ほぼ全面に地山露出面が露出している状態であった。張り床などの平坦な面としては確認されなかった。

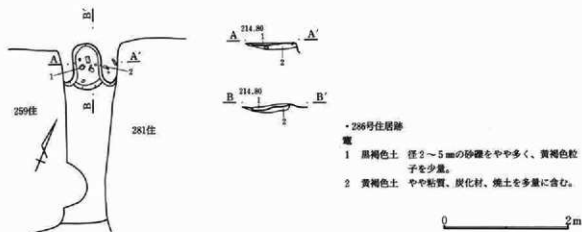
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁に作られている。本体部の上部はほとんど失われ、かなり削られた状態であった。燃焼部はU字状に掘られ、火床面は若干ぼんでいる。わずかに竈の周囲に粘土を主体とした礫混じりの土が認められた。

出土遺物 わずかに竈内において土師器の埴、甕の破片が見られたにすぎない。

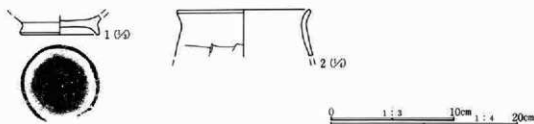
調査所見 かなり削られた状況であり、頭初その存在に気付かず調査を進めてしまったために、東および



第426図 C-286号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

西側部分を掘り下げてしまった。このため確認できたのは竈部分から南に帯状となるが、南壁部分も削平されている状態で、明確には確認できなかった。遺物は竈内においてのみ出土している。時期は平安時代である。



第427図 C-286号住居跡出土遺物

C-286号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	床面	6.2	砂粒含む	灰白色	良	ロクロ成形	付け高台、底部のみ
2	土師器 壺	床面	(14.0)	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部重削り 内 口縁部横溝で 胴部削で	

#### C-287号住居跡 (第428~430図、PL54・55・133)

位置 Cq-39・40 形状 隅丸方形 規模 長辺5.42m、短辺4.75m、壁高0.39m

重複 C-265号住居跡 (平安時代)、竈、および北壁のほとんどの部分をC-289号住居跡 (古墳時代後期) によって切られる。

埋没土 小礫、黄色土、粘土小ブロックを含みやや締まりがある。

床面 平坦で良く締まる。幅10~20cmの壁周溝がほぼ全周する。南壁際に白色の粘土が貼られた部分が認められた。

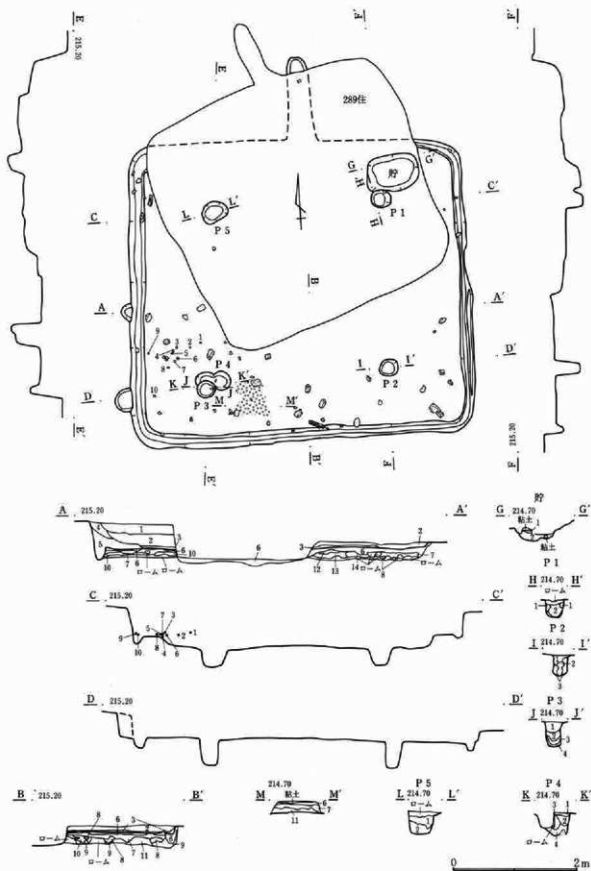
貯蔵穴 北東隅に検出された、上部を289号住居跡により削られている。やや長円形を呈し、確認した時点での長径は80cm、深さは25cmである。

柱穴 ほぼ対角線上に4本を検出した。径20~30cmで深さは20~40cmで、かなり粘性の強い土で埋まっていた。

竈 北壁の中央部に作られていたと思われるが、289号住居跡により竈を含み北壁は、ほとんど壊されている。わずかに煙道の先端部分が確認されたに過ぎない。

出土遺物 土器類は小破片のみで、図示し得たものはない。住居西壁寄りの床面上において白玉が9点と円孔を持つ長方形の滑石製品1点が出土している。

調査所見 C-289号住居跡により、竈を含む北側部分を大きく壊されていた。その他の壁については最大壁高が40cm程あり、遺存状態は良い。土器の出土はほとんど見られなかった。時期は古墳時代と思われる。

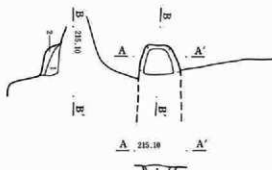


第428図 C-287号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

・287号住居跡

- 1 暗褐色土 黄褐色粒子を少量、砂礫、小石を多く、塵土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや暗い色調を呈し、径2~3mmの黄褐色粒子を1と同程度含む。
- 3 暗褐色土 粘質、径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。茶色味がかった色調を呈する。
- 4 暗褐色土 粗い土を基調とし、砂礫、小石多く含む。
- 5 黒褐色土 径2~5mmの黄褐色粒子をやや多く、径2~3mmの砂礫、小石を少量含む。
- 6 褐色土 砂礫多く、褐色粘質土塊、暗褐色土粒点在。
- 7 黒褐色土 砂礫多く、褐色粘質土粒や多く、褐色土塊、暗褐色粘質土塊若干。
- 8 暗褐色土 砂利、小礫多く、褐色粘質土土粒多量。褐色粒子多量。
- 9 暗褐色土 灰白色粒子点在。褐色粘質土粒多く含む。
- 10 褐色土 小礫多く、暗褐色土若干。褐色粘質土多量、粒子細かく、色調はやや明るい。
- 11 褐色土 砂礫多量に含み、褐色粘質土多量、暗褐色土粒とまだら状を呈す。
- 12 暗褐色土 砂利多量、黄褐色土粒、土塊、褐色粘質土塊やや多い。



第429図 C-287号住居跡・電

- 13 暗褐色土 砂礫多く、褐色土粒含む、黒褐色土も多く混入し、塵状を呈す。
- 14 褐色土 砂利、小礫多量、褐色土粒多量。

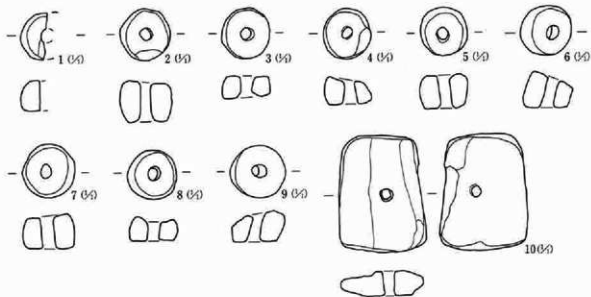
貯蔵穴

- 1 暗褐色土 砂礫やや多く、褐色、灰白色粒子若干。
  - 2 黒褐色土 砂礫、褐色、明褐色粘質土塊点在。
- P 1
- 1 暗褐色土 粘質土、砂礫点在。褐色土粒若干含む。
  - 2 黒褐色土 砂利、小礫点在。褐色土粒、粒子点在。
- P 2
- 1 暗褐色土 粘質土粒子、砂礫の混土。
  - 2 暗褐色土 砂礫少なく、粘土ブロックを多く含む。
  - 3 暗褐色土 砂礫、粘質土粒子の混土。
- P 3
- 1 黒褐色土 径0.5cm前後の砂礫、若干粘質土含む。
  - 2 黒褐色土 褐色粘土ブロック砂礫を若干含む。
  - 3 暗褐色土 褐色粘土主体とし、混入物少ない。
  - 4 暗褐色土 暗褐色粘土層。
- P 4
- 1 暗褐色土 褐色、灰白色粒子若干、粘性あり。
  - 2 黒褐色土 砂礫わずか、褐色、灰白色粒子若干、褐色粘質土粒、土塊点在。
  - 3 暗褐色土 砂利、小礫点在。褐色、灰白色粒子点在。
  - 4 暗褐色土 粘質土、地山。
- P 5
- 1 暗褐色土 砂礫多量、褐色土粒、土塊やや多く混入。
  - 2 暗褐色土 砂礫点在。褐色粘質土塊多量に混入。

竈

- 1 黒褐色土 砂利、小礫点在。褐色粒子土粒やや多く、炭粒、焼土粒若干混在。
- 2 暗褐色土 砂利、小礫、灰白色粒子点在。褐色ローム土粒やや多い。

0 1m



第430図 C-287号住居跡出土遺物

C—287号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
1	白玉	+24	高さ0.8cm	重さ0.9g	半分に割れている			滑石製		
2	白玉	+17	径1.3cm	高さ1.1cm	孔径0.3cm	重さ0.9g		両面やや凹凸有り	滑石製	
3	白玉	+10	径1.25cm	高さ0.6cm	孔径0.35cm	重さ1.5g			滑石製	
4	白玉	床面	径1.4cm	高さ0.75cm	孔径0.25cm	重さ1.6g		外周部平滑	滑石製	
5	白玉	+4	径1.25cm	高さ0.9cm	孔径0.3cm	重さ2.2g		片面未調整	滑石製	
6	白玉	+10	径1.35cm	高さ1.0cm	孔径0.3cm	重さ2.4g		片面未調整	滑石製	
7	白玉	+5	径1.4cm	高さ0.9cm	孔径0.3cm	重さ2.9g		片面未調整	滑石製	
8	白玉	+6	径1.3cm	高さ0.7cm	孔径0.35cm	重さ1.4g		両面凹面を呈す	滑石製	
9	白玉	+14	径1.5cm	高さ0.8cm	孔径0.4cm	重さ2.4g		片面未調整	滑石製	
10	有孔滑石製 製品	+15	長さ3.1cm	幅2.3cm	厚さ0.65cm	孔径0.3cm	重さ8.2g	偶丸長方形を呈す	両面、端部摩滅	滑石製

## C—288号住居跡 (第431～433図、PL55・134)

位置 Cj・Ck—45 形状 隅丸方形 規模 長辺6.22m、短辺(6.0)m、壁高0.23m

重複 C—133号住居跡(平安時代)、C—140号住居跡、C—292号住居跡に切られる。西側は進入道路部分で先行調査を行ったことから、調査は2回に分けて行った。

埋没土 小礫多く含まれる。

床面 かなり凹凸があり、地山の礫が部分的に露出している。明確な使用面としては認識できなかった。また時期不明の落ち込みが見られる。

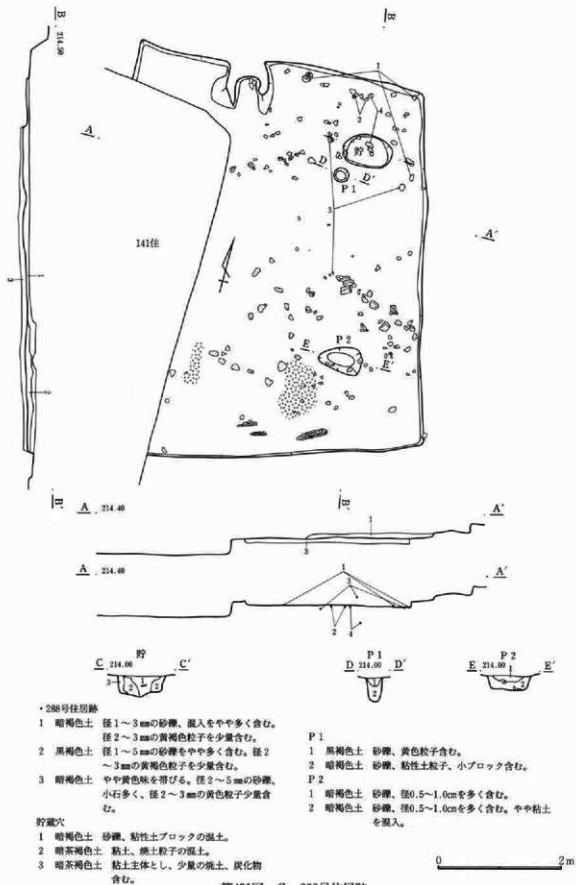
貯蔵穴 北東隅に検出されている。長円形で長径80cm、深さ40cmを測る。掘り込みはほぼ垂直で、底部は平らになっている。

柱穴 東側に2本を検出した。北側の柱穴は径20cm、深さ約40cmである。南側のものは径が大きく長円形で深さは30cmを測る。掘り込み面に地山の礫が多く露出している。西側の柱穴に関しては141号住居跡により失われている。

竈 北壁のやや西に寄った位置に作られているが、この北壁のラインについてはやや明確でない部分があった。このため袖の部分を含めた竈の形状もややはっきりしない部分がある。袖はかなり崩れ、石などの構築材は見られなかった。検出した燃焼部は小さく、壁外への煙道の掘り出しも見られなかった。火床面にはかなりの焼土が検出されている。

出土遺物 完形品は見られなかった。点数的には多くなかったが土師器環、壺などが貯蔵穴内および周辺で出土している。

調査所見 重複が多く、また西側部分は先行調査により掘ってしまっていたために、完全な形では検出できなかった。時期は奈良時代である。



・288号住居跡

- 1 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、混入をやや多く含む。  
径2~3mmの黄褐色粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 径1~5mmの砂礫をやや多く含む。径2~3mmの黄褐色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや黄色味を帯びる。径2~5mmの砂礫、小石多く、径2~3mmの黄色粒子少量含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 砂礫、粘性土ブロックの混入。
- 2 暗茶褐色土 粘土、焼土粒子の混入。
- 3 暗茶褐色土 粘土主体とし、少量の焼土、炭化物を含む。

P 1

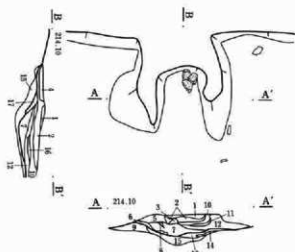
- 1 黒褐色土 砂礫、黄色粒子含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、粘性土粒子、小ブロック含む。

P 2

- 1 暗褐色土 砂礫、径0.5~1.0cmを多く含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、径0.5~1.0cmを多く含む。やや粘土を混入。

0 2m



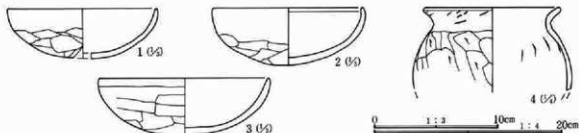


- 第432図 C-288号住居跡・竈
- 1 暗褐色土 径1～3mmの黄褐色粒子を多く含む。径2～5mmの赤褐色粒子を含む。  
 2 暗褐色土 径2～3mmの黄褐色粒子をやや多く含む。  
 3 暗褐色土 赤褐色粘質土をかなり多く含む。径1mm以下の砂粒、小石を多く含む。

- 4 暗褐色土 少量の焼土を含む。  
 5 黄褐色粘質土 径2～5mmの砂礫、小石を少量、白色粘土の粒子を少量含む。  
 6 暗褐色土 径1～2mmの砂礫をやや多く含む。  
 7 赤褐色土 粘質土をベースに多量の焼土を含む。  
 8 黄褐色土 径2～5mmの小石を多く含む。  
 9 黄褐色粘質土 やや暗味強い。径1～2mmの砂礫、小石を少量、同大の粘質土を多く含む。  
 10 黄褐色粘質土 径1～2mmの砂礫、小石、白色粘土少量、焼土をやや多く含む。  
 11 赤褐色土 径2～3mmの小石をやや多く含む。  
 12 暗褐色土 径2～3mmの小石、白色粘質土粒をやや多く含む。炭化材少量含む。  
 13 暗赤褐色土 やや粘性の強い暗褐色土をベースとし、焼土、砂礫をやや多く含む。  
 14 赤褐色土 黄褐色粘質土をベースに、赤色焼土を多く含む。  
 15 暗褐色土 径2～5mmの黄褐色粒子を多量に含む。  
 16 黒褐色土 径1～3mmの砂礫を少量含む。灰、炭化材を多量に含む。  
 17 黄褐色粘質土 黒褐色土多く混入するが、径2～3mmの砂礫をやや多く含む。

第432図 C-288号住居跡・竈

0 1m



第433図 C-288号住居跡出土遺物

C-288号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面	(12.0)	4.6	砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部腹で後置磨き	
2	土師器 杯	床面	(12.0)	(4.5)	微砂粒含む	赤褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部腹で	二次火焼を受ける
3	土師器 杯	床面	(13.6)	(4.5)	微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部腹で	
4	土師器 壺	床面	14.5		砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部腹で	

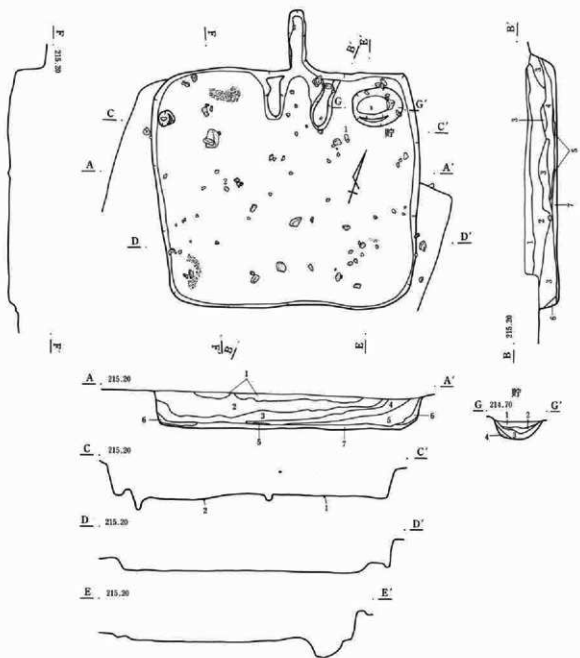
C-289号住居跡 (第434～436図、PL55・134)

位置 Cq-39・40 形状 隅丸方形 規模 長辺4.24m、短辺3.71m、壁高0.54m

重複 C-287号住居跡(古墳時代)を切る。

埋没土 上層は礫を多く含み、若干のロームブロックを混入、下層は礫の混入は少なく代わりに粘土ブロックが目立つ。

床面 平坦でかなり締まる。粘土混じりの土を用いて貼られている。



・289号住居跡

- 1 暗褐色土 径0.3~0.5cmの礫を含む。
- 2 暗褐色土 径0.3~0.5cmの礫を含む。粘性土ブロック混入目立つ。
- 3 暗褐色土 2と近似するが、礫の混入少なく、粘土ブロック含む。
- 4 淡褐色土 淡褐色粘土ブロックを主体とする。
- 5 黒褐色土 腐味強く、粘性土粒を若干含む。
- 6 黒褐色土 径1cm前後の礫を少し含む。
- 7 淡褐色土 粘性土粒、砂礫、粘土ブロックを含む。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 砂粒、黄色粒を含み、若干の粘土ブロック混入。
- 2 暗茶褐色土 粘性土、焼土ブロック、粘土ブロックの混土。
- 3 灰褐色土 暗灰色粘土、茶褐色粘土の混土。
- 4 茶褐色土 茶褐色粘土主体とする。

0 2m

第434図 C-289号住居跡

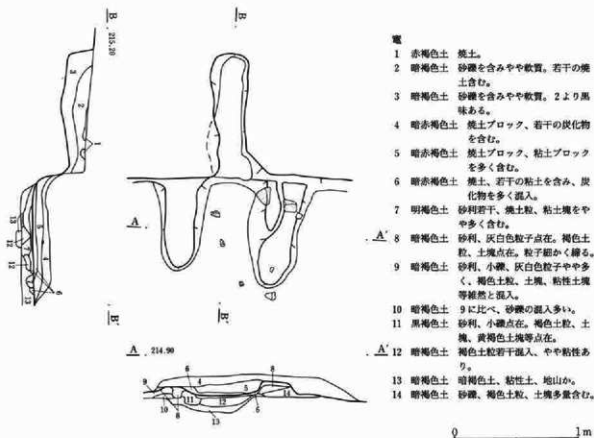
貯蔵穴 北東隅に検出されている。長円形で長径80cm、短径60cm、深さ約30cmを測る。

柱穴 対角線上に4本を検出した。床面精査時にははっきりとは検出できず、掘り方面の調査を行って検出している。径20~30cm、深さは20~30cmで北西部のものはやや不正形である。

竈 北壁はほぼ中央に作られる。本体部分はほとんど崩れており、両袖は下部のみ残っている。煙道は一段高くなり幅25cmで約1mの長さで延びている。かなり焼土が検出されており長期の使用が考えられる。

出土遺物 きわめて少なく、図示し得たのは土師器の坏が2点である。

調査所見 壁の立ち上がりもしっかりしており、全体的に遺存状態は良い。時期は古墳時代後期である。



第435図 C-289号住居跡・竈

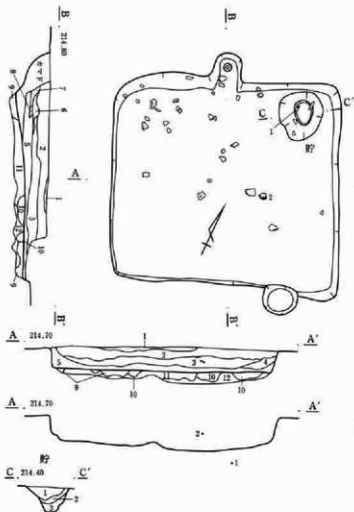


第436図 C-289号住居跡出土遺物

C-289号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床面	(14.0)		細砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横溝で 体部裏削り 内 口縁部横溝で 体部裏で後遺跡き	
2	土師器 坏	床面	(12.8)		砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横溝で 体部裏削り 内 口縁部横溝で 体部裏で後遺跡き	器内厚い

第3章 検出された遺構と遺物



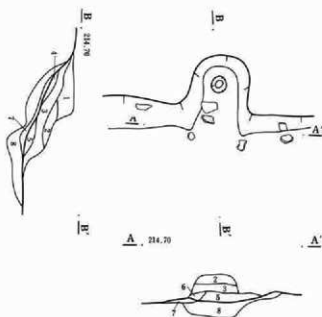
・290号住居跡

- 1 暗褐色土 砂礫、小石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや暗い色調、2~10mmの砂礫、小石は1よりやや少ない。
- 3 黒褐色土 径2~10mmの砂礫、小石は2より少なく、黄褐色粒子、焼土粒子多く含む。
- 4 暗褐色土 やや黄色味を帯びた色調を呈し、2~8mmの砂礫、小石、2~5mmの赤褐色粒子やや多く含む。
- 5 黒褐色土 やや粘性の土をベースとし、黄褐色粒子、砂礫、小石をやや多く含む。
- 6 暗褐色土 2~3mmの黄褐色粒子をやや多く、2~5mmの砂礫、小石を少量含む。
- 7 茶褐色土 2~5mmの黄褐色粒子を多く、少量の黄褐色粘質土塊を含む。
- 8 黄褐色土 黄褐色土をベースとし、2~4mmの黄褐色粒子をやや多く含む。
- 9 黒褐色土 軟質、1~3mmの砂礫、小石を多く含む。
- 10 黒褐色土 9によく類似するが砂礫、小石を多量に含む。
- 11 黄褐色土 2~5mmの砂礫を多く含む。
- 12 黄褐色土 砂質土、2~3mmの小石、砂礫を多く含む。砂質地山の崩壊土。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 2~5mmの砂礫、小石をやや多く含む。
- 2 黄褐色土 やや砂質、1~3mmの砂礫を少量含む。
- 3 暗褐色土 1~2mmの黄褐色粒子を少量含む。

0 2m



電

- 1 黒褐色土 1~5mmの砂礫、小石、黄褐色粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 1~3mmの砂礫、小石をやや多く、焼土、黄褐色粒子を少量含む。
- 3 茶褐色土 1~5mmの砂礫、小石をやや多く、1~2mm以下の黄褐色粒子を多く含む。
- 4 黄褐色粘質土 暗褐色土塊を少量含む。
- 5 黒褐色土 1~2mmの砂礫、小石を少量含む。
- 6 赤褐色焼土塊
- 7 暗赤褐色土 2~5mmの砂礫、小石を少量含む。焼土塊をやや多く含む。
- 8 暗褐色土 2~3mmの砂礫、小石を多く含む砂質。

0 1m

第437図 C-290号住居跡・電

## C-290号住居跡 (第437・438図、PL56・134)

位置 Cn・Co-37・38 形状 隅丸方形 規模 長辺3.65m、短辺3.25m、壁高0.40m

重複 南部分をC-235号住居跡(平安時代)、C-277号住居跡(平安時代)に切られる。

埋没土 小礫、黄色粒子多く含む。中層にかなりの焼土粒子を含む。

床面 やや凹凸が見られるものの比較的平坦である。竈全面および中央部分は踏み締められている。

貯蔵穴 北東隅に検出されている。径70cm、深さ約50cmで底径は小さくなる。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央に作られる。幅50cm、奥行き60cmでU字状に壁外に作り出されている。袖部分は検出されなかった。火床面ほぼ中央には径10cm程の小さな穴があり、支柱の抜き取り痕かと考えられる。

出土遺物 住居の北西よりに散見された。須恵器坏、土師器坏などが出土している。

調査所見 南側の一部を切られているが、遺存状態は比較的良好で、壁の立ち上がりもしっかりしている。時期は古墳時代後期である。



第438図 C-290号住居跡出土遺物

## C-290号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 坏	床面	(13.2)		微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部横撫り 体部横撫で
2	須恵器 坏	+27	(12.0)		砂粒含む	灰色	良	外 口縁部横撫で 内 横撫り(右)	体部横撫で、底部 横撫で

## C-291号住居跡 (第439・440図、PL56・134)

位置 Cm-38 形状 隅丸方形 規模 長辺4.02m、短辺4.00m、壁高0.60m

重複 C-226号住居跡(平安時代)、C-252号住居跡(平安時代)、C-280号住居跡(古墳時代)に切られる。埋没土 砂礫、地山黄色土ブロックを含み、かなり締まる。

床面 凹凸かなり見られ、所所に地山層が露出している。

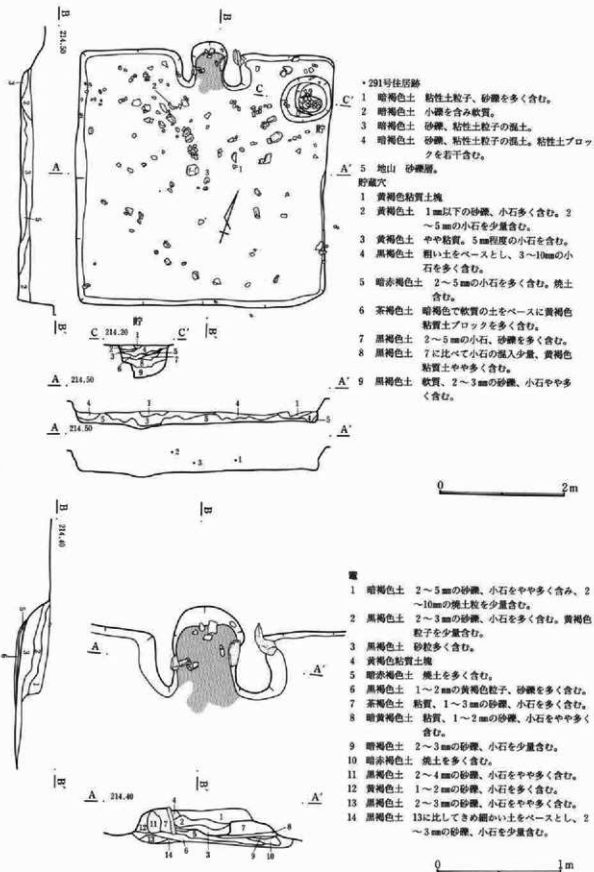
貯蔵穴 北東隅に検出された。東壁に接して掘り込まれる、やや長円形を呈し、長軸径は約80cm、短軸径は70cmで深さは50cmである。西部分は2段に掘られている。

柱穴 検出されなかった。

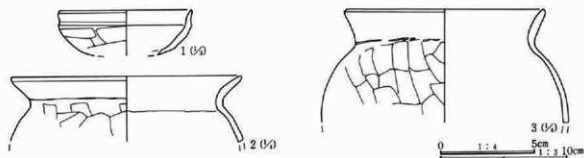
竈 北壁のほぼ中央に作られる。本体部分は馬蹄形に掘られ、両袖部分は40cm程の長さで壁内に作り出されている。焚口部左右には偏平な石が据えられており、特に右側には重なった状態で複数枚見られた。火床面は良く焼けており、焼土が多く観察された。

出土遺物 土師器の坏、壁の破片類が見られた。

調査所見 かなり重複が多く、各壁の上部は削られている部分が多く、明瞭でないところがある。竈のある北壁は比較的良好な遺存状態が良く、遺物の検出状況もやや北に集中して多く見られた。時期は古墳時代後期である。



第439図 C-291号住居跡・電



第440図 C-291号住居跡出土遺物

C-291号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	器成形の特徴	備考
1	土師器 杯	+17	(10.6)		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏側より 内 口縁部横線で 体部裏側より	体部外面割落
2	土師器 壺	+35	(24.6)		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏側より 内 口縁部横線で 胴部裏側より	
3	土師器 壺	+16	21		小礫含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏側より 内 口縁部横線で 胴部裏側より	

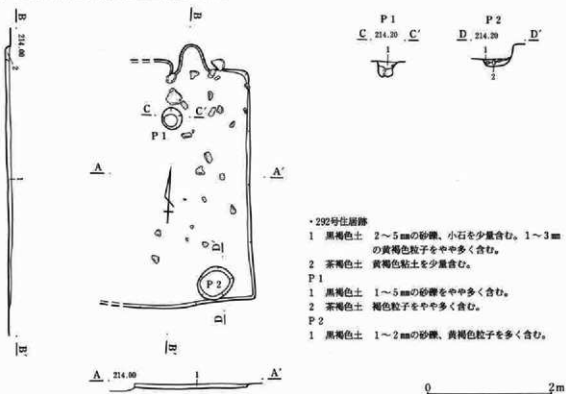
C-292号住居跡 (第441・442図、PL57)

位置 CJ-45 形状 不明 規模 長辺 (3.44 m)、短辺 (2.0 m)、壁高 0.08 m

重複 C-133号住居跡、C-140号住居跡、C-288号住居跡と重複する。また西側は側道部分にあり、先行調査を行った部分である。

埋没土 砂礫多く含む砂礫土。

床面 地山の礫層が露出し凹凸が顕著である。



第441図 C-292号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

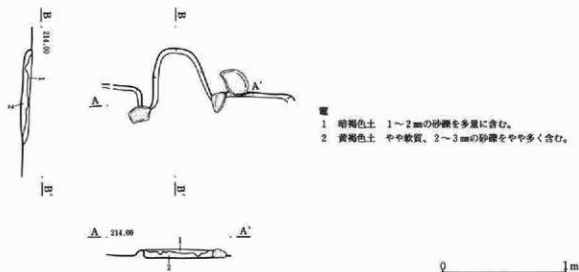
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁に作られている。かなり壊れた状態で、上部はほとんど削られている。U字状に壁外に掘り出され、2個の袖石と思われる河原石が見られる。焼土はほとんど検出されなかった。

出土遺物 ほとんど見られなかった。

調査所見 遺存状態はきわめて悪い、重複が多く、掘り込みも浅かった。時期についても不明である。



第442図 C-292号住居跡・竈

C-293号住居跡 (第443・444図、PL57・134)

位置 Ck-45・46 形状 不明 規模 不明

重複 C-276号住居跡、C-288号住居跡に切られる。

埋没土 砂礫含み若干の焼土粒が混入する。

床面 検出した部分が極めて狭く、はっきりしないが比較的平坦である。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁に作られる。幅50cm、奥行き30cm程度壁外に掘り出されている。袖部分は明瞭ではなく、石などの構築材も出土していない。

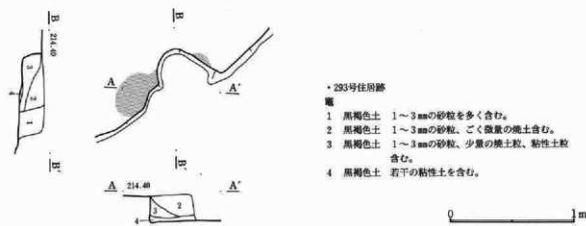
出土遺物 土器はわずかに小破片が見られたにすぎない。

調査所見 かなりうじて竈部分を残し、他はほとんど壊された状態で、全容は不明である。時期は古墳時代後期であろう。



第443図 C-293号住居跡・出土遺物





第444図 C-293号住居跡・竈

## C-293号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高 器底厚	胎土	色調	構成	整形の特徴	備考
1	釘	覆土	長さ4.9cm 幅0.35cm 厚さ0.3cm	重さ1.6g	頭頂部が折れ曲がる			断面ほぼ円形	

## C-294号住居跡 (第445~447図、PL57・134)

位置 Cq・Cr-38 形状 隅丸方形 規模 長辺4.86m、短辺4.75m、壁高0.45m

重複 C-274号住居跡(平安時代)が北西隅に、C-284号住居跡(古墳時代)が北東部分に重複する。

埋没土 小礫多く含み、わずかに黄褐色粘土ブロックを混入する。また下層には炭化材、焼土粒子が少量含まれる。

床面 比較的平坦で、中央部分を中心に良く踏み締められている。粘土と若干の礫を含んだ土でしっかりと貼られた状態である。また床面直上に炭化材が見られた。

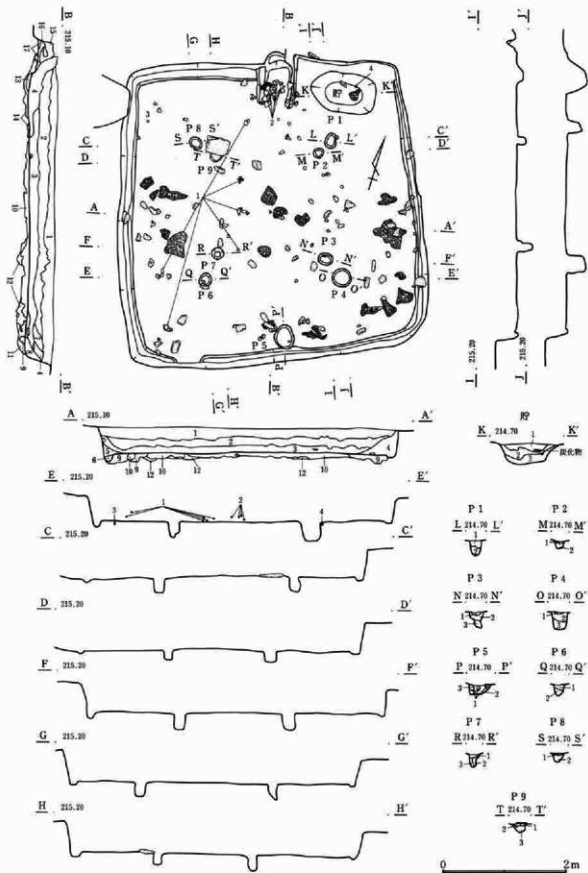
貯蔵穴 北東隅に検出された。長円形を呈し、長軸径約1m、短軸径約60cmで深さは約30cmを測る。中層より炭化材が出土している。

柱穴 ほぼ対角線上に4本を検出した。径は20~30cmで深さも20~30cmである。また、それぞれの柱穴には中心方向内側に、約20cmほど離れて別の柱穴が検出されている。これらは径がやや小さいものの深さは20~30cm程ある。立て替えよりは補助柱穴と考えられる。

竈 北壁ほぼ中央に作られている。右側半分を284号住居跡により、上部をかなり削られている。焼部本体は幅40cm、奥行き60cm程で壁外への掘り出しは少なく、袖は白色粘土と礫、ロームの混土で築かれている。埋土下層には焼土、炭化物、ローム粒が多く見られ、火床面は床面とほぼ同レベルであった。

出土遺物 点数は少なく、土器類は土師器の壺、坏が図示し得たのみである。覆土中より白玉が1点出土している。

調査所見 部分的に他の住居に切られた所はあるものの、遺存状態は比較的良かった。壁高は最大で50cm近くを認め、ほぼ垂直の掘り込みをもつ。壁周溝がほぼ全周し、4本の柱穴とそれらに伴う補助柱穴を確認した。また南壁中央に径約30cm、深さ20cmのピットを検出している、入り口施設に関係するものであろうと推定されるが、具体的な用途は不明である。床面に多くの炭化材が見られることから焼失住居であろうか、時期は出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第445図 C-294号住居跡

・294号住居跡

- 1 暗褐色土 砂礫、黄褐色粒子、黄褐色土塊少量含む。
  - 2 暗褐色土 砂礫、黄褐色粒子、黄褐色粘質土塊少量含む。
  - 3 黒褐色土 小砂礫、黄褐色粒子、礫土、炭化材含む。
  - 4 黒褐色土 小石多く含む。黄褐色粒子微量含む。
  - 5 黒褐色土 黄褐色粘質土塊、黄褐色粒子多く含む。
  - 6 暗褐色土 黄褐色粘質土塊、黄褐色粒子多く含む。
  - 7 暗褐色土 黄褐色粒子、黄褐色粘質土塊多く含む。
  - 8 暗褐色土 径1~2mmの黄褐色粒子を含み散置。
  - 9 暗黒褐色土 小礫、粘性土塊、暗褐色粘性土塊混在。
  - 10 暗褐色土 砂利、小礫点在。固く締り、粘性あり。
  - 11 暗褐色土 10に比べ、褐色粘性土の混入多く締まる。
  - 12 暗褐色土 砂礫、灰白色粒子点在。やや粘性あり。
  - 13 黒褐色土 砂利質、明褐色土塊点在。褐色土塊若干。
  - 14 暗褐色土 淡褐色焼土粒多く、明褐色土塊若干。
  - 15 暗褐色土 砂利、小礫多量、褐色粒多量。
  - 16 褐色土 砂利、小礫やや多量、灰褐色粘土粒多量。
  - 17 暗褐色土 砂利、小礫やや多量、褐色土粒やが多い。
- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土 礫、灰白色粒子、褐色土塊含む。
  - 2 暗褐色土 礫点在。褐色土粒、土塊多く含む。
  - 3 暗褐色土 褐色、灰白色粒子点在。締りあり。

P 1

- 1 暗褐色土 褐色、灰白色粒子、褐色粘性土塊含む。
  - 2 暗褐色土 褐色、灰白色粒子、褐色粘性土塊含む。
- P 2
- 1 暗褐色土 灰白色粒子若干含む。やや粘性あり。
  - 2 暗褐色土 褐色、灰白色粒子点在。黒褐色土塊含む。

P 3

- 1 暗褐色土 灰白色粒子点在。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土 褐色、灰白色粒子点在。やや粘性あり。
- 3 黒褐色土 小礫点在。暗褐色粘性土塊若干。

P 4

- 1 黒褐色土 砂利、小礫点在。褐色、灰白色粒子点在。
- 2 暗褐色土 やや粘性あり。砂利若干、褐色土塊多量。
- 3 暗褐色土 褐色土塊多く、小礫点在。やや粘性あり。

P 5

- 1 暗褐色土 砂利、褐色、灰白色粒子点在。
- 2 暗褐色土 黒褐色、褐色、灰白色粒子点在。
- 3 暗褐色土 褐色、灰白色粒子点在。やや粘性あり。

P 6

- 1 暗褐色土 褐色、灰白色粒子若干、黒褐色土若干。
- 2 暗褐色土 灰白色粒子点在。褐色土やや斑状。

P 7

- 1 暗褐色土 褐色、灰白色粒子、褐色土粒若干含む。
- 2 暗褐色土 2に近似するが、褐色土の混入の度合低い。
- 3 暗褐色土 砂礫、褐色粒、褐色粘性土塊若干含む。

P 8

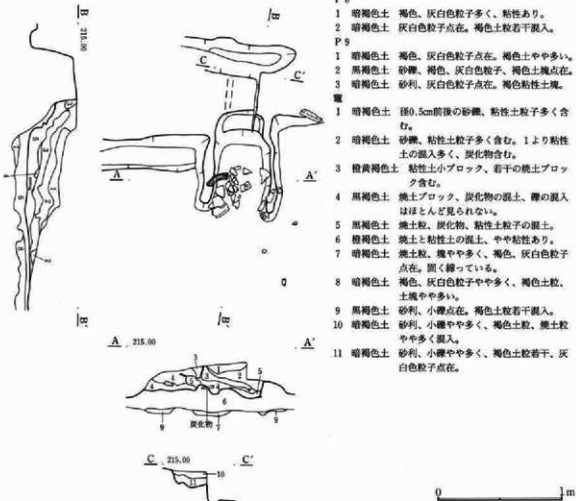
- 1 暗褐色土 褐色、灰白色粒子多く、粘性あり。
- 2 暗褐色土 灰白色粒子点在。褐色土粒若干混入。

P 9

- 1 暗褐色土 褐色、灰白色粒子点在。褐色土やや多い。
- 2 黒褐色土 砂礫、褐色、灰白色粒子、褐色土塊点在。
- 3 暗褐色土 砂利、灰白色粒子点在。褐色粘性土塊。

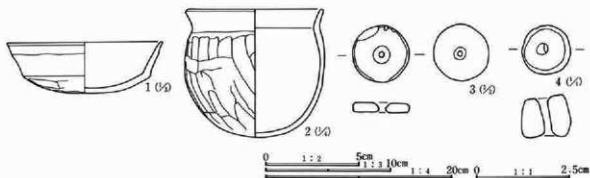
■

- 1 暗褐色土 径0.5cm前後の砂礫、粘性土粒子多く含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、粘性土粒子多く含む。1より粘性土の混入多く、炭化物含む。
- 3 橙黄褐色土 粘性土小ブロック、若干の焼土ブロック含む。
- 4 黒褐色土 焼土ブロック、炭化物の混入、礫の混入はほとんど見られない。
- 5 黒褐色土 焼土粒、炭化物、粘性土粒子の混入。
- 6 暗褐色土 焼土と粘性土の混入。やや粘性あり。
- 7 暗褐色土 焼土粒、塊やや多く、褐色、灰白色粒子点在。固く締っている。
- 8 暗褐色土 褐色、灰白色粒子やや多く、褐色土粒、土塊やや多い。
- 9 黒褐色土 砂利、小礫点在。褐色土粒若干混入。
- 10 暗褐色土 砂利、小礫やや多量、褐色土粒、焼土粒やや多く混入。
- 11 暗褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色土粒若干、灰白色粒子点在。



第446図 C-294号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第447図 C-294号住居跡出土遺物

C-294号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考
1	土師器 坏	+2	(12.4)	4.0	微砂粒僅かに含む	黄褐色	普通	外 口縁部横溝で 体部磨削 内 口縁部横溝で 体部磨削	
2	土師器 甕	竈内	14.8	13.5	砂粒含む	淡褐色	普通	外 口縁部横溝で 胴部磨削 内 口縁部横溝で 胴部磨削	ほぼ球形
3	有孔円盤	床面	径3.1cm	厚さ0.6cm	孔径0.3cm	重さ7.5g	穴の断面は鼓状を呈す	砂岩製	
4	白玉	床面	径1.3cm	高さ1.1cm	孔径0.3cm	重さ2.4g	周辺部縦方向の製作痕	片面は未調整	蛇紋岩製

C-295号住居跡 (第448~450図、PL57・58・134)

位置 Cr・Cs-38・39 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.66m、短辺3.33m、壁高0.53m

重複 南西隅をC-274号住居跡(平安時代)に、南東隅をC-284号住居跡(古墳時代)に切られる。

埋没土 砂粒含み、褐色粘土ブロックの混入目立つ。

床面 平坦で比較的締まる、粘土主体の黄白色土で貼られている。壁周溝が北西隅、および南壁から南東隅にかけて断続的に検出されている。

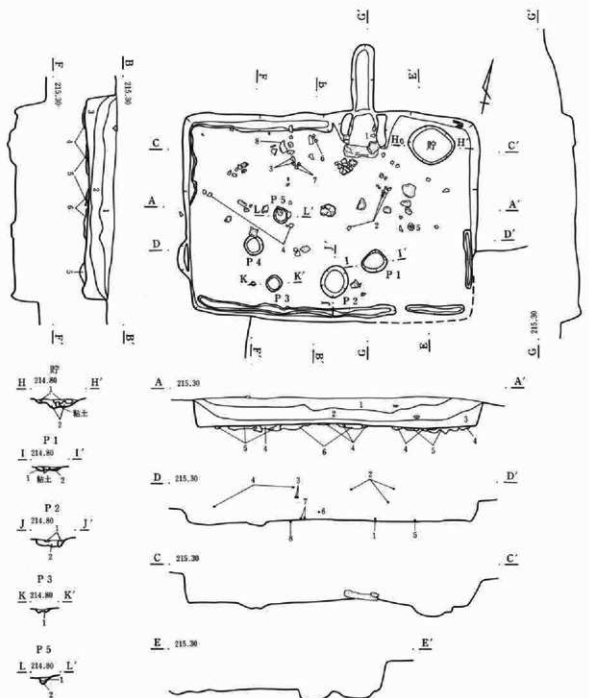
貯蔵穴 北東隅に検出された。やや長円形で長軸径70cm、深さは約20cmである。底面にはやや凹凸が見られた。

柱穴 数カ所かのピットが住居の南寄りに検出されているが、柱穴と確定できなかった。南壁寄りの2穴は入り口施設に関係するものであろうか。

竈 北壁中央やや東寄りに作られている。袖部が約50cmの長さで住居内に作られ、段差をもち煙道が幅30cm、長さ約1.1mで壁外に延びている。焚口部手前には天井部分に渡されていたと考えられる、天井石が下に落ちた状態で検出されている。また両側には袖石が見られた、右側の袖石は手前に倒れ込んで天井石にやや載る状態で検出された。いずれも砂岩のやや厚手の石を用いている。竈内部は焼土塊および粘土ブロックを多く混入した土で埋まっていた。

出土遺物 竈前面から中央部分にかけて、須恵器の壺、土師器の坏、甕など10数点が見られたが、数はあまり多くはなかった。

調査所見 住居南側の両隅を切られているが、全体的に遺存状態は良好である。床下土坑が住居西および東側に2カ所検出されている。時期は古墳時代後期である。



## ・295号住居跡

- 1 暗褐色土 褐色粘土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 砂粒、若干の粘土ブロックを含む。黄色粒子目立つ。
- 3 暗褐色土 砂粒多く含み、粘土ブロック若干含む。
- 4 褐色土 砂礫、褐色粘性土多量を含む。
- 5 暗褐色土 砂礫、褐色、灰白色粒子多量含み、褐色土粒、土塊若干。
- 6 淡褐色土 砂利、小礫やや多く淡褐色土塊、褐色土塊多量に混入。

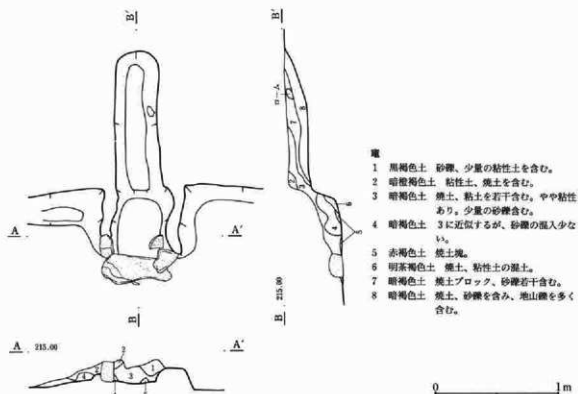
## 貯蔵穴

- 1 暗褐色土 やや粘性あり。砂利、小礫やや多く、褐色粒子、土粒、土塊、粘性土塊等やや多く混入。まだら状を呈す。
  - 2 黒褐色土 砂利、小礫やや多く、褐色粒子、土粒やや多く、灰白色粒子やや多い。
- P 1・2・3・5 共通
- 1 黒褐色土 砂粒含む。
  - 2 蒸褐色土 地山粒子を主体とし、若干の砂粒含む。

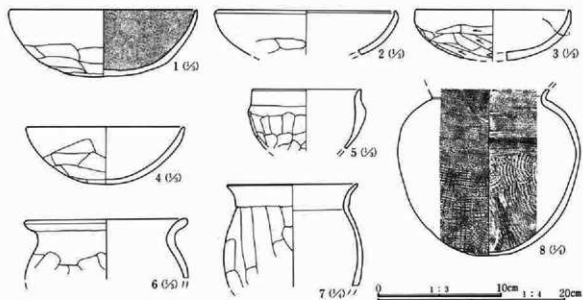
0 2m

第448図 C-295号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第449図 C-295号住居跡・竈



第450図 C-295号住居跡出土遺物

C-295号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考
1	土師器 杯	+3	15.0	5.2	砂礫含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部裏で後置削き	内面黒色
2	土師器 杯	+30	(14.6)		微砂粒僅か に含む	暗灰褐色	普通	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部裏で	表面やや風化
3	土師器 杯	+35	(12.5)		微砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部裏で	

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
4	土師器 坏	+30	(12.8)		砂粒僅かに 含む	暗褐色	普通	外 口縁部横撫で 体部直削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
5	土師器 小型壺	床面	8.8		微砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部直削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	小型品
6	土師器 小型壺	+11	(13.0)		微砂粒含む	黒茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部直削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
7	土師器 壺	床面	(14.0)		小礫含む	橙茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部直削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
8	須恵器 壺	床面			精製	灰色	良	外 胴部上半かき目、下半部格子目叩き 内 上半部横撫で下半部海渡文	やや小型

## C-296号住居跡 (第451・452図、PL58・134・135)

位置 Cm-37 形状 隅丸長方形 規模 長辺 (4.0) m、短辺 (3.42) m、壁高0.1m

重複 C-221号住居跡、C-280号住居跡、C-301号住居跡と重複する。

埋没土 礫を多く含みかなり粗粒である。

床面 比較的平坦な面を認めたが、北側部分は明確ではない。

貯蔵穴 検出されなかった。

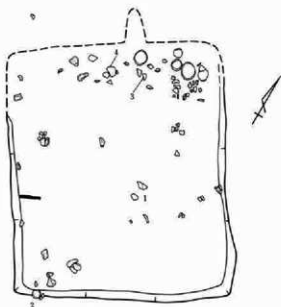
柱穴 検出されなかった。

竈 痕跡を含めて検出されなかった。

出土遺物 重複のために、住居境のやや暖味な北壁に寄った部分において、据えられたような状態で土師器壺、坏などが見られた。

調査所見 重複による削平が著しく北側部分については、前後関係のはっきりしないところもあったために、壁に関しても確定できなかった。これに対して南側部分は比較的遺存状態が良く、20cm程の壁高を計測する。

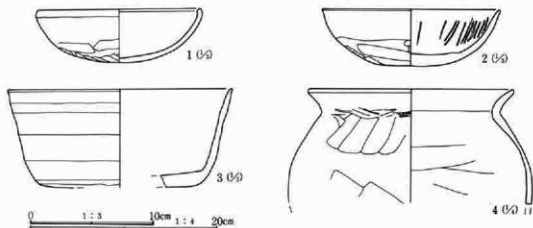
出土遺物から時期は奈良時代と思われる。



0 2m

第451図 C-296号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第452図 C-296号住居跡出土遺物

C-296号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
1	土師器 鉢	床面	13.0	4.2	微砂粒僅かに含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部裏削り 体部裏で	
2	土師器 鉢	+20	(14.2)	4.4	微砂粒僅かに含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部裏削り 体部裏で後施磨き	内面放射状の施磨き痕
3	須恵器 鉢	+10	(18.0)		微砂粒含む	灰黄色	良	口縁部横撫で 口縁部横撫で	胴部裏で後施磨き	土師質
4	土師器 甕	+18	(22.0)		砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部裏削り 胴部裏で	

C-298号住居跡 (第453・454図、PL58・135)

位置 Ck・Cl-37 形状 隅丸方形か 規模 長辺4.20m、短辺(2.30)m、壁高0.40m

重複 C-236号住居跡(平安時代)、C-248号住居跡(平安時代)が西側に、C-282号住居跡(古墳時代)が東側半分程を切る。

埋没土 砂礫多く含み地山黄褐色粘土をブロック状に混入している。

床面 やや凹凸が見られ、締りがない。

貯蔵穴 検出されなかった。

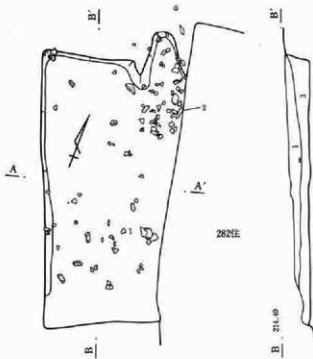
柱穴 検出されなかった。

竈 北壁に作られる。右側袖部分の一部は282号住居跡により削られている。焚口幅はおおよそ60cm、現状での奥行きは約80cmである。袖は礫と粘土との混土で、かなり固く締まる。袖石は見られなかった。火床面には焼土、炭化物が見られた。

出土遺物 かなりの部分が失われていたために、数は比較的少なかった。竈前面にやや集中して見られたが、ほとんどが破片である。手捏土器、土師器類などが見られた。

調査所見 東側はC-282号住居跡により床面下まで切られており、西側、南側部分についてもかなり削られた状況であった。貯蔵穴はおそらく切られてしまった部分にあったものと思われ、柱穴に関しては検出されなかった。時期は古墳時代後期である。

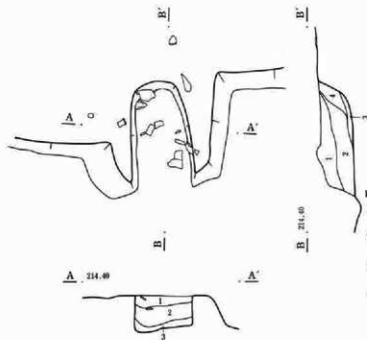




・298号住居跡

- 1 暗褐色土 砂礫多量に含み、わずかに粘性土を混入。
- 2 茶褐色土 茶褐色粘土を主体とする。
- 3 暗褐色土 砂礫を含まず、粘性土の混入やや多い。

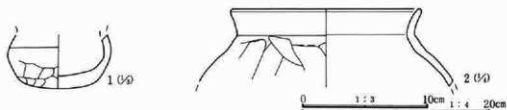
0 2m



- 1 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、小石を少量含む。焼土をごく微量含む。
- 2 黒褐色土 径2~5mmの砂礫、小石をやや多く、径1~2mmの黄褐色粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 径1~2mmの砂礫、黄褐色粒子、焼土粒を多く含む。炭化材を少量含む。
- 4 黒褐色土 きめの細かい土をベースとし、砂礫、黄褐色粒子を少量含む。

0 1m

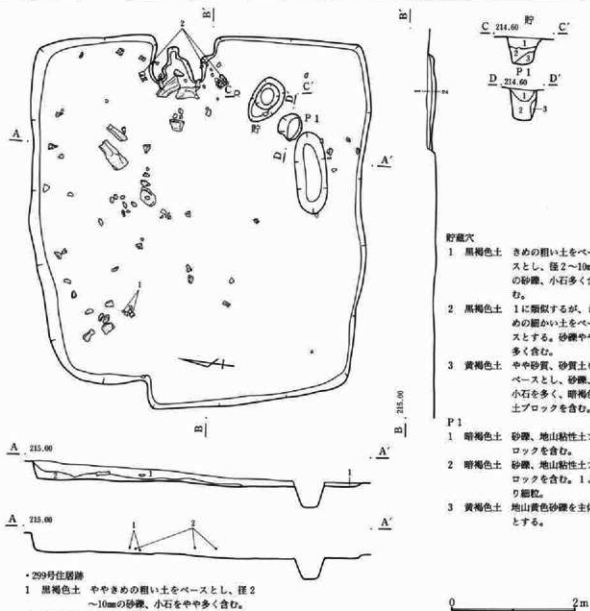
第453図 C-298号住居跡・竈



第454図 C-298号住居跡出土遺物

C-298号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 小型壺	+3			微砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部覆削り 内 口縁部横線で 胴部削り	小型、広口
2	土師器 壺	+8	(20.4)		微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部覆削り 内 口縁部横線で 胴部削り	



第455図 C-299号住居跡

## C-299号住居跡 (第455~457図、PL58・135)

位置 Cm・Cn-43・44 形状 隅丸方形 規模 長辺5.85m、短辺5.30m、壁高0.30m

重複 南西部分をC-281号住居跡(古墳時代)に切られる。

埋没土 礫を含み粗粒。

床面 比較的平坦であるが、やや南に傾斜する。

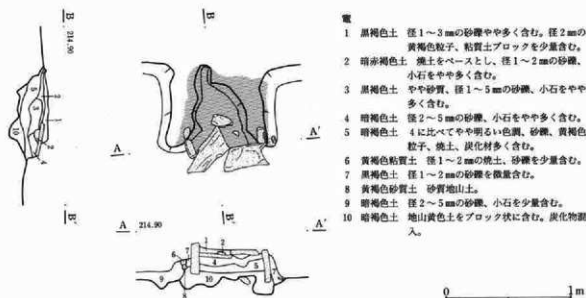
貯蔵穴 南東隅に検出した、長円形で長軸径75cm、短軸径45cmで深さは約40cmである。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁に作られる。袖は礫と黄白色粘土との混土で作られている。焚口部には両側に板状の砂岩が据えられており、手前には焚口天井部に渡されていた石が、二つに折れた状態で出土している。石は床面からやや浮いた状態である。

出土遺物 わずかに土師器坏、壺を図示し得たにすぎない。

調査所見 一部を切られている他は、遺存状態は良好である。時期は古墳時代後期である。



第456図 C-299号住居跡・竈



第457図 C-299号住居跡出土遺物

C-299号住居跡遺物観察表

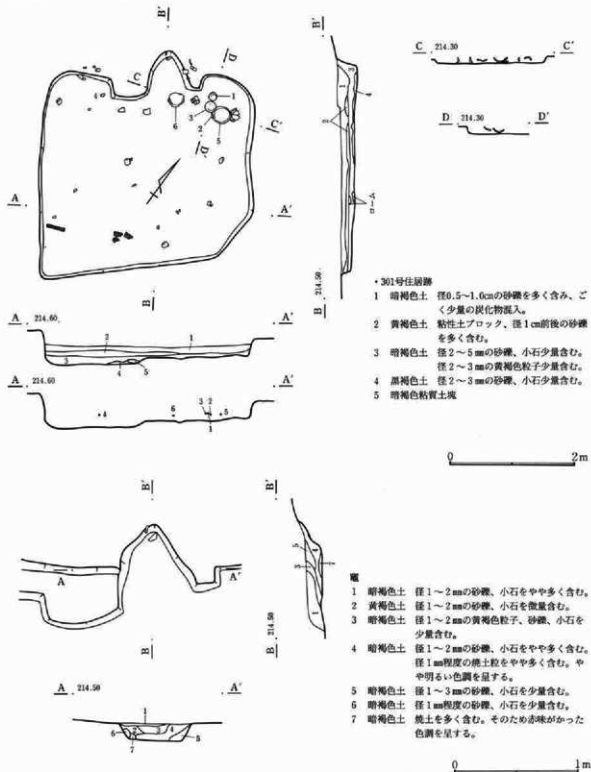
番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	脚高	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 坏	+4	(14.2)		小礫僅かに 含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 体部無筋り 内 口縁部横線で 体部無で後尾筋き	
2	土師器 壺	+7	15.8		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部無筋り 内 口縁部横線で 胴部無で	

C-301号住居跡 (第458・459図、PL59・135)

位置 Cm・Cn-37 形状 隅丸方形 規模 長辺3.38m、短辺3.04m、壁高0.30m

重複 C-296号住居跡、C-221号住居跡(平安時代)に上部を削られている。

埋没土 砂礫、黄褐色粒子多く含む粗粒。



第458図 C-301号住居跡・竈

床面 面としては検出し得なかったが、セクション断面に薄い貼床の層を認めた。

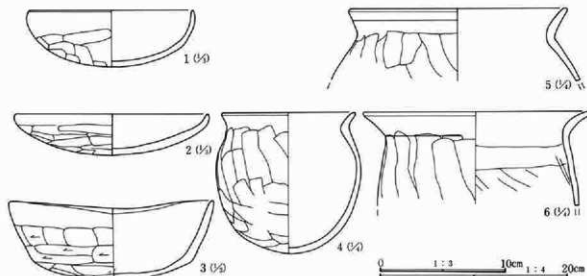
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁のやや東寄りで作られている。上部を削平されているために遺存状態は悪い。本体部分はV字状に掘り出され、袖の構造なども明確ではない。小礫に混じり、若干の焼土が見られた。

出土遺物 竈前面から右側部分にかけて土師器の壺および完形の環頸が床面より出土している。

調査所見 重複のために壁については不明瞭な部分が多く、竈は燃焼部の下部のみの調査であった。遺物は住居の北東部分に集中しており、完形品も含まれている。いずれも置かれたような状態で出土している。時期は古墳時代後期である。



第459図 C-301号住居跡出土遺物

C-301号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高 底径(cm)	胎土	色調	焼成	製成形の特徴	備考
1	土師器 杯	+7	(13.0)	4.5	微砂粒含む	橙茶褐色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り	完形
2	土師器 杯	+5	(16.0)	(3.3)	微砂粒僅かに含む	淡橙色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り	
3	土師器 杯	+7	16.4	6.2	精製	淡橙色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り	完形
4	土師器 壺	+17	14.4	14.8	砂粒僅かに含む	茶褐色	良	外 □縁部横線で 胴部削り 内 □縁部横線で 胴部削り	
5	土師器 壺	+5	23.3		砂粒含む	灰褐色	良	外 □縁部横線で 胴部削り 内 □縁部横線で 胴部削り	大型品 □縁部から 胴部
6	土師器 壺	+6	24.2		砂粒僅かに含む	茶褐色	良	外 □縁部横線で 胴部削り 内 □縁部横線で 胴部削り	内面に煤付着

C-302号住居跡 (第460・461図、PL59・135)

位置 Cl・Cm-46 形状 隅丸方形 規模 長辺4.57m、短辺4.52m、壁高0.12m

重積 C-96号土坑(平安時代)が住居内に掘り込まれている。

埋没土 わずかに堆積部分を認めたに過ぎない、小礫を多く含む。

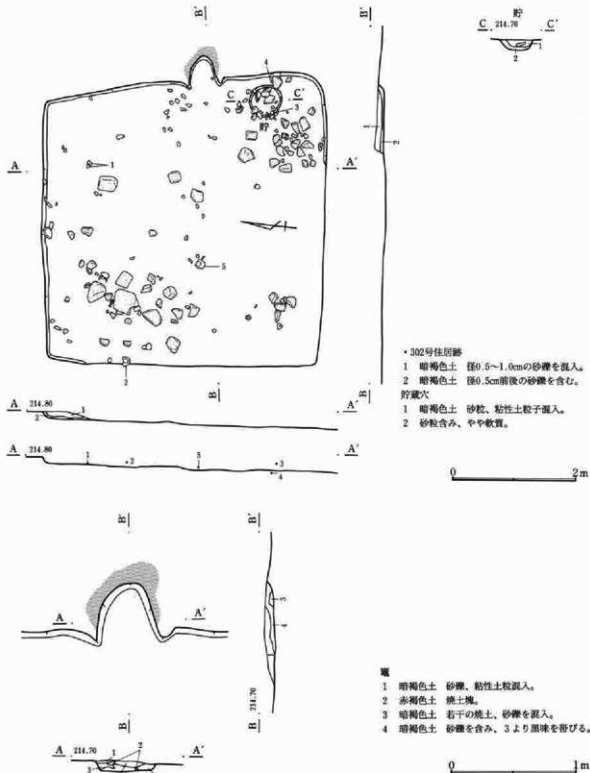
床面 かなりの凹凸が見られ、一面としてとらえられなかった。地山の礫が所所に露出する。中央やや北西に寄ったところに礫を多量に出土した96土坑が掘り込まれている。

第3章 検出された遺構と遺物

**貯蔵穴** 南東隅に検出した。ほぼ円形を呈し、径約50cm、深さは30cmで中からは糠が多く検出されている。

**柱穴** 検出されなかった。

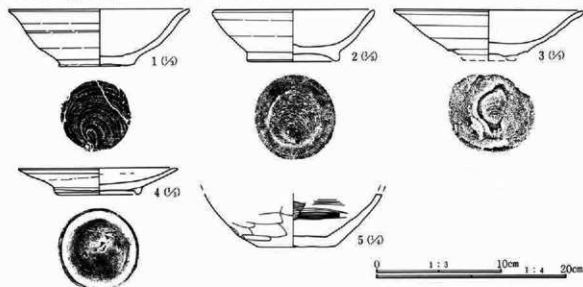
**竈** 東壁中央やや南寄りに作られている。ほとんど削平された状態で、火床面の下部のみ確認したに過ぎない。先端部分に焼土が認められた。



第460図 C-302号住居跡・竈

**出土遺物** かなり多くの礫に混じり、住居内に散在した状況で検出されている。点数は少なく、須恵器の埴類を数点図示した。

**調査所見** 削平部分が多く、壁に関しては辛うじて東壁を確認したに過ぎない。礫の混入が多く、土器類は混じり込んだ様子で出土している。時期は平安時代である。



第461図 C-302号住居跡出土遺物

C-302号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考
1	須恵器 埴	床面	(14.4) 6.0	4.5	砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	ロクロ成形 底部回転糸切り	土師質
2	須恵器 埴	+6	13.0 7.0	4.1	微砂粒含む	黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	土師質
3	須恵器 埴	+10	(15.2)		微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	高台欠
4	灰輪皿	床面	12.6 6.2	2.1	精製	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	軸重は受け掛け 完形
5	土師器 甕	+5			砂粒僅かに 含む	茶褐色	良	外 胴部寛削り 内 胴部無で	底部のみ

C-304号住居跡 (第462図、PL59)

**位置** Cm・Cn-43 **形状** 隅丸方形か **規模** 長辺5.24m、短辺(1.50)m、壁高0.10m

**重複** 西側を大きくC-299号住居跡(古墳時代)に切られる。

**埋没土** 砂礫、黄色粒子多く含む。

**床面** 凹凸はあまり見られないが、南に緩く傾斜している。締まりは無く、地山の礫が部分的に見られる。

**貯蔵穴** 北東隅に作られる。東西にやや長い長円形を呈し、深さは約20cmである。

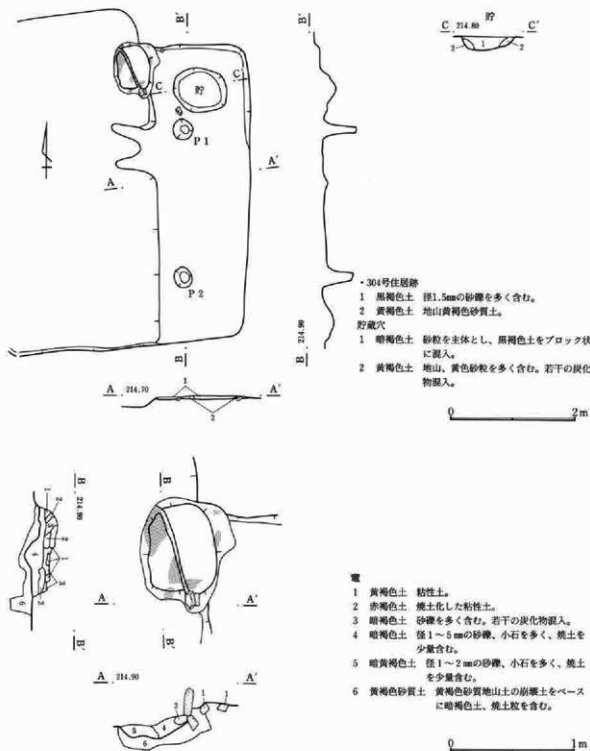
**柱穴** 東側に2本を検出した。西側にもあったものと思われるが、重複により削られている。

**竈** 北壁に作られている。西側半分はC-299号住居跡により壊されている。右側の袖石と火床面のみ検出した。

**出土遺物** 出土遺物はほとんど見られなかった。

**調査所見** 西側半分を重複により壊されている。また南部分は上からの削平により壁は失われている。出土遺物がほとんど見られなかったために時期は不明である。古墳時代後期か。

第3章 検出された遺構と遺物



第462図 C-304号住居跡・電

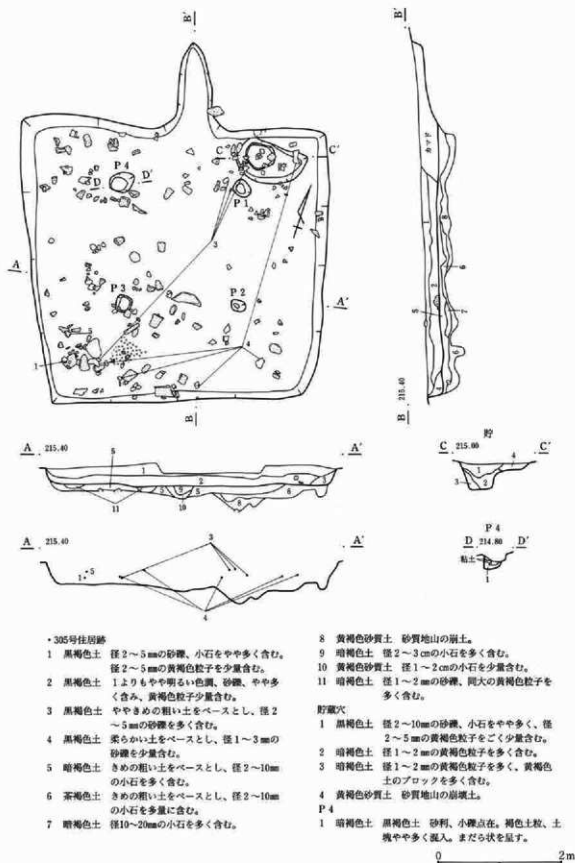
C-305号住居跡 (第463~465図、PL59・60・135)

位置 Cp・Cq-42・43 形状 隅丸方形 規模 長辺4.71m、短辺4.35m、壁高0.29m

重複 幅50cm程の耕作溝が東西に走るが、掘り込みは床面にまでは達していない。

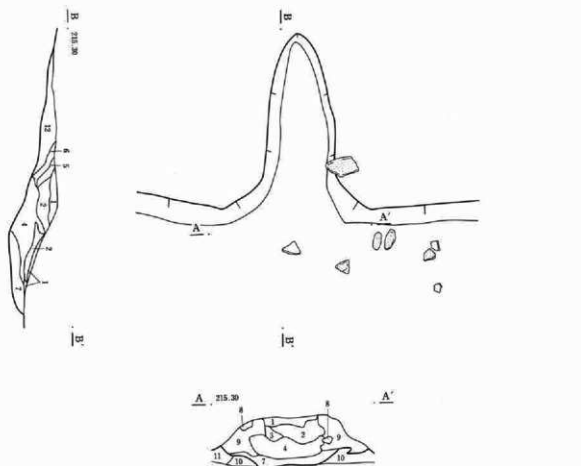
床面 平坦で比較的踏み締められている。とくに電前面および中央部は顕著である。





第463図 C-305号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



■

- 1 暗黄褐色土 やや粘質、径1mm以下の黄褐色粒子やや多く、暗褐色土ブロック少量含む。
- 2 黒褐色土 径2～10mmの砂礫、小石多く含む。焼土粒少量、黄褐色粒子及び、黄褐色土ブロックやや多く含む。
- 3 暗褐色土 ベースとなる土は暗褐色土であるが、径1～5mmの黄褐色粒子ならびに、黄褐色土ブロックを非常に多く含む。
- 4 赤褐色土 焼土をベースとし、ところどころに暗褐色土ブロックを少量含む。
- 5 暗赤褐色土 径1～2mmの砂礫をやや多く、同大の暗褐色土粒子を少量、同大の焼土粒を多量に含む。焼土ブロック多く含む。
- 6 黒褐色土 径1～2mmの焼土粒を多く含む。
- 7 暗褐色土 径1～2mmの黄褐色粒子、砂礫をやや多く含む。
- 8 暗褐色土塊
- 9 黄褐色粘質土 径1～5mmの砂礫、小石を多く含む。焼土を微量含む。
- 10 暗褐色土 径1～2mmの砂礫、小石、同大の黄褐色粒子を多く含む。
- 11 暗褐色土 10よりやや明るい色調を呈し、径1～2mmの黄褐色砂礫を多く含む。
- 12 暗褐色土 径1～5mmの砂礫、小石、黄褐色粒子少量、同大の焼土粒を微量含む。炭化材混入。

0 1m

第464図 C-305号住居跡・竈

**埋没土** 小礫多く含む粗粒、若干の黄色砂粒含む。

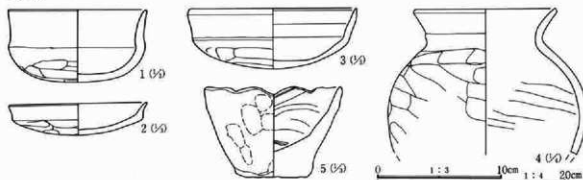
**貯蔵穴** 北東隅に検出した。平面形はやや不定形で東部分に中段を持つ。深さは40cm程である。

**柱穴** 床面調査時は検出できなかったが、掘り方面の調査を行った時点で柱穴と思われる掘り込みを確認した。ほぼ対角線上に4本あり、確認時の径は20~30cmで、深さは10~30cmとややばらつきが見られた。

**竈** 北壁ほぼ中央に作られている。礫混じりの粘土で作られた袖部分が馬蹄形に残る。焚口幅40cm、奥行き約70cmを測る。燃焼部下層には多量の焼土が混入していた。

**出土遺物** 土師器壺、坏類他に手捏土器が見られる。貯蔵穴周辺と南西隅に多く検出された。

**調査所見** 遺存状態は比較的良かった。重複により切られた部分もほとんど無く、壁高もほぼ平均した高さで残る。遺物は量的には多くはなかったが、ほぼ全面から礫を多く伴い出土している。時期は古墳時代中頃である。



第465図 C—305号住居跡出土遺物

C—305号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	要成形の特徴	備考
1	土師器 坏	+10	11.0	5.3	微砂粒含む	黄褐色	良	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	
2	土師器 坏	竈内	(11.0) (2.5)		砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	
3	土師器 坏	+24	13.4		微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で後磨き	
4	土師器 壺	+9	15.4		微砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部撫で	胴部がかなり締まる
5	手捏ね土 器	+20	(11.2)	7.1	砂粒含む	黄褐色	良	内外面撫で整形	外面指頭痕跡、底部厚く作られる

C—306号住居跡 (第466~468図、PL60・135・136)

**位置** Cm—45・46 **形状** 隅丸方形か **規模** 長辺4.55m、短辺4.15m、壁高0.17m

**重複** C—96号土坑、C—302号住居 (平安時代) に南西部分を大きく切られる。

**埋没土** 礫を多く含む、粗粒。

**床面** 住居、土坑が重複しており明確な面は確認できなかった。

**貯蔵穴** 北東隅に径35cm、深さ10cm程の小さな掘り込みを検出した。

**柱穴** 検出されなかった。

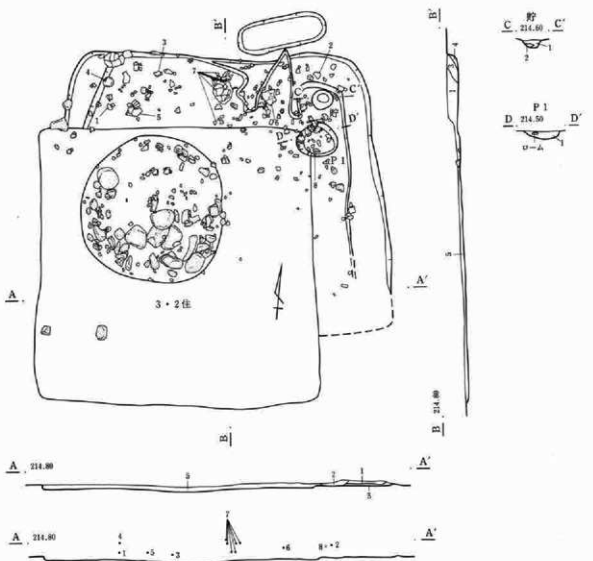
**竈** 北壁やや東寄りに作られている。上部は削られており、袖部分は粘土で作られているが、かなり崩れた状況である。また竈の前方には長円形の耕作坑が掘られている。ただ竈の付く壁については調査時点ではっきりしない部分があり、他の遺構の存在も考えられる。

**出土遺物** 竈周辺部および北壁際部分にかなりの破片が見られた。土師器の坏、甕、須恵器の坏、蓋などが

第3章 検出された遺構と遺物

見られた。

**調査所見** 重複により、壁の立ち上がりは明確にはつかめなかった。南壁については推定である。また竈の付く北壁についても、2段の壁を確認しており、別な遺構の存在も考えられる。時期は奈良時代である。



・306号住居跡

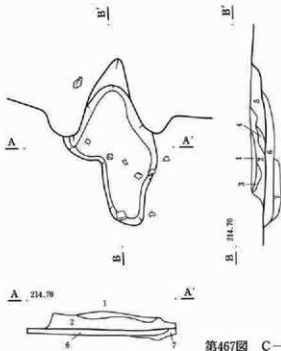
- 1 黒褐色土 砂礫、1～5mmを含む。
- 2 赤褐色土 焼土を多く含む。
- 3 黒褐色土 砂礫、粘性土粒子混入。
- 4 黄褐色土 粘性土、黄色砂礫を含む。
- 5 黒色土 少量の砂礫を含む、黒味強い。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 粘性土粒、小ブロックを含む。
  - 2 黄褐色土 粘性土塊を主体とする。
- P 1
- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む、粘性土粒子混入。

0 2m

第466図 C-306号住居跡

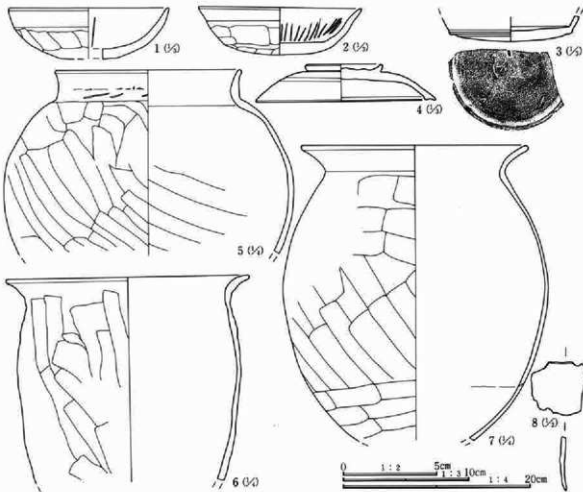


竈

- 1 暗赤褐色土 やや粘質、径1~2mmの砂粒を少量、  
焼土を多く含む。
- 2 黒褐色土 径1~3mmの砂礫、小石をやや多く含む。
- 3 暗黄褐色土 径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。
- 4 赤褐色土 焼土を多量に含む。
- 5 暗褐色土 径2~3mmの砂礫、小石をやや多く含む。
- 6 暗褐色土 径5mm前後の砂礫を含み、少量の炭化物  
を含む。
- 7 暗褐色土 6に似るが、粘性土を多く混入。

第467図 C-306号住居跡・竈

0 1m



第468図 C-306号住居跡出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

C-306号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口徑 底徑(cm)	胎土	色調	構成	整成形の特徴	備考
1	土器器 環	+13	12.4	砂粒僅かに 含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部覆削り 内 口縁部横線で 体部削り後磨き	内面放射状磨き痕
2	土器器 環	+20	(13.0) 3.8	微砂粒僅かに 含む	褐色	良	外 口縁部横線で 体部覆削り 内 口縁部横線で 体部削り後磨き	内面に放射状磨き 痕
3	灰釉環	+14		精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転削り後削り調整 削り出し高台	
4	須恵器 蓋	+17	14.2 2.9 6.2	精製	灰色	良	ロクロ整形 外面天井部覆削り	口縁部が細かく打ち 欠かれている
5	土器器 壺	+14	20.0	砂粒僅かに 含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部覆削り 内 口縁部横線で 胴部削り	
6	土器器 壺	+19	26.0	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部覆削り 内 口縁部横線で 胴部削り	砂粒の混入顯著
7	土器器 壺	+15	24.0	微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部覆削り 内 口縁部横線で 胴部削り	大型品
8	鏝	+17	長さ2.8cm 幅2.8cm 厚さ0.2cm 重さ3.3g 欠損品 錆化著しい					

#### C-307号住居跡 (第469・470図、PL60・136)

位置 Cm-47 形状 隅丸方形 規模 長辺2.55m、短辺2.36m、壁高0.44m

重複 C-127号住居跡(奈良時代)の調査を進める過程で、北東隅に若干の張り出し部を認め、精査を行ったところ重複と判明した。壁は北側の一部と西および南側の最下部のみ確認されている。

埋没土 砂礫含む粗粒土。

床面 C-127号住居跡にほとんど覆われているために検出できなかった。

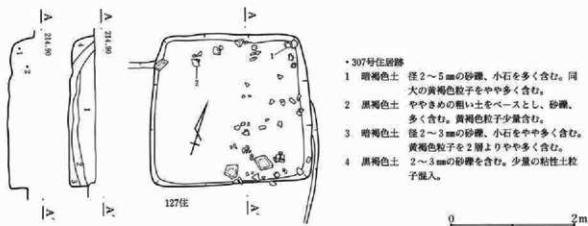
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。

出土遺物 若干の土器器環、壺の破片類および紡錘車1点を検出した。

調査所見 1辺約2.5mとかなり小形の竪穴である。ほとんどの部分を切られてしまっているために、全容は不明である。竈をはじめ一切の住居内施設が見られなかったことから、住居跡ではない可能性が高いが、本編ではとりえず住居跡として扱う。時期は古墳時代後期である。



第469図 C-307号住居跡



第470図 C-307号住居跡出土遺物

C-307号住居跡遺物観察表

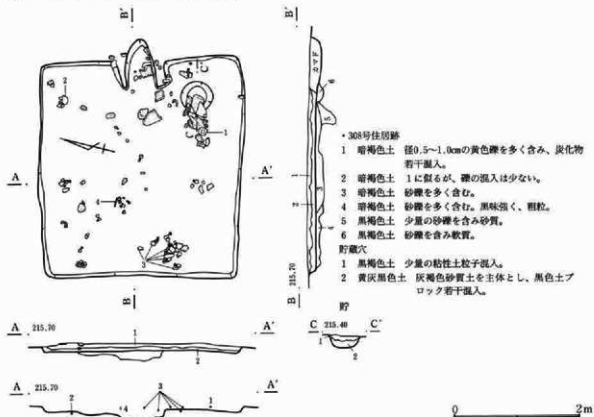
番号	器種	出土位置 (cm)	口徑 底径(cm)	器高 底高	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土器 壺	+10	12.2	4.8	砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り	完形
2	土器 壺	+14	(17.9)		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	
3	紡錘車 覆土		長さ(5.0)cm 高さ1.7cm 重さ22.4g 約半分を欠く、土製品 弥生か						

C-308号住居跡 (第471~473図、PL60・61・136)

位置 Cr・Cs-42 形状 隅丸方形 規模 長辺3.38m、短辺3.24m、壁高0.13m

重複 C-326号住居跡の北壁に重複する。

埋没土 砂礫多く含む、若干の炭化物混入。



第471図 C-308号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

床面 はっきりしなかった。凹凸が平坦でかなり締まる。礫を含む粘性土で貼られている。

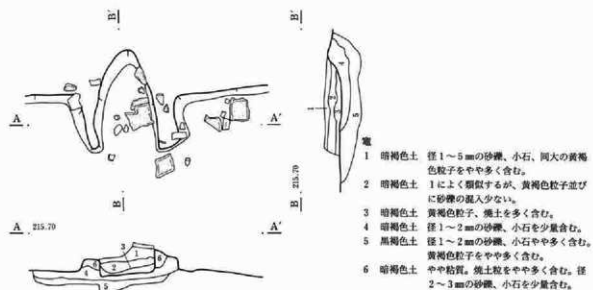
貯蔵穴 南東隅に検出された。円形を呈し、径約50cm、深さ約20cmを測る。

柱穴 検出されなかった。

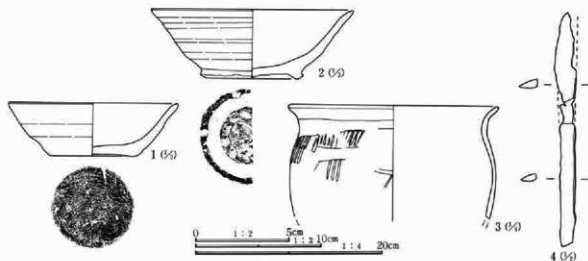
竈 東壁中央に作られる。V字形に壁外に掘り出され、両袖部は礫を含む粘土で作られる。火床面より焼土が検出されている。

出土遺物 竈の周辺および西壁付近においてやや集中して見られた。点数は少なく、土器類は土師器甕、須恵器の埴が見られた他、刀子が1点出土している。

調査所見 他の遺構に切られた部分は無かったが、掘り込みは約10cmと、かなり浅く、あまり良好な遺存状態ではなかった。床面は比較的しっかりしており、良好な面が検出された。出土遺物は少なく、床面よりやや浮いた状態のものが多かった。時期は平安時代である。



第472図 C-308号住居跡・竈



第473図 C-308号住居跡出土遺物



C-308号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 器底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+6	13.5 7.0	4.2	微砂粒含む	明灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
2	須恵器 埴	床面	(16.0) (5.2) (4.0)		砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高 台	
3	土師器 壺	床面	22.4		微砂粒僅か に含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部旋削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	底の当たり痕顯著
4	刀子	+5	長さ12.5cm 幅1.2cm 厚さ0.5cm 重さ12.7g					錆化著しく刃部の状態悪い	

## C-309号住居跡 (第474~476図、PL61・136)

位置 Cp-47・48 形状 隅丸方形 規模 長辺3.42m、短辺3.35m、壁高0.15m

重複 C-320号住居跡、358号住居跡を切る。

埋没土 小礫多く含み、粘土ブロック若干混入する。

床面 平坦で良く踏み締められている。

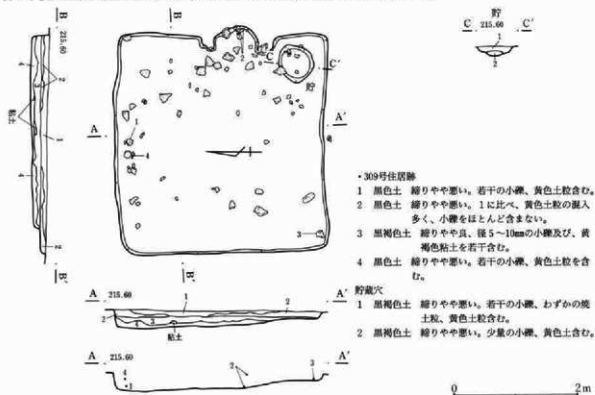
貯蔵穴 南東隅に検出された。径60cm、深さ約20cmである。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央に作られる。かなり壊れた状態で、構築材の石が散乱していた。焚口幅60cm、奥行き40cmである。袖を作っていたと思われる粘土などはほとんど見られなかった。

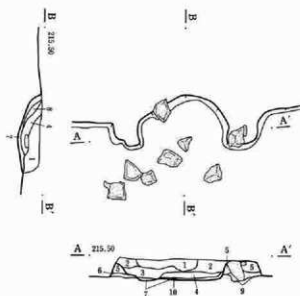
出土遺物 数は少ない。土師器坏、須恵器坏、埴が出土している。

調査所見 他の遺構により切られた部分はなかったが、掘り込みはあまり深くはなかった。遺物は竈前面部分に、見られたが点数は少ない。礫の出土が目立った。時期は平安時代である。

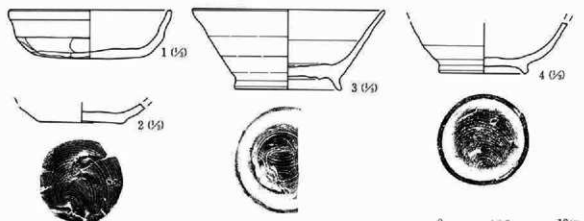


第474図 C-309号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物



第475図 C-309号住居跡・竈



第476図 C-309号住居跡出土遺物

#### C-309号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+8	(13.0) (3.9) (9.5)	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横溝で 体部腹削り 内 口縁部横溝で 体部無で	
2	須恵器 坏	+4	6.8	微砂粒含む	灰白色	良	口クロ整形 底部回転糸切り	底部片
3	須恵器 埴	+5	(15.4) 6.3 (8.7)	微砂粒僅かに含む	灰色	良	口クロ整形 底部回転糸切り	付け高台
4	須恵器 埴	+19	7.2	砂粒僅かに含む	暗灰色	良	口クロ整形 底部回転糸切り	付け高台

#### C-310号住居跡 (第477~479図、PL61・136・137)

位置 Cr・Cs-48 形状 隅丸方形 規模 長辺5.65m、短辺5.53m、壁高0.43m

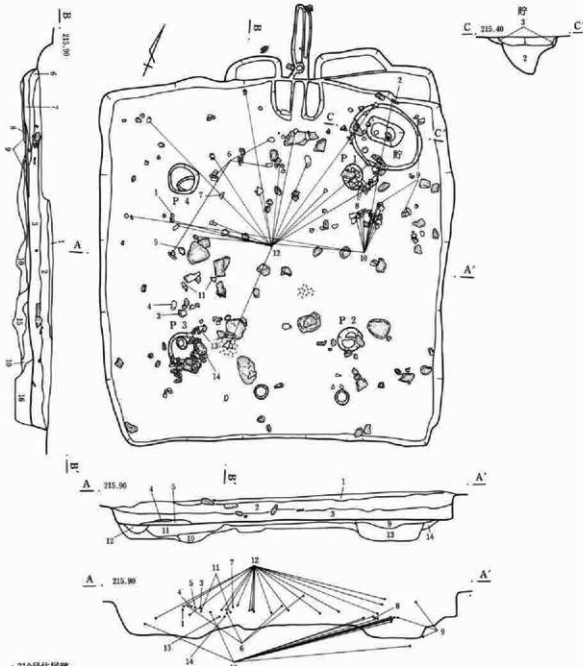
重複 C-351号住居跡と重複する。

埋没土 多量の礫と若干の炭化物含む。

床面 比較的平坦で締まる、中央部分がやや高まる。

#### 竈

- 1 暗褐色土 締りやや良。黄褐色粘土のブロックを多量に含む。微細炭化物わずかに含む。
- 2 黒褐色土 締りやや良。若干の小礫、わずかの焼土粒、微細炭化物含む。
- 3 暗褐色土 締りやや良。黄褐色粘土ブロック少量及び、少量の焼土、若干の炭化物含む。
- 4 暗褐色土 3に比べ黄褐色粘土の混入及び、焼土、炭化物少ない。
- 5 褐色土 締りやや良。黄褐色粘土ブロックを主体とする。焼土粒、微細炭化物わずかに含む。
- 6 黒褐色土 締りやや悪い。黄色土粒の少量含む。細粒の砂礫層。
- 7 黒褐色土 締りやや悪い。若干の黄色粘土、焼土含む。カマド掘り方アーク土。
- 8 暗褐色土 締りやや良。若干の黄褐色粘土、わずかの焼土粒、炭化物含む。
- 9 黒褐色土 締りやや良、少量の小礫、黄色土粒、若干の焼土含む。
- 10 褐色土 締りやや良、均質。細粒の焼土層。



・310号住居跡

- 1 黒色土 締りやや良、小礫少量及び、若干の黄色土粒含む。
- 2 黒色土 締りやや良、1に比べ、小礫の混入が少ない。若干の黄色土粒、わずかの炭化物含む。
- 3 黒褐色土 2に比べ、礫少なく径も小さい。若干の黄色土粒、炭化物含む。一部黄褐色砂質土のプロックわずかに含む。
- 4 褐色土 締りやや悪い、小礫をかなり含む。砂礫混。
- 5 黒褐色土 締りやや悪い、小礫はほとんど含まない。均質な砂質土層、黄色土粒若干含む。
- 6 暗褐色土 締りやや良、若干の小礫、黄褐色粘土、焼土、炭化物含む。
- 7 暗褐色土 締りやや良、6に比べやや黒味強く黄褐色粘土、焼土の混入少なく小礫若干含む。
- 8 暗褐色土 6、7に比べ黄色味強い。基盤の黄褐色砂を少量含む。

- 9 黒褐色土 砂礫を少量含む。
  - 10 褐色土 砂礫の二次堆積土。
  - 11 砂礫と黒褐色土の混土。
  - 12 黒色土 砂礫を少量含む。
  - 13 黒褐色土 砂礫、粘土プロックを含む。
  - 14 褐色土 砂礫を含む。
  - 15 暗褐色土 砂礫を含む。砂質土。
  - 16 黒褐色土 砂礫、粘性土プロック含む。
- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土 砂礫、炭化物少量含む。締りあり。
  - 2 黒褐色土 砂礫、炭化物を含む。柔らかい。
  - 3 褐色土 砂礫を含む。砂質土、地山の二次堆積土と暗褐色土の混土。

0 2m

第477図 C-310号住居跡

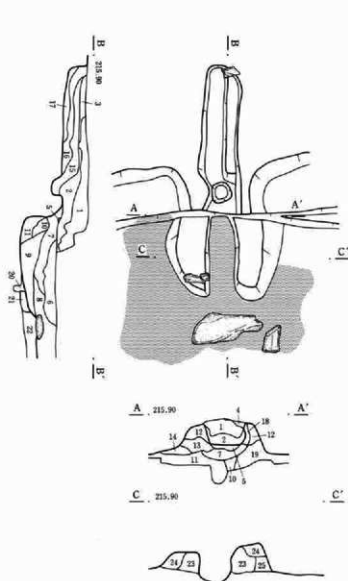
**貯蔵穴** 北東隅に検出された。径1m程の円形の浅い掘り込み内に長軸60cm、短軸35cm、深さ約50cmの隅丸長方形を呈す掘り込みが検出されている。

**柱穴** 対角線上に4本を検出した。径50~30cm、深さはいずれも30cm程である。

**竈** 北壁中央やや東寄りに作られる。袖が壁内に約60cm作り出される。礫を多く含む粘土で作られているが、かなり崩れた状態である。焚口幅30cmで、煙道部を含む長さは1.3m程である。前面に天井部に掛かっていたと思われる長さ60cmの板状の砂岩が、床に置かれた状態で検出されている。竈両脇に中段の張り出し部分が見られる。

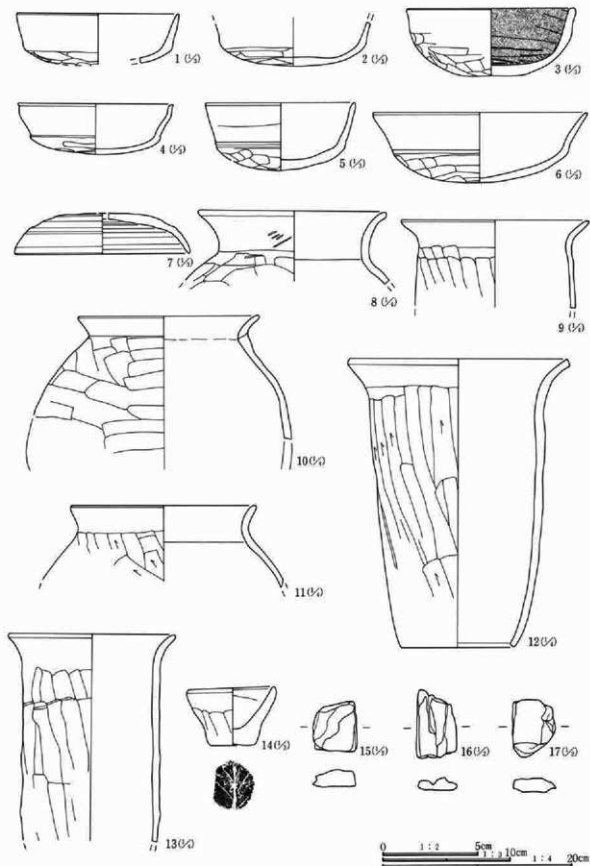
**出土遺物** ほぼ前面より出土している。礫も多く混在していたが、多くは床面より浮いた状態のものが多い。土師器環、甕、甗、須恵器環などが見られる。

**調査所見** 比較的大型の住居であり、遺存状態も良かった。竈両脇に見られるテラス状の中段は、本遺跡においては唯一のものである。時期は古墳時代後期である。



- 竈
- 1 黒褐色土 締りやや悪い。若干の小礫、黄褐色粘土、ごくわずかの焼土粒を含む。
  - 2 黒褐色土 締り悪い。焼土、黄色土粒を少量含む。
  - 3 黒色土 締りやや悪い。炭化物、焼土わずかに含む。砂のブロックをごくわずか混入。
  - 4 黒褐色土 焼土粒を比較的多く含む。1に近似し、色調及び、焼土粒の混入量のちがう。
  - 5 暗赤褐色 焼土層 やや締り悪く、弱い粘性を持つ。
  - 6 暗褐色土 やや締り悪い。わずかの焼土と若干の小礫、黄色土粒を含む。
  - 7 暗褐色土 締り悪い。かなりの焼土を含む。
  - 8 暗褐色土 6、7に比べ締りやや良、若干の黄色土、焼土粒、わずかの炭化物を含む。
  - 9 褐色土 締りやや悪い。多量の焼土を含む。焼土と黒味の強い土とが、互層をなす。
  - 10 褐色土 締りやや悪い。焼土わずかに含む。基盤、黄褐色土をかなり含む。
  - 11 黄褐色土 締りやや悪い。小礫含む砂礫層。
  - 12 暗褐色土 締りやや良、若干の小礫、黄褐色土、わずかの焼土粒を含む。
  - 13 暗褐色土 締りやや良、12に似るが、黄褐色土の混入が多い。焼土ほとんど含まない。
  - 14 褐色土 締りやや良、黄褐色土のブロックをかなり含む。微細炭化物をごくわずか含む。
  - 15 黒色土 締りやや悪い。まれに小礫含むが、比較的均質な砂質土層。焼土粒ごくわずか含む。
  - 16 黒褐色土 締りやや悪い。やや黄色味強く焼土含まない。黄色土を若干含む。
  - 17 黄褐色土 締り悪く崩れやすい。比較的粒が粗い。
  - 18 暗赤褐色焼土層 熱を受け赤化した部分、固く締る。
  - 19 黒色土 少量の小礫及び、焼土粒わずかに含む。
  - 20 暗褐色土 焼土粒、炭化物を含む粘質土。
  - 21 砂礫の焼土化したもの。
  - 22 暗褐色土 焼土粒、炭化物、砂礫を含む。
  - 23 赤褐色土 砂礫を含む。粘質土の焼土化したもの。
  - 24 褐色土 砂礫、焼土粒を含む。
  - 25 褐色土 24に近似、焼土ブロックの混入がある。

第478図 C-310号住居跡・竈



第479図 C—310号住居跡出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

C-310号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 直径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考	
1	土師器 坏	+44	(13.0) 4.0	砂粒含む	淡黄褐色	普通	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 体部無で		
2	土師器 坏	覆土		砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 体部無で	口唇部を欠く	
3	土師器 坏	+46	(13.4)	砂粒僅かに 含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 体部無で後蓋着き	内面黒色	
4	土師器 坏	+50	(12.4) 4.0	砂粒含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 体部無で		
5	土師器 坏	+45	(12.0) (5.4)	砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 体部無で後蓋着き		
6	土師器 坏	+20	17.0 5.5	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 体部無で		
7	須恵器 蓋	+29	(14.0)	微砂粒含む	灰色	良	口縁部整形 外面天井部寛削り		
8	土師器 甕	+30	20.0	小礫僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部無で		
9	土師器 甕	床面	20.0	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部無で		
10	土師器 甕	床面	19.1	砂礫(片岩) 含む	橙褐色	普通	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部無で	内外面かなり風化著しい	
11	土師器 甕	+22	(20.0)	砂粒僅かに 含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部無で		
12	土師器 甕	+2	23.3 30.8 12.0	砂粒僅かに 含む	黒色	良	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部無で		
13	土師器 甕	+19	18.0	砂礫(片岩) 含む	暗褐色	普通	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部無で	外面に焼土付着	
14	手捏ね土 器	+42	7.1 4.6 3.7	砂粒含む	淡黄褐色	良	内外面無で成形	底部木炭痕	
15	磨石片	覆土	長さ2.7cm 幅2.3cm 厚さ0.9cm 重さ9.6g	磨石製					
16	磨石片	覆土	長さ3.6cm 幅2.2cm 厚さ0.7cm 重さ7.3g	磨石製					
17	磨石片	覆土	長さ3.0cm 幅2.3cm 厚さ0.7cm 重さ6.9g	磨石製					

#### C-311号住居跡 (第480～482図、PL62・137)

位置 Cn-44・45 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.32m、短辺4.76m、壁高0.19m

重複 C-317号住居跡の北側に重複する。

埋没土 小礫多く含む。

床面 凹凸見られ、締まりは良くない。重複遺構のある南部分は削平されており、明確ではない。また北西隅に幅約25cmの浅い壁周溝が、L字形に掘られている。

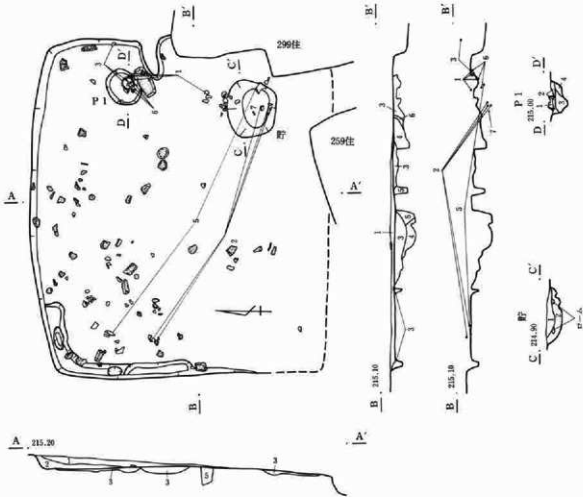
貯蔵穴 南東隅に検出された、径約80cm、深さは25cm程である。覆土中わずかにロームブロック、炭化物が見られる。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央に作られる。かなり壊れた状態で、右袖は確認できなかった。火床面に焼土が広がり、左袖手前に、長さ50cmの偏平な砂岩が検出されている。

出土遺物 土師器甕、坏、須恵器塊などの他に、土鏝が1点見られる。竈左側に径50cm程の掘り込みが検出され、中より甕の胴部が出土している。

調査所見 遺存状態はあまり良くない。南側半分は特に荒れた状態である。時期は平安時代である。



・311号住居跡

- 1 黒褐色土 径0.5~1.0cmの小礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫、粘性土粒子を多く含む。
- 3 黒褐色土 径0.5~1.0cmの砂礫を多く含む、地山黄色粒多く混入。
- 4 黒褐色土 3に似るが、礫の混入少ない砂質土。
- 5 黒褐色土 地山砂礫を多く含む、砂利質。
- 6 淡褐色土 粘土。

貯蔵穴

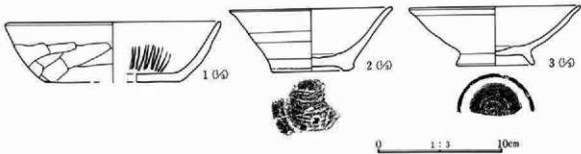
- 1 黒褐色土 径1cm前後の小礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 砂粒多く含む。若干の炭化物混入。

P1

- 1 黒褐色土 焼土、炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 焼土、炭化物、粘性土小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 粘性土ブロック含む。砂礫土。
- 4 暗褐色土 粘性土ブロック、砂礫を含み、粗粒。

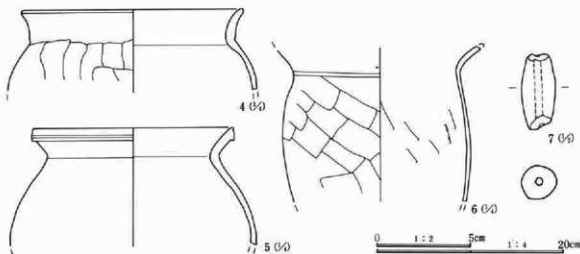
第480図 C-311号住居跡

0 2m



第481図 C-311号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第482図 C-311号住居跡出土遺物(2)

C-311号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 坏	床面	(17.4)	(4.7)	微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 肩部削り 内 口縁部横線で 体部削で後直磨き	内面に放射状直磨き 痕
2	須恵器 埴	床面	(13.6)	4.9 (6.7)	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	
3	須恵器 埴	床面	(13.8)	4.6 6.2	精製	淡黄褐色	良	ロクロ成形	付け高台、土師質土 器
4	土師器 埴	掘り方	(24.0)		砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 肩部削り 内 口縁部横線で 体部削で	
5	須恵器 埴	床面		22.0	砂粒含む	灰黄色	良	輪積み成形、口縁部横線で	焼きは甘く器 内内面酸化気味
6	土師器 埴	床面			微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 肩部削り 内 口縁部横線で 体部削で	口唇部欠く
7	土 器	床面	長さ(4.0)cm 径1.8cm 重さ13.0g 茶褐色を呈す 両端部を僅かに欠く						

C-312号住居跡 (第483・484図、PL62・138)

位置 C1-37 形状 隅丸方形 規模 長辺6.46m、短辺6.14m、壁高0.34m

重複 C-220号住居跡、C-252号住居跡、C-282号住居跡、C-298号住居跡に切られる。

埋没土 上部は削平されている、灘、粘土に混じり、焼土、炭化物が見られる。

床面 平坦な面としてはとらえられなかった。南側は他の住居の掘り方がおよんでいることもあり、確認できなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

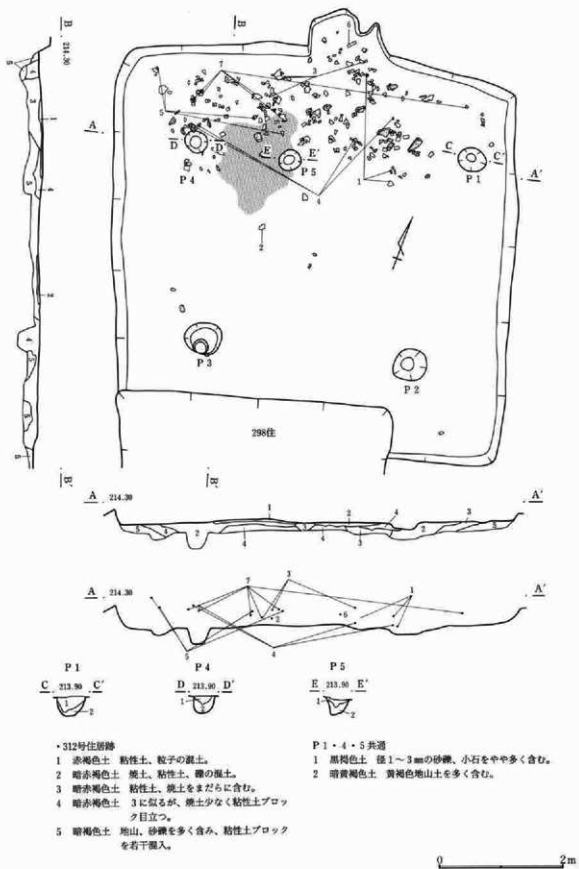
柱穴 検出されなかった。

竈 北壁に作られているが、かなり壊れた状態で、形状、構造は不明である。燃焼部の形態は不定型で、袖も見られない。

出土遺物 北側部分で土師器埴、坏などの破片類を中心にかなり出土している。

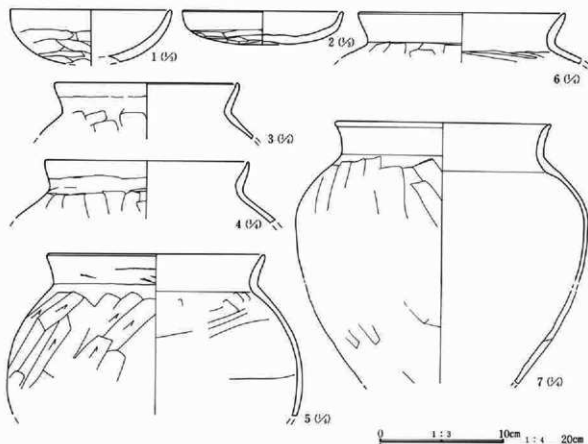
調査所見 多くの重複により、検出状況はきわめて悪い、北側は比較的遺存状態は良かったが、竈については著しく壊れた状態であった。時期は古墳時代後期である。





第483図 C—312号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第484図 C-312号住居跡出土遺物

C-312号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土器 器 環	+11	(13.0) (4.3)	微砂粒含む	淡褐色 色	良	外 □縁部横線で 体部寛削り 内 □縁部横線で 体部で復元跡き	ほぼ完形
2	土器 器 環	+10	(13.0) (2.6)	精製	淡黄褐色 色	良	外 □縁部横線で 体部寛削り 内 □縁部横線で 体部削で	
3	土器 器 壺	+11	(20.0)	微砂粒含む	黄褐色 色	良	外 □縁部横線で 胴部削で 内 □縁部横線で 胴部削で	
4	土器 器 壺	+7	(22.0)	砂粒僅かに 含む	黄褐色 色	良	外 □縁部横線で 胴部削削り 内 □縁部横線で 胴部削削り	
5	土器 器 壺	+20	(23.6)	砂粒含む	黄褐色 色	良	外 □縁部横線で 胴部削削り 内 □縁部横線で 胴部削削り	大型品
6	土器 器 壺	+16	(22.4)	微砂粒含む	淡黄褐色 色	良	外 □縁部横線で 胴部削削り 内 □縁部横線で 胴部削削り	
7	土器 器 壺	+11	(23.0)	砂粒僅かに 含む	茶褐色 色	良	外 □縁部横線で 胴部削削り 内 □縁部横線で 胴部削削り	外面に若干の焼土付着

C-313号住居跡 (第485・486図、PL62・138)

位置 Cp-43・44 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.34m、短辺3.67m、壁高0.07m

重複 住居南部分を耕作溝が横切る。また北西部分に試掘トレンチが掛かる。

埋没土 堆積は極めて薄い、小礫多く含む。

床面 かなり凹凸が顕著である。粘土がまだらに認められる。

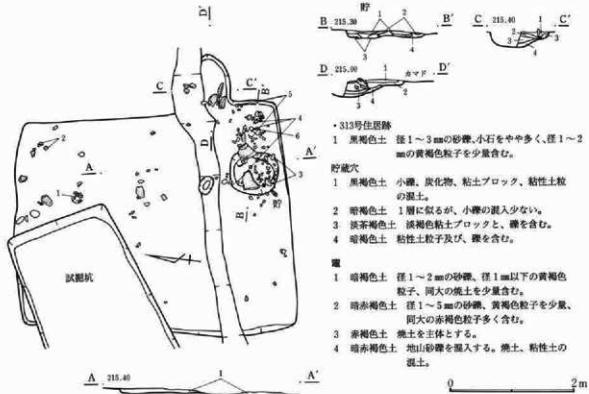
貯蔵穴 南東隅に検出した。長円形を呈し長軸径80cm、短軸径65cm、深さ20cmを測る。粘土、炭化物、ロームブロックの混土で埋まり、土器破片が多く出土している。

柱穴 検出されなかった。

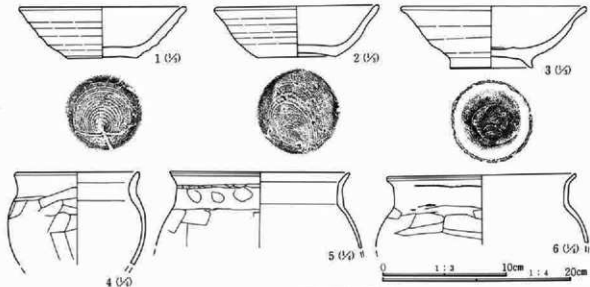
竈 東壁の南寄りに作られている。北側部分は耕作溝に壊されており、ほとんど削られた状態で、構架材の礫および粘土ブロックが混在して検出された。

出土遺物 住居の南東隅に集中して須恵器の坏、埴および土師器の埴などが見られた。

調査所見 全体に削平が著しく、遺存状態は極めて悪い。住居の南東部分に土器片とともに、粘土、礫が散在しており、竈を構築していたものであろうか。時期は平安時代である。



第485図 C-313号住居跡



第486図 C-313号住居跡出土遺物

C-313号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+10	13.6 5.6	4.0	砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
2	須恵器 坏	+12	(13.4) 6.2	3.9	砂粒含む	青灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
3	須恵器 埴	床面	14.6 6.7	4.9	微砂粒含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	ほぼ定形
4	土師器 小型甕	床面	(13.4)		微砂粒僅かに含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 胴部撫で
5	土師器 甕	+5	19.5		砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 胴部撫で
6	土師器 甕	床面	(20.4)		微砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 胴部撫で

C-314号住居跡 (第487図、PL63・138)

位置 Cp-45・46 形状 隅丸長方形 規模 長辺3.33m、短辺2.27m、壁高0m

重複 本址を切る遺構は見られなかったが、きわめて遺存状態は悪い。

埋没土 ほとんど確認できなかった。

床面 やや凹凸が見られ、部分的に粘土が認められた。

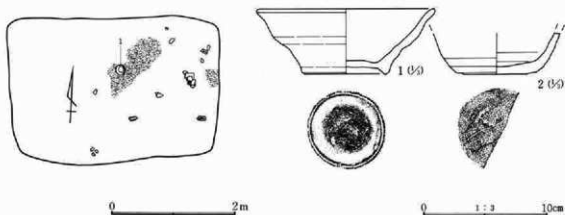
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。

出土遺物 わずかに須恵器の埴、坏が見られる。

調査所見 確認面ですでに、遺構上部が削平されていた状態で、床面の一部を確認し得たに過ぎない。時期は平安時代と思われる。



第487図 C-314号住居跡・出土遺物

C-314号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	床面	14.4 7.0	5.1	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	
2	須恵器 坏	覆土			砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部寛削り、周辺部寛削り調整	

## C-315号住居跡 (第488・489図、PL63・138)

位置 Cr-46 形状 隅丸長方形 規模 長辺2.96m、短辺2.09m、壁高0.18m

重複 C-345号住居跡(弥生時代)、C-331号住居跡(古墳時代)を切る。

埋没土 小礫、黄色粒子多く含みさらに若干の焼土含む。

床面 平坦ではあるがあまりはっきりとした面ではとらえられなかった。

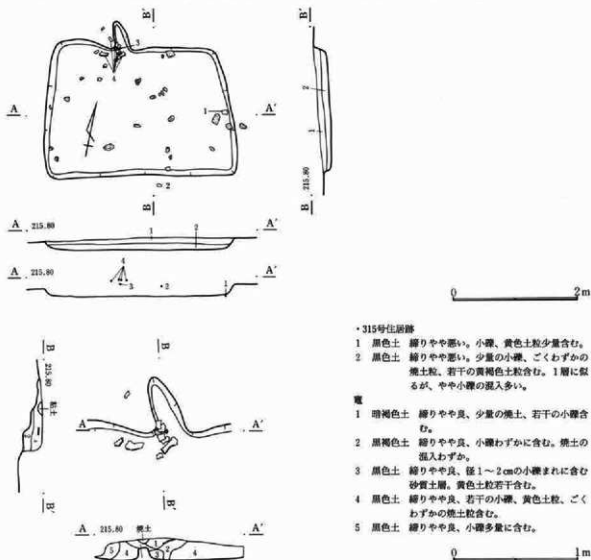
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央やや西よりに作られる、壁内に50cmほど掘り出される。袖石などは見られず、若干の土器片が見られる。また東壁中央部に幅20cm、長さ70cmの煙道部分と思われる掘り出しが認められた、また手前には礫、焼土が見られることから、竈と思われる。作り替えがなされたものと思われるが、新旧関係は不明である。

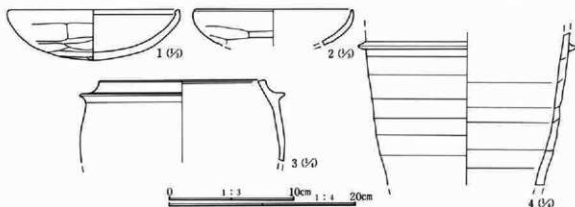
出土遺物 土師器坏および羽釜片が出土している。

調査所見 小型の住居である。竈が北壁と東壁に作られている。時期は平安時代である。



第488図 C-315号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第489図 C-315号住居跡出土遺物

C-315号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口徑 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 坏	床面	(13.0)	4.0	砂粒含む	暗茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部裏で後置磨き	
2	土師器 坏	床面	(12.8)		精製	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部裏で	
3	須恵器 羽蓋	+20	(18.0)		微砂粒僅かに含む	灰色	良	内外面磨で	
4	羽蓋	+24			微砂粒僅かに含む	淡茶褐色	良	内外面磨で	口縁端部を欠く 破の可能性あり

C-316号住居跡 (第490~492図、PL63・138・139)

位置 Co・Cp-43 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.90m、短辺4.63m、壁高0.50m

重複 北西隅をC-313号住居跡(平安時代)に切られる。

埋没土 砂礫、黄色粒子多く含む。

床面 細かな凹凸が見られ、中央部分は比較的締まる。

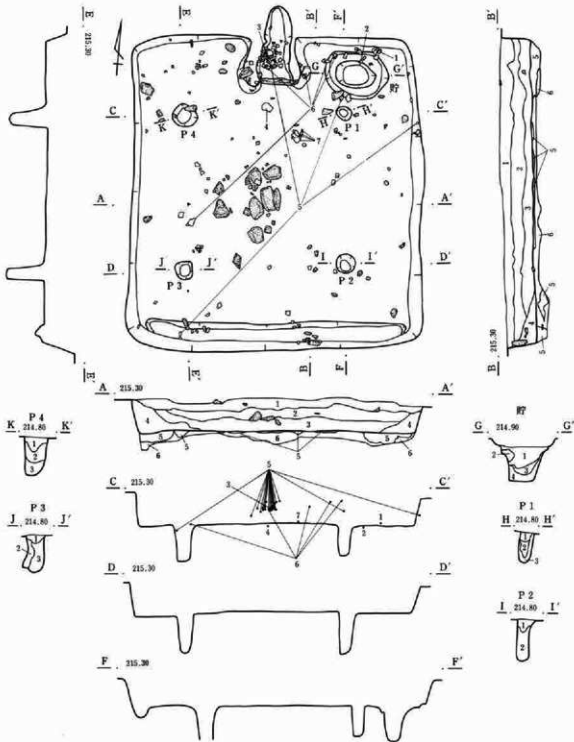
貯蔵穴 北東隅に検出された。やや長円形で長軸径90cm、短軸径80cm、深さは60cmで中段を持つ。

柱穴 ほぼ対角線上に4本を検出した。径は20~30cm、深さは40~50cmで、いずれもほぼ垂直に掘り込まれている。西側の2本はやや西壁に寄っている。

竈 北壁ほぼ中央に作られる。両袖は住居内に約1.4mの長さで残る。焚口幅約50cmで、煙道を含む長さは約1.3mであるが、先端部分は耕作溝により削られている。両袖構造、および袖石がしっかり残り、焚口天井に渡されていた板状の砂岩が、そのまま下に落ち込んだ状態で検出されている。燃焼部より土師器の壺が出土している。

出土遺物 竈周辺部を中心に土師器壺、坏、瓶などが見られる。竈内上層において土師器壺が潰れた状態で出土している。さらに竈の焚口部において、土師器壺形土器がほぼ床面直上より出土している。また覆土中より、住居中央部でかなり大きな礫がまとまって検出されている。

調査所見 北西隅に一部重複があるものの、各壁の遺存状態はかなり良好である。竈もおそらく使用時の状態で放棄されたものと思われ、きわめて状態が良い。出土遺物は竈周辺に集中していた。時期は古墳時代中頃である。



・316号住居跡

- 1 暗褐色土 ややきめの粗い土をベースとし、径2～10mmの砂礫、小石を多く、径1～3mmの黄褐色粒子をやや多く、焼土少量含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい色調を呈し、径1～5mmの黄褐色粒子をやや多く含む。径2～5mmの砂礫、小石を多く含む。
- 3 暗褐色土 やや暗い色調を呈し、径1～5mmの砂礫、小石を少量含む。径2～3mmの黄

褐色粒子を少量含む。

- 4 黒褐色土 径1～3mmの砂礫、小石を少量、径1mm以下の黄褐色粒子を少量含む。
- 5 黒褐色土 やや硬質で、径1～3mmの砂礫をやや多く含む。径1～2mmの黄褐色粒子を少量含む。
- 6 黄褐色土 やや粘質。径2～3mmの黄褐色砂粒をやや多く含む。

0 2m

第490図 C—316号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 小礫、若干の粘性土を含む。
- 2 暗褐色土 小礫、粘性土ブロックを含む。
- 3 淡黄褐色土 地山、黄褐色粘性土を多く含む。
- 4 暗褐色土 地山粘土を若干含み、やや細粒。

P 1

- 1 黒褐色土 小礫、粘性土粒若干含む。
- 2 黒褐色土 粘性土粒、ブロック混入。
- 3 黄褐色土 粘性土ブロック多量を含む。

P 2

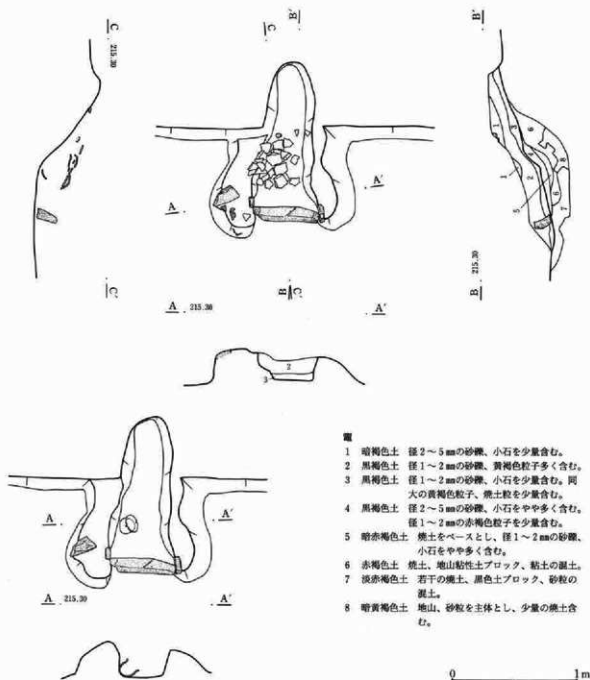
- 1 黒褐色土 礫を含む。
- 2 黄褐色土 礫、粘性土ブロックを多く含む。

P 3

- 1 黒褐色土 小礫、若干の粘性土粒を含む。
- 2 暗褐色土 粘性土ブロックを含み、やや軟質。
- 3 暗褐色土 粘性土ブロック粒子を含み、軟質。

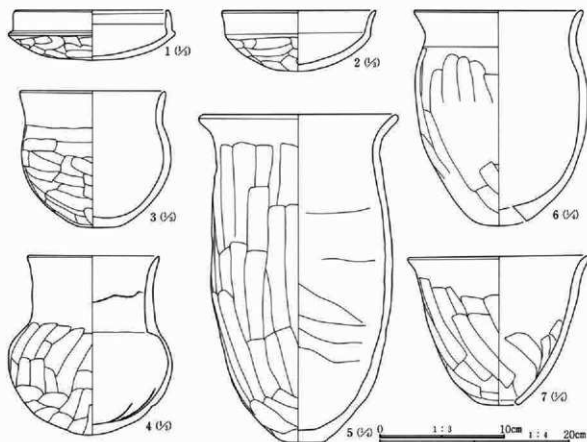
P 4

- 1 黒褐色土 砂礫多く含む。
- 2 黄褐色土 粘性土ブロック、砂礫の混入。
- 3 黄褐色土 地山、砂礫を多量を含む。



第491図 C-316号住居跡・竈





第492図 C-316号住居跡出土遺物

C-316号住居跡遺物観察表

番号	器 種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎 土	色 調	焼 成	整 形 の 特 徴	備 考
1	土 師 器 平 鉢	+4	12.4	3.9	微砂粒僅かに含む	暗赤褐色	良	外 口縁部横線で 体部底削り 内 口縁部横線で 体部底で後磨き	ほぼ完形
2	土 師 器 平 鉢	床面	12.0	5.8	砂粒含む	灰黄色	良	外 口縁部横線で 体部底削り 内 口縁部横線で 体部底で	表面荒れている
3	土 師 器 小型 壺	竈内	11.9	10.7 3.7	砂粒僅かに含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 胴部底削り 内 口縁部横線で 胴部底で	完形
4	土 師 器 平 鉢	床面	10.7	5.2	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部底削り 内 口縁部横線で 胴部底で後磨き	口縁部直立 完形
5	土 師 器 壺	+18	21.2	35.6 4.6	砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部底削り 内 口縁部横線で 胴部底で	ほぼ完形
6	土 師 器 平 鉢	+2	(18.0)		微砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部底削り 内 口縁部横線で 胴部底で	
7	土 師 器 壺	+3	19.5	15.7 3.3	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部底削り 内 口縁部横線で 胴部底で	単孔 ほぼ完形

## C-317号住居跡 (第493・494図、PL64・139)

位置 Cm・Cn-45 形状 隅丸方形 規模 長辺3.57m、短辺3.22m、壁高0.10m

重複 住居南をC-259号住居跡(平安時代)に、北側をC-286号住居跡(古墳時代)に切られる。

埋没土 礫含み、粗粒。

床面 比較的平坦であるが、東側はやや荒れている。

貯蔵穴 北東隅に検出されている。径40cm程の円形で深さ約20cmである。

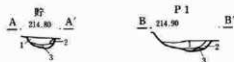
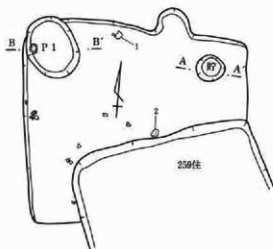
柱穴 検出されなかった。

### 第3章 検出された遺構と遺物

**竈** 北壁中央やや東寄りに作られる、上部は311号住居跡に切られており、遺存状態は悪い。火床面はわずかに残る程度で、構造は不明である。

**出土遺物** 少ない。土師器の坏2点を図示した。

**調査所見** 北側および南側に重複住居があり、遺存状態は悪かった。住居北西隅に長円形の床下土坑を検出した。時期は古墳時代後期である。



・317号住居跡

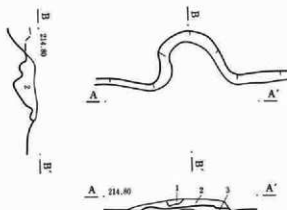
貯蔵穴

- 1 黒褐色土 砂礫、若干の粘性土を含む。
- 2 黄褐色土 砂粒含む粘性土ブロック。
- 3 暗黄褐色土 地山、砂粒を多く含む砂質土。

P1

- 1 黒褐色土 径2~3mmの砂礫、小石をやや多く含む。同大の黄褐色砂粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 ややきめの細かい土をベースとし、径1mm以下の黄褐色砂粒を少量含む。
- 3 暗黄褐色土 黄褐色砂質地山の崩土をベースとし、暗褐色の砂礫、粒子を少量含む。

0 2m



竈

- 1 暗赤褐色土 焼土含む砂礫土。
- 2 黒褐色土 地山、砂礫土を主体とする。
- 3 暗褐色土 地山、黄褐色砂礫土を主体とする。

0 1m

第493図 C—317号住居跡・竈



0 1:3 10cm

第494図 C—317号住居跡出土遺物

C—317号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	断面	土色	調成	成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床面	(15.2)	5.1	砂粒僅かに 含む	明茶褐色	良	外 □縁部横線で 体部裏割り 内 □縁部横線で 体部裏で	
2	土師器 坏	床面	(15.4)	4.0	微砂粒含む	暗灰褐色	良	外 □縁部横線で 体部裏割り 内 □縁部横線で 体部裏で後裏割り	内面裏磨き痕

## C-318号住居跡 (第495~497図、PL64・139)

位置 Cq・Cr-42 形状 隅丸方形 規模 長辺4.87m、短辺4.70m、壁高0.53m

重複 C-357号住居跡(古墳時代)と重複する。

埋没土 砂粒含み、部分的に粘質土ブロック含む。

床面 平坦で良く締まる。

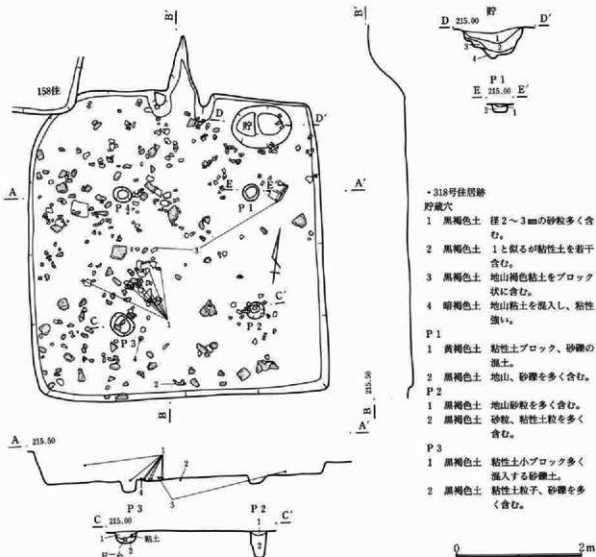
貯蔵穴 北東隅に検出した。長円形を呈し、長軸径約1m、短軸径0.7mで、深さ約40cmを測る。

柱穴 対角線上に4本検出した。径30~25cmで、深さは20~40cmとややばらつきが見られる。

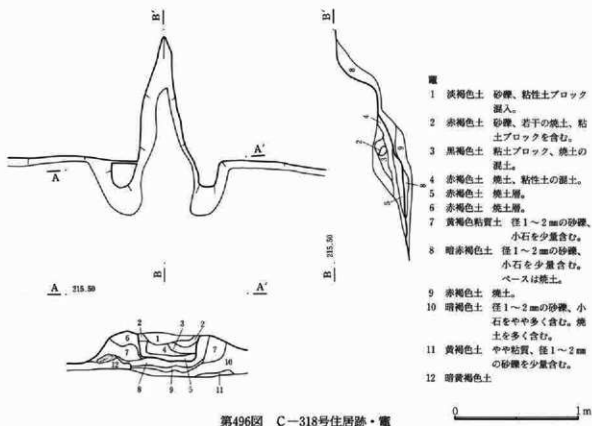
竈 北壁中央に作られている。両袖は深、粘土の混土で作り付けており、やや短く、上部は崩れている。奥行きは1.3m程で、石などは検出されていない。

出土遺物 覆土中より多量の鏝が検出されている。遺物は土師器壺の他に紡錘車が1点見られる。

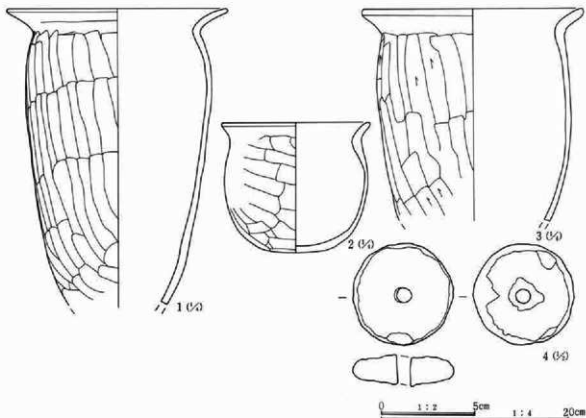
調査所見 遺存状態は比較的良かった。各壁は垂直に立ち上がり、壁高も最大50cm程ある。時期は古墳時代後期である。



第495図 C-318号住居跡

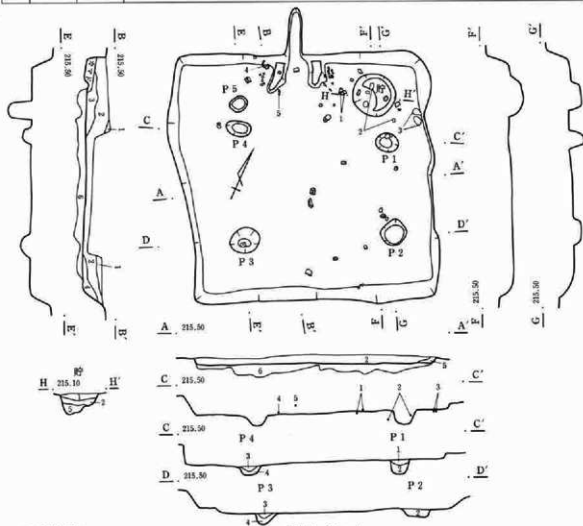


- 圖
- 1 灰褐色土 砂礫、粘性土ブロック混入。
  - 2 赤褐色土 砂礫、若干の焼土、粘土ブロックを含む。
  - 3 黒褐色土 粘土ブロック、焼土の混入。
  - 4 赤褐色土 焼土、粘性土の混入。
  - 5 赤褐色土 焼土層。
  - 6 赤褐色土 焼土層。
  - 7 黄褐色粘質土 径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。
  - 8 暗赤褐色土 径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。ベースは焼土。
  - 9 赤褐色土 焼土。
  - 10 暗褐色土 径1~2mmの砂礫、小石をやや多く含む。焼土を多く含む。
  - 11 黄褐色土 やや粘質、径1~2mmの砂礫を少量含む。
  - 12 暗黄褐色土



C-319号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考
1	土師器 壺	+2	23.4	砂粒含む	灰黒褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	底部を欠く
2	土師器 小形壺	床面	(16.1) 13.7	砂粒僅かに 含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	
3	土師器 壺	+4	23.6	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	
4	防露草	+2		径5.4cm 高さ1.5cm 孔径0.7cm 重さ54.0g			片面孔部分の周囲に盛り上がりあり 土製(弥生か)	



## ・319号住居跡

- 1 黒色土 締りやや悪い。径1~2mmの小礫かなり含む。
- 2 黒色土 締りやや悪い。1に比べ、小礫の混入少ない。若干の黄色土粒、黄褐色粘土含む。
- 3 黒色土 締りやや悪い。少量の小礫、わずかの黄褐色粘土、炭化物、焼土粒含む。
- 4 黒褐色土 締りやや悪い。基盤の砂を少量含む。若干の小礫、黄色土粒含む。
- 5 黒色土 締りやや悪い。小礫の混入少なく、比較的均質な砂質土層。
- 6 黒褐色土 締り悪く脆弱。黄褐色粘土ブロック若干含む砂質土。

## 貯蔵穴・P1~4

- 1 黒色土 締りやや悪い砂質土層。少量の小礫、若干の黄褐色粘土含む。
- 2 黒褐色土 締り悪い砂質土層。若干の小礫、黄褐色砂を含む。
- 3 黒褐色土 締り悪い砂質土層。基盤の黄褐色砂のブロックを若干含む。
- 4 暗褐色土 締り悪い砂質土層。基盤の黄褐色砂のブロックをかなり含む。
- 5 黒褐色土 締り悪い砂質土。小礫の混入少なく比較的均質、基盤の黄褐色砂を少量含む。

0 2m

第498図 C-319号住居跡

C-319号住居跡 (第498~500図, PL64・139)

位置 Cp-44・45 形状 隅丸方形 規模 長辺4.10m、短辺3.88m、壁高0.39m

重複 北西部分をわずかであるが、C-314号住居跡(平安時代)に切られる。

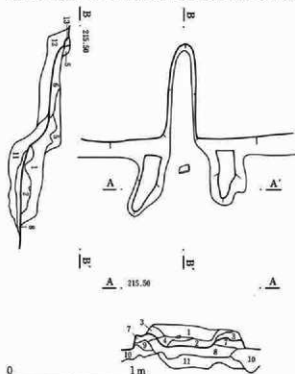
埋没土 小礫含み若干の黄褐色粘土を含む。

床面 全体に緩やかな凹凸が見られ、あまり踏み締められた状況は見られなかった。部分的に貼床がなされている。

貯蔵穴 北東隅に検出した。平面形はほぼ円形を呈し、径70cm、深さは30cm程を測る。底面は著しく凹凸が見られる。

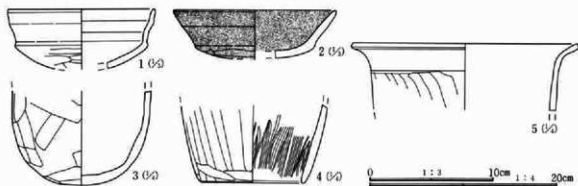
柱穴 4本検出した、東側の2本はわずかに壁際に寄っている。径は30~40cmで深さは15~25cmである。北西部に位置するものは、やや長円形を呈す。

竈 北壁中央やや西寄りに作られている。住居内の本体部分については、ほとんど崩れた状況で両袖部分下部のみが遺存していた。礎、白色粘土の混土で作り付けられ「ハ」の字に住居内に延びる。煙道は一段高



第499図 C-319号住居跡・竈

- 竈
- 1 暗褐色土 締りやや良、若干の小礫、黄色土、わずかの焼土粒含む。
  - 2 暗褐色土 締りやや良、黄褐色粘土を少量及び若干の焼土、小礫含む。
  - 3 暗褐色土 締りやや良、若干の黄褐色粘土、焼土、小礫含む。2に比べ粘土の混入少ない。
  - 4 暗褐色土 締りやや良、若干の焼土、わずかの炭化物含む。2・3に比べ粘土の混入少ない。
  - 5 黒褐色土 締りやや悪い、微細炭化物若干含む。黄色土わずかに混入。
  - 6 黒褐色土 締りやや悪い、小礫少量含む。締りやや悪い砂質土。黄色土粒若干含む。
  - 7 褐色土 締り良、黄褐色粘土を主体とする。焼土若干含む。
  - 8 黒褐色土 締りやや悪い、若干の焼土粒、炭化物、基盤砂を含む。
  - 9 暗褐色土 締りやや良、若干の黄褐色粘土、焼土、炭化物を含む。
  - 10 黒褐色土 締りやや悪い、小礫若干含む。砂質土層。焼土、黄褐色粘土わずかに含む。
  - 11 黒褐色土 締りやや悪い、基盤黄褐色砂少量含む。砂質土層。
  - 12 黒色土 締りやや悪い、小礫少量含み、若干の黄色土含む。
  - 13 黄褐色土 締りやや良、粘土ブロックを主体とする。



第500図 C-319号住居跡出土遺物

くなり、長さ約80cm程壁外に延びる。

**出土遺物** 出土点数は少ない。竈の両袖脇、および貯蔵穴付近において、土師器甕、甕、坏などが見られた。いずれも床面直上より出土している。

**調査所見** 遺構自体の遺存状態はかなり良かったが、東および西側の壁に関しては、部分的に崩れてしまったのか、直線的なラインとしては検出できなかった。出土遺物等から、時期は古墳時代後期と思われる。

C-319号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
1	土師器 坏	床面	(12.0)	微砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	体部直削り 体部直削り 体部直削り 体部直削り	
2	土師器 坏	床面	(13.0)	褐色粒含む	灰黒色	良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	内外面黒色、外底面 荒れている	
3	土師器 甕	床面		砂粒僅かに 含む	灰黒色	良	外 胴部直削り 内 胴部直削り	底部のみ	
4	土師器 甕	床面	11.3	砂粒僅かに 含む	茶褐色	良	外 胴部直削り 内 胴部直削り	底部のみ	
5	土師器 甕	+14	(24.7)	微砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り		

## C-320号住居跡 (第501~503図、PL65・139・140)

**位置** Cq-48 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺3.89m、短辺2.74m、壁高0.31m

**重複** C-309号住居跡 (平安時代) に南側一部を切られる。

**埋没土** 小礫を含み、若干の焼土粒、炭化物が見られる。

**床面** 比較的平坦であるが、住居西側部分にやや凹凸が見られる。全体に締まりは良い。西壁下に壁周溝が「コ」の字形に掘られている。

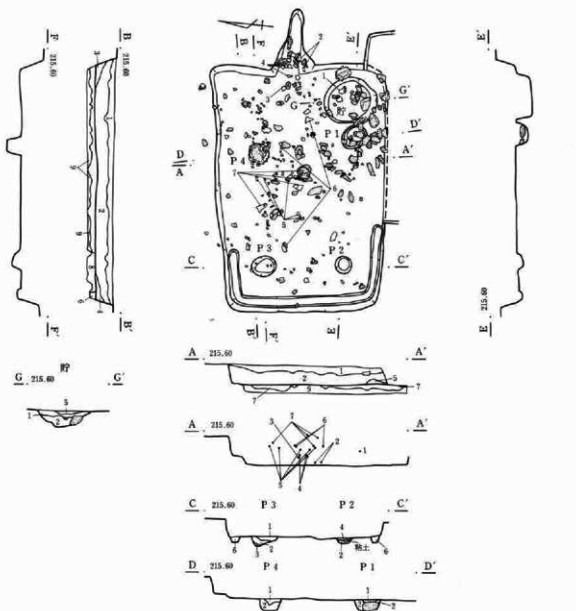
**貯蔵穴** 南東隅に検出された。円形で径約80cm、深さは30cmである。覆土上層より裸が若干の土器片を伴い検出されている。

**柱穴** 4本検出されたが、東側列の2本はかなり内側に寄った形で掘られている。径はいずれも30cm程で、深さは20cm前後である。南東隅に検出された柱穴底面には、やや偏平な礫が置かれた状態で検出されている。

**竈** 東壁中央に作られる。焚口幅50cmで奥行きの長さ約1mである。燃焼部奥から煙道部にかけて裸や土器片が出土しているが、かなり乱雑な状況である。

**出土遺物** 遺物がいずれもやや浮いた状態であるが、比較的多くの土器片類および礫が見られた。土師器の甕、坏が目立った。

**調査所見** やや東西に長い住居で、全体に遺存状態は良く、竈、床面はかなりしっかりと残る。時期は平安時代である。



・320号住居跡

- 1 黒色土 締りやや良、小礫かなり含む。少量の黄色土粒、ごくわずかの焼土粒、炭化物含む。
- 2 黒色土 締りやや良、1に比べ小礫の混入少ない。焼土粒の混入やや多い。
- 3 黒褐色土 締りやや悪い砂質土層。小礫、黄褐色粘土わずかに含む。
- 4 黒褐色土 締りやや悪い砂質土層。黄色土粒及び黄褐色粘土、小礫わずかに含む。
- 5 暗褐色土 締りやや良、若干の小礫、黄褐色粒子、焼土、炭化物含む。
- 6 暗褐色土 締り悪く、地山黄褐色砂含む砂質土。
- 7 黒褐色土 締りやや良、小礫少量及び、若干の焼土含む。
- 8 暗褐色土 締りやや悪い。基盤黄褐色砂をかなり含む砂質土層。

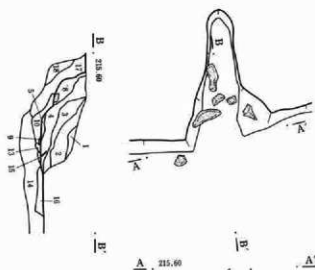
- 9 黒褐色土 締りやや良、7に似るが、小礫の混入少なく黒味強い。

貯蔵穴・P1~4共通

- 1 黒褐色土 締りやや良、小礫少量及び、若干の黄色土粒、黄褐色粘土含む。
- 2 黒褐色土 締りやや良、1に比べ小礫、黄褐色粘土の混入少なくやや黒味強い。
- 3 暗褐色土 締りやや悪い。基盤黄褐色砂をかなり含む。
- 4 黒褐色土 締りやや良、黄色土粒、焼土粒、微細炭化物わずかに含む。均質なシルト質。
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土を少量、層状に含む。若干の小礫、焼土混入。
- 6 暗褐色土 黄褐色粒子含み砂質。

第501図 C-320号住居跡





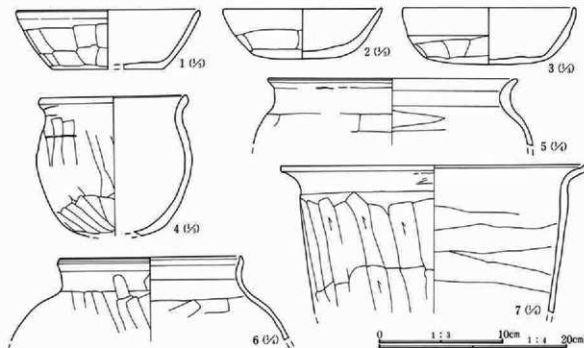
- 4 黄褐色土 締りやや良、粘土を主体とする。小礫はほとんど含まず比較的均質、焼土若干含む。
- 5 暗赤褐色焼土 締りやや良、小礫、微細炭化物わずかに含む。
- 6 暗褐色土 締りやや良、黄褐色粘土かなり含む。若干の小礫わずかの焼土を含む。
- 7 黒褐色土 締りやや良、小礫をほとんど含まず比較的均質細粒の土、焼土粒わずかに含む。
- 8 黒褐色土 締りやや良、小礫、暗褐色粘土、焼土粒わずかに含む。
- 9 褐色土 締りやや良、若干の黄褐色粘土、かなりの焼土を含む。
- 10 暗赤褐色焼土 締りやや良、均質、細粒の焼土層。
- 11 褐色土 締りやや良、少量の黄褐色粘土、わずかの焼土、若干の小礫を含む。
- 12 褐色土 締りやや良、9に似るが、黄褐色粘土の混入より多い。
- 13 暗褐色土 締りやや良、少量の焼土、わずかの小礫、黄褐色粘土を含む。
- 14 黒褐色土 締りやや良、若干の小礫を含む。砂質土。
- 15 黄褐色土 締りやや良、黄褐色粘土をかなり含む。
- 16 暗褐色土 締りやや良、黄褐色粘土を層状に含む。焼土を一帯上面に含む。
- 17 暗褐色土 締りやや良、若干の小礫、黄色土粒、ごくわずかの焼土を含む。
- 18 黒褐色土 締りやや良、少量の小礫、若干の黄褐色粘土を含む。

電

- 1 黄褐色土 締り良、焼土層、一部層状の黒褐色土を含む。焼土粒わずかに混入。
- 2 黒褐色土 締り良、若干の小礫、わずかの黄色土、焼土粒、微細炭化物を含む。
- 3 黒褐色土 締りやや良、少量の黄褐色粘土を含む。若干の小礫、焼土粒を含む。

第502図 C-320号住居跡・電

0 1m



第503図 C-320号住居跡出土遺物

C—320号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+25	(14.9)	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で	
2	土師器 坏	壺内	(13.0) 4.0	砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で	ほぼ宧形
3	土師器 坏	+11	(14.0) 4.5	微砂粒僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で後寛磨き	
4	土師器 小型壺	壺内	(10.8)	砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	外面胴部に輪積み痕
5	土師器 壺	+25	(27.0)	砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	大型品 口縁部のみ
6	土師器 壺	+27	(20.0)	砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	大型品
7	土師器 壺	+33	(31.0)	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	大型品

C—321号住居跡 (第504～506図、PL65・140)

位置 Cs—46・47 形状 隅丸長方形 規模 長辺3.73m、短辺2.68m、壁高0.12m

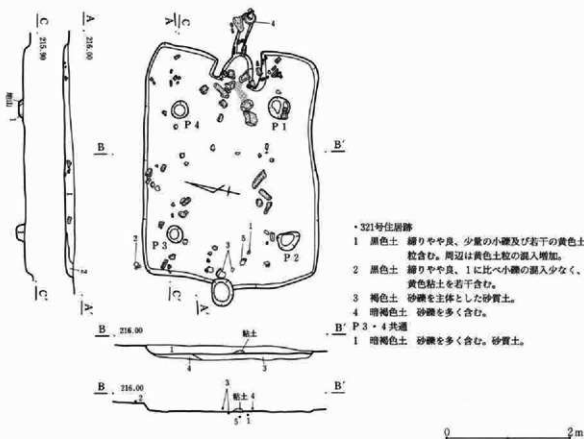
重複 C—185号土坑 (平安時代) が東壁に接する。

埋没土 砂粒含む。

床面 平坦でかなり軟質、貼床は認められなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 4本検出している。



第504図 C—321号住居跡

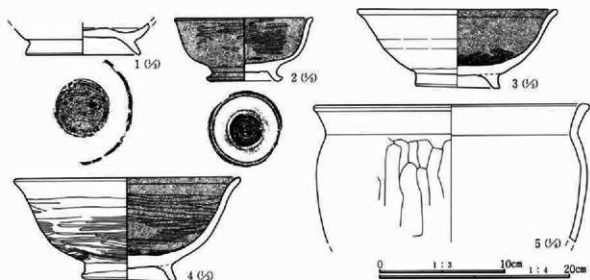
竈 かなり壊れた状態である、袖部分を構築する礫混じりの粘土は「ハ」の字状に残るが、構築材として用いられていた石が、中に落ち込んだ状態で検出されている。また煙道部分は長さ約50cmを測る。先端部には30cm程の礫に伴い完形の須恵器境が出土している。

出土遺物 須恵器境、土釜片が見られる。

調査所見 全体的に削片が著しく、北側の壁に関しては明確な立ち上がり位置がつかめなかった。住居西部分に径1.1m、深さ約35cmの掘り込みを検出した。中より礫、土器片が出土している。貯蔵穴ではないと思われるが、用途は不明である。時期は平安時代である。



第505図 C-321号住居跡・竈



第506図 C-321号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

C-321号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須志器 埴	床面	9.2	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高台	底部片
2	須志器 埴	+2	(11.0) 5.0 6.0	微砂粒含む	黒色	良	ロクロ成形後内外面磨き	内外面黒色 付け高台
3	土師器 埴	床面	15.9 6.1 6.7	白色粒僅かに含む	黒褐色	良	ロクロ成形 内面磨き	付け高台 内面黒色処理
4	土師器 埴	竈内	18.0 8.0 7.6	白色粒子僅かに含む	暗茶褐色	良	ロクロ成形 内外面磨き	付け高台 内面黒色処理
5	土師器 甕	床面	(29.0)	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部横で	

C-322号住居跡 (第507・508図、PL66・140)

位置 Cn-47・48 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.14m、短辺3.23m、壁高0.42m

重複 寛部分をC-103号土坑(井戸)が切る。

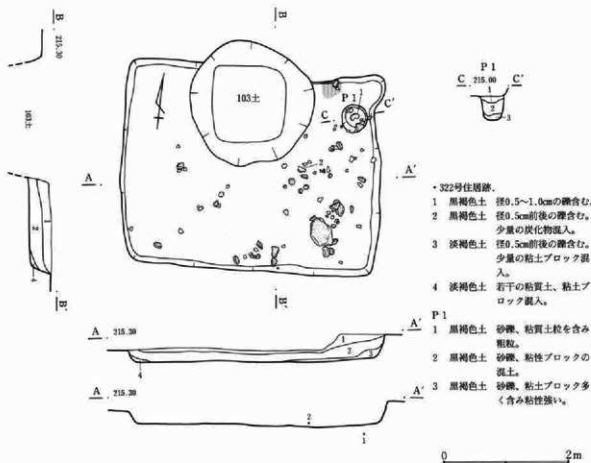
埋没土 小礫および若干の炭化物を含む。

床面 平坦で比較的締まる。

貯蔵穴 北東隅に径40cm、深さ40cmの掘り込みを確認した。底に土師器の坏が轆と供に出土している。

柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。C-103号土坑に壊されているものと思われる。



第507図 C-322号住居跡

出土遺物 土師器坏、甕、がわずかに見られる。

調査所見 C-103号土坑(井戸)が竈部分に重複している。この土坑上部には多量の礫とともに土器片、土鍾などが出土しているが、本住居跡に帰属するものも多く含まれているものと思われる。壁については、遺存状態は良好である。北東隅が丸く張り出し、左脇に焼土が見られた。時期は奈良時代と思われる。



第508図 C-322号住居跡出土遺物

C-322号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	床面	(14.0)	4.3	微砂粒含む	淡黄褐色	普通	外 口縁部横線で 体部覆用り 内 口縁部横線で 体部蓋で	器面やや風化
2	土師器 甕	+6	(15.0)		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部覆用り 内 口縁部横線で 胴部蓋で	赤褐色粒子目立つ

#### C-323号住居跡 (第509・510図、PL66・140)

位置 Cs-39・40 形状 隅丸方形 規模 長辺4.32m、短辺4.05m、壁高0.40m

重複 C-156号住居跡に竈右側の一部を切られる。

埋没土 砂礫、褐色粘土ブロック多く含む、下層には若干の焼土含む。

床面 平坦で良く締まる。ロームブロック多く含む、良く締まった貼床。

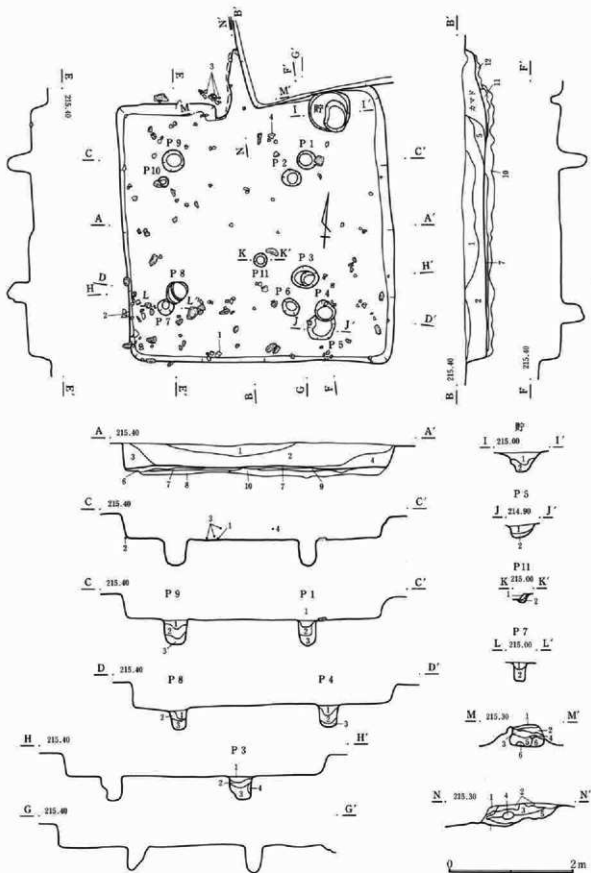
貯蔵穴 北東隅に検出した。ほぼ円形で径65cm、深さ30cm程である。上部に対して底部は狭くなる。壁面はやや明確でない。

柱穴 生活面ではほぼ対角線上に4本を検出したが、掘り方調査を行ったところ、南東部分には4本が近接して見られ、その他は2本1対で掘り込まれている。立て替えあるいは補助的なものなのかは判断できなかった。

竈 北壁中央やや西寄りに作られる。右側のほぼ半分は156号住居跡により失われていた、左側のみの調査であった。袖を含む本体部分はかなり壊れており、燃焼部埋土中には多量の焼土、粘土、炭化物が検出されている。

出土遺物 比較的少なく、破片類が主体であった。いずれもやや床面より浮いた状態のものが多く、土師器の坏4点を図示した。

調査所見 竈右側および北壁の一部を除き、各壁に関しては遺存状態はかなり良好で、ほぼ垂直に立ち上がる。時期は古墳時代後期である。



第509図 C-323号住居跡・竈

## C-323号住居跡

- 1 黒褐色土 径2~10mmの少砂礫を多量に含む。  
 2 黒褐色土 砂礫、褐色粘土ブロック多く含む締る。  
 3 黒褐色土 2に似るが、粘質土ブロック混入少ない。  
 4 黒褐色土 粘質土、砂礫の混入、若干の焼土含む。  
 5 黒褐色土 黒味強く、粘質土粒子若干含む。  
 6 黒褐色土 粘質土粒、炭化物若干混入。  
 7 黄褐色土 粘質土ブロック多量に含む締り良い。  
 8 黒褐色土 黒味強く砂礫を若干混入。  
 9 黒褐色土 砂礫、粘質土、炭化物を混入。  
 10 黄褐色土 粘質土ブロック主体、黒色土塊を含む。  
 11 暗赤褐色土 焼土粒、粘質土砂礫の混入。  
 12 暗赤褐色土 11に近似、粘質土多く含むやや細粒。  
 貯蔵穴  
 1 暗褐色土 小礫含む、若干の黄色粒子混入。  
 2 暗褐色土 砂礫の混入やや多く粘土小ブロック含む。  
 P 1  
 1 暗褐色土 粘土、粘質土ブロックの混入。  
 2 暗褐色土 粘土、粘質土ブロックの混入、砂粒含む。  
 3 暗褐色土 暗褐色粘土ブロックを含む。  
 P 3  
 1 暗褐色土 砂礫2~3mmを多く含む。  
 2 暗褐色土 地山砂礫、粘質土ブロックを混入含む。  
 3 暗褐色土 地山砂礫、粘質土ブロック含む粘性あり。  
 4 暗褐色土 地山、粘質土を主体とする。

## P 4

- 1 黒褐色土 砂粒、粘質土粒を含む。  
 2 暗褐色土 粘質土粒、黒褐色粘土ブロック状に混入。  
 3 暗褐色土 粘土を主体とし、混入物少ない。

## P 5

- 1 黒褐色土 細粒土ベースとし、砂礫を微量含む。  
 2 暗黄褐色土 地山崩土ベースとし、砂礫、小石含む。

## P 7

- 1 黒褐色土 黄色、白色砂粒を多く含む。  
 2 黒褐色土 砂粒の混入少なくやや粘性あり。

## P 8・P 9

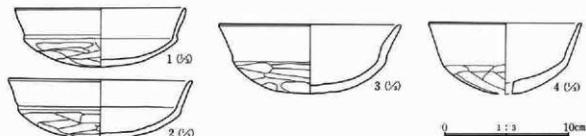
- 1 黒褐色土 粘質土ブロック、粘土の混入。  
 2 黒褐色土 粘質土ブロック、粘土の混入。  
 3 黒褐色土 砂粒の混入多く、粘質土の混入は少ない。

## P 11

- 1 黒褐色土 径2~3mmの小砂粒含む。  
 2 暗褐色土 地山黄色粘土混入。

## 電

- 1 黒褐色土 砂粒含む黒色土。  
 2 黄褐色土 砂礫多く含む粘質土。  
 3 暗褐色土 砂礫、若干の粘質土ブロック、焼土含む。  
 4 黄褐色土 粘質土ブロックを主体とする。  
 5 暗赤褐色土 焼土、炭化物を多く含む。  
 6 暗赤褐色土 5に似るが、焼土をブロック状に含む。



第510図 C-323号住居跡出土遺物

## C-323号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面	(13.8) (4.6)	精製	淡橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部細で	
2	土師器 杯	床面	(14.6) (4.7)	微砂粒含む	灰黒色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部細で	内外面に若干の漆付着
3	土師器 杯	+3	(14.6) (5.4)	微砂粒含む	灰黒色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部細で後寛削き	
4	土師器 杯	+27	(12.0)	精製	灰黒色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部細で後寛削き	

## C-325号住居跡 (第511~513図、PL66・140・141)

位置 Cq-44 形状 隅丸長方形 規模 長辺5.72m、短辺4.03m、壁高0.29m

重複 東部分にC-342号住居跡が重複、またC-99号土坑(近世)が北壁を切る。

埋没土 小礫多く含む、黄色粒子混入。

床面 細かな凹凸が見られるが、かなり平坦である。中央部分、電前面は締まりがある。壁周溝が南壁、東壁および北壁の一部に設けられている。幅約15cm、深さは5~10cm程である。

貯蔵穴 南東隅寄りに径60cm、深さ10cm程の掘り込みを確認しているが、貯蔵穴であるかは確定できない。

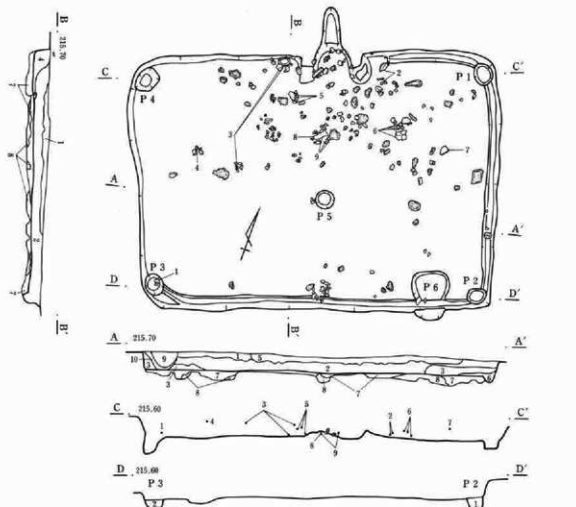
柱穴 4隅、および住居ほぼ中央に径30cm、深さ15~20cmのものを検出した。4隅の柱穴は砂質の土で埋め

られていた。

**竈** 北壁ほぼ中央に作られている。両袖は礫混じりの粘土で作り付けられ、焚口部分には両側に板状の砂岩が据えられている、右側は2枚の石が合わさった状態で検出された。煙道部分は一段高くなって壁外に約60cm程延びている。

**出土遺物** 主に竈周辺部分に集中して出土している。土器器臺および環などが見られた。

**調査所見** 南部分に重複があるものの、掘り込みがかなり浅かったために、比較的遺存状態は良い。貯蔵穴と思われる掘り込みが、住居南東隅寄りにあり、柱穴が4隅および中央に検出されている等、本遺跡内においては、構造的に希な住居である。時期は平安時代である。



・325号住居跡

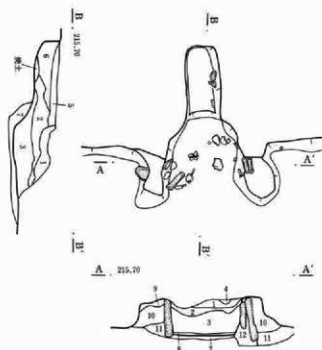
- 1 黒褐色土 締りやや悪い。小礫少量及び、若干の黄色土粒含む。
- 2 黒褐色土 締りやや悪い。1に比べ小礫の混入は少ないが、径2~4cm程の物をわずかに含む。黄褐色粘土のブロック若干含む。
- 3 暗褐色土 締りやや悪い。2に近似するが、黄褐色の砂礫若干含む。
- 4 暗褐色土 締りやや悪い。黄褐色粘土、流土、炭化物をわずかに含む。
- 5 黒褐色土 締り良、少量の小礫、若干の黄褐色粘土を含む。

- 6 暗褐色土 締りやや悪い。2に比べやや黄色味強い。黄色土粒を若干含む。
  - 7 暗褐色土 締りやや悪い。小礫を少量含む砂質土。
  - 8 褐色土 締りやや悪い。基盤の黄褐色砂礫を少量含む。
  - 9 黒褐色土 締まりやや悪い。若干の小礫含む砂質土。
  - 10 褐色土 締まり良。小礫の混入少なく、比較的均質。
- P1~4共通
- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む砂質土。
  - 2 褐色土 砂礫を多く含む砂質土、やや締りあり。

0 2m

第511図 C-325号住居跡

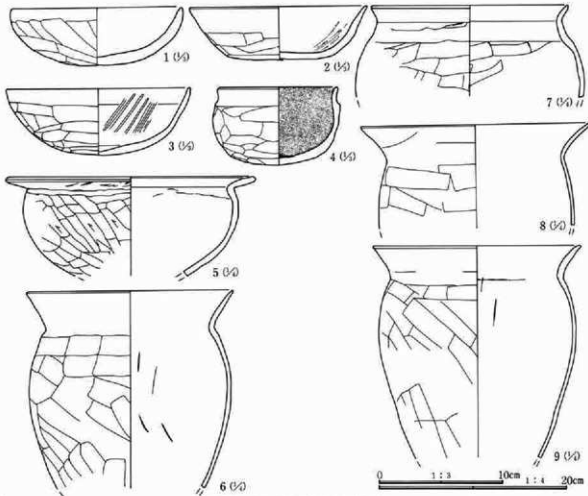




- 層
- 1 黒褐色土 埴り良、少量の小礫、わずかの焼土、黄褐色粘土含む。
  - 2 暗褐色土 埴り良、少量の黄褐色粘土、焼土含む。
  - 3 褐色土 黄褐色粘土をかなり含む。少量の焼土、わずかの炭化物含む。
  - 4 暗褐色土 埴り良、少量の黄褐色粘土、若干の焼土、炭化物含む。
  - 5 黒褐色土 埴りやや良、若干の小礫、わずかの黄褐色粘土、焼土含む。
  - 6 黒褐色土 埴りやや良、5に似るが、焼土をほとんど含まない。
  - 7 褐色土 埴りやや良、地山の黄褐色砂及び、黄褐色粘土をかなり含む。
  - 8 暗赤褐色焼土 埴りやや良、若干の小礫含む。
  - 9 黒褐色土 埴りやや良、若干の小礫含む。住居覆土。
  - 10 褐色土 埴りやや良、少量の黄褐色粘土含む。焼土わずかに混入。
  - 11 暗褐色土 埴りやや悪い。基盤の砂を少量含む。
  - 12 暗褐色土 埴りやや良、地山の砂、焼土、黄褐色粘土を若干含む。

0 1m

第512図 C-325号住居跡・竈



第513図 C-325号住居跡出土遺物

C-325号住居跡遺物観察表

番号	器 種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼 成	整 成 形 の 特 徴	備 考
1	土 師 器 坏	+10	(14.0)	4.5	微砂粒含む	淡藍色	良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部無で	
2	土 師 器 坏	床面	14.5 8.2	4.1	精製	灰褐色	普通	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部無で後蓋つき	内面に放射状寛磨き痕
3	土 師 器 坏	+5	20.0	7.0	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部無で後蓋つき	内面に放射状寛磨き痕 大悪品
4	土 師 器 小型壺	+26	9.6	6.2	砂粒僅かに含む	暗灰褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 胴部無で	内面黒色、底面に窪の当たり痕 完形
5	土 師 器 壺	床面	26.0		砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 胴部無で	広口
6	土 師 器 壺	+5	(22.0)		微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 胴部無で	
7	土 師 器 壺	+18	(20.8)		微砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 胴部無で	外面頸部に輪痕み痕
8	土 師 器 壺	床面	(24.4)		微砂粒含む	明褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 胴部無で	
9	土 師 器 壺	床面	(22.1)		微砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 胴部無で	

## C-326号住居跡 (第514~517図、PL67・141)

位置 Cr-41・42 形状 隅丸方形 規模 長辺5.21m、短辺4.70m、壁高0.38m

重複 竈を含む北壁部分にC-308号住居跡(平安時代)が、西側部分にはC-318号住居跡(古墳時代)が重複している。

埋没土 礫を多量に混入し、黄褐色粘土のブロックを多く含む。かなり粗粒で締まりは比較的良好。

床面 住居西側を大きく切られているために、検出し得たのは東側および北側の一部である。面的には比較的平坦である。中央部が僅かに窪み、周辺部および貯蔵穴周辺がわずかに高まる。また南側床面および中央にかけては比較的堅緻である。

貯蔵穴 北東隅に検出した。やや長円形で規模は100×80cmで深さは45cmを測る。埋土上面に若干の炭化材を認めた。また周辺部がやや高まりを持つ。

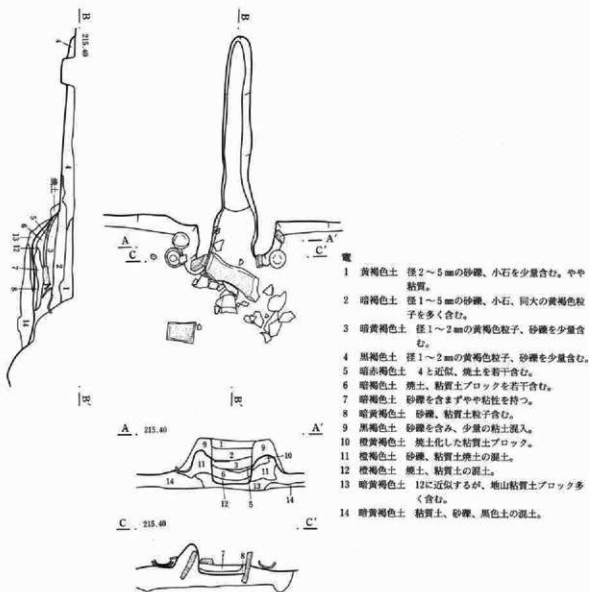
柱穴 東側に2本検出した、西側は318号住居跡により削られてしまっている。径は約40cm、深さ30~40cmである。

竈 北壁のほぼ中央に作られる。上部を308号住居跡によって削られている。袖部分の作りはあまり大きくはなく、両袖石が残り、焚口部の横に渡されていたと思われる、長さ50cm程の砂岩が、下に落ちた状態で検出されている。また前面部分より構築材に用いられていたと思われる円礫、角礫が若干検出されている。煙道部分は緩やかな傾斜をもって壁外に延び、幅約20cm、長さ1.5m程掘り出されている。燃焼部の埋土中には焼土、粘土ブロックの混土が多く見られた。

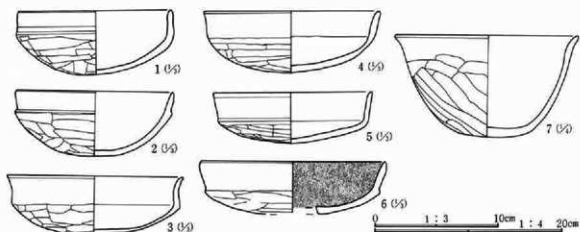
出土遺物 竈内部および前面、周辺部分より、ほぼ完形の土師器坏および壺が、かなりの数見られた。また覆土中より白玉が1点出土している。

調査所見 重複により西側半分近くを切られているが、残った部分については、比較的遺存状態は良かった。また、遺物も竈部分を中心に、使用時の状態をかなり留どめた形で、比較的多く出土している。時期は古墳時代である。

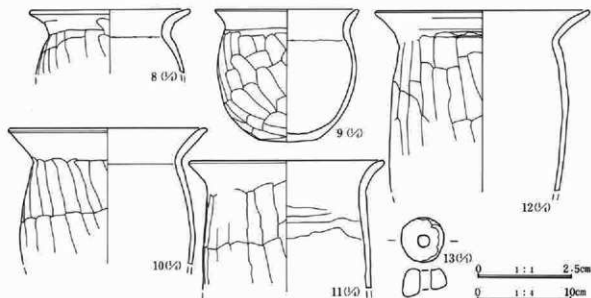




第515図 C-326号住居跡・電



第516図 C-326号住居跡出土遺物(1)



第517図 C-326号住居跡出土遺物(2)

C-326号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形形成の特徴	備考
1	土器 器 環	+37	12.0	5.0	微砂粒僅か に含む	橙褐色	良	外 口縁部横張で 体部蓋削り 内 口縁部横張で 体部無で	完形
2	土器 器 環	+6	12.5	5.1	小砂礫を 含む	橙褐色	良	外 口縁部横張で 体部蓋削り 内 口縁部横張で 体部無で	器面やや風化 完形
3	土器 器 環	+40	14.0	4.5	微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横張で 体部蓋削り 内 口縁部横張で 体部無で	完形
4	土器 器 環	床面	14.0	4.9	小砂礫を 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横張で 体部蓋削り 内 口縁部横張で 体部無で後見磨き	ほぼ完形
5	土器 器 環	+40	12.6	4.0	小砂礫僅か に含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横張で 体部蓋削り 内 口縁部横張で 体部無で後見磨き	完形
6	土器 器 環	+19	(15.0)		砂粒含む	灰黒色	良	外 口縁部横張で 体部蓋削り 内 口縁部横張で 体部無で後見磨き	内面黒色
7	土器 器 環	+20	(19.8)	10.7	砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横張で 胴部蓋削り 内 口縁部横張で 胴部無で	広口
8	土器 器 環	+34	(17.1)		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横張で 胴部蓋削り 内 口縁部横張で 胴部無で	
9	土器 器 小壺 壺	+36	15.3 6.1	14.1	砂粒含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横張で 胴部蓋削り 内 口縁部横張で 胴部無で	内面剥落顯著
10	土器 器 壺	+7	(21.1)		砂礫多く 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横張で 胴部蓋削り 内 口縁部横張で 胴部無で	
11	土器 器 壺	+41	21.1		小礫多く 含む	淡黄褐色	普通	外 口縁部横張で 胴部蓋削り 内 口縁部横張で 胴部無で	
12	土器 器 壺	+5	22.8		砂礫含む	灰褐色	良	外 口縁部横張で 胴部蓋削り 内 口縁部横張で 胴部無で	
13	白 玉	ビツ内	径1.2cm	高さ0.7cm	重さ1.7g	滑石製			

C-327号住居跡 (第518~520図、PL67・141)

位置 Cp・Cq-48・49 形状 隅丸方形 規模 長辺3.38m、短辺3.14m、壁高0.28m

重複 C-153号住居跡が西側に重複する。

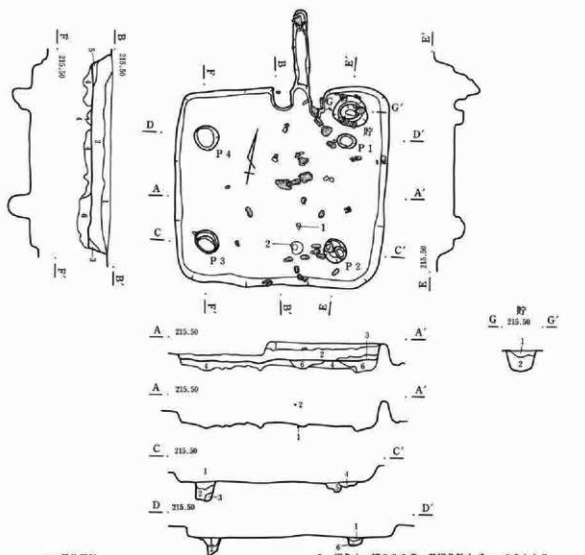
埋没土 小礫多く含む砂粒土、若干の炭化物を含む。

床面 平坦である。礫などもほとんど見られず、暗褐色土で良く締まる。

貯蔵穴 北東隅に検出された。あまり締まりのない土で埋まり、若干の炭化物が含まれる。

柱穴 ほぼ対角線上に4本検出されている。径30～40cmで深さは30～15cmとばらつきが見られる。また南東部の柱穴は掘り方もやや不明瞭であった。

竈 北壁ほぼ中央に作られる。左袖部分はかなり崩れた状態である。右側も袖石が露出しており遺存状態はあまり良くない。焚口幅はおよそ40cm程で、煙道を含む奥行きは1.5m程である。煙道は燃焼部より一段高くなって壁外に約1.3mの長さで続いている、また先端部分には土器片が出土している。



・327号住居跡

- 1 黒色土 締りやや良、小礫少量及び若干の黄色土粒、わずかの炭化物含む。
- 2 黒褐色土 締りやや良、1に比べ小礫の混入少なく径も小さい、黄色土粒若干含む。
- 3 黒褐色土 締りやや良、小礫の混入少ない、基盤黄褐色砂のブロックをわずかに含む。
- 4 暗褐色土 締りやや良、基盤の黄褐色砂のブロックを少量含む。床面は4の上面と思われる。
- 5 暗褐色土 締りやや良、黄褐色粘土、焼土粒をわずかに含む。小礫の混入わずか。
- 6 黒褐色土 締りやや良、黄褐色粘土ブロック、小礫、黄色土粒を若干含む。

P1～4共通

- 1 暗褐色土 締り良、少量の小礫、黄褐色粘土含む。
- 2 暗褐色土 締り悪い砂質土層。黄色土を少量含む。

- 3 褐色土 締りやや良、黄褐色粘土ブロックをかなり含む。
- 4 暗褐色土 締りやや良、若干の小礫、黄色土粒を含む。
- 5 暗褐色土 締りやや悪い。基盤の黄褐色砂少量及び、わずかの粘土含む。
- 6 暗褐色土 締りやや良、小礫わずかに含む。黄褐色粘土、焼土粒ごくわずか含む。

貯蔵穴

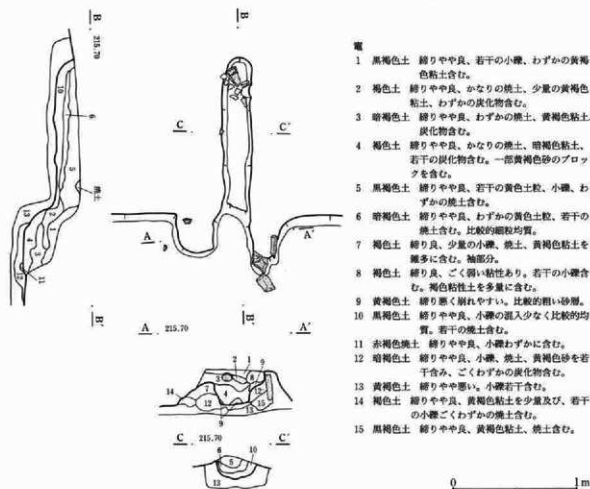
- 1 黒色土 締りやや悪い。小礫わずかに含む。炭化物、焼土粒ごくわずか混入。
- 2 黒褐色土 基盤の黄褐色砂を少量含む。若干の小礫、わずかの炭化物含む。

0 2m

第518図 C—327号住居跡

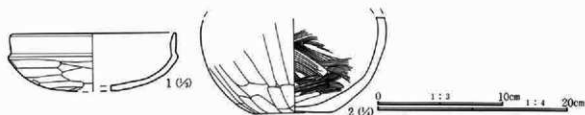
**出土遺物** 土器類はきわめて少なかった。土師器壺および坏が見られたに過ぎない。また南壁脇の床面より  
 圓編み石と思われる河原石が8点出土している。

**調査所見** 西側の隅部分を削られているが、他の壁は比較的遺存状態は良い。各壁はほぼ垂直に掘り込まれ  
 ており、床面も全体に平坦でしっかり作られている。出土遺物から時期は古墳時代後期である。



- 電**
- 1 黒褐色土 締りやや良、若干の小礫、わずかの黄褐色粘土含む。
  - 2 褐色土 締りやや良、かなりの焼土、少量の黄褐色粘土、わずかの炭化物含む。
  - 3 暗褐色土 締りやや良、わずかの焼土、黄褐色粘土、炭化物含む。
  - 4 褐色土 締りやや良、かなりの焼土、暗褐色粘土、若干の炭化物含む。一部黄褐色砂のブロックを含む。
  - 5 黒褐色土 締りやや良、若干の黄色土粒、小礫、わずかの焼土含む。
  - 6 暗褐色土 締りやや良、わずかの黄色土粒、若干の焼土含む。比較的細粒均質。
  - 7 褐色土 締り良、少量の小礫、焼土、黄褐色粘土を多く含む。袖部分。
  - 8 褐色土 締り良、ごく弱い粘性あり。若干の小礫含む。褐色粘性土を多量に含む。
  - 9 黄褐色土 締り悪く崩れやすい。比較的粗い砂層。
  - 10 黒褐色土 締りやや良、小礫の混入少なく比較的均質。若干の焼土含む。
  - 11 赤褐色焼土 締りやや良、小礫わずかに含む。
  - 12 暗褐色土 締りやや良、小礫、焼土、黄褐色砂を若干含む、ごくわずかの炭化物含む。
  - 13 黄褐色土 締りやや悪い。小礫若干含む。
  - 14 褐色土 締りやや良、黄褐色粘土を少量及び、若干の小礫ごくわずかの焼土含む。
  - 15 黒褐色土 締りやや良、黄褐色粘土、焼土含む。

第519図 C-327号住居跡・電



第520図 C-327号住居跡出土遺物

C-327号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	床面	(13.4)		黄砂粒僅かに含む	黒褐色	良	外 口縁部横線で 体部縦筋 内 口縁部横線で 体部無	
2	土師器 壺	+30			小礫を僅かに含む	黄褐色	普通	外 胴部縦筋 内 胴部無	胴面やや荒れている

第3章 検出された遺構と遺物

C-328号住居跡 (第521図、PL67)

位置 Cp-44 形状 隅丸方形か 規模 長辺3.10m、短辺(1.50)m、壁高0.12m

重複 北東部分を試掘トレンチにより壊され、さらに西側は319号住居跡と重複する。

埋没土 締まりなく、砂粒含まれる。

床面 部分的に地山砂礫層が露出しており、凹凸目立つ。

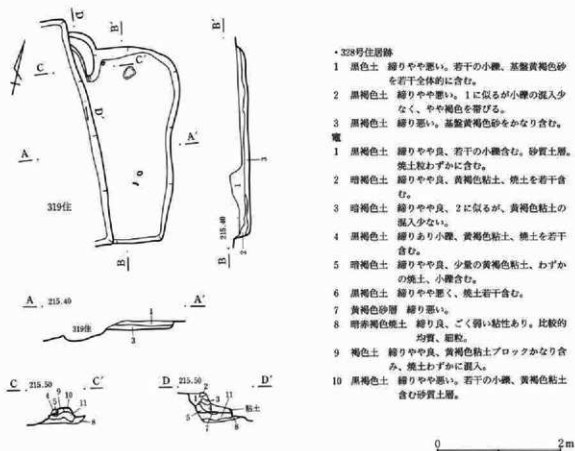
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁に作られているが、左側半分以上319号住居跡により壊されている。右袖部分は黄褐色粘土ブロックを多く含む粘性土で築かれている。竈口部右側に砂岩の袖石が据えられている。若干の焼土および、粘土小ブロックが検出されている。

出土遺物 わずかに小破片が見られたに過ぎず、図化し得なかった。

調査所見 北東部、西側半分を削られており、遺存状態は悪い、出土遺物はほとんど見られず、時期は不明である。



・328号住居跡

1 黒色土 締りやや悪い。若干の小礫、基盤黄褐色砂を若干全体的に含む。

2 黒褐色土 締りやや悪い。1に似るが小礫の混入少なく、やや褐色を帯びる。

3 黒褐色土 締り悪い。基盤黄褐色砂をかなり含む。

竈

1 黒褐色土 締りやや良、若干の小礫含む。砂質土層。焼土粒わずかに含む。

2 暗褐色土 締りやや良、黄褐色粘土、焼土を若干含む。

3 暗褐色土 締りやや良、2に似るが、黄褐色粘土の混入少ない。

4 黒褐色土 締りあり小礫、黄褐色粘土、焼土を若干含む。

5 暗褐色土 締りやや良、少量の黄褐色粘土、わずかの焼土、小礫含む。

6 黒褐色土 締りやや悪く、焼土若干含む。

7 黄褐色砂層 締り悪い。

8 暗赤褐色焼土 締り良、ごく弱い粘性あり。比較的均質、細粒。

9 褐色土 締りやや良、黄褐色粘土ブロックかなり含む。焼土わずかに混入。

10 黒褐色土 締りやや悪い。若干の小礫、黄褐色粘土含む砂質土層。

第521図 C-328号住居跡・竈

C-329号住居跡 (第522～524図、PL68・142)

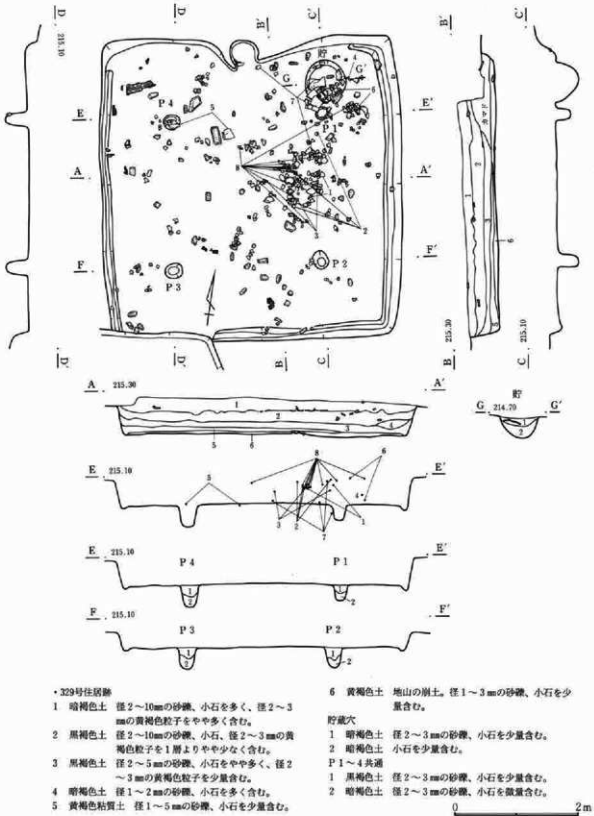
位置 Cm・Cn-47 形状 隅丸方形 規模 長辺4.80m、短辺4.55m、壁高0.25m

重複 C-322号住居跡が、竈を含む北壁部分に重複する。

埋没土 砂礫含み、若干の黄色粒子が混入する。



床面 比較的平坦で、砂礫若干含む、暗褐色の粘質土で貼床されている。また壁周溝が北壁を除きほぼ全周している。



・329号住居跡

- 1 暗褐色土 径2~10mmの砂礫、小石を多く、径2~3mmの黄褐色粒子をやや多く含む。
- 2 黒褐色土 径2~10mmの砂礫、小石、径2~3mmの黄褐色粒子を1層よりやや少なく含む。
- 3 黒褐色土 径2~5mmの砂礫、小石をやや多く、径2~3mmの黄褐色粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 径1~2mmの砂礫、小石を多く含む。
- 5 黄褐色粘質土 径1~5mmの砂礫、小石を少量含む。

- 6 黄褐色土 地山の崩土。径1~3mmの砂礫、小石を少量含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 径2~3mmの砂礫、小石を少量含む。
- 2 暗褐色土 小石を少量含む。
- P1~4 共通
- 1 黒褐色土 径2~3mmの砂礫、小石を少量含む。
- 2 暗褐色土 径2~3mmの砂礫、小石を少量含む。

第522図 C-329号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

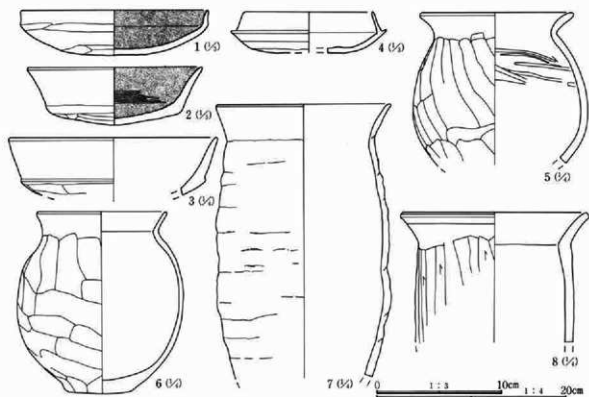
**貯蔵穴** 北東隅に検出されている。径70cmほどの円形で、深さは35cmを測る。断面撚鉢状を呈す。

**柱穴** ほぼ対角線上に4本検出された。いずれも径約20cm、深さは30cm程で垂直に掘られている。

**竈** 北壁中央に作られているが、322号住居跡によりほとんど削られている。検出されたのは火床部分のみである。このため構造等は不明である。

**出土遺物** 中央、竈周辺部分、貯蔵穴内で土器片が多く見られたが、かなり床面より浮いた状態である。

**調査所見** 竈のある北壁は、ほとんど削られた状況であったが、他の部分は比較的遺存状態は良い。床面はかなりしっかりした貼床かで、この貼床を除去したところ、東側半分は地山の礫が顕著に露出する状況である。時期は古墳時代後期である。



C-329号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
1	土師器 環	+26	(15.0)		精製	黒色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部削り 体部無で後磨き	内外面黒色
2	土師器 環	+26	(14.0)	4.5	砂粒(赤色) 含む	灰褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部削り 体部無で後磨き	内面黒色、平底を呈す
3	土師器 環	+17	(16.6)		砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部削り 体部無で	
4	須恵器 環	+15	(10.4)	3.2	砂粒僅かに 含む	灰色	良	外面底部磨削り	口縁部横撫で	
5	土師器 壺	床面	(16.4)		砂粒(片岩) 含む	淡褐色	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部削り 胴部無で	
6	土師器 壺	+5	(14.0)	19.3 7.0	砂粒含む	淡黄褐色	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部削り 胴部無で	外面やや風化
7	土師器 壺	床面	(19.6)		砂粒を多く 含む	灰褐色	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部削り 胴部無で	外面に輪積み成形痕顯著
8	土師器 壺	+33	(20.0)		砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部削り 胴部無で	やや肉厚である

C-330号住居跡 (第525~527図、PL68・142)

位置 Cq・Cr-44・45 形状 隅丸方形 規模 長辺3.42m、短辺2.45m、壁高0.18m

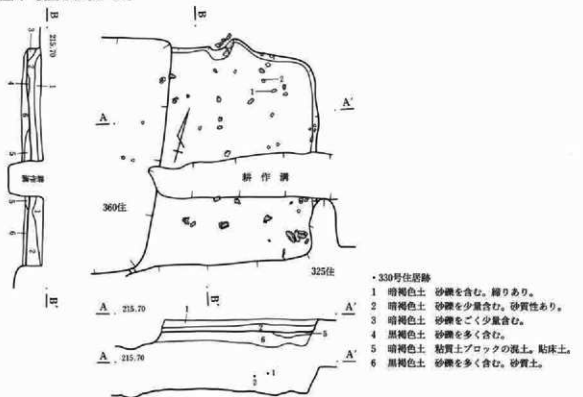
重複 中央に近世の耕作溝が走る。

埋没土 砂礫多く含まれる。

床面 凹凸顯著で、中央部分にロームを主体とした貼床が認められ、この部分については固く締まる。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった



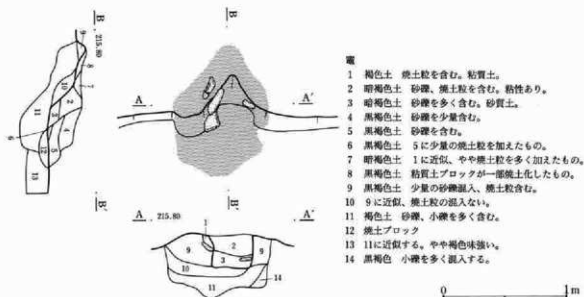
第525図 C-330号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

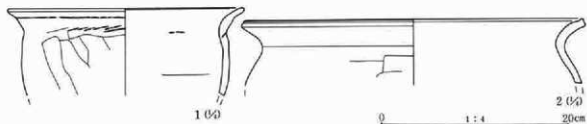
**竈** 北壁中央部に作られる。かなり壊れた状態で、焼土を含む粘質ロームが三角形に検出され、内側には礫が数個落ち込んだ状況で出土している。

**出土遺物** 極めて少なく、図示し得たのは土師器の甕が2点である。

**調査所見** 耕作溝が重複するものの、遺存状態は悪くはなかった。出土遺物は少ない。時期は平安時代である。



第526図 C-330号住居跡・竈



第527図 C-330号住居跡出土遺物

C-330号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	+25	(25.2)		砂粒僅かに 含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	胴部寛がり 胴部狭で
2	土師器 甕	+32	(36.0)		微砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	胴部寛がり 胴部狭で

C-331号住居跡 (第528~530図, PL68・69・142)

**位置** Cr・Cs-45・46 **形状** 隅丸方形 **規模** 長辺4.07m、短辺3.90m、壁高0.47m

**重複** 南西隅をC-315号住居跡に切られる。また北東隅にC-93号土坑が重複する。

**埋没土** 砂礫含み、比較的締まりがある。

**床面** 色調差により検出、やや固い面が中央より北側で認められる。

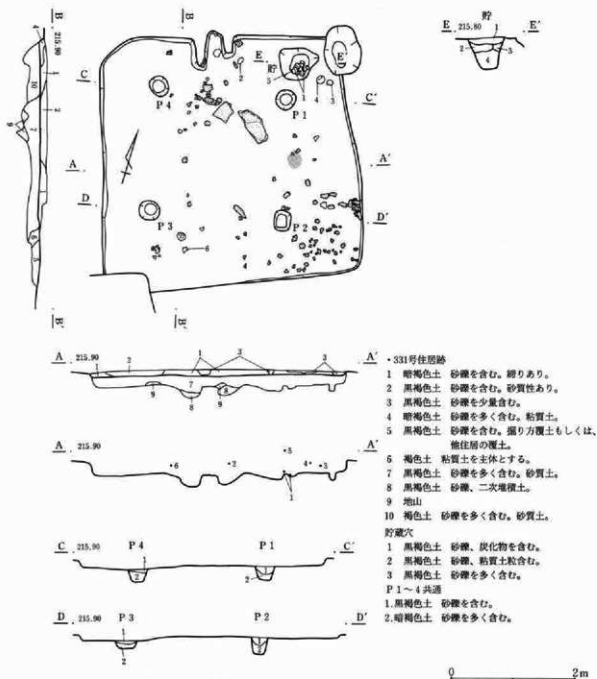
**貯蔵穴** 北東隅に検出された、平面形はかなり不定形で、径約50cm、深さ約50cmである。

柱穴 は対角線上に4本検出した。径約30cm、深さは10~20cmとかなり浅目である。

竈 北壁中央やや西寄りに作られている。袖は焼土、ローム、粘土の混土で築かれている。砂岩を用いた袖石が左右に据えられており、天井部に覆されていたと思われる、長さ60cm程の扁平な砂岩が、竈の前面1m程の所に、置かれた状態で検出されている。火床面は平坦で、煙道は見られなかった。

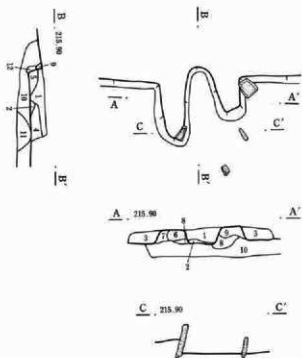
出土遺物 完彩を含む土師器の坏、および壺が見られる。また住居南東部分に礫が集中して検出されている。

調査所見 かなり削平されており、遺存状態はあまり良くなかった。床面の状況も明確ではなかった。時期は出土遺物から古墳時代後期である。



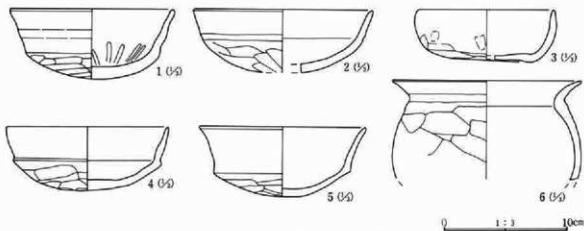
第28図 C-331号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第529図 C-331号住居跡・竈

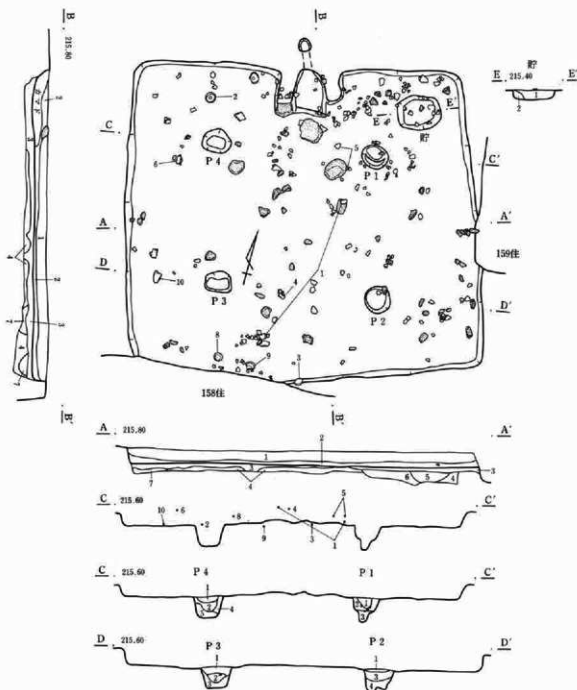
- 竈
- 1 暗褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を含む。
  - 2 暗褐色土 砂礫、焼土粒を含む。
  - 3 暗褐色土 砂礫を含む。細りあり。
  - 4 暗褐色土 砂礫を多く含む。砂質性に富む。
  - 5 暗褐色土 少量の砂礫を含む。
  - 6 焼土 いずれもカマド袖を構成。
  - 7 粘質土
  - 8 焼土ブロックを主体とする暗褐色土との混土。
  - 9 暗褐色土 焼土粒、砂礫を含む。
  - 10 暗褐色土 砂礫を多く含む。砂質土。
  - 11 暗褐色土 砂礫、焼土粒を含む。砂質土。
  - 12 焼土ブロック



第530図 C-331号住居跡出土遺物

C-331号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 杯	+3	(13.2)		砂粒含む	黄褐色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り後置磨き	内面放射状磨き痕
2	土師器 杯	+30	(14.1)		微砂粒含む	茶褐色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り後置磨き	
3	土師器 杯	+10	(11.0)		精製	灰黄褐色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り後置磨き	外面に指面痕、作りが確
4	土師器 杯	+15	13.0 5.0		微砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り後置磨き	ほぼ完成
5	土師器 杯	+36	(13.6) (5.5)		砂粒含む	茶褐色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り後置磨き	
6	土師器 甕	+12	15.0		砂粒含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 胴部削り 内 □縁部横線で 胴部削り	外面やや荒れている



・333号住居跡

- 1 暗褐色土 径1~15mm程度の砂礫を多く含む粗粒
- 2 暗褐色土 1よりも砂礫混入わずかに少なく、粘質土粒若干含む、わずかに黄色味がかかる。
- 3 暗褐色土 粘質土ブロック、砂礫を含みやや粘質。
- 4 褐色土 砂礫を主体とし、暗褐色土ブロックが混在。
- 5 暗褐色土 砂礫、炭土粒を含む。
- 6 砂礫、炭土粒を多く含む。
- 7 暗褐色土 砂礫を少量含む。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 砂礫、炭化物、粘土粒を少量含む。
- 2 褐色土 砂礫を多く含む。

P1~4共通

- 1 暗褐色土 良く締る。粘質土粒、砂礫わずかに含む。
- 2 暗褐色土 締りなく砂質、暗褐色土粒子と暗黄褐色土粒子の混土で後者が主体。砂礫若干含む。
- 3 褐色土 締りなく砂質、暗褐色粒子と暗黄褐色粒子の混土で後者主体。小砂礫わずかに含む。
- 4 褐色土 細粒で砂質。暗褐色粒子と暗黄褐色粒子の混土、粘質土ブロック、砂礫わずかに含む。
- 5 暗黄褐色土 砂質。暗黄褐色土を呈す砂粒中に褐色粒子、粘質土粒、砂礫若干含む地山類似土。

第531図 C-333号住居跡

0 2m

C-333号住居跡 (第531~533図、PL69・142・143)

位置 Cs・Ct-43 形状 隅丸方形 規模 長辺5.61m、短辺4.83m、壁高0.54m

重複 南西の一部を158号住居跡に切られる。

埋没土 礫を多く含む全体に砂質である。

床面 平坦である、中央の一部に固い面が認められる。

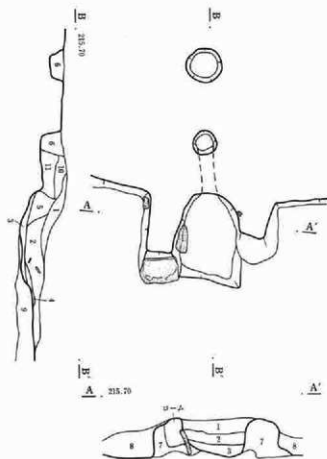
貯蔵穴 北東隅に検出された。やや長円形で、長軸径70cm、短軸径60cmで深さは約30cmである。覆土中に若干の焼土、炭化物を含む。

柱穴 対角線上に4本を検出した。径約40cm、深さは30cm程であるが底面の形状は一定しない。

竈 北壁中央に作られている。袖部分はローム質粘土を主体とした小礫、焼土混じりの土で作られている。左袖端部には角礫が検出されている。また焼土が前面に大きく広がって認められた。煙道がトンネル状に残り、径20cm程の煙り出しの穴が開いている。燃焼部内、崩落土中より焼けた若いニホンジカの指骨片(PL155)が出土している。

出土遺物 土師器環、埴類が見られる。遺物は住居内ほぼ全体より出土しているが、完形あるいはそれに近いものは、竈周辺および南西壁寄りに多く見られた。

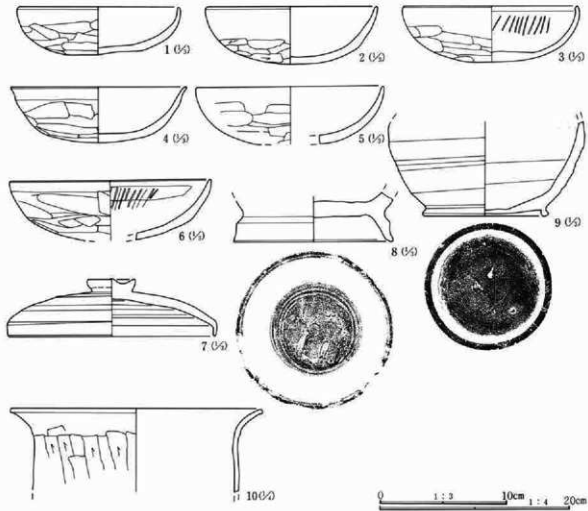
調査所見 南西の一部が切られているが、全体としては遺存状態は良く、床面および竈等の施設についても状態は良好であった。時期は奈良時代と思われる。



- 竈
- 1 褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を含む粘質土。
  - 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物を含む。
  - 3 黒色灰と焼土ブロックの混土層。
  - 4 黒色土 黒色灰を主体とする。
  - 5 暗褐色土 焼土粒、砂礫を含む。
  - 6 黒褐色土 砂礫を多く含む。
  - 7 褐色土 粘質土質粘土主体、焼土ブロック含む。
  - 8 黒褐色土 砂礫を含む。
  - 9 暗褐色土 砂礫を多く含む。住居掘り方覆土。
  - 10 暗褐色土 砂礫、焼土粒を少量含む。
  - 11 暗褐色土 砂礫を含む。

第532図 C-333号住居跡・竈





第533図 C-333号住居跡出土遺物

C-333号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口徑 底徑 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	構成	整形の特徴	備考
1	土器 碗	+5	(13.0)	(3.8)	微砂粒含む	黄茶褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏面 内 口縁部横線で 体部腹で	
2	土器 碗	床面	13.8	6.0	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏面 内 口縁部横線で 体部腹で	完形
3	土器 碗	床面	13.8	4.4	微砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏面 内 口縁部横線で 体部腹で	内面放射状肌磨き痕 ほぼ完形
4	土器 碗	+22	(14.0)	(4.4)	砂粒僅かに含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏面 内 口縁部横線で 体部腹で	
5	土器 碗	+10	(15.0)		砂粒僅かに含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏面 内 口縁部横線で 体部腹で	後裏磨き
6	土器 碗	+26	(16.1)		微砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏面 内 口縁部横線で 体部腹で	内面に放射状肌磨き 痕
7	須恵器 蓋	覆土	16.6	4.6 胴径3.4	精製	明灰色	良	ロクロ整形 口縁部腹で	ほぼ完形
8	須恵器 台付き鉢	+14	12.8		微砂粒含む	青灰色	良	ロクロ整形 底部回転未切り後腹で調整 付け高台	底部片のみ
9	須恵器 埴	床面	10.0		精製	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転未切り後腹で調整 付け高台	
10	土器 壺	+3	27.0		砂粒僅かに含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏面 内 口縁部横線で 胴部腹で	

第3章 検出された遺構と遺物

C-334号住居跡 (第534図、PL69・70)

位置 Co-46 形状 隅丸方形 規模 長辺3.10m、短辺2.72m、壁高0.64m

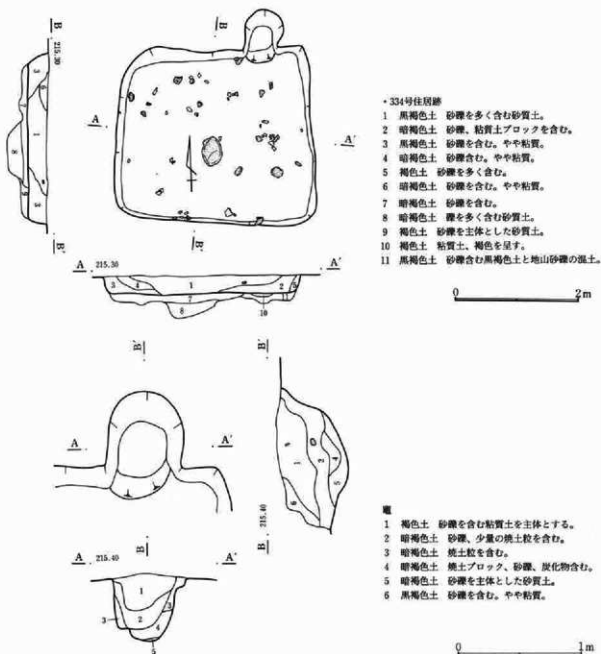
重複 C-348号住居跡 (古墳時代) の西側を切る。

埋没土 砂礫多く含む、やや粘質。僅かにロームブロックを含む。

床面 平坦で、わずかに踏み締められた部分が見られた。中央に偏平な長さ30cm程の河原石が埋まった状態で検出されている。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

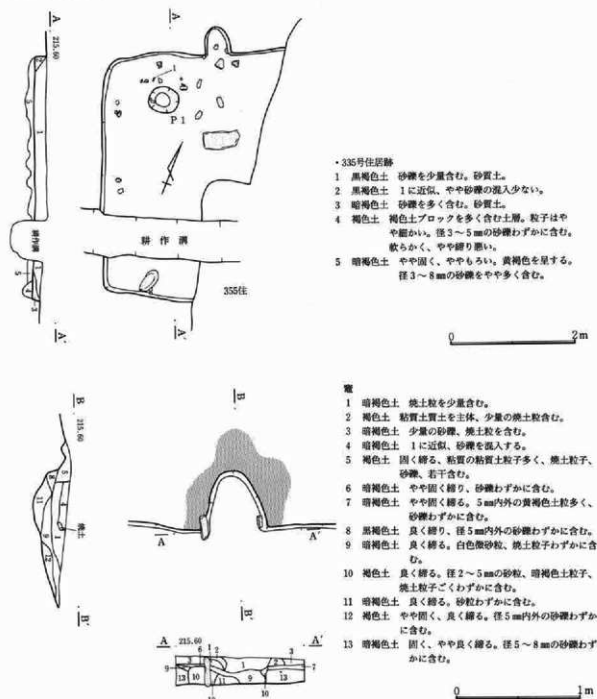


第534図 C-334号住居跡・竈

竈 北壁の東隅寄りに作られる。壁外に幅50cm、奥行き70cmで馬蹄形に掘り出され、袖、煙道は認められなかった。埋土中に若干の焼土は認められたが、火床面、壁はほとんど焼けておらず、極めて短期の使用であったと思われる。

出土遺物 小破片が僅かに見られたのみで、図示するには至らなかった。

調査所見 遺存状態は良好である。床面、竈、および遺物の出土状況などから、極めて短期間の使用であったと推定される。掘り方面の調査を行ったところ、中央に長径1.1m、深さ20cm程の床下土坑が検出された。時期は奈良時代か。



第535図 C-335号住居跡・竈

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### C-335号住居跡 (第535・536図、PL70・143)

**位置** Cr-44 **形状** 隅丸方形 **規模** 長辺3.91m、短辺(3.0)m、壁高0.2m

**重複** 南部分に耕作溝が重複する。

**埋没土** 砂礫を含む砂質土。

**床面** 比較的平坦である。竈の前面は若干細かな土を入れ固めた状況が窺われるが、他はかなり軟質である。

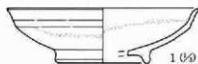
**貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 北西隅に1カ所検出された、径40cm、深さは約50cmを測る。他は耕作溝等により壊されてしまったものと思われる。

**竈** 北壁に作られている。壁外に幅40cm、奥行き50cmで馬蹄形に掘り出されている。外側周辺部分に焼土、粘土ブロックの分布が認められる。焚口部分両側に砂岩が据えられた状態で検出されている。火床面はほぼ平らで床面とほぼ同レベルである。住居中央部分に長さ60cm程の扁平な砂岩が床面に置かれた状態で検出されている、焚口部天井に渡されていたものと思われる。

**出土遺物** 少なく、図示し得たのは灰釉の埴1点のみである。

**調査所見** 遺存状態はあまり良くなく、出土遺物も極めて少ない。時期は平安時代である。



第536図 C-335号住居跡出土遺物

#### C-335号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器径(cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	灰釉皿	+20	15.3 (7.7)	4.2	精製	灰白色	良	ロクロ整形 付け高台	軸画は投げ掛け

#### C-337号住居跡 (第537~541図、PL70・71・143・144)

**位置** Cs・Ct-45・46 **形状** 隅丸方形 **規模** 長辺6.35m、短辺6.07m、壁高0.79m

**重複** 北西隅にDS-107号住居跡が接する。

**埋没土** 礫の混入多く、極めて粗粒である。中位以下はかなり大形の礫の混入が目立つ。

**床面** 比較的平坦で、5~10cmと厚さにばらつきが見られるものの、ほぼ全面に貼床がなされていた。貼床の土は少量の礫、ロームブロック、および黒褐色土との混土でよく締まる。

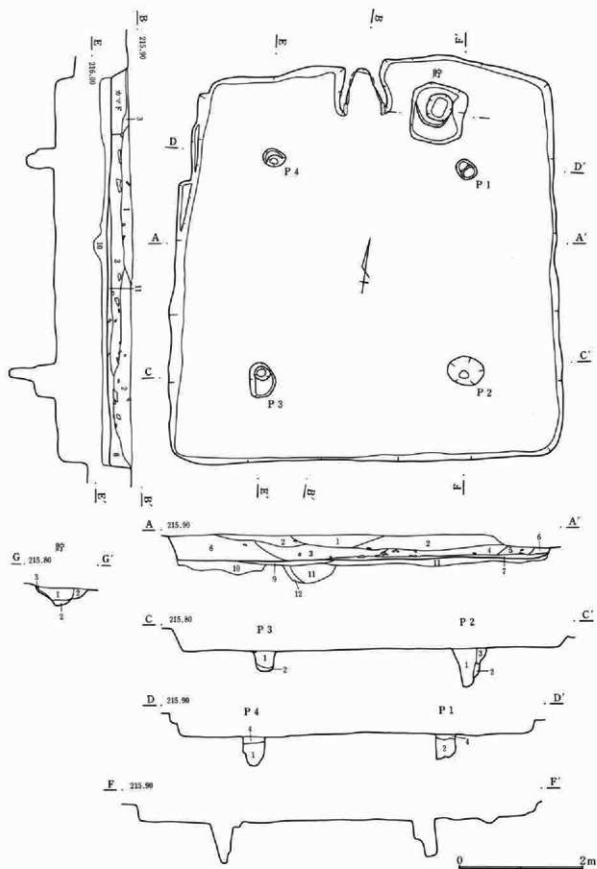
**貯蔵穴** 北東隅に検出された。周囲はわずかに高まり、平面形は隅丸方形で、中段を持ち中は円形の掘り込みとなる。規模はおよそ90×80cmで、深さは約60cmである。

**柱穴** 対角線上に4本検出した。形状、深さにばらつきが見られる。

**竈** 北壁に作られる。袖はV字状に残り、焼土、礫、ロームブロックを含む粘質土で作られている。板状の砂岩を用いた両袖石が残る。焚口幅60cmで長さ80cmである。内面良く焼けており、埋土中にも焼土が多く検出されている。

**出土遺物** 土師器の甕、坏、高坏等が、かなり大形の礫と共に投げ込まれた状態で多量に出土している。

**調査所見** かなり大型の住居で、遺存状態も良かった。多量の礫が土器を伴って検出されているが、床面よりやや浮いた状態のものが多い。時期は古墳時代後期である。



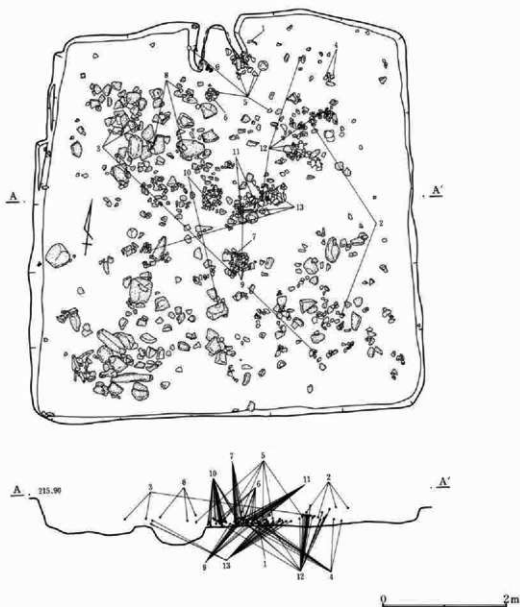
第537図 C-337号住居跡(1)

・337号住居跡

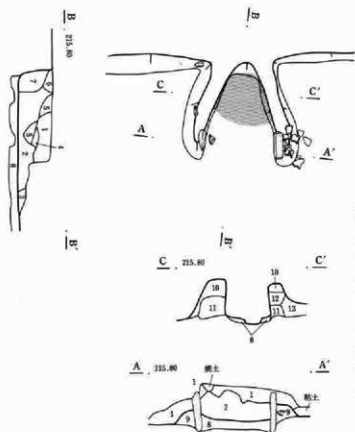
- 1 黒褐色土 砂礫を比較的多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫を多く含む砂質土。
- 3 黒褐色土 砂礫を含む砂質土。
- 4 黒褐色土 3に近似、やや大粒の砂礫の混入多い。
- 5 暗褐色土 砂礫の混入多い、粘質土粒混入あり。
- 6 黒色土 砂礫を含む砂質土で黒味強い。
- 7 黒色土 少量の砂礫を含む。
- 8 黒褐色土 砂礫を含む。
- 9 粘質土ブロックと砂礫を含む、黒褐色土との混土。
- 10 砂礫ブロックと黒褐色土との混土。
- 11 黒褐色土 砂礫、小礫を含む。
- 12 褐色土 砂礫を多く含む。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 砂礫を含む。
  - 2 褐色土 砂礫のブロックと1の混土。
  - 3 暗褐色土 砂礫を含む。
- P 1~4 共通
- 1 暗褐色土 砂礫、小礫を含む。
  - 2 砂礫の二次堆積土。
  - 3 砂礫ブロックと褐色土の混土。
  - 4 黒褐色土 少量の砂礫を含む。

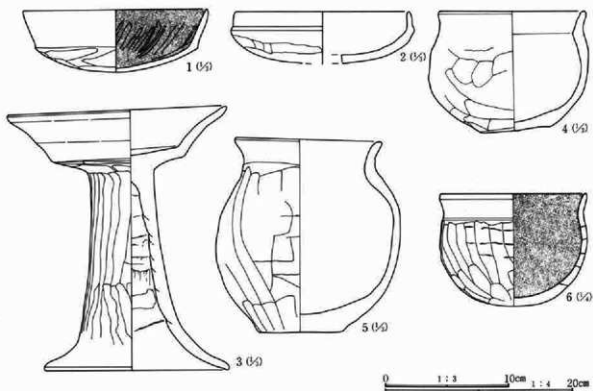


第538図 C-337号住居跡(2)

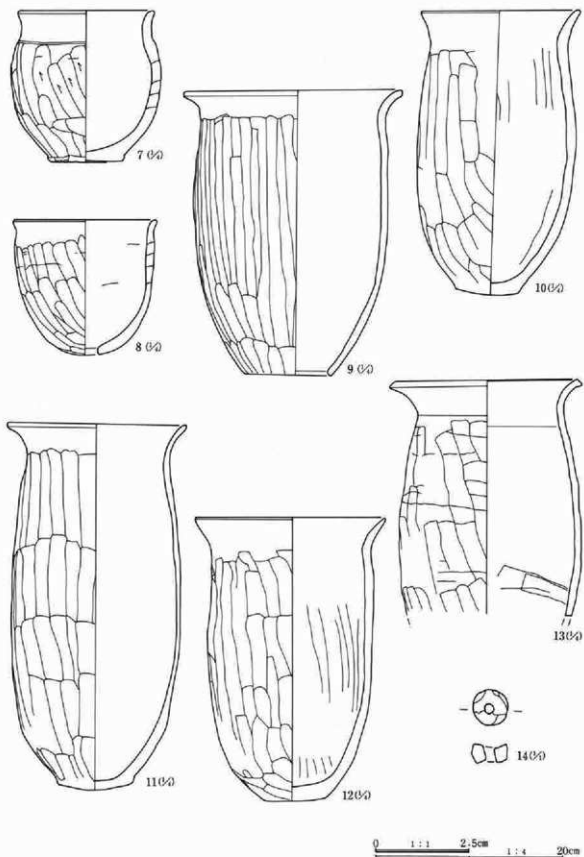


- 
- 1 黒褐色土 砂礫を含む。
  - 2 褐色土 焼土粒を多く含み、少量の炭化物を含む。
  - 3 黒褐色土 砂礫を含む。
  - 4 暗褐色土 焼土粒を含む。
  - 5 暗褐色土 砂礫を含む。
  - 6 黒褐色土 1に少量の焼土粒を加えたもの。
  - 7 暗褐色土 砂礫、少量の焼土粒を含む。
  - 8 暗褐色土 砂礫を多く含、焼土粒少含有。
  - 9 褐色土 砂礫を多く含。
  - 10 褐色土 焼土粒、粘質土ブロックを含む。
  - 11 褐色土 焼土粒を含む、粘質土。
  - 12 赤褐色土 焼土粒、焼土ブロックを主体とする。
  - 13 黒褐色土 砂礫、焼土粒を含む。

第539図 C-337号住居跡・竈



第540図 C-337号住居跡出土遺物(1)



第541図 C-337号住居跡出土遺物(2)



C-337号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (m)	口径 底径 (m)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 環	+5	14.8	4.9	砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で後蓋磨き	内面黒色、放射状寛 磨き痕
2	土師器 環	+15	(14.0)	(4.1)	砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横で後蓋磨き	内面に漆行着
3	土師器 高環	+13	17.5	29.5	砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 坏部口縁部横線で体、脚部寛削り 内 坏部横で、脚部寛削り	脚部内面に明瞭に輪 痕み痕残る
4	土師器 小型壺	竈内	11.6	9.4	砂粒含む	暗褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	二次火熱を受ける
5	土師器 小型壺	+13	(11.7)	(15.3)	微砂粒僅か に含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	外面に輪痕み痕が見 られる
6	土師器 小型壺	竈内	15.3	11.9	砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	内面黒色
7	土師器 小型壺	+2	14.3	16.1	僅かに微砂 粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	胎土層厚、厚手の作 り
8	土師器 小型甕	+20	15.4	14.4	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	単孔、径2.0cm
9	土師器 甕	+2	23.3	30.2	小礫僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で下部寛削 り	ほぼ完形
10	土師器 壺	+4	17.0	30.3	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	
11	土師器 壺	+5	19.2	38.8	微砂粒僅か に含む	橙赤褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	長割 ほぼ完形
12	土師器 壺	+10	20.3	30.1	砂粒多く含 む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	ほぼ完形
13	土師器 壺	+4	19.2		微砂粒僅か に含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部横で	口唇部面取りされて いる
14	白 玉	覆土	径0.9cm	高さ0.5cm	孔径0.3cm	重さ0.8g	外周部に縦方向の製作痕	やや小振りである	滑石製

## C-340号住居跡 (第542・543図、PL71・144)

位置 Cq-47 形状 隅丸長方形 規模 長辺3.44m、短辺2.82m、壁高0.23m

重複 南西部分にC-320号住居跡が重複する。

埋没土 礫の混入目立つ。

床面 北西部、南西部を切られている。やや凹凸が見られるものの比較的平坦である。黄褐色粘土を含む土で部分的に貼床がなされている。

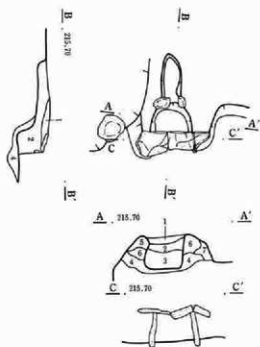
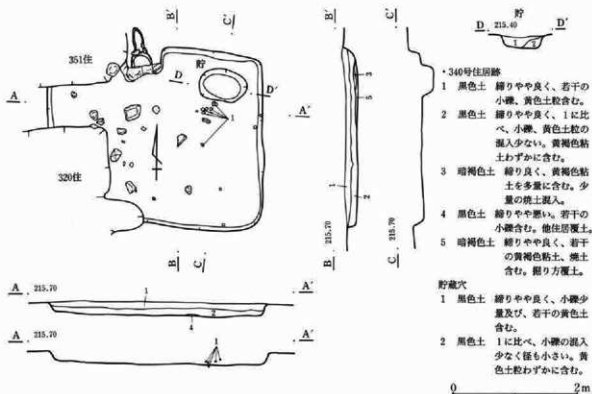
貯蔵穴 北東隅に検出された。長円形で長軸径80cm、短軸径50cm、深さ20cmである。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁ほぼ中央に作られている。焚口部に偏平な礫が島居状に袖石に載った状態で検出されている。焚口幅は約30cm、長さ80cmである。両袖端部には偏平な袖石が据えられた状態で検出されている。また煙道部は燃焼部よりも一段高くなり、長さ40cm程の長さで壁外に延びている。燃焼部との変換部分には割れた礫が検出されている。

出土遺物 出土遺物は極めて少なく、若干の礫と土器片が見られたのみで、図示し得たのは土師器の環が1点のみである。

調査所見 若干の重複等はあるものの、遺存状態はそれほど悪くはなかった。竈は焚口部の天井石、両袖石もかなりしっかり残っており、構築時の状況を良く留めている。出土遺物は少ないが、時期は奈良時代と思われる。



第542図 C—340号住居跡・竈

- 竈
- 1 暗褐色土 締りやや良く、少量の小礫、わずかの焼土、黄褐色粘土含む。
  - 2 暗褐色土 締りやや良く、1に比べやや黒味強い。若干の小礫、わずかの焼土、黄褐色粘土含む。
  - 3 黒色土 締りやや良く、若干の小礫含む。砂質土層。
  - 4 暗褐色土 締りやや良く、少量の焼土、黄褐色粘土含む。炭化物わずかに混入。
  - 5 暗褐色土 締りやや良く、若干の小礫、黄褐色粘土、わずかの焼土含む。
  - 6 褐色土 締り良く、黄褐色粘土を少量及び、若干の焼土含む。
  - 7 暗褐色土 締り良く、黄褐色粘土を少量及び、若干の焼土含む。

0 1m



0 1:3 10cm

第543図 C—340号住居跡出土遺物

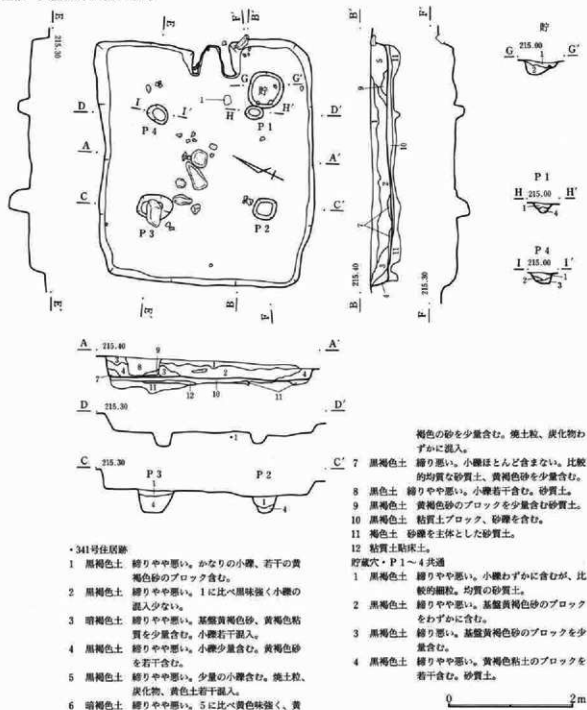
C-340号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器器 坏	床面	10.6 5.2		粗砂粒僅か に含む	暗褐色	良	外 口径縁部横線で 体部寛削り 内 口径縁部横線で 体部縁で	

C-341号住居跡 (第544~546図、PL71・72・144)

位置 Co-45 形状 隅丸方形 規模 長辺3.85m、短辺3.38m、壁高0.54m

重複 重複住居はなかった。



第544図 C-341号住居跡

**埋没土** 砂礫多く含み、締まりは悪い。

**床面** やや凹凸が見られるもののほぼ平坦である。ロームブロック、砂礫の混土で粘床がなされている、中央部が厚く周辺部は薄くなる。

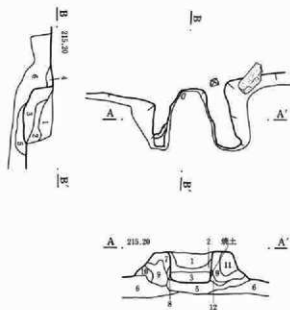
**貯蔵穴** 南東隅に検出された。径約50cm、深さ約20cmである。西側に柱穴外面天井部回転篋削り接して掘り込まれる。

**柱穴** 対角線上に4本検出した。径50～20cmと差があり、深さも30～15cmとばらついている。

**竈** 東壁ほぼ中央に作られている。袖は裸、ロームブロック、焼土等の混土で、作り付けられている。焚口幅40cm、奥行き50cmである。火床面は床面よりやや下がっている。

**出土遺物** きわめて少ない、図示し得たのは土師器の坏1点のみである。

**調査所見** 遺存状態は良好である。壁の立ち上がりも、やや崩れた北東隅部分を除きほぼ垂直に立ち上がる。時期は平安時代である。



第545図 C-341号住居跡・竈

0 1m



第546図 C-341号住居跡出土遺物

0 1:3 5cm

C-341号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考	
1	土師器 坏	床面	(14.6) (4.5)	凝砂粒含む	灰黒色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部貫用り 体部撫で後置磨き	内面黒色、緻密な置磨き痕

C-342号住居跡 (第547・548図、PL72・144)

位置 Cq-44 形状 隅丸方形 規模 長辺3.26m、短辺3.23m、壁高0.1m

重複 C-325号住居跡と重複。

埋没土 わずかに黒味を帯びた砂礫土。

床面 東壁際のごく狭い部分のみの検出であったために詳細は不明である。

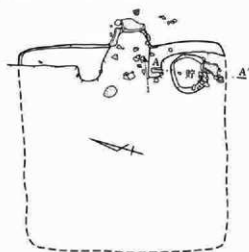
貯蔵穴 南東隅に検出された。径60cm、深さは約10cmである。

柱穴 検出されなかった。

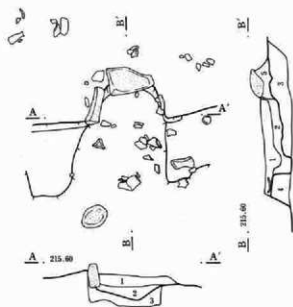
竈 東壁に作られる。かなり崩れた状態で礫が検出されている。燃焼部内側部分には立て掛けられた板状の砂岩が検出されている。

出土遺物 須恵器の塊1点が竈内より出土している。

調査所見 竈の付く北壁以外には壁高はほとんど認められなかった。ほとんど325号住居跡によって覆われている。時期は平安時代である。



0 2m



・342号住居跡

貯蔵穴

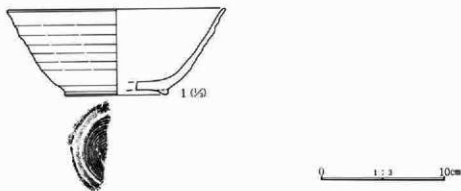
- 1 黒褐色土 締りやや良く、若干の小礫、黄褐色粘土、ごくわずかの焼土粒含む。
- 2 暗褐色土 締り良く、1に比べ黄褐色粘土多く、黄色味強い。まれに径2~3cmの小礫含む。
- 3 黒褐色土 締りやや良く、小礫、黄色土粒、焼土をわずかに含む。

竈

- 1 暗褐色土 締りやや良く、小礫、焼土粒、炭化物わずかに含む。
- 2 暗褐色土 締りやや良く、かなりの焼土、及び若干の黄褐色粘土、小礫含む。
- 3 黒褐色土 締りやや良く、小礫若干含む砂質土層。黄色土粒わずかに含む。
- 4 黒褐色土 締りやや良く、小礫少量含む。炭化物わずかに混入。
- 5 暗褐色土 締りやや良く、若干の焼土、黄褐色粘土、わずかの小礫含む。

0 1m

第547図 C-342号住居跡・竈



第548図 C-342号住居跡出土遺物

C-342号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	須恵器 埴	竈内	(17.3) (8.3)	6.8	砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り 付け高 台	

C-343号住居跡 (第549～551号、PL72・73・144)

**位置** Co-47 形状 隅丸方形 規模 長辺4.37m、短辺4.28m、壁高0.55m

**重複** 他の住居との重複は見られなかったが、作り替えがなされている。

**埋没土** やや粗い土に砂礫が多く混入。下層に貼り直しを行ったと思われる、茶褐色粘土層が薄く確認された。

**床面** やや中央部分が下がるが、比較的平坦で堅く締まる。粘土主体の茶褐色土で貼られており、住居の作り替えに伴う、最低2回程度の貼り直しがなされている。

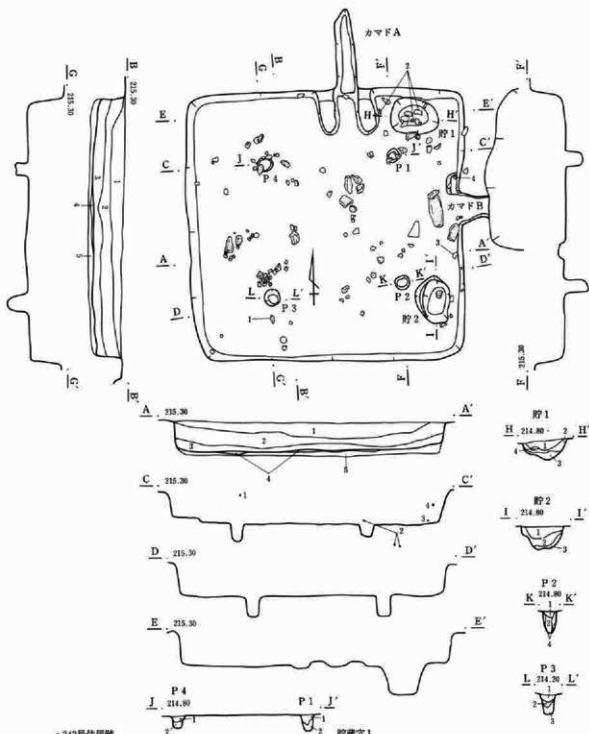
**貯蔵穴** 南東隅(旧)および北東隅(新)の2基が検出されている。南東隅のものはやや不定形な長円形で、長軸径80cm、短軸径50cm、深さ約30cmである。下層に若干の焼土が含まれている。北東隅のものは径60cm程の隅丸方形で深さは40cm程である。

**柱穴** 最終の生活面上でほぼ対角線上に4本を検出している。径約20cmで深さは20～30cmである。旧床面を露出させた時点では、柱穴と判断されるようなものを計8本検出している。南西、南東に検出した柱穴は、最終のものを含めて、2ないしは3本が近接して掘り込まれている。

**竈** 北および東壁に2基を検出した。東が新しく、北が古い。東壁に作られた竈は焚口天井部に渡されていた板状の砂岩が、手前床面に置かれた状態で検出されている。袖石は一部倒れた状態ではあるが両側に残る。幅約40cm程の煙道が延びるが、先端部は334号住居跡に切られている。埋土中層には天井部の崩落と思われる焼土層が検出されている。北壁に作られた竈は、袖部分は無く、住居内の構造は不明である。煙道部分は一段高く緩やかな勾配で約1.3mの長さで壁外に延びている。

**出土遺物** 遺構の遺存状態に反して、土器の出土点数はあまり多くなかった。土師器壺、埴の他に紡錘車が1点見られた。

**調査所見** かなり遺存状態の良い住居である。床面の貼り替え、柱穴および貯蔵穴、竈の作り替えが見られた。頭初東に竈、および貯蔵穴があったが、旧床面の上に新しく床を作り、竈を北壁に、貯蔵穴もこれに伴い北東隅に作り直している。時期は古墳時代後期である。



・343号住居跡

- 1 暗褐色土 きめの粗い土をベースとし、径2～10mmの砂礫、小石、黄褐色粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 きめの粗い土をベースとし、径2～20mmの砂礫少量、黄褐色粒子多く含む。やや明るい色調を呈す。
- 3 暗褐色土 やや暗い色調を呈し、砂礫やや少なく、径1～3mmの黄褐色粒子を少量含む。
- 4 茶褐色粘質土 硬質、径1～2mmの砂礫、黄褐色粒子を少量含む。
- 5 黒褐色土 径1～2mmの砂礫をごく少量、径1mm以下の黄褐色粒子を少量含む。

貯蔵穴1

- 1 暗褐色土 径2～5mmの砂礫、小石、同大の黄褐色粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 径1～10mmの砂礫、小石、同大の黄褐色粒子を1よりやや多く含む。
- 3 黄褐色土 粘質土、径2～5mmの砂礫、小石、同大の黄褐色粒子を少量含む。炭土を若干含む。
- 4 黄褐色土塊

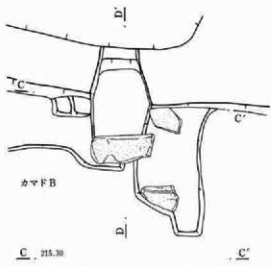
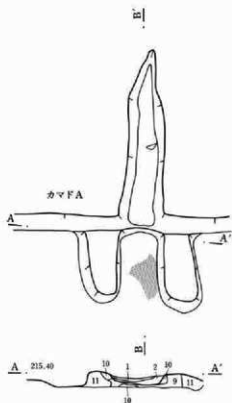
0 2m

第549図 C—343号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

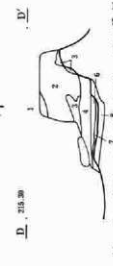
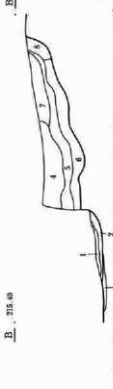
貯蔵穴2

- 1 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、小石をやや多く含む。
- 2 黒褐色土 径1~2mmの砂礫、小石、黄褐色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、小石をやや多く、径1~2mmの黄褐色粒子を少量含む。



P1~4共通

- 1 暗褐色土 径1~3mmの砂礫をやや多く含む。同大の黄褐色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや明い色調を呈し、径1~2mmの砂礫及び黄褐色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 1、2より明い色調を呈し、径1~3mmの黄褐色粒子をやや多く含む。
- 4 暗黄褐色土 粘質、径1~2mmの砂礫を少量含む。



電A

- 1 暗赤褐色土 径1~3mmの黄褐色粒子、径1~5mmの砂礫、焼土をやや多く含む。
- 2 暗黄褐色土 やや粘質、径1~5mmの砂礫、小石、径1~3mmの黄褐色粒子を少量含む。黄褐色粘質土塊を若干含む。
- 3 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、小石を少量、焼土を多く含む。
- 4 黒褐色土 径2~10mmの砂礫、小石をやや多く含む。径1~5mmの砂礫、小石を多く含む。径1~5mmの黄褐色粒子を少量含む。
- 5 暗黄褐色土 4よりややきめの細かい土をベースとし、径1~2mmの黄褐色粒子を多く含む。
- 6 暗黄褐色土 黄褐色粘質土をベースとし、径2~5mmの砂礫、小石を少量、径1~3mmの黄褐色粒子を多く含む。焼土を少量含む。
- 7 茶褐色土 やや粘質、径2~5mmの砂礫をやや多く、黄褐色粒子を少量含む。
- 8 黄褐色粘質土 径1~2mmの砂礫を少量含む。黒褐色土ブロックを少量含む。
- 9 暗黄褐色土 径2~3mmの砂礫を多量に含む。若干の焼土混入。
- 10 暗茶褐色土 茶褐色粘質土ブロック。
- 11 暗茶褐色土 径2~3mmの砂礫を主体とする。

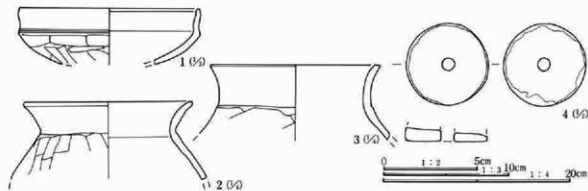
電B

- 1 黄褐色土 粘質土ブロックを多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫、若干の粘質土ブロックを含む。
- 3 暗赤褐色土 粘土、焼土を含む。
- 4 暗赤褐色土 粘土、焼土ブロック、炭化物の混入。
- 5 暗黄褐色土 黄褐色粘質土、若干の炭化物、焼土を含む。
- 6 暗褐色土 径1~4mmの砂礫、黄褐色粒子を少量含む。
- 7 黒褐色土 径2~3mmの砂礫をやや多く含む。
- 8 黒褐色土 径2~10mmの砂礫、径2~5mmの黄褐色粒子を多く含む。
- 9 黄褐色粘質土 径1~3mmの砂礫をやや多く含む。
- 10 暗褐色土 径1~5mmの砂礫、小石を少量含む。焼土粒を若干含む。
- 11 暗褐色土 径1~10mmの砂礫、小石をやや多く、黄褐色粒子を多く含む。
- 12 暗褐色土 径1~10mmの砂礫、小石をやや多く、黄褐色粘質土塊を多く含む。



第550図 C-343号住居跡・電





第551図 C-343号住居跡出土遺物

C-343号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 坏	+14	(14.4)		砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部裏で	
2	土師器 壺	床面	(18.0)		小砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部裏で	
3	土師器 壺	+4	(18.2)		微砂粒僅か に含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り後磨き 内 口縁部横線で 胴部裏で後磨き	
4	紡錘車	+19						径4.9cm 高さ(0.7)cm 孔径0.7cm 重さ21.2g 上面部は刺刺して欠損 蛇紋岩製	

## C-346号住居跡 (第552・553図、PL73・144)

位置 Cq-41・42 形状 隅丸方形 規模 長辺4.69m、短辺4.59m、壁高0.45m

重複 南西隅をC-305号住居跡(古墳時代)に、さらに竈を含む北壁部分を283号住居跡(古墳時代)に切られている。

埋没土 小礫、黄色粒子を多く含む。

床面 平坦をなし、部分的に良く締まったところが見られる。幅約15cmの壁周溝が西壁から北壁の一部にかけて見られるが、西壁では壁に沿っていないところがある。

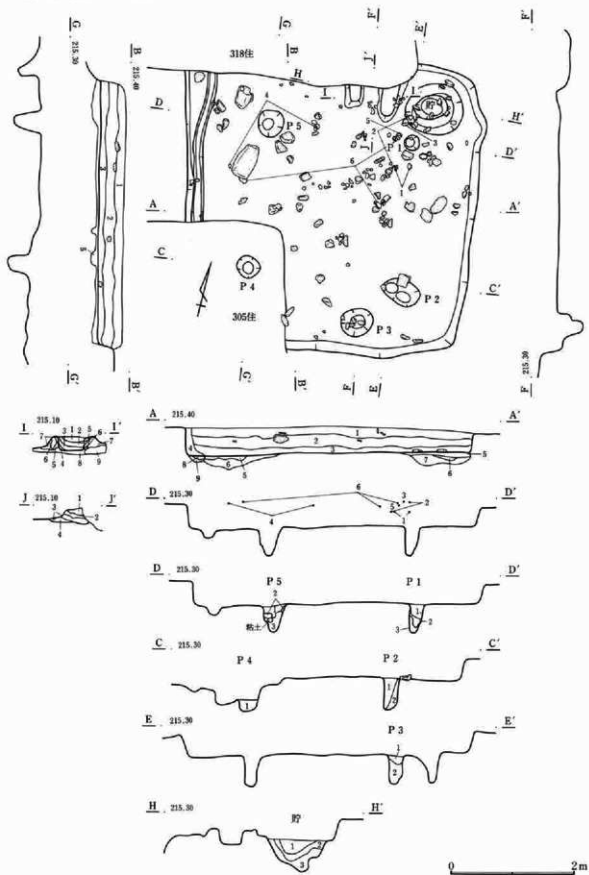
貯蔵穴 北東隅に検出されている。径約80cmの円形で深さは40cmである。

柱穴 4本を検出した。およそ対角線上にある。それぞれの大きさは径20~40、深さ40~50cmで、南西の重複により切られている部分に関しては、下部掘り方のみ検出された。

竈 北壁中央に作られるが、318号住居跡により大きく削られている。本体部、煙道部は検出できなかった。両袖端部と火床面の下部のみ確認した。

出土遺物 竈前面から、中央部において若干の土器片および礫を多く検出した。やや浮いた状態のものがあった。土師器の坏、壺が見られた。

調査所見 竈部分を削られているが、壁高は最大50cmを測り、比較的遺存状態は良い。時期は古墳時代後期である。



第552図 C-346号住居跡

## ・346号住居跡

- 1 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、小石、同大の黄褐色粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 1より暗い色調、砂礫、小石を多量に含む。
- 3 黒褐色土 径2~3mmの砂礫、小石を少量含む。
- 4 黄褐色土 径1~2mmの砂礫、小石を少量含む。
- 5 黒褐色土 砂礫、粘質土ブロックの混土。
- 6 黒褐色土 砂礫、粘質土ブロックの混土。黒色土をブロック状に含む。
- 7 黒褐色土 砂礫、粘質土ブロックの混土。地山、砂礫土を混入。
- 8 暗褐色土 褐色土粒中に砂礫含む。
- 9 黒褐色土 灰褐色土粒、褐色土粒類に含む。

## 貯蔵穴

- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 暗褐色土 砂粒、粘土小ブロック若干混入。
- 3 暗褐色土 地山、砂礫、粘土ブロック多く混入。

## P1

- 1 黒褐色土 砂利点在、小礫若干、褐色粘質土塊、土粒点在。
- 2 暗褐色土 砂利点在、褐色粘質土土塊多量、黒褐色土塊多く混入。
- 3 暗褐色土 褐色砂利土塊、粘質土塊多量、黒褐色土粒若干、灰白色粒子点在。

## P2

- 1 黒褐色土 砂粒、粘質土粒を含む。
- 2 暗褐色土 地山、粘土ブロックを多く含む。

## P4

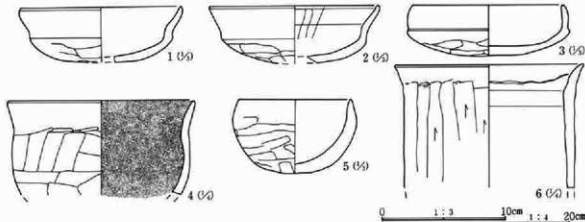
- 1 褐色土 褐色粘質土土粒、土塊、褐色粘性土塊が雑然と混入。砂礫若干。

## P5

- 1 黒褐色土 砂利若干、小礫点在。褐色粘質土土塊、土粒点在。
- 2 褐色土 砂利点在。褐色粘質土土塊多量、褐色粘性土塊若干混入。
- 3 褐色土 砂利若干、褐色粘質土土塊多量、褐色粘性土塊やや多い。

## 甕1-1'、J-1'

- 1 黒褐色土 砂礫若干、褐色、灰白色粒子若干。
- 2 褐色土 粘性のある褐色土塊、褐色、灰白色粒子多量、若干の黒褐色土と斑状を呈す。
- 3 暗褐色土 砂礫やや多く点在。褐色土塊、土粒多く含む斑状。
- 4 暗褐色土 褐色粘質土、砂礫点在。黒褐色土と混入。
- 5 暗赤褐色土 径1~3mmの砂礫、小石をやや多く含む。焼土をベースとする。
- 6 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、小石を少量含む。
- 7 暗黄褐色土 粘質土、砂礫、小石を少量含む。
- 8 暗褐色土 径1~5mmの小石を少量含む。
- 9 黒褐色土 径2~10mmの小石をやや多く、径1~2mmの黄褐色粒子を多く含む。



第553図 C-346号住居跡出土遺物

## C-346号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	製作成形の特徴	備考
1	土器 器 環	+22	(13.1)		砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り後磨き	
2	土器 器 環	+23	(13.6)		砂粒僅かに含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り後磨き	内面放射状磨き痕
3	土器 器 環	+39	(12.2)		精製	灰黒色	良	外 □縁部横線で 体部削り 内 □縁部横線で 体部削り後磨き	内面に漆付着
4	土器 器 壺	+36	(20.0)		砂粒含む	灰黄色	普通	外 □縁部横線で 胴部削り 内 □縁部横線で 胴部削り	広口、内面黒色
5	手捏ね土器	+22	(9.0)	5.8	小砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	内外面削で成形	胴内厚い
6	土器 器 壺	+30	(20.0)		砂粒僅かに含む	茶褐色	良	外 □縁部横線で 胴部削り 内 □縁部横線で 胴部削り	

第3章 検出された遺構と遺物

C-348号住居跡 (第554・555図、PL73・144)

位置 Co-45・46 形状 隅丸長方形 規模 長辺2.80m、短辺2.55m、壁高0.18m

重複 西側をC-334号住居跡に切られる。

埋没土 地山の砂礫多く含む粗粒。

床面 凹凸が見られ、礫層が部分的に露出している。

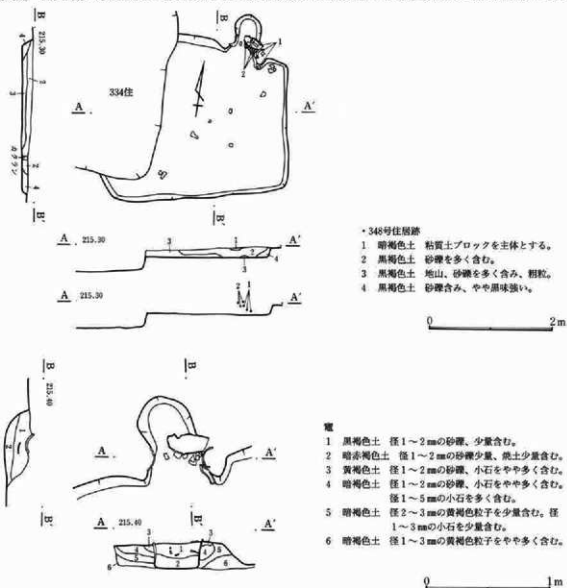
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁の東隅寄りに作られる。焚口幅40cmで、奥行き60cmの馬蹄形に掘り出され、右袖には石が残る。また燃焼部入口の両側に、土師器甕の胴部片2分の1から3分の1が立て掛けられていた。恐らく土の崩落を防ぐためのものであろう。

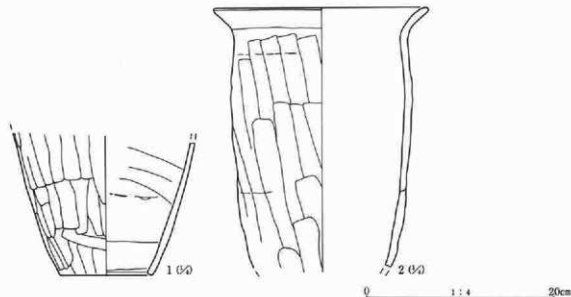
出土遺物 竈部分に土師器甕が見られた。

調査所見 西側部分を切られているものの、壁の遺存状態はそれほど悪くはなかったが、地山が砂礫土であ



第554図 C-348号住居跡・竈

るために、壁のラインに関しては、やや外側に流れている部分もある。時期は出土遺物から古墳時代後期である。



第555図 C-348号住居跡出土遺物

C-348号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高 底径(cm)	胎土	土調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 甕	+4	10.0		砂粒含む	淡褐色	良	外 胴部篋削り 内 胴部撫で	胴上半部を欠く
2	土師器 壺	+12	23.0		砂粒(片岩) 含む	黒褐色	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 胴部撫で	器面荒れている

C-349号住居跡 (第556・557図、PL73・74・145)

位置 Cn・Co-46 形状 隅丸方形 規模 長辺4.30m、短辺4.16m、壁高0.29m

重複 南壁部分をC-356号住居跡に切られる。

埋没土 砂礫多く含む、下層には炭化物の混入目立つ。

床面 細かな凹凸は見られるが、平坦でよく締まる。床面全面に炭化材が多く検出されている。

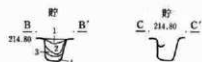
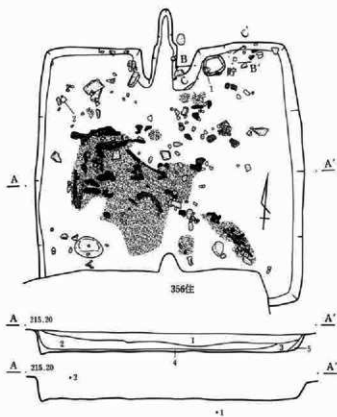
貯蔵穴 竈右脇に検出された。比較的小さく、1辺約30cmの方形を呈し、深さ35cmを測る。中位より土師器の坏が出土している。

柱穴 検出されなかった。

竈 北壁中央に作られる。袖部分は裸、粘土、焼土の混在する土で構築されている。焚口幅30cmで、奥行きは80cmである。内面は良く焼けている。また竈左側に、用材と思われる板状の砂岩2枚が重なって検出されている。

出土遺物 図化できた遺物は少なく、土師器坏、および甕の2点のみである。

調査所見 南側を削られているものの、遺存状態はかなり良好である。床面より大量の炭化材が検出され、壁面の一部にも火を受けた痕跡が着取された。多量の炭化材、灰などが見られることから、焼失住居と考えられる。床面中央やや東よりにおいて、底面に黄褐色粘土を貼った、径70cm程の浅い床下土坑が確認されている。時期は古墳時代後期である。



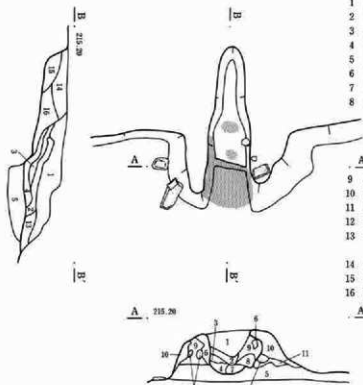
・349号住居跡

- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫、炭化物多く混入。
- 3 黒褐色土 砂礫、粘質土粒若干の炭化物混入。
- 4 黒褐色土 砂粒含む。やや細粒。
- 5 黒褐色土 地山黄色粒子多く混入。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 砂礫、粘質土粒、炭化物の混入。
- 2 黒褐色土 1に近似粘質土粒の混入は少ない。
- 3 黒褐色土 炭化物の混入目立ち、礫を少量含む。
- 4 黒褐色土 地山ブロックを含む。

0 2m

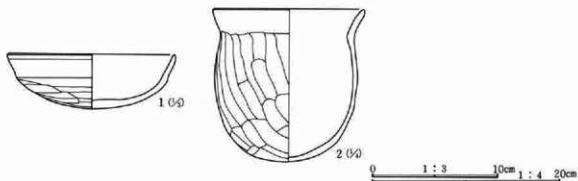


電

- 1 黒褐色土 砂礫多く含む粘質土若干混入する。
- 2 淡褐色土 粘質土ブロック、若干の砂礫含む。
- 3 黒褐色土 粘質土ブロック、若干の焼土混入。
- 4 褐色土 粘質土ブロック、焼土の混入。
- 5 黒褐色土 砂礫、粘質土小ブロック含む。
- 6 黒褐色土 砂礫、炭化物を含む。
- 7 暗赤褐色土 径2~5mmの砂礫、小石少量含む。
- 8 赤褐色土 径1~3mmの砂礫、焼土主体で小石少量含む。
- 9 黄褐色粘質土 径1~2mmの砂礫を少量含む。
- 10 暗褐色土 径1~3mmの砂礫を少量含む。
- 11 黄褐色粘質土 9に類似、暗褐色土少量混入。
- 12 暗褐色土 黄褐色粒子少量、同大の砂礫を多く含む。
- 13 暗褐色土 径1~2mmの黄褐色粒子少量、礫少量含む。
- 14 黒褐色土 径2~5mmの砂礫、小石を多く含む。
- 15 黒褐色土 径2~3mmの砂礫、黄褐色粒子含む。
- 16 暗褐色土 径1~3mmの砂礫、小石をやや多く、焼土微粒含む。

0 1m

第556図 C-349号住居跡・電



第557図 C-349号住居跡出土遺物

C-349号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底高 (cm)	胎土	色調	構成	整形形の特徴	備考
1	土器 碗	貯蔵穴内	13.4	4.4	礫を僅かに 含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部覆削り 内 口縁部横線で 体部削で	底面に煤付着
2	土器 甕	+34	16.2	16.2	砂礫含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部覆削り 内 口縁部横線で 胴部削で	ほぼ完形

C-350号住居跡 (第558・559図、PL74・145)

位置 Cq-43 形状 隅丸方形 規模 長辺3.26m、短辺2.86m、壁高0.11m

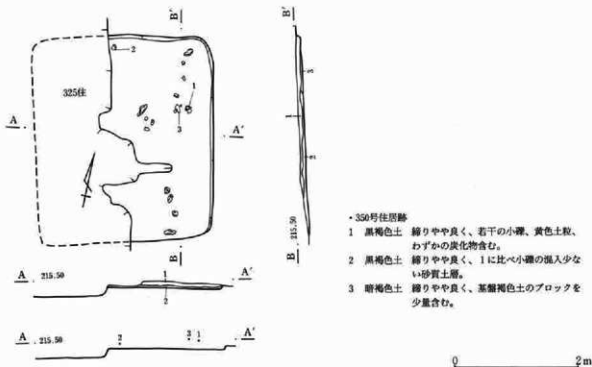
重複 C-342号住居跡 (平安時代) に西側を切られる。

埋没土 締まりなく礫を多く含む。

床面 平坦であるが軟質である。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。



・350号住居跡

- 1 黒褐色土 締りやや良く、若干の小礫、黄色土粒、わずかの炭化物含む。
- 2 黒褐色土 締りやや良く、1に比べ小礫の混入少ない砂質土層。
- 3 暗褐色土 締りやや良く、基層褐色土のブロックを少量含む。

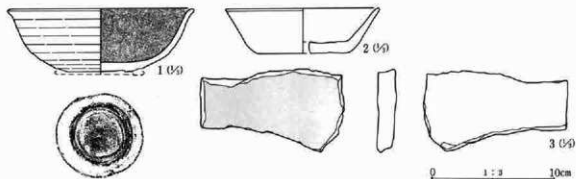
第558図 C-350号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

竈 検出されなかった。

出土遺物 土師器碗、須恵器環、壺の破片（転用硯）等が出土している。

調査所見 削片を受け遺存状態は悪い。竈、貯蔵穴、柱穴等は検出されなかった。時期は平安時代である。



第559図 C-350号住居跡出土遺物

C-350号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	構成	製成形の特徴	備考
1	須恵器 碗	+13	14.9		微砂粒含む	灰黒色	良	ロクロ整形 底部回転車切り 付け高台	内面黒色 高台欠
2	須恵器 環	+6	(12.2) (3.6) (3.5)		砂粒含む	青灰色	良	ロクロ整形	外面は炭着しくどらつく
3	須恵器 壺	+15			砂粒含む	灰黒色	良	鑿削部片の転用硯 内面使用	赤色顔料残

C-351号住居跡 (第560~562図、PL74・145)

位置 Cq・Cr-47・48 形状 隅丸方形 規模 長辺5.96m、短辺5.57m、壁高0.42m

重複 南部分にはC-320・340号住居跡（平安時代）、C-358号住居跡（古墳時代）が重複する。また、北西隅にはC-310号住居跡（古墳時代）が、北東部には近世の耕作溝が重複している。

埋没土 小礫、ロームブロック含み、下層部には焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。

床面 面としては比較的平坦である。ロームブロック、焼土、粘土の混土で貼床がなされている。

貯蔵穴 北東隅に検出された。やや長円形を呈し、規模は1.1m×0.9mである。深さは約40cmで、壁、底面は凹凸が顕著である。南西部にP1が接して掘り込まれている。

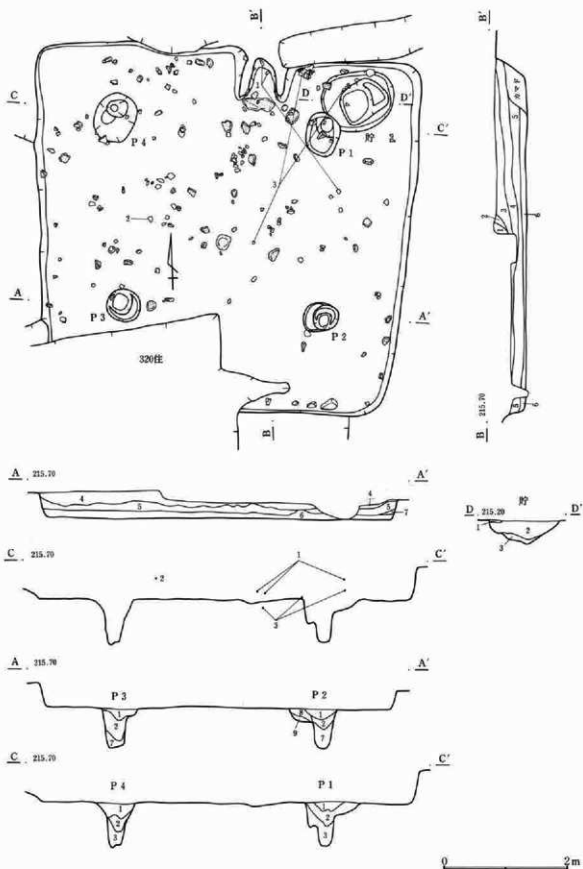
柱穴 対角線上に4本を検出している。いずれも掘り込み面は長円形であるが、中段をもち底部は小さくなる。深さは60~70cmとかなり深い。

竈 北壁ほぼ中央に作られる。袖部分は壁内に約60cm程馬蹄形に延びる。焚口には両側に袖石が据えられ、手前床面には、焚口天井部に渡されていたと思われる、長さ50cmの扁平な砂岩が出土している。燃焼部内面は良く焼けている。

出土遺物 竈内より若干の土器片が出土した他、わずかに覆土中より検出されている。図示し得たのは、土師器環2点、小形壺1点のみである。

調査所見 比較的大型の住居である。南部分は重複により切られた部分が多い。掘り方の調査を行ったところ、中央に径1.2m、深さ20cm程の床下土坑が検出されている。出土遺物から時期は古墳時代後期である。





第560图 C-351号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

・351号住居跡

- 1 淡赤褐色土 焼土化した粘土ブロックを主体とする。
- 2 暗褐色土 焼土を若干混入する。
- 3 暗黒褐色土 径1.5~1.0cmの礫を多く含む。
- 4 黒褐色土 0.5cm前後の礫を多く含む。
- 5 黒褐色土 小礫、粘質土ブロックを含む。
- 6 黒褐色土 粘質土ブロック多量に含む。
- 7 黒褐色土 地山砂礫を若干含む。

貯蔵穴

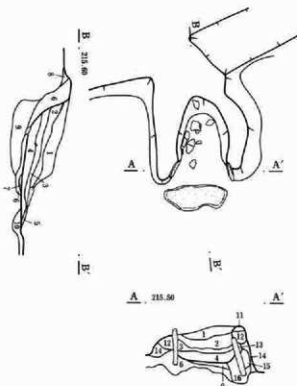
- 1 暗褐色土 締り良く、少量の砂礫と黄褐色粘土含む。
- 2 黒褐色土 締りやや良く、若干の小礫、黄色土粒、わずかの褐色粘土、炭化物含む。
- 3 黒褐色土 締りやや悪い。2に比べやや黄色味強い。砂質土のブロックを少量含む。

P1~4共通

- 1 黒褐色土 締りやや良く、若干の黄褐色粘土、小礫含む。炭化物わずかに混入。
- 2 黒褐色土 締りやや良く、1に比べやや黒味強く、粘土の混入少ない。
- 3 暗褐色土 締りやや良く、基盤の砂を少量含む。黄褐色粘土わずかに混入。
- 7 黒色土 締りやや良く、比較的均質、弱い粘性あり。礫をほとんど含まない。
- 8 黒褐色土 締りやや良く、若干の小礫、黄色土粒含む。
- 9 暗褐色土 締りやや悪い。基盤の礫を少量含む。比較的均質な砂質土。

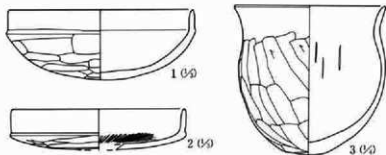
竈

- 1 黒褐色土 締りやや良く、若干の小礫、黄褐色粘土、わずかの焼土含む。
- 2 黒褐色土 締りやや良く、小礫、黄褐色粘土、焼土粒わずかに含む。
- 3 暗赤褐色土 締りやや良く、弱い粘性あり。焼土を主体とする。少量の黄褐色粘土含む。
- 4 灰黄褐色土 締りやや良く、弱い粘性あり。若干の焼土粒含む。黄褐色粘土主体とする。
- 5 暗赤褐色焼土 締りやや良く、弱い粘性あり。
- 6 暗褐色土 締りやや良く、若干の黄褐色土、焼土、小礫及びわずかの炭化物含む。
- 7 暗赤褐色焼土 締り良い、比較的均質の砂質土。
- 8 褐色土 締りやや良く、焼土かなり含む。若干の小礫黄褐色粘土混入。
- 9 暗褐色土 締りやや悪い。基盤の砂をかなり含む。砂質土、焼土わずかに含む。
- 10 暗褐色土 締りやや良く、若干の小礫、わずかの焼土含む。
- 11 黄褐色土 粘土ブロックを主体とする。締り良い。
- 12 黒褐色土 締りやや良く、黄褐色粘土を若干含む。
- 13 暗赤褐色土 焼土。締り良く、弱い粘性あり。
- 14 暗褐色土 締りやや良く、若干の焼土、黄褐色粘土含む。
- 15 褐色土 締り良く、弱い粘性あり。黄褐色粘土をかなり含む。
- 16 暗褐色土 締りやや良く、若干の小礫、焼土含む。



第561図 C-351号住居跡・竈

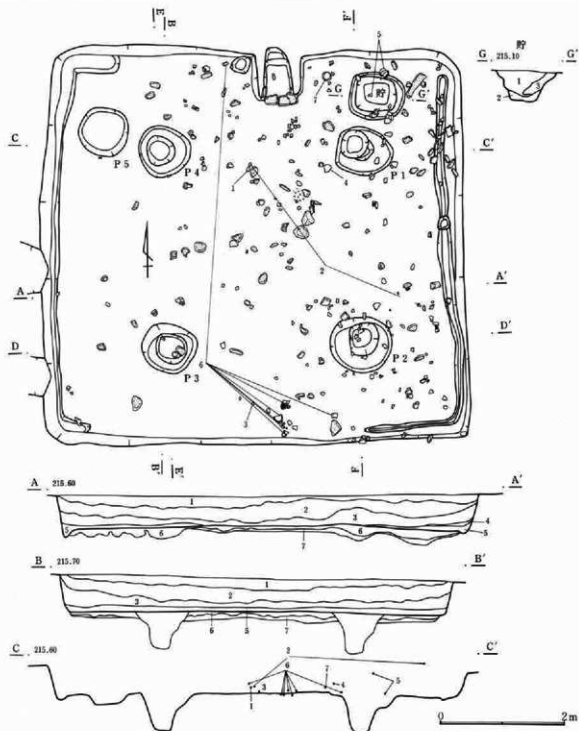
0 1m



第562図 C-351号住居跡出土遺物

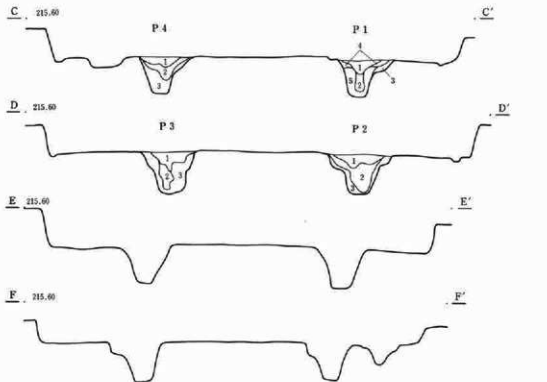
C-351号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 杯	竈内	14.6	5.5	微砂粒含む	灰褐色	良	外口縁部横線で 体部直削り 内口縁部横線で 体部直で後尾磨き	
2	土師器 杯	+34	(13.8)		砂粒含む	淡褐色	良	外口縁部横線で 体部直削り 内口縁部横線で 体部直で後尾磨き	放射状暗文
3	土師器 甕	床面	16.2	15.6	小砂粒含む	淡黄褐色	良	外口縁部横線で 胴部直削り 内口縁部横線で 胴部直で	ほぼ完形



第563図 C-352号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



・352号住居跡

- 1 黒褐色土 締りやや良く、少量の小礫、黄色土粒含む。黄褐色粘土ブロックをわずかに混入。
- 2 黒褐色土 締りやや良く、1に比べ黒味強い。少量の黄色土粒、若干の小礫含む。
- 3 黒褐色土 締り良く、黄色味強い。若干の小礫、黄褐色粘土含む。
- 4 暗褐色土 締りやや悪い。基盤の黄褐色砂を少量含む。比較的均質な砂質土層。
- 5 暗褐色土 締り悪い。径2~5mmの砂粒やや含む。
- 6 黒褐色土 締り悪い。径1~3mmの砂粒、黄褐色粒子を少量含む。
- 7 黄褐色砂質土 砂礫地山の崩土。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 砂粒若干、小礫多量、褐色、灰白色粒子点在。褐色土粒やや多い。
- 2 暗褐色土 砂粒、小礫多量、褐色土粒、粒子多量。
- 3 暗褐色土 礫やや多く、褐色土塊、粘性土塊多く含む。溝状を呈す。

P1

- 1 黒褐色土 砂粒、小礫やや多く、褐色土粒、土塊やや多い。
- 2 黒褐色土 1より砂礫少ないが褐色土塊がやや目

立つ。

- 3 黒褐色土 1より砂礫やや多く、褐色粘土塊目立つ。
- 4 淡褐色土 砂粒、小礫、褐色土粒多量に含む。
- 5 暗褐色土 砂粒、小礫若干、褐色粘性土塊多量に混在する。

P2

- 1 黒褐色土 砂粒、小礫多量、褐色、灰白色粒子多量、褐色土粒、土塊多量に含む。
- 2 黒褐色土 砂粒点在。小礫若干、褐色、灰白色粒子点在。褐色土粒、土塊点在。締りあり。
- 3 暗褐色土 砂礫点在。褐色土塊、土粒やや多い。

P3

- 1 黒褐色土 砂礫若干含む、褐色、灰白色粒子、褐色土粒、土塊やや多い。
- 2 黒褐色土 砂粒、小礫若干、褐色土粒、土塊若干。
- 3 暗褐色土 砂礫多、褐色粘土塊やや多く、黒褐色土と斑状を呈す。

P4

- 1 黒褐色土 小礫、褐色、灰白色粒子多く含む。褐色土粒、土塊やや多い。
- 2 黒褐色土 砂礫若干、褐色土塊点在。褐色粒子若干。
- 3 黒褐色土 砂粒若干、褐色土粒多く含む。

第564図 C—352号住居跡(2)

0 2m

C—352号住居跡 (第563~566図、PL75・145)

位置 Cq・Cr-45・46 形状 隅丸方形 規模 長辺6.76m、短辺6.20m、壁高0.42m

重複 C—314号住居跡(平安時代)が南壁に接している。

埋没土 小礫、黄色粒子多く含む、下層は粒子均質な砂質土。

床面 平坦で粒子は均質、中央部、竈前面はやや締まるが全体に軟質である。壁周溝が西、東壁下に設けら

れている。

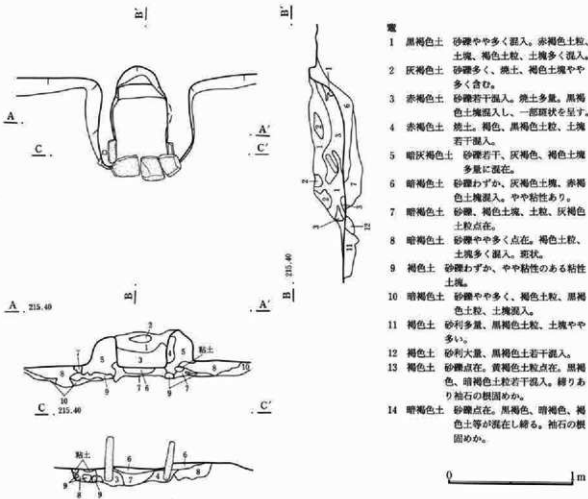
**貯蔵穴** 北東隅に検出した。長軸径90cm、短軸径70cmで深さ約40cmを測る。底面形はやや方形を呈し、平坦である。

**柱穴** 対角線上に4本検出した。床面での掘り込み径は、いずれも80~100cmと大きく、中段が見られ、その内径は50cm程度である。深さは50~60cmである。

**竈** 北壁中央に作られている。袖はほぼ平行に長さ60cm程で内に延び、焚口幅40cmで、長さ60cmである。両袖がしっかり残る。厚さ数cmの砂岩でほぼ直立している。この袖石の上に覆された厚さ、やはり数cm、長さ60cm程の天井石が、3つに割れた状態で検出された。燃焼部には多量の焼土が見られ、長期の使用が想定される。

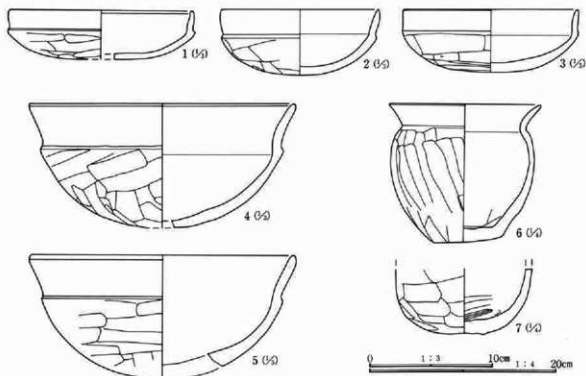
**出土遺物** 住居全体から、かなりまばらな状態で土師器壺、坏の破片類が出土している。床面よりかなり浮いたものが多い。

**調査所見** 1辺6m以上の比較的大型の住居で、遺存状態は良い。出土遺物はあまり多くはなかった。時期は古墳時代後期である。



第565図 C-352号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第566図 C-352号住居跡出土遺物

C-352号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土師器 杯	+10	14.6	3.8	微砂粒含む	灰褐色	良	外 □縁部横線で 体部直削り 内 □縁部横線で 体部削で	
2	土師器 杯	+10	(12.5)	5.2	微砂粒ほかに 含む	淡黄褐色	良	外 □縁部横線で 体部直削り 内 □縁部横線で 体部削で後磨き	
3	土師器 杯	+3	(14.0)	4.9	砂粒含む	黄褐色	良	外 □縁部横線で 体部直削り 内 □縁部横線で 体部削で	
4	土師器 鉢	+15	(21.0)	9.7	砂粒含む	灰褐色	良	外 □縁部横線で 体部直削り 内 □縁部横線で 体部削で後磨き	稜を持ち、器内厚く 作りは良い
5	土師器 鉢	+11	21.0	9.8	微砂粒含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 胴部直削り 内 □縁部横線で 胴部削で後磨き	稜は明確、しっかり した作り
6	土師器 壺	+16	16.0	14.5	微砂粒含む	暗褐色	良	外 □縁部横線で 胴部直削り 内 □縁部横線で 胴部削で	
7	土師器 壺	+9		7.2	砂粒含む	淡赤褐色	普通	外 胴部直削り 内 胴部削で	底部のみ

C-355号住居跡 (第567・568図、PL75・145)

位置 Cr-43 形状 隅丸長方形 規模 長辺 (3.47) m、短辺2.85m、壁高0.28m

重複 北側をC-158号住居跡、北西部にC-335号住居跡が重複する。

埋没土 小礫含む粗粒土。

床面 凹凸見られ、かなり軟質。

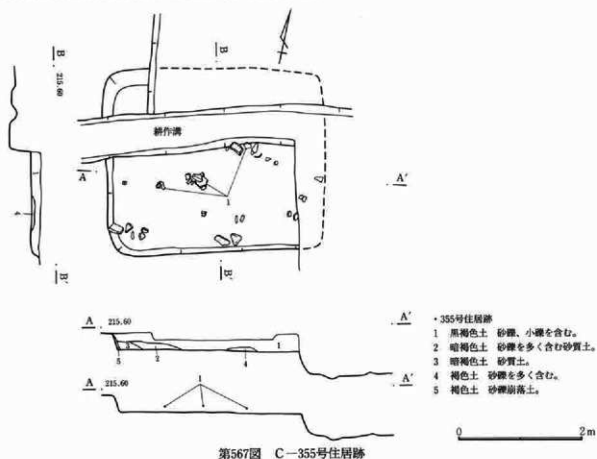
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

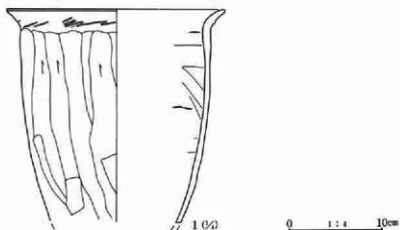
竈 検出されなかった。

出土遺物 極めて少なく、土師器壺1点のみ図示したが、本址に帰属するかどうか疑問もある。

調査所見 C-158・335号住居跡、および近世の耕作溝により削平を受けている。調査時点ではプランの確認ができなかったこともあり、部分的に掘り過ぎてしまったところがある。このため遺存状態は悪く、竈等の施設も検出されなかった。時期は平安時代と思われる。



第567図 C-355号住居跡



第568図 C-355号住居跡出土遺物

C-355号住居跡遺物観察表

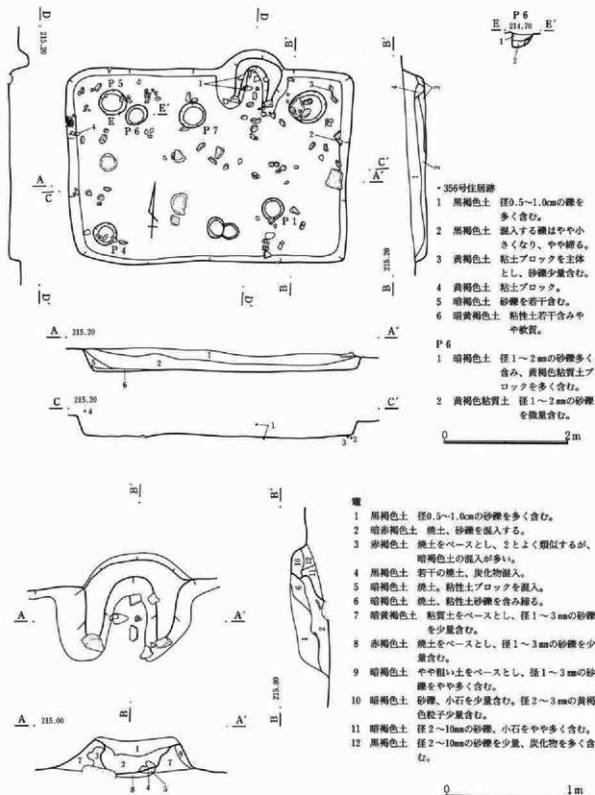
番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	製成形の特徴	備考
1	土器 壺	+7	23.2	砂粒僅かに 含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横無で 胴部重削り 内 口縁部横無で 胴部削で	

第3章 検出された遺構と遺物

C-356号住居跡 (第569・570図、PL75・76・145)

位置 Cn-46 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.60m、短辺3.05m、壁高0.36m

重複 C-349号住居跡の南に重複する。



第569図 C-356号住居跡・竈



埋没土 小礫多く含む、下層の礫はやや小粒となり締まりがある。

床面 細かな凹凸が目立ち、比較的締まる。

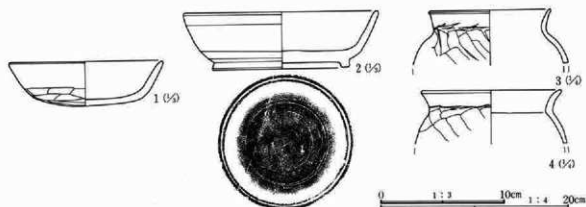
貯蔵穴 北東隅に検出された。円形で径50cm、深さは約20cmである。底面に地山の礫が露出している。

柱穴 北西および南西隅に径40cmで、深さ10cm程の掘り込みを確認した。また南東にも同様な掘り込みを検出している。その他位置的に規則的ではないが、4本の掘り込みを検出したが、特定できない。

竈 北壁中央やや東寄りに作られる。本体部分は、粘質土を基調とした砂礫混じりの土で、馬蹄形に作られている。焚口部の両袖に礫が据えられた状態で検出されている。

出土遺物 須恵器環、土師器壺等が見られるが量的には少ない。

調査所見 他の遺構に切られることもなく、遺存状態は良い。住居中央やや北西に径1m程の床下土坑が確認された。出土遺物から時期は平安時代である。



第570図 C-356号住居跡出土遺物

C-356号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 環	竈内	(12.3)	3.5	砂礫僅かに 含む	黄褐色	良	外 口縁部横断で 体部削り 内 口縁部横断で 体部削り	
2	須恵器 環	床面	15.6 11.0	4.5	糖質	灰色	良	クロコ整形 底部回転削り後なで調整 付け高台	底部内外面ともに砥として使用
3	土師器 壺	床面	13.0		砂粒含む	淡橙褐色	良	外 口縁部横断で 胴部削り 内 口縁部横断で 胴部削り	胴部に寛の当たり砥削り
4	土師器 壺	+47	(14.7)		砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横断で 胴部削り 内 口縁部横断で 胴部削り	胴部に寛の当たり砥削り

#### C-357号住居跡 (第571図、PL76)

位置 Cq・Cr-42・43 形状 隅丸方形 規模 長辺4.81m、短辺4.22m、壁高0.39m

重複 東側を大きく、C-318号住居跡に切られる。また北西にはC-355号住居跡が重複している。

埋没土 礫、若干のロームを混入する砂礫土。

床面 西側のわずかな部分しか検出できなかった。この部分についてはやや黒味を帯びた軟質土である。

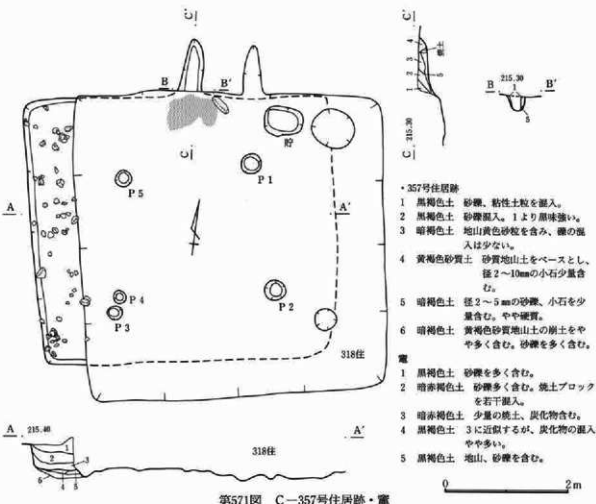
貯蔵穴 掘り方面において、北東隅に検出した。やや長円形で長軸径60cm、短軸径45cmで、深さは約25cmである。

柱穴 掘り方面において対角線上に4本を検出した。径20~30cm、深さは30~40cmである。

竈 北壁中央に作られる。袖部分はC-318号住居跡により削られており、検出されたのは、煙道部および燃焼部下層の焼土の広がりである。煙道は幅30cm、長さは90cm程である。

**出土遺物** わずかな範囲の調査であったために少なく、図示し得たものはなかった。時期は古墳時代後期と思われる。

**調査所見** 東側5分の4程をC-318号住居跡により切られていた。北壁部分はほとんど共有した形で掘り込まれていた。また床面のレベルはやや318号住居跡が低く作られていたが、掘り方面で貯蔵穴、柱穴等を検出することができた。時期は古墳時代後期である。



C-358号住居跡 (第572~575図、PL76・145・146)

**位置** Cp・Cq-47・48 **形状** 隅丸長方形 **規模** 長辺3.92m、短辺2.88m、壁高0.40m

**重複** 南西部分をC-309号住居跡に北西部分をC-320号住居跡に切れ、北壁部分に340号住居跡が重複している。

**埋没土** 粘性なく、大型の礫を多く含む。

**床面** 凹凸目立ち、部分的に黄褐色粘土が見られる。

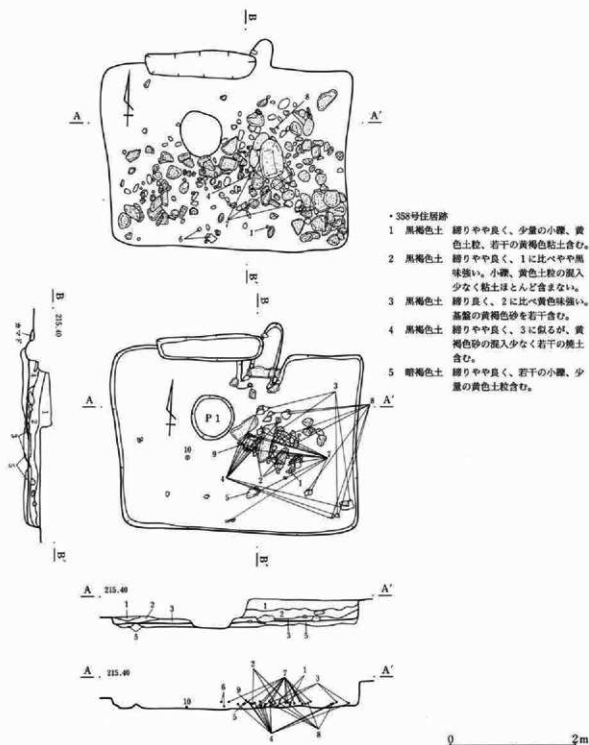
**貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 検出されなかった。

**竈** 北壁中央やや東寄りに作られる。焚口部の天井部に扁平な石が載った状態で検出された。焚口幅40cmで長さは約1mである。内面は多量の焼土が認められた。袖部分は黄褐色粘土を基調とし焼土、礫などが多く含まれている。

**出土遺物** 土師器環、甕、高環などが見られた。また多量の礫（10cm～最大60cm）が投げ込まれた状態で検出されている。掘り方面より紡錘車が出土している。

**調査所見** 重複はあるものの遺存状態は比較的良好である。竈の残存状況も良く、焚口部分は構築時の様子を留めていた。また多量の礫が覆土中から出土している。時期は古墳時代後期である。

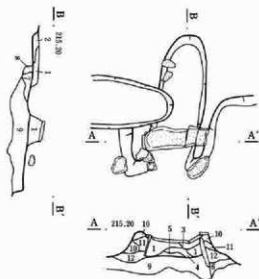


・358号住居跡

- 1 黒褐色土 細りやや良く、少量の小礫、黄色土粒、若干の黄褐色粘土含む。
- 2 黒褐色土 細りやや良く、1に比べやや黒味強い、小礫、黄色土粒の混入少なく粘土ほとんど含まない。
- 3 黒褐色土 細り良く、2に比べ黄色味強い、基盤の黄褐色砂を若干含む。
- 4 黒褐色土 細りやや良く、3に似るが、黄褐色砂の混入少なく若干の焼土含む。
- 5 暗褐色土 細りやや良く、若干の小礫、少量の黄色土粒含む。

第572図 C-358号住居跡

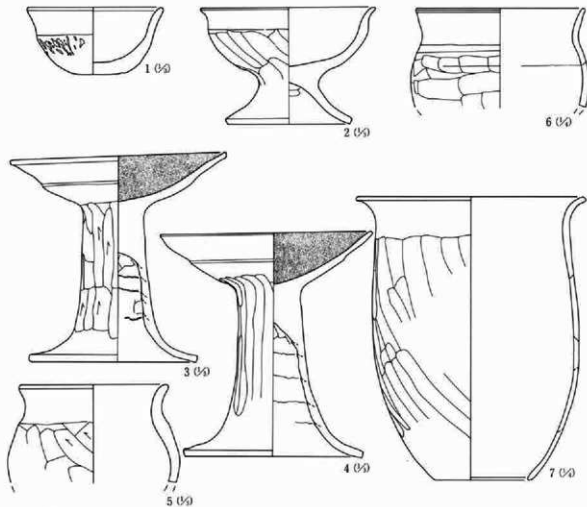
第3章 検出された遺構と遺物



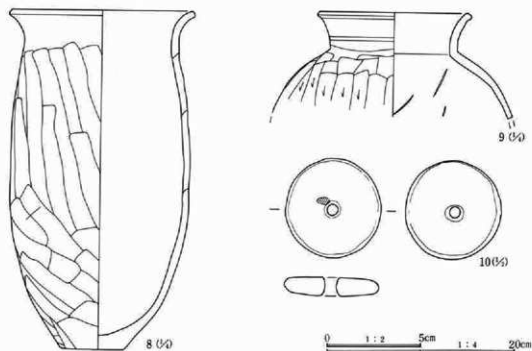
第573図 C-358号住居跡・竈

- 竈
- 1 暗褐色土 少量の焼土、炭化物、黄褐色粘土含む。
  - 2 灰褐色土 若干の黄色土粒、微細炭化物含む。
  - 3 褐色土 締りやや良く、かなりの焼土含む。若干の黄褐色粘土混入。
  - 4 橙色土 焼土ブロック主体、ごく弱い粘性あり。
  - 5 褐色土 締り良く、焼土多量に含む。
  - 6 褐色土 締りやや良く、焼土を少量含む。
  - 7 暗褐色土 締りやや良く、若干の小礫、わずかの焼土粒、炭化物含む。
  - 8 暗褐色土 締り良く、7に近似、焼土の混入多い。
  - 9 暗褐色土 締り良く7に似るが、焼土、炭化物の混入なく、黄褐色粘土ブロックわずかに含む。
  - 10 暗褐色土 締り良く、小礫、黄褐色粘土わずかに含む。炭化物、焼土ごくわずかに混入。
  - 11 暗褐色土 若干の黄褐色粘土、焼土、小礫含む。
  - 12 褐色土 締りやや良く、焼土、黄褐色粘土かなり含む。炭化物若干混入。

0 1m



第574図 C-358号住居跡出土遺物(1)



第575図 C-358号住居跡出土遺物(2)

C-358号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (層内)	口径 口径径 (cm)	器高 器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土器 高坏	+4	(10.9)	9.2	小砂礫雑かに含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横溝で 体部無 内 口縁部横溝で 体部無	外面体部に絞り込み痕、内面に縞付着
2	土器 高坏	+4	(14.0)	10.0	微砂粒含む	灰褐色	良	外 坏部口縁部横溝で体部寛削り脚部 無削り 内 坏部無で脚部無	短脚
3	土器 高坏	+3	17.2	16.4	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 坏部口縁部横溝で 脚部寛削り 内 口縁部無で後寛削り 脚部指無	坏部内面黒色 脚部内面に輪痕み痕
4	土器 高坏	+2	16.5	17.6	砂粒含む	淡褐色	良	外 坏部口縁部横溝で 脚部寛削り 内 口縁部無で後寛削り 脚部指無	坏部内面黒色 脚部内面に輪痕み痕
5	土器 小型 甕	+8	(12.0)		精製	灰褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部無	
6	土器 甕	+5	18.0		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部無	
7	土器 甕	床面	23.8	30.0	砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部無	
8	土器 甕	+2	19.3	36.0	微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部無	外面に張り着 ほぼ完形
9	土器 甕	+14	(16.4)	6.7	砂粒僅かに含む	赤褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部無	
10	紡錘車	床面	径5.3cm	高さ1.0cm	孔径0.6cm	重さ31.6g		流紋岩質凝灰岩製 ほぼ完形で円盤状を呈す	

C-359号住居跡 (第576・577図, PL76・146)

位置 Cr・Cs-42 形状 不明 規模 長辺 (3.0) m、短辺 (2.0) m、壁高0.29m

重複 C-158号住居跡、C-318号住居跡、C-326号住居跡、C-357号住居跡に切られており、検出したのは北東隅部分のみである。

埋没土 小礫含み、地山の黄褐色砂粒含む。

床面 平坦である。

貯蔵穴 検出されなかった。

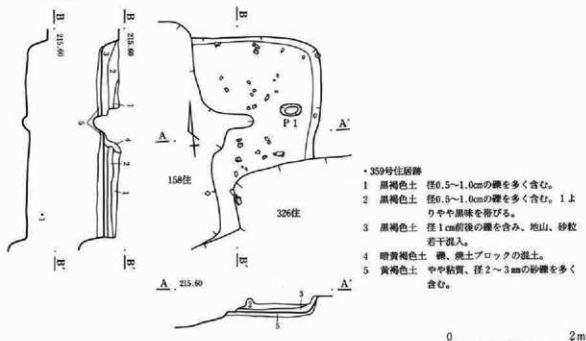
第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。

出土遺物 ほとんど見られない。

調査所見 ごくわずかな部分の調査であったために、住居内の施設は検出されなかった。遺物もほとんどなく、時期は確定できなかったが、古墳時代と思われる。



第576図 C-359号住居跡



第577図 C-359号住居跡出土遺物

C-359号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 杯	+24	14.6	微砂粒僅かに含む	暗灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部裏で後置貯き	内面黒色

C-360号住居跡 (第578・579図、PL77・146)

位置 Cq・Cr-45 形状 隅丸方形 規模 3.77m、短辺(3.0)m、壁高0.20m

重複 東部分をC-330号住居跡に切られる。

埋没土 小礫、黄色粒、炭化物含む。

床面 凹凸見られ、やや軟質である。

貯蔵穴 検出されなかった。

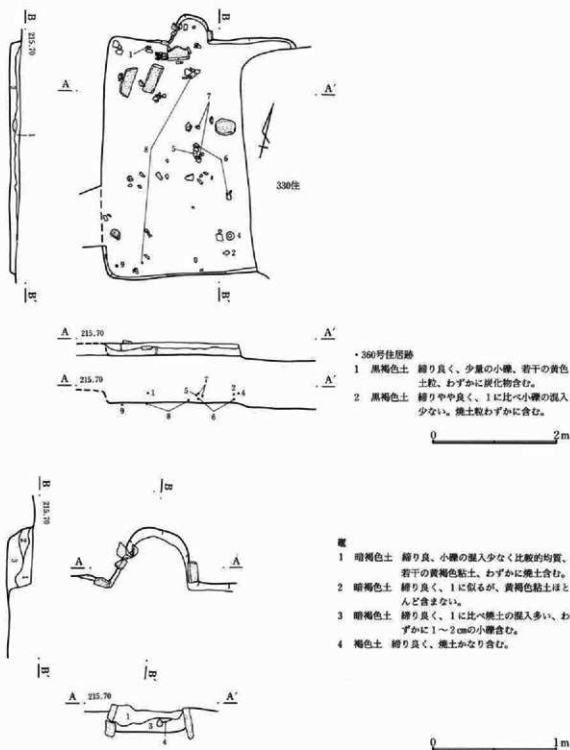
柱穴 検出されなかった。

竈 北壁に作られる。U字状に壁外に掘り出され、幅約50cm、奥行き約60cmである。焚口部には両側に石が

据えられている。

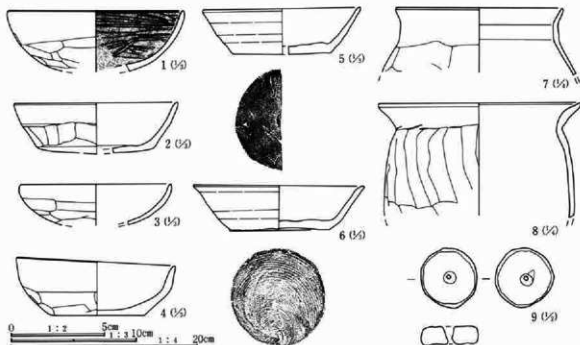
**出土遺物** 環類が多く見られた、また紡錘車が1点出土している。

**調査所見** 竈の付く北壁と南壁部分は比較的遺存状態が良かったが、西と東壁は確認できなかった。時期は奈良時代である。



第578図 C-360号住居跡・竈

第3章 検出された遺構と遺物



第579図 C-360号住居跡出土遺物

C-360号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	+15	(14.1)		微砂粒含む	淡褐色 色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部裏で後裏磨き	内面黒色
2	土師器 坏	+10	13.0	4.0	微砂粒含む	淡褐色 色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部裏で	
3	土師器 覆土 坏	覆土	(12.0)		微砂粒含む	淡褐色 色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 体部裏で	
4	土師器 坏	+12	12.8	4.7 7.6	砂粒僅かに 含む	淡褐色 色	良	外 口縁部横線で 体部裏削り 内 口縁部横線で 胸部磨で	ほぼ完形
5	須恵器 坏	+10	(12.6)	3.6 (7.9)	精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転裏切り後削で調整	
6	須恵器 坏	+5	13.6	3.6 8.0	微砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転裏切り	
7	土師器 甕	+7	18.0		微砂粒含む	橙褐色 色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部裏で後裏磨き	
8	土師器 甕	床面	(21.8)		微砂粒含む	灰褐色 色	良	外 口縁部横線で 胴部裏削り 内 口縁部横線で 胴部裏で	
9	紡錘車	床面	径3.0cm 高さ1.0cm 孔径0.7cm 重さ11.9g			土製の小型品			



DS-94号住居跡 (第580・581図、PL77・147)

位置 Da・Db-39・40 形状 隅丸方形 規模 長辺4.90m、短辺(4.30)m、壁高0.30m

重複 東側約半分は調査区外となる。

埋没土 砂礫、ローム小粒含む砂質土で埋まる。

床面 ほぼ平坦である。壁周溝が西壁および南壁の一部に見られる。

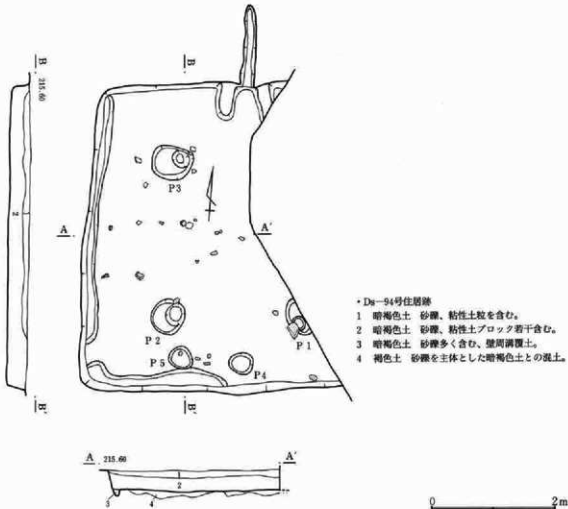
貯蔵穴 検出されなかった。北東の調査区外にあるものと推定される。

柱穴 対角線上に4本あると思われるが、西側列、および南東のP1の一部を検出した。北東部のものについては調査区外となる。また南壁際に、入り口施設に関連すると思われる、径40cm程の小ピット2穴を検出した。

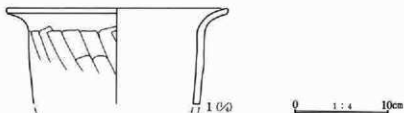
竈 北壁に作られる。袖部分は砂礫、煨土粒、炭化物含む粘質土で作られているが、かなり崩れた状況であった。また無道は一段高くなり、約1.3mの長さで北に延びている。

出土遺物 きわめて少ない。図示し得たのは土師器の甕1点のみである。

調査所見 東側は調査区外になるために、未調査である。検出した部分の遺存状態は比較的良好で、壁高も最大で30cmを測る。出土遺物は礫などを含め、きわめて少なかった。時期は古墳時代後期と思われる。



第580図 DS-94号住居跡



第581図 DS-94号住居跡出土遺物

DS-94号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 壺	覆土	(24.0)		砂粒含む	茶褐色	普通	外 口縁部横撫で 胴部磨り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	

DS-95号住居跡 (第582図)

位置 Db-39 形状 不明 規模 不明

重複 北東の壁に掛かる。

埋没土 礫を多く含み、かなり粗粒な土で埋まる。

床面 比較的平坦で、中央部分は良く締まる。

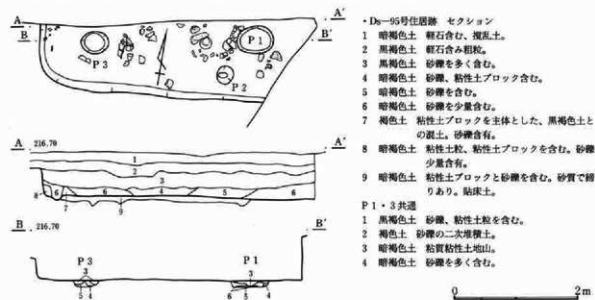
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 南列の2本を検出した。東側のP1は径60cm、西側のP3は径45cmであるが、深さはいずれも10cmと、極めて浅い。

竈 検出されなかった。

出土遺物 覆土上層から中層にかけて弥生土器の混入が見られたが、本址に帰属すると思われた土器類については小破片がごくわずかに見られたのみで、図示し得たものはなかった。

調査所見 遺存状態は良好で、壁高は約30cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。住居の大半は調査区外にあるために未調査である。時期は確定できないが、おそらく古墳時代であろう。



第582図 DS-95号住居跡

## DS-96号住居跡 (第583・584図、PL77・147)

位置 Db-40・41 形状 不明 規模 長辺4.45m、短辺(1.40)m、壁高0.40m

重複 北側の大部分が調査区外となるために、未調査である。

埋没土 砂礫を多く含む、若干のローム粒、炭化物を混入する。

床面 比較的平坦で、ロームブロックを主体とした貼床である。

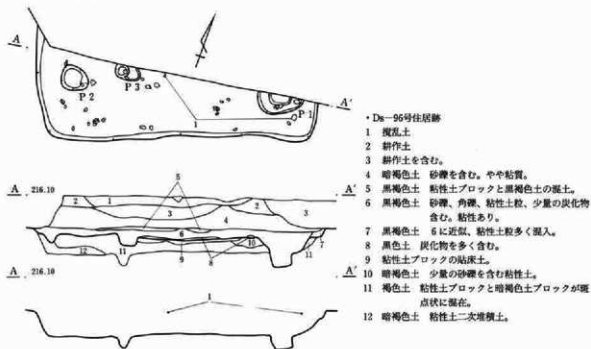
貯蔵穴 南東隅に検出した。南側約半分のみ調査である。ほぼ方形を呈し、1辺約60cmで中段をもつ。深さは約50cmである。

柱穴 南西部に径約20cm、深さ40cm程のやや長円形の掘り込みを検出した。

竪 検出されなかった。

出土遺物 少ない。手捏土器1点を図示した。

調査所見 住居の北側ほとんどが、調査区外となるために、調査できたのは全体の3分の1以下であり、全容は把握し得なかった。貯蔵穴の位置から東竪と推定される。出土遺物も極めて少なかった。時期は古墳時代後期と思われる。



第583図 DS-96号住居跡

第584図 DS-96号住居跡出土遺物

DS-96号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	製成形の特徴	備考
1	手捏ね土器	+34	8.8 5.0	4.5	小粒礫心に 含む	茶褐色	良	内外面顔で整形、外面指頭痕顯著	内厚

第3章 検出された遺構と遺物

DS-97号住居跡 (第585~587図、PL77・78・147)

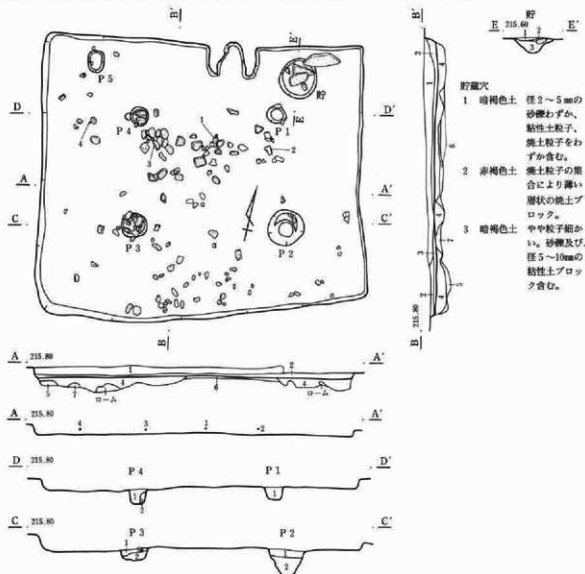
位置 Db・Dc-42 形状 隅丸方形 規模 長辺5.09m、短辺4.49m、壁高0.20m

重複 Ds-105号住居跡が南西隅に重複する。

埋没土 礫を含み良く締まる。

床面 竈前面および中央部分(砂質ロームの残る部分)を中心にやや固く締まる。

貯蔵穴 北東隅に検出した。円形で径60cm、深さ20cmを測る。中より竈材と思われる砂岩が検出されている。



・Ds-97号住居跡

- 1 暗褐色土 固く良く締る。径2~3mmの褐色土粒わずかに混入、砂礫やや多く含む。
- 2 暗褐色土 やや固く、やや良く締る。粘性土粒子、砂礫わずかに含む。1より色調は暗い。
- 3 褐色土 やや砂質で締り悪い。粘性土粒子やや多く、砂礫わずかに含む。
- 4 黒褐色土 砂礫を含む。粘性土粒少含有。砂質性に富む。
- 5 褐色土 砂礫、二次堆積土。

- 6 褐色土 砂質粘性土二次堆積土。
- 7 褐色土 粘性土ブロックと6の混土。

P1~4

- 1 暗褐色土 径2~5mmの砂礫わずか、粘性土粒子ごくわずかに含む。炭化物粒子ごくわずかに含む。
- 2 暗褐色土 粒子細かい、砂礫及び、径5~10mmのロームブロックをわずかに含む。

0 2m

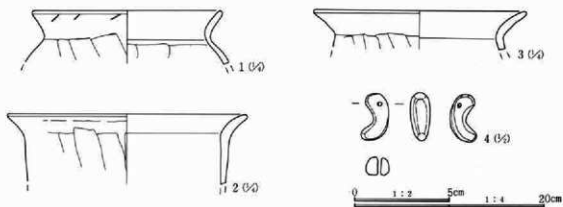
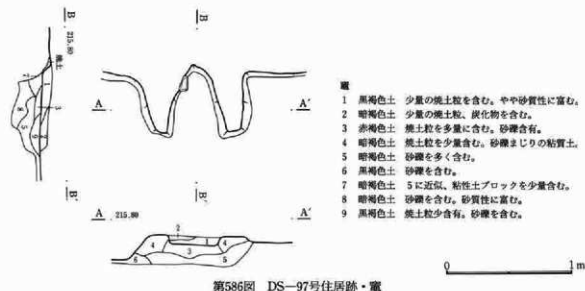
第585図 DS-97号住居跡

柱穴 対角線上に4本検出された。南東に位置するものはやや大きく径60cm程であるが、他は径30~40cmである。深さは20cm程で、南西の柱穴中より礫が10点ほど出土している。

竈 北壁中央に作られている。上面をかなり削平されている。袖部分は焼土粒をわずかに含んだ砂礫混じりの粘質土で作られる。燃焼部はV字状に開き、焚口幅40cmで長さ50cmである。内面は良く焼けている。

出土遺物 礫に混じり、若干の土師器の甕および勾玉が出土している。

調査所見 重複により切られる部分もほとんどなく、比較的遺存状態は良好である。出土遺物は少なかった。時期は古墳時代後期である。



DS-97号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形成形の特徴	備考	
1	土師器 甕	+5	(20.6)		微砂粒含む	黒褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で		
2	土師器 甕	+9	(26.0)		微砂粒僅かに含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	幅か	
3	土師器 甕	+5	(23.0)		小礫含む	茶褐色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部無で	口縁部片	
4	勾玉	+8	長さ2.3cm 径1.2cm 重さ2.8g 比較的小型の土製品							

DS-98号住居跡 (第588・589図、PL78・147)

位置 Dc-45 形状 不明 規模 長辺2.21m、短辺(0.75)m、壁高0.10m

重複 Ds-99号住居跡の中にあり、北側半分は調査区外(実際には中世の大溝により切られている)となる。

埋没土 砂礫多く含む。

床面 やや荒れた感じで、凹凸が顕著である。

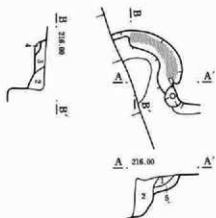
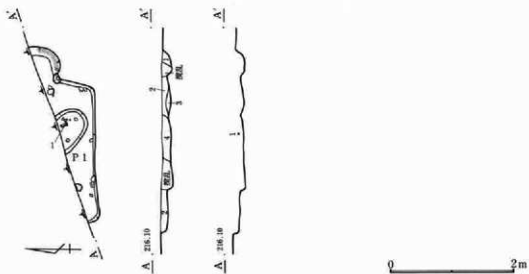
貯蔵穴 やや南東隅寄りに円形の落ち込みが見られるが、明確に断定できなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁に作られる。大溝により北側は壊されており、残った南側はんぶんを調査した。かなり状況は悪く、壁外に円形に焼土が広がる。袖もはっきりしない。中央部分がやや落ち込み、袖石を抜いた跡と思われる小穴が検出されている。

出土遺物 少ない。土師器壺1点のみ図示し得た。

調査所見 他の住居の覆土中に作られていた上に、北側を大きく切れ、全体のごくわずかしか遺存していません。全容は不明である。かなり小型の住居で、時期は平安時代であろう。



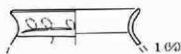
・Ds-99号住居跡

- 1 褐色土 焼土粒、炭化物を含む。砂礫を多く含む。砂質土。
- 2 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 3 赤褐色土 焼土粒を主体とした砂質土。少量の炭化物を含む。

竈

- 1 焼土塊赤褐色
- 2 暗褐色土 砂礫を含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒を多く含む。やや粘質。
- 4 暗褐色土 砂礫を少量含む。
- 5 暗赤褐色土 焼土、カマフの壁体。

第588図 DS-98号住居跡・竈



第589図 DS-98号住居跡出土遺物

0 1:4 10cm

DS-98号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
01	土師器 壺	+7	(14.0)		精製	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部横撫で 胴部横撫で	口縁部片

DS-99号住居跡 (第590図、PL78)

位置 Db・Dc-42 形状 隅丸方形か 規模 長辺5.38m、短辺(1.80)m、壁高0.12m

重複 Ds-98号住居跡(平安時代)が、中に収まる形で重複している。また南北に走る耕作溝により、南壁の一部、および住居の一部を切られる。北側は東西に走る大溝により失われている。

埋没土 砂礫含む砂質土でやや締まっている。

床面 比較的平坦で締まりは良い。

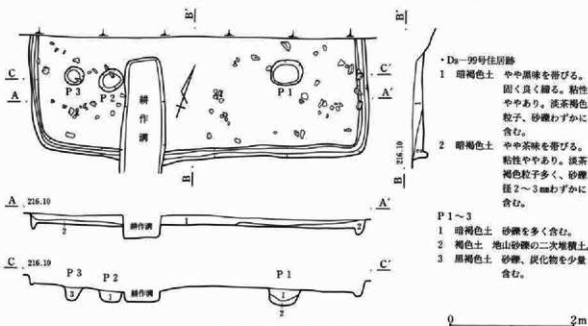
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 南側の2本を検出した。径40~50cmで、深さは20cm程度である。

竈 検出されなかった。

出土遺物 礫およびわずかな土器片が見られたが、図示し得なかった。

調査所見 北側半分以上を中世の大溝により切られており、全容は不明である。時期は古墳時代後期である。



第590図 DS-99号住居跡

DS-100号住居跡 (第591~595図、PL78・147)

位置 Da-42・43 形状 隅丸方形 規模 長辺4.72m、短辺4.57m、壁高0.20m

重複 南壁部分をC-159号住居跡が切る。

### 第3章 検出された遺構と遺物

**埋没土** 砂礫含み、若干のローム粒、ブロック含む。

**床面** やや凹凸が見られる。部分的にロームブロックを含む貼床がなされる。中央部分がかなり固く締まる。

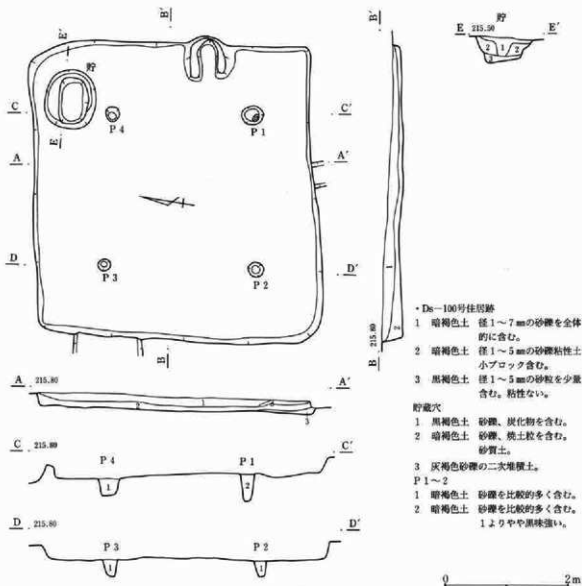
**貯蔵穴** 北西隅に検出した。やや長円形を呈す、長軸径90cm、短軸径80cmで中段をもち、深さは40cmである。

**柱穴** 対角線上に4本を検出した。径20~30cmで深さは20~40cmである。いずれも砂礫土で埋まっている。

**竈** 北壁中央やや東よりに作られる。本体部分から袖にかけては馬蹄形状に残る。袖の上位部分には粘土の焼土化したものが残り、全体としてかなり熱を受けた様子が窺えた。

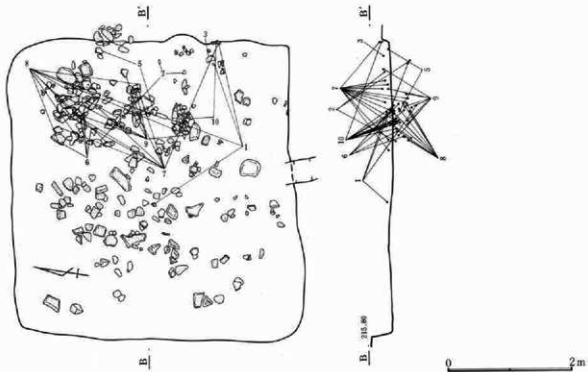
**出土遺物** 多量の礫に混じり、土師器の坏、高坏、大形、小形の甕類が見られた他、刀子が1点出土している。

**調査所見** 住居の遺存状態はかなり良好である。貯蔵穴が北西隅にある希な例である。住居覆土中より多量の礫(10~30cm)が投げ込まれたような状態で出土している。時期は古墳時代後期である。

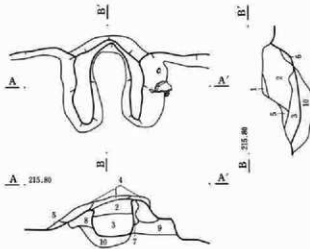


第591図 DS-100号住居跡(1)





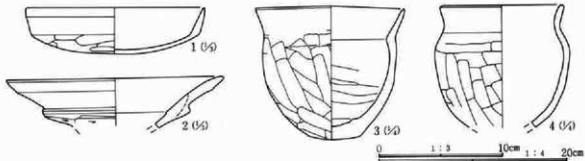
第592図 DS-100号住居跡(2)



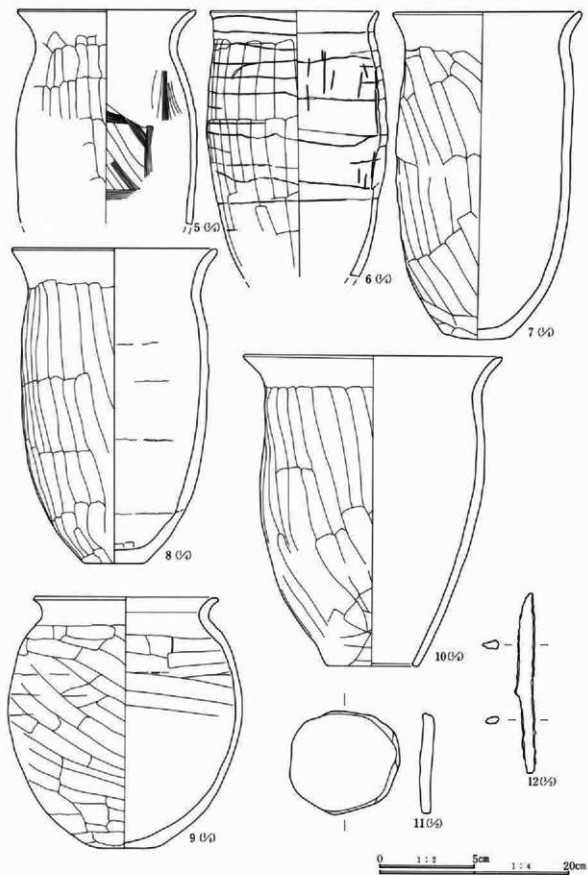
第593図 DS-100号住居跡・竈

- 竈
- 1 赤褐色土 焼土粒を多く含む粘質土。
  - 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。
  - 3 褐色土 焼土粒、炭化物、粘土ブロックを含む。
  - 4 褐色土 3に近似、やや焼土粒子の混入少ない。
  - 5 黒褐色土 砂礫を含む。
  - 6 褐色土 砂礫の二次堆積土。
  - 7 焼土ブロックを主体とした、粘質土。
  - 8 暗褐色土 焼土粒多く含む粘質土。
  - 9 暗褐色土 焼土粒、少量の砂礫含む。
  - 10 黒褐色土 少量の焼土粒を含む。

0 1m



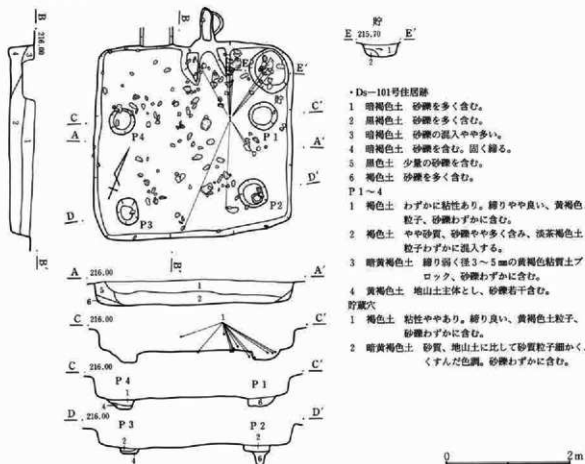
第594図 DS-100号住居跡出土遺物(1)



第595図 DS-100号住居跡出土遺物(2)

DS-100号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器器 環	+6	14.4 3.6	微砂粒含む	茶褐色 色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部削で	ほぼ完形 内面薄
2	土器器 高 環	甕内	(17.5)	砂粒含む	淡黄褐色 色	良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 内面削で	環部のみ、内面やや 荒れている
3	土器器 小型 甕	覆土	16.0 14.0 5.8	礫(片岩) 含む	淡褐色 色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	ほぼ完形
4	土器器 甕	覆土	(13.0)	微砂粒僅か に含む	黒色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	
5	土器器 甕	床面	(19.0)	砂粒僅かに 含む	灰茶褐色 色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	
6	土器器 甕	床面	(18.0)	砂粒含む	淡黄褐色 色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	内外面ともに、輪襷 み或明瞭に残る
7	土器器 甕	床面	20.2 34.5 7.1	砂粒含む	淡黄褐色 色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	外面に灰土付着、内 厚。ほぼ完形
8	土器器 甕	床面	(22.0) 33.5 (6.0)	砂粒含む	淡黄褐色 色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	内厚の作り
9	土器器 甕	床面	19.8 26.7 6.0	砂粒含む	淡黄白 色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	
10	土器器 甕	床面	28.8 35.0 10.0	小礫含む	黄褐色 色	良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部削で	ほぼ完形
11	土製土甕	覆土		径5.8cm 厚さ0.6cm 重さ25.3g	土器器の胴部片を転用			
12	刀子	覆土		長さ9.5cm 幅1.0cm 厚さ0.4cm 重さ6.7g	小品			



第596図 DS-101号住居跡

DS-101号住居跡 (第596~598図, PL79・148)

位置 Da・Db-44・45 形状 隅丸方形 規模 長辺3.19m、短辺3.04m、壁高0.28m

重複 電左に耕作溝が南北に走る。

埋没土 砂礫多く含む。

床面 平坦で、比較的締まる。

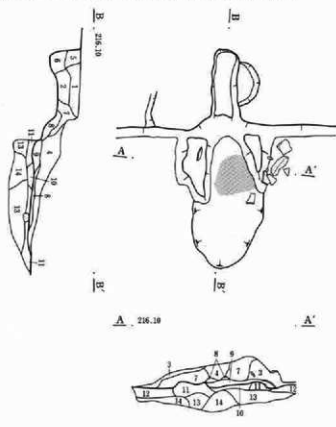
貯蔵穴 北東隅に検出した。径約60cm、深さ約20cmである。土師器の甕が出土している。

柱穴 4本検出したが、全体にかなり南に寄っている。いずれも径約40cm、深さはP2を除き、10~15cmとかなり浅い。

竈 上部をやや削られてはいたものの比較的遺存状態は良い。北壁のほぼ中央に作られる。袖部分は礫、粘土、焼土の混土で作られる。焚口幅40cmで、煙道部を含めた長さは1.1mである。焚口部の床面はやや下がり、火床面、内面はよく焼けている。

出土遺物 きわめて少ない。竈周辺部、貯蔵穴内および掘り方覆土中からのものが接合した土師器甕が1点のみである。

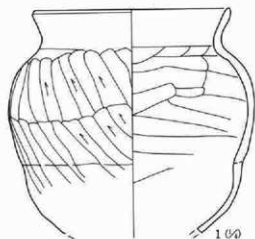
調査所見 一部耕作溝により壊された部分があったものの、遺存状態はかなり良好である。かなり小型の住居である。出土遺物から時期は奈良時代と考えられる。



- 竈
- 1 暗褐色土 粘性土粒子、砂礫わずかに含む。
  - 2 暗褐色土 やや砂質、砂礫やや多く含む。
  - 3 暗褐色土 粘性土粒子、砂礫わずか、焼土ブロックわずかに含む。
  - 4 暗褐色土 1より締り良く、色調濃い。粘性土粒子、砂礫、焼土粒子をわずかに含む。
  - 5 暗褐色土 黒味を帯びる。土塊粒子細かい。ローム粒子、砂礫ごくわずかに含む。
  - 6 暗褐色土 黒味を帯びる。5より若干締り弱い。砂礫、粘性土粒子わずかに含む。
  - 7 褐色土 締り良い。粘性土ブロックわずか、同大の焼土ブロック、砂礫ごくわずかに含む。
  - 8 暗黄褐色土 粘質の粘性土ブロック含み、同大の焼土ブロック、褐色土粒子わずかに含む。
  - 9 暗黄褐色土 粘質の粘性土ブロックと同大の焼土ブロックの混土層。締り良い。
  - 10 暗黄褐色土 良く締る。焼土ブロック主体とし、暗黄褐色土粒をわずかに混在する。
  - 11 暗褐色土 良く締る。粘性ややあり。黄褐色土ブロック少量混在し、砂礫、焼土粒子ごくわずかに含む。
  - 12 暗褐色土 やや固く、やや砂質、砂礫暗黄褐色土粒子わずかに含む。
  - 13 暗黄褐色土 砂質で締り悪い。暗黄褐色土粒子を主とし、暗褐色土粒子やや多く混在。地山微砂粒わずかに含む。
  - 14 黄褐色土 砂粒主体の地山土。

第597図 DS-101号住居跡・竈

0 1m



0 1:4 10cm

第598図 DS-101号住居跡出土遺物

## DS-101号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土	色調	焼成	整形形の特徴	備考
1	土器 壺	床面	20.6		砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横溝で 胴部削り 内 口縁部横溝で 胴部削り	胴部に成形時の接合部明瞭に残る

## DS-102号住居跡 (第599・600図、PL79・148)

位置 Da-40・41 形状 隅丸方形 規模 長辺3.37m、短辺2.29m、壁高0 m

重複 削平が著しい。各壁はほとんど確認できず、およその範囲を推定した。

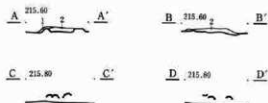
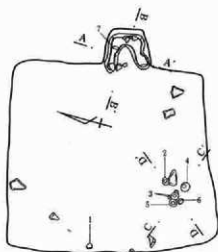
埋没土 堆積を認めなかった。

床面 凹凸が見られ、部分的に地山砂礫土が露出している。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁中央南寄りに作られる。ほとんど破壊された状態で、馬蹄形に焼土、粘土の高まりが点在するに過ぎない。



## ・Ds-102号住居跡

竈

1 黒褐色土 砂礫、少量の焼土粒を含む。

2 黒褐色土 砂礫、焼土粒、炭化物を含む。

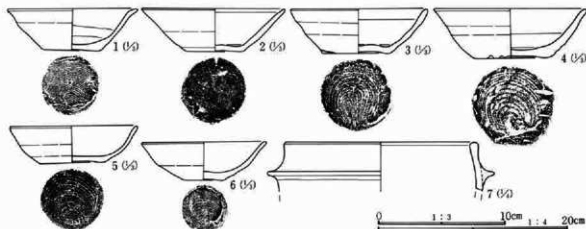
0 2m

第599図 DS-102号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

**出土遺物** 須恵器の坏が住居南東部において、4点が伏せられた状態で、まとまって出土している。

**調査所見** 遺存状態はきわめて悪かったが、完形を含む土師器坏4点が検出されている。時期は平安時代である。



第600図 DS-102号住居跡出土遺物

DS-102号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	床面	10.4 4.6	3.2	精製	黒色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	ほぼ完形 内面に漆 付着
2	須恵器 坏	床面	11.6 4.6	3.3	微砂粒僅か に含む	褐灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	ほぼ完形
3	須恵器 坏	床面	11.2 5.7	3.5	砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	完形
4	須恵器 坏	竈内	12.4 6.0	4.9	僅かに小礫 含む	茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	完形 土師貫
5	須恵器 坏	床面	10.3 5.0	2.9	微砂粒僅か に含む	灰黒色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	ほぼ完形
6	須恵器 坏	床面	10.6 3.6	3.0	微砂粒僅か に含む	灰黒色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
7	羽 釜	床面	(21.0)		砂粒僅かに 含む	淡黄褐色	良	ロクロ整形 口縁部横溝で	口縁部片

DS-104号住居跡 (第601・602図、PL79・148)

**位置** Da・Db-48 **形状** 隅丸長方形か **規模** 長辺4.03m、短辺(2.60)m、壁高0.26m

**重複** 北側半分を中世の大溝に切られている。

**埋没土** 礫を多く含み、暗褐色土ブロックを混入する。やや締りあり。

**床面** やや凹凸が見られ、明確な面としては検出できなかった。

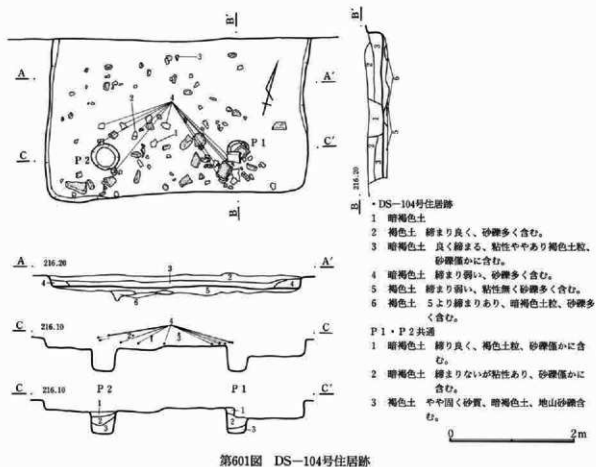
**貯蔵穴** 検出されなかった。

**柱穴** 南側に2本を検出した。径は40cm程で、深さは約40cmである。

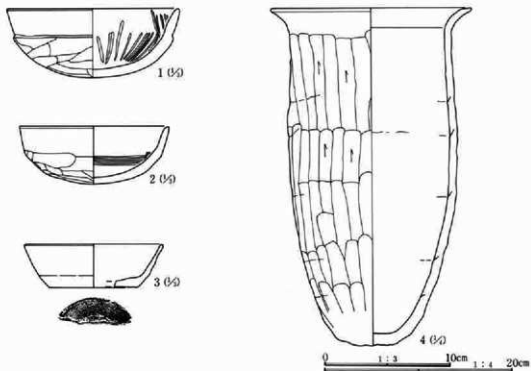
**竈** 検出されなかった。

**出土遺物** 多くの礫に混じり土師器の坏、甕および混入品と思われる須恵器の坏が見られた。

**調査所見** 北側を溝に切られており、全体の半分のみの調査である。住居南側も弥生時代の住居覆土中に作られていることもあり、壁、床面ともに明確でない部分がある。時期は古墳時代後期である。



第601図 DS-104号住居跡



第602図 DS-104号住居跡出土遺物

DS-104号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+22	14.0	5.4	精製	明黄褐色	良	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	体部削り 体部無で後遺磨き 痕
2	土師器 坏	+22	12.0	4.5	砂粒僅かに 含む	灰褐色	良	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	体部削り 体部無で
3	須恵器 坏	+20	(11.2) 7.0	3.4	微砂粒含む	灰色	良	口縁部整形 底面回転削り	
4	土師器 壺	+4	21.4 4.9	35.8	砂粒僅かに 含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部削り 胴部無で

DS-105号住居跡 (第603図、PL79)

位置 Db-42・43 形状 隅丸長方形 規模 長辺3.97m、短辺2.57m、壁高0.26m

重複 東壁部分がかなり荒れた状態であった。

埋没土 砂礫多く含む。

床面 中央部が固く締まり、周縁部では起伏がある。

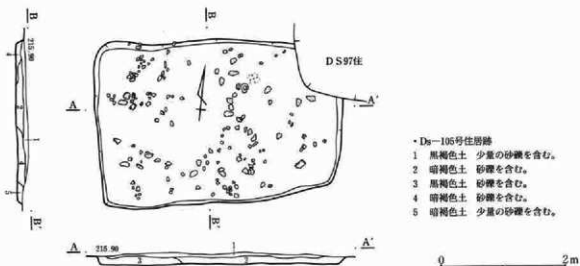
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 検出されなかった。

出土遺物 多量の礫に混じり若干の土器片が見られたが、図示し得なかった。

調査所見 やや小型の住居である。竈をはじめ貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。このことからすれば住居とするには疑問も残る。時期は平安時代か。



第603図 DS-105号住居跡

DS-106号住居跡 (第604～607図、PL79・80・148・149)

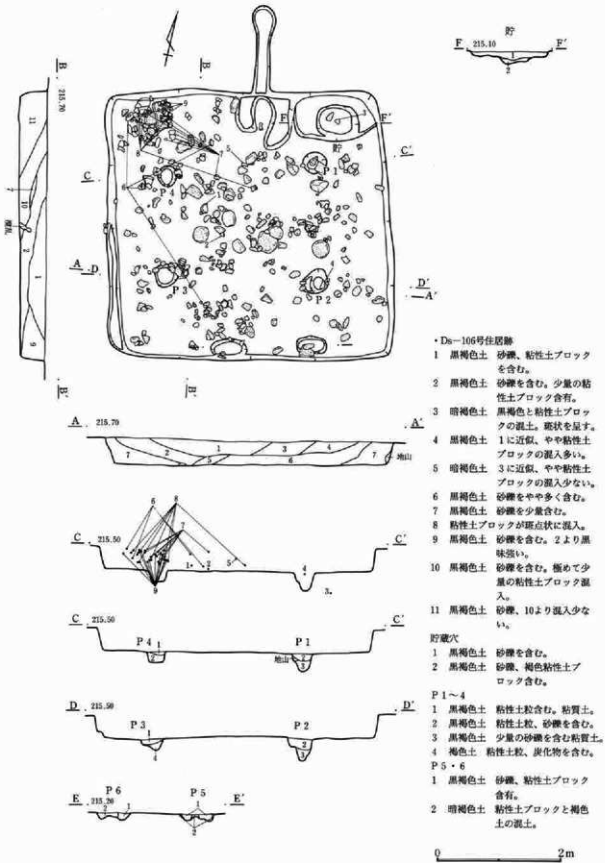
位置 Da・Db-41 形状 隅丸長方形 規模 長辺4.53m、短辺4.27m、壁高0.42m

重複 南東隅をDs-102号住居跡に切られる。

埋没土 砂礫、ロームブロック含む。

床面 かなり平坦で、全体に良く締まっている。南西隅に壁周溝がわずかに認められた。





第604図 DS-106号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

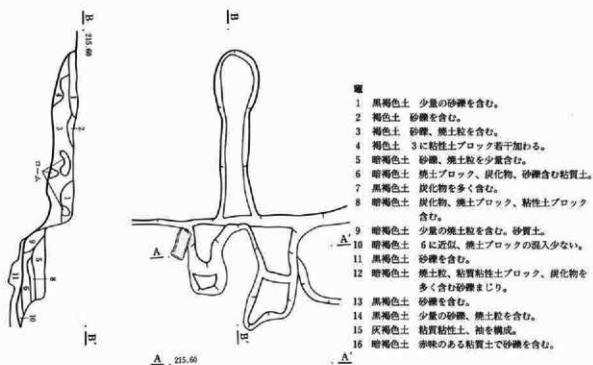
貯蔵穴 北東隅に検出された。長円形に一段低くなった部分に、長軸径65cm、短軸径50cm、深さ25cm程のやや隅丸の掘り込みが設けられている。

柱穴 対角線上に4本を検出した。径30~40cm、深さは北側の2本が約20cm、東側の2本が30cmである。また南壁下に並んで、やや長円形の掘り込みが検出されているが、入り口施設に関係するものであろうか。

竈 北壁中央に作られる。かなり壊れており袖部分は原状を留めていない。袖部分は粘土、焼土ブロック、粘質ロームの混土で作られている。

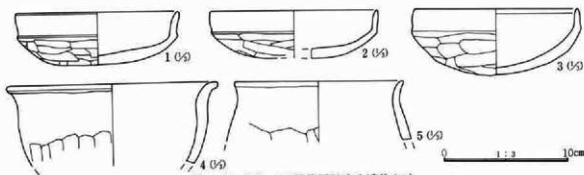
出土遺物 かなり大型の礫と併に土師器甕、坏などが見られた。とくに北西隅で土器が礫と一緒に集中して検出されている。

調査所見 重複はあるものの、遺存状態は良好である。時期は古墳時代後期である。

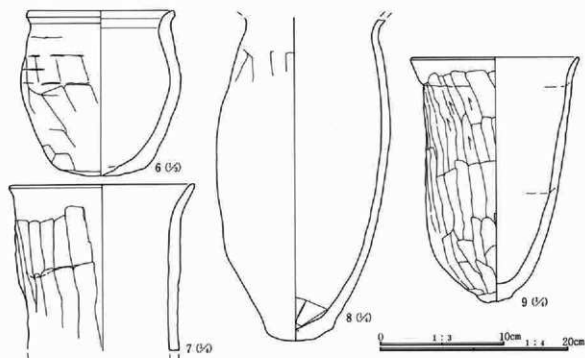


第605図 DS-106号住居跡・竈

0 1m



第606図 DS-106号住居跡出土遺物(1)



第607図 DS-106号住居跡出土遺物(2)

DS-106号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高 底高(cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考
1	土器 杯	+9	13.2	4.1	微砂粒含む	短黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り	
2	土器 杯	+4	13.6		微砂粒含む	灰褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り後磨き	
3	土器 杯	床面	13.2	5.2	砂粒含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削り	
4	土器 小型壺	床面	(17.0)		砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	
5	土器 壺	+19	(13.0)		礫を含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	口縁部やや内傾する 短頸壺
6	土器 小型甕	+6	(11.8)	13.0	砂粒含む	淡茶褐色	普通	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	器面やや反れている
7	土器 甕	+14	19.6		小礫多く含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	粗雑な作り
8	土器 壺	+19		6.0	砂粒含む	暗褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	口縁部を欠損、器面に 鉄付着
9	土器 甕	+10	17.8	25.9	礫を含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横線で 胴部削り 内 口縁部横線で 胴部削り	やや小瓶形で、粗雑 な作り

DS-107号住居跡 (第608・609図、PL80・149)

位置 Ct・Da-46 形状 隅丸方形 規模 長辺3.44m、短辺2.73m、壁高0.22m

重複 中央にD-894・D-895号土坑が重複する。

埋没土 砂礫含み、黒味を呈しやや締まりがある。

床面 土坑がからんでおり、凹凸が著しい。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 4本検出しているが位置的にかなりずれている。

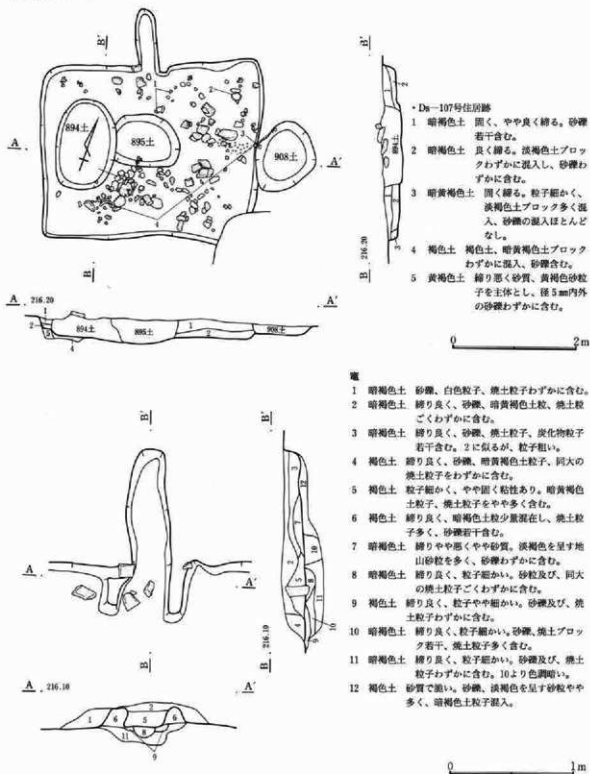
竈 北壁中央に作られている。袖部分は右側は失われており、左側は、長さ30cm程の長さで作られている。

第3章 検出された遺構と遺物

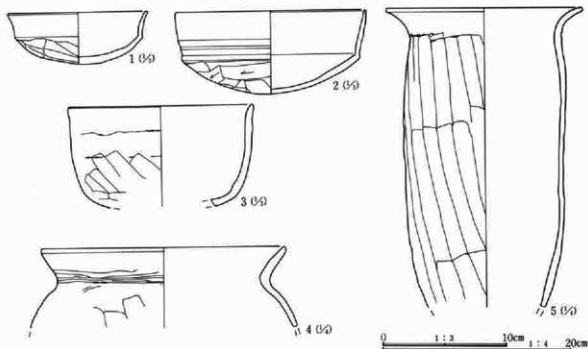
構築材と思われる礫が周辺部に散在している。焚口幅40cmで、煙道部を含めた長さは1.3mである。

出土遺物 多くの礫に混じり土師器環、甕が出土している。

調査所見 土坑が住居内に重複していることもあり、床面についてはかなり荒れた感じである。時期は古墳時代後期である。



第608図 DS-107号住居跡・竈



第609図 DS-107号住居跡出土遺物

DS-107号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高 底径(cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土器 杯	+12	11.3	4.0	微砂粒含む	橙褐色	良	外 □縁部横割で 体部裏削り 内 □縁部横割で 体部裏で	
2	土器 杯	+6	(15.4)	6.5	微砂粒含む	暗黒褐色	良	外 □縁部横割で 体部裏削り 内 □縁部横割で 体部裏で後削り	
3	土器 鉢	+10	(15.0)		砂粒含む	灰褐色	良	外 □縁部横割で 体部裏削り 内 □縁部横割で 体部裏で	
4	土器 壺	+7	26.0		砂粒含む	黄茶褐色	良	外 □縁部横割で 胴部裏削り 内 □縁部横割で 胴部裏で	
5	土器 壺	+11	20.7		砂粒含む	暗茶褐色	良	外 □縁部横割で 胴部裏削り 内 □縁部横割で 胴部裏で	底部を欠く

DS-108号住居跡 (第610・611図、PL80・149)

位置 Da-50・51 形状 不明 規模 長辺4.41m、短辺(2.0)m、壁高0.20m

重複 北側を中世の大溝に切られている。また弥生時代の住居にほとんどが掛かった状態であるために、床面、壁に関して明確ではなかった。

埋没土 礫、砂粒多く含む。

床面 極めて不明瞭である。

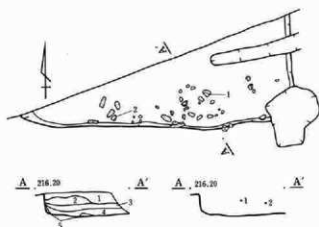
貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

竈 東壁部分に若干の焼土が検出された他には、痕跡はなかった。

出土遺物 土器の坏南壁際において出土している。

調査所見 極めて遺存状態は悪く、正確な形状は不明である。竈は東壁にあったものと思われる若干の痕跡を認めた。時期は出土遺物から平安時代と考えられる。



- ・DS-108号住居跡
- 1 褐色土 固く良く締る。粘性わずかにあり、淡黄褐色土粒やや多く、砂礫わずかに含む。
- 2 暗褐色土 やや固くやや良く締る。粘性ややあり。淡黄褐色土粒、砂礫ごくわずかに含む。
- 3 暗褐色土 やや軟質、粘性ややあり。淡黄褐色土粒子、砂礫ごくわずかに含む。
- 4 褐色土 締り良く、褐色土ブロックと暗黄褐色土ブロックの混土。径3～5mmの砂礫多く含む。
- 5 暗黄褐色土 やや固く砂質、地山主体。砂粒を主体とし、暗黄褐色土ブロック少量混在。

0 2m

第610図 DS-108号住居跡



0 1:3 10cm

第611図 DS-108号住居跡出土遺物

DS-108号住居跡遺物観察表

番号	器種	出土位置	口径	器高	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 平鉢	床面	14.0 (7.3)	4.5	砂粒含む	淡褐色	良	外口縁部横線で 体部圓形 内口縁部横線で 体部無	
2	土師器 平鉢	床面	13.2	4.0	砂粒含む	淡黄褐色	良	外口縁部横線で 体部圓形 内口縁部横線で 体部無	

## 第2節 土坑・井戸

本調査区において検出された土坑は総数261基にのぼる。その内訳はC区分の1号土坑から185号土坑および、Ds区に含まれる土坑の内、DS-892号土坑からDS-964号土坑である。

これらの土坑の時期は縄文時代、弥生時代、古墳・奈良・平安時代、中・近世、近・現代、および時期不明に分けられる。本書ではこのうちの古墳時代以降のものについて報告する。(時期の判断については、出土遺物を主な判断基準とし、切り合い関係、埋土の状況なども考慮して判断した。なお、出土遺物もなく、時期の判断ができなかったものに関しては、時期不明とし、後日刊行予定の縄文、弥生時代編の中で扱うこととした。

なお番号は、基本的に調査時のものを使用したが、一部重複したものに関しては別番号を付した。

### 概要

取り上げた土坑については、近世以降のものが多く含まれており、遺物については前代のものがかなり入り込んでいるものと思われる。

形状としては、かなり浅く、やや径の大きなものと、小形のもの、径は小さいものの深さがあるもの、井戸と思われるものなどが見られる。また多量の炭化物(木炭)を含み、壁面が焼土化した洋梨子形を呈す土坑は、近世の所産と考えられるが用途についてははっきりしない。



第612図 土坑(1)

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### C-1号土坑(第612図、PL-81)

位置 Ca-36 形状 ほぼ円形を呈す。規模 径1.5m、深さ0.55m

所見 上部はやや開くが中位以下は、ほぼ垂直に掘り込まれる、底は平らである。出土遺物はほとんど見られぬが覆土の状況などから古墳時代以降の所産と思われる。

#### C-2号土坑(第612・619図、PL-81・149)

位置 Ca-38 形状 ほぼ長円形を呈す。規模 長径0.85m、短径0.71m、深さ0.15m

所見 遺物はかなり上位より出土している。河原石に混じり、須恵器の坏が出土している。時期は平安時代である。

#### C-5号土坑(第612図、PL-81)

位置 Ca-33 形状 ほぼ円形を呈す。規模 長径0.75m、短径0.70m、深さ0.15m

所見 底面に凹凸をもつ。覆土上層に炭を多量に混入する。出土遺物は見られなかったが、覆土の状況などから、時期は近世以降と判断される。

#### C-6号土坑(第612図、PL-81)

位置 Bt-40 形状 ほぼ円形。規模 長径0.82m、短径0.78m、深さ0.14m

所見 弥生時代の住居覆土中に掘り込まれている。同時期と思われる7号土坑が北に接して位置する。断面楕円状を呈する。覆土中層に多量の炭および若干の焼土塊を含み、陶磁器の小片が出土している。時期は江戸時代以降と考えられる。

#### C-7号土坑(第612図、PL-81)

位置 Bt-40 形状 中央がくびれた不正長円形 規模 長径1.35m、短径0.65m、深さ0.30m

所見 南側に接して6号土坑が位置する。埋土中層に多量の炭および焼土を含む。陶磁器の小片が出土している。時期は6号土坑と同じ江戸時代の所産と考えられる。用途に関しては明確に得ないが、同様の土坑は本区、および北に続くDS区、E区においても多数確認されている。

#### C-8号土坑(第612・619図、PL-81・149)

位置 Cc-35 形状 長円形 規模 長径(1.0)m、短径0.9m、深さ0.1m

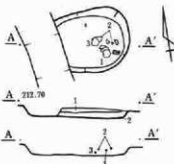
所見 北側部分については、弥生時代の住居と重複する。また東側には1号配石(縄文時代敷石住居)が位置する。かなり浅く底面はほぼ平らである。出土遺物は少なく、覆土の上位より鎌が、下位より土師器環の底部片が出土している。時期は平安時代か。

#### C-11号土坑(第612・619図、PL-81・149)

位置 Ck-48 形状 ほぼ円形 規模 径約2.0m、深さ0.8m

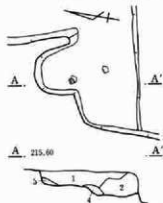
所見 128号住居跡(古墳時代)の南部分を切る。西側一部は調査区外となる。鎌および土器小片が出土している。時期は平安時代か。





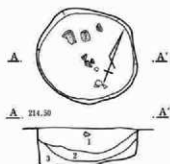
C-12号土坑

- 1 黒色土 砂礫、少量の炭化物混入。
- 2 黒褐色土 砂礫、炭化物若干含む、1より細粒、灰緑色粘土混入。



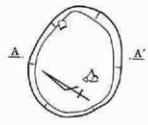
C-43号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫、小石、同大の褐色粒子少量含む。
- 2 明褐色土 砂礫を少量含む。
- 3 黄褐色土 径1mm以下の砂礫を少量含む。
- 4 暗褐色土 黄色粒子、径2~3mmの小石を少量含む。



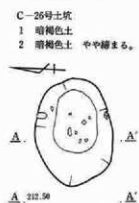
C-60号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫、黄色粒子、褐色粒子かなり多量に含む。
- 2 暗褐色土 黄色粒子、褐色粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 小石、黄色、褐色粒子を少量含む。



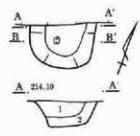
C-26号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 やや締まる。



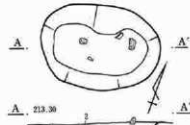
C-35号土坑

- 1 黒褐色土 小礫多く含む。若干の微細炭化物及び、白色土粒混入。ロームブロック若干含む。
- 2 暗褐色土 粘性土かなり含む。小礫白色土粒を若干混入。



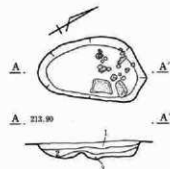
C-61号土坑

- 1 暗褐色土 小礫を含み、ごく少量の炭化物混入。
- 2 暗褐色土 小礫、粘性土ブロック、黄色粒子多く混入。



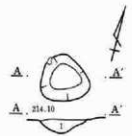
C-31号土坑

- 1 黒褐色土 礫及び地山砂質土粒を混入。
- 2 黄褐色土 砂質土。
- 3 黄褐色土 地山砂礫土を主体とし、やや粘性を示す。



C-51号土坑

- 1 暗褐色土 小礫を若干含む。径2~3mmの黄色、赤色粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい色調を呈し、径2~5mmの小石若干含む。
- 3 暗褐色土 径2~3mmの黄色粒子をやや多く含む。



C-53号土坑

- 1 黒褐色土 礫を多く含む、粗粒。

0 1m

第613図 土坑(2)

第3章 検出された遺構と遺物

C-12号土坑 (第613・619図、PL-81・149)

位置 Ce-33 形状 長円形 規模 長径(0.85)m、短径0.66m、深さ0.10m

所見 西側を2号溝(近世以降)によって切られる。かなり浅く、底は平らである。須恵器の環、埴が出土している。

C-26号土坑 (第613・619図、PL-82・149)

位置 Cj-47 形状 長円形 規模 長径1.2m、短径1.0m、深さ0.16m

所見 須恵器環が出土。時期は平安時代か。

C-31号土坑 (第613図、PL-82)

位置 Cf-36 形状 長円形 規模 長径1.3m、短径0.9m、深さ0.25m

所見 礫が出土している。時期は近世か。

C-35号土坑 (第613図、PL-82)

位置 Cd-28 形状 円形 規模 長径1.10m、短径0.80m、深さ0.45m

所見 掘り込みはしっかりしており、底面が小さくなる。出土遺物は少ないが、土器製の破片がわずかに見られた。時期は確定できないが、平安時代以降である。

C-43号土坑 (第613図)

位置 Cr-52 形状 不定形 規模 長径(1.1)m、短径(0.95)m、深さ0.25m

所見 住居と重複しており平面形は明確でない。出土遺物も見られない。時期は平安時代以降である。

C-51号土坑 (第613図、PL-82)

位置 Cg-39 形状 長円形 規模 長径1.15m、短径0.70m、深さ0.18m

所見 掘り込みは浅い。底面はかなり凹凸があり礫を多く含む。出土遺物から時期は平安時代と思われる。

C-53号土坑 (第613図)

位置 Cj-39 形状 不正円形 規模 長径0.53m、短径0.50m、深さ0.15m

所見 規模小さく、出土遺物も見られなかった。時期は平安時代か。

C-60号土坑 (第613図、PL-82)

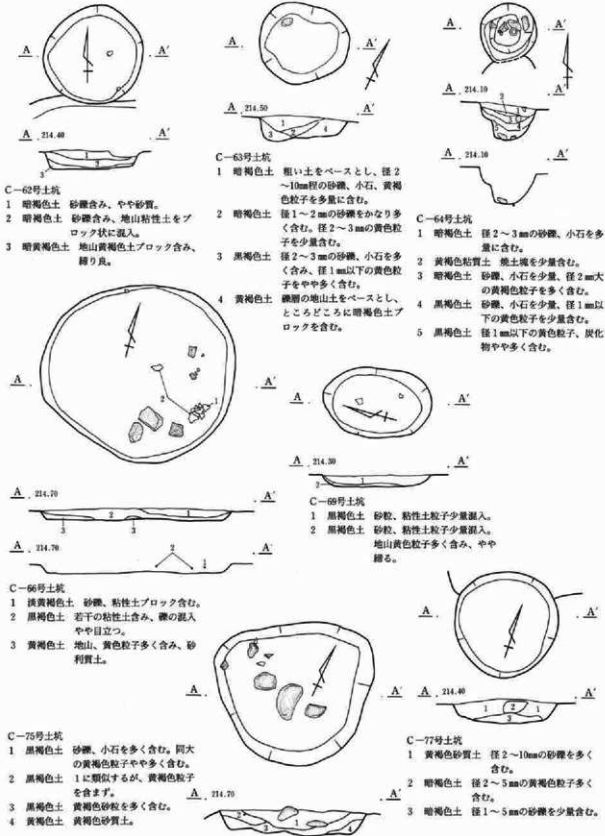
位置 Cl-35 形状 円形 規模 長径1.10m、短径1.10m、深さ0.40m

所見 231号住居跡を切る。掘り込みはほぼ垂直で、底面がやや起伏を持つ。礫が数点覆土中より検出されたが、土器類については土器製の小破片がわずかに見られたのみである。時期は近世か。

C-61号土坑 (第613・619図、PL-82・149)

位置 Cl-34 形状 長円形 規模 長径(0.50)m、短径0.70m、深さ0.30m

所見 北側の約半分を近世の耕作溝によって切られている。掘り込みはやや斜めで、底は狭くなる。底面近



0 1m

第614図 土坑(3)

### 第3章 検出された遺構と遺物

くより、小形の環が一点出土している。時期は平安時代である。

#### C-62号土坑 (第614図、PL-82)

位置 Cl-35 形状 円形 規模 径1.05m、深さ0.20m

所見 209・217号住居跡(平安時代)のコーナーをわずかに切る。円形で底は平坦である。土師器の破片が出土しているが、図示するには至らなかった。

#### C-63号土坑 (第614・619図、PL-82・150)

位置 Cm-36 形状 円形 規模 長径0.95m、短径0.85m、深さ0.28m

所見231号住居跡(弥生時代)の北西隅を切る。自然礫が1点検出されたのみで、土器等の遺物は見られなかった。時期は平安時代以降であろう。

#### C-64号土坑 (第614・619図、PL-83・150)

位置 Ck-35 形状 円形 規模 長径0.60m、短径0.60m、深さ0.40m

所見 南側で48号土坑と重複する。やや大きめの礫が上層より複数検出されている他、最下層より土師器環の1点が出土している。時期は平安時代である。

#### C-66号土坑 (第614・619図、PL-83・150)

位置 Cl-42 形状 円形 規模 長径2.10m、短径1.90m、深さ0.12m

所見 242(古墳時代)・278号住居跡(平安時代)を切る。やや大形の土坑であるが、底面は平らで、掘り込みは約10cmと極めて浅い。上面より礫と若干の土器片が出土、時期は平安時代である。

#### C-69号土坑 (第614図、PL-83)

位置 Cl-36 形状 長円形 規模 長径1.20m、短径0.75m、深さ0.12m

所見 282号住居跡(平安時代)の東端に重複する。長円形で掘り込みはきわめて浅い。土師器の破片がわずかに出土している。時期は奈良時代と思われる。

#### C-75号土坑 (第614図、PL-83)

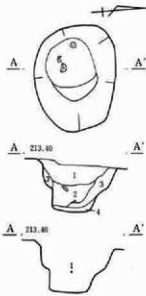
位置 Cl-42 形状 不正円形 規模 長径1.70m、短径1.50m、深さ0.30m

所見 242号住居跡(古墳時代)の南壁にわずかに掛かる。比較的大形の土坑である。30~20cmの礫がやや浮いた状態で検出されている。土器片がわずかに見られ、時期は古墳時代後期と思われる。

#### C-77号土坑 (第614図、PL-83)

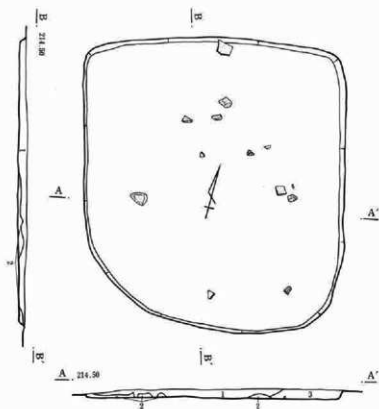
位置 Ck-42 形状 円形 規模 長径1.10m、短径1.10m、深さ0.25m<sup>2</sup>

所見 258号住居跡(奈良時代)の南西隅部分に掛かる。出土遺物はわずかに見られたが、図示し得なかった。時期は平安時代以降と思われる。



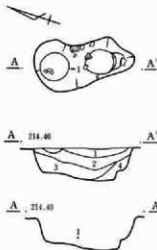
C-80号土坑

- 1 黒褐色土 小砂礫多く含み、粗粒。
- 2 黒褐色土 径0.5cm前後の砂礫含む。
- 3 暗褐色土 地山砂礫を多く混入。
- 4 暗黄褐色土 地山黄褐色砂粒主体。



C-88号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫、小石を多く含む。
- 2 黄褐色土 砂質地山土ベースとし、砂礫、小石多く含む。
- 3 暗褐色土 砂礫、小石少量含む。



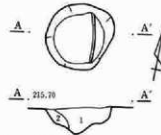
C-92号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫含む。
- 2 暗褐色土 砂礫、黄褐色粒子含む。
- 3 暗茶褐色土 地山砂礫、粘質土含む。
- 4 暗褐色土 地山砂礫、粘土ブロック含む。



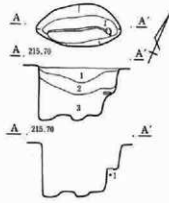
C-93号土坑

- 1 黒色土 締り無く、小礫、黄色土粒、焼土粒含む。
- 2 暗褐色土 締りやや悪い、黄褐色粘土ブロック、焼土粒わずかに混入。



C-94号土坑

- 1 黒色土 締り悪く、小礫及び黄色粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 締り悪い。地山の砂礫層のブロック少量含む。



C-95号土坑

- 1 黒色土 締り良く、小礫含む。若干の黄色土粒、焼土粒混入。
- 2 黒色土 締りやや悪い。少量の黄色土粒含む砂質土、まれに小礫含む。
- 3 黒褐色土 締りやや悪い。黄褐色砂を全体に含む。砂質で脆弱。

0 1m

第615図 土坑(4)

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### C-80号土坑 (第615・619図、PL-83・150)

位置 Cg-42 形状 長円形 規模 長径1.10m、短径0.85m、深さ0.55m

所見 90号住居跡(平安時代)内にある。遺物は破片が若干出土している、時期は平安時代以降である。

#### C-88号土坑 (第615図、PL-83)

位置 Ck-44 形状 隅丸方形 規模 長径3.10m、短径2.75m、深さ0.10m

所見 225号住居跡(弥生時代)の南西部分に重複する。極めて浅い掘り込みで、南側を除いて直線的である。大形で、住居の可能性も考慮したが、竈および住居内施設が見られないことなどから、土坑とした。出土遺物は土器片がわずかに検出されている。時期は平安時代と考えられる。

#### C-92号土坑 (第615・619図、PL-83・150)

位置 Cj-44 形状 不定形 規模 長径1.05m、短径0.55m、深さ0.40m

所見 268号住居跡の南部分に重複する。不定形で掘り方は側面、底部ともに凹凸が顕著である。竈および若干の土器片、土鍾が1点出土している。時期は平安時代である。

#### C-93号土坑 (第615図、PL-84)

位置 Cs-45 形状 円形 規模 長径0.80m、短径0.70m、深さ0.30m

所見 331号住居跡(古墳時代)の北東隅に重複、底面および壁面には凹凸が目立つ。出土遺物から時期は古墳時代後期と思われる。

#### C-94号土坑 (第615図、PL-84)

位置 Cr-48 形状 円形 規模 長径0.72m、短径0.7m、深さ0.27m

所見 底面には凹凸が見られる。出土遺物はほとんど見られなかった。時期は古墳時代か。

#### C-95号土坑 (第615・619図、PL-84・150)

位置 Cr-48 形状 長円形 規模 長径0.9m、短径0.45m、深さ0.55m

所見 ほぼ垂直に掘り込まれ、底の部分が狭くなる。出土遺物はほとんど見られないが時期は古墳時代と思われる。

#### C-96号土坑 (第617・619図、PL-84・150)

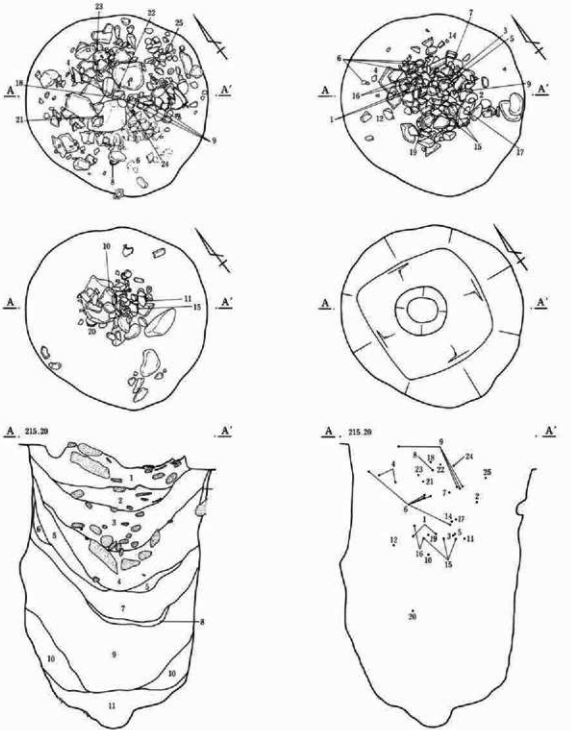
位置 Cl-46 形状 円形 規模 長径2.30m、短径2.20m、深さ0.60m

所見 302号住居跡(平安時代)、324号住居跡(弥生時代)内に位置する。住居の覆土内に掘り込まれた、やや大形の土坑である。ほぼ垂直に掘り込まれており、底面は平坦である。上層より10~20cm程の礫が多く検出された。これらの礫に混じり若干の土器片が出土している。時期は平安時代以降である。

#### C-99号土坑 (第617図、PL-84)

位置 Cq-44 形状 洋梨子形 規模 長径1.10m、短径0.70m、深さ0.20m

所見 325号住居跡(奈良時代)の北壁に掛かる。径70cm程の円に長さ50cm、幅30cm程の張り出し部が付く洋



C-103号土坑

- 1 黒褐色土 大砂礫、土層片を多く含む。小砂礫多く含む。炭化物混入。
- 2 黒褐色土 1に似るが、粘性土多くなり、小礫の混入は少ない。
- 3 黒褐色土 粘性強く、若干の炭化物含む。
- 4 黒褐色土 砂礫を多く含む。やや粗粒。
- 5 暗褐色土 埴山粘土を含み、若干の粘性土ブロック混入。
- 6 暗褐色土 埴山粘土多量に含む粘性土。
- 7 暗褐色土 砂礫を若干含む。粘性あり。

- 8 暗褐色土 地山、淡褐色粘土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土 礫を多く含む。粘土ブロックの混入多い。
- 10 暗褐色土 地山、砂礫層を主体とし、砂利質。
- 11 灰褐色土 礫を多く含むがやや細粒。

第616図 土坑(5)

0 1m

### 第3章 検出された遺構と遺物

梨子形を呈す。奥壁が顕著に焼けており、多量の炭化物を混入する。出土遺物はほとんど見られない。時期は近世と思われる。

#### C-103号土坑 (第616・620図、PL-84・150・151)

位置 Cn-47 形状 円形 規模 長径2.0m、短径1.90m、深さ3.0m

所見 322号住居跡(古墳時代)の竈部分に重複し、これを切る。住居覆土中であつたために、当初確認できなかったが、掘り進める中で、その存在を確認した。平面形はほぼ円形で、掘り込み面の大きさは径約2m、深さは約3mである。上部の掘り方は、ほぼ円形であるが、下方へ行くに従い隅丸方形状となる。上層部に大形の礫が見られ、多量の土器および土鏝等が出土しているが、下層には少ない。時期は平安時代以降であろう。井戸と思われる。

#### C-104号土坑 (第617図、PL-85)

位置 Ck-38 形状 円形 規模 長径0.60m、短径0.60m、深さ0.10m

所見 236号住居跡(平安時代)の南東部分にある。貯蔵穴とほぼ重複した形で在る。時期は確定できないが、平安時代以降であると考えられる。出土遺物は無い。

#### C-111号土坑 (第617図、PL-85)

位置 Cm-46 形状 長円形 規模 長径1.10m、短径0.65m、深さ0.15m

所見 不定形でかなり浅い掘り込みである。礫をかなり多く混入する。時期は平安時代以降と思われる。

#### C-122号土坑 (第617図、PL-85)

位置 Cp-44 形状 隅丸方形 規模 長径1.45m、短径1.30m、深さ0.15m

所見 313号住居跡(平安時代)・328号住居跡を切る。調査時の確認部不足から住居に掛かる部分については掘ってしまった部分がある。須恵器の破片が出土している。時期は平安時代以降である。

#### C-145号土坑 (第617図、PL-85)

位置 Ct-44 形状 紡錘形 規模 長径0.60m、短径0.50m、深さ0.15m

所見 掘り方自体は小さく、壁面は赤褐色に焼土化しており、多量の木炭が混入、下層には焼土が厚さ3cm程堆積していた。出土遺物は無い。99号土坑と同性格のものと思われ、近世の所産である。

#### C-149号土坑 (第617図、PL-85)

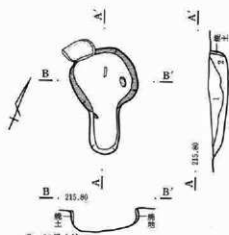
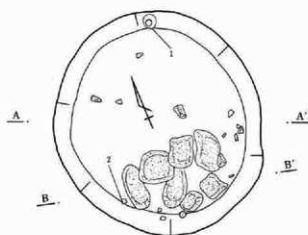
位置 Ct-49 形状 円形 規模 長径1.25m、短径1.20m、深さ0.65m

所見 ほぼ垂直に掘り込まれており、底は平らで壁下に細い溝が全周している。また壁は粘土が貼られている。礫が多量に投げ込まれた状況で検出されている。また底面より古銭が1点出土している。時期は近世である。(元総社寺田遺跡等に類例あり 木桶が残る)

#### C-152号土坑 (第618・621図、PL-86・151)

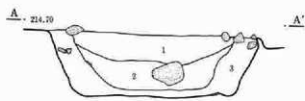
位置 Ct-47 形状 やや長円形 規模 長径1.55m、短径1.20m、深さ0.30m





C-99号土坑

- 1 黒褐色土 小礫、白黄色粒、粘土粒を含む砂質土。
- 2 黒褐色土 礫、白色、黄色土粒の混入少なく下層に炭化物散漫に含む。



A . 214.70

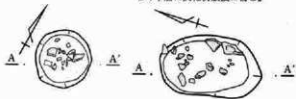
B . 214.70

C-96号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫、黄色粒子多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫の混入少なく、1より細粒。
- 3 黒褐色土 粘性土粒子含み、やや軟質。

C-104号土坑

- 1 暗黄褐色土 砂質、径1~2mmの砂粒を多く含む。焼土粒少量含む。

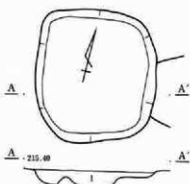


A . 214.20

A . 214.90

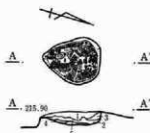
C-111号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫地山を多く含む。
- 2 暗褐色土 砂礫地山を主体とする。



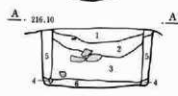
C-122号土坑

- 1 黒褐色土 締りやや悪い。少量の小礫、若干の黄褐色砂粒を含む。



C-145号土坑

- 1 暗褐色土 砂粒を含む。
- 2 木炭粒
- 3 暗褐色土 粘性土粒、砂粒少量含む。
- 4 焼土
- 5 暗褐色土 粘性土粒多く含む。



C-149号土坑

- 1 淡褐色土 砂礫多く、AS-A、黄褐色土ブロック少量含む。
- 2 淡褐色土 良く締る。軽石、砂礫、黄褐色粘質土ブロック多く含む。
- 3 淡褐色土 粘性あり。砂礫わずかに含む。

- 4 淡褐色土 軟質で粘性あり。3より色調淡く、粒子細かい。
- 5 黄褐色土 細粒で粘性あり。焼土粒子含む。
- 6 暗黄褐色土 軟質で良く締る。黄褐色土、褐色土ブロック多く混在。

0 1m

第617図 土坑(6)

### 第3章 検出された遺構と遺物

**所見** ややなだらかな掘り込み、中央部分に小礫に混じり、若干の土師器、須恵器の坏が出土している。

C-161号土坑 (第618図、PL-86)

**位置** Cs47 **形状** 長円形 **規模** 長径1.70m、短径(0.90)m、深さ0.15m

**所見** 東側部分を321号住居跡に切られる。

C-163号土坑 (第618図、PL-86)

**位置** Cp-47 **形状** 円形 **規模** 長径0.75m、短径(0.60)m、深さ0.50m

**所見** 西側を343号住居跡(古墳時代)に切られている。出土遺物は見られない。

C-174号土坑 (第618図、PL-86)

**位置** Cr-45 **形状** 不定形 **規模** 長径1.70m、短径1.0m、深さ0.60m

**所見** 336号住居跡(弥生時代)と重複。北側部分については不明確である。西側で礫が検出されているが、土器類の出土は見られない。掘り込みは2段になっている。

C-185号土坑 (第618図、PL-86)

**位置** Cs-46 **形状** 長円形 **規模** 長径1.30m、短径1.0m、深さ0.50m

**所見** 321号住居跡と重複。出土遺物はなかった。

Ds910号土坑 (第621図、PL-151)

**位置** Da-50 **形状** 円形 **規模** 長径2.2m、短径2.1m、深さ0.38m

**所見** Ds-109号住居跡(弥生時代)を切る。かなり凹凸が見られる。



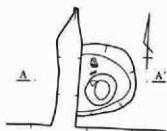
C-152号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫を多く含む。



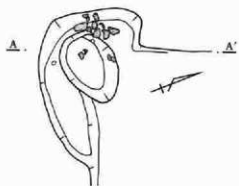
C-161号土坑

- 1 黒褐色土 小礫多く、褐色粒、土塊混入。
- 2 暗褐色土 小礫やや多く含む。



C-163号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫、黄褐色粒子含む。
- 2 暗褐色土 粗粒土、砂礫多く含む。
- 3 暗褐色土 砂礫、黄褐色粒子少量含む。
- 4 暗黄褐色土 黄褐色粘質土ブロック含む。
- 5 黄褐色砂礫土 黄褐色砂礫含む。



C-174号土坑

- 1 黒褐色土 砂礫を含む。
- 2 暗褐色土 砂礫を多く含む。
- 3 暗黄褐色土 地山の二次堆積土。



C-185号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫、褐色、灰白色粒含む。
- 2 暗褐色土 1と近似、礫を多く含む。
- 3 黒褐色土 礫、および褐色土粒点在。

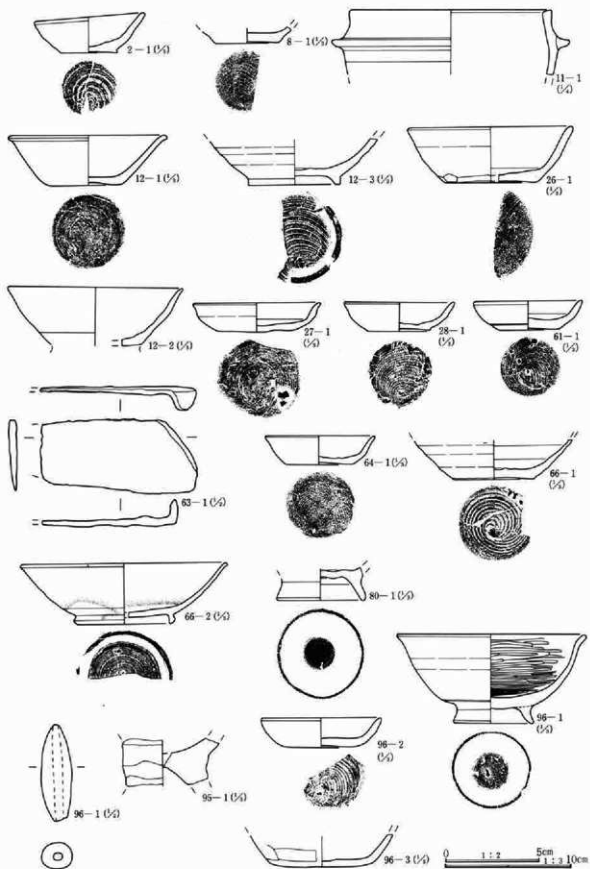


Da-910号土坑

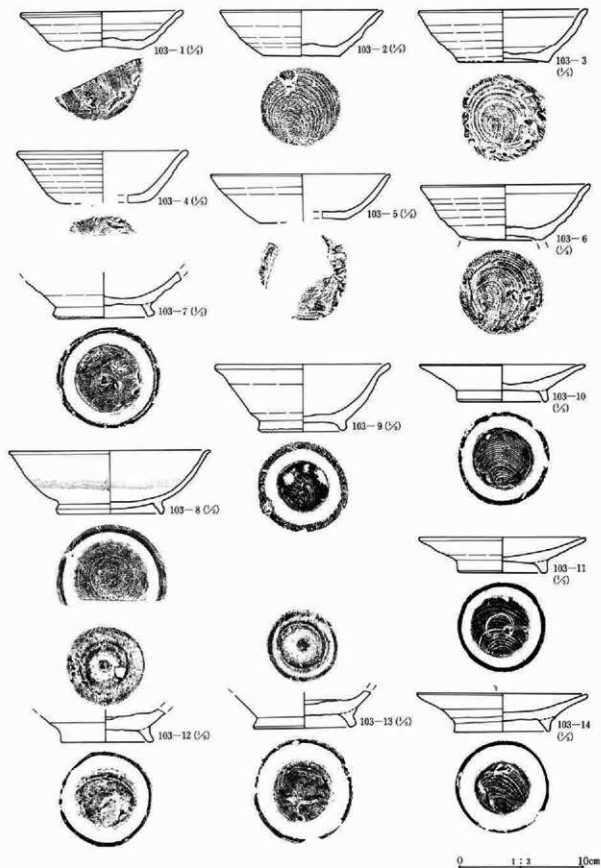
- 1 暗褐色土 固く締り粘性あり、砂礫わずかに含む。
- 2 暗褐色土 締り良い、1より黒味あり、砂礫わずかに含む。
- 3 褐色土 良く締まる。砂礫、暗黄褐色土ブロック含む。
- 4 暗黄褐色土 やや固く、強い、微砂粒含む、砂礫多く含む。

0 1m

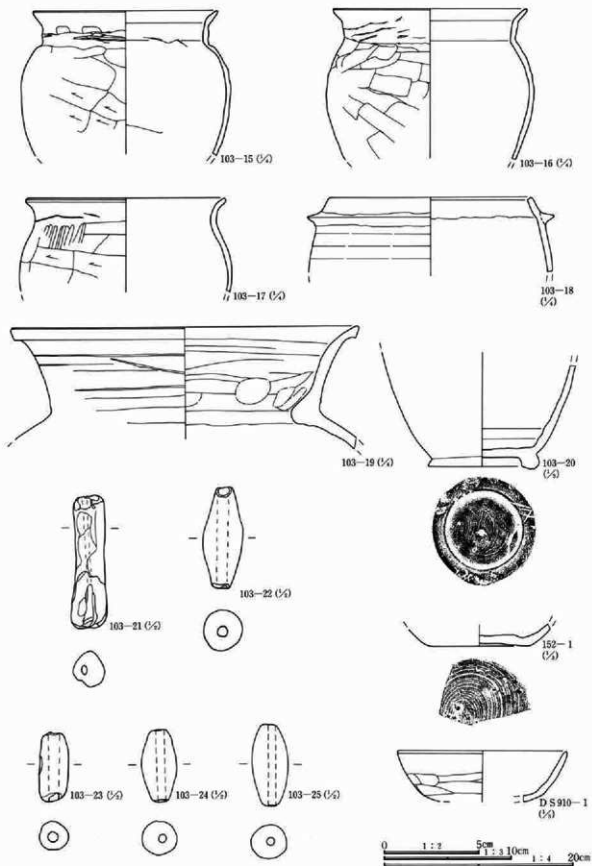
第618図 土坑(7)



第619図 土坑出土遺物(1)



第620圖 土坑出土遺物(2)



第621図 土坑出土遺物(3)

## 土坑遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考	
2土 -1	土師器 杯	+12	8.8 4.6	2.8	微砂粒含む	茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	完形	
8土 -1	土師器 杯	+9	5.0		微砂粒含む	淡褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	底部片	
11土 -1	須恵器 釜	覆土	(23.6)		砂粒含む	暗灰色	良	ロクロ整形	口縁部片	
12土 -1	須恵器 杯	+5	(12.6) 5.8	4.0	微砂粒含む	青灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	口縁部に油煙	
12土 -2	須恵器 埴	+6	14.0		微砂粒含む	灰褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	高台を欠く	
12土 -3	須恵器 埴	+3	7.0	3.6	微砂粒含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台		
26土 -1	須恵器 杯	+2	(13.2) 7.2	4.4	微砂粒含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部削り		
27土 -1	土師器 杯	+40	10.2 7.0	2.3	砂粒含む	淡茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	底面やや歪み、器高浅い	
28土 -1	土師器 杯	覆土	9.0 5.0	2.2	微砂粒含む	淡茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	完形	
61土 -1	土師器 杯	+20	(8.7) 4.6	2.3	微砂粒含む	灰褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	部分的に還元層	
63土 -1	鉢	覆土	幅4.2cm 厚さ0.55cm 重さ30.3g 先端部分を欠く							
64土 -1	土師器 杯	底面	8.8 5.2	2.3	微砂粒含む	茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	ほぼ完形	
66土 -1	須恵器 杯	+5	6.3		精製	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り		
66土 -2	灰輪埴	+5	(15.4) 8.0	4.8	精製	青灰色	良	ロクロ整形 付け高台		
80土 -1	須恵器 埴	+22	7.1		微砂粒含む	黒褐色	良	ロクロ整形 付け高台	土師質 高台部のみ	
92土 -1	土 鉢	+10	長さ5.2cm 径1.7cm 重さ10.0g 灰黄褐色を呈す							
95土 -1	不 明	+18			土 (片岩) 含む	茶褐色	普通	内外面撫で	高杯の柱部か	
96土 -1	須恵器 埴	+20	15.0 6.2	7.0	精製	淡茶褐色	良	ロクロ整形 内面丁寧な磨き 付け高台		
96土 -2	土師器 杯	+46	(9.6) 5.4	2.3	精製	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り		
96土 -3	土師器 杯	覆土	8.0		砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
103土 -1	須恵器 杯	+192	(13.0)		微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り		
103土 -2	須恵器 杯	+212	13.0 6.0	3.6	砂粒(白色)含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	口縁部に油煙付着 ほぼ完形	
103土 -1	須恵器 杯	+184	13.4 7.0	4.2	微砂粒含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り		
103土 -1	須恵器 杯	+237	(13.0)	4.0	砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り		
103土 -1	須恵器 杯	+185	14.4		微砂粒含む	灰褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	部分的に還元層 焼き歪み有り	
103土 -1	須恵器 埴	+242	13.4		小礫僅かに含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	高台欠	
103土 -1	須恵器 埴	+240	8.1		微砂粒含む	青灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	内面に十字の麻割(焼成後)	
103土 -1	灰輪埴	底面	(16.0) (8.4)	5.0	精製	明灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後調整 付け高台	整の掛かりは薄い	
103土 -1	須恵器 埴	+232	14.0 7.1	(5.3)	微砂粒含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後撫で、付け高台	口縁部に油煙付着	

## 第3章 検出された遺構と遺物

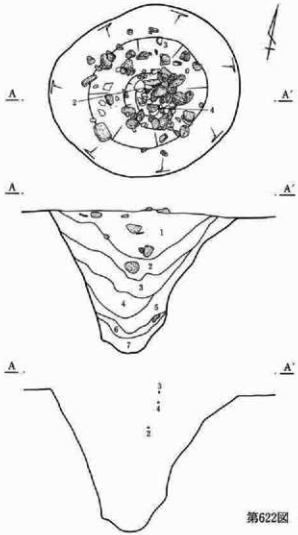
番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
103土 —10	須恵器 皿	+183	(13.1) 3.0 7.3	砂粒僅かに 含む	暗灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り付け高台	
103土 —11	須恵器 皿	+177	(13.2) 2.8 7.0	精製	暗灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	
103土 —12	須恵器 椀	+170		微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	底部片
103土 —13	須恵器 壺	+300		微砂粒僅かに 含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後撫で、 付け高台	底部片
103土 —14	須恵器 皿	+200	18.6 3.0 7.3	精製	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	
103土 —15	土師器 甕	+179	19.6	砂粒含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部磨削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	胴部に輪積み状見られる
103土 —16	土師器 甕	+199	20.6	微砂粒含む	淡茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部磨削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
103土 —17	土師器 甕	+200	21.2	砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部磨削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
103土 —18	須恵器 羽蓋	+281	(21.6)	微砂粒含む	暗褐色	良	ロクロ整形	
103土 —19	須恵器 大甕	+203	(37.2)	礫を僅かに 含む	灰色	良	紐作り 胴部、頸部内面撫で、口縁部 横撫で	
103土 —20	反輪 土	+112		小礫含む	灰緑色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	胴下半部
103土 —21	土 罎	+259					長さ7.1cm 径1.1cm 重さ27.5g 灰褐色を呈す 棒状を呈す	
103土 —22	土 罎	+277					長さ5.4cm 径1.5cm 重さ7.8g 灰黒色を呈す 中央のふくらみ強い	
103土 —23	土 罎	+261					長さ(3.7)cm 径1.5cm 重さ7.8g 灰褐色を呈す 一端部を欠く	
103土 —24	土 罎	+5					長さ3.8cm 径1.9cm 重さ11.3g 完形 やや短め	
103土 —25	土 罎	床面					長さ4.3cm 径1.9cm 重さ13.3g 完形	
102土 —1	須恵器 坏	+24		精製	灰色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
DS910 土-1	土師器 坏	覆土	(13.5)	微砂粒含む	黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部磨削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	



C-1号井戸 (第622・623図、PL-86・151)

位置 Bs・Bt-38 形状 円形 規模 長径2.0m、短径1.8m、深さ1.5m

所見 調査区の南寄りで見出された。平面形状はほぼ円形で、断面は漏斗状を呈し、下部はかなり小さくす

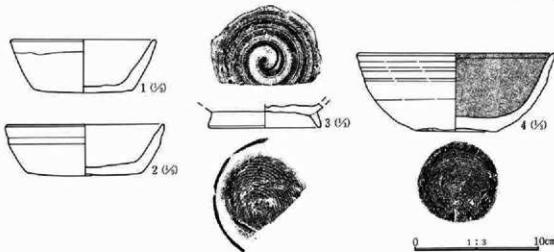


C-1号井戸

- 1 黒褐色土 大型の礫を含む砂礫土、遺物を混入。
- 2 黒褐色土 礫はほとんど含まず、若干の粘質土ブロックを混入。
- 3 黒褐色土 2に似るが、粘質土少なく、やや黒味を帯びる。
- 4 黒褐色土 粘質土ブロックを混入し、やや締まる。
- 5 黄黒褐色土 粘質土多く含む、粘性あり、砂礫の混入少ない。
- 6 黒褐色土 粘質土若干含む砂質土。
- 7 黒褐色土 6を基調とするが、粘質土ブロックの混入目立つ。

第622図 C-1号井戸

0 1m



第623図 C-1号井戸出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

ぼまる形となる。ほぼ中位にややなだらかな段が見られる。出土遺物は上部において、礫の混入が観察されたものの、土器類については、比較的少なく、土器器壁、坏、の破片がやや上層部分において僅かに見られたのみである。

C-1号井戸観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土器器 坏	覆土	(11.6) 4.2 7.7	微砂粒含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 体部荒削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
2	土器器 坏	+118	(12.6)	微砂粒含む	淡橙褐色	良	外 口縁部横撫で 体部荒削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
3	須恵器 埴	+146	9.0	砂粒含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	
4	須恵器 埴	+136	15.2 6.2 6.3	砂粒含む	白黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	内面荒磨き 黒色処理

### 第3節 掘立柱建物跡

本遺跡において、掘立柱建物跡とした遺構は計6棟を数えたが、柱穴の並び、掘り方にやや不明確なものも見られた。その他多くのピットが調査区全域において検出されているが、ごく最近のものも含めて時期、性格等不明なものが多い。

検出した掘立柱建物跡の時期については、浅間B軽石(As-BP)と思われる軽石が含まれているものも見られたが、時期を確定できるものはない。

#### C-1号掘立柱建物跡 (第624図、PL-86)

位置 Ca・Cb-30・31 形状 南北に長い長方形か

規模 南北3間×東西2間であるが東西についてはP1、P2間は狭い。柱間は1.3~1.5mである。柱穴の径はいずれも約30cm、深さ20~30cmである。

重複 北側および東側列に関しては、住居内に廻り込まれていたために検出することができなかった。

所見 調査区南端に検出。西側の4本と南側に3本を検出したが、北側、東側は不明。検出したのは、3間×2間で、覆土は若干のローム土を含み、わずかに粘性を示す土で埋まっていた。建物跡とするにはやや疑問の残る遺構である。出土遺物はなく、時期も不明である。

#### C-2号掘立柱建物跡 (第624図、PL-87)

位置 Ce-29・30 形状 方形である。

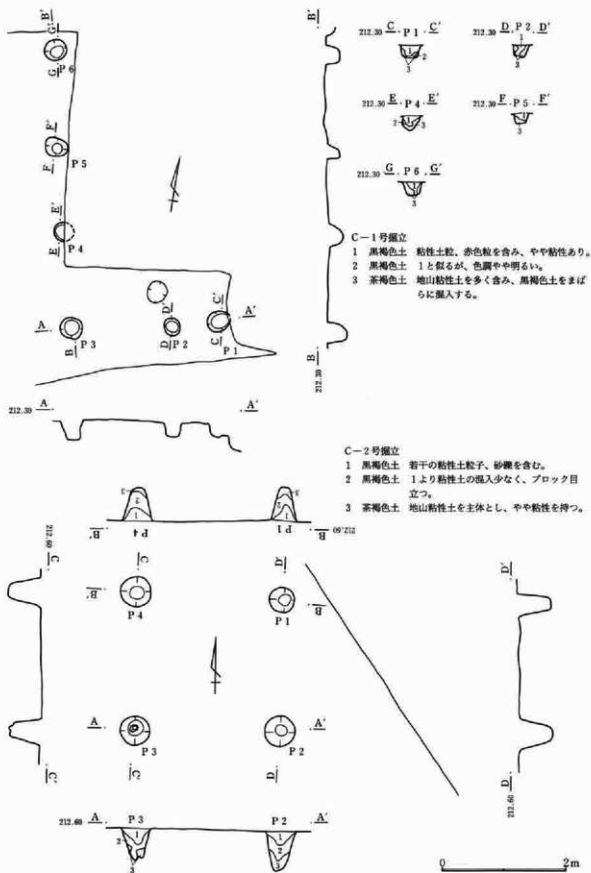
規模 1間×1間で柱間は東西2.4m、南北が2.2mである。柱穴の径は40~45cm、深さは50~60cmを測る。

重複 北東の柱穴に関しては、98号住居跡と重複。

所見 調査区の東端において検出。柱穴はいずれも掘り方がしっかりしており、黒味がかかった砂粒を含む土で埋まる。出土遺物はなく、時期は確定できないが埋土の状況などから古墳時代以降と判断される。倉庫跡であろうか。

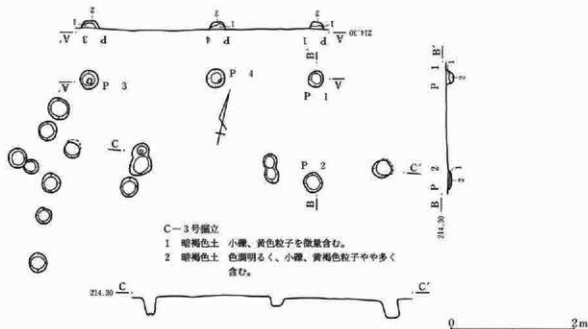
#### C-3号掘立柱建物跡 (第625図、PL-87)

位置 Ci-42・43 形状 不明。不規則な並びの柱穴群である。



第624図 C-1、2号掘立

第3章 検出された遺構と遺物



第625図 C-3号掘立

規模 不明

重複 西側で273号住居跡とわずかに重複。先後関係は不明。

所見 掘立柱建物跡として調査を行い、調査後検討を加えたが、北側列はほぼ直線的に並ぶものの、他の柱穴に関しては走行方向、柱間、などが不明瞭である上、複数の重複したものもある。近・現代のものも含まれているものと思われ、最終結果として建物跡としては認定できなかった。出土遺物はなく、時期は不明である。

C-4号掘立柱建物跡（第626図、PL-87）

位置 Co-35・36、Cp-36 形状 ほぼ南北に長い長方形

規模 3間×2間の長方形を呈す。桁行の柱間は西側はいずれも、1.7mであるのに対し、東側については中央が約1.4mと若干狭く、反対に両側は2.1mとやや広がっている。梁行の柱間は1.8~2.1mである。各柱穴の径は50~30cmで、深さは20~30cmである。

所見 調査区東壁寄りに検出された。かなり遺存状態は良好である。東辺、南辺列部分は弥生時代の住居跡覆土中にある。また北西隅部分が6号掘立柱建物跡と重複しているが、両者の先後関係は不明である。出土遺物はなく、時期は238号住居跡（平安時代）を切って建てられていることから、平安時代以降であると思われる。

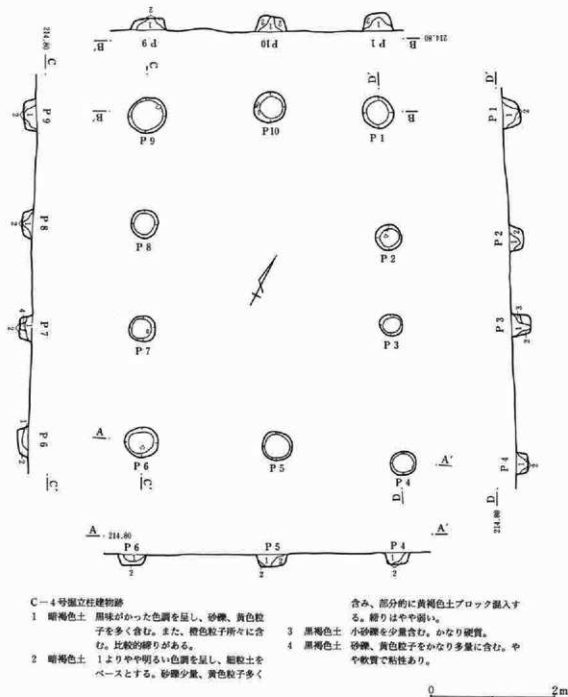
C-5号掘立柱建物跡

位置 Cb、Cc-28 形状 不明

規模 全体の規模は不明。柱穴の径は20~30cmで深さは30cm程である。

重複

所見 検出した柱穴は3本で、他の遺構に重複した柱穴に関しては確認できなかった。このため正確な形状、規模は不明である。検出した3号と同様掘立柱建物跡とするにはやや疑問も残る。



C-4号掘立柱建物跡

- |  |   |
|--|---|
| <p>1 暗褐色土 黒味がかった色調を呈し、砂礫、黄色粒子を多く含む。また、橙色粒子所々に含む。比較的締りがある。</p> <p>2 暗褐色土 1よりやや明るい色調を呈し、細粒土をベースとする。砂礫少量、黄色粒子多く</p> | <p>3 黒褐色土 小砂礫を少量含む。かなり硬質。</p> <p>4 黒褐色土 砂礫、黄色粒子をかなり多量に含む。やや軟質で粘性あり。</p> |
|--|---|

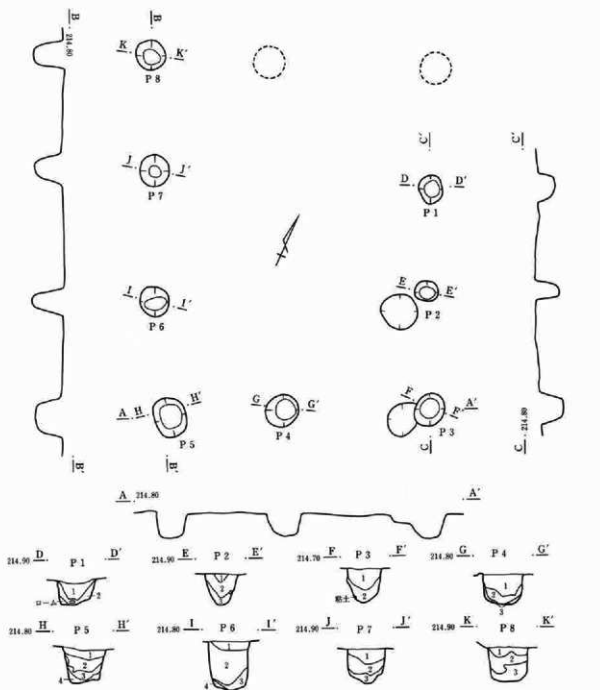
第626図 C-4号掘立

C-6号掘立柱建物跡 (第627図、PL-87)

位置 Co・Cp-36・37 形状 南北に長く、ほぼ長方形

規模 2間×3間、5.7×4.1mの長方形である。桁行の柱間は西側は中央部分がやや広く2.1m、両側は1.8mである。また東側は1.7~1.8mである。各柱穴は径40~50cmで、深さは50~60cmである。

重複 南東隅のピットの一部分が4号掘立柱建物跡と重複する。前後関係は明確にできなかった。また北列の東側2本については、267号住居跡(弥生時代)の覆土中であつたために、明確には検出し得なかった。



C-6号掘立柱建物跡

- 1 黒褐色土 小礫褐色、灰白色粒子含み締まる。
- 2 暗褐色土 小礫、黄色粒含む。小粘土塊散在。
- 3 黒褐色土 小礫含み、中平砂質。
- 4 黄褐色粘質土。

0 2m

第627図 C-6号掘立

所見 建物の規模および、柱穴の覆土は4号掘立柱建物跡ときわめて類似している。また周辺部に幾つかのビットが検出されているが、本址に伴うものか、また別の建物があるのかは確定できなかった。出土遺物はなく、時期は不明であるが平安時代以降であろう。

表2 掘立柱建物跡一覧表

番号	位 置	規模 (間×間)	主軸方位	備 考
1号	Ca・Cb-30・31	(2)×(3)	N-12°-W	東側、北側不明。
2号	Ce-29・30	1×1	N-0°	柱穴の掘り方がしっかりしている。
3号	Ci-42・43	(2)×(3)		不規則な並びのビット群。
4号	Co-35・36、C P-36	2×3	N-28°-W	6号掘立柱建物跡と北西部で重複。
5号	Cb-28、Cc-28	(1)×(2)		西側列のみ確認、不規則な並び。
6号	Co・C P-36・37	2×3	N-24°-W	4号掘立柱建物跡と南東部分で重複。

## 第4節 溝

### C-1号溝 (第629図)

位置 Cb・Cc-39 規模 ほぼ南北に走り、検出し得た長さは12m程である。幅60cm、深さ45cm。

所見 かなり砂質の地山土が含まれる、近世の耕作溝か。

### C-2号溝 (第630図、PL-87)

位置 Bt-32

規模 南端部よりやや西に振れて北に走る。約27mを検出した。幅は平均50cm程で、深さは10~20cmである。

所見 比較的浅く、一部に2から3条が並走している部分も見られる。覆土は礫を含む黒褐色土で、あまり締まりがない。出土遺物はほとんど無く、時期は明確ではないが、埋土、切り合い関係から中世以降、おそらく近世の所産と考えられる。

### C-3号溝 (第629図)

位置 Cc-38 規模 幅約60cm、深さは30cm程である。

所見 地山の礫を多く混入しており、かなり粗粒である。近世の耕作溝である。

### C-7号溝 (第629図、PL-87)

位置 Ce-27 規模 幅50cm、深さは25cm程で、検出した長さ約5m。

所見 調査区東壁に北側部分が掛かる。壁の掘り込みはほぼ垂直で、底は平らである。近世の耕作溝と思われる。また東側1m離れて同様な溝がごく一部ではあるが検出されている。

### C-8号溝 (第631図、PL-87)

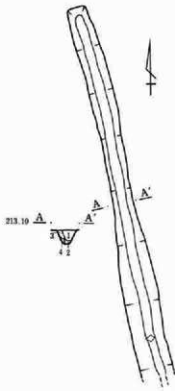
位置 Cb・Cc-27 規模 幅約1mで深さは50cm程である。

所見 南部分は調査区外となる。調査区の南東隅覆土上層に地山のローム小ブロックがかなり混入している。壁はかなり垂直に近い角度で掘り込まれている。出土遺物は若干の陶磁器片が見られた。時期は近世以降と思われる。



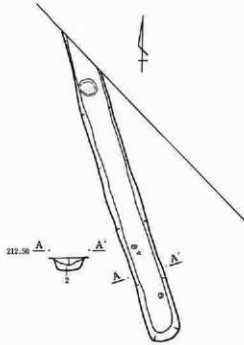
第628回 溝全体図





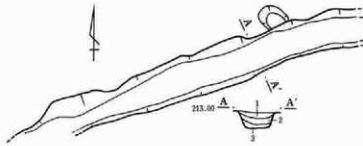
C-1号溝

- 1 暗褐色土 地山土に黒褐色土が混入、流れ込みか。
- 2 暗褐色土 地山主体ラミナ状堆積、細粒土、黒褐色土混入。
- 3 黒褐色土 締り良く、粘性なし。ラミナ質の地山土を含む。
- 4 暗褐色土 締りなく、粘性なし。2に近似。



C-7号溝

- 1 黒褐色土 砂利、小礫多く混入。褐色土塊、灰白色粒子混入。
- 2 黒褐色土 砂利、小礫が多く混入。褐色土塊も若干見られ遊状を呈す。

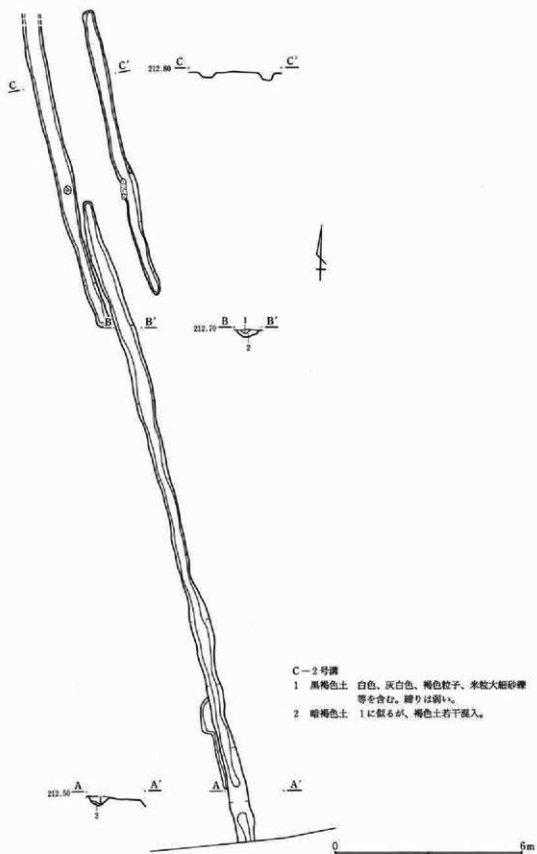


C-3号溝

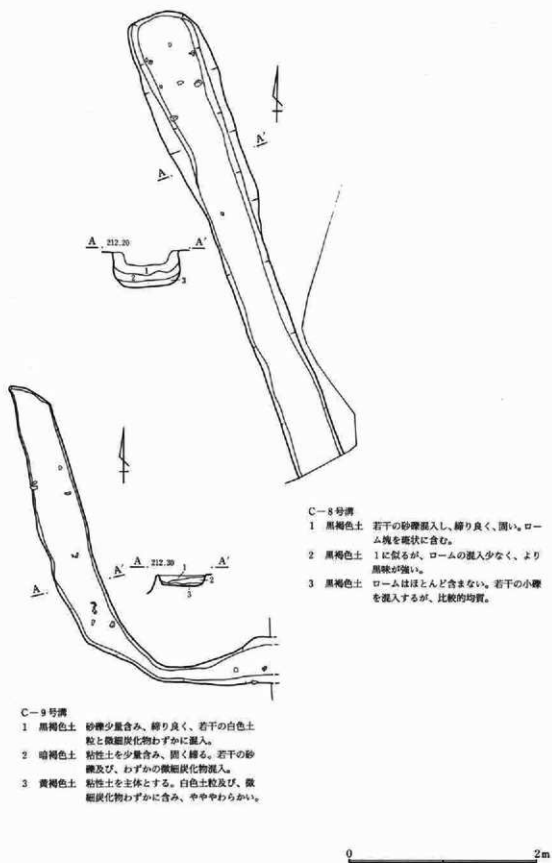
- 1 褐色土 締りあり、粘性なし。暗褐色土と地山土がほぼ水平に薄く堆積。
- 2 暗褐色土 締りあり、粘性なし。微小礫、地山土を含む。
- 3 黄褐色土 地山土を主体とし締りあり、粘性なし。

0 2m

第629図 C-1、3、7号溝



第630図 C-2号溝



第631図 C-8、9号溝

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### C-1号溝 (第631図、PL-87・88)

**位置** Cd-28 **規模** 検出した長さはおよそ7mで、最大幅は80cm、深さは20cmである。

**所見** かなりカーブしており、部分的に狭まる部分が見られる。あまり深くない。覆土は砂粒含み、若干のロームおよびわずかの炭化物が見られ、全体に締まりは良い。若干の礫、土器片が出土している。時期は弥生、ないしは古墳時代と思われるが確定的ではない。また性格等についても不明である。

表3 溝一覧表

番号	位 置	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	断面形状	走 向	備 考
1号	Cb・Cc39	6.0	0.31	0.23	蒲葺状	北→南	近世の耕作溝か。
2号	Bt32→Ce34	27.0	0.6	0.32	浅いU字状	北→南	近世。部分的に2条走る。
3号	Cc37・38	6.0	0.56	0.28	浅いU字状	東→西	近世の耕作溝。
4号	欠番						1号方形周溝墓。
5号	#						#
6号	#						#
7号	Ce27	5.0	0.50	0.20	U字状	北→南	近世の耕作溝か。
8号	Cb・Cc27	8.0	1.03	0.60	U字状	北→南	近世の耕作溝か。
9号	Cd28	約7.0	0.70	0.20	U字状	北→南	古墳時代か。緩く曲がる。

## 第5節 配石・古墓・道状遺構

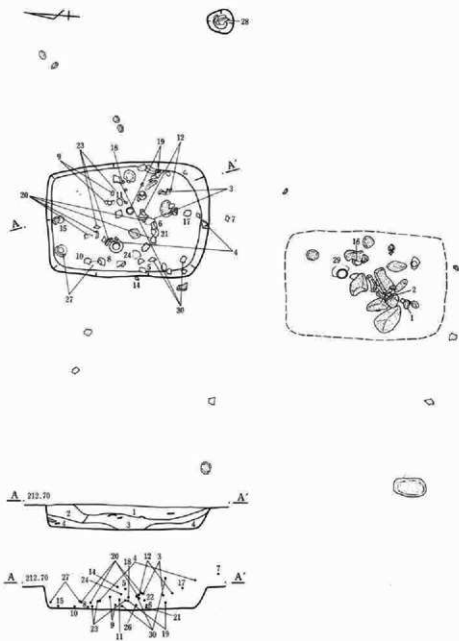
#### C-2号配石 (第632～634図、PL-88・151・152)

**位置** Cc-35 **形状** 長方形 **規模** 長辺1.8m、短辺1.2m、深さ0.25m

**所見** 若干の礫の散布と土師器片が検出されていたが、明確な範囲、掘り込み等が確認されなかったために、石、および土器の分布範囲を含めて2号配石として処理していた。後日、周辺部分を精査した結果、本遺構の掘り込みを確認し、南側約2mほどの所に礫、土師器片を伴う土坑の痕跡が確認され、この土坑に関しても2号配石と同様な遺構であったと判断された。このことから、この土坑を含め2号配石として扱うこととした。

検出された土坑は長軸をほぼ南北方向にとる長方形で、壁はやや斜めに立ち上がる。南東コーナーがやや張り出した形となる。56号住居跡(弥生時代)の南端部分に重複している。土坑の規模は長辺1.8m、短辺が1.2m、深さ0.25m程で、小礫を含む黒色土で埋まっていた。出土遺物は礫に混じり土師器の坏、埴等が約30点出土している。これらの土器の中には、二次的な火熱を受けていると思われるものも見られた。

本址の明確な性格等は明らかでないが、祭祀的な意味を持つ遺構と思われ、時期は出土遺物から11世紀代と考えられる。

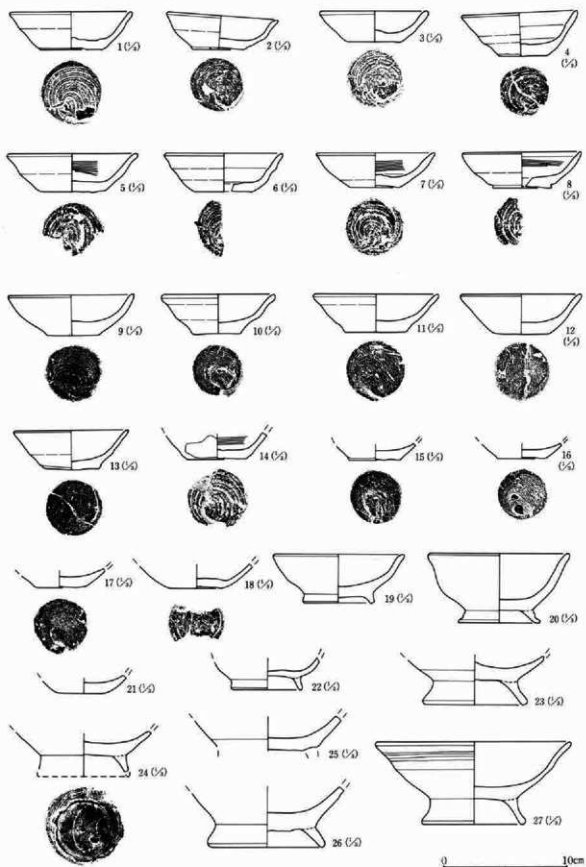


C-2号配石

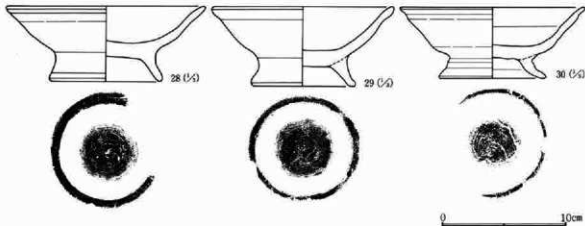
- 1 黒褐色土 砂礫含み、若干の粘性土ブロック混入。
- 2 黒褐色土 砂礫含み、黄色の礫目立つ。1より締る。
- 3 黒褐色土 1似るが、粘性土の混入少なくやや軟質。
- 4 黒褐色土 砂礫及び、若干の粘性土を含む。やや軟質。

第632図 C-2号配石

第3章 検出された遺構と遺物



第633図 C-2号配石出土遺物(1)



第634図 C-2号配石出土遺物(2)

C-2号配石遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	土坑外	9.8 4.8	3.0	砂粒含む	茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
2	土師器 坏	土坑外	8.9 4.1	2.8	砂粒含む	茶褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	ほぼ完形
3	土師器 坏	+7	8.7 4.1	2.4	砂粒含む	茶褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	
4	土師器 坏	+5	9.2 3.8	3.4	砂粒含む	茶褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	
5	土師器 坏	+11	10.5 4.8	3.1	砂粒含む	淡褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	
6	土師器 坏	+3	9.5 4.6	3.0	砂粒含む	茶褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	
7	土師器 坏	+7	9.4 4.0	2.7	砂粒含む	茶褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	
8	土師器 坏	+2	(9.5) 4.8	2.9	砂粒含む	茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
9	土師器 坏	+3	(10.0) 4.2	3.1	微砂粒含む	淡褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
10	土師器 坏	底面	(9.0) 3.8	(3.0)	砂粒含む	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
11	土師器 坏	+5	(10.0) 4.8	3.0	微砂粒含む	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
12	土師器 坏	+8	(9.8) 4.0	3.1	微砂粒含む	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
13	土師器 坏	覆土	9.2 4.4	3.1	微砂粒含む	明黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
14	土師器 坏	+12	4.1		砂粒含む	暗茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	底部のみ 外面に塗層付着
15	土師器 坏	+11	4.1		微砂粒含む	明黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	底部のみ
16	土師器 坏	土坑外	4.0		微砂粒含む	淡茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	底部のみ
17	土師器 坏	+11	4.0		砂粒含む	淡茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	底部のみ
18	土師器 坏	+7	4.1		砂粒含む	茶褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	底部のみ
19	土師器 埴	+4	(11.0) 5.5	3.8	精製	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後製で、付け高台	
20	土師器 埴	+3	(11.2) (6.5)	(5.3)	砂粒含む	灰褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	ほぼ完形

### 第3章 検出された遺構と遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
21	土師器 坏	+1	4.0	微砂粒含む	灰黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	器面やや摩滅している 底部のみ
22	土師器 埴	+5	6.0	微砂粒含む	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後撫で、 付け高台	
23	土師器 埴	+2	8.2	砂粒含む	淡黄褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	
24	土師器 埴	+9		微砂粒含む	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後撫で、 付け高台	
25	土師器 埴	覆土		精製	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後撫で、 付け高台	高台部欠く
26	土師器 埴	+3	9.0	精製	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後撫で、 付け高台	高足高台
27	土師器 埴	+4	(15.6) 6.5 8.2	微砂粒含む	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後撫で、 付け高台	高足高台
28	土師器 埴	土坑外	(16.0) 5.8 (9.0)	微砂粒含む	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	高足高台
29	土師器 埴	土坑外	(14.8) 6.3 8.2	微砂粒含む	淡黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後撫で、 付け高台	高足高台
30	土師器 埴	+2	(14.6) 5.6 8.4	砂粒含む	茶褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高台	高足高台

#### C-1号古墓 (第635図、PL-88・152)

位置 Ct-47 形状 長方形

規模 長辺約50cm、短辺35cm、深さ約20cm。

所見 調査区の北端近く、Ds-103号住居跡(弥生時代)の南側覆土中に検出された。ほぼ長方形を呈す掘り込みが見られ、その中に正立した状態で灰軸の四耳壺(第635図)が埋設されていた。セクションの観察から、この長方形の掘り込み内の西よりに、土器を埋めるための径30cm、深さ20cm程の掘り込みが重複して掘られていると確認された。出土した四耳壺内には砂粒を含む土が詰まっており、若干の炭化物粒とともに少量の骨粉が検出されている。

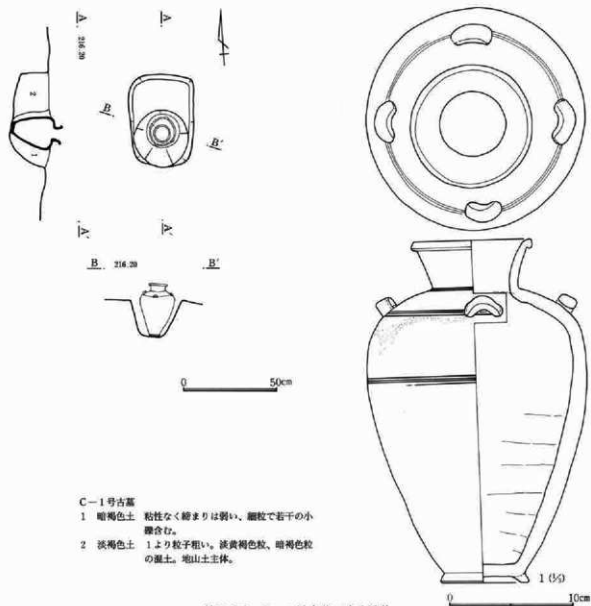
周囲には、本址に直接関連するような遺構は確認できなかったが、北側に接して東西に走る道状の遺構が、さらにその北側には上幅約6mを測る大溝が検出されている。この大溝はDS区のもの南端を東西に走り、西端部で直角に折れて北に走っている。時期は出土遺物などから14又は15世紀と考えられ、本址とのなんらかの関係が想起される。

出土した灰軸の四耳壺は完形で、時期は室町時代と考えられる。

#### C-1号古墓遺物観察表

番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高 底径 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	灰軸四耳 壺	底面	9.0 27.0 7.0	精製	灰緑色	堅致	ロクロ整形 自然輪か、外面 胴部 ロクロ引張、下部は横方向の機で	完形品



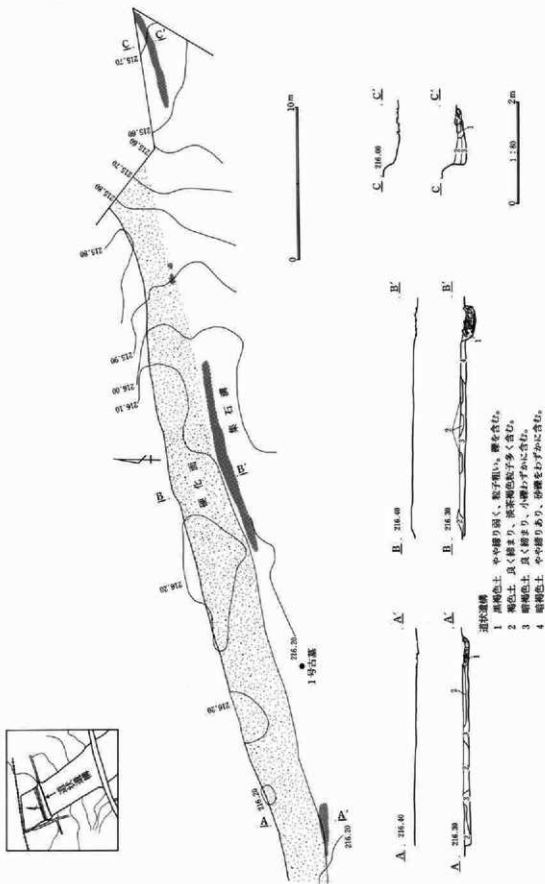


第635図 C-1号古墓・出土遺物

## 道状遺構 (第636図、PL-88・89)

調査区北側において検出された。幅約3m、長さ約50m程のやや堅く締まった部分が確認された。また本遺構の南側に沿って部分的に途切れてはいるが、小礫を敷き詰めた溝状遺構が伴っている。幅は60~80cmで道の面より10cm程低くなっている。礫の厚さは10~20cmで、それぞれの大きさは最大で20cm、平均7~8cmのものが大半を占める。礫は比較的角張ったものが目立つ。また所々に土器の混入が見られたが、本遺構に伴うものではないと判断される。

本址の走行は、ほぼ東西方向で、約10m北には幅4mの大溝がほぼ走行方向を同じくして検出されている。さらに本址の南に接したCt-47グリッドにおいて、室町時代と考えられる古瀬戸の四耳壺を伴う土坑墓が検出されている。本址の時期はこれらの遺構と関連するものと思われる、時期は室町、あるいは鎌倉時代と判断される。



遺状遺構

- 1 黒褐色土 やや締り弱く、粘土粗い。礫を含む。
- 2 褐色土 良く締まり、黒茶褐色粘土多く含む。
- 3 暗褐色土 良く締まり、小礫わずかに含む。
- 4 暗褐色土 やや締りあり、砂礫をわずかに含む。

第636図 遺状遺構

## 第6節 遺構外出土遺物

## 試掘トレンチ出土遺物 (第638・639図、PL-154)

南蛇井増光寺遺跡の調査を行うに際して試掘調査を実施している。調査方法は幅約2mのトレンチを南北方向に4本設定し、間には東西方向に適宜サブトレンチを設けた。この際出土した遺物について図示し、その所見を述べておく。ただし出土遺物の多くが明確な出土位置が確認できていないために、遺物については出土トレンチ毎のみの記載である。なお、調査時に出土した遺物は縄文時代から近世にわたっているが、掲載遺物は古墳時代以降に比定されるものである。638図13は脚付き鍋の脚部分である。県内では3例目で、北

に接する中沢平賀界戸遺跡においては、脚付きの小形羽釜が住居跡より出土している。

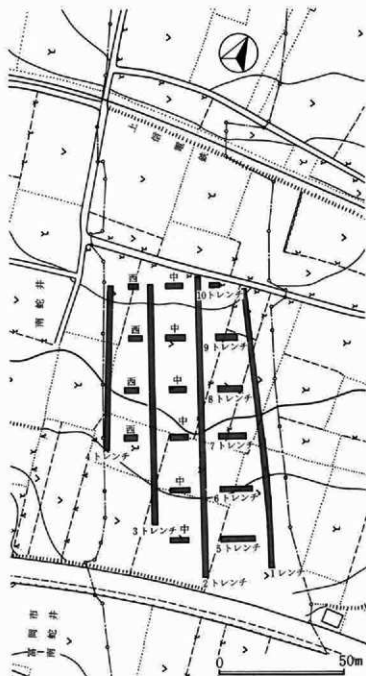
## グリッド出土遺物

(第640・641図、PL-152・153)

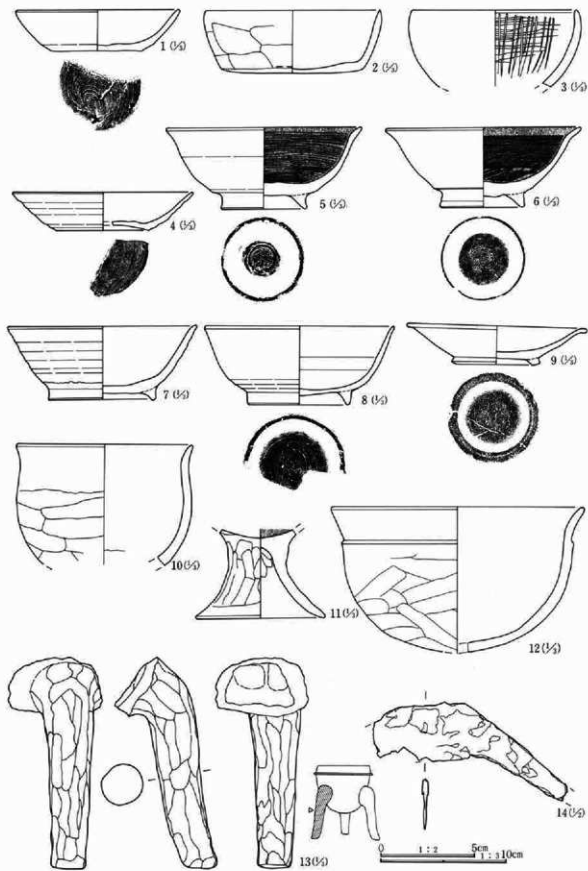
本遺跡は縄文時代から近世に至るまで、数多くの遺構が検出されている。また遺物についても相当量のものが遺構に伴い検出されている。

これらの遺物に関しては本文中において記述を行ってきたわけであるが、本項では、調査区内出土遺物の内、古墳時代以降に比定されるもので、遺構に伴わなかったものについて記載し、観察所見を述べることにする。

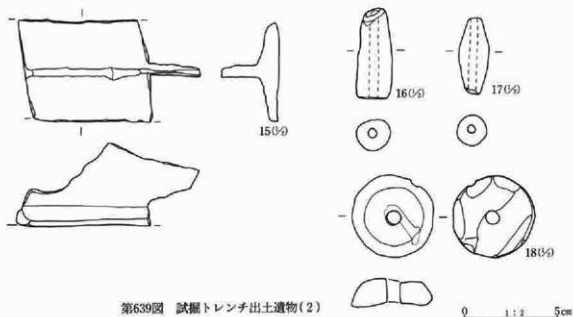
出土遺物は須恵器、土師器の坏・埴類が多く、その他の遺物としては、鉄斧、鎌、刀子、さらには土師が10点、白玉などが見られる。いずれも平安時代以降のものがほとんどで、この時期の遺構がレベル的に高い位置にあり、攪乱された結果と考えられる。



第637図 試掘トレンチ配置図



第638図 試掘トレンチ出土遺物(1)

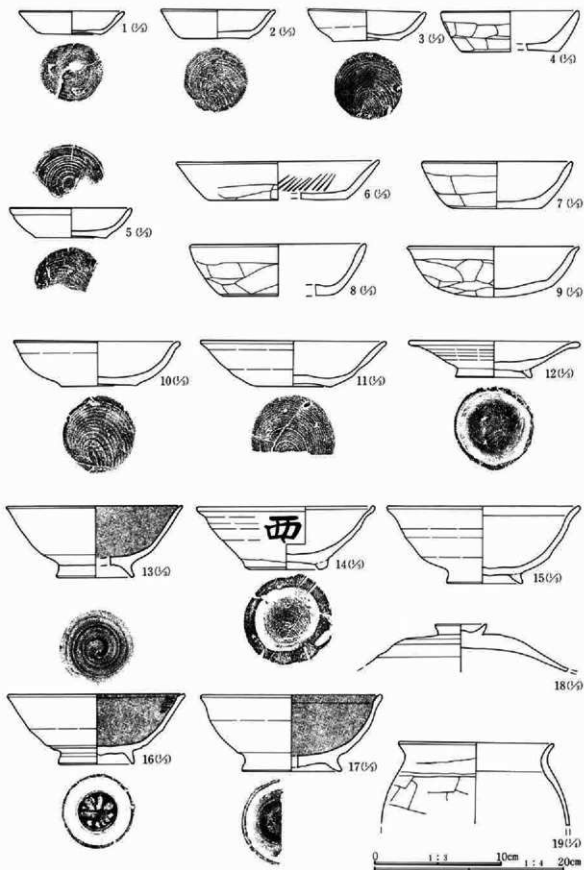


第639図 試掘トレンチ出土遺物(2)

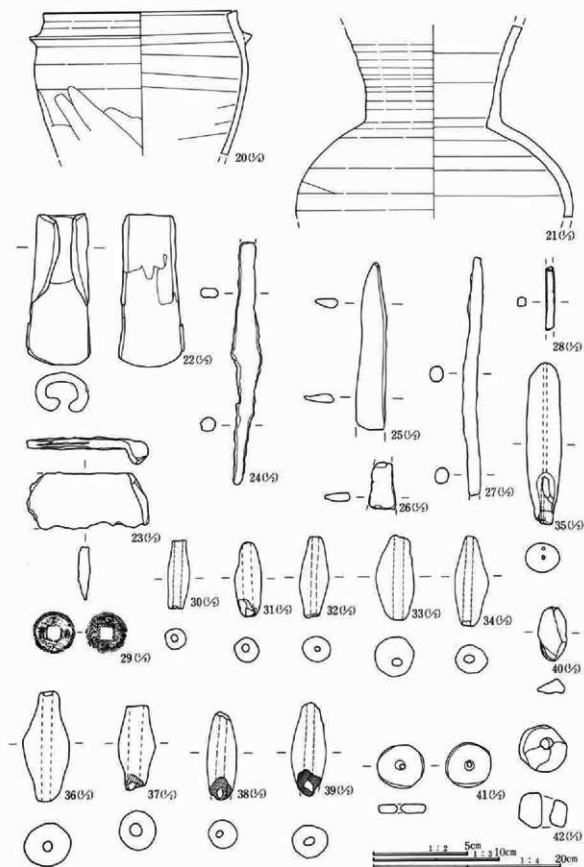
試掘トレンチ遺物観察表

番号	器種	出土位置	口徑 底径(cm)	器高 底径(cm)	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 埴	2区14ト レ	(13.0)	3.2 (7.0)	微砂粒含む	灰黒色	良	ロクロ整形 底部回転未切り	
2	土器 壺 埴	1区11ト レ	(13.9)	5.0	砂粒僅かに 含む	橙褐色	良	外 口縁部横撫で 体部削り 内 口縁部横撫で 体部削で	
3	土器 壺 埴	1区7ト レ	(13.0)		精製	淡茶褐色	良	外 口縁部横撫で 体部削り 内 口縁部横撫で 体部削で後蓋磨き	内面に放射状磨き 痕
4	須恵器 埴	2区14ト レ	(14.4)	3.0 (7.4)	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転未切り	
5	須恵器 埴	1区10ト レ	15.6 6.8	6.4	微砂粒含む	淡茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転未切り、付け高 台内面磨き	内面黒色処理
6	須恵器 埴	1区10ト レ	15.6 6.7	6.3	微砂粒含む	茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転未切り、付け高 台	内面黒色 蓋磨き痕 体部外面に油埋
7	須恵器 埴	1区8ト レ	(16.0)	5.8 (8.6)	砂粒含む	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転未切り、付け高 台	
8	灰釉 椀	1区8ト レ	(15.0)	6.2 (8.0)	微砂粒含む	灰白色	堅緻	ロクロ整形 底部回転未切り、体下部 削り、付け高 台	釉薬の掛かりは弱い
9	須恵器 壺	1区7ト レ	14.3 7.0	3.1	微砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 底部回転未切り、付け高 台	
10	土器 壺 埴	1区1ト レ	14.0		砂粒含む	茶褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部削り 内 口縁部横撫で 胴部削で	内面に煤付着
11	土器 壺 高 埴	1区8ト レ	10.4		砂粒含む	淡茶褐色	良	胴部外面 削り、内面削で 埴部 磨き	埴部内面黒色処理 埴部を欠く
12	土器 壺 広口 埴	2区17ト レ	20.0 (11.5)		微砂粒含む	灰黄褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部削り 内 口縁部横撫で 胴部削で	広口
13	脚付 羽蓋	1区10ト レ	長さ17.5 幅4.0		砂粒含む	暗褐色	良	棒状で蓋による整形、胴部との接合 部内面には指押さえ痕	脚部 接地部は平 坦、外面接合部に煤
14	鎌	3区14ト レ	長さ10.4cm 幅3.2cm 厚さ0.3cm 重さ18.6g					ゆるく「く」の字に折れ曲がる	
15	鉄製品	2区18ト レ	長さ9.8cm 幅5.4cm 厚さ4.3cm 重さ23.8g					不明品	
16	土 鉢	1区1ト レ	長さ4.8cm 径1.8cm 重さ16.2g					淡茶褐色を呈す	
17	土 鉢	1区8ト レ	長さ(4.1)cm 径1.6cm 重さ7.9g					灰白色を呈す 一端部を欠く	
18	紡錘車	1区9ト レ	径4.3cm 高さ1.5cm 孔径0.7cm 重さ46.3g					磨耗が著しい 滑石製	

第3章 検出された遺構と遺物



第640図 グリッド出土遺物(1)



第641図 グリッド出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

グリッド遺物観察表

番号	器種	出土位置	口径 底径 (cm)	器高	胎土	色調	焼成	成形の特徴	備考
1	土器器 環	ct-54	(8.4)	1.8	微砂粒含む	黄褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り	
2	土器器 環	cg-45	(9.2)	2.2	微砂粒含む	淡褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	ほぼ完形
3	土器器 環	ci-48	9.4	2.3	微砂粒僅かに含む	茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
4	土器器 環	cg-41	(11.0)	3.2	微砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
5	土器器 環	ch-46	(9.8)	2.3	微砂粒含む	淡茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
6	土器器 環	cg-41	(16.2)	3.0	微砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 体部削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後磨き	内面に螺旋、放射状 磨き痕
7	土器器 環	cg-41	12.0	3.7	微砂粒僅かに含む	淡黄褐色	良	外 口縁部横撫で 体部削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	ほぼ完形
8	土器器 環	cl-38	(14.0)		微砂粒含む	淡黄褐色	普通	外 口縁部横撫で 体部削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	表面ざらつく
9	土器器 環	cc-43	(13.8)	4.0	砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 体部削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
10	土器器 環	cg-49	13.4	3.5	微砂粒含む	淡褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	
11	須恵器 環	cs-43	(14.8)	3.6	精製	灰白色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り	内面底部磨耗
12	須恵器 皿	cq-49	(13.7)	2.8	砂粒含む	灰黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り後撫で、 付け高台	
13	須恵器 埴	ck-48	(14.1)	5.6	微砂粒含む	淡黄褐色	普通	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高 台	内面磨き 黒色結 晶
14	須恵器 埴	ce-41	(14.0)	5.0	微砂粒含む	灰黄褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高 台	体部外面黒書「西」
15	須恵器 埴	cb-42	(15.4)	6.1	微砂粒含む	淡茶褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高 台	
16	須恵器 埴	cq-49	(14.2)	5.5	微砂粒含む	淡褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高 台、内面磨き	底面に押圧痕 内面 黒色処理
17	須恵器 埴	ci-48	(14.5)	6.0	微砂粒含む	灰褐色	良	ロクロ整形 底部回転糸切り、付け高 台	内面磨き 黒色
18	須恵器 蓋	cf-44	幅み径4.1		砂粒含む	灰色	良	ロクロ整形 外面天井部削り	口縁部を欠く
19	土器器 壺	co-47	(16.6)		砂粒含む	淡褐色	良	外 口縁部横撫で 胴部削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
20	須恵器 羽蓋	cf-45	20.6		砂粒含む	灰黄色	良	ロクロ整形 口縁部横撫で 外面削下 半部削り 内面撫で	
21	灰釉土 壺	ck-40			微砂粒含む	灰緑色	堅致	ロクロ整形 胴部以下横方向の削り 内面口ク口水引痕	
22	鉄 弁 表掘		長さ8.0cm 幅2.8cm 厚さ2.0cm 重さ83.2g					袋部はやや丸みを持つ、完形	
23	鐵	CR-41	長さ6.4cm 幅2.9cm 厚さ0.8cm 重さ31.4g					厚味のある基部片	
24	刀 子	cq-50	長さ12.8cm 幅1.6cm 厚さ0.7cm 重さ23.4g					錆化著しく先端部を欠く	
25	刀 子	cq-43	長さ8.9cm 幅1.6cm 厚さ0.5cm 重さ15.2g					刃部先端部	
26	刀 子	CR-41	長さ2.5cm 幅1.4cm 厚さ0.5cm 重さ2.5g					刃部小破片	
27	棒状製品	CR-41	長さ12.7cm 径0.8cm 重さ15.8g					紡錘車の軸棒か	
28	釘	cg-41	長さ3.3cm 幅0.4cm 厚さ0.5cm 重さ1.8g					両端部を欠く	
29	古 銭	CS-46	径2.2cm 寛永通寶						



## 第6節 遺構外出土遺物

番号	器種	出土位置	口径 器高 底径(cm)	胎土	色調	構成	整形形の特徴	備考
30	土 罎	cg-42	長さ(3.7)cm 径1.2cm 重さ4.6g	赤茶褐色	一端部を欠く	やや縮身		
31	土 罎	cp-49	長さ4.0cm 径1.9cm 重さ6.9g	黒色を呈す	一端部を僅かに欠く			
32	土 罎	co-49	長さ(4.2)cm 径1.6cm 重さ8.2g	灰黒色を呈す	一端部を欠く			
33	土 罎	表探	長さ4.4cm 径2.0cm 重さ16.6g	灰褐色を呈す	一端部を僅かに欠く			
34	土 罎	cj-45	長さ4.8cm 径1.8cm 重さ10.1g	淡黄褐色を呈す				
35	土 罎	cr-47	長さ8.6cm 径1.8cm 重さ26.6g	灰褐色を呈し、	やや雑な作り	孔は極めて小さく、未通孔あり		
36	土 罎	調査区西	長さ5.8cm 径2.5cm 重さ24.2g	黒色を呈す	中央部分のふくらみ強い			
37	土 罎	cp-49	長さ4.5cm 径2.0cm 重さ12.6g	黄褐色を呈す	孔径やや大きめ			
38	土 罎	co-50	長さ4.7cm 径1.6cm 重さ10.2g	淡褐色を呈す	一端部を僅かに欠く			
39	土 罎	cj-46	長さ(5.0)cm 径2.0cm 重さ13.0g	黄褐色を呈す	一端部を欠く			
40	滑石片	cp-38	長さ2.8cm 幅1.5cm 厚さ0.8cm 重さ3.7g					
41	有孔円盤	cd-32	径2.4cm 厚さ0.6cm 孔径0.6cm 重さ4.0g		孔の断面形状を呈す	流紋岩質凝灰岩		
42	白 玉	cb-29	径1.3cm 高さ0.9cm 孔径0.4cm 重さ2.2g			滑石製		

## 第3章 検出された遺構と遺物

表4 古墳・奈良・平安時代住居跡一覧表 (C区) (抜番号は編文・弥生時代)

住居番号	グリッド位置	形状	規模 (m)			面積 (㎡)	主軸方位	竈		柱 穴	出土遺物	時代			
			長さ	短辺	壁高			位置	長さ						
1	Cg-35-36	不定方形	2.60	2.60	0.17	6.50	N-77°-E	東	0.63	0.34		土師器環	平安		
4	Cc-41	隅丸長方形	3.65	3.03	0.25	11.62	N-72°-E	東	0.68	0.49		墨書土器	平安		
5	Cb-Cc-40	隅丸方形	4.95	4.88		23.05	N-70°-E	東	0.95	0.52			平安		
7	Cd-40-41	隅丸方形	5.50	5.23	0.64	28.37	N-13°-W	北	0.75	0.42	4		古墳		
11	Ce-Cf-39-40	隅丸方形	5.02	4.62	0.26	22.28	N-9°-E	北	0.59	0.38	3		古墳		
12	Cf-35	隅丸方形	3.90	3.50	0.48	13.81	N-22°-W	北	1.81	0.39	1	北東	須恵器長頸壺	古墳	
16	Cf-g-34	隅丸方形	5.60	5.41	0.17	29.26	N-0°	北	0.75	0.37	4		古墳		
17	Ce-Cf-34	隅丸方形	5.17	4.86	0.24	24.32	N-11°-E	北	0.59	0.36	4	北東		古墳	
19	Ce-Cf-35-36	隅丸方形	4.72	4.57	0.24	(21.03)	N-4°-W	北	0.75	0.37			景玉、礫状土製品	古墳	
24	Cf-33-34	隅丸方形	3.80	3.52	0.15	13.73	N-80°-E	東	0.36	0.59				平安	
26	Cb-Cc-36	隅丸長方形	5.44	4.67	0.56	(24.97)	N-2°-W	北	1.22	0.40	4	北東	白玉7	古墳	
29	Bt-Ca-35-36	隅丸方形	5.07	5.06	0.45	25.74	N-20°-W	北	0.98	0.33	4	北東		古墳	
32	Cc-Cd-37	隅丸方形	4.94	4.88	0.27	22.89	N-8°-E	北	1.10	0.31	4	北東		古墳	
35	Cc-Cd-36	隅丸方形	5.41	5.11	0.41	27.14	N-87°-E	東	0.91	0.39	4	南東		古墳	
36	Ce-Cf-41-42	隅丸方形	4.42	4.10	0.54	17.63	N-11°-W	北	1.66	0.35	4	北東	土師2	奈良	
40	Cd-42	隅丸方形	3.83	3.78	0.48	14.31	N-80°-E	東	0.99	0.54				古墳	
41	Cb-31	隅丸長方形	2.92	2.88	0.23	8.49	N-80°-E	東	0.82	0.40		南東		平安	
42	Cf-31	隅丸方形	5.00	4.97	0.40	24.41	N-14°-W	北	1.52	0.65	4	北東		古墳	
43	Cb-Cc-35-36	隅丸方形	3.95	3.71	0.53	14.77	N-14°-E	北	1.13	0.38	4	北東		古墳	
45	Bs-35-36	不明	4.86			0.67	10.28	N-15°-W	北	1.84	0.31	(2)	北東	土師1	古墳
48	Ca-Cb-30	隅丸方形	4.58	4.41	0.57	19.87	N-4°-W	北	1.1	0.35		北東	土玉1	古墳	
49	Ca-Cb-34-35	隅丸方形	4.54	4.10	0.83	18.85	N-30°-W	北	2.0	0.37	4	北東	菅玉1	古墳	
51	Cb-28-29	隅丸方形	4.69	4.21	0.50	19.33	N-10°-W	北	1.61	0.47	4	北東		古墳	
55	Cc-34-35	隅丸長方形	4.41	3.97	0.55	13.40	N-81°-E	東	1.16	0.40		南東		古墳	
58	Ca-Cb-32	隅丸方形	3.26	2.75	0.23	8.86	N-70°-E	東	0.72	0.46		南東		古墳	
61	Cg-Ch-31-32	隅丸方形	4.64	4.62		21.24	N-24°-W	北	0.95	0.37				古墳	
62	Ch-Ci-Cj-31-32	隅丸方形	8.0	7.78	0.26	(45.17)	N-4°-W	北	1.70	0.57	4	北東		古墳	
63	Cg-Ch-30-31	隅丸方形	4.79	4.74	0.34	22.61	N-18°-W	北	1.23	0.25	4	北東		古墳	
66	欠番														
67	Cf-Cg-32-33	隅丸方形	4.82	4.73	0.36	(22.06)	N-7°-W	北	0.72	0.5	4	北東	土製紡錘車	古墳	
69	Cf-Cg-32	隅丸方形	3.67	3.44	0.33	12.36	N-77°-E	東	1.0	0.35		南東		平安	
70	Cf-29-30	隅丸方形	5.37	4.88	0.45	25.75	N-86°-E	東	1.61	0.50	4	南東		古墳	
74	Ca-Cb-28	不明	5.78	(1.50)	0.25	7.96	N-20°-W	北	0.98	0.37				古墳	
78	Cb-29-30	隅丸方形	3.72	3.13	0.53	11.33	N-4°-W	北	0.68	0.48		北東	砥石1 滑石片	古墳	
84	Cb-Cc-33	隅丸方形	4.44	4.41	0.49	19.34	N-16°-W	北	1.26	0.55	4	北東	白玉4	古墳	
85	Cb-Cc-33	隅丸方形	4.70	4.42	2.90	20.61	N-4°-W	北	0.35	0.45	4	北東		古墳	
90	Cg-Ch-40-41	隅丸方形	4.82	4.42		21.32	N-66°-E	東	0.74	1.0			土師1	平安	
92	Cc-Cd-32	隅丸方形	5.08	5.0	0.57	24.49	N-13°-W	北	1.54	0.4	4	北東		古墳	
98	Ce-Cf-28-29	隅丸方形	4.34	4.24	0.42	17.68	N-23°-W	北	1.24	0.48	4	北東		古墳	
99	Cg-31	隅丸長方形	2.7	0.1	(9.53)		N-78°-E				3		古墳		
102	Bt-Ca-41	不明	5.13		0.61	(25.46)	N-66°-E	東	1.1	0.45				平安	
103	Ca-Cb-42	不明	4.25		0.23	13.06								平安	
105	Cd-34-35	隅丸長方形	4.56	3.25	0.36	14.78	N-0°	北	1.67	0.46		北東		古墳	
106	Cd-34-35	隅丸方形	5.98	5.46	0.45	32.03	N-9°-W	北	1.17	0.46	4	北東	土製紡錘車	古墳	

## 第6節 遺構外出土遺物

出目 番号	グリッド位置	形 状	規 模 (m)			面 積 (㎡)	主軸方位	電		柱 穴	貯 蔵 穴	出 土 遺 物	時 代
			長 辺	短 辺	壁 高			位置	長さ				
107	Ca・Cb-42	不明	2.83			2.86	N-68°-E	東	0.83	0.48			平安
109	Cc-43	不明	2.68			4.52	N-56°-E	東	0.66	0.3		無し	奈良
110	Ch-42-43	不明	3.11		0.3	5.44	N-73°-E	東	0.94	0.45			平安
111	Bt-41	不明	3.46		0.58	(11.83)	N-57°-E	東	0.7	0.42			古墳
112	Cd-39-40	隅丸方形	2.78	2.56	0.07	6.72	N-93°-E	東	0.52	0.55			平安
113	Ca-42	不明			0.17	4.27							平安
117	欠番												
119	Ch-Cc-42-Cc-43	隅丸長方形	5.12	3.56	0.35	17.72	N-31°-W					墨書土器「林」	平安
120	Cr-50-51	隅丸長方形	5.2	3.51	0.33	17.98	N-0°	北	0.66	0.82			奈良
121	Co-Cp-90	隅丸方形	4.84	4.55	0.32	21.03	N-88°-E	東	0.5	0.75	南東	土器4、瓶用磁	平安
122	Co-Cp-49	隅丸方形	4.53	3.63	0.48	16.22	N-90°-E	東	0.69	0.37		墨書土器「朝」	平安
123	Cm-48-49	隅丸方形	4.43	4.11	0.25	18.34	N-91°-E	東	0.69	0.75		花瓶	平安
124	Ci-45	隅丸方形	4.75	4.50	0.20	20.36	N-25°-W	北	0.86	0.35		紡錘車、磁石	古墳
125	Ca-Co-49-50	隅丸方形	5.31	4.64	0.20	24.17	N-78°-E	東	0.58	0.54		刀子、土罐	平安
126	Ch-46	不明	3.29		0.30	6.55	N-6°-W	北	0.33	0.27			古墳
127	Cl-Cm-46-47	隅丸方形	5.75	5.44	0.36	30.00	N-79°-E	東	0.50	0.45	3 南東		古墳
128	Ck-48	不明	4.12		0.46	9.35	N-18°-W	北	1.30	0.21	3 南東		古墳
129	Co-48	隅丸長方形	5.83	5.14		29.11	N-3°-E	北	0.54	0.24	5 南東	紡錘車、土製品	古墳
130	Cp-Cq-51	隅丸方形	4.97		0.39	19.23	N-19°-W	北西	1.23	0.82	3 北		奈良
131	Cp-51	不明	4.86		0.51	4.17	N-25°-W			2 北			古墳
132	Ci-Cj-47	隅丸方形	4.08		0.14	11.16	N-7°-W	北	1.50	0.44	北		不明
133	Cj-Ck-46	隅丸方形	4.20	3.27	0.36	12.93	N-91°-E	東	0.35	0.42			平安
134	Co-48	隅丸方形	3.37	2.71	0.28	8.84	N-29°-W						平安
135	欠番												
136	Ch-Ci-45-46	隅丸方形	3.61	2.76	0.27	10.35	N-8°-W	北	0.58	0.17			古墳
137	Cl-Cm-47-48	隅丸方形	5.20	4.80	0.30	(25.37)	N-17°-W	北西	0.74	0.43	4 北		古墳
138	Cm-Cn-48-49	隅丸方形	3.80		0.22	(14.43)	N-8°-W	北	0.26	0.26			古墳
139	Co-49	不明	4.45		0.25	(9.17)	N-94°-E	東	0.72	0.27			不明
140	Cj-45-46	不明					N-91°-E	東	0.76	0.37			不明
141	Ci-Cj-46	140と同一	6.80		0.27	(30.37)	N-0°					土師	古墳
142	Cm-Cn-48-Cn-49	不明			0.27		N-75°-E	東	0.84	0.32			平安
143	Cp-49	不明	0.08		(12.63)		N-75°-E	東	0.56	0.70			不明
144	Ch-46	不明											不明
145	Cq-Cr-51	隅丸方形	4.69		0.23	(20.17)	N-16°-W	北	0.49	0.19	4 北		古墳
146	Ct-52-53	不明	4.73		0.19	12.88	N-85°-E	東	0.64	0.42	2 東	須恵器蓋	古墳
147	Cp-Cq-49-50	不明	5.92	4.55	0.28	(26.61)	N-15°-W	北	0.46	1.70			奈良
151	Ck-Cl-47-48	不明											平安
153	Cq-49	隅丸長方形	4.34	3.33	0.26	(14.75)	N-16°-W	北	0.54	0.34	4 北東		奈良
154	Cp-49-50	隅丸方形	5.54	5.41	0.38	29.45	N-8°-W	北	0.53	0.52			古墳
155	Ct-41-42	隅丸長方形	4.18	3.66	0.25	12.16	N-12°-W	北	0.68	0.33	4		奈良
156	Ct-39-40	隅丸方形	4.77	4.45	0.41	21.06	N-10°-W	北	1.27	0.45	4	紡錘車	奈良
157	Cr-Cs-40-41	隅丸方形	4.48	4.20	0.46	18.54	N-11°-W	北	1.48	0.49	4		平安
158	Cr-Cs-43	隅丸長方形	4.75	3.74	0.41	18.58	N-85°-E	東	1.75	0.73	4 南東		奈良
159	Ce-Ct-42	隅丸方形	5.43	4.73	0.52	(24.83)	N-8°-W	北	1.12	0.39	4 北西	白玉2	古墳
160	Ce-44-45	不明	5.32		0.82	20.08	N-12°-W	北	1.65	0.35	4 北東	銅製鈴	古墳

第3章 検出された遺構と遺物

住居番号	グリッド位置	形状	規模 (m)			面積 (㎡)	主軸方位	竈			貯蔵穴	出土遺物	時代
			長辺	短辺	壁高			位置	長さ	竈床			
161	Ch-43	不明	3.62			6.17	N-42°-W						平安
162	Cd-Ce-36-37	不明	5.96		0.24	(21.66)	N-1°-W	北	0.64	0.27	(2)		古墳
167	Ch-45	隅丸方形	3.08	2.89	0.20	8.71	N-10°-E	南	0.78	0.37			平安
168	Cg-Ch-45	隅丸長方形	3.73	2.99	0.46	10.97	N-6°-W	北	1.58	0.32			奈良
171	Cf-43-44	隅丸方形	4.15	4.03	0.51	16.42	N-5°-W	北	1.55	0.44		北東	古墳
175	Cg-41-42	隅丸方形	3.61	3.12	0.21	11.06	N-83°-E	東	0.77	0.56			平安
177	Cg-Ch-44	隅丸方形	4.86	4.36	0.46	20.96	N-8°-W	北	1.37	0.43	3	北東	土師2 奈良
179	Cf-28	不明			0.81	2.39							古墳
181	Cc-27	不明			0.60	3.68							古墳
182	Cf-Cg-29	隅丸長方形		3.46	0.25	9.82	N-81°-E						奈良
183	Cg-Ch-30	隅丸方形	4.17	3.77	0.23	15.64	N-72°-E	東	0.45	0.45		南東	平安
184	Ce-Cf-29-30	不明	4.57				N-95°-E	東	1.00	0.75			平安
188	Cg-Ch-41-42	隅丸方形	5.19		0.25	21.95	N-81°-E					竈、土製品	平安
189	Cf-Cg-41	隅丸方形	(3.50)	(3.10)		(10.85)	N-93°-E	東					古墳
190	Cf-Cg-42-43	隅丸長方形	4.80	4.21	0.32	20.11	N-79°-E	1				鉄製紡錘車	平安
191	Ch-40	隅丸方形	3.72	3.14	0.18	11.73	N-17°-W	北	0.90	0.60		北東	奈良
193	Cg-Ch-42	隅丸方形	4.50	4.30	0.26	(19.19)	N-6°-E	北	0.70	0.32			平安
194	Cd-26	不明											古墳
195	Cg-43-44	隅丸方形	5.53	5.25	0.48	28.32	N-28°-W	北	1.45	0.35	3	北東	古墳
196	Ci-Cj-39-40	隅丸方形	4.77	4.75	0.18	22.03	N-17°-W	北	0.70	0.38	3	北東	古墳
209	Ci-34-35	隅丸方形	2.80	2.90		8.37	N-78°-E	東	0.60	0.60	1	南東	奈良
210	Ck-35-36	隅丸方形	3.33	3.15		10.45	N-70°-E	東	0.98	0.55		南東	平安
211	Cf-37	隅丸方形	4.28	4.16	0.35	17.76	N-16°-W	2				北東	平安
212	Ci-44-45	隅丸方形	3.42	3.38	0.18	11.35	N-5°-W	北	1.18	0.44			平安
214	Ci-Cj-41	隅丸方形	3.60	3.10	0.34	11.12	N-71°-E	東			4		平安
215	Ch-Ci-40	隅丸方形	4.92	4.27	0.18	(21.08)	N-4°-W	北	0.88	0.35			古墳
216	Ci-34	隅丸長方形	3.30	2.67	0.20	8.5	N-20°-W	北	0.63	0.42		北東	平安
217	Ck-Ci-35	隅丸長方形				(7.94)	N-9°-W						平安
219	Cm-Cn-35	隅丸長方形	3.20	3.01	0.43	9.82	N-20°-W	北	1.76	0.28		北東	平安
220	Cm-37	隅丸方形	4.83	4.23	0.32	19.65	N-12°-W	北	1.73	0.32			奈良
221	Cm-Cn-37	隅丸方形	3.30	3.25	0.23	10.58	N-15°-W	北	0.52	0.50			平安
222	Cg-Ch-43	隅丸方形	5.18	4.53	0.50	(23.28)	N-9°-W	北	1.70	0.36		北東	古墳
223	Cg-42-43	隅丸方形	2.54		0.19	6.64	N-21°-W	北	1.45	0.30			奈良
226	Cm-Cn-38	隅丸方形	4.26	4.16	0.11	17.09	N-18°-W						平安
228	Ci-Cj-41	隅丸長方形	4.13	3.20	0.17	(14.74)	N-70°-E	東	0.93	0.53	(3)		奈良
229	Ck-Ci-41-Ci-42	隅丸方形	4.88	4.48	0.14	21.73	N-15°-W	北		0.49	4		古墳
230	Ci-43-44	隅丸方形	4.69	4.31	0.50	20.17	N-28°-W	北	1.35	0.44	4	北東	古墳
233	Cm-Cn-34-35	隅丸方形	3.67	3.54	0.32	13.06	N-24°-W	北	1.10	0.44	4		古墳
235	Cn-37-38	隅丸長方形	4.61	3.70	0.32	17.30	N-71°-E	東	0.95	0.57		南東	平安
236	Ck-Ci-38	隅丸方形	4.12	3.89	0.15	16.56	N-75°-E	東	0.74	0.48		南東	平安
237	Ck-39-40	隅丸方形	3.72	3.46	0.10	12.89	N-113°-E	東	0.56	0.92			平安
238	Cn-Co-35	不明	4.98	4.50	0.65	11.47	N-3°-E				(2)		平安
239	Ck-41	隅丸方形	3.03	2.88	0.35	8.73	N-78°-E	東	0.84	0.4		南東	古墳
241	Cm-40-41	隅丸長方形	3.55	3.40	0.25	11.71	N-20°-W	北	1.30	0.45	2	北東	土師3 古墳
242	Ci-Cm-42	隅丸方形	5.11	4.52	0.21	22.87	N-28°-W	北	0.75	0.34	4	北東	土師、 古墳

## 第6節 遺構外出土遺物

住居番号	グリッド位置	形状	規模 (m)			面積 (m <sup>2</sup> )	主軸方位	電		柱穴	貯蔵穴	出土遺物	時代	
			長辺	短辺	壁高			位置	長さ					距離
243	C1-Cm-43+44	隅丸方形	5.52	5.48	0.16	29.56	N-17°-W	北	0.73	0.43	4	北東		古墳
244	Ck-36	不明	4.14			(15.19)	N-90°-E	東	0.48	0.75				平安
245	Cn-34	不明			0.65		N-21°-W							古墳
247	Cj-41+42	隅丸長方形	5.12	3.78	0.24	(19.62)	N-23°-W	北	0.70	0.35		北東		平安
248	Ck-Cj-37-38	不明	4.82			(19.15)	N-68°-E	東	0.82	0.40				奈良
249	Ck-41+42	隅丸方形	5.89	5.50	0.22	(31.04)	N-23°-W							古墳
250	Ck-Cj-38-39	隅丸方形	4.47	4.45	0.41	21.89	N-14°-W	北	0.86	0.70	4	北東		平安
251	Ci-40	隅丸方形	3.57	3.26	0.29	11.52	N-64°-E	東	0.72	0.70				平安
252	Ci-Cm-37-38	隅丸長方形	4.61	3.54	0.23	16.15	N-83°-E	東	0.95	0.70				平安
253	Cn-Cm-38-39	隅丸長方形	5.13	4.23	0.21	21.43	N-74°-E	東	0.90	0.78		南東	土師1	平安
254	Cn-39	隅丸方形	3.42	3.34	0.25	11.52	N-2°-E	北	0.90	0.40		北東	鉄線	古墳
255	Cn-40	隅丸方形	2.81	2.63	0.18	7.75	N-1°-W	北	0.80	0.31		北東		古墳
256	Cn-41+42	隅丸方形	5.18	4.95	0.40	25.12	N-10°-W	北	1.20	0.40	6	北東		古墳
257	Ck-40	隅丸長方形	4.23	3.17	0.56	13.89	N-21°-W	北	0.70	0.60	3	北東	須恵器環身	古墳
258	Ck-42	隅丸方形	4.28	4.03	0.30	16.46	N-18°-W	北	0.85	0.32	4	北東		古墳
259	Cm-44+45	隅丸方形	2.98	2.96	0.30	8.85	N-71°-E	東	0.65	0.50		南東		古墳
260	Cj-Ck-37-38	隅丸方形	5.26	4.95	0.23	(24.85)	N-35°-W	北	0.70	0.58	4	北東		古墳
264	Ck-Ci-40+41	不明	(2.61)	(2.10)		(7.06)	N-37°-W	北	0.80	0.40		北東		古墳
265	Cp-Cq-39	隅丸長方形	5.30	3.81	0.20	21.26	N-11°-W	北	2.38	0.65		北東		平安
266	Cq-36-37	不明	(3.89)											古墳
268	Cj-Ck-44	隅丸方形	3.93	3.71	0.06	14.32	N-72°-E	東	0.52	0.42		南東	土師2	平安
269	Ck-44+45	隅丸方形	4.26	4.18	0.28	16.89	N-11°-W	北	1.45	0.60	4	北東		古墳
271	Cj-45	不明	0.13		0.13	(20.33)	N-90°-E	東	0.85	0.43				奈良
272	Cj-Ck-45	不明					N-88°-E	東	1.00	0.70			土師	平安
273	Ci-Cj-43	隅丸方形	2.45	(2.10)	0.17	(7.76)	N-3°-W	北	0.85	0.37				古墳
274	Cr-39	隅丸長方形	4.53	3.60	0.27	16.66	N-82°-E					南東		奈良
276	Cj-Ck-45	不明			0.30	(28.00)	N-78°-E	東	0.82	0.79			土師	平安
278	Ci-42	隅丸長方形	3.30	2.0		(11.58)	N-58°-E	東	0.70	0.54				不明
279	Cn-37	不明					N-17°-W	北	0.70	0.57		北東		不明
280	Cm-Cn-37-38	不明	5.68	5.03	0.45	(30.38)	N-19°-W	北	1.77	0.37	4	北東		奈良
281	Cm-Cn-44	隅丸方形	3.90	3.53	0.14	13.21	N-15°-W	北	0.87	0.40				古墳
282	Ci-36-37	隅丸方形	4.70	4.27	0.33	20.80	N-15°-W	北	0.70	0.83				奈良
283	Cg-Ch-42	隅丸方形	5.66	5.28		29.33	N-12°-W	北	0.58	0.22				平安
284	Cr-38	隅丸長方形	3.90	3.18	0.37	12.04	N-76°-E	東	0.66	0.56		北東		古墳
285	Ci-38-39	不明					N-21°-W	北	1.00	0.50				古墳
286	Cm-Cn-44	不明					N-24°-W	北	0.65	0.37				平安
287	Cq-39+40	隅丸方形	5.42	4.75	0.39	26.00	N-3°-E	北	1.31	0.32	4	北東	白玉10、	古墳
288	Cj-Ck-45	隅丸長方形	6.22	4.67	0.23	(32.74)	N-13°-W	北	0.58	0.40	(2)	北東		古墳
289	Cq-39+40	隅丸方形	4.24	3.71	0.54	15.45	N-21°-W	北	1.87	0.60		北東		古墳
290	Cn-Co-37-38	隅丸方形	3.65	3.25	0.40	12.03	N-23°-W	北	0.62	0.35		北東	須恵器環	古墳
291	Cm-38	隅丸方形	4.02	4.00	0.80	15.85	N-18°-W	北	0.77	0.45		北東		古墳
292	Cj-45	不明	(3.44)	(2.0)	0.08	(14.42)	N-5°-W	北	0.50	0.45	(1)			不明
293	Ck-45+46	不明					N-10°-W	北	0.42	0.30				不明
294	Cq-Cr-38	隅丸方形	4.86	4.75	0.45	22.14	N-22°-W	北	0.78	0.31	4	北東	白玉、有孔円盤	古墳
295	Cr-Cs-38-39	隅丸長方形	4.66	3.33	0.53	15.53	N-10°-W	北	1.10	0.22		北東		古墳

第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号	グリッド位置	形状	規模 (m)			面積 (m <sup>2</sup> )	主軸方位	竪			柱穴	貯蔵穴	出土遺物	時代
			長辺	短辺	壁高			位置	長さ	数値				
296	Cm-37	不明	4.0	(3.42)		(14.36)	N-33°-W							奈良
298	Ck-C1-37	隅丸方形	4.20	(2.30)	0.40	(15.94)	N-16°-W	北	0.95	0.44				奈良
299	Cm-Cn-43+44	隅丸方形	5.85	5.30	0.50	28.73	N-76°-E	東	0.60	0.40		南東		古墳
301	Cm-Cn-37	隅丸方形	3.38	3.04	0.30	9.95	N-34°-W	北	0.57	0.58				奈良
302	C1-Cm-46	隅丸方形	4.57	4.52	0.12	20.17	N-86°-E	東	0.50	0.43		南東		平安
304	Cm-Cn-43	不明	5.24	(1.50)	0.10	(18.94)	N-0°	東	0.37	0.45				古墳
305	Cp-Cq-42-Cp-43	隅丸方形	4.71	4.35	0.29	21.01	N-21°-W	北	1.54	0.59	4	北東	手裡ね土器	古墳
306	Cm-45+46	不明	4.15		0.17	(22.61)	N-5°-E	北	1.05	0.52		北東		奈良
307	Cm-47	隅丸方形	2.55	2.36	0.44	5.85	N-18°-W						紡錘車	古墳
308	Cr-Ca-42	隅丸方形	3.38	3.24	0.13	10.97	N-77°-E	東	0.76	0.44		南東	刀子	平安
309	Cp-47+48	隅丸方形	3.42	3.35	0.15	11.48	N-89°-E	東	0.43	0.64		南東		平安
310	Cr-Ca-48	隅丸長方形	5.65	5.53	0.43	31.55	N-25°-W	北	1.85	0.18	4	北東	手裡ね土器、磨石	古墳
311	Cn-44+45	隅丸長方形	5.32	4.76	0.19	(24.67)	N-86°-E	東	0.62			北東	土鋪	平安
312	C1-37	隅丸方形	6.46	6.14	0.34	(39.52)	N-15°-W				4			奈良
313	Cp-43+44	隅丸長方形	4.34	3.67	0.07	(15.27)	N-79°-E	東	0.76	0.42		南東		平安
314	Cp-45+46	隅丸長方形	3.33	2.27		7.36	N-87°-E							平安
315	Cr-46	隅丸長方形	2.96	2.09	0.18	6.05	N-13°-W	北	0.46	0.19				平安
316	Co-Cp-43	隅丸長方形	4.90	4.63	0.50	22.67	N-4°-W	北	1.27	0.53	4	北東		古墳
317	Cm-Ca-45	隅丸方形	3.57	3.22	0.10	(10.85)	N-2°-W	北	0.45	0.40		北東		古墳
318	Cq-Cr-42	隅丸方形	4.87	4.70	0.53	22.18	N-5°-W	北	1.36	0.39	4	北東	紡錘車	古墳
319	Cp-44+45	隅丸方形	4.10	3.88	0.39	15.87	N-26°-W	北	1.24	0.36	4	北東		古墳
320	Cq-48	隅丸長方形	3.89	2.74	0.31	10.60	N-85°-E	東	1.01	0.35	4	南東		奈良
321	Cs-46+47	隅丸長方形	4.73	2.68	0.12	9.64	N-77°-E	東	0.46	0.44	4			平安
322	Cn-47+48	隅丸長方形	3.14	3.23	0.42	12.86	N-7°-W					南東		平安
323	Ca-39+40	隅丸方形	4.32	4.05	0.40	17.81	N-8°-W	北	0.98	4		北東		古墳
325	Cq-44	隅丸長方形	5.72	4.03	0.29	23.38	N-19°-W	北	1.20	0.65	4			奈良
326	Cr-41+42	隅丸方形	5.21	4.70	0.38	(25.52)	N-9°-W	北	1.90	0.45	(2)	北東	白玉	古墳
327	Cp-Cq-48+49	隅丸方形	3.38	3.14	0.28	10.42	N-9°-W	北	1.60	0.37	4	北東		古墳
328	Cp-44	隅丸方形か	3.10	(1.50)	0.12	(9.56)	N-11°-W	北	0.80					不明
329	Cm-Cn-47	隅丸方形	4.80	4.55	0.25	22.13	N-9°-W	北	0.45	0.30	4	北東		古墳
330	Cq-Cr-44+45	隅丸方形	3.42	2.45	0.18	(11.89)	N-15°-W	北	0.30	0.50				奈良
331	Cr-Ca-45+46	隅丸方形	4.07	3.90	0.47	15.65	N-19°-W	北	0.63	0.35	4	北東		古墳
333	Ca-Ct-43	隅丸方形	5.61	4.83	0.54	27.05	N-15°-W	北	0.72	0.40	4	北東		奈良
334	Co-46	隅丸方形	3.10	2.72	0.64	8.72	N-5°-E	北	0.87	0.34				古墳
335	Cr-44	隅丸方形	3.91		0.33	(15.07)	N-20°-W	北	0.47	0.35				平安
337	Cs-Ct-45+46	隅丸方形	6.35	6.07	0.76	37.57	N-7°-W	北	0.75	0.69	4	北東		古墳
340	Cq-47	隅丸長方形	3.44	2.82	0.23	(9.36)	N-1°-W	北	0.82	0.31		北東		古墳
341	Co-45	隅丸方形	3.85	3.38	0.54	12.58	N-65°-E	東	0.47	0.40	4	南東		平安
342	Cq-44	隅丸方形	3.26	3.23		10.71	N-72°-E	東	0.37	0.60		南東		平安
343	Co-47	隅丸方形	4.37	4.28	0.55	19.01	N-1°-E				4	北東	紡錘車	古墳
346	Cq-41+42	隅丸方形	4.69	4.59	0.45	21.24	N-13°-W	北	0.30		(3)	北東		古墳
348	Co-45+46	隅丸長方形	2.80	2.55	0.18	(7.71)	N-0°	北	0.82	0.50				古墳
349	Cn-Co-46	隅丸方形	4.30	4.16	0.29	(17.33)	N-6°-W	北	1.27	0.37		北東		古墳
350	Cq-43	隅丸方形	3.26	2.88	0.11	(9.22)	N-17°-W							平安
351	Cq-Cr-47+48	隅丸方形	5.96	5.57	0.42	(32.86)	N-6°-E	北	0.69	0.65	4	北東		古墳

## 第6節 遺構外出土遺物

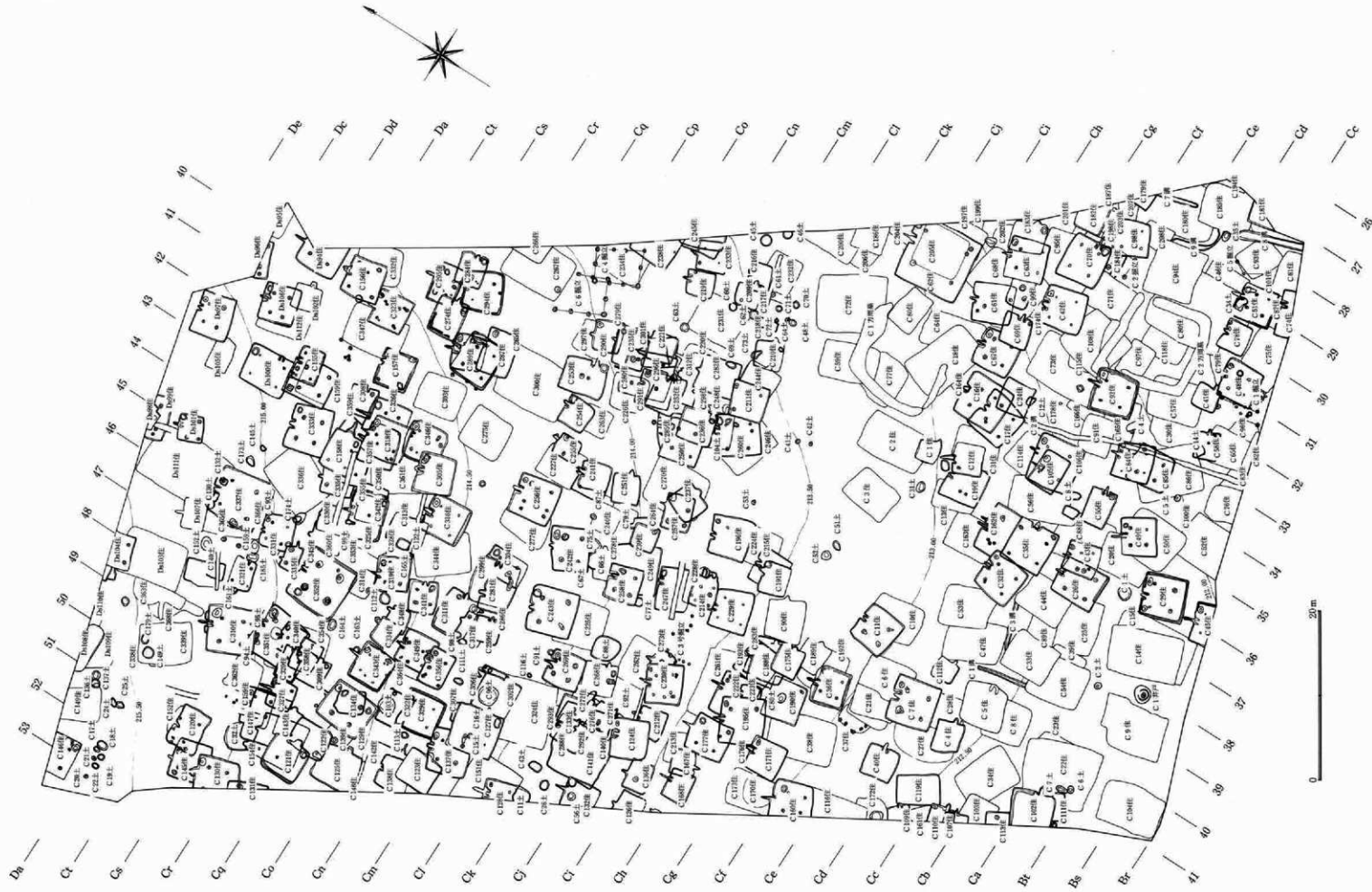
注目 番号	グリッド位置	形 状	規 模 (m)			面 積 (㎡)	主軸方位	竈			柱 穴	貯 蔵 穴	出 土 遺 物	時代
			長 辺	短 辺	壁 高			位置	長さ	幅				
352	Cq・Cr-45・46	隅丸方形	6.76	6.20	0.52	38.37	N-0°	北	0.82	0.44	4			古墳
355	Cr-43	隅丸方形	(3.47)	2.85	0.28	(10.02)	N-75°-E							古墳
356	Ca-46	隅丸長方形	4.60	3.05	0.36	13.84	N-5°-W	北	0.99	0.52		北東		奈良
357	Cq・Cr-42・43	隅丸方形	4.81	4.22	0.39	(20.4)	N-6°-W	北	0.93	0.30	4	北東		古墳
358	Cp・Cq-47・48	隅丸長方形	3.92	2.88	0.40	11.16	N-4°-W	北	1.10	0.30			紡錘車	古墳
359	Cr・Cs-42	不明				0.29	N-8°-E							古墳
360	Cq・Cr-45	隅丸長方形	3.77	(3.0)	0.30	(11.90)	N-10°-W	北	0.48	0.58				奈良

## (DS区)

注目 番号	グリッド位置	形 状	規 模 (m)			面 積 (㎡)	主軸方位	竈			柱 穴	貯 蔵 穴	出 土 遺 物	時代
			長 辺	短 辺	壁 高			位置	長さ	幅				
94	Du・Db-39・40	隅丸方形	4.90	(4.30)	0.30		N-0°							古墳
95	D6-39・40	不明				0.43	N-4°-W				2			古墳
96	Db-40・41	不明	4.45	(1.40)		4.46	N-66°-E				1	東	手摺ね土器	古墳
97	D6・Dc-42	隅丸方形	5.09	4.49	0.20	22.08	N-12°-W	北	0.51	0.37	4	北	土製勾玉	古墳
98	Dc-45	不明	2.21	(0.75)			N-11°-W	東	0.56			東		平安
99	D6・Dc-44・45	隅丸長方形	5.38	(1.80)	0.12	10.13	N-16°-W				3			古墳
100	Da-42・43	隅丸方形	4.72	4.57	0.20	21.05	N-79°-E	東	0.69	0.23	4	北	刀子、土製円盤	古墳
101	Du・Db-44・45	隅丸方形	3.19	3.04	0.28	9.50	N-20°-W	北西	0.35	0.39	4	北		古墳
102	Da-40・41	隅丸方形	3.37	2.29		9.75	N-73°-E	東	0.30	0.29				平安
104	Da・Db-48	隅丸長方形	4.03	(2.60)	0.26	9.62	N-15°-W							古墳
105	D6-42・43	隅丸長方形	3.57	2.57	0.18	(9.70)	N-78°-E							古墳
106	Du・Db-41	隅丸方形	4.53	4.27	0.42	19.39	N-16°-W	北	0.53	0.20	6	北		古墳
107	Cr・Da-46	隅丸方形	3.44	2.73	0.22	9.78	N-21°-W	北西	1.03	0.21				古墳
108	Du-50・51	不明	4.41	(2.0)	4.21									平安







第642图 C区全体图



## 第4章 ま と め

南蛇井増光寺遺跡(A～E区)の調査範囲は南北約400m、幅約60mである。検出された遺構は竪穴住居跡768軒、土坑261基、掘立柱建物跡6棟、溝9条、配石5基、その他多くの遺構が著しい重複関係をもって検出された。

本書で扱ったC区(DS区南端の一部を含む)については、南蛇井増光寺遺跡で検出された、総ての竪穴住居跡の約半数が検出されている。この内、弥生時代に限れば住居総数の約70%がC区に集中しているという状況であった。下表は各区毎の時代別竪穴住居数を示したものである。

区	縄文	弥生	古墳～平安	不明	計
B区	10	38	120	10	178
C区	25	117	231	10	383
DS区	21	15	53		89
DN区		1	36		37
E区	19		54	4	77
合計	75	171	494	24	764

C区内(DS区の一部を含む)において検出された住居跡は総数383軒で、このうち縄文、弥生時代を除いた時代別の軒数は次の通りである。

古墳時代(6・7世紀代)	126軒
奈良時代(8世紀代)	33軒
平安時代(9～11世紀代)	72軒
時期不明	10軒
計	241軒

以下、各時代毎に検出した遺構について若干の検討結果を述べることにする。

### 第1節 住居の変遷

古墳時代に帰属する住居跡は、調査区内ほぼ全域において認められるが、その分布は南側と北側部分におおまかに2分される傾向が窺え、重複も多く見られる。また、こうした分布の濃密な部分ときわめて対称的に、Ch-37グリッド付近を中心とする、南北約20m、東西約30m程の広場のな空白域が認められる。偶然によるものなのか、住居を含め土坑、ピットもほとんど見られない。この遺構空白域は、以後の奈良・平安時代においても継続しており興味深い。

本調査区内において検出された住居跡は6世紀中頃のものを初出としており、弥生時代終末期より2世紀程の空白期が在る。この空白時期の遺構は南蛇井増光寺遺跡付近においては皆無に近く、現在のところ北に接する中沢平賀界戸遺跡、前畑遺跡において僅かに見られる程度である。

6世紀後半から7世紀にかけての住居数が最も多く、ほぼ同時期に存在したと思われる住居数は最大で、50軒程度あったものと推定される。

住居の形態を見ると、隅丸方形を基本とし、竈は北あるいは東壁に作られる。規模を見ると、最も大形の

住居はC-62号住居跡で1辺が約8mである。ただしこの規模を持つ大型の住居は1軒のみで、1辺が6m前後のものがこれに続き、約10軒程を数える。数量的には1辺4～5mのものが最も多く、全体の半数以上を占める。逆に小型のものも少なく、1辺3m前後のものが数件見られる程度である。

奈良時代になると、住居軒数は急激に減少している。住居規模も一辺5mを越えるようなものは見られず、平面形状も隅丸方形あるいは、横長の隅丸長方形となる。竈は壁外に馬蹄形に掘り出された形のもの、煙道の長さが2mを越え、構築材に石を多く用いた、作りのしっかりしたのが見られる。竈は住居北側、または東に作られており、いずれも住居形態は南北に長い隅丸長方形を呈す。住居の分布は調査区中央より北側に多く見られ、径50m程の円を描くような形で位置するようである。

平安時代に入ると、やや住居件数は増え、調査区全体にその分布を広げるが、やはり北側部分に多く見られ、さらに西側によった部分で濃密さを増している。住居の規模は前代と大きな変化は見られないが、東西に長い隅丸長方形のものはほとんど見られず、隅丸方形のものが主体となってくる。竈は東壁または北壁側に作られているが、北壁に持つものは時期的に古いものが多い。また南東のコーナーに作られたものが2軒、南壁側に作られたものが1軒見られたが、いずれも平安時代末期の住居跡である。柱穴はほとんど検出されず、掘り込みも比較的浅いものが多い。

竈の形状は壁外に馬蹄形に掘り出され、袖部は粘土、石を用いてつくられたものが多い。煙道の長く延びたものも散見されるが、石で補強されたようなものは見られなかった。また重複するものも多く見られ、出土遺物などから見ても、比較的短期に建て替え等が行われたと思われる。

調査区内において掘立柱建物跡が検出されているが、時期を確定できるような所見は得られず、明確な時期決定はできない。

## 第2節 竈廃絶パターンと遺物量

本遺跡において検出された古墳時代以降の住居について、住居廃絶に伴う竈の観察から、確定的ではないものの、竈廃絶時の状況と住居の検出状況（主に出土遺物）との間に相関関係が看取された。以下若干の資料の提示を行い検討結果を述べておきたい。

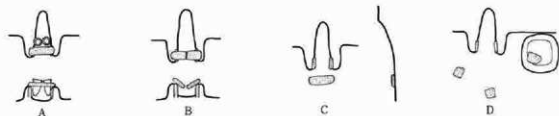
C区において検出された住居は240軒にもほぼるが、重複等で竈を失っているもの、きわめて遺存状態の悪いものを除き、遺存状態が良く時期も確定できるものを取り上げ検討材料とした。

観察方法は焚口部の天井部に横に渡されている石（長さ60cm前後、幅20cm前後、厚さ数cmの板状の砂岩）の出土状態に注目し、出土遺物との関係を観察した。

竈に関しては構築時、使用時、また廃絶時に何等かの祭祀行為を行っていたものと考えられ、調査時より、竈の状況がいくつかのパターンに分かれること、出土遺物量との間に関連が見られることから、若干の検討を行った。その結果、焚口部天井石の出土状態から、およそ以下の廃絶パターンに分類され、遺物の出土量については右記のような状況が強く見られるという所見を得た。

竈の廃絶状況と出土遺物量の関係表

竈廃絶パターン	出土遺物	備考
A一天井石は焚口部に掛かった状態。	比較的遺物の出土量は少ないが、竈内を中心に完形品が目立つ。	竈に塞がかったものもある。
B一天井石はほぼ真下に落ち込む、割れたものと割れてないものがある。	比較的遺物の出土量が多く、床面直上出土のものも多い。	
C一天井石は焚口部手前の床面に置かれた状態。	遺物出土量少ない。	石は割れたものも見られる。
D一天井石は割られ、竈の周辺部、貯蔵穴内、またはやや離れた場所に散乱。	遺物出土量の多少に傾向は見られない。	礫の出土多い。



第643図 竈廃絶パターン模式図

以上の状況は6世紀・7世紀代の住居に顕著に見られ、8世紀以降の竈については、竈の構築法の変化から天井石の形態が変わってくるために、明確なパターン分けは明瞭には、できなくなってくる。

パターンAは竈はほぼ構築時のままの状態である。塞が掛かった状態で検出されているものも見られる。出土遺物も比較的多く、完形品がまま見られる。廃絶に至った状況と考えれば、日常の什器を置いて行かざるを得なかった状況が考えられる。人為的、自然災害等も想定されよう。

パターンBも、竈の状態は、ほぼ使用時のままであるが、塞などが掛かって出土することはない。使用していた土器類は比較的多く残されている状況である。天井石はほぼ原位置で、下に落ち込んだ状態で検出されている。石は土圧等により割れたものと思われるが、廃絶時、故意に割ったと思われる状況のものも見られた。

パターンCは竈自体の遺存度は比較的良好であるが、天井石は外されて（かなり丁寧にと言ってもよい）焚口部手前の火床面に置かれた状態で検出されている。出土遺物は少なく、破片類が多い。本パターンは竈廃絶時に何等かの儀式的な行為が行われていたことを想像させる。

パターンDは竈自体の遺存状況は極めて悪い。後世の擾乱によるものではなく、むしろ廃絶時に人為的に破壊されたと思われる。天井石は原位置を留めず、2つ以上に割られて、竈周辺、貯蔵穴内、さらには住居内に散在する。構築に使われていた側面、袖石等の石も同様な状況が窺われる。遺物の出土量にあまり偏りは見受けられない。また、覆土中より多くの土器片、礫が投げ込まれた状況で出土しているものも多く見られる。数量的には本パターンが最も多く、時期的にも各期にわたって見られる。

以上の分類は今回整理を行った遺構についてのみの観察結果をまとめたものであるが、資料的にやや不足している部分もあると思われる。また、明確なパターン分けが難しかったものも多く、今後、より多くの事例にあたる事と、パターン分類の基準を再検討してみたい。

出土遺物量との関連の他に、住居の埋没状況、時期的な問題も含め、より詳細な観察が必要であると考

る。

表 竈形絶パターンと出土遺物一覧

住居番号	鹿絶パターン	出土遺物	時期	備考
C7号住居跡	B	9 (坏7高坏1甕1)	7C	
C12号住居跡	B	13 (坏2甕9須壺1滑石1)	7C	
C16号住居跡	A	7 (甕5櫃1高坏1)	7C	
C26号住居跡	B	8 (坏1甕1白玉8)	7C	
C32号住居跡	A	17 (坏9甕6櫃1)	7C	
C43号住居跡	C	6 (坏3甕3)	6C	
C49号住居跡	C	6 (坏2須坏1甕2高坏1)	7C	
C51号住居跡	D	2 (甕2)	7C	
C74号住居跡	B	2 (坏2)	7C	
C92号住居跡	C	2 (坏2)	7C	
C106号住居跡	C	2 (坏1甕1)	7C	
C127号住居跡	B	8 (坏4須坏1高坏1甕2)	7C	
C128号住居跡	C	1 (櫃1)	7C	
C130号住居跡	D	3 (坏1甕2)	7C	
C156号住居跡	C	2 (甕1紡錘車1)	7C	
C158号住居跡	B	19 (坏8須壺2甕9)	8C	
C168号住居跡	C	3 (坏1甕1須壺器甕1)	9C	
C171号住居跡	A	4 (坏2須壺1甕1)	7C	
C177号住居跡	B	18 (坏5甕8)	9C	
C214号住居跡	D	7 (須壺器坏2甕5) 1	6C	
C230号住居跡	B	5 (坏1甕3櫃1)	7C	
C233号住居跡	C	2 (坏2)	7C	
C236号住居跡	B	9 (坏8鉄製品1)	9C	
C239号住居跡	C	7 (坏3甕4)	7C	
C241号住居跡	A	5 (坏2土鍾3)	7C	旧竈
C243号住居跡	C	3 (坏2甕1)	7C	
C250号住居跡	C	4 (坏2甕2)	7C	
C252号住居跡	C	8 (坏5甕3)	9C	
C253号住居跡	D	12 (須壺器坏8甕3土鍾1)	9C	
C255号住居跡	A	5 (坏3甕1櫃1)	7C	
C257号住居跡	A	15 (坏5須坏1甕8櫃1)	7C	石の代わりに長甕を用いる
C265号住居跡	B	9 (坏6須壺器坏3甕1須壺器甕1)	9C	
C271号住居跡	C	3 (甕1銅製品1須壺片1)	7C	
C284号住居跡	C	2 (坏1甕1)	7C	
C295号住居跡	B	8 (坏4甕4)	7C	
C299号住居跡	B	2 (坏1甕1)	7C	

住居番号	夷絶パターン	出土遺物	時期	備考
C308号住居跡	D	4 (坏1塊 1壺1刀子1)	9C	
C310号住居跡	C	17 (坏6壺5甕1須蓋1滑石3手捏1)	7C	
C316号住居跡	A	7 (坏2壺3甕1壺1)	7C	
C326号住居跡	B	13 (坏6壺4白玉1)	7C	
C333号住居跡	D	10 (坏6須壺2蓋1壺1)	7C	
C340号住居跡	A	1 (坏1)	7C	
C351号住居跡	C	3 (坏2壺1)	7C	
C358号住居跡	B	7 (坏1高坏3壺2甕1)	7C	

### 第3節 各種出土遺物について

#### 墨書土器

本遺跡において出土した文字資料としては、墨書土器が5点出土している。出土遺構はC-4号住居跡、C-119号住居跡、C-122号住居跡、C-161号住居跡でいずれも平安時代、および弥生時代の住居覆土の混入と思われるもの1点である。いずれも須恵器の坏、椀類で、文字が書かれている部位は、内面が1点、他は外面である。釈文についてはC-119号住居跡「林」、C-122号住居跡「朝」、弥生住居覆土中「西」の3文字については判読できたが、その他については部分片であったために判読できなかった。

土器の時期は、いずれも平安時代後半代である。また墨書土器等は出土していないが、C-121・122号住居跡より須恵器壺の破片を利用した転用碗が複数出土している。

#### 白玉・滑石製品

製品、未製品含めて37点が検出されている。このうち2点は遺構外よりの出土である。種類を見ると白玉が最も多く、石片、有孔製品がこれに次ぐ。また白玉の出土数も、1点あるいは2点が6軒で、比較的まとまった数を出土している住居では、C-287号住居跡が有孔製品を含めて10点、C-26号住居跡が7点、C-84号住居跡が4点である。これらの住居では土器類の出土は少なく、特にC-26号、287号住居では極めて少ない。出土住居の時期はいずれも古墳時代後半である。

#### 土鐘・土製品

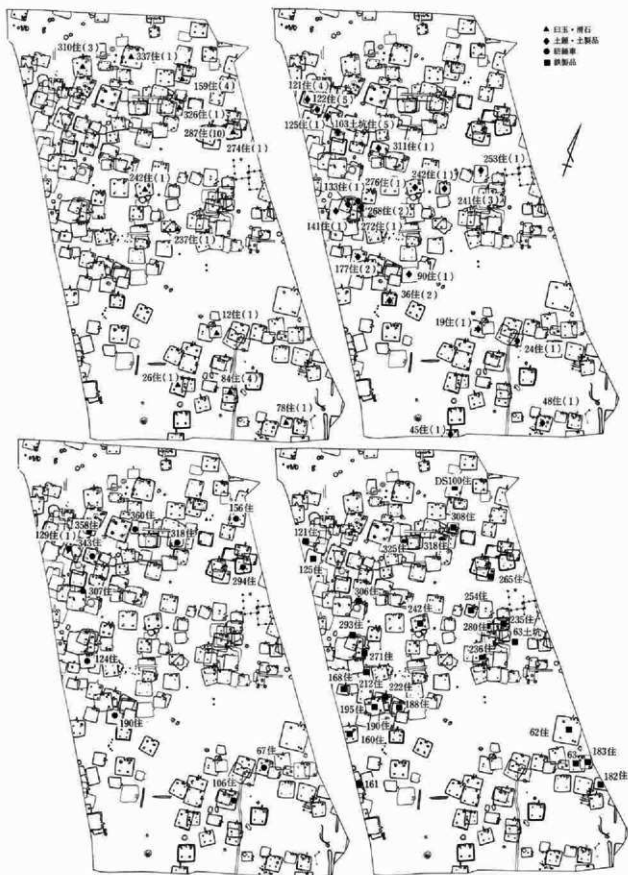
土鐘の出土は比較的多く、遺構に伴って出土したもの35点、遺構外12点である。遺構の時期はほとんどが平安時代で、古墳時代後半のものはC-45号住居跡、C-241号住居跡のわずかに2軒のみである。

土鐘の形は平安時代のものはやや中央部が膨らむ紡錘状を呈すのに対し、古墳時代のものは、細身でほとんど膨らみをもたない形を呈す。2点以上出土した住居は、C-36号住居跡(2)、C-121号住居跡(4)、C-122号住居跡(5)、C-177号住居跡(2)、C-241号住居跡(3)、C-268号住居跡(2)、C-322号住居跡(2)、またC-103号土坑からも3点出土している。

その他の土製品類については、一端を欠いた棒状製品が1点、楕円形を呈し、縦に並んで3孔を持つ板状のものが1点出土している。いずれも出土した遺構の時期は古墳時代後期である、後者は垂飾品かと思われるが、明確な用途は不明である。

#### 紡錘車

完形品、破損品含めて12点出土している。材質は蛇紋岩3、流紋岩質凝灰岩1、砥沢石1、砂岩1、土製



第644図 各種遺物出土遺構分布図



5点、鉄製1である。但し土製のものに関しては形状などから、弥生時代に帰属する可能性があるものも見られる。

土製以外のものは古墳時代後期に比定されるものが6点、平安時代に比定されるものは鉄製のものが1点のみである。このうち、古墳時代後期のC-129号住居跡より出土した蛇紋岩製の紡錘車は、表面に細い線刻による鋸歯文、斜格子文が描かれている。

#### 鉄製品

出土した鉄（鋼）製品は総点数32点である。製品の種類別点数は、鎌が9点、刀子が10点、釘5点、紡錘車1点、鉄斧1点、板状製品2点、不明4点である。遺存状態はいずれも良好とは言えない。時期は主に古墳時代から平安時代にわたっているが、中世あるいは近世のものも含まれていると思われる。

また、あまり良質ではないが、鉄滓が住居の覆土中から比較的多く出土している。関連するような小鍛冶遺構等の検出はなかった。

## おわりに

南蛇井増光寺遺跡は、銅川の上流域にあり、群馬県内、西毛地区において調査された最も西にある大規模集落と言える。今回の調査で検出された遺構は縄文時代から、弥生、古墳、奈良・平安時代、さらには中、近世にわたり、竪穴住居、掘立柱建物跡、土坑、井戸、溝、配石遺構等、多岐にわたり、多くの遺構が重複している。

一連の関越自動車道越線開通の発掘調査により、藤岡市、吉井町、甘楽町、富岡市、下仁田町において多くの遺跡が調査され、新たな歴史資料が相次いで発見、調査され、銅川流域における歴史解明がより進むことが期待されている。

本書では縄文、弥生時代を除いた、古墳時代以降の遺構、遺物の報告を行った。検出した遺構については切り合いが著しく、遺存状態の悪いものも多く、このため個々の住居に関する情報は極めて不十分なものも見られる。

本遺跡において、人々の居住が開始されたのは検出された遺構、遺物から、縄文時代前期中頃と思われる。弥生時代後期後半において、住居件数はピークに達したと考えられる。その後4・5世紀代においては居住の痕跡は皆無で、わずかに遺物が散見されたのみである。再び人々が住み始めたのは6世紀後半からで、7世紀代にかけて、かなりの住居軒数が確認されている。

7世紀後半から住居の軒数はやや減少、8・9世紀代は前代に比較するとかなり少なくなる。10世紀代にやや微増するが、11世紀前半代で竪穴住居は姿を消している。

また、西に位置している南蛇井古墳群は、その築造開始年代が6世紀後半とされており、本遺跡における古墳時代の住居と明らかに相互関係が認められ、同古墳群が南蛇井増光寺遺跡の墓域として位置付けられ、今後、周辺部において、生産域としての水田、畠跡等の発見が待たれるところである。

中世以降、本遺跡地は長野方面から群馬に抜ける重要な交通路の要衝であったと考えられ、本文中でも触れたように、すぐ北には平賀城、その東方の崖上には神成城、さらには宮崎城があり、銅川を挟んで対岸には柏瀬城、下鎌田城が存在する。これらの城郭跡は、西からの峠道が大きく開けたこの地に、視みを利かす意味を持ち、戦国時代、重要な戦略拠点となっていたと考えられる。

今回の調査では路線幅約60mで、遺跡地をほぼ南北に縦断した形で調査が行われ、南は銅川の急崖から、北は中沢川にかけて、古墳時代以降、綿々と居住が行われたことが検出された多くの遺構によって、改めて

確認されたわけである。

地形、遺物の散布状況から遺跡はさらに東西に広がっていることは明らかである、残念ながら集落域の限界は確認できてはいないが、予想以上の集落規模であった可能性が大きい。

個々の遺物に関しては、細かな検討を加えるには至らなかったが、土器については鍋川流域の遺跡出土のものとの共通性を指摘できる一方、甕、鉢類の形態や組成に特徴的な部分も見られ、後日、本遺跡を最終的にまとめた時点で、検討を加えて行きたいと考えている。

今後の検討課題として、北に位置する中沢平賀界戸遺跡を初めとして、周辺遺跡を含め、南蛇井増光寺遺跡における集落の変遷、占地等について詳しく検討を加えた中で、本遺跡の性格等を明らかにして行きたいと考えている。

最後に、酷暑、酷寒の中、連日発掘調査作業に従事して下さった方々並びに、本編を刊行するにあたり、多くの御教授をいただいた方々に、末筆ながら感謝する次第である。

発掘調査報告書抄録

フリガナ	ナンジャイゾウコウジセキ
書名	南蛇井増光寺遺跡Ⅳ
副書名	関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第33集
シリーズ名	06群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第196集
編著者名	小野和之
編集機関	06群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377 群馬県勢多郡北碓村大字下箱田784-2
発行年月日	西暦 1996年3月

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
南蛇井増光寺 遺跡	群馬県富岡市大字 南蛇井字増光寺	10210	10005 -00270	36°14'06"	138°49'21"	19891101 19910331	7,000	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南蛇井増光寺	住居跡	古墳時代 奈良時代 平安時代 中世・近世	竪穴住居240軒 土坑・配石・溝 掘立柱建物跡 井戸・中世古墓遺状 遺構	土師器・須恵器 紡錘車・砥石 白玉・鉄器・土錘	縄文前期から弥生・古墳・ 奈良・平安時代の竪穴住居 跡多数。 本書はC区古墳・奈良・平 安時代・中世・近世の遺構・ 遺物について報告



群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告書 196 集

## 南蛇井増光寺遺跡Ⅳ

(本文編)

関越自動車道(上越線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第33集

平成8年1月25日 印刷

平成8年1月31日 発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社